

令和元年度

“「長久手市役所の仕事」通知表”

(行政評価)

[平成30年度実施事業内部評価]

長久手市はあいさつ運動に取り組んでいます

まちづくり、まずは笑顔でこんにちは

➤”「市役所の仕事」通知表”(行政評価票)の見方

◇担当課等名は、令和元年度の組織機構により表示しています。

○A票:事業評価票

- ・基本情報
- ・事業目的等:事業内容、事業対象、事業意図及び事業を構成する事務事業
- ・コスト推移
- ・成果推移
- ・環境変化
- ・評価:目標達成状況、過去5年間の振返り及び事務事業全体から見た課題
※成果指標の目標に対する達成状況等
- ・今後:今後の方向性及び中長期の目標

事業(A票)について、事務事業(B票)を総合的に見て評価し、今後の方向性を内部評価として示しました。

○B票:事務事業評価票

- ・事務事業の目的
- ・コスト推移
- ・活動推移
- ・事務事業を取り巻く環境変化
- ・前年度からの改善状況
- ・評価:妥当性、達成度、効率性、公平性及び協働可能性の5つの視点で評価
※各視点について、4段階で評価(3ページ「事務事業評価 採点基準」参照)
※協働の可能性について、活動エピソード及び改善ポイントあり
- ・今後の方向性:拡充、改善・見直し、縮小、休・廃止の4つより選択
※補足として、コメントあり
※評価状況の集計は2ページを参照

事務事業(B票)について、担当課が5つの視点で評価し、今後の方向性を内部評価として示しました。

○S票:施策評価票

- ・基本情報
- ・施策目的等:施策内容、施策対象及び施策意図
- ・目標・成果推移等(取組ごと):成果、費用及び市民参加
- ・環境変化
- ・活動状況
- ・改善状況
- ・評価:評価及び課題
※施策に係る取組の目標に対する進捗状況等
- ・今後:今後の方向性、改善点

施策(S票)について、目標の達成状況、進捗管理、課題等を総合的に見て評価し、今後の方向性を内部評価として示しました。

【行政評価票集計】

○事業評価(A票):114事業

○事務事業評価(B票):219事務事業

○事務事業評価(B票)の評価状況(今後の方向性)

| 評価状況 | 事務事業数 |
|--------|-------|
| 拡充 | 72 |
| 改善・見直し | 124 |
| 縮小 | 17 |
| 休・廃止 | 6 |
| 合計 | 219 |

○施策評価(S票):20施策

【事務事業評価(B票) 採点基準】

| 評価項目 | 4点 | 3点 | 2点 | 1点 | — (該当なし) |
|---------------|---|---|--|--|-------------|
| 妥当性 | <ul style="list-style-type: none"> 上位施策の目的を達成するために不可欠な事務事業である。 市が実施することが不可欠な事務事業である。 廃止した場合の影響が極めて大きい。 | <ul style="list-style-type: none"> 上位施策の目的を達成するために必要な事務事業である。 市が実施することが必要な事務事業である。 廃止した場合の影響がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 市が実施する必要性は必ずしも高くない。 廃止した場合に影響が少しある。 | <ul style="list-style-type: none"> 市が実施する必要性は高くない。 廃止した場合に影響がほとんどない。 | |
| 達成度 | 目標を十分に達成している。(120%以上) | 目標を概ね達成している。(90%~120%) | 目標に達していない。(60%~90%) | 目標を大幅に達していない。(60%未満) | |
| 効率性 | 1件あたりのコストや時間からみて、効率的に事業を実施している。さらに効率化できる余地がほとんどない。 | 1件あたりのコストや時間からみて、概ね効率的に事業を実施している。 | 1件あたりのコストや時間からみて、効率化できる余地がある。 | 1件あたりのコストや時間からみて、効率化できる余地が大いにある。 | |
| 公平性 | 対象者、受益者が政策的に適正である。 受益者負担がある場合、他市町からみても妥当である。又は受益者負担は該当しない。 | 対象者、受益者が政策的に概ね適正である。 受益者負担がある場合、他市町からみても概ね妥当である。 | 対象者、受益者を見直す余地がある。 受益者負担の内容を検討していく余地がある。又は新たな受益者負担を検討する余地がある。 | 対象者、受益者を見直す余地が大いにある。 受益者負担の内容を検討していく余地が大いにある。又は新たな受益者負担を検討する余地が大いにある。 | ・該当なし |
| 協働の可能性 | 協働、市民参加、市民参画等をすでに実施している。さらに協働化できる可能性がほとんどない。 | 協働、市民参加、市民参画等をすでに実施している。さらに協働化できる可能性がある。 | 協働、市民参加、市民参画等をすでに実施している。さらに協働化できる可能性が大いにある。 | 協働、市民参加、市民参画等を実施しておらず、今後、協働、市民参加、市民参画等が可能である。 | ・該当なし |

**“「長久手市役所の仕事」通知表”
(行政評価)**

**事業評価 (A票)・
事務事業評価 (B票)**

令和元年度 “「長久手市役所の仕事」通知表” (行政評価)
[平成30年度実施事業内部評価]

○事業評価 (A票) ・事務事業評価 (B票) 対象一覧

| 事業 (A票) No | <事業評価 (A票)> 事業名【担当課】 | |
|------------------|----------------------------|------------------------|
| | <事務事業評価 (B票)> 事務事業名・今後の方向性 | |
| 1 | 政策事務事業【市長公室総合政策課】 | |
| | ① | 政策事務事業 改善・見直し |
| 2 | 公共交通事業【市長公室経営企画課】 | |
| | ① | 地域公共交通会議事業 改善・見直し |
| 3 | 人事事務事業【市長公室人事課】 | |
| | ① | 人事事務事業 改善・見直し |
| 4 | 職員福利厚生事業【市長公室人事課】 | |
| | ① | 職員健康診断事業 改善・見直し |
| | ② | 職員互助会補助事業 改善・見直し |
| 5 | 職員研修事業【市長公室人事課】 | |
| | ① | 職員研修事業 改善・見直し |
| 6 | 情報化推進事業【市長公室情報課】 | |
| | ① | 情報化推進事務事業 改善・見直し |
| | ② | 住民情報システム管理事業 改善・見直し |
| | ③ | 住民情報システム整備事業 改善・見直し |
| | ④ | 財務会計システム管理事業 改善・見直し |
| | ⑤ | グループウェアシステム管理事業 改善・見直し |
| | ⑥ | グループウェアシステム整備事業 改善・見直し |
| 7 | 広報事業【市長公室情報課】 | |
| | ① | 広報事務事業 改善・見直し |
| | ② | 広報紙発行事業 改善・見直し |
| | ③ | 市勢要覧作成事業 拡充 |
| | ④ | 公共施設ガイドマップ作成事業 改善・見直し |
| | ⑤ | ケーブルテレビ番組制作事業 改善・見直し |
| | ⑥ | 市ホームページ運用事業 改善・見直し |
| 8 | 広聴事業【市長公室情報課】 | |
| | ① | 広聴事務事業 拡充 |
| 9 | 契約検査事業【総務部行政課】 | |
| | ① | 契約検査事業 改善・見直し |
| 10 | 平和行政事業【総務部行政課】 | |
| | ① | 平和行政事業 改善・見直し |
| 11 | 行政改革推進事業 (企画事務事業)【総務部行政課】 | |
| | ① | 行政改革推進事業 改善・見直し |
| 12 | 選挙啓発事業【総務部行政課】 | |
| | ① | 選挙啓発事業 拡充 |
| 13 | ふるさと寄附金推進事業【総務部財政課】 | |
| | ① | ふるさと寄附金推進事業 拡充 |
| 14 | 行政サービスコーナー管理事業【総務部市民課】 | |
| | ① | 行政サービスコーナー管理事業 改善・見直し |

| 事業 (A票) | <事業評価 (A票)> 事業名【担当課】 | |
|------------|-----------------------------|---------------------------|
| No | <事務事業評価 (B票)> 事務事業名・今後の方向性 | |
| 15 | 戸籍住民基本台帳整備事業【総務部市民課】 | |
| | ① | 戸籍住民基本台帳整備事業 改善・見直し |
| 16 | 地域振興事業【くらし文化部たつせがある課】 | |
| | ① | 地域振興事業 拡充 |
| | ② | 集会所改修修繕事業 改善・見直し |
| 17 | まちづくり協働事業【くらし文化部たつせがある課】 | |
| | ① | まちづくり協働事務事業 改善・見直し |
| | ② | 協働まちづくり活動助成事業 改善・見直し |
| 18 | 男女共同参画推進事業【くらし文化部たつせがある課】 | |
| | ① | 男女共同参画推進事業 改善・見直し |
| 19 | まちづくり施設管理事業【くらし文化部たつせがある課】 | |
| | ① | まちづくりセンター管理事業 改善・見直し |
| | ② | 農村環境改善センター管理事業 改善・見直し |
| | ③ | 交流プラザ管理事業 改善・見直し |
| 20 | 地域間交流事業【くらし文化部たつせがある課】 | |
| | ① | 地域間交流事業 改善・見直し |
| 21 | 大学連携事業【くらし文化部たつせがある課】 | |
| | ① | 大学連携事務事業 改善・見直し |
| | ② | 大学連携提案助成金事業 改善・見直し |
| 22 | リモテラス事業【くらし文化部たつせがある課】 | |
| | ① | リモテラス整備事業 拡充 |
| 23 | 地域共生ステーション事業【くらし文化部たつせがある課】 | |
| | ① | 西小校区共生ステーション管理事業 改善・見直し |
| | ② | 市が洞小校区共生ステーション管理事業 改善・見直し |
| | ③ | 地域共生ステーション整備事業 改善・見直し |
| 24 | 国際化事業【くらし文化部たつせがある課】 | |
| | ① | 国際化事務事業 拡充 |
| | ② | 国際交流協会補助事業 改善・見直し |
| | ③ | 姉妹都市事業 改善・見直し |
| 25 | 商工振興事業【くらし文化部たつせがある課】 | |
| | ① | 商工事務事業 拡充 |
| | ② | 小規模企業等振興事業 拡充 |
| | ③ | 信用保証料補助事業 拡充 |
| 26 | 市民まつり事業【くらし文化部たつせがある課】 | |
| | ① | 市民まつり事業 拡充 |
| 27 | 観光交流推進事業【くらし文化部たつせがある課】 | |
| | ① | 観光PR事業 拡充 |
| 28 | 市民相談事業【くらし文化部悩みごと相談室】 | |
| | ① | 市民相談事業 改善・見直し |
| 29 | 消費者行政推進事業【くらし文化部悩みごと相談室】 | |
| | ① | 消費者生活啓発事業 改善・見直し |
| | ② | 消費者生活相談事業 改善・見直し |

| 事業 (A票) | <事業評価 (A票)>事業名【担当課】 | |
|------------|---------------------------|----------------------|
| No | <事務事業評価 (B票)>事務事業名・今後の方向性 | |
| 30 | 交通安全事業【くらし文化部安心安全課】 | |
| | ① | 交通安全対策事業 改善・見直し |
| | ② | 交通安全啓発事業 改善・見直し |
| 31 | 巡回バス運行事業【くらし文化部安心安全課】 | |
| | ① | 巡回バス運行事業 改善・見直し |
| 32 | 防犯事業【くらし文化部安心安全課】 | |
| | ① | 防犯対策事業 改善・見直し |
| | ② | 自主防犯活動支援事業 改善・見直し |
| | ③ | 防犯啓発事業 改善・見直し |
| 33 | 防災事業【くらし文化部安心安全課】 | |
| | ① | 防災事務事業 拡充 |
| | ② | 災害用資機材購入事業 拡充 |
| | ③ | 北中学校区防災倉庫建設事業 休・廃止 |
| 34 | 防災訓練事業【くらし文化部安心安全課】 | |
| | ① | 防災訓練事業 改善・見直し |
| 35 | 自主防災活動支援事業【くらし文化部安心安全課】 | |
| | ① | 防災講習会実施事業 拡充 |
| | ② | 自主防災資機材貸与事業 拡充 |
| 36 | 消防補助事業【くらし文化部安心安全課】 | |
| | ① | 消防補助事業 縮小 |
| 37 | 消防団運營業【くらし文化部安心安全課】 | |
| | ① | 消防団事務事業 拡充 |
| | ② | 消防団活性化事業 拡充 |
| | ③ | 自動車管理事業 改善・見直し |
| | ④ | 消防団手当 拡充 |
| 38 | 女性消防クラブ運營業【くらし文化部安心安全課】 | |
| | ① | 女性消防クラブ活動支援事業 改善・見直し |
| 39 | 消防水利設置事業【くらし文化部安心安全課】 | |
| | ① | 防火水槽設置事業 改善・見直し |
| | ② | 消火栓設置事業 縮小 |
| 40 | 環境基本計画推進事業【くらし文化部環境課】 | |
| | ① | 環境基本計画推進事業 拡充 |
| | ② | 地球温暖化対策設備導入促進補助事業 拡充 |
| | ③ | 自然環境調査事業 拡充 |
| 41 | 清掃センター運營業【くらし文化部環境課】 | |
| | ① | 清掃センター運營業 拡充 |
| 42 | ごみ啓発事業【くらし文化部環境課】 | |
| | ① | ごみ啓発事業 改善・見直し |
| 43 | 公害対策事業【くらし文化部環境課】 | |
| | ① | 公害対策事務事業 改善・見直し |
| | ② | 公害対策整備事業 拡充 |

| 事業 (A票) | <事業評価 (A票)>事業名【担当課】 | |
|------------|-----------------------------|--------------------------|
| No | <事務事業評価 (B票)>事務事業名・今後の方向性 | |
| 44 | 社会教育事務事業【くらし文化部生涯学習課】 | |
| | ① | 社会教育事務事業 改善・見直し |
| 45 | 成人式事業【くらし文化部生涯学習課】 | |
| | ① | 成人式事業 改善・見直し |
| 46 | 公民館事業【くらし文化部生涯学習課】 | |
| | ① | 公民館事務事業 改善・見直し |
| 47 | 生涯学習推進事業【くらし文化部生涯学習課】 | |
| | ① | 生涯学習推進事業 改善・見直し |
| 48 | 社会教育団体補助事業【くらし文化部生涯学習課】 | |
| | ① | 文化補助事業 改善・見直し |
| 49 | 文化・文化財事業【くらし文化部生涯学習課】 | |
| | ① | 文化財事務事業 改善・見直し |
| 50 | 色金山歴史公園管理運営事業【くらし文化部生涯学習課】 | |
| | ① | 色金山歴史公園管理運営事業 改善・見直し |
| 51 | 古戦場公園再整備事業【くらし文化部生涯学習課】 | |
| | ① | 古戦場公園再整備事業 改善・見直し |
| 52 | 古戦場桜まつり事業【くらし文化部生涯学習課】 | |
| | ① | 古戦場桜まつり事業 改善・見直し |
| 53 | 学校開放事業【くらし文化部生涯学習課】 | |
| | ① | 学校開放事業 改善・見直し |
| 54 | 地域社会体育事業【くらし文化部生涯学習課】 | |
| | ① | 社会体育事業 改善・見直し |
| | ② | マラソン大会事業 改善・見直し |
| | ③ | 文化スポーツクラブ事業 改善・見直し |
| | ④ | 学校プール開放事業 改善・見直し |
| | ⑤ | 愛知万博記念市町村対抗駅伝大会事業 改善・見直し |
| 55 | 総合型スポーツクラブ運営事業【くらし文化部生涯学習課】 | |
| | ① | 総合型地域スポーツクラブ運営事業 改善・見直し |
| 56 | 社会体育団体補助事業【くらし文化部生涯学習課】 | |
| | ① | 社会体育(教育)団体補助事業 改善・見直し |
| 57 | 文化の家企画事業【くらし文化部文化の家】 | |
| | ① | ホール公演事業 改善・見直し |
| | ② | 企画展示事業 改善・見直し |
| | ③ | アートスクール事業 改善・見直し |
| | ④ | アウトリーチ事業 改善・見直し |
| | ⑤ | 映像鑑賞会事業 改善・見直し |

| 事業 (A票) | <事業評価 (A票)> 事業名【担当課】 | | |
|------------|----------------------------|------------------|--------|
| No | <事務事業評価 (B票)> 事務事業名・今後の方向性 | | |
| 58 | 地域福祉推進事業【福祉部福祉課】 | | |
| | ① | 地域福祉推進事業 | 改善・見直し |
| | ② | 社会福祉協議会補助事業 | 改善・見直し |
| | ③ | ながくて地域スマイルポイント事業 | 拡充 |
| | ④ | 地域福祉計画策定事業 | 休・廃止 |
| | ⑤ | 多機関協働相談支援包括化推進事業 | 改善・見直し |
| | ⑥ | 地域力強化推進事業 | 改善・見直し |
| 59 | 社会福祉事業【福祉部福祉課】 | | |
| | ① | 社会福祉事務事業 | 改善・見直し |
| | ② | 戦没者追悼事業 | 改善・見直し |
| 60 | 障がい者福祉事業【福祉部福祉課】 | | |
| | ① | 障がい者福祉事務事業 | 改善・見直し |
| | ② | 心身障がい者社会見学事業 | 改善・見直し |
| | ③ | 障がい援護事業 | 改善・見直し |
| | ④ | 障がい者計画策定・評価事業 | 拡充 |
| 61 | 障がい者自立支援事業【福祉部福祉課】 | | |
| | ① | 障がい者自立支援事務事業 | 改善・見直し |
| | ② | 地域生活支援事業 | 改善・見直し |
| | ③ | 自立支援給付事業 | 改善・見直し |
| | ④ | 障がい者総合支援通所施設管理事業 | 改善・見直し |
| 62 | 生活保護事業【福祉部福祉課】 | | |
| | ① | 生活保護事務事業 | 改善・見直し |
| | ② | 生活困窮者自立支援事業 | 拡充 |
| 63 | 災害救助事業【福祉部福祉課】 | | |
| | ① | 災害救助対策事業 | 改善・見直し |
| 64 | 高齢者福祉事業【福祉部長寿課】 | | |
| | ① | 老人福祉事務事業 | 改善・見直し |
| | ② | 敬老事業 | 改善・見直し |
| | ③ | 長生学園事業 | 改善・見直し |
| | ④ | 高齢者福祉事業・生涯学習事業 | 改善・見直し |
| | ⑤ | 高齢者住宅等安心確保事業 | 拡充 |
| 65 | 在宅介護支援事業【福祉部長寿課】 | | |
| | ① | 紙おむつ助成事業 | 改善・見直し |
| | ② | 訪問理美容サービス事業 | 改善・見直し |
| | ③ | 徘徊高齢者等家族支援事業 | 休・廃止 |
| | ④ | 家族介護慰労金支給事業 | 休・廃止 |

| 事業 (A票) | <事業評価 (A票)>事業名【担当課】 | | |
|------------|-------------------------------------|-------------------|--------|
| No | <事務事業評価 (B票)>事務事業名・今後の方向性 | | |
| 66 | 高齢者日常生活支援事業【福祉部長寿課】 | | |
| | ① | 緊急通報システム事業 | 改善・見直し |
| | ② | 寝具洗濯乾燥事業 | 改善・見直し |
| | ③ | 家具転倒防止事業 | 拡充 |
| | ④ | 高齢者防犯対策事業 | 改善・見直し |
| | ⑤ | 高齢者住宅改修事業 | 改善・見直し |
| 67 | 高齢者優待事業【福祉部長寿課】 | | |
| | ① | 高齢者文化施設優待事業 | 改善・見直し |
| | ② | あったかあど事業 | 拡充 |
| 68 | 老人憩の家事業【福祉部長寿課】 | | |
| | ① | 老人憩の家管理事業 | 改善・見直し |
| 69 | 介護職員確保事業【福祉部長寿課】 | | |
| | ① | 介護職員確保事業 | 拡充 |
| 70 | 福祉の家事業【福祉部長寿課】 | | |
| | ① | 福祉の家管理事業 | 改善・見直し |
| 71 | ファミリーサポートセンター運営事業【子ども部子ども家庭課】 | | |
| | ① | ファミリーサポートセンター運営事業 | 改善・見直し |
| 72 | 子育て支援センター運営事業【子ども部子ども家庭課】 | | |
| | ① | 子育て支援センター運営事業 | 改善・見直し |
| 73 | 放課後児童クラブ事業【子ども部子ども未来課】 | | |
| | ① | 放課後児童クラブ運営事業 | 拡充 |
| 74 | 上郷保育園改築事業【子ども部子ども未来課】 | | |
| | ① | 上郷保育園改築事業 | 拡充 |
| 75 | 子育てコンシェルジュ設置事業（利用者支援事業）【子ども部子ども未来課】 | | |
| | ① | 子育てコンシェルジュ設置事業 | 拡充 |
| 76 | 児童館利用促進事業【子ども部子ども未来課】 | | |
| | ① | 児童館活動事業 | 拡充 |
| 77 | 放課後子ども教室事業【子ども部子ども未来課】 | | |
| | ① | 放課後子ども教室運営事業 | 拡充 |
| 78 | 成人保健事業【福祉部健康推進課】 | | |
| | ① | 健康診査事業 | 拡充 |
| 79 | 予防接種事業【福祉部健康推進課】 | | |
| | ① | 予防接種事業 | 拡充 |
| 80 | 健康づくり推進事業【福祉部健康推進課】 | | |
| | ① | 健康づくり計画推進事業 | 拡充 |

| 事業 (A票) | <事業評価 (A票)>事業名【担当課】 | |
|------------|---------------------------|----------------------|
| No | <事務事業評価 (B票)>事務事業名・今後の方向性 | |
| 81 | 母子保健事業【福祉部健康推進課】 | |
| | ① | 母子保健事務事業 拡充 |
| | ② | 未熟児医療事業 拡充 |
| 82 | 道路新設事業【建設部土木課】 | |
| | ① | 道路新設事業・市単独事業 拡充 |
| | ② | 道路新設事業・県費補助事業 拡充 |
| 83 | 住宅耐震事業【建設部都市計画課】 | |
| | ① | 木造住宅耐震事業 改善・見直し |
| | ② | 非木造住宅耐震事業 改善・見直し |
| 84 | 農業振興事業【建設部みどりの推進課】 | |
| | ① | 農業振興事務事業 拡充 |
| | ② | 米政策対策推進事業 拡充 |
| 85 | 地域農業整備促進事業【建設部みどりの推進課】 | |
| | ① | 地域農業整備促進事業 改善・見直し |
| 86 | 田園バレー事業【建設部みどりの推進課】 | |
| | ① | 長久手田園バレー事務事業 拡充 |
| | ② | 長久手田園バレー整備事業 拡充 |
| 87 | 農楽校事業【建設部みどりの推進課】 | |
| | ① | 農楽校事業 拡充 |
| 88 | 平成こども塾事業【建設部みどりの推進課】 | |
| | ① | 平成こども塾管理事業 改善・見直し |
| | ② | 平成こども塾企画事業 改善・見直し |
| 89 | 会計管理事業【会計課】 | |
| | ① | 会計管理事務事業 拡充 |
| | ② | 公共料金口座自動振替化事業 改善・見直し |
| 90 | 教育委員会事務事業【教育部教育総務課】 | |
| | ① | 教育委員会事務事業 拡充 |
| 91 | 適応指導教室事業【教育部教育総務課】 | |
| | ① | 適応指導教室事務事業 改善・見直し |
| 92 | 給食調理事業【教育部給食センター】 | |
| | ① | 給食調理事業 改善・見直し |
| | ② | 給食物資調達事業 改善・見直し |
| 93 | 中央図書館事業【教育部中央図書館】 | |
| | ① | 中央図書館運営事業 拡充 |
| | ② | 中央図書館管理事業 拡充 |
| | ③ | 講座等企画事業 拡充 |
| 94 | 議会運営事業【議会事務局】 | |
| | ① | 議会事務事業 改善・見直し |
| | ② | 会議録作成事業 改善・見直し |
| | ③ | 録画配信事業 改善・見直し |
| | ④ | 議会だより発行事業 改善・見直し |
| | ⑤ | 議会研修事業 改善・見直し |

| 事業 (A票) | <事業評価 (A票)> 事業名【担当課】 | |
|------------|----------------------------|---------------------------|
| No | <事務事業評価 (B票)> 事務事業名・今後の方向性 | |
| 95 | 監査運営事業【監査委員事務局】 | |
| | ① | 監査運営事業 拡充 |
| 96 | 国民健康保険・趣旨普及事業【福祉部保険医療課】 | |
| | ① | 国民健康保険・趣旨普及事業 改善・見直し |
| 97 | 保健衛生普及事業【福祉部保険医療課】 | |
| | ① | 保健衛生普及事業 改善・見直し |
| 98 | 特定健康診査事業【福祉部保険医療課】 | |
| | ① | 特定健康診査事業 改善・見直し |
| 99 | 土地取得事業【総務部財政課】 | |
| | ① | 土地取得事業 拡充 |
| 100 | 包括的支援事業（生活支援体制整備等）【福祉部長寿課】 | |
| | ① | 包括的支援事業（生活支援体制整備等） 改善・見直し |
| 101 | 居宅介護サービス事業【福祉部長寿課】 | |
| | ① | 居宅介護サービス給付事業 拡充 |
| | ② | 特例居宅介護サービス給付事業 縮小 |
| | ③ | 居宅介護福祉用具購入費給付事業 拡充 |
| | ④ | 居宅介護住宅改修費給付事業 拡充 |
| | ⑤ | 居宅介護サービス計画給付事業 拡充 |
| 102 | 地域密着型介護サービス事業【福祉部長寿課】 | |
| | ① | 地域密着型介護サービス給付事業 縮小 |
| 103 | 施設介護サービス事業【福祉部長寿課】 | |
| | ① | 施設介護サービス給付事業 拡充 |
| 104 | 介護予防サービス事業【福祉部長寿課】 | |
| | ① | 介護予防サービス給付事業 縮小 |
| | ② | 特例介護予防サービス給付事業 縮小 |
| | ③ | 介護予防福祉用具購入費給付事業 縮小 |
| | ④ | 介護予防住宅改修費給付事業 縮小 |
| | ⑤ | 介護予防サービス計画給付事業 縮小 |
| 105 | 地域密着型介護予防サービス事業【福祉部長寿課】 | |
| | ① | 地域密着型介護予防サービス給付事業 縮小 |
| 106 | 介護予防・生活支援事業【福祉部長寿課】 | |
| | ① | 介護予防ケアマネジメント事業 縮小 |
| 107 | 地域いきいき事業【福祉部長寿課】 | |
| | ① | 地域いきいき事業 拡充 |
| 108 | 包括的支援事業（地域支援事業等）【福祉部長寿課】 | |
| | ① | 包括的支援事業（地域支援事業等） 拡充 |

| 事業 (A票) | <事業評価 (A票)>事業名【担当課】 | |
|------------|---------------------------------|---------------------|
| No | <事務事業評価 (B票)>事務事業名・今後の方向性 | |
| 109 | 介護保険・任意事業【福祉部長寿課】 | |
| | ① | 介護保険・任意事業 拡充 |
| 110 | 後期高齢者医療・健診事業【福祉部保険医療課】 | |
| | ① | 後期高齢者医療・健診事業 改善・見直し |
| 111 | 卯塚墓園事務事業【くらし文化部環境課】 | |
| | ① | 卯塚墓園事務事業 拡充 |
| 112 | 公園西駅周辺・区画整備事業（区画整理事業）【建設部区画整理課】 | |
| | ① | 公園西駅周辺・区画整理整備事業 拡充 |
| 113 | 公園西駅周辺・区画整理関連事業【建設部区画整理課】 | |
| | ① | 公園西駅周辺・区画整理関連事業 拡充 |
| 114 | 下水道事業・建設改良事業【建設部下水道課】 | |
| | ① | 管路建設改良事業 拡充 |
| | ② | 処理場建設改良事業 拡充 |

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|-------------|---|-----------------------------|--------|-----------------|-----------|
| 事業番号 | 001 | 事業名 | 政策事務事業 | 担当部課 | 市長公室総合政策課 |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | | 予算区分(款 一 項 一 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 市民から信頼される市政の運営 | | 2-1-5 企画費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | — | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 本市では、新しいまちのかたちとして、一人ひとりに役割と居場所があり、市民主体で実現する幸せが実感できるまちをめざしており、その目標に向かう道しるべとして取組内容をまとめた「新しいまちづくり行程表」に基づき、事業の進捗確認を行う。(第2次行程表は、平成28年度～平成31年度) | | | | |

| | | | | |
|-------|-----------------|---|--------|---|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 「新しいまちづくり行程表」に掲載された事業の半期ごとの進捗を確認することで、計画的な行政運営の推進を図る。 | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 取組実施担当課 | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) ・計画的な行政運営の推進を図る。 ・3つの基本理念(フラッグ)を大切に、取組ごとの連携を図る。 | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 政策事務事業 | 改善・見直し | ④ |
| | | ② | | ⑤ |
| | | ③ | | ⑥ |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | 6,622 | 2,442 | 1,231 | 1,043 |
| 決算 | | | | 9,773 | 1,191 | 317 | 261 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | - | 16,422 | 13,290 | 12,717 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | - | 17,613 | 13,607 | 12,978 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | |
|---|-----------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|-----|
| | A 年次計画通り取組が開始された事業の割合 | % | 目標 | | | 47.4 | 77.6 | 96.6 | 100 |
| | | | 実績 | | | 49.1 | 70.7 | 82.8 | |
| | B | | 目標 | | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | | |
| C | | 目標 | | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) A 事業が実施(着手)されることが、施策推進上重要であるため。 B C | | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) - |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 概ね、行程表に基づき、事業の実施が行われている。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 概ねの事業は当初の予定通り実施されているが、実施困難な事業への対応策の検討が十分にされていない。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 行程表に掲載している事業のうち、ニーズや社会情勢が変化により実施が困難である事業に対する見直しの手法が明確となっていない。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 年度途中に行程表に掲載されている事業の取組実施担当課と事業実施に向けての情報共有を図る。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) (行程表)目標年度であるH31年度までにすべての事業を実施(着手)又は完了とする。 |

| | | |
|------|-------------------------|--------------------------------|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・第6次総合計画と連携を図り、引き続き事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--------------------------------|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

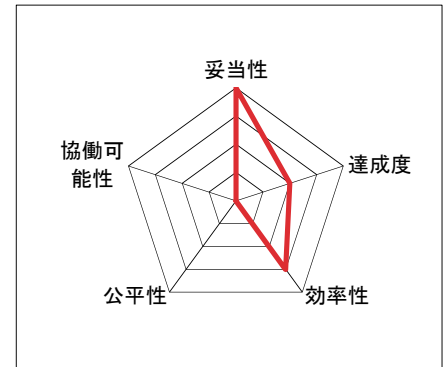
| | | | | | | |
|---------|----------|--------|----------|-----------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 政策事務事業 | | 担当部課 | 市長公室総合政策課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 政策事務事業 | 予算区分 | 2-1-5 企画費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 行程表に掲載されている事業の取組実施担当課を対象に、半期ごとに各取組の進捗状況を確認し、管理を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) ・計画的な行政運営の推進を図る。 ・3つの基本理念(フラッグ)を大切に、取組ごとの連携を図る。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | — |
| 協働可能性 | — |



2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 6,622 9,773 | 2,442 1,191 | 1,231 317 | 1,043 261 | 364 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 講師料 | | | | 60 | 千円 |
| (2) | | 消耗品費 | | | | 57 | 千円 |
| (3) | | アドバイザー報酬金 | | | | 54 | 千円 |

【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| — | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 年次計画通り取組が開始された事業の割合 | % | 見込 実績 | | 47 49 | 78 71 | 97 83 | 100 |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| ・半期毎の進捗状況の確認。HP上で公表。 | | | | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| ・行程表に掲載している事業のうち、ニーズや社会情勢の変化により実施が困難である事業に対する見直しの手法が明確となっていない。 |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

| |
|------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| — |

【改善ポイント】

| |
|--------------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 第6次総合計画のアクションプランとの連携を図る。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|--------------------------|----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 1,043 千円 | 364 千円 | △ 679 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | 第6次総合計画のアクションプランとの連携を図る。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 行程表最終年度が、第6次総合計画のアクションプランの開始年度と重なるため、連携を図りました。 | | |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|-------------|---|-----|---|-------------|-----------|
| 事業番号 | 002 | 事業名 | 公共交通事業 | 担当部課 | 市長公室経営企画課 |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ | リニモでにぎわい交流するまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | 予算区分(款—項—目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ | あえて歩いてみたくなるまち | 2-1-5 企画費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 「道路運送法」、「公共交通の活性化及び再生に関する法律」、「第2次長久手市地域公共交通網形成計画」 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 平成17年3月にリニモが開業し、東西に公共交通の基盤軸が形成された。 リニモ、名鉄バス及びN-バスが一体となった利便性の高い公共交通サービスの提供が求められている。 | | | | |

| | | | | | | |
|-------|-----------------|---|--------|---|--|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 地域公共交通の活性化を図り、地域にふさわしい公共交通を作り上げていくため、住民、交通事業者、行政など関係者みんなが集う「長久手市地域公共交通会議」を開催する。 | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 公共交通利用者及び公共交通事業者 | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 過度に自動車に頼る状態から、多様な交通手段を利用する暮らしへの転換を促すため、公共交通の利用を促進し、また、持続可能な交通体系を維持する。 | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 地域公共交通会議事業 | 改善・見直し | ④ | | |
| | | ② | | ⑤ | | |
| | | ③ | | ⑥ | | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | 915,204 | 421,191 | 4,956 | 5,508 |
| 決算 | | | | 915,012 | 420,686 | 4,849 | 5,055 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | 6,493 | 8,020 | 9,263 | 10,333 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | 921,505 | 428,706 | 14,112 | 15,388 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------|---------------|-----|----|------------|------------|------------|------------|------------|
| | A 市内公共交通の利用者数 | 人/日 | 目標 | 11,690 | 12,140 | 13,466 | 15,120 | ※5,269,000 |
| | | | 実績 | 12,140 | 13,466 | 15,120 | 15,124 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| C | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A リニモ、名鉄バス、N-バス各交通機関の乗客数の対前年比増加

※平成31年度の目標値については、第2次長久手市地域公共交通網形成計画の目標値と整合を図るため、1日あたりの利用者数から年間の利用者数に変更したため、目標値が大幅に増加している。

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 他の市町においても、公共交通に関する協議会等を設け、公共交通の利用促進及び利用者の利便性向上に向けた取り組みを行っている。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|---|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 公共交通利用者は増加傾向で推移しており、目標である「対前年度比増加」を達成している。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 本市では交通とまちづくりが一体となった外出しやすい環境整備の一環として、リニモを中心としたまちづくりを関係者と連携して進めると共に、長久手市地域公共交通網形成計画を推進してきたことにより、市内公共交通利用者は大きく増加した。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 本市は2035年まで人口増加が見込まれるとともに、大規模な集客施設が建設されたことにより交通量が増加しており、渋滞の原因となる自動車移動からの転換を図る必要がある。 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 昨年度策定した、「第2次長久手市地域公共交通網形成計画」で掲げる目標の達成を目指す。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 第2次長久手市地域公共交通網形成計画で掲げた将来像の実現に向け、利用者のニーズを把握し、利便性の高い公共交通サービスを提供するために、行政だけでなく、市民、交通事業者が一体となり、みんなで公共交通を育むことによって、地域にふさわしい公共交通を作りあげていく。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・料金体系の見直しや、新たな公共交通(N-タク)施策の実施に伴うN-バスの見直しなど、本市の公共交通施策体系全体で、適正な受益者負担を求めつつ、一般財源の抑制が図れるよう検討してください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|------------|----------|-----------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 公共交通事業 | | 担当部課 | 市長公室経営企画課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 地域公共交通会議事業 | 予算区分 | 2-1-5 企画費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成20年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 対象：市内公共交通利用者及び交通事業者 手段：市民、交通事業者、行政など関係者みんなが集う「長久手市地域公共交通会議」を開催する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) リニモ、名鉄バス、N-バス、タクシーが一体となった利便性の高い交通ネットワークを構築する |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|-------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 3,579 | 3,566 | 4,956 | 5,508 | 4,155 |
| | | 決算 | 3,387 | 3,186 | 4,849 | 5,055 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 地域公共交通会議負担金 | | | | | 4,781 千円 |
| (2) | | 報償費 | | | | | 256 千円 |
| (3) | | 食糧費 | | | | | 9 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 網形成計画(第2次総合連携計画)計画事業の実施事業件数 | 事業 | 見込 | 11 | 11 | 11 | 10 | 10 |
| | | 実績 | 10 | 9 | 11 | 10 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 公共交通会議(5回) 公共交通意見交換会(6回) 第2次長久手市地域公共交通網形成計画策定 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

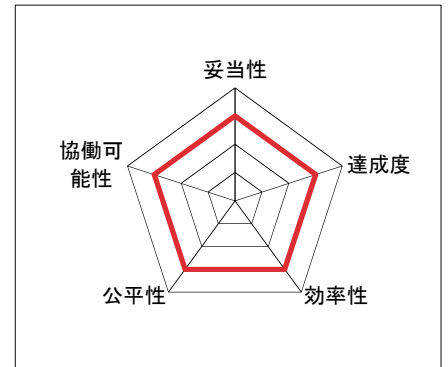
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成28年12月にイオンモール長久手店が、平成29年10月にイケア長久手店が開店し、また、愛地球博記念公園内に「ジブリパーク」の開業が予定されており、公共交通の重要度は年々増している。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 5,508 千円 4,155 千円 Δ 1,353 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| 昨年度に引き続き、長久手市公共交通網形成計画の計画事業をすべて実施もしくは継続することができた。今年度においても、長久手市地域公共交通網形成計画で掲げる将来像をめざし、計画事業を実施・継続していくとともに、第2次長久手市公共交通網形成計画策定にあたっては、平成29年度に実施した公共交通利用実態調査を基に、小学校区別ワークショップ等を開催し、より多くの市民の意見を聞きながら策定する。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 市内公共交通を一体で考え、利便性の高い公共交通サービスの提供していくための計画「第2次長久手市公共交通網形成計画」の策定にあたり、市内各小学校区で「公共交通意見交換会」を実施し、出た意見を計画に反映した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|---|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | 23 | 100 | 100 | 100 |
| 実績 | 23 | 120 | 42 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市民有志による「公共交通応援隊キッズイベントグループ」主催の公共交通交流会を実施した。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| <ul style="list-style-type: none"> 長久手市公共交通網形成計画の推進にあたっては、全ての計画事業を実施もしくは継続することができた。 公共交通交流会については、学童祭りと開催日が重複したことにより、前年度と比較すると1/3程度まで参加者が低下した。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 平成30年度に策定した「第2次長久手市地域公共交通網形成計画」の推進に向け、市民、交通事業者、行政が協働し、公共交通の確保・維持していくと共に、自動車移動からの転換を図るための公共交通利用促進活動を継続して行っていく。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|-------------|-------------------------------|---|--------------------|------------|---------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 003 | 事業名 | 人事事務事業 | | 担当部課 | 市長公室人事課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ | みんなの力を結集する自治と協働のまち | | 会計区分 | 一般会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | | 予算区分(款—項—目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ | 市民から信頼される市政の運営 | | 2-1-4 人事秘書管理費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 地方自治法、地方公務員法 | | | | | |
| | 事業開始の背景、経緯等 | 職員の雇用、給与支給等の管理を行う。 | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 定員適正化計画に基づき、計画的な職員採用や定員管理に努め、適材適所の職員配置を行います。また、給与事務の効率化のため、常勤一般職員及び特別職員の例月給与・期末勤勉手当等の電算処理を行います。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 職員 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 職員の定数、給与支給を適正に管理します。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① | 人事事務事業 | 改善・見直し | ④ | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 10,446 | 8,040 | 7,331 | 9,836 | 19,124 |
| | | | 決算 | 9,513 | 7,464 | 6,085 | 9,041 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | | 19,274 | 20,356 | 20,924 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | | 26,738 | 26,441 | 29,965 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 定員適正化計画での定員管理 | 人 | 目標 | 434 | 442 | 448 | 413 | 425 |
| | | | 実績 | 437 | 446 | 468 | 413 | 423 |
| | B 時間外勤務時間の削減 | % | 目標 | — | — | — | △5 | △5 |
| | | | 実績 | △1 | △4.5 | △4.7 | △10.9 | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| | 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | |
| | A 定員適正化計画に基づき、職員数の適正管理を目指します。 | | | | | | | |
| | B 前年度と比較し、時間外勤務時間数の削減を目指します。 | | | | | | | |
| | C | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成26年度に地方公務員法が改正され、人事評価制度を導入、活用することとなり、平成28年度から施行されました。また、消防広域化により、平成30年4月1日より消防職員が一部事務組合へ移行しました。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 平成29年度に定員適正化計画を見直し、平成30年度より計画内での定員管理を達成しています。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 平成27年度から平成31年度の定員適正化計画の期間中に、想定を上回る住民増加による業務量の増加により、職員数が計画を上回ったため、平成29年度に定員適正化計画の見直しを行いました。また、平成30年1月より臨時的任用職員の管理システムを導入し、事務の効率化を行いました。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 職員の年齢構成にバラツキが見られます。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 継続的な任用を確保するため、職員募集の時期、PR方法の検討を進めます。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成29年度に定員適正化計画を見直したため、平成34年度までの定員管理を徹底していきます。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | <ul style="list-style-type: none">・本市の歳出における人件費の割合が他自治体と比べて高いことから、指定管理、外部委託の活用により、職員定数を増やさないことを前提とした定員適正化計画の見直しを行ってください。・行政改革指針に基づき、働き方改革の推進、人員の適正配置に努めてください。・職員の労務管理事務について、アウトソーシングなども検討してください。・職員の生産性向上について、指標を検討してください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|----------|------|---------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 人事事務事業 | 担当部課 | 市長公室人事課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① 人事事務事業 | 予算区分 | 2-1-4 人事秘書管理費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | | 終了(予定)年度 | — |

1. 事務事業の目的

| | |
|---------------|---|
| 対象 ・ 手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 職員の採用、給与、手当の支給、人事評価の実施。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 職員の定数、給与支給を適正に管理する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|------------------|----------|-----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 10,446 9,513 | 8,040 7,464 | 7,331 6,085 | 9,836 9,041 | 19,124 |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | 人事業務補助賃金 | | | | | 2,137 千円 | |
| (2) | 人事給与システム保守委託 | | | | | 1,568 千円 | |
| (3) | 庶務事務システム仕様変更業務委託 | | | | | 1,534 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|----------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 職員数 | 人 | 見込 | 434 | 442 | 448 | 413 | 425 |
| | | 実績 | 437 | 446 | 468 | 413 | 423 |
| 採用試験応募者数 (一次試験のみ) | 人 | 見込 | 150 | 162 | 170 | 180 | 180 |
| | | 実績 | 128 | 154 | 157 | 171 | |

<備考：活動の概要（30年度(2018)）>

- ・職員採用試験（6月、1月の2回実施。新規採用職員22人）
- ・人事評価（正規職員と再任用職員を対象）と評価結果分析を実施
- ・退職、再任用管理（退職者15人、再任用職員27人）
- ・給与、手当の支給

4. 事務事業を取り巻く環境変化

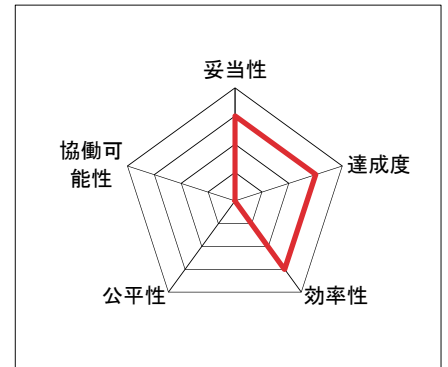
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
近年、人手不足から売り手市場となっており、民間企業での採用活動が早まっています。
平成28年度より、人事評価の結果を翌年度の給与に反映させています。

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|------------|----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 9,836 千円 | 19,124 千円 | 9,288 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| 平成29年度と同様、平成30年度においても、愛知県内市町村の統一試験日より前倒しにて採用試験を実施していきます。 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 平成30年7月の統一試験日より1か月早い6月に一次試験を実施し、昨年より多くの応募者を確保できました。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | — |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数 (人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況 (30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)

技師、保健師などの専門職及び障がい者の応募者数の確保

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|----------------------------------|---|--|---------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 004 | 事業名 | 職員福利厚生事業 | | 担当部課 | 市長公室人事課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | 会計区分 | 一般会計 | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | 予算区分(款—項—目) | | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 市民から信頼される市政の運営 | 2-1-4 人事秘書管理費 | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市職員互助会規約 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | | 職員の福利厚生に資するため。 | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) ・産業医、顧問精神科医による健康相談、健康教室、ストレスチェックの実施 ・職員健康診断、人間ドック、特定保健指導の実施 ・職員互助会による給付、レクリエーション事業 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 職員 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 職員の福利厚生と健康管理による予防 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 職員健康診断事業 | 改善・見直し | ④ | | | | |
| | ② 職員互助会補助事業 | 改善・見直し | ⑤ | | | | | |
| | ③ | | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 12,446 | 12,892 | 13,634 | 12,711 | 12,916 |
| | | | 決算 | 12,181 | 13,103 | 13,308 | 11,999 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | | 8,214 | 13,946 | 11,417 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | | 21,317 | 27,254 | 23,416 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 健康診断・人間ドック受診率 | % | 目標 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | 実績 | 99 | 98 | 97 | 99 | |
| | B ストレスチェック受検率 | % | 目標 | | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | 実績 | | 93 | 98 | 98 | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 正規職員の対象者のうち、健康診断及び人間ドックを受診した割合 | | | | | | | | |
| B ストレスチェックの対象者のうち、受検した割合 | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 労働安全衛生法の改正により、平成28年度から年に1回のストレスチェック実施が義務化。 | | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 職員が自身のストレス状況等を把握するため、対象者全ての受検を目標としており、ほぼ達成できている。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 平成28年度からストレスチェックの実施が義務化されているが、高い受検率を維持しています。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 健康診断の受診結果による要精密検査者の追跡調査や福利厚生事業の利用率による分析方法の検討 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 健康への不安の削減やリフレッシュできる環境の整備 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 5年後を目途に、健康に関する教室や福利厚生事業を充実させる。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・福利厚生の方からも行政改革指針に係る「職員の働き方改革の推進」に寄与するよう引き続き努めてください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 職員福利厚生事業 | | 担当部課 | 市長公室人事課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 職員健康診断事業 | 予算区分 | 2-1-4 人事秘書管理費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 職員に対し、健康診断、人間ドックを受診させます。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 健康診断の受診等を通し、職員の健康管理を行います。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|--------------|-----------------|------------------|------------------|-----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 10,266 9,997 | 10,626 10,861 | 11,253 10,961 | 10,608 9,916 | 10,751 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 職員健康診断委託 | | | | | 7,627 千円 |
| (2) | | ストレスチェック業務委託 | | | | | 849 千円 |
| (3) | | 産業医報償金 | | | | | 720 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 健診・ドック受診者数 | 人 | 見込 | 456 | 468 | 490 | 434 | 447 |
| | | 実績 | 452 | 460 | 475 | 432 | |
| ストレスチェック受検者数 | 人 | 見込 | | 591 | 626 | 591 | 615 |
| | | 実績 | | 550 | 611 | 578 | |

<備考：活動の概要(30年度(2018))>

- ・人間ドック(292人受診) ・ストレスチェック(578人受検)
- ・健診(317人受診)
- ・緑内障検査(40人対象)
- ・予防接種(16人接種)

4. 事務事業を取り巻く環境変化

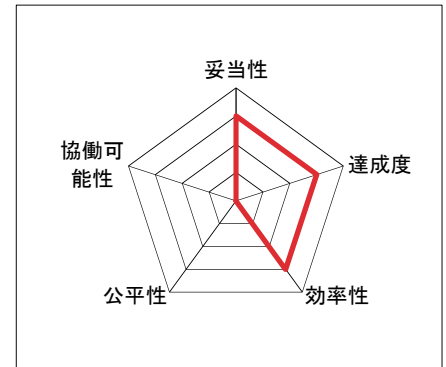
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 平成30年度より、共済組合による人間ドックの助成対象が35歳以上から30歳以上に拡大されました。 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 10,608 千円 10,751 千円 143 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| 人間ドックの受診対象者の拡大を検討(35歳以上から30歳以上に対象を拡大)。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 人間ドックの受診対象者を35歳以上から30歳以上に拡大。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | — |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
|------------------------|

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 緑内障検査を40歳以上5歳刻みで対象者を決めて実施しているが、人間ドックでも眼底検査等実施しているため、緑内障検査を継続していくか検討していきます。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|-------------|------|---------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 職員福利厚生事業 | 担当部課 | 市長公室人事課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② 職員互助会補助事業 | 予算区分 | 2-1-4 人事秘書管理費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | | 終了(予定)年度 | — |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 職員と市による費用補助により、福利厚生事業を運営します。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 職員の保養の増進 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|---------------------------|----|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 事業費 | 千円 | 予算 | 2,180 | 2,266 | 2,381 | 2,103 | 2,165 |
| | | 決算 | 2,184 | 2,242 | 2,347 | 2,083 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 職員互助会補助金 | | | | 2,083 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|---|----|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 職員1人あたり 利用回数 | 回 | 見込 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| | | 実績 | 5 | 6 | 6 | 9 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・福利厚生倶楽部による施設等の利用助成(利用者3075人) ・結婚、出産、資格取得等への給付事業(利用者546人) ・チケット、賠償保険等の斡旋事業(利用者135人) ・スーツケース等備品貸出事業(利用者35人) | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

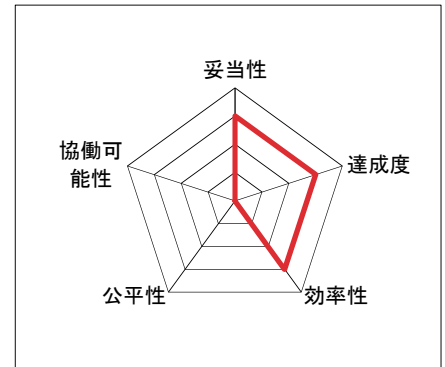
| |
|-------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 消防広域化により、平成30年度の会員数が減少。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---|------------|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 2,103 千円 | 2,165 千円 | 62 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| 利用契約を結んでいる施設の利用実績が低いため、職員へのアンケート調査等を通し、施設の見直しを検討。 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 施設との利用契約の内容が変更になる機会に、利用実績の低い施設との契約を解除しています。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | — |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
|------------------------|

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 職員の自己啓発等の意欲を高めるため、資格取得祝金の対象となる資格を、職員アンケートを通して見直しを行います。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|------------------------------------|---|--|--------|------------|---------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 005 | 事業名 | 職員研修事業 | | 担当部課 | 市長公室人事課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | | | 会計区分 | 一般会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | | 予算区分(款—項—目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 市民から信頼される市政の運営 | | | 2-1-4 人事秘書管理費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 地方公務員法 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 人材育成を図る。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 人材育成を図るために、市独自の研修の実施や、研修センターや市町村アカデミー等が主催する研修への派遣等を行います。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 職員 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 研修を通じた能力開発 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 職員研修事業 | 改善・見直し | ④ | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 6,016 | 6,401 | 7,444 | 5,819 | 5,817 |
| | | | 決算 | 4,836 | 5,773 | 6,574 | 5,023 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | - | 5,347 | 8,055 | 8,743 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | - | 11,120 | 14,629 | 13,766 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 積極的な研修参加者の割合 | % | 目標 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| | | | 実績 | 9 | 18 | 10 | 13 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 研修参加者のうち、自ら選択して積極的に研修に参加した職員数の割合 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 市民との協働を進めていくための研修需要の増加 | | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 参加者を指名する研修が年度により増減しており、目標達成も年度によりバラツキがあります。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 時間外勤務の削減に向けた取組として、生産性向上研修、ワーク・ライフ・バランス研修、管理職研修に取り組んできました。時間外勤務は減少傾向となっています。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 研修に参加しやすい環境整備 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 業務の見直しや効率的に業務を行うことで、研修に参加する時間をつくります。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 第6次総合計画の実施に合わせ、10年後を目途に研修への積極的な参加者を増やしていきます。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・研修事業の面からも行政改革指針に係る「職員の働き方改革の推進」、「市民参加の仕組みづくり(職員の現場志向の向上)」に寄与するよう引き続き努めてください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 職員研修事業 | | 担当部課 | 市長公室人事課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 職員研修事業 | 予算区分 | 2-1-4 人事秘書管理費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 職員に対し、市の独自の研修や研修センター、市町村アカデミーが主催する研修へ派遣 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 研修を通じた能力開発 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|---------|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 6,016 4,836 | 6,401 5,773 | 7,444 6,574 | 5,819 5,023 | 5,817 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | 特別旅費 | | | | | 2,559 千円 | |
| (2) | 職員研修負担金 | | | | | 1,408 千円 | |
| (3) | 職員研修委託 | | | | | 922 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 研修延べ参加人数 | 人 | 見込 | 438 | 446 | 466 | 412 | 421 |
| | | 実績 | 462 | 355 | 681 | 522 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 新規採用職員研修(21人) 特別研修(管理職、コーチング、キャリアデザイン等)(280人) 尾張東部職員研修協議会派遣(84人) その他派遣(研修センター、自治大、アカデミー等)(80人) | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

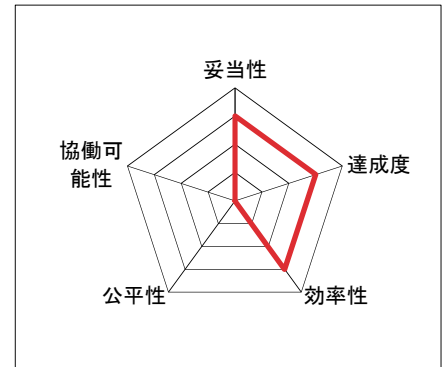
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 市民との協働を進めていくための研修需要の増加 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 5,819 千円 5,817 千円 Δ 2 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| 市民との協働を進める中で、コミュニケーション能力や課題解決に向けた能力の育成に重点をおいていきます。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 主事、主任級の職員に対し、平成30年度と31年度にキャリアデザイン研修を実施します。コミュニケーションを主とする研修ではありませんが、キャリアを形成していく上で必要となる周囲からの協力に関し、コミュニケーションの必要性に触れています。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | — |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
|------------------------|

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 市民との協働を進める中で、コミュニケーション能力や課題解決に向けた能力の育成とともに、接遇力の向上にも取り組んでいきます。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-----|-----|---------|------|---------|
| 事業番号 | 006 | 事業名 | 情報化推進事業 | 担当部課 | 市長公室情報課 |
|------|-----|-----|---------|------|---------|

| | | | | |
|-------------|---------------|----------------------|--------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | 予算区分(款—項—目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 市民から信頼される市政の運営 | 2-1-6 情報化施策費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | — | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | | 合理的・効率的な行政運営の推進 | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|---|--------|-------------------|--------|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 市役所における複数部署にまたがる業務で使用する情報システム及び機器の情報化を推進する。 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市役所職員 | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) ICT化と業務改革の一体的取組 | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 情報化推進事務事業 | 改善・見直し | ④ 財務会計システム管理事業 | 改善・見直し |
| | | ② 住民情報システム管理事業 | 改善・見直し | ⑤ グループウェアシステム管理事業 | 改善・見直し |
| | | ③ 住民情報システム整備事業 | 改善・見直し | ⑥ グループウェアシステム整備事業 | 改善・見直し |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | 180,313 | 122,233 | 91,258 | 121,823 |
| 決算 | | | | 170,650 | 141,835 | 93,546 | 120,319 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | 23,165 | 16,651 | 10,341 | 10,651 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | 193,815 | 158,486 | 103,887 | 130,970 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------------------------------|---|---------------|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A | 終日に渡るシステム障害件数 | 件 | 目標 | — | — | — | — |
| 実績 | | | | — | — | — | — | |
| B | セキュリティインシデントによる運用停止件数 | 件 | 目標 | — | — | — | — | 0 |
| | | | 実績 | — | — | — | — | |
| C | | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A | 情報システムを安定稼働させることは、業務運営における課題であり、日常における機器の確認とバックアップのほか、消耗品や備品等の管理を行い安定稼働に繋げる努力を行うもの。 | | | | | | | |
| B | 情報漏えいやウイルス対策などのセキュリティインシデントに対応するために必要な技術的な設定と職員等の教育を行うことでインシデントの発生による運用停止の回避を図ること。 | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成28年度から、尾三地区自治体間連携協力に関する協定(豊明市、日進市、みよし市、東郷町)に基づき、情報システムに関する研究会にて情報交換を行っている。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) ※成果指標の見直し |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) — |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 最新の情報技術やサービスを把握し、セキュリティに配慮したうえで、庁内全体の情報化コストを抑えるとともに、業務の効率化を図っていくことが必要である。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 今後におけるシステム等の選定においても、情報セキュリティを確保したICT化と業務改革の一体的な取組、最適かつ公平な調達仕様とし、競争の原理を働かせるような調達を行っていく。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 情報システム等の調達時(随時)に、統合できるシステムについて検討し、経費の削減に努める。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・情報化推進事業について、行政改革指針に係る「ICTの活用（ICT化と業務改革の一体的な取組の実施、情報セキュリティの確保）」を踏まえ、引き続き推進を図ってください。 ・ペーパーレス化を推進するため、引き続き情報システムの活用を図るとともに、文書を削減する取組との連携を図ってください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

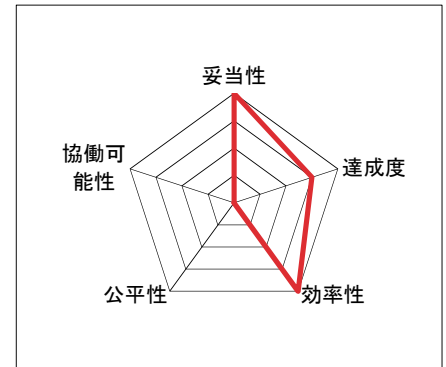
| | | | | | | |
|---------|----------|-----------|----------|--------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 情報化推進事業 | | 担当部課 | 市長公室情報課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 情報化推進事務事業 | 予算区分 | 2-1-6 情報化施策費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | - | 終了(予定)年度 | - | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 職員に対して、情報機器管理に関する経費を管理すると共に、地域情報化に寄与する情報システムの共同利用の検討や、セキュリティ対策に関する事業を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 情報通信技術を活用し、庁内全体の情報化コストを抑えるとともに、市役所における業務の情報化を図ることにより、情報の共有化と業務の効率化を図る。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | - |
| 協働可能性 | - |



2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|--------------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 23,244 | 19,955 | 24,563 | 30,081 | 27,314 |
| | | 決算 | 22,260 | 18,664 | 24,761 | 28,140 | - |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 庁内サーバ等管理委託 | | | | 12,798 | 千円 |
| (2) | | あいち情報セキュリティクラウド負担金 | | | | 3,154 | 千円 |
| (3) | | あいち電子自治体推進協議会負担金 | | | | 2,988 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 終日に及ぶシステム障害件数 | 件 | 見込 | - | - | - | - | 0 |
| | | 実績 | - | - | - | - | - |
| セキュリティインシデント件数 | 件 | 見込 | - | - | - | - | 0 |
| | | 実績 | - | - | - | - | - |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) インターネット環境の環境分離によって、ネットワークが複雑になり、管理する機器も増加している状況がある。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 30,081 千円 27,314 千円 Δ 2,767 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 平成30年度は第4次L GWANへの移行作業を行う。システムの共同運用の可能性は、今後も検討していく。セキュリティ対策に関しては、全職員を対象にした研修(eラーニング等)を実施していく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) - |

【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|---------------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | - | - | - | - |
| 実績 | - | - | - | - |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 行政運営に必要な個人情報等を取り扱うため協働は不適格と考える。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 平成30年度は、コンサルの支援を受けながら、情報資産の把握と調達に関する統一した様式の作成を行った。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 情報資産の全体的な把握と適切な調達、その調達に関して適切な仕様を作成できる人材育成が課題と考えている。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------------|----------|--------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 情報化推進事業 | | 担当部課 | 市長公室情報課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 住民情報システム管理事業 | 予算区分 | 2-1-6 情報化施策費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | - | 終了(予定)年度 | - | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 職員に対して、市役所の主な窓口業務で使用する住民情報システムの運営に関する機器やソフトウェアの管理を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市役所における業務の情報化を図ることにより、情報の共有化と業務の効率化を図るとともに、個人情報適切に管理することで、市民に対する信頼性を向上させる。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|------------------|--------------------|------------------|------------------|------------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 116,745 108,489 | 58,049 58,475 | 24,012 24,020 | 42,816 40,897 | 60,343 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 住民情報システム保守委託 | | | | 20,970 | 千円 |
| (2) | | 住民情報システム賃借料 | | | | 15,956 | 千円 |
| (3) | | 中間サーバプラットフォーム負担金 | | | | 2,030 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 終日に及ぶシステム障害件数 | 件 | 見込 実績 | - - | - - | - - | - - | 0 |
| セキュリティインシデント件数 | 件 | 見込 実績 | - - | - - | - - | - - | 0 |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

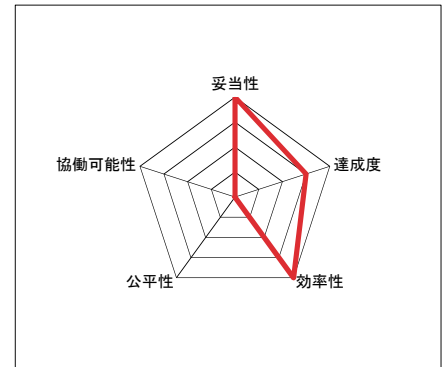
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
平成29年度から本格連携を行っている社会保障・税番号制度によって、より厳格に個人情報に留意したシステム運用を行っている。

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---|------------|-----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 42,816 千円 | 60,343 千円 | 17,527 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| 平成30年度に住民情報システムのサーバ機器等の保守満了を迎えることから、機器更新を行っていく。 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| - | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | - |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | - | - | - | - |
| 実績 | - | - | - | - |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 個人情報を扱うことから秘匿性を考慮し協働は不適格と考える。 | | | | |

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
平成30年度は、システムの機器更新に伴い、サーバ機器を集約できる仮想環境を構築し、機器の集約化を図る環境を整えた。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
情報資産の全体的な把握と適切な調達、その調達に関して適切な仕様を作成できる人材育成が課題と考えている。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------------|----------|--------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 情報化推進事業 | | 担当部課 | 市長公室情報課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ③ | 住民情報システム整備事業 | 予算区分 | 2-1-6 情報化施策費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | - | 終了(予定)年度 | - | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 住民情報システムにおけるシステム構築及びインフラ整備を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市役所における業務の情報化を図ることにより、情報の共有化と業務の効率化を図るとともに、個人情報適切に管理することで、市民に対する信頼性を向上させる。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|-------------------|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | - | 459 | 0 | 0 | 3,645 |
| | | 決算 | - | 14,081 | 475 | 4,506 | - |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | 地方税共通納税システム対応業務委託 | | | | | 2,938 千円 | |
| (2) | 電算室空調設備取替工事 | | | | | 1,568 千円 | |
| (3) | | | | | | 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 終日に及ぶシステム障害件数 | 件 | 見込 | - | - | - | - | 0 |
| | | 実績 | - | - | - | - | - |
| セキュリティインシデント件数 | 件 | 見込 | - | - | - | - | 0 |
| | | 実績 | - | - | - | - | - |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

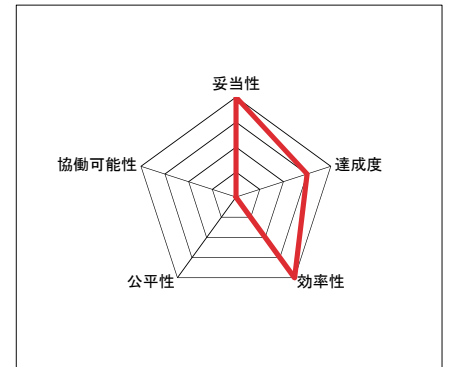
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
平成29年度から本格連携を行っている社会保障・税番号制度によって、より厳格に個人情報に留意したシステム運用を行っている。

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|------------|----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 0 千円 | 3,645 千円 | 3,645 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | ※新規行政評価対象 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| ※ 新規行政評価対象事業 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| - | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | - |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数 (人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | - | - | - | - |
| 実績 | - | - | - | - |
| (2) 協働の状況 (30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 個人情報を扱うことから秘匿性を考慮し協働は不適格と考える。 | | | | |

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
令和元年10月から運用予定の地方税共通納税システムの導入に対応するため、本市の住民情報システムを改修した。また、平成30年度の猛暑の影響により住民情報システムサーバを設置している電算室の空調が不調となり交換した。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
情報資産の全体的な把握と適切な調達、その調達に関して適切な仕様を作成できる人材育成が課題と考える。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------------|----------|--------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 情報化推進事業 | | 担当部課 | 市長公室情報課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ④ | 財務会計システム管理事業 | 予算区分 | 2-1-6 情報化施策費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | - | 終了(予定)年度 | - | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 職員に対して、市役所の予算編成、予算執行、決算等の業務で使用している財務会計システムの管理運営を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市役所における業務の情報化を図ることにより、情報の共有化と業務の効率化を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|--------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 9,982 | 12,698 | 10,299 | 10,705 | 11,319 |
| | | 決算 | 9,479 | 12,580 | 10,554 | 10,747 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 財務会計システム賃借料 | | | | 10,221 | 千円 |
| (2) | | 財務会計システム保守委託 | | | | 446 | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 終日に及ぶシステム障害件数 | 件 | 見込 実績 | - - | - - | - - | - - | 0 |
| セキュリティインシデント件数 | 件 | 見込 実績 | - - | - - | - - | - - | 0 |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

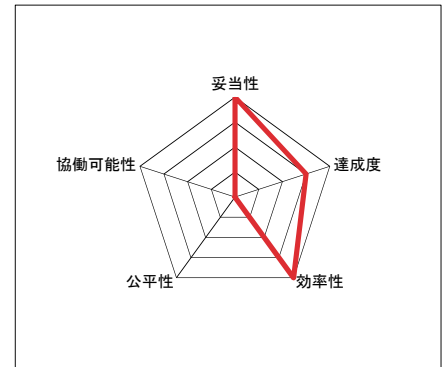
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 本システムは、本庁舎に機器を設置せず、L GWAN上のサービスを利用している。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 10,705 千円 11,319 千円 614 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| 平成30年度に、財務会計用プリンターの保守満了を迎えることから、機器更新を行っていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| - |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | - |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|---------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | - | - | - | - |
| 実績 | - | - | - | - |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 行政運営に必要な個人情報等を取り扱うため協働は不適格と考える。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 現状は、市単独でのL GWAN上のサービスを利用していますが、尾三地区の研究会において共同利用の可能性について協議を始めた。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 情報資産の全体的な把握と適切な調達、その調達に関して適切な仕様を作成できる人材育成が課題と考えている。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|-----------------|----------|--------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 情報化推進事業 | | 担当部課 | 市長公室情報課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ⑤ | グループウェアシステム管理事業 | 予算区分 | 2-1-6 情報化施策費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | - | 終了(予定)年度 | - | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 職員に対し、職員間の情報共有手段として使用しているグループウェアシステム及びインターネット環境に関する管理運営を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市役所における業務の情報化を図ることにより、情報の共有化と業務の効率化を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-----------------|------------------|------------------|------------------|------------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 30,342 30,422 | 31,291 32,488 | 32,144 33,045 | 37,981 35,534 | 28,752 |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | グループウェアシステム賃借料 | | | 21,501 千円 | | |
| (2) | | グループウェアシステム保守委託 | | | 4,307 千円 | | |
| (3) | | インターネット環境賃借料 | | | 4,143 千円 | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 終日に及ぶシステム障害件数 | 件 | 見込 実績 | - - | - - | - - | - - | 0 |
| セキュリティインシデント件数 | 件 | 見込 実績 | - - | - - | - - | - - | 0 |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

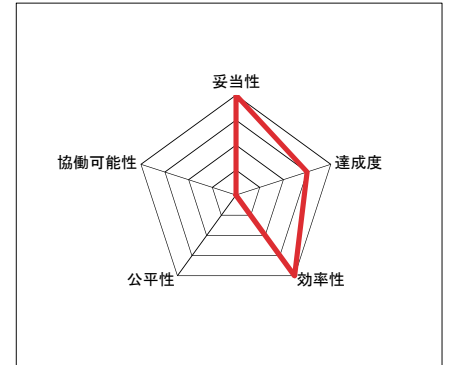
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
内部情報ネットワークをインターネットから分離を行い、各課に1台のインターネット閲覧端末を設置し、29年度にインターネット閲覧環境を構築し、自席からの閲覧を可能とした。30年度は、閲覧環境の機能を充実させる対策を行った。

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|--|------------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 37,981 千円 | 28,752 千円 | △ 9,229 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | 基本ソフト等のサポート切れに対応すべく、端末の更新を速やかに対応していく。平成30年度からの稼働を目標に、より情報収集と市民対応の向上を図るため、各課に1台のインターネット端末の状況を、職員の自席端末から安全に閲覧できるよう環境を再構築し、事務環境を改善した。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| - | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | - |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数 (人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | - | - | - | - |
| 実績 | - | - | - | - |
| (2) 協働の状況 (30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 行政運営に必要な個人情報等を取り扱うため協働は不適格と考える。 | | | | |

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)

平成30年度において、セキュリティ関係のソフトウェアライセンスの整理を行い、次年度以降スケールメリットを活かした調達ができるように調整した。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)

情報資産の全体的な把握と適切な調達、その調達に関して適切な仕様を作成できる人材育成が課題と考える。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|-----------------|----------|--------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 情報化推進事業 | | 担当部課 | 市長公室情報課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ⑥ | グループウェアシステム整備事業 | 予算区分 | 2-1-6 情報化施策費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | - | 終了(予定)年度 | - | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) グループウェアシステムにおけるネットワーク作業等インフラ構築に関する事業を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市役所における業務の情報化を図ることにより、情報の共有化と業務の効率化を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|---------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | | 240 | 240 | 240 | 3,896 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | LAN配線作業委託 | | | | 408 | 千円 |
| (2) | | イントラネット回線導入工事 | | | | 87 | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------------------------|----|----------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 終日に及ぶシステム障害件数 | 件 | 見込 実績 | - | - | - | - | 0 |
| セキュリティインシデント件数 | 件 | 見込 実績 | - | - | - | - | 0 |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

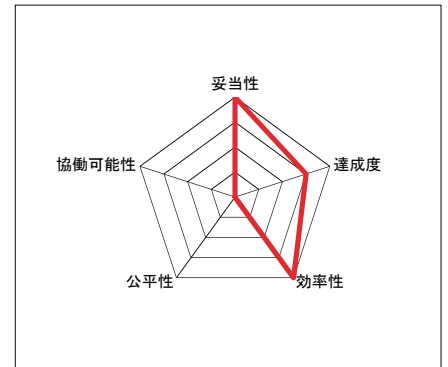
| |
|------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
|------------------------|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 240 千円 3,896 千円 3,656 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| 引き続き職員配置に伴う適切な事務環境の構築に対応するべく端末の適切な配置等に必要な配線作業等を行っていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| - |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | - |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---------------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | - | - | - | - |
| 実績 | - | - | - | - |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 行政運営に必要な個人情報等を取り扱うため協働は不適格と考える。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 平成30年度の猛暑の影響により住民情報システムのサーバールームの空調が不調となり交換したことから、平成31年度は設置から15年となる情報系システムのサーバールームの空調機器交換を行う。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 情報資産の全体的な把握と適切な調達、その調達に関して適切な仕様を作成できる人材育成が課題と考える。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| 事業番号 | 007 | 事業名 | 広報事業 | | | | 担当部課 | 市長公室情報課 |
|---|--|---|-----------------|------------------|------------|-------------|------------|-----------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | | | | 会計区分 | 一般会計 | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | | | 予算区分(款—項—目) | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | | | | 2-1-7 広報広聴費 | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | — | | | | | | |
| | 事業開始の背景、経緯等 | 行政情報を市民に正確に伝達し、まちづくりへの参加・協力への機運を高めるために実施している。 | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 市政情報を伝える事業として、広報紙発行、ホームページ掲載、動画としての市政情報をケーブルテレビにおいて放映している。また、本市の名古屋市近郊という立地条件から市外から転入した市民等へ配布する公共施設ガイドマップも作成し、配布している。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市内外の住民に対して | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 長久手市について深く知ってもらおう。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 広報事務事業 | 改善・見直し | ④ 公共施設ガイドマップ作成事業 | 改善・見直し | | | |
| | ② 広報紙発行事業 | 改善・見直し | ⑤ ケーブルテレビ番組制作事業 | 改善・見直し | | | | |
| | ③ 市勢要覧作成事業 | 拡充 | ⑥ 市ホームページ運用事業 | 改善・見直し | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 54,947 | 49,323 | 49,697 | 53,034 | 49,144 |
| | | | 決算 | 51,967 | 46,229 | 46,637 | 51,087 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 14,195 | 9,822 | 12,793 | 12,387 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 66,162 | 56,051 | 59,430 | 63,474 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 広報紙の不満足度 | %以下 | 目標 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| | | | 実績 | 1 | 4 | 2 | 2 | |
| | B ケーブルテレビ番組の視聴頻度 | %以上 | 目標 | 40 | 40 | 40 | 40 | 40 |
| | | | 実績 | 42 | 40 | 36 | 41 | |
| | C ホームページの不満足度 | %以下 | 目標 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| | | | 実績 | 9 | 8 | 13 | 9 | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 広報の「見づらさ」「分かりにくさ」を解消することを目的として、市政・広報-eモニター「ながモニ」アンケート(以下「ながモニアンケート」という。)の「不満足度」の過去実績を参考に数値目標を設定する。 | | | | | | | | |
| B 番組への「親しみ度合い(視聴の程度)」を把握するために、ながモニアンケートの「視聴頻度」の過去実績を参考に数値目標を設定する。 | | | | | | | | |
| C ホームページの「使いにくさ」等を解消することを目的として、ながモニアンケートの「不満足度」の過去実績を参考に数値目標を設定する。 | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 広報紙及びホームページは全ての自治体で実施している。 また、インターネット環境、SNSの普及等により、情報発信の方法が多様化している状況である。 | | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 概ね達成できている。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) ながモニアンケート、御意見等により、広報及び番組内容の改善を行った。特に平成30年度に男女共同参画の視点による表現方法に留意した「広報ガイドライン」を作成した。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 広報事業は、市民及び市外の住民へ市の情報を直接発信する重要な役割を果たしており、多様な手段を用いて発信する必要がある。今後本市をとりまく環境に見合った情報発信方法を模索し、検討していく。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 市内外の住民に対して、本市により興味を持ってもらうために、ながモニアンケート等を活用し、紙、映像、ホームページ等各媒体の特徴をいかした方法で、市政情報を伝えていく。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 市内外の住民に対し、長久手市の魅力、特色等を紹介し、長久手市を深く知ってもらおう。 | | | | | | |

| | | |
|-------------|--------------------------------|---|
| <p>内部意見</p> | <p>総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・多様な情報発信の方法を模索し、広報紙による紙媒体で発行する内容は厳選して、印刷製本費の削減に努めてください。 ・ケーブルテレビ番組制作・放送委託について、接続率が低下しているようであれば、事業の縮小を検討してください。 ・事業目的を再確認し、情報の到達率や伝えた後の市民の行動について、効果を検討してください。 ・公共施設ガイドマップについて、観光面との連携(統合の検討)を図ってください。 |
|-------------|--------------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 広報事業 | | 担当部課 | 市長公室情報課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 広報事務事業 | 予算区分 | 2-1-7 広報広聴費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | - | 終了(予定)年度 | - | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民を中心として市政に関するアンケートの実施や市民記者制度を実施している。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市政アンケートや市民記者に登録する市民等の数を増やし、市政に関心を持ってもらう。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | | 2,038 1,415 | 2,043 1,430 | 1,851 1,016 | 1,558 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 広報事務賃金 | | | | | | 753 千円 | |
| (2) 消耗品費 | | | | | | 98 千円 | |
| (3) 広告料 | | | | | | 44 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| ながモニ登録者数 | 人 | 見込 | 100 | 100 | 100 | 90 | 100 |
| | | 実績 | 96 | 97 | 81 | 105 | |
| 市民記者記事投稿件数 | 件 | 見込 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 |
| | | 実績 | 53 | 49 | 44 | 42 | |

<備考：活動の概要(30年度(2018))>
ながモニ登録者は20代から80代以上まで幅広く登録されており、5回のアンケートに対して約70%の回答率で回答を得ている。市民記者から様々なテーマで42件の投稿があった。

4. 事務事業を取り巻く環境変化

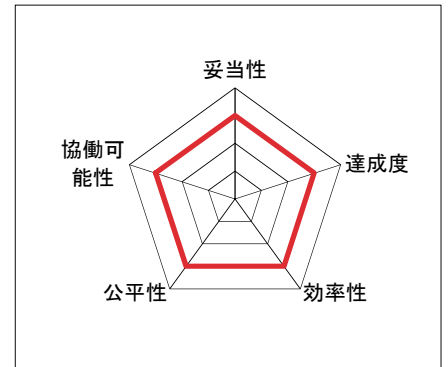
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 各種計画等の策定にあたっては、アンケート等をし、市民の意向を施策に反映させている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 1,851 千円 1,558 千円 Δ 293 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| ながモニ及び市民記者について広く周知し、それぞれの登録者数を増やすこと及び市民が市政に関心を持つことを図る。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 市民記者の情報交換の場を設定し、各記者の記事内容について検証・情報交換した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 実績 | 103 | 87 | 110 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ながモニ制度 ・市民記者制度 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| ながモニ登録者数及び市民記者記事投稿数を更に増やすことについて苦慮している。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 市民記者として登録しているが、記事掲載の数がない者について、記事掲載又は取材活動についての障害の有無や記事掲載への動機付けを図っていく。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|---------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 広報事業 | | 担当部課 | 市長公室情報課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 広報紙発行事業 | 予算区分 | 2-1-7 広報広聴費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和40年 | 終了(予定)年度 | - | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 毎月一回広報紙を発行し、市内に全戸（事業所を含む。）配布している。また、市内公共施設や大学にも設置し、利用者に周知している。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市内外の住民に、市政情報を提供する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|----------|------------|------------------|------------------|------------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | | 24,531 21,780 | 24,900 22,872 | 25,867 24,869 | 25,376 |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) 印刷製本費 | | | | | | 17,212 千円 | |
| (2) 広報配布委託 | | | | | | 7,508 千円 | |
| (3) 広報録音等委託 | | | | | | 120 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|----|----------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 不満足度 | % | 見込 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| | | 実績 | 1 | 4 | 2 | 2 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> 平成29年8月号から、ボランティア団体「愛eyeクラブ」による記事の音声化を委託し、ホームページに公開している。また、平成29年11月号から、市内事業所へも配布し、事業所への来訪者及び従業員の目に触れるようにした。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

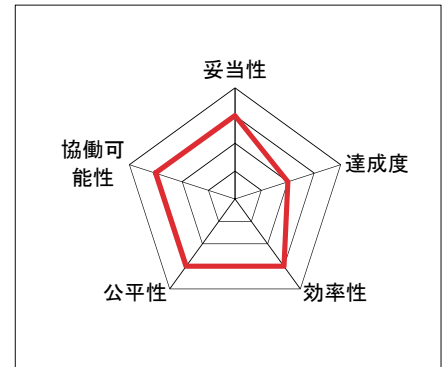
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 市政情報をわかりやすく伝えることを目的に、月1回広報ながくてを発行している。幅広い年代層の市民を対象としていることから、紙面に掲載する情報が増加しており、紙面構成に苦慮している。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 25,867 千円 25,376 千円 Δ 491 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 活動指標の不満足度（ながモニターアンケート結果（広報紙が読みにくい）から、広報紙が読みにくいと感じている市民は少ないと思われる。さらに読みやすい広報紙づくりに努め「市民主体のまちづくり」への参加を促していく。あわせて、男女共同参画の視点による表現方法（性別による固定的役割分担意識や固定観念にとらわれない表現方法）に留意していく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) シニア向けのページは文字を大きくする、又は不要な表現は簡略化している。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | 30 | 40 | 40 | 40 |
| 実績 | 26 | 36 | 36 | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) ・市内ボランティア団体による広報記事音声化 ・市民への広報配達業務委託 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 広報配達員を市民から募集して、広報配達業務を行っている。ボランティア団体による広報記事音声化を委託し、ホームページに公開している。市内事業所へも広報を配布し、事業所への来訪者及び従業員の目に触れるようにした。 |
|--|

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 紙面に対し、掲載情報が多い場合、見る人によっては文字が小さく感じることもある。必要最小限の文章量と文字の大きさについては常に苦慮している。シニア向けのページは文字を大きくする、又は不要な表現は簡略化する等改善を図っていく。 |
|---|

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 広報事業 | | 担当部課 | 市長公室情報課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ③ | 市勢要覧作成事業 | 予算区分 | 2-1-7 広報広聴費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 視察で長久手市を訪れた方を中心に、長久手市の魅力、特色等の概要を広く紹介するための市勢要覧及びその補足資料を作成し、配布している。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 長久手の魅力、特色等を知ってもらおう。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 2,639 | 238 | 238 | 267 | 297 |
| | | 決算 | 2,435 | 175 | 304 | 188 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 印刷製本費 | | | | | | 188 千円 | |
| (2) | | | | | | 千円 | |
| (3) | | | | | | 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|-------------------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 発行部数 | 部 | 見込 | 4,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| | | 実績 | 4,000 | 1,000 | 3,000 | 2,000 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 市勢要覧の補足資料として「長久手市データファイル」を毎年作成している。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

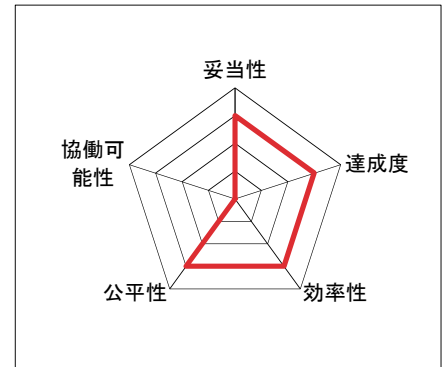
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 市勢要覧は約4年ごとに刷新するため、補足資料として人口、財政等情報を掲載した「長久手市データファイル」を毎年作成している。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 267 千円 297 千円 30 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| 人口、財政等情報に加え、様々な「市民の力をまちづくりに活かそうとする取組」を掲載し、各分野で市民の力を活かしたまちづくりを紹介した。取組が市民主体のまちづくりを促すような紙面作りに努めていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| データファイルの取組紹介ページにおいて、関連する取組については記事掲載をまとめ、紙面の効率化を図り、読み手の関心の対象を広げるよう努めた。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 人口、財政、土地、生活等の市の情報に加え、「市民の力をまちづくりに活かそうとする取組」の項目を設け、市民主体のまちづくりを促すような紙面とすることにより、市民参加の向上に資している。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 人口、財政、土地、生活等の市の情報に加え、「市民の力をまちづくりに活かそうとする取組」を多く掲載し、紹介した。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 人口、財政等情報に加え、様々な「市民の力をまちづくりに活かそうとする取組」を掲載し、各分野で市民の力を活かしたまちづくりを紹介した。取組が市民主体のまちづくりを促すような紙面作りに努めていく。一方で記事内容が増加するなか、紙面の効率化を図り、また、読み手の関心を引くよう改善する。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|----------------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 広報事業 | | 担当部課 | 市長公室情報課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ④ | 公共施設ガイドマップ作成事業 | 予算区分 | 2-1-7 広報広聴費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | - | 終了(予定)年度 | - | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民に対し、公共施設等の情報が入った地図（シティガイドマップ長久手（以下「ガイドマップ」という。））を作成する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民に、市内公共施設等の情報を提供する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|----------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | | 551 516 | 551 513 | 551 516 | 0 |
| ＜備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| (1) 印刷製本費 | | | | | | 516 千円 | |
| (2) | | | | | | 千円 | |
| (3) | | | | | | 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----------|
| 発行部数 | 部 | 見込 実績 | 8,000 8,000 | 5,000 5,000 | 5,000 5,000 | 5,000 5,000 | 0 |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| ＜備考：活動の概要（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| 保育園等公共施設開設、地図情報変更にあわせガイドマップの情報を最新の状況に更新した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

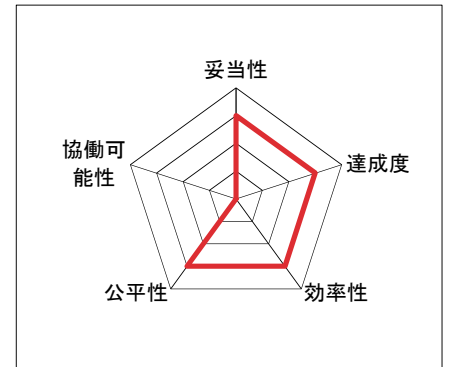
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 市外からの転入等の人口増加に伴い、ガイドマップ配布の需要は増えているものの、(株)ゼンリンとの協定による「暮らしの便利帳」等一部内容で類似する発行物がある。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 551 千円 0 千円 Δ 551 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| 人口増加に伴い、ガイドマップ配布の需要も増加している中、(株)ゼンリンと協定して作成する「暮らしの便利帳」も転入した市民等に好評である。 双方とも地図を用い市内公共施設等を案内する内容であることから、今後は、市の費用負担で作成するガイドマップから(株)ゼンリンが広告料を集めて作成する「暮らしの便利帳」へ重点を移していく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| ガイドマップは、地図情報を用い市内公共施設等を案内する内容であることから、他の地図情報を用いた類似の発行物と発行時期を調整することにより、市の費用負担を縮小していく。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数 (人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | - | - | - | - |
| 実績 | - | - | - | - |
| (2) 協働の状況 (30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 地図情報を用い市内公共施設等を案内する内容であるが、市民活動施設紹介の項目を設けることにより、市民参加の向上に資している。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 地図情報は、スマートフォン等情報端末に比してその紙面の大きさから一覧性に優れている。媒体の特徴を生かした情報内容の構築に努めている。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| ガイドマップは、他の地図情報を用いた類似の発行物と発行時期を調整することから2019年度は作成しないこととするが、次年度以降は必要に応じ、ガイドマップを発行することを検討する。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|---------------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 広報事業 | | 担当部課 | 市長公室情報課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ⑤ | ケーブルテレビ番組制作事業 | 予算区分 | 2-1-7 広報広聴費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成10年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ひまわりネットワーク契約者を中心として（市役所市民課前等でも視聴可能）、市政情報を動画で伝える手段として、ひまわりネットワークのケーブルテレビで、15分の情報番組（1日4回以上、月曜日に内容更新）を作成し放映している。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 視聴者に対し市の事業や地域活動等をPRすることにより、市事業等に興味を持ってもらい、多くの市民がまちづくりに参画することを目指す。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|----------|------------|------------------|------------------|------------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | | 21,965 22,343 | 21,965 21,518 | 21,965 21,965 | 20,169 |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) ケーブルテレビ番組制作・放送委託 | | | | | | 21,951 千円 | |
| (2) 放送受信料 | | | | | | 14 千円 | |
| (3) | | | | | | 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--|----|----------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 視聴頻度 | % | 見込 | 40.0 | 40.0 | 40.0 | 40.0 | 40.0 |
| | | 実績 | 42.4 | 39.8 | 36.4 | 40.8 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| 1週間の市政の動きや、地域の出来事を概ね2項目紹介する「ニュース」、市内の施設・事業（行事）・まちの話などを紹介した「特集」、市に関することやまちづくりなどを掘り下げて紹介する「3min File」、市や外郭団体等が主催する行事や事業の啓発に関する「TOPICながくて」を年間50本制作し、放送した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

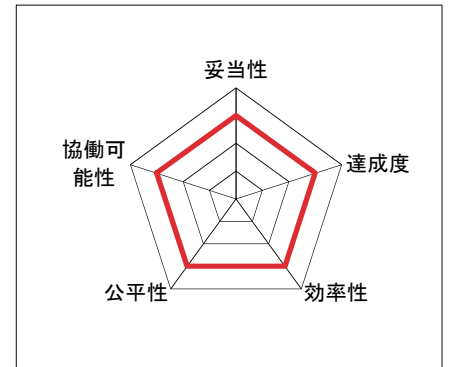
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ケーブルテレビの未加入世帯にも主な番組の内容を見ることができるよう、インターネット環境の普及を生かしたストリーミング配信を行い、パソコンに加えてスマートフォンでも視聴することができるようにしている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 21,965 千円 20,169 千円 △ 1,796 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| 活動指標の視聴頻度（ながモニターアンケート結果（毎週見る～月1回程度見る））から、目標を達成している。今後も、アンケート結果等を踏まえ、より視聴頻度の実績を上げる方法を研究する。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 番組作成の取材を通して、取材対象者及びその関係者に番組を知ってもらい、視聴につなげることに努めた。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | 50 | 50 | 50 | 50 |
| 実績 | 50 | 50 | 50 | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 番組内での市民参加 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 番組で取り上げた団体への新たな市民参加へつなげるよう番組内の参加告知を工夫する必要がある。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 活動指標の視聴頻度（ながモニターアンケート結果（毎週見る～月1回程度見る））から、目標を達成している。今後も、アンケート結果等を踏まえ、より視聴頻度の実績を上げる方法を研究する。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|---------------|-------|-------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 広報事業 | 担当部課 | 市長公室情報課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ⑥ 市ホームページ運用事業 | 予算区分 | 2-1-7 広報広聴費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成9年度 | | 終了(予定)年度 | — |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市内外の住民に、市政情報を提供する市ホームページの運営及び管理を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市内外の住民に、市政情報を提供する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | | 2,928 | 2,928 | 2,533 | 1,744 |
| | | 決算 | | 2,927 | 2,995 | 2,533 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> (1) ホームページ作成システム管理委託 2,533 千円 (2) 千円 (3) 千円 | | | | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 不満足度 | % | 見込 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| | | 実績 | 9 | 8 | 13 | 9 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> 広報紙と連動した市政情報をホームページ上で掲載し、市内外の住民に向けた広報を行った。既に終了した事業など古くなった情報を載せている等ページについて、担当課と調整を行った。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

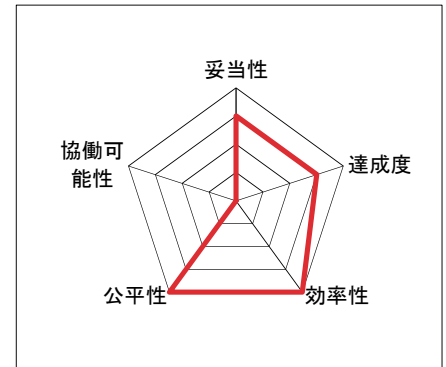
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 本市が平成27年度国勢調査で平均年齢が全国一若いまちであること、大型商業施設の出店等の背景から新聞等メディア掲載の機会が増えている。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---|--|----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 2,533 千円 | 1,744 千円 | △ 789 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 改善・見直し | |
| ・前年度【コメント】 | 活動指標の不満足度（ながモニアンケート結果のちょっと不満、かなり不満）から、前年度と比較すると若干不満足度が上がった。市民へ伝えたい市政情報をわかりやすく提供するために、ページ内の情報量等を担当課と更に連携及び調整していく。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| ホームページ上の既に終了した事業など古くなった情報を載せているページについては、各課等との連携を密にし、整理を行い、市民へ伝えたい市政情報をわかりやすくした。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---------------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| ホームページに係るシステム管理に関する事業であるため協働は不適切と考える。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 市内外の住民から閲覧した場合に、1ページあたりの情報量が多すぎないように各課等と調整を行った。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 活動指標の不満足度（ながモニアンケート結果のちょっと不満、かなり不満）から、大多数の市民はホームページに満足を感じているものの、市民へ伝えたい市政情報をわかりやすくするために、現在行っている改善を進めていく。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| 事業番号 | 008 | 事業名 | 広聴事業 | | 担当部課 | 市長公室情報課 | | | | |
|------------------------------|---|---|-------|------------|-------------|------------|------------|-----------|--|--|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | | | 会計区分 | 一般会計 | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | | 予算区分(款—項—目) | | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | | | 2-1-7 広報広聴費 | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | — | | | | | | | | |
| | 事業開始の背景、経緯等 | 幅広く市政に関する意見やアイデアを聞くことにより、より市民ニーズに沿った施策・事業を実施するため。 | | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 市民からの意見、提案等を聴くため「市政ご意見箱」及びアイデア提案「一平さんへひとこと！」を市内主要施設及び市ホームページに設けている。 | | | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市に関わる全ての人 | | | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市政に対する意見、提案等を集め、市政にフィードバックすることで、市民にとってより良いと感じられる行政サービスを実施する。 | | | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 広聴事務事業 | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | | |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 0 | 1,167 | 1,194 | 1,046 | 1,046 | | |
| | | | 決算 | 0 | 902 | 795 | 934 | | | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 8,849 | 9,552 | 12,511 | 12,501 | | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 8,849 | 10,454 | 13,306 | 13,435 | | | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | | |
| | A ご意見・提案 受付件数 | 件 | 目標 | 500 | 500 | 500 | 500 | 400 | | |
| | | | 実績 | 489 | 520 | 401 | 321 | | | |
| | B | | 目標 | | | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | | | |
| A | 市へ意見を言うことも住民の「まちづくり」への参加手段の一つととらえ、過去、ご意見及び提案をいただいた件数の実績を参考に数値目標を設定する。 | | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 他市町も同様に行っている。 | | | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 成果指標の目標に対して、平成29年度と比べ件数が減少する状況となっている。 | | | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) ご意見及び提案の方法については、電話や文書より、ホームページの市政ご意見箱を利用する件数が増加している。本市をとりまく環境(子育て世代が多い等)に見合った方法を模索し、検討している。 | | | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 広聴事業は、市政に対する意見、提案等を集め、市政にフィードバックする重要な役割を果たしており、多様な手段を用意する必要がある。今後も本市をとりまく環境に見合った方法を模索し、検討していく。 | | | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 本市の目指すまちづくりにつながるような御意見及び提案は、積極的にホームページに公開し、市民主体のまちづくりにつなげていく。 | | | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 市政に対する意見、提案等を行いやすくするとともに、市民主体のまちづくりにつながる取組に資するようにする。 | | | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・「市民主体のまちづくり」や行政改革指針に係る「横断的な事務の推進(連携改善)」に寄与するよう引き続き努めてください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 広聴事業 | | 担当部課 | 市長公室情報課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 広聴事務事業 | 予算区分 | 2-1-7 広報広聴費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | - | 終了(予定)年度 | - | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市に関わる全ての人に対して、ご意見「市政ご意見箱」及び提案「一平さんにひと言」を紙媒体と市ホームページ等にて受け付けている。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 意見及び提案を集約し、市長始め業務担当部署に引き継ぐことで、把握した市民ニーズを施策へ繋げる。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 0 0 | 1,167 902 | 1,194 795 | 1,046 934 | 1,046 |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) 広聴事務賃金 | | | | | | 934 千円 | |
| (2) | | | | | | 千円 | |
| (3) | | | | | | 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 市政ご意見箱 | 件 | 見込 | 500 | 500 | 500 | 500 | 400 |
| | | 実績 | 489 | 520 | 401 | 321 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| 広聴事業は、市政に対する意見、提案等を集め、市政にフィードバックする重要な役割を果たしており、ご意見を提出しやすい多用な手段を用意する必要がある。今後も本市をとりまく環境（子育て世代が多い等）に見合った方法を模索し、検討していく。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

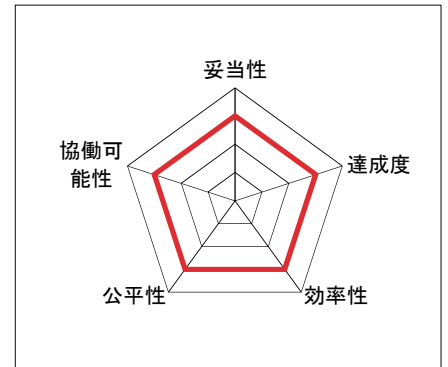
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| ご意見及び提案の方法については、電話や文書より、ホームページの市政ご意見箱を利用する件数が増加している。 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 1,046 千円 1,046 千円 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| 広聴としてのご意見と手続等の問合せについて仕分けを行い、対応に要する時間のスピードアップを図り、市民満足度の向上を目指した。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| ご意見として市長まで閲覧すると回答まで時間を要する市民満足度の向上に資するため、内容によっては、「ご意見」でなく「問合せ」として直ちに担当課に繋げた。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 500 | 500 | 500 | 400 |
| 実績 | 520 | 401 | 321 | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市政ご意見提出者数 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 市民が市に対してご意見を提出する際、担当部署がどこなのかを判断できない場合がある。その際は情報課が広聴窓口としてご意見者提出者に話を伺い、迅速的確に業務担当部署に繋いでいる。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| ご意見投稿手段及び処理の見える化等について、今後も本市をとりまく環境（子育て世代が多い等）に見合った方法を模索し、検討していく。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|--|---|---|--------|------------|------------|-------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 009 | 事業名 | 契約検査事業 | | | | 担当部課 | 総務部行政課 |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | | | | 会計区分 | 一般会計 | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | | | 予算区分(款—項—目) | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | | | | 2-1-1 一般管理費 | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 地方自治法、長久手市契約規則、長久手市契約事務要綱 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 契約事務の執行が、本市の契約規則及び契約事務要綱の規定に基づき適切に行われているか検査することにより、公正・透明な行政運営の確立を目指す。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) ・本市が契約を締結する建設工事、業務委託、物品等の競争入札あるいは契約手続に関する検査業務を行う。 ・あいち電子調達共同システムを活用し、電子入札事務手続を一元化して行う。 ・備品の管理業務を行う。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 職員、入札参加者 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 契約事務手続を公正かつ透明に実施していくために必要な規則等の解釈を全庁的に共有し、職員のスキルを向上させる。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 契約検査事業 | 改善・見直し | ④ | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 3,352 | 6,586 | 6,624 | 5,990 | 3,565 |
| | | | 決算 | 5,319 | 6,000 | 4,114 | 3,144 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 970 | 15,582 | 17,801 | 13,353 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 6,289 | 21,582 | 21,915 | 16,497 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 指名審査会等の審査案件数 | 件 | 目標 | 171 | 171 | 149 | 157 | 197 |
| | | | 実績 | 171 | 149 | 157 | 197 | |
| | B 電子入札件数 | 件 | 目標 | 165 | 182 | 154 | 170 | 215 |
| | | | 実績 | 182 | 154 | 170 | 215 | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) A 一般競争入札に係る入札参加資格及び指名競争入札に係る指名業者選定について、入札参加資格委員会及び入札参加者指名審査会に諮ることで、公平公正な契約事務を行うことができる。 B 工事・設計測量等業務、物品及び役務の提供等委託業務について、あいち共同調達システムによる電子入札を実施することにより、契約事務の公平性と透明性を確保できることに加え、事務の簡素化を図ることができる。 C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 予算執行から入札・契約事務、契約結果の公表から完了・支払までの一連の事務手続について、事務の効率化やシステム化が進んでいる。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) ほぼ全ての部署で契約事務が行われ、適正に入札業務を遂行している。(発注内容及び設計金額により、審査会での審議を要しない案件があるため、審査件数と電子入札件数は、一致しない) | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) ほぼ全ての部署で契約事務は行われているが、各部署にその手続が適正か判断できる職員がいない。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) ・国、県等の制度改正を市に取り入れることで、契約事務における適正さを高める。 ・職員が起案する契約事務文書を確認、指導することで、契約事務手続方法を職員に周知する。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成35年までに、契約関係書類の単純な間違いを、ほぼ0%まで減らす。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|-------------------------------------|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・事務の効率化などの面から契約の包括化に向けた取組を検討してください。 |
|------|-------------------------|-------------------------------------|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|----------|------|-------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 契約検査事業 | 担当部課 | 総務部行政課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① 契約検査事業 | 予算区分 | 2-1-1 一般管理費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | - | | 終了(予定)年度 | - |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・職員が行う契約事務について、地方自治法、長久手市契約規則、長久手市契約事務要綱等に基づき適切に執行されているかを確認している。 ・職員が行う契約事務のうち、一定額以上の競争入札について、電子入札事務を一元化して実施している。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市が行う契約事務の透明性・公平性を確立したい。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|---|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 事業費 | 千円 | 予算 | 3,352 | 6,586 | 6,624 | 5,990 | 3,565 |
| | | 決算 | 5,319 | 6,000 | 4,114 | 3,144 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> (1) あいち電子自治体推進協議会負担金 2,869 千円 (2) 公共建築工事積算単価データ利用料 227 千円 (3) 消耗品費 30 千円 | | | | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|---|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 指名審査会等の審査案件数 | 件 | 見込 | 171 | 171 | 149 | 157 | 197 |
| | | 実績 | 171 | 149 | 157 | 197 | |
| 電子入札件数 | 件 | 見込 | 165 | 182 | 154 | 170 | 215 |
| | | 実績 | 182 | 154 | 170 | 215 | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> ・指名競争入札の参加者の審査を172件、一般競争入札参加資格の審査を25件実施した。 ・あいち電子調達共同システムを活用した電子入札について、工事及び設計測量等業務委託を102件、物品及び役務の提供等委託業務を113件実施した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

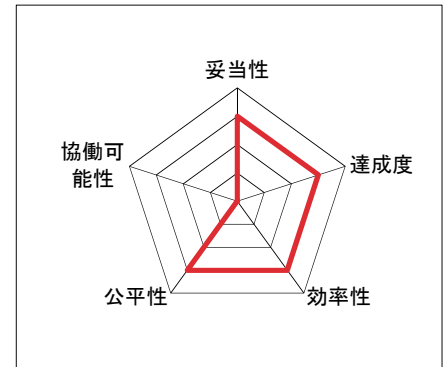
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 県下検査事務連絡協議会において、工事成績の採点基準を愛知県内で統一し、相互利用できるようならないか検討している。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|---|------------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 5,990 千円 | 3,565 千円 | △ 2,425 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | 工事や委託を定期的に発注している部署の職員は、契約事務の制度に対する理解度が高いが、年度当初にしか契約事務を行わない部署の職員や入庁して数年しか経過していない職員は、理解できていない事が多い。翌年度の制度改正の説明以外の時期に、希望者に対して説明会を開催することで、職員に対する周知を図る。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数 (人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 協働の状況 (30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
|------------------------|

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 工事や委託を定期的に発注している部署の職員は、契約事務の制度に対する理解度が高いが、年度当初にしか契約事務を行わない部署の職員や入庁して数年しか経過していない職員は、理解できていない事が多い。翌年度の制度改正の説明以外の時期に、希望者に対して説明会を開催することで、職員に対する周知を図る。 |
|---|

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | | |
|---|-----------------------|---|-------------------|-----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|--|
| 事業番号 | 010 - | 事業名 | 平和行政事業 | | | 担当部課 | 総務部行政課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | 会計区分 | 一般会計 | | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | | 予算区分(款 - 項 - 目) | | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | 2-1-1 一般管理費 | | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | - | | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 長久手市平和事業推進委員会設置要綱 | | | | | | |
| | 事業開始の背景、経緯等 | ・平成26年9月30日に非核平和都市宣言を行ったことをきっかけに、非核平和都市にふさわしい取組をすすめている。 ・平成28年5月31日に長久手市平和事業推進委員会を設置した。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) ・平和事業に尽力するための啓発、催事等を行う。 | | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) ・市民(市民の平和に対する意識) | | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) ・市民が主体となり、戦争の悲惨さや平和の尊さを次世代に伝承していけるように後方支援を行う。 | | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 平和行政事業 | 改善・見直し | ④ | | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) | |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 1,523 | 2,871 | 1,315 | 1,234 | 1,254 | |
| | | | 決算 | 1,408 | 2,777 | 1,178 | 1,086 | | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 5,041 | 3,743 | 3,866 | 1,431 | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 6,449 | 6,520 | 5,044 | 2,517 | | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) | |
| | A 原爆写真パネル展の観覧者数 | 人 | 目標 | 100 | 100 | 500 | 500 | 500 | |
| | | | 実績 | 100 | 564 | 570 | 453 | | |
| | B | | 目標 | | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | | |
| | C | | 実績 | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) A パネル展示の観覧者の増減から、市民の平和行政に関する関心度の高さが判断できる。 B C | | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・非核平和都市宣言をする市町村が増加している(県内では、平成30年6月に設楽町)。 | | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) ・目標を下回った。 | | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) ・過去から展示内容に大きな変更をしていないので、展示内容を再検討する必要がある。 | | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) ・戦争を経験した世代が高齢化しており、今後どのように戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継いでいくのか検討する必要がある。 | | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) ・若い世代も参加してもらえるような工夫を行う。 | | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 2021年(平和事業推進委員会設立から5年後)までに、若い世代にも参加してもらう。 | | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・戦没者追悼事業と平和行政事業の連携を進めてください。 ・広島体験学習の必要性について、検討してください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 平和行政事業 | | 担当部課 | 総務部行政課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 平和行政事業 | 予算区分 | 2-1-1 一般管理費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成27年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) <ul style="list-style-type: none"> 市民を対象 原爆写真パネル展、語り部による戦争体験を聴く集い及び中学生広島平和体験学習事業を年1回、終戦記念日前後に実施している。 横断幕による啓発を実施している。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) <ul style="list-style-type: none"> 戦争の悲惨さや平和の尊さを後世に語り継ぐことで、市民の平和に対する意識の醸成を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 1,523 | 2,871 | 1,315 | 1,234 | 1,254 |
| | | 決算 | 1,408 | 2,777 | 1,178 | 1,086 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 広島平和体験学習事業委託 | | | | | | 976 | 千円 |
| (2) 平和事業推進委員会報償金 | | | | | | 47 | 千円 |
| (3) 特別旅費 | | | | | | 26 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 語り部の参加者数 | 人 | 見込 | — | 80 | 80 | 100 | 100 |
| | | 実績 | — | 134 | 138 | 139 | |
| 原爆写真パネル展の観覧者数 | 人 | 見込 | 100 | 100 | 500 | 500 | 500 |
| | | 実績 | 100 | 564 | 570 | 453 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 平成30年8月11日、12日 語り部による戦争体験を聞く集い 平成30年8月7日～12日 原爆写真ポスター展 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

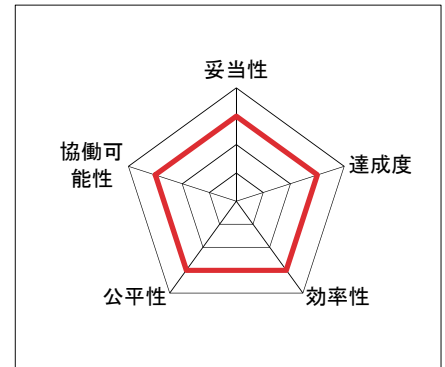
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| <ul style="list-style-type: none"> 非核平和都市宣言をきっかけに、市民の思いを尊重した事業の取組を推進していく。 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 1,234 千円 1,254 千円 20 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| <ul style="list-style-type: none"> 前年度【今後の方向性】 現状維持 前年度【コメント】 語り部が減っていくことが予想されるため、新たな語り部の募集を行う。 語り部が高齢化しているため、ビデオ撮影などでの継承を検討する。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| <ul style="list-style-type: none"> 語り部の募集を行い、2人の応募があった。 語り部による戦争体験を聞く集いの動画撮影を行い、フェイスブックにアップした。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | — | — | 10 |
| 実績 | — | — | 9 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 語り部として市民の方に参加いただいた。 語り部や平和事業推進委員が高齢化しており、協働で取り組むことが難しくなっている。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| <ul style="list-style-type: none"> 語り部として新たに2人の市民に参加していただいた。 戦争資料を市民の方から借りて展示した。 ポスター展の準備、片付けに市民の方に手伝っていただいた。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| <ul style="list-style-type: none"> 平和事業推進委員が高齢化しているため、新たな委員の募集を検討する。 語り部が高齢化しているため、戦争体験を語り継ぐ方法について検討する。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|--|--|---|------------------|-----------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 011 - | 事業名 | 行政改革推進事業(企画事務事業) | | 担当部課 | 総務部行政課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | 会計区分 | 一般会計 | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | | 予算区分(款 - 項 - 目) | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 市民から信頼される市政の運営 | 2-1-5 企画費 | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | - | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ ・長久手市行政改革指針 ・長久手市行政評価実施要領 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 効率的な行政運営を図りつつ、その減量化に努め、住民福祉の増進に資するため、昭和60年に第1次長久手町行政改革大綱を策定し、その後、第2次行政改革大綱を平成9年に策定し、第3次行政改革大綱を平成17年に策定し、行政改革指針を平成29年に策定し、平成31年に同指針を改訂した。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 効率的な行政運営の推進と質の高い行政サービスを提供するため、PDCAサイクルを機能させた事務改善の取組である行政改革指針に基づく行政評価を実施する。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) ・市が行っている施策、事業等 ・職員 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) ・行政改革の推進 ・職員の意識向上 ・行政評価によるPDCAサイクルを機能させた事務改善 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 行政改革推進事業 | 改善・見直し | ④ | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 2,740 | 1,043 | 1,292 | 1,292 | 1,292 |
| | | | 決算 | 2,694 | 783 | 1,008 | 1,140 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 4,430 | 7,944 | 7,088 | 6,200 | |
| | 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 7,124 | 8,727 | 8,096 | 7,340 | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 業務改善に関する意識 | % | 目標 | - | 80 | 90 | 90 | 90 |
| | | | 実績 | - | 90 | 97 | 97 | |
| | B 行政評価票の活用 | % | 目標 | - | - | 23 | 37 | 44 |
| | | | 実績 | - | - | 37 | 44 | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 行政改革の推進及びPDCAサイクルの活用を図ることから、業務改善に関する意識として、「意識している」の割合を成果指標とした。 | | | | | | | | |
| B 行政評価の予算編成、決算資料等へのさらなる活用を図ることから、行政評価票の活用に関して、「活用している」の割合を成果指標とした。 | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・平成27年8月28日付総務省通知「地方行政サービス改革の推進に関する留意事項」により、地方行政サービス改革へのますますの取組が求められている。 | | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) ・業務改善に関する意識は目標を達成した。 ・行政評価票の活用では、決算資料「主要事業の成果」との統合により推進が図られ、目標を達成した。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) ・平成29年3月に行政改革指針を策定し、平成31年4月に同指針を改訂し、行政改革の推進を図った。 ・行政評価では、平成28年度から評価票、対象事業の改善、平成29年度から施策評価を導入した。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) ・行政評価のシステムはある程度軌道に乗っているため、行政評価をより活用できる環境整備を継続して行うことが重要である。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) ・改訂した行政改革指針に基づき、業務改善に対する職員の意識向上を図り、また、行政評価をより活用できる環境を引き続き整え、行政改革を推進していく。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) ・総合計画や中期財政計画との連携を図り、行政改革を推進する。 ・改訂した行政改革指針に基づき、重点項目を中心にPDCAサイクルを機能させながら、行政改革を推進する。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------------|----------|----------|-----------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 行政改革推進事業(企画事務事業) | | 担当部課 | 総務部行政課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 行政改革推進事業 | 予算区分 | 2-1-5 企画費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和60年 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) <ul style="list-style-type: none"> 市が行っている施策、事業等並びに職員を対象 効率的な行政運営の推進と質の高い行政サービスを提供するため、PDCAサイクルを機能させた事務改善の取組である行政改革指針に基づく行政評価を実施する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) <ul style="list-style-type: none"> 行政改革の推進 職員の意識向上 行政評価によるPDCAサイクルを機能させた事務改善 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 2,740 | 1,043 | 1,292 | 1,292 | 1,292 |
| | | 決算 | 2,694 | 783 | 1,008 | 1,140 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 行政改革推進に関する助言指導委託 | | | | | | 680 | 千円 |
| (2) 行政改革推進委員会委員報酬 | | | | | | 453 | 千円 |
| (3) 食糧費 | | | | | | 7 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 職員研修の参加者数 | 人 | 見込 | — | 35 | 70 | 35 | 35 |
| | | 実績 | — | 49 | 82 | 53 | |
| 行政評価票の活用 | % | 見込 | — | — | 23 | 37 | 44 |
| | | 実績 | — | — | 37 | 44 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 職員研修については、管理職向けの行政改革推進に関する研修、一般職員向けの行政評価に関する研修を開催した。 行政評価は、事業評価(A票)・事務事業評価(B票)及び施策評価(S票)を実施した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

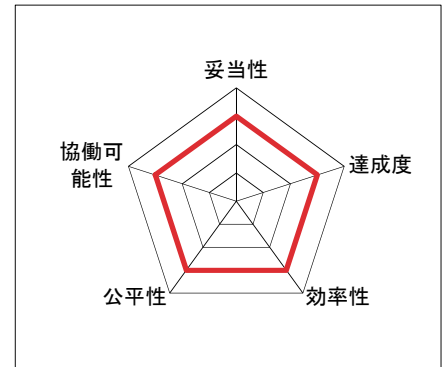
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成27年8月28日付総務省通知「地方行政サービス改革の推進に関する留意事項」により、地方行政サービス改革へのますますの取組が求められている。また、平成28年度から行政評価票、対象事業等を見直した |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 1,292 千円 1,292 千円 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| ・行政改革指針の取組をより効果的に進めていきたい。 |
| ・行政評価のシステムはある程度軌道に乗りつつあるため、行政評価をより活用できる環境整備を行っていきたい。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| ・行政改革指針を総合計画や中期財政計画との連携を図るため、改訂した。 |
| ・行政評価をより活用するため、決算資料「主要事業の成果」と統合した。 |
| ※内容面の拡充のため、予算は同額となります。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|------------------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | 27 | 18 | 16 | 31 |
| 実績 | 18 | 16 | 31 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 外部評価では、新たに9人の公募の外部評価委員を加え、評価を実施した。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| <ul style="list-style-type: none"> 外部評価の実施に関して、新たに外部評価委員を公募し、外部評価の実施数を増やし、多くの事業について、外部の方の意見を聞き、業務改善の推進に寄与できたと考える。 行政改革指針の改訂を行い、総合計画や中期財政計画との連携が図られ、行政改革の推進に係る土台ができたと考ええる。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| <ul style="list-style-type: none"> 行政改革指針を改訂したため、指針に基づく行政改革推進の取組として、特に重点項目について、優先順位をつけて取組みたい。 行政評価について、行政評価票の活用や外部評価の実施に関して課題があるため、継続した改善が重要と考える。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|--|---|---|-----------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 012 | 事業名 | 選挙啓発事業 | | 担当部課 | 総務部行政課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | 会計区分 | 一般会計 | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | 予算区分(款 一 項 一 目) | | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 市民から信頼される市政の運営 | 2-4-2 選挙啓発費 | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 公職選挙法 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 公職選挙法第6条の規定により、常時の啓発に努めることとされており、本市では昭和59年6月に明るい選挙推進協議会を選挙管理委員会の付属機関として設立し、現在まで選挙啓発を実施している。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 長久手市選挙管理委員会・明るい選挙推進協議会合同会議にて通常時及び選挙時の啓発活動について検討し、実施する。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) ・選挙に対する関心を高め、投票行動につなげる ・小学生の時期から選挙に関する意識の向上を図る | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 選挙啓発事業 | 拡充 | ④ | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 380 | 335 | 277 | 490 | 498 |
| | | | 決算 | 310 | 331 | 244 | 383 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 3,895 | 3,361 | 5,074 | 2,225 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 4,205 | 3,692 | 5,318 | 2,608 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 「選挙」に興味を持った割合 | % | 目標 | — | 80 | 90 | 95 | 95 |
| | | | 実績 | — | 94 | 99 | 98 | |
| | B ポスター応募者数 | 人 | 目標 | 55 | 55 | 55 | 55 | 60 |
| | | | 実績 | 65 | 69 | 59 | 68 | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 将来的な投票率の向上につなげるため、中学生を対象とした選挙出前トークで「選挙」に興味を持った生徒の割合を成果指標とした。 | | | | | | | | |
| B 選挙啓発における市民の関心度を測るため、小学生から高校生までを対象とした明るい選挙啓発ポスターの応募数を成果指標とした。 | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・近隣の実施市町: 瀬戸市、尾張旭市、日進市、豊明市、東郷町 ・投票率については、国政選挙や地方選挙において差がある。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 2つの成果指標とも目標数値を達成することができた。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) ・選挙出前トークでは、実際の選挙資材を使用し、模擬投票等を行っている。 ・選挙啓発ポスターの募集では、応募の少ない高校へ委員とともに協力依頼に行っている。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 選挙出前トークでは、大人数を対象とした説明となり、また、時間も限られるため細かな説明ができない。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 今後も市内中学校で選挙出前トークを開催し、多くの生徒に選挙に興味を持ってもらえるよう、分かりやすい説明を心がける。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成31年度には市内全ての中学校において選挙出前トークを開催し、生徒に選挙に対して興味をもってもらう。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 選挙啓発事業 | | 担当部課 | 総務部行政課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 選挙啓発事業 | 予算区分 | 2-4-2 選挙啓発費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和59年 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・市民を対象 ・各種選挙での投票率の向上を図るため期日前投票期間中の選挙啓発活動、明るい選挙啓発ポスター募集、選挙出前トーク等を実施する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) ・選挙に対する関心を高め、投票行動につなげる。 ・小学生の時期から選挙に関する意識の向上を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 380 310 | 335 331 | 277 244 | 490 383 | 498 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 消耗品費 | | | | | | 196 千円 | |
| (2) 明るい選挙推進協議会委員報償金 | | | | | | 132 千円 | |
| (3) 普通旅費 | | | | | | 27 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 選挙出前トーク参加生徒数 | 人 | 見込 | — | 400 | 400 | 400 | 400 |
| | | 実績 | 280 | 428 | 397 | 160 | |
| ポスター応募者数 | 人 | 見込 | 55 | 55 | 55 | 55 | 60 |
| | | 実績 | 65 | 69 | 59 | 68 | |

<備考：活動の概要(30年度(2018))>
 ・選挙出前トークをH30.10.31に北中で開催し、参加生徒数は、160人であった。
 ・夏休みの課題の一環として、選挙啓発ポスターの募集を行った。

4. 事務事業を取り巻く環境変化

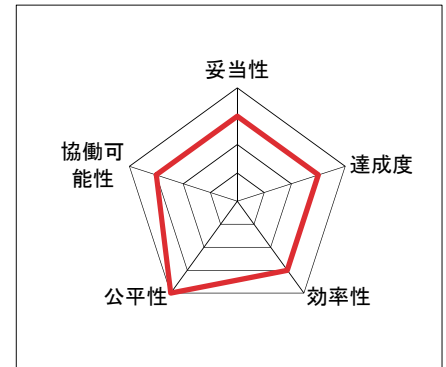
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・平成28年の公職選挙法の改正により、選挙権の年齢が満18歳以上となった。 ・平成28年度より中学校での選挙出前トークを市(明推協)で実施するようになった。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 490 千円 498 千円 8 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| ・選挙出前トークの市内全中学校での実施を目指し、校長会などで各中学校に依頼をしていく。 ・選挙出前トークをより分かりやすいものにしていき、今後有権者となる中学生に、興味を持ってもらえるようにする。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| ・中学生により興味を持ってもらうため、選挙出前トークの内容に、実際の開票状況などの映像を取り入れた。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | — | — | 20 |
| 実績 | 21 | 18 | 12 | |

(2) 協働の状況(30年度(2018))

| |
|--|
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) |
| ・選挙出前トークの設営や模擬投票の補助に、明るい選挙推進協議会委員と選挙管理委員とで協働して取り組んだ。 |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| ・平成30年度に本市明るい選挙推進協議会の選挙啓発の功績が認められ、公益財団法人明るい選挙推進協会から優良活動賞を受賞した。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| ・市内全中学校での選挙出前トークの実施を目指し、引き続き働きかけを行っていく。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| 事業番号 | 013 | 事業名 | ふるさと寄附金推進事業 | | 担当部課 | 総務部財政課 | | |
|--|-----------------------|--|-----------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | 会計区分 | 一般会計 | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | 予算区分(款 一 項 一 目) | | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 市民から信頼される市政の運営 | 2-1-2 財産管理費 | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | — | | | | | | |
| | 事業開始の背景、経緯等 | 平成20年度の税制改正に伴い、全国の自治体でふるさと寄附金の受入れが始まった。平成31年度から、返礼品の負担割合を3割程度の範囲内に抑えるなどの運用の厳格化が行われている。 | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) ふるさと納税の制度に則り、市の特定の事業に対して寄附を募る「①ふるさとづくり事業」と、市内の社会福祉法人で市と連携に関する協定を結ぶ団体の事業に対して寄附を募る「②ふるさと応援活動支援事業」により寄附を集める。(返礼品は①の寄付者のみ、②は集まった寄附の半分を団体に補助金として交付) | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市外在住の方 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市の独自財源の確保のみならず、長久手市の知名度を高め、本市を訪れていただくきっかけとする。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① ふるさと寄附金推進事業 | 拡充 | ④ | | | | |
| | ② | | ⑤ | | | | | |
| | ③ | | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 0 | 100 | 100 | 271 | 503 |
| | | | 決算 | 0 | 136 | 454 | 1,001 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 0 | 4,583 | 4,833 | 4,769 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 0 | 4,719 | 5,287 | 5,770 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 寄附金受入額 | 千円 | 目標 | 85 | 140 | 490 | 1,152 | 1,827 |
| | | | 実績 | 140 | 490 | 1,152 | 1,827 | |
| | B 寄附受入件数 | 件 | 目標 | 10 | 10 | 14 | 41 | 58 |
| | | | 実績 | 7 | 14 | 41 | 58 | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A ふるさと寄附金の受入額が最も分かりやすい指標であるため。目標については、前年度実績とした。 | | | | | | | | |
| B ふるさと寄附金の受入件数が最も分かりやすい指標であるため。目標については、前年度実績とした。 | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 自治体によって対応はまちまちであり、返礼品に力を入れている自治体ほど寄附金が多く集まっている状況であるが、総務省が規制により、返礼品競争から距離を置き、特定の事業に対し寄附を集める方式をとる自治体が増えている。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) これまでは、前年度決算額を目標に設定しており、平成25年度以降は目標を達成している。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 当初、返礼品は「小牧・長久手の戦い」劇画本のみであったが、平成27年10月から、「あぐりん村の新鮮野菜ボックス」を追加(現在、劇画本の贈呈は廃止)。平成30年度からは、①ふるさとづくり事業に加え、②ふるさと応援活動支援事業をスタートさせた。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 返礼品に頼らない寄附の呼びかけを行っていく必要がある。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 寄附金の返礼品競争に乗る考えは引き続きないが、平成31年度中に返礼品を見直し、寄附を募る。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) クラウドファンディングを導入していきたい。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | *返礼品の見直し、ガバメントクラウドファンディング等の財源確保の取組を検討してください。 *行政改革指針に係る「財政改革の推進」を踏まえ、クラウドファンディングの活用を検討してください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|-------------|-------------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | ふるさと寄附金推進事業 | | 担当部課 | 総務部財政課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | ふるさと寄附金推進事業 | 予算区分 | 2-1-2 財産管理費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成20年度 | 終了(予定)年度 | | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ふるさと納税の制度に則り、市の特定の事業に対して寄附を募る「①ふるさとづくり事業」と、市内の社会福祉法人で市と連携等に関する協定を結ぶ団体の事業に対して寄附を募る「②ふるさと応援活動支援事業」により寄附を集める。(返礼品は①の寄附者のみ、②は集まった寄附の半分を団体に補助金として交付) |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市の独自財源の確保のみならず、長久手市の知名度を高め、本市を訪れていただくきっかけとする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | - - | 100 136 | 100 454 | 271 1,001 | 503 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) ふるさと寄附金事業委託 | | | | | | 475 千円 | |
| (2) ふるさと応援活動支援事業補助金 | | | | | | 466 千円 | |
| (3) 手数料 | | | | | | 60 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 寄附金受入額 | 千円 | 見込 | 85 | 140 | 490 | 1,152 | 1,827 |
| | | 実績 | 140 | 490 | 1,152 | 1,827 | |
| 寄附金受入件数 | 件 | 見込 | 10 | 10 | 14 | 41 | 58 |
| | | 実績 | 7 | 14 | 41 | 58 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| ふるさとづくり事業：31件 895,000円 | | | | | | | |
| ふるさと応援活動支援事業：27件 932,000円 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

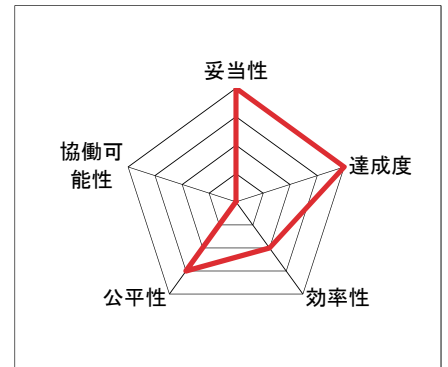
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 総務省の通達により、令和元年6月からふるさと納税の税制上の特例を受ける場合は、返礼品等の基準をクリアする必要がある。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 100 千円 271 千円 171 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| 平成29年度中に特定の事業に対し、寄附を呼びかける方法に切り替えるクラウドファンディングの要素を採り入れた方法を導入し来年度以降も引き続き続けていく。返礼品については、寄附金の返礼品競争に乗る考えはないが、市観光交流協会と協力し、新たな特産品づくりと結び付け、地域の振興につなげる。今後も寄附しやすい環境づくりや、魅力ある具体的な使い道をPRし、寄附を募る。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 平成30年度からは、①ふるさとづくり事業に加え、②ふるさと応援活動支援事業をスタートさせた。返礼品については、引き続き、市観光交流協会と協力し、魅力のある内容となるよう検討していく。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|-----------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 寄附者と市のみが関係者となるので、市民参加については評価できない。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| ふるさとづくり事業として、里山保全事業を掲げ、市の特定の事業について寄附募集を行った。また、ふるさと応援活動支援事業として、社会福祉法人シンシアの丘への寄附募集を行った。どちらも、目標金額を達成した。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 返礼品については、寄附金の返礼品競争に乗る考えはないが、市観光交流協会と協力し、魅力のある内容となるよう検討していく。ガバメントクラウドファンディングについて、導入に向け調査・研究を行っていく。 |

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 拡充 |
|----|

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| 事業番号 | 014 | 事業名 | 行政サービスコーナー管理事業 | 担当部課 | 総務部市民課 | | | |
|--|--|---|----------------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | 会計区分 | 一般会計 | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | 2-1-15 行政サービスコーナー管理費 | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | — | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 市民から住民票等が交付できる市役所出張所の要望があったため、平成12年11月1日にアピタ長久手店内に行政サービスコーナーを開所することとなった。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) ・ 市民課の出先機関としてアピタ長久手店1階に長久手市サービスコーナー(Nピア)を設置 ・ 住民票等各種証明書の交付、市発行の書籍等の販売、文化の家のチケット等の販売、市等の行事のパンフレット等の配布及び情報提供。毎日(年末年始及びアピタ定休日を除く)午前10時から午後7時まで開設。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 仕事などで市役所の開庁時間に来庁できない市民等の利便性の向上を図る。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 行政サービスコーナー管理事業 | 改善・見直し | ④ | | | | |
| | ② | | ⑤ | | | | | |
| | ③ | | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 9,688 | 9,897 | 8,656 | 8,759 | 8,666 |
| | | | 決算 | 9,156 | 10,139 | 8,154 | 8,191 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 12,794 | 12,959 | 13,488 | 11,996 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 21,950 | 23,098 | 21,642 | 20,187 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 証明交付件数+書籍・チケット販売件数 | 件 | 目標 | 17,200 | 16,100 | 15,500 | 14,700 | 15,090 |
| | | | 実績 | 16,150 | 15,338 | 14,434 | 14,812 | |
| | B 市役所閉庁時間の証明交付割合 | % | 目標 | — | 12.0 | 12.0 | 12.0 | 12.9 |
| | | | 実績 | 12.0 | 12.0 | 12.5 | 12.9 | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) A 人口が増加していることにより申請件数の増加が見込まれる。前年度実績×平均伸び率11%(地番変更証明を除く)。平成29年度からは、前年度実績×人口伸び率(地番変更証明を除く。) B 市役所、コンビニ交付サービス、Nピア及び文化の家の証明書等交付件数の内、Nピアでの市役所閉庁時の交付件数の割合。 C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 出張所: 瀬戸市、豊田市、みよし市、豊明市、春日井市 コンビニ交付実施: 瀬戸市、尾張旭市、豊田市、みよし市 文化の家でも同様に住民票等の各種証明書を発行している。(平成30年度実績1,382件、内閉庁時773件) | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) コストダウンを努力してきた結果、3年前と比較し、約100万円の減額を達成している。また、市役所閉庁時の実績は全体の約13%と高い割合で推移している。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 平成29年度からコンビニ交付サービス事業を開始したが、市役所閉庁時の実績割合が高い現状を踏まえると、まだサービスコーナーの需要は高いと考えている。(コンビニ交付証明書発行件数1,097件) | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) コンビニ交付サービス事業が開始したものの、サービスコーナーの需要は減っていない。、コンビニ交付件数・サービスコーナーの利用状況・マイナンバーカード発行状況を注視しながら、今後のサービスコーナーのあり方について検討していく。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 平成29年4月5日から住民票等のコンビニ交付サービス事業が始まり、サービスコーナー事業と重複する部分はあるが、マイナンバーカードの普及率が低いこと、また市民の方の中には、直接相談ができるNピアの利用を考えている方もいるため、業務を整理する必要があると考える。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) サービスコーナーがアピタ長久手店の2階から1階に移転し、利用しやすくなったため、今まで以上に利用していただきたい。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・コンビニ交付が導入されたため、文化の家での証明書発行について、引き上げも検討してください。 ・コンビニ交付の導入を踏まえ、Nピア及び文化の家での住民票等の交付について、統合、再編を検討してください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------------|----------------|----------|----------------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 行政サービスコーナー管理事業 | | 担当部課 | 総務部市民課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 行政サービスコーナー管理事業 | 予算区分 | 2-1-15 行政サービスコーナー管理費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成12年度（2000年度） | 終了（予定）年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | <p>（誰、何に対し、何をどのように実施しているのか）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内外の市民等に、住民票、戸籍謄抄本等各種証明書の交付 ・市発行の書籍等の販売、文化の家のチケット等の販売及び市等の行事のパンフレット等配布、情報提供 ・毎日（年末年始及びアピタ定休日を除く）午前10時から午後7時までと市役所の閉庁時間も開設し、市役所開庁時間に来庁できない市民等が利用している。 |
| 意図 | <p>（対象をどのような状態にしたいか）</p> <p>仕事、所用等で閉庁時間に来庁できない市民等の利便性の向上を図る。</p> |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 9,688 | 9,897 | 8,656 | 8,759 | 8,666 |
| | | 決算 | 9,156 | 10,139 | 8,154 | 8,191 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | 一般事務嘱託員報酬 | | | | 3,763 | 千円 |
| (2) | | サービスコーナー管理事務賃金 | | | | 3,167 | 千円 |
| (3) | | サービスコーナー借上料 | | | | 996 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|----------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 証明交付件数+書籍・チケット販売件数 | 件 | 見込 | 17,200 | 16,100 | 15,500 | 14,700 | 15,090 |
| | | 実績 | 16,150 | 15,338 | 14,434 | 14,812 | |
| 市役所閉庁時間の証明交付割合 | % | 見込 | — | 12.0 | 12.0 | 12.0 | 12.9 |
| | | 実績 | 12.0 | 12.0 | 12.5 | 12.9 | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| 各種証明書の発行、文化の家チケット及び市刊行物の販売 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

（制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など）

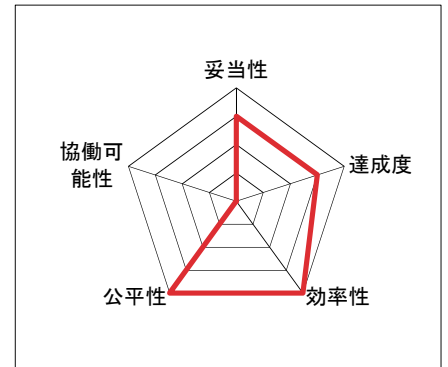
平成29年度からコンビニ交付サービス事業を開始したことにより、今後サービスコーナーの各種証明書発行部数に影響を与える可能性がある。（コンビニ交付割合（H30年度）：1.8%）

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|------------|---------|
| (1) 財政状況 | | |
| （前年度【予算額】） | （今年度【予算額】） | （増減額） |
| 8,759 千円 | 8,666 千円 | △ 93 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| 証明書のコンビニ交付サービス事業を開始し、サービスコーナー事業と重複する部分があるが、マイナンバーカードの普及率が約12%と低いこと、また市民の中には、直接相談ができるNピアの方が利用しやすいと考える方もいるため、当分は現状の業務を継続していく必要がある。また、本業務ではないが、同種サービスを行っている文化の家の交付業務についても、利用実態を把握し、業務の継続を検討する必要があると考える。 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| （何をどのような状態に改善したのか） | | |
| 来場者に対し、適切なサービスを提供できるようにするため、従事者に対し、個人情報の取り扱いについて再度周知し、認識を徹底した。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数（人）

| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|----|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |

(2) 協働の状況（30年度(2018)）

（協働で取り組んだこと、評価できない理由など）

住民票・戸籍及び印鑑登録証明の交付に際し、対応者に専門性が必要な業務であるため、市民参加は困難である。

【活動エピソード】

（活動のエピソード、コメント、特記事項など）

- ・市役所閉庁時間に証明書等の交付ができる。（土日祝日を含む。）
- ・大型ショッピングセンター内にサービスコーナーがあるため、駐車場が豊富にあり、リノモ秋ヶ池公園駅とも直結している立地であるため、アクセスしやすく、また、買い物のついでに利用できるため利便性に定評がある。

【改善ポイント】

（改善が必要なこと、改善の方法など）

証明書のコンビニ交付サービス事業を開始し、サービスコーナー事業と重複する部分があるが、マイナンバーカードの普及率が約14%であり、また市民の中には、直接相談ができるNピアの方が利用しやすいと考える方もいるため、当分は現状の業務を継続していく必要がある。その際、住民票や戸籍・印鑑証明についてはもちろんのこと、市に関する幅広い問い合わせに対応できるよう、従事者の専門性及び接客技術の向上を図ることができるよう検討する。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|-------------|--|-----------------------------|---|-----------------|--------|
| 事業番号 | 015 | 事業名 | 戸籍住民基本台帳整備事業 | 担当部課 | 総務部市民課 |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | | 予算区分(款 一 項 一 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | | 2-3-1 戸籍住民基本台帳費 | |
| | 法定受託事務の有無 | ✓ | (戸籍事務) | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 住民基本台帳法、行政手続における特定個人を識別するための番号の利用等に関する法律等 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 市民サービスの一環として、全国のコンビニエンスストア等で住民票の写し等各種証明書を交付することとなった。 | | | | |

| | | | | | | |
|-------|-----------------|---|--------|---|--|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) ・マイナンバーカードを所持している方で、長久手市に住民登録がある方は住民票及び印鑑証明書、長久手市に本籍がある方(長久手市に住民登録がない方も含む)は戸籍謄抄本及び戸籍の附票を全国のコンビニエンスストア等で取得可能 | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 長久手市に住民登録又は本籍があり、マイナンバーカードを保有する方。 | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 仕事や遠隔地に居住している等市役所の開庁時間に来庁できない市民等の利便性の向上を図る。 | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 戸籍住民基本台帳整備事業 | 改善・見直し | ④ | | |
| | ② | | | ⑤ | | |
| | ③ | | | ⑥ | | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | — | 80,493 | 44,181 | 43,461 |
| 決算 | | | | — | 79,367 | 41,683 | 48,705 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | — | 45,101 | 44,993 | 43,557 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | — | 124,468 | 86,676 | 92,262 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------|-------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 交付枚数 | 枚 | 目標 | — | — | — | 533 | 1,097 |
| | | | 実績 | — | — | 533 | 1,097 | |
| | B 市外証明書交付割合 | % | 目標 | — | — | — | 45.7 | 39.2 |
| 実績 | | | — | — | 45.7 | 39.2 | | |
| C 市役所閉庁時間の各種証明書交付割合 | % | 目標 | — | — | — | 35.4 | 53.9 | |
| | | 実績 | — | — | 35.4 | 53.9 | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A コンビニ交付を利用した証明書の交付件数。

B 市外で利用されたコンビニ交付の証明書交付割合。

C 市役所閉庁時間出利用されたコンビニ交付の証明書交付割合。

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) コンビニ交付サービス提供市区町村:617市区町村(2019年4月6日現在) 愛知県:瀬戸市、尾張旭市、みよし市他21団体 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|---|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 交付枚数は前年度実績を大幅に上回ったが、市外証明書交付割合は下回っている。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 29年度から開始し、交付枚数としては前年度比2倍程度の利用があった。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) マイナンバーカードを有することが前提の事業であるため、当該事業の周知だけではなく、マイナンバーカードの普及が必須である。 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 引き続き当該事業及びマイナンバーカードの取得についての周知啓発を実施する。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 当該事業による交付状況が、市役所・Nピア・文化の家の交付状況に影響を与えるようになった場合、既存の交付方法について検討しなければならないと考えるが、現状ではそこまでの影響がないため、現状維持とする。 |

| | | |
|------|-------------------------|----------------------------------|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・マイナンバーカードの普及について、引き続き取り組んでください。 |
|------|-------------------------|----------------------------------|

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|--------------|--------------|----------|-----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 戸籍住民基本台帳整備事業 | | 担当部課 | 総務部市民課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 戸籍住民基本台帳整備事業 | 予算区分 | 2-3-1 戸籍住民基本台帳費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成29年度(2017) | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・マイナンバーカードを所持している方で、以下の条件に当てはまる場合、全国のコンビニエンスストア等で各帳票取得可能。 ・長久手市に住民登録がある方…住民票及び印鑑証明書取得可能 ・長久手市に本籍がある方(長久手市に住民登録がない方も含む)…戸籍謄抄本及び戸籍の附票取得可能 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 仕事や遠隔地に居住している等市役所の開庁日に来庁できない方の利便性の向上を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|-------------|------------|------------------|------------------|------------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | — — | 80,493 79,367 | 44,181 41,683 | 43,461 48,705 | 41,474 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | システム改修業務委託 | | | | 9,482 | 千円 |
| (2) | | 住民基本台帳事務賃金 | | | | 8,486 | 千円 |
| (3) | | 戸籍総合システム賃借料 | | | | 7,991 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|----|----------|------------|------------|------------|--------------|-----------|
| 市外証明書交付割合 | % | 見込 実績 | — — | — — | — 45.7 | 45.7 39.2 | 39.2 |
| 市役所開庁時間の各種証明書交付割合 | % | 見込 実績 | — — | — — | — 35.4 | 35.4 53.9 | 53.9 |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 平成29年度から全国のコンビニエンスストア等で住民票等各種証明書の発行を実施している。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

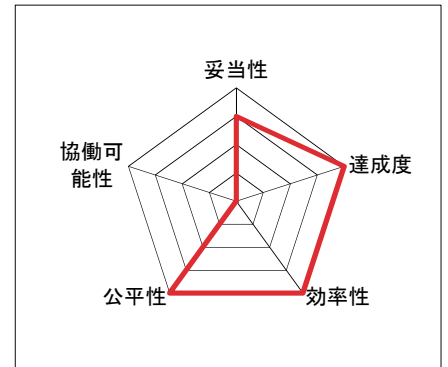
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) マイナンバーカードを利用したコンビニ交付を可能とする自治体が増加している。(全国617団体・県内21団体) マイナンバーカード普及率：約14% 利用可能店舗数：約54,000店舗 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 43,461 千円 41,474 千円 △ 1,987 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| マイナンバーカードの普及率がまだ低いため、更なる普及促進していくことが必要である。また、同様の証明書発行業務を行っているNピア、文化の家の利用実績を比較し、今後の方向性を検討する。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| マイナンバーカード普及のため月1回の日曜窓口を継続して開設している |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| コンビニにて申請者が機械を操作して実施するものであるため、市民参加の余地がない。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| マイナンバーカードを所持していれば、全国のコンビニエンスストア等で午前6時30分から午後11時まで住民票等各種証明書を取得することができる。遠隔地の方も戸籍謄抄本等をすぐに取得することができ、利便性が向上した。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| マイナンバーカード普及促進の一環のような形で国が進めている事業であるため、事業実施手法についてすべて定められており、自治体側において当該事業そのものの改善の余地はない。それを踏まえうえて、当該事業についての周知啓発及びマイナンバーカード普及促進を実施するほかないと考えている。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-------|-----|--------|------|---------------|
| 事業番号 | 016 - | 事業名 | 地域振興事業 | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 |
|------|-------|-----|--------|------|---------------|

| | | | | |
|-------------|---|--|-----------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 「やってみたい」でつながるまち | 2-1-8 地域振興費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 「長久手市まちづくり事業交付金交付要綱」、「長久手市コミュニティ活動事業費補助金交付要綱」、「長久手市市民活動災害補償制度」、「地域集会所改修、修繕費等補助金交付要綱」 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 少子高齢社会、人口減少社会を迎えるに当たり、地域住民自らが、地域の将来を考え、地域が一体となって、地域コミュニティの活性化を図り、地域課題の解決に取り組むことが必要である。そのための活動の支援などの事業を行う。 | | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|---|----|---|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 地域コミュニティの活性化や地域課題の解決のための活動に対する支援、それらの活動が安心してできるような環境の整備 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 地域コミュニティの活性化や地域課題の解決のために活動している個人・団体 | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 地域住民自らが、地域の将来を考え、地域が一体となって、地域コミュニティの活性化を図り、地域課題の解決に取り組める状態 | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 地域振興事業 | 拡充 | ④ | |
| | ② 集会所改修修繕事業 | 改善・見直し | ⑤ | | |
| | ③ | | ⑥ | | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | 千円 | 決算 | 予算 | 32,294 | 30,083 | 25,176 | 32,578 |
| 決算 | | | | 23,108 | 20,299 | 20,997 | 23,354 | |
| 人件費(B) | 千円 | 決算 | - | 14,315 | 15,086 | 16,351 | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | - | 34,614 | 36,083 | 39,705 | | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------|----------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A まちづくり協議会の設立数 | 件 | 目標 | - | - | 2 | 2 | 2 |
| | | | 実績 | - | - | 1 | 2 | |
| | B 自治会加入率 | % | 目標 | 56 | 55 | 55 | 55 | 55 |
| 実績 | | | 55 | 54 | 55 | 54 | | |
| C | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A まちづくり協議会とは、小学校区単位で、地域の課題を解決するために組織された団体である。現在は、まちづくり協議会の設立に向けて、小学校区ごとで話し合いを進めている状況であり、まちづくり協議会の設立を通じて、地域コミュニティの活性化等を図るため、設立数を評価指標とする。

B 地域コミュニティの活動を行う団体である自治会の加入率は、地域コミュニティの状況を図るのに重要な指標の一つである。自治会加入率が低迷している中、低下に歯止めがかかるように事業を進める。

C

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) (まちづくり協議会) 瀬戸市にまちづくり協議会に類似した地域力推進協議会が16地区にある。 (自治会加入率 H26年度) 瀬戸市77.9%、尾張旭市65.2%、日進市75.0%、東郷町74.0%長久手市55.3% |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|---|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 地域コミュニティの活性化や地域課題の解決のための活動に対する支援、それらの活動が安心してできるような環境の整備は、ある一定の成果は出ている。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) まちづくり協議会設立に向けて、全6小学校区中、2小学校区でまちづくり協議会が設立、1小学校区で準備会が設立した。また、市民活動災害補償制度を設け、市民が安心して活動できる環境整備を図った。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) まちづくり協議会が設立した地域では地域課題の解決に対する活動が実施され、一定の成果は出ているが、設立準備、設立、設立後の運営に市民との協議を繰り返し、膨大な時間が必要である。 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) まちづくり協議会の設立などを通じて、地域住民自らが、地域コミュニティの活性化を図り、地域課題の解決に取り組める状態となるよう進めていく。また、市民が安心して市民活動できる環境の整備を継続していく。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) まちづくり協議会の設立などを通じて、地域住民自らが、地域コミュニティの活性化を図り、地域課題の解決に取り組める状態となるように、まちづくり協議会やまちづくり協議会準備会、集会所を管理する自治会等と協議を進めていく。 |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・子供会への補助金、シニアクラブへの補助金等の地域に係る補助金を一括交付する方法を検討してください。 ・行政改革指針に係る「協働事業の拡大」、「市民参加の仕組みづくり」を踏まえ、引き続き事業に取り組んでください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|----------|--------|---------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 地域振興事業 | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① 地域振興事業 | 予算区分 | 2-1-8 地域振興費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成24年度 | | 終了(予定)年度 | — |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 地域コミュニティの活性化や地域課題の解決のために活動している個人・団体に対して、それらの活動の支援や環境整備を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 地域住民自らが、地域の将来を考え、地域が一体となって、地域コミュニティの活性化を図り、地域課題の解決に取り組める状態にしていく。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|---------------------------|----|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 事業費 | 千円 | 予算 | 25,812 | 27,083 | 24,176 | 29,128 | 25,499 |
| | | 決算 | 16,886 | 19,605 | 20,022 | 20,206 | |
| ＜備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| (1) | | コミュニティ活動事業費補助金 | | | | 9,779 | 千円 |
| (2) | | まちづくり事業交付金 | | | | 5,566 | 千円 |
| (3) | | 損害保険料 | | | | 990 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|----------------------------|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| まちづくり協議会設立数 | 件 | 見込 | — | — | 2 | 2 | 2 |
| | | 実績 | — | — | 1 | 2 | 2 |
| 自治会加入率 | % | 見込 | 56.00 | 55.00 | 55.00 | 55.00 | 55.00 |
| | | 実績 | 55.48 | 53.83 | 54.90 | 53.85 | |
| ＜備考：活動の概要（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| 平成30年11月 市が洞小学校区まちづくり協議会設立 | | | | | | | |
| 平成31年3月 自治会数109 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

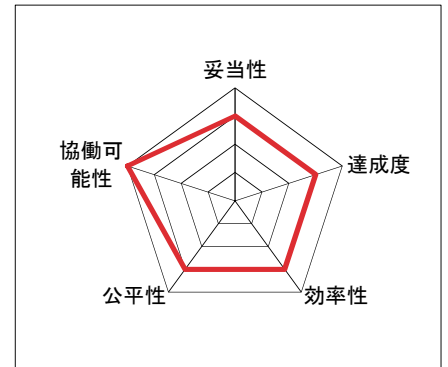
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 長久手市の人口は、流入流出が多い状況にあるため、市民の地域コミュニティへの興味関心が低い状況にある。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|--|------------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 29,128 千円 | 25,499 千円 | △ 3,629 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 拡充 | |
| ・前年度【コメント】 | 今後も、地域コミュニティの活性化を図り、地域課題の解決に取り組めように、地域の方々との連携を、より綿密にしながら、事業を進めていく。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 市が洞小学校区まちづくり協議会が、平成30年11月に設立するなど、地域課題の解決に取り組める状態を目指し、事業が進んでいる。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 4 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|------------------|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | 500 | 600 | 700 | 800 |
| 実績 | 550 | 774 | 810 | |

| |
|--|
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) まちづくり協議会設立に向けて地域住民と協議を重ね、地域住民自らが、地域の将来について考えている。設立後も地域の課題解決に向けた取り組みを進めている。 |
|--|

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 市が洞小学校区では、まちづくり協議会が、平成30年11月に設立し、地域課題解決への取り組みを進めている。北小学校区では、まちづくり協議会設立準備会が、平成30年7月に設立し、どのような組織にしていくか等について、話し合いを進めている。 |
|---|

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) ・地域住民自らが、地域の将来を考え、地域コミュニティの活性化を図り、地域課題の解決に取り組めるよう、より多くの市民にまちづくり協議会の活動に関わってもらえるよう周知が必要である。 |
|---|

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|-----------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 地域振興事業 | | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 集会所改修修繕事業 | 予算区分 | 2-1-8 地域振興費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成13年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 区、自治会等が行う集会所（集会所30か所、公民館5件）の改修、修繕 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 地域住民のコミュニティ活動の推進を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 6,482 | 3,000 | 1,000 | 3,450 | 2,754 |
| | | 決算 | 6,222 | 694 | 975 | 3,148 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | 集会所修繕補助金 | | | | 2,982 | 千円 |
| (2) | | 修繕料 | | | | 166 | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 修繕件数 | 件 | 見込 | — | — | — | 9 | 3 |
| | | 実績 | 14 | 8 | 6 | 9 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| ○修繕 パークサイドヒルズ漏水工事30,780円、久保山雨戸設置工事35,640円、長配菖蒲池屋根笠木修繕工事99,360円 | | | | | | | |
| ○補助 城屋敷照明器具交換工事111,000円、蟹原床取替工事1,060,000円、大草中外壁塗装工事1,380,000円、大草中エアコン取替工事206,000円、長配菖蒲池エアコン修理工事35,000円、長八エアコン設置工事190,000円 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

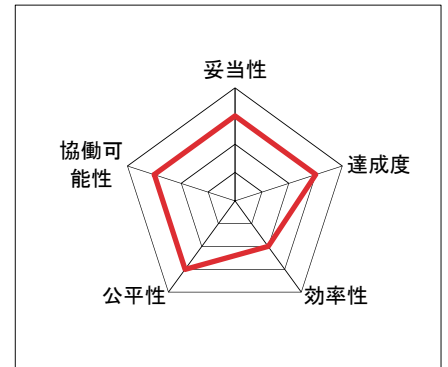
| |
|--------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 施設の経年劣化により、修繕工事が多くなっている。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---|--|----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 3,450 千円 | 2,754 千円 | △ 696 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 改善・見直し | |
| ・前年度【コメント】 | 今後も集会所の修繕及び修繕の支援を行っていく。また、各施設管理者に修繕計画を作成してもらい、計画的に修繕が行えるよう改善・見直しをしていく。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 集会所の修繕計画の作成に向けて、管理している自治会等に修繕要望の調査を行った。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 地域集会所の管理は、自治会等が行っており、集会所の利用実績等は把握していないため、市民参加に関しては評価できない。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 集会所修繕補助金について周知方法を見直した結果、市政協力員会議等で補助金の問合せが複数あり、活用件数が増加した。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| ・今後も集会所の修繕及び修繕の支援を行っていく。また、各集会所管理者に集会所の改修の必要性を聞き取り、計画的に修繕が行えるよう修繕計画書を作成する等の改善・見直しをしていく。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-------|-----|-----------|------|---------------|
| 事業番号 | 017 - | 事業名 | まちづくり協働事業 | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 |
|------|-------|-----|-----------|------|---------------|

| | | | | |
|-------------|--|--|-----------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 「やってみたい」でつながるまち | 2-1-9 まちづくり協働費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 「長久手市地域協働計画」、「長久手市協働まちづくり活動助成金交付要綱」、「長久手市NPO法人設立支援助成金交付要綱」 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 少子高齢社会、人口減少社会を迎えるに当たり、住民と行政が連携し、互いに良きパートナーとして補いあい、協力しあってまちづくりを進めていくことが必要であるため、事業を行う。 | | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|---|--------|---|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) まちづくりに市民が参加し、対話を深め、協働を進めていくための施策・事業や仕組みをつくり、市民が持つ知恵や活力をまちづくりに生かしていく事業 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民、地縁型活動団体、テーマ型活動団体、事業者 | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民等が、まちづくりに参加し、対話を深め、協働を進めていくための施策・事業や仕組みをつくり、市民等が持つ知恵や活力をまちづくりに生かしていく状態 | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① まちづくり協働事務事業 | 改善・見直し | ④ | |
| | ② 協働まちづくり活動助成事業 | 改善・見直し | ⑤ | | |
| | ③ | | ⑥ | | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------|-------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | | | | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 2,260 | 3,057 |
| | | | 決算 | 1,657 | 2,358 | 1,907 | 1,658 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | | 8,780 | 9,655 | 7,551 | |
| | 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | | 11,138 | 11,562 | 9,209 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------------------|------|----|----|------------------|------------|------------|------------|-----------|
| | | | | A 協働まちづくり活動助成団体数 | 団体 | 目標 | 10 | 10 |
| | | | 実績 | 13 | 13 | 13 | 8 | |
| B NPO法人設立助成支援団体数 | 団体 | 目標 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | | 実績 | 1 | 0 | 0 | 1 | |
| C | | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 「市民主体のまちづくり」を目指す過程において必要となる、団体と市の協働事業を行うことを目的とした助成金の交付決定団体数とすることで、「市民主体のまちづくり」を推進する。

B 次世代のまちづくりを担う新たなNPO法人が、地域で継続して活動ができるように、運営基盤を固めていくための助成金の交付決定団体数とすることで、「市民主体のまちづくり」を推進する。

C

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 瀬戸市「まちの課題解決活動応援プログラム」、尾張旭市「市民活動促進助成金」、日進市「市民自治活動推進補助金」、東郷町「協働によるまちづくり提案事業」、豊明市「市民提案型まちづくり事業」など他市町でも、市民活動への助成制度を実施している。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 助成金の交付決定団体が、8団体程度あり、目標は概ね達成している。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 協働まちづくり活動助成金を活用していた市民団体である「ういういの会」や「里山クラブ」は、現在、市から事業を委託しており、事業の協働化が進んだ。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 助成金の交付決定団体数に対して、事業の協働化に至った件数が、多くはないため、協働による取り組みをより一層増加させていく必要がある。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 平成31、32年度において、地域協働計画の改定を予定しており、その中で、市民等が協働を進めていくための施策・事業や仕組みをつくっていく予定である。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成32年度までに地域協働計画の改定を行い、市民等が、まちづくりに参加し、対話を深め、協働を進めていくための施策・事業や仕組みをつくり、市民等が持つ知恵や活力をまちづくりに生かしていく状態を目指していく。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・補助事業として、期限と達成レベルの設定を検討してください。(いつまで補助事業を続けるのか？(有期限であること。) 何がどうなったら、成し遂げるのか？) |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|-----------|-------------|----------|----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | まちづくり協働事業 | | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | まちづくり協働事務事業 | 予算区分 | 2-1-9 まちづくり協働費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成28年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) まちづくりに市民等が参加し、対話を深め、協働を進めていくための施策・事業や仕組みをつくり、市民が持つ知恵や活力をまちづくりに生かしていく事業 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民等が、まちづくりに参加し、対話を深め、協働を進めていくための施策・事業や仕組みをつくり、市民等が持つ知恵や活力をまちづくりに生かしていく状態 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|--------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | — — | 872 943 | 955 544 | 1,122 423 | 4,914 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 地域活性化センター負担金 | | | | 140 | 千円 |
| (2) | | まちセンカフェ運営委託 | | | | 100 | 千円 |
| (3) | | 市民活動支援相談員報酬金 | | | | 60 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|-------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| まちセンカフェ参加者 | 人 | 見込 | 120 | 150 | 180 | 210 | 240 |
| | | 実績 | 121 | 162 | 190 | 209 | |
| 地域づくり講演会参加者 | 人 | 見込 | 50 | 50 | 30 | 30 | 30 |
| | | 実績 | 45 | 78 | 18 | 34 | |

<備考：活動の概要(30年度(2018))>
 まちセンカフェ：カフェのように落ち着いた雰囲気の中で気軽に出会い、交流するイベント(全10回、第3土曜日午前10時から)
 地域づくり講演会：本市で積極的に地域づくりに取り組んでいる事例の講演会(平成31年2月9日実施)

4. 事務事業を取り巻く環境変化

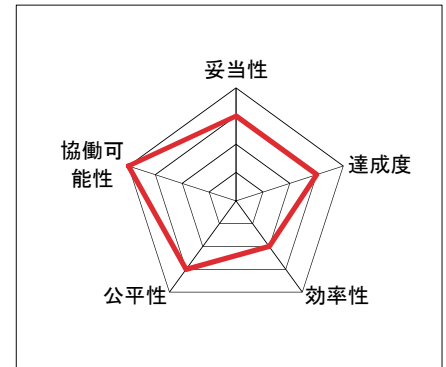
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
 まちセンカフェは、平成21年度から実施している事業であり、一定の効果があるものの、参加者も固定化されてきている傾向がある。

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|------------|----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 1,122 千円 | 4,914 千円 | 3,792 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | ※新規行政評価対象 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| ※新規行政評価対象 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| — | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 4 |



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)

| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|----|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 見込 | 200 | 210 | 240 | 270 |
| 実績 | 240 | 208 | 243 | |

(2) 協働の状況(30年度(2018))

(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)
 「まちセンカフェ」については、平成28年度より、市民団体「ういういの会」に事業を委託し、市民主体で企画・運営を担ってもらっている。

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
 地域づくり講演会は、平成28年度までは市外の著名な地域づくり実践者の講演会を実施していたが、市民活動をより身近に感じ、参加していただくために、講師の見直しを検討し、平成29年度から、市内の地域づくり活動実践者による講演会に変更している。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
 まちセンカフェにおける交流機能の強化を図っていくため、まちづくりセンター登録団体の交流会を追加で実施していく。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|-----------|---------------|----------|----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | まちづくり協働事業 | | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 協働まちづくり活動助成事業 | 予算区分 | 2-1-9 まちづくり協働費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成21年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民活動団体が、身近な地域の課題を解決するために、独自の視点で自主的に取り組む事業の活動経費を予算内で助成する。事業の相乗効果を生み出すために、団体と市が協働で取り組んでいる。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民等が、まちづくりに参加し、対話を深め、協働を進めていくための施策・事業や仕組みをつくり、市民等が持つ知恵や活力をまちづくりに生かしていく状態 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|---------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 2,260 | 2,185 | 1,885 | 1,884 | 1,916 |
| | | 決算 | 1,657 | 1,415 | 1,363 | 1,235 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 協働まちづくり活動助成金 | | | | 841 | 千円 |
| (2) | | NPO法人設立支援助成金 | | | | 297 | 千円 |
| (3) | | 協働まちづくり活動助成金審査委員報償金 | | | | 80 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 協働まちづくり助成団体数 | 団体 | 見込 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| | | 実績 | 13 | 13 | 10 | 8 | |
| NPO助成団体数 | 団体 | 見込 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | | 実績 | 1 | 0 | 0 | 1 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 助成団体名：あいち手作り甲冑サポート塾、長久手まちづくりおかあさんの会、よろまいか！愛・地クリーン作戦実行委員会、長久手いのちの学校、子育てサロン「メープル」、がんこおやじの会、ういういの会、まざってエコ、NPO法人コモンガーデン | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

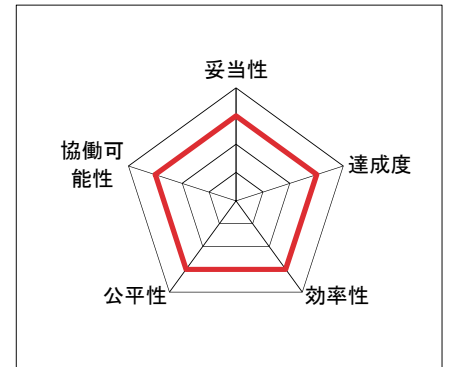
| |
|--------------------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 助成金の交付決定団体数に対して、事業の協働化に至った件数が、多くはない。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|------------|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 1,884 千円 | 1,916 千円 | 32 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | ※新規行政評価対象 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| ※新規行政評価対象 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| — | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 団体等が主体的に活動している事業なので、市民参加の人数を把握することは難しい。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 助成金の申請にあたっては、公開プレゼンテーションを行い、学識経験者、NPO実践者等からの審査を経て、助成の決定を行っている。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 市との協働をより推進できるように、市民団体から協働の提案だけでなく、市からも協働の提案ができるようにするなど、制度を改善していく。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-------|-----|------------|------|---------------|
| 事業番号 | 018 - | 事業名 | 男女共同参画推進事業 | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 |
|------|-------|-----|------------|------|---------------|

| | | | | |
|-------------|---|-----------------------------|------------------------------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 文化をみがき、人が輝くまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪 | 2-1-9 まちづくり協働費 | |
| | 法定受託事務の有無 | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 長久手市の男女共同参画を推進する条例、長久手市男女共同参画審議会規則 | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 平成15年3月に長久手町(市)男女共同参画プランを策定し、事業を実施してきた。平成21年4月には長久手町(市)の男女共同参画を推進する条例が施行され、市の活性化に向けた男女共同参画の取組を推進している。 | | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|--|--------|---|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 長久手市男女共同参画基本計画に基づき、庁内各課において男女共同参画に関する施策を実施していく。また、長久手市男女共同参画審議会において、定期的に取り組む内容の進捗状況の確認や検証を行い、市の施策の推進を図る。 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民、関係団体(市民団体、市内企業など) | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 男女が家庭、学校、職場、地域活動等の場に対等な立場で参画し、ともに責任を担い、各人の個性や能力をのびやかに発揮できる男女共同参画社会を実現するため | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 男女共同参画推進事業 | 改善・見直し | ④ | |
| | | ② | | ⑤ | |
| | | ③ | | ⑥ | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | 469 | 607 | 542 | 4,845 |
| 決算 | | | | 382 | 473 | 388 | 2,587 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | 6,110 | 2,673 | 4,350 | 5,052 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | 6,492 | 3,146 | 4,738 | 7,639 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------|-----------------|----|-----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 男女共同参画講座等参加者数 | 人 | 目標 | 180 | 190 | 150 | 150 | 391 |
| | | | 実績 | 166 | 134 | 94 | 391 | |
| | B 標語・川柳応募作品数 | 点 | 目標 | 360 | 244 | 175 | 240 | 439 |
| 実績 | | | 244 | 175 | 240 | 439 | | |
| C | | | 目標 | | | | | |
| | | | | 実績 | | | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 男女共同参画の理念を伝えることを目的とし、講座等の予定参加者数を指標とした。数値目標については昨年度目標と同数とした。

B 男女共同参画の理念を伝えることを目的とし、応募作品数の予定数を指標とした。数値目標については昨年度目標と同数とした。

C

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 女性が職業生活において、その希望に応じて十分に能力を発揮し、活躍できる環境を整備するため、平成27年9月に女性活躍推進法が策定された。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 平成30年度は第3次男女共同参画基本計画の策定年度となっており、関連した講座や市民フォーラム等を実施したことで、各種講座の参加者数等が増加し、対前年度比増加という目標を達成できた。広報等による計画策定に係る経過等を積極的に周知したことにより、標語川柳の応募者数も増加し、目標を達成した。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) H25.3 第2次長久手市男女共同参画基本計画の策定(計画期間:25年～30年) H30.3 第3次長久手市男女共同参画基本計画の策定(計画期間:31年～35年) |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 男女共同参画の周知・啓発のために行う各種講座やフォーラムに参加する市民の数が平成30年度は対前年度比で増加したため、この状況を維持できるよう講座等の内容を工夫する必要がある。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 平成30年度に策定した第3次長久手市男女共同参画基本計画に基づき、庁内関係各課と連携し、各種施策の推進を図っていく。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成30年度に策定した第3次長久手市男女共同参画基本計画の履行期間中に、市民の理解、関心をより一層深める。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------|--------------|----------|----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 男女共同参画推進事業 | | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 男女共同参画推進事業 | 予算区分 | 2-1-9 まちづくり協働費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成31（2018）年度 | 終了（予定）年度 | 平成35（2022）年度 | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民や関係団体に対し、男女共同参画の理念を伝えるため、講座開催、講演会開催、その他、啓発事業として標語・川柳募集事業等を実施。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 男女共同参画の理念や事業の周知・啓発を図る |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 469 | 607 | 542 | 4,845 | 501 |
| | | 決算 | 382 | 473 | 388 | 2,587 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | 基本計画策定業務委託 | | | | | 2,161 千円 |
| (2) | | 男女共同参画審議会委員報酬 | | | | | 161 千円 |
| (3) | | 印刷製本費 | | | | | 87 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 男女共同参画講座等参加者数 | 人 | 見込 | 180 | 166 | 134 | 94 | 391 |
| | | 実績 | 166 | 134 | 94 | 391 | |
| 標語・川柳応募作品数 | 点 | 見込 | 360 | 244 | 175 | 240 | 439 |
| | | 実績 | 244 | 175 | 240 | 439 | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画出前講座の開催 計1回 延べ149人参加 男女共同参画定期講座の開催 計2回 延べ23人参加 男女共同参画市民フォーラムの開催 計2回 延べ34人参加 3課合同事業の開催 計1回 延べ185人参加 標語・川柳作品応募者数 計439点（一般24点、小中学生415点） | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

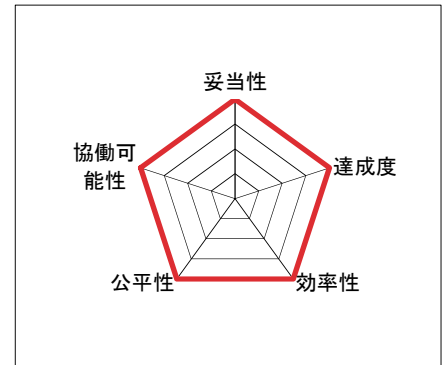
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 2017（平成29）年に第2次長久手市男女共同参画基本計画の計画期間が終了することから、上位計画である第6次総合計画の策定に合わせ、新たに第3次長久手市男女共同参画基本計画（女性活躍推進計画、DV防止基本計画を含む）を策定した。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 4,845 千円 501 千円 △ 4,344 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| 平成29年度は、男女共同参画事業の一つである「男女共同参画出前講座」の申込がなかった。また、生涯学習課及び子育て支援課との3課合同講座を生涯学習課で実施したため（たつせがある課は平成28年度に実施）、活動指数である参加者数が減少した。今後は、出前講座の申込を増やすため、企業への事業PRを進めるなど、周知方法の改善をする。 平成30年度は第3次男女共同参画基本計画を策定するため、策定に関連する事業を実施する。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 平成30年度は、積極的な広報、PRをした結果、市内小学校で出前講座を実施することができた。 また、講座をはじめとした各種事業実施に際しても、積極的なPRをした結果、参加者数が増加した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | 4 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|----------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 166 | 134 | 94 | 391 |
| 実績 | 134 | 94 | 391 | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 第3次男女共同参画基本計画の策定を市民主体で行った。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 計画策定には多数の市民に参加いただいたことで、市民意見が反映された計画となった。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 第3次長久手市男女共同参画基本計画の一部は、平成27年9月に策定された「女性活躍推進法」第6条第2項に基づく「市町村推進計画」であるが、市民への浸透度はまだまだ低い。これまで以上に女性活躍に主眼を置いた事業等を実施していく必要があり、積極的な周知を図る必要がある。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-------|-----|-------------|------|---------------|
| 事業番号 | 019 - | 事業名 | まちづくり施設管理事業 | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 |
|------|-------|-----|-------------|------|---------------|

| | | | | |
|-------------|--|--|-----------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 「やってみたい」でつながるまち | 2-1-9 まちづくり協働費 | |
| | 法定受託事務の有無 | - | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 「長久手市まちづくりセンターの設置及び管理に関する条例」、「長久手市農村環境改善センターの設置及び管理に関する条例」 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 少子高齢、人口減少社会を迎えるに当たり、地域コミュニティの活性化とコミュニティ活動の推進を図るため、市民の諸活動を支援し、交流の拠点となる場を提供する。また、市民の文化の向上と健康増進に寄与する。 | | | |

| | | | | |
|-------|------------------|---|--------|---|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 地域コミュニティの活性化とコミュニティ活動の推進のため、市民の諸活動を支援し交流の拠点となる場の提供 | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 地域コミュニティの活性化とコミュニティ活動の推進のために活動している個人・団体 | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 各個人・団体同士の交流により、コミュニティ活動が推進され地域コミュニティが活性化している状態 | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① まちづくりセンター管理事業 | 改善・見直し | ④ |
| | ② 農村環境改善センター管理事業 | 改善・見直し | ⑤ | |
| | ③ 交流プラザ管理事業 | 改善・見直し | ⑥ | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 23,335 | 22,519 | 24,273 | 23,051 | 26,430 |
| | | | 決算 | 22,833 | 21,909 | 23,749 | 22,623 | |
| 人件費(B) | 千円 | 決算 | - | 12,746 | 13,800 | 8,188 | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | - | 34,655 | 37,549 | 30,811 | | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 利用者数 | 人 | 目標 | 60,000 | 60,000 | 60,000 | 60,000 | 50,000 |
| | | | 実績 | 79,613 | 70,207 | 79,287 | 74,760 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| C | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 施設利用者数は、コミュニティ活動推進及び市民の諸活動支援と交流の拠点となる場の状況を図るのに重要な指標の一つである。

B

C

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 瀬戸市市民活動センター、尾張旭市市民活動支援センター、日進市にぎわい交流館など、市民活動の拠点となる施設を、近隣市でも設置している。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|---|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 施設には、年間で概ね7万人の利用者がおり、コミュニティ活動推進及び市民の諸活動支援と交流の拠点となる場として一定の効果がある。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 市民活動の場として定着してはいるが、利用団体が固定化されている。また、施設の経年劣化が進み、修繕案件が多く発生している。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) まちづくりセンターは市民のまちづくりを目的とした活動を支援し、交流の拠点となる施設であり、各市民活動団体に活用されているが、各団体どうしの交流が十分に図れていない。 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 市民の諸活動及び交流の拠点の場として、利用しやすい環境を整える。まちづくりセンターにおいては施設利用団体の活動内容を紹介するまちセンカフェの開催並びに、活動団体どうしの交流を図るため、交流会の実施を試みる。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 市民の諸活動及び交流の拠点の場として、利用しやすい環境を整える。まちづくりセンターにおいてはコーディネーターを配置し、活動団体ならびにこれから活動を始めたい市民を支援していきたい。また、施設の運営を市民活動団体へ任せしていきたい。 |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・リモテラスの整備により近距離に類似施設ができることから、まちづくりセンターの土地等の資産を他の用途に有効活用するため、機能の移転・集約を検討してください。 ・行政改革指針に係る「経営改革の推進(民間活力活用)」、「財政改革の推進(公共FMの運用)」を踏まえ、施設運営・管理について、研究、検討してください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|-----------------|--------|----------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | まちづくり施設管理事業 | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① まちづくりセンター管理事業 | 予算区分 | 2-1-9 まちづくり協働費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成17年度 | | 終了(予定)年度 | — |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民の諸活動を支援し、交流の拠点となる場を提供することにより、市民団体及び個人同士の交流の活性化と市民と市との協働によるまちづくりを推進する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民の諸活動を支援し、交流の拠点となる場を提供することにより、市民と市との協働によるまちづくりが推進され、多様な個人及び団体を繋げる支援体制の構築。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|--|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 事業費 | 千円 | 予算 | 8,318 | 7,908 | 8,710 | 8,387 | 10,563 |
| | | 決算 | 7,878 | 7,925 | 8,303 | 7,988 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> (1) まちづくりセンター管理委託 2,295 千円 (2) まちづくりセンター管理事務賃金 1,504 千円 (3) 光熱水費 1,118 千円 | | | | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|--|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 利用者数 | 人 | 見込 | 20,000 | 20,000 | 20,000 | 20,000 | 20,000 |
| | | 実績 | 23,740 | 22,158 | 20,653 | 19,299 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> 開館時間 平日・土曜日 午前9時から午後9時まで 日曜、祝日 午前9時から午後5時まで 個人及び団体総利用登録数 176 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

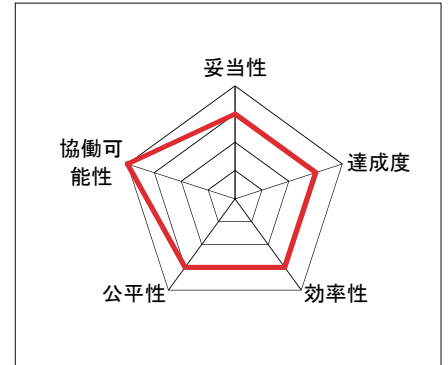
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 市民活動の場として定着してはいるが、利用団体が固定化されている。また、活動団体どうしの交流が十分に図られていない。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|------------|----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 8,387 千円 | 10,563 千円 | 2,176 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | ※新規行政評価対象 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 4 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | - | - | 20,000 | 20,000 |
| 実績 | 22,158 | 20,653 | 19,299 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| まちづくりセンターを考える会と協議を実施し、今後のコーディネート機能の強化を含めた運営方法を検討した。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
|------------------------|

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・各活動団体どうしの交流が十分でないため、交流会の実施を行い、活性化を図りたい。 ・新規利用者の増加と各個人及び団体を繋ぐコーディネート機能をもたせた施設としていくことが必要である。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|-------------|----------------|----------|----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | まちづくり施設管理事業 | | 担当部課 | 子ども部子ども未来課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 農村環境改善センター管理事業 | 予算区分 | 2-1-9 まちづくり協働費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和61年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 地域住民の健康増進とコミュニティー活動の推進を図るための場の提供。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 地域住民の健康増進とコミュニティー活動の推進が図られ、地域住民同士の交流が活性化している状態。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 7,274 7,160 | 7,265 6,738 | 8,293 7,828 | 7,433 7,292 | 8,171 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 施設管理委託 | | | | 3,924 | 千円 |
| (2) | | 光熱水費 | | | | 1,169 | 千円 |
| (3) | | 除草等委託 | | | | 990 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 利用者数 | 人 | 見込 | 20,000 | 20,000 | 20,000 | 20,000 | 10,000 |
| | | 実績 | 29,611 | 26,065 | 31,015 | 29,353 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 開館時間 午前9時から午後9時まで(ただし、施設利用のない場合は、午後5時まで) | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

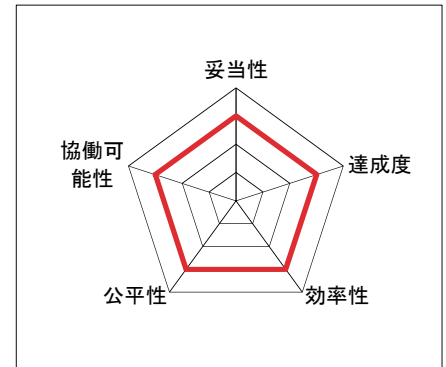
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 施設の経年劣化により、空調設備等の修繕工事が多く発生している。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|------------|--------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 7,433 千円 | 8,171 千円 | 738 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | ※新規行政評価対象 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 20,000 | 20,000 | 20,000 | 10,000 |
| 実績 | 26,065 | 31,015 | 29,353 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 貸館施設であり、現在のところ、農村環境改善センターの管理は協働事業を行う内容ではない。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 平成31年度から子ども未来課へ事務移管。 平成31年度から上郷保育園等新築事業のため、農村環境改善センターを7月から利用制限あり。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 経年劣化による設備等の修繕に関して発生する可能性が高いため、計画的に修繕が行えるよう改善・見直しをしていく。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|-------------|-----------|----------|----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | まちづくり施設管理事業 | | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ③ | 交流プラザ管理事業 | 予算区分 | 2-1-9 まちづくり協働費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成8年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民の文化の向上とコミュニティ活動の推進を図るため、多目的な利用に供する施設の提供。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) コミュニティ活動の推進が図られ、市民の文化の向上のため多種多目的な利用に供されている状態。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 7,743 7,795 | 7,346 7,246 | 7,270 7,618 | 7,231 7,343 | 7,696 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 施設管理委託 | | | | | 4,253 千円 |
| (2) | | 光熱水費 | | | | | 1,066 千円 |
| (3) | | 清掃委託 | | | | | 798 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 利用者数 | 人 | 見込 | 20,000 | 20,000 | 20,000 | 20,000 | 20,000 |
| | | 実績 | 26,262 | 21,984 | 27,619 | 26,108 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 開館時間 午前9時から午後10時まで | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

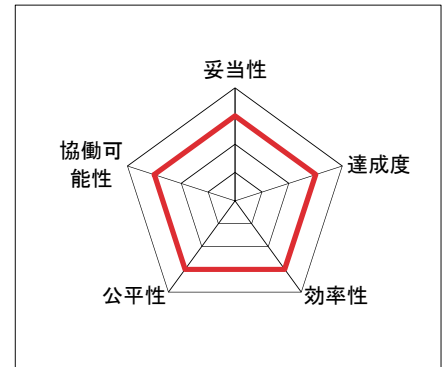
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 施設の経年劣化による修繕工事が発生している。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|------------|--------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 7,231 千円 | 7,696 千円 | 465 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | ※新規行政評価対象 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 20,000 | 20,000 | 20,000 | 20,000 |
| 実績 | 21,984 | 27,619 | 26,108 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 貸館施設であり、現在のところ、交流プラザの管理は協働事業を行う内容ではない。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
|------------------------|

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 経年劣化による設備等の修繕に関して発生する可能性が高いため、計画的に修繕が行えるよう改善・見直しをしていく。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-------|-----|---------|------|---------------|
| 事業番号 | 020 - | 事業名 | 地域間交流事業 | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 |
|------|-------|-----|---------|------|---------------|

| | | | | |
|-------------|--|-----------------------------|-----------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ リリモでにぎわい交流するまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪 | 2-1-9 まちづくり協働費 | |
| | 法定受託事務の有無 | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 南木曾町は木曾川の水源地为縁で平成18年に交流宣言書調印を行い、宝塚市は介助犬訓練施設「シンシアの丘」が縁で平成24年に覚書「きずなづくりの誓い」を締結し、交流を開始した。 | | | |

| | | | | |
|-------|-----------------|--|--------|---|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) ①市民間及び自治体間の交流を推進する。特に友好提携を結んでいる長野県南木曾町及び兵庫県宝塚市との交流を推進する。 ②自治体間相互訪問 ③本市及び南木曾町施設利用優待制度実施 | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民及び自治体 | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民間及び自治体間でより活発な交流をする。 | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 地域間交流事業 | 改善・見直し | ④ |
| | | ② | | ⑤ |
| | | ③ | | ⑥ |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | 千円 | | 予算 | 53 | 54 | 54 | 59 |
| 決算 | | | | 8 | 19 | 23 | 17 | |
| 人件費(B) | 千円 | | 決算 | 2,673 | 1,375 | 2,658 | 1,749 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | | 決算 | 2,681 | 1,394 | 2,681 | 1,766 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------------------------------|--|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 自治体間相互訪問交流件数 | 件 | | 目標 | 5 | 6 | 6 | 7 |
| 実績 | | | | 5 | 6 | 7 | 7 | |
| B | | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| C | | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A | 両市町と本市との交流の実態を把握するため、行事への参加など、自治体間で職員が相互訪問し交流及び情報交換した件数を指標とする。目標数値の設定方法は対前年度比増加。 | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣の自治体間交流実施市町：日進市(長野県木祖村、三重県志摩市)、尾張旭市(石川県輪島市)、東郷町(長野県王滝村) |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|---|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 事業への参加や相互訪問をすることにより、交流の目標件数を達成した。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 新しく連携した市町や交流している市町はないが、友好提携を結んでいる市町との交流は継続して行っている。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 2市町以外で西尾市など以前交流していた市町についても現状把握や内容の整理を行い、把握に努める必要がある。 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 交流を継続し、施設相互利用促進だけでなく、市全体で交流が活発になるよう周知していく。2市町以外で以前交流していた市町についても現状把握や内容の整理を行う。 |
| | 中長期の目標 | (いっごうまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成32年度ごろまでに2市町以外の現状調査をし、全課における自治体間相互交流の実態把握をする。 |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・行政改革指針に係る「自治体間連携の推進」を踏まえ、引き続き事業に取り組んでください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|-----------|--------|----------------|----------|---|--|
| 事業(A票)名 | 地域間交流事業 | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 | 決算書ページ | — | |
| 事務事業名 | ① 地域間交流事業 | 予算区分 | 2-1-9 まちづくり協働費 | | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成18年度 | | 終了(予定)年度 | — | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ①市民間及び自治体間の交流を推進する。特に友好提携を結んでいる長野県南木曾町及び兵庫県宝塚市との交流を推進する。 ②自治体間相互訪問 ③本市及び南木曾町施設利用優待制度実施 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民間及び自治体間でより活発な交流をする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 53 | 54 | 54 | 59 | 59 |
| | | 決算 | 8 | 19 | 23 | 17 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 普通旅費 | | | | | 10千円 |
| (2) | | 道路通行料 | | | | | 7千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 自治体間相互訪問交流件数 | 件 | 見込 | 5 | 6 | 6 | 7 | 7 |
| | | 実績 | 5 | 6 | 7 | 7 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| ・たつせがある課が実施した交流事業(いずれも南木曾町) | | | | | | | |
| ①南木曾町植樹祭及び文化文政風俗絵巻之行列に市長、議長、たつせがある課職員が訪問 | | | | | | | |
| ②ながくて市民まつりに南木曾町が出店 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

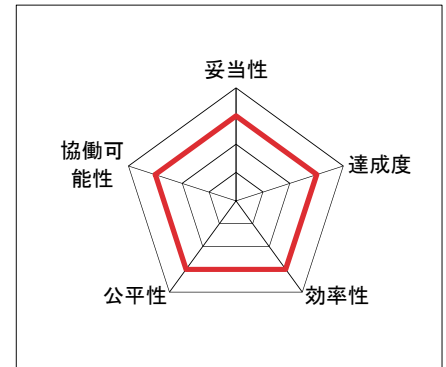
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 自治体間の交流について、南木曾の木材を使用した木のおもちゃなどをプレゼントする出産祝い事業などを行っているほか、市民まつりや各課の事業を通じた市民同士の交流も続いている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|--|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 59千円 | 59千円 | 0千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 拡充 | |
| ・前年度【コメント】 | 交流の推進につなげるため、相互施設利用優待制度利用数の実態調査をする。そのために、市内施設や南木曾町へ、実態調査への協力依頼をする。また、2市町以外で以前交流していた市町について、現状把握や内容の整理を行う。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 市内施設の施設利用優待制度利用者の実態把握に努めたほか、以前交流していた市町について現状を整理した。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 南木曾町と相互市民向けの施設利用優待制度を実施することで相互訪問を通じた市民同士の交流を促した。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 南木曾町との相互施設優待制度について、相互住民に対し、これまで以上の周知が必要である。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 市内施設を調査した結果、相互施設優待制度の利用があまり見られなかった。相互優待制度の内容の改善を図る必要がある。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|-------------|---|------------------------------|--------|-----------------|---------------|
| 事業番号 | 021 - | 事業名 | 大学連携事業 | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 「やってみたい」でつながるまち | | 2-1-9 まちづくり協働費 | |
| | 法定受託事務の有無 | - | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 大学連携推進協議会設置要綱、大学連携推進ビジョン4U | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 市内4大学と包括的な連携に関する協定書をそれぞれ締結し、個々の大学との連携については実績を積み重ねているが、第5次総合計画の基本施策「大学をまちづくりに生かす」を具体的に進めていくため、市と市内大学による長久手市大学連携推進協議会を設置した。 | | | | |

| | | | | |
|-------|-----------------|--|--------|---|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 市内4大学をはじめ近隣の大学と連携し、大学・地域・市が協働するまちづくりを推進するため次の事業を行う。 ①大学連携推進協議会、大学連携連絡調整会議等の開催及び協議会主催の連携事業の実施 ②大学から提案のあったまちづくり事業への助成(大学連携提案助成金事業) | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市内4大学、近隣大学、市民、企業及び行政 | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 大学と行政の連携事業の推進体制を確立するとともに、市民が大学、行政と連携した事業に様々な形で身近に参加できるようにする。 | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 大学連携事務事業 | 改善・見直し | ④ |
| | ② 大学連携提案助成金事業 | 改善・見直し | ⑤ | |
| | ③ | | ⑥ | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | 1,295 | 5,482 | 3,932 | 1,344 |
| 決算 | | | | 438 | 1,044 | 3,590 | 1,191 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | 7,638 | 6,111 | 7,008 | 6,131 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | 8,076 | 7,155 | 10,598 | 7,322 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|------|------------|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A | 大学連携事業実施件数 | 件 | 目標 | 30 | 40 | 40 | 40 |
| 実績 | | | | 39 | 38 | 23 | 19 | |
| B | | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| C | | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 大学と連携した事業をより多く企画、実施できるようにするため、本市における大学連携事業実施件数を成果とする。 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 大学との包括連携協定を実施している近隣の実施市町：瀬戸市(大学コンソーシアム)、尾張旭市、日進市、豊明市、東郷町、みよし市、豊田市 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 事業実施件数の目標は達成していないが、大学と連携して事業を実施することについては、「大学連携推進ビジョン4U」に伴うイベント(市内4大学合同ワーキングなど)や提案事業助成金事業の実施により、市職員始め市民、企業等へ浸透しつつある。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 市内4大学と学生、市民、企業、行政などが連携し、まちづくりに生かす協働の仕組みを作るため、大学連携推進ビジョン4Uを市内4大学と共に策定し、合同事業などを実施した。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 大学と市との連携を更に強化し、「大学連携推進ビジョン4U」に基づく新たな連携事業を検討していく。また、市外大学との包括連携協定の実施や相互連携の方向性を考える必要がある。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 「大学連携推進ビジョン4U」に基づく大学と連携した事業を、より多く企画、実施できるようにする。また、大学だけでなく市民や企業、市外の近隣大学を絡めた事業も検討していく。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 「大学連携推進ビジョン4U」の計画期間の最終年度である平成39年度を目途に、ビジョンに基づく事業を展開していく。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・行政改革指針に係る「協働事業の拡大(市民、市行政、大学、民間の連携拡大)」を踏まえ、引き続き事業に取り組んでください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 大学連携事業 | | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 大学連携事務事業 | 予算区分 | 2-1-9 まちづくり協働費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成24年度 | 終了(予定)年度 | - | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市内4大学をはじめ近隣の大学と連携し、大学連携推進協議会、大学連携連絡調整会議等の開催、学生向けの市長秘書インターンシップ等を実施する。 また、大学連携推進ビジョン4Uに基づき、市内4大学合同事業を実施する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市と大学との連携を密にし、まちづくりに活用する。市長秘書インターンシップに参加してもらうことで、学生に市政について意識してもらう。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|--------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 653 338 | 690 324 | 240 201 | 944 806 | 204 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 4大学合同講座運営委託 | | | | 400 | 千円 |
| (2) | | ホームページ保守運営委託 | | | | 224 | 千円 |
| (3) | | 愛芸アシスト法人会費 | | | | 100 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 協議会及び連絡調整会議実施 | 回 | 見込 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| | | 実績 | 4 | 4 | 3 | 5 | |
| 市長秘書インターンシップ応募者数 | 人 | 見込 | 7 | 8 | 6 | 8 | 8 |
| | | 実績 | 7 | 3 | 8 | 2 | |

<備考：活動の概要(30年度(2018))>

- 平成30年度実績：協議会3回、連絡調整会議2回
- 市長秘書インターンシップ:2人採用
- 大学連携合同ワーキング年4回、交流会1回開催。

4. 事務事業を取り巻く環境変化

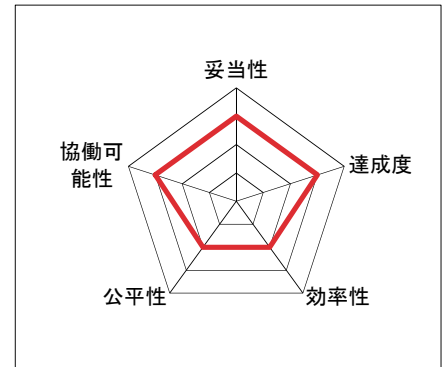
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
市外の大学から包括連携協定の打診があり、今後協定の範囲を広げ、協議会の在り方を検討する必要がある。平成30年3月に「大学連携推進ビジョン4U」(大学連携基本計画)を策定した。

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---|---|----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 944 千円 | 204 千円 | △ 740 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 拡充 | |
| ・前年度【コメント】 | 「大学連携推進ビジョン4U」に基づく事業を展開するため、市内4大学が合同で実施する事業など、新たな事業を模索していく。市内だけでなく、市外にある近隣大学との包括連携協定を進め、大学との連携事業の拡大を図る。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 市内4大学合同事業を各大学から推薦を受けた教員と共に検討し、ワーキングや交流会を実施した。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 2 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | 100 | 300 | 400 |
| 実績 | | 106 | 356 | |

(2) 協働の状況(30年度(2018))

(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)
市内4大学の学生や教員、市民を交えて合同ワーキングを実施した。年度末に交流会を開催し、成果報告や来年度事業に向けたワーキングを実施した。

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
平成30年度より、大学連携推進ビジョン4Uに基づく市内4大学合同ワーキングを開始した。市長秘書インターンシップは、秘書の実習ができる機会がなく好評であり、今後も実施の希望がある。市が主体で協議会が実施されており、大学からの提案事項はほとんどないことが課題である。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
市内4大学合同ワーキングを実施したことにより、各大学における合同ワーキング開催に関する課題が明らかになり、その解決のために、各大学とのより綿密な調整等を進める必要がある。大学連携の幅を広げるため、市外近隣大学との包括連携協定に向けて引き続き調整を進めていく。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|-------------|----------|----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 大学連携事業 | | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 大学連携提案助成金事業 | 予算区分 | 2-1-9 まちづくり協働費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成27年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市内4大学と連携し、大学・地域・行政が協働するまちづくりを推進するため、大学から提案された地域の課題の解決及び地域の魅力の向上を目的としたまちづくり事業について助成を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) まちづくりに関わる事業を助成することで、大学と行政の協働・連携に結びつける。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|---------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 200 | 200 | 200 | 400 | 400 |
| | | 決算 | 100 | 159 | 200 | 385 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 提案事業助成金 | | | | 385 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 提案助成金事業 申請件数 | 件 | 見込 | 2 | 3 | 6 | 6 | 6 |
| | | 実績 | 1 | 4 | 2 | 4 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度実績：申請のあった4件とも採用している。 愛知県立芸術大学1件、愛知県立大学2件、愛知医科大学1件。交付額はいずれも10万円(上限額)。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

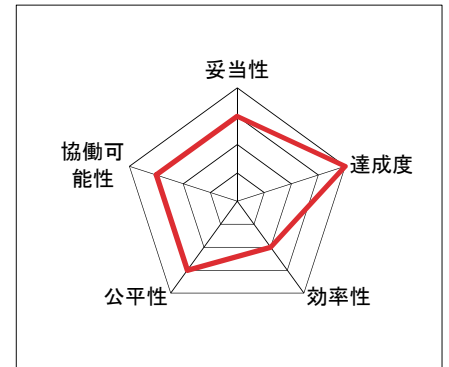
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 平成30年3月に「大学連携推進ビジョン4U」(大学連携基本計画)を策定した。 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 400 千円 400 千円 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| 学生の更なる成長を目指し、学生による申請数の増加やプレゼンテーションの参加を推進するため、プレゼンテーションを学生のみとするなど、要綱の改正を進める。「大学連携推進ビジョン4U」策定に伴い、平成30年度は予算を増額し、採用件数を上限10万円×2件→上限10万円×4件とし、より一層の活用を促す。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 予算の増額に伴い、採用件数が2件から4件に増加した。学生によるプレゼンテーションを条件としたことで、学生の積極的な参加や成長につながった。 |
| ※予算科目変更 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 20 | 20 | 40 | 40 |
| 実績 | 26 | 17 | 76 | |

(2) 協働の状況(30年度(2018))

(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)
申請者である学生・教員など大学関係者と、市内関係団体や市民と共に、学生などが提案するまちづくり事業を市担当課と連携して実施した。(実績人数は申請時の団体名簿より算出)

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
学生によるプレゼンテーションを実施することにより、学生主体の事業実施につながった。
市の担当課との連携があまり行われなかった案件があり、申請時や事業実施時における担当課との関わり方が課題となっている。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
大学連携推進ビジョン4Uを策定したことに伴い、ビジョン4Uに基づく事業として位置づける必要があり、合わせて大学にとって申請しやすい事業として存続させるため、各大学と調整を進めていく必要がある。
平成31年度予算はビジョン4U関連事業と本事業を合わせ、新たな予算枠とする。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-----|-----|---------|------|---------------|
| 事業番号 | 022 | 事業名 | リモテラス事業 | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 |
|------|-----|-----|---------|------|---------------|

| | | | | |
|-------------|--|-----------------------------|----------------------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ リリモでにぎわい交流するまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | 予算区分(款 一 項 一 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪 | 2-1-9 まちづくり協働費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | リモテラス公益施設(仮称)整備基本計画(H28.4) | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 同計画で掲げる将来像「人が輝き 緑があふれる 交流都市 長久手」の実現に向けて、第5次長久手市総合計画の主要プロジェクト「リモテラス構想※」を掲げた。 ※リモテラスをまちの顔として整備し、市民が集い、訪れる人をもてなす場を創出すること | | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|---|----|---|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) リモテラス公益施設(仮称)を整備し、長久手古戦場駅前に、まちの新たな顔として、公益施設、広場等で構成される「リモテラス」を整備する | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民、長久手市来訪者 | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民の日常の暮らしを支え、訪れる人をもてなす空間を創出するため | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① リモテラス整備事業 | 拡充 | ④ | |
| | | ② | | ⑤ | |
| | | ③ | | ⑥ | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | 千円 | 決算 | 予算 | | 25,659 | 5,419 | 33,418 |
| 決算 | | | | | 5,700 | 5,391 | 11,623 | |
| 人件費(B) | 千円 | 決算 | | 7,250 | 5,347 | 8,865 | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | | 12,950 | 10,738 | 20,488 | | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--|----------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A リモテラス整備事業に関わった市民の数 | 人 | 目標 | — | — | 500 | 1,000 | 1,500 |
| 実績 | | | — | — | 515 | 1,576 | | |
| B | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |
| C | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 市民主体のまちづくりの推進のため、リモテラス整備事業においても参加市民の数を念頭に置いて事業を実施する。 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 特になし |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 事前に広報等を通じオープンな形で開催するリモテラス関連事業には、多くの市内外の住民が参加しており、目標は達成している。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 平成29年度より市民主体での施設設計及び管理運営手法を検討してきたが、市民の主体性が高まったことで、平成30年8月に市民の発案でリモテラス運営協議会が上がり、具体的な検討をはじめることができた。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) リモテラス事業について主体的に検討する市民団体「リモテラス運営協議会」が立ち上がったが、その他の市民に対しての広報、事業参画などが課題である。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) リモテラス運営協議会を中心に事業を推進していく。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成32年度に完成予定のリモテラス公益施設(仮称)の完成とともに、リモテラスがまちの顔として市民が集い、訪れる人をもてなす場となるよう、リモテラス運営協議会と協働し、施設設計、施設管理運営、リモテラスエリアの活用などを検討していく。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------------|----------|----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | リリモテラス事業 | | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | リリモテラス整備事業 | 予算区分 | 2-1-9 まちづくり協働費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成21(2009)年度 | 終了(予定)年度 | 平成32(2020)年度 | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 対象：市民、長久手市来訪者 手段：長久手古戦場駅前に、まちの新たな顔として、公益施設、広場等で構成される「リリモテラス」を整備することで市民の日常の暮らしを支え、訪れる人をもてなす空間を創出する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民の日常の暮らしを支え、訪れる人をもてなす空間を創出すること |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|------------------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | — | 25,659 | 5,419 | 33,418 | 3,047 |
| | | 決算 | — | 5,700 | 5,319 | 11,623 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | リリモテラス公益施設(仮称)基本設計業務委託 | | | | 7,020 | 千円 |
| (2) | | 運営組織育成支援業務委託 | | | | 3,283 | 千円 |
| (3) | | 運営市民ボランティア発掘業務委託 | | | | 897 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| リリモテラス整備事業に関わった市民の数 | 人 | 見込 | — | — | 500 | 1,000 | 1,000 |
| | | 実績 | — | — | 515 | 1,576 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ながくて隣人まつりの開催 合計8回、延べ1,576人参加 リリモテラス公益施設(仮称)の基本設計完了 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

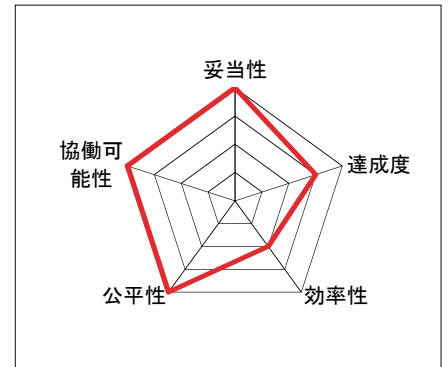
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成29年度より市民主体での施設設計及び管理運営手法を検討してきたが、市民の主体性が高まったことで、平成30年8月に市民の発案でリリモテラス運営協議会が立ち上がり、具体的な検討をはじめることができた。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|------------|-------------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 33,418 千円 | 3,047 千円 | △ 30,371 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | ※新規行政評価対象 | |
| ・前年度【コメント】 | — | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| — | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | 4 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | — | 500 | 1,000 | 1,000 |
| 実績 | — | 515 | 1,576 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| リリモテラス運営協議会の開催(リリモテラス公益施設(仮称)の設計及び同施設の管理運営手法の検討) | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 市民の発案でこれまでなかったようなイベント等を開催することができ、数多くの市民に参加いただくことができた。 (リリモテラス運営協議会が、リリモテラス公益施設(仮称)の設計や同施設開館後をイメージした実証実験を兼ねて、「ながくて隣人まつり」を合計8回実施し、延べ1,576人が参加した) |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 平成31年度はリリモテラス運営協議会に対し、およそ300万円の負担金を拠出することにより、協議会を構成する市民等が自主的に情報収集・発信を行いながら、リリモテラス公益施設(仮称)の開館に向けた実証実験や設計の検討を行っていく。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-------|-----|--------------|------|---------------|
| 事業番号 | 023 - | 事業名 | 地域共生ステーション事業 | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 |
|------|-------|-----|--------------|------|---------------|

| | | | | |
|-------------|--|---|-----------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 「やってみたい」でつながるまち | 2-1-9 まちづくり協働費 | |
| | 法定受託事務の有無 | - | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 「長久手市地域共生ステーション条例」、「長久手市地域共生ステーション規則」 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 少子高齢社会、人口減少社会を迎えるに当たり、地域住民自らが、地域の将来を考え、地域が一体となって、地域コミュニティの活性化を図り、地域課題の解決に取り組むことが必要である。そのため誰でも気軽に立ち寄り、話し合いや活動を行うことのできる場の提供。 | | | |

| | | | | |
|-------|----------------------|---|--------|---|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 地域住民・市民団体・事業者などが気軽に集まり、語らうことのできる場の提供。 | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 地域住民・市民団体・事業者などの地域コミュニティ。 | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 地域のための様々な取組みを行うための拠点施設を設置することにより、地域コミュニティが活性化している状態。 | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 西小校区共生ステーション管理事業 | 改善・見直し | ④ |
| | ② 市が洞小校区共生ステーション管理事業 | 改善・見直し | ⑤ | |
| | ③ 地域共生ステーション整備事業 | 改善・見直し | ⑥ | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 11,524 | 133,756 | 18,251 | 24,778 | 22,301 |
| | | | 決算 | 13,905 | 48,783 | 90,223 | 22,581 | |
| 人件費(B) | 千円 | 決算 | - | 14,563 | 17,147 | 15,162 | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | - | 63,346 | 107,370 | 37,743 | | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------|------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 地域共生ステーションの設置数 | 件 | 目標 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 |
| | | | 実績 | 1 | 1 | 2 | 2 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| C | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 地域共生ステーションは、小学校区単位で、地域活動の拠点となる場を提供するとともに、地域コミュニティの活性化や地域課題の解決に対する取組の推進を目的に設置するため、設置数を成果指標とする。

B

C

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 他市町においては、公民館やコミュニティーセンターなどが設置され、地域コミュニティが主体となって活動を実施している。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 地域コミュニティの活性化や地域課題の解決のための場の提供について、2小学校区で設置が完了しており、ある一定の成果は出ている。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 地域共生ステーション設置に向けて、全6小学校区中、2小学校区で設置が完了、2小学校区では設計業務が進んでいる。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 各小学校区に地域共生ステーションを設置することと併せて、まちづくり協議会の設立を目指しているが、小学校区と自治区との境界が異なっており、地域との協議が必要である。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 地域コミュニティの活性化や地域課題の解決のための場の提供を進めて行くために、設置に未着手の地域の住民へのアプローチを行い、設置計画の作成に向けて協議の場を設ける必要がある。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 地域共生ステーションの管理は現在は市で行っているが、地域住民による管理運営への移行を目指す。 |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・地域共生ステーションは地域で管理する施設という考え方が基本となるため、管理する臨時職員の賃金、嘱託員の報酬や清掃等の維持管理費で、地域負担分を明確にし、経費の節減に努めてください。 ・行政改革指針に係る「協働事業の拡大」、「市民参加の仕組みづくり」に寄与するよう引き続き取り組んでください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|--------------|------------------|----------|----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 地域共生ステーション事業 | | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 西小校区共生ステーション管理事業 | 予算区分 | 2-1-9 まちづくり協働費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成25年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 地域住民・市民団体・事業者などの地域コミュニティが気軽に集まり、語ることのできる場所の提供。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 地域住民・市民団体・事業者などが地域コミュニティの活性化や地域課題の解決地域の将来を考え、地域に取り組める場を提供していく。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|--------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 11,524 | 12,136 | 12,381 | 12,108 | 13,083 |
| | | 決算 | 11,079 | 11,733 | 12,127 | 12,125 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | ステーション管理事務賃金 | | | | 4,170 | 千円 |
| (2) | | ステーション賃借料 | | | | 3,564 | 千円 |
| (3) | | ステーション嘱託員報酬 | | | | 1,850 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 利用者数 | 人 | 見込 | — | — | — | 27,000 | 28,000 |
| | | 実績 | 29,350 | 26,626 | 27,650 | 30,694 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 平成25年11月 西小校区共生ステーション開設 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

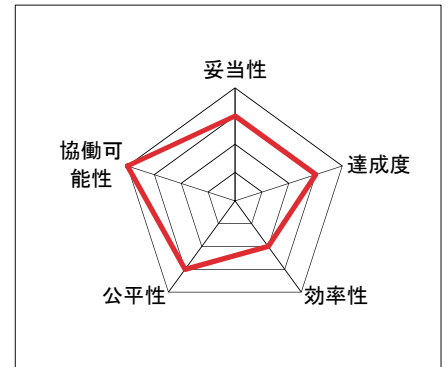
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 急激に人口が増加した市街化区域では、地域コミュニティのつながりが希薄である事が課題である。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|-----------------------------|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 12,108 千円 13,083 千円 975 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 ※新規行政評価対象 |
| ・前年度【コメント】 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) — |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 4 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | — | — | 27,000 | 28,000 |
| 実績 | 26,626 | 27,650 | 30,694 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| まちづくり協議会のステーション運営委員会によって、施設の利用方法などが話し合われ、まちづくり協議会とも連携をして、地域住民の意見がステーションの運営に反映されている。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 西小校区共生ステーションを利用する活動団体と、西小学校区まちづくり協議会が協働し、まち協フェスティバルを開催した。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| ・共生ステーションをより地域コミュニティの拠点としていくため、管理・運営をまちづくり協議会へ移管していきたい。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|--------------|--------------------|----------|----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 地域共生ステーション事業 | | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 市が洞小校区共生ステーション管理事業 | 予算区分 | 2-1-9 まちづくり協働費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成29年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 地域住民・市民団体・事業者などの地域コミュニティが気軽に集まり、語るうことのできる場所の提供。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 地域住民・市民団体・事業者などが地域コミュニティの活性化や地域課題の解決地域の将来を考え、地域に取り組める場を提供していく。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|----------|------------|----------------|----------------|----------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | | 1,540 1,194 | 3,839 3,299 | 8,883 6,450 | 9,140 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 施設管理委託 | | | | 4,598 千円 | |
| (2) | | 光熱水費 | | | | 407 千円 | |
| (3) | | 清掃委託 | | | | 396 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|----------|------------|------------|------------|----------------|-----------|
| 利用者数 | 人 | 見込 実績 | — — | — — | — 2,074 | 4,800 7,273 | 7,300 |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 平成29年11月 市が洞小校区共生ステーション開設 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

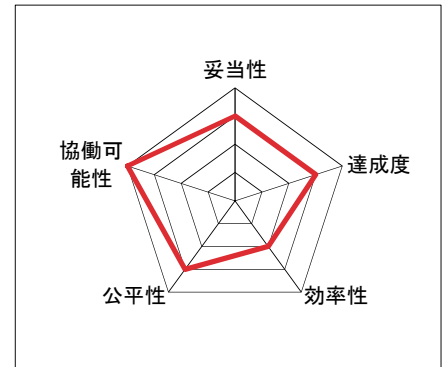
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 急激に人口が増加した市街化区域では、地域コミュニティのつながりが希薄である事が課題である。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|-----------------------------|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 8,883 千円 9,140 千円 257 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 ※新規行政評価対象 |
| ・前年度【コメント】 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| — |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 4 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|-------------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | — | — | 4,800 | 7,300 |
| 実績 | — | 2,074 | 7,273 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| まちづくり協議会のステーション運営部会と連携を行っている。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| まちづくり協議会主催による歴史セミナーを実施し、開館以来初めてとなる、フリースペースを活用した事業を実施した。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| ・共生ステーションをより地域コミュニティの拠点としていくため、管理・運営をまちづくり協議会へ移管していきたい。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------------|--------|----------------|----------|---|--|
| 事業(A票)名 | 地域共生ステーション事業 | 担当部課 | 暮らし文化部たつせがある課 | 決算書ページ | — | |
| 事務事業名 | ③ 地域共生ステーション整備事業 | 予算区分 | 2-1-9 まちづくり協働費 | | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成24年度 | | 終了(予定)年度 | — | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 地域住民・市民団体・事業者などの地域コミュニティが気軽に集まり、語るうことのできる場所の提供。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 地域住民・市民団体・事業者などが地域コミュニティの活性化や地域課題の解決地域の将来を考え、地域に取り組める場を提供していく。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|--|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 事業費 | 千円 | 予算 | 0 | 80 | 2,031 | 3,787 | 78 |
| | | 決算 | 2,825 | 63 | 1,873 | 4,006 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> (1) 南小校区共生ステーション基本設計業務委託 3,942 千円 (2) 消耗品 44 千円 (3) 食糧費 20 千円 | | | | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|---|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| ワークショップ等参加人数 | 人 | 見込 | — | — | — | 380 | 50 |
| | | 実績 | 347 | 258 | 543 | 420 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> 南小学校区：設計ワークショップ等 89人参加 北小学校区 ・設計ワークショップ等 80人参加 ・北のステーション部会 運営会議61人参加、おためし会190人参加 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

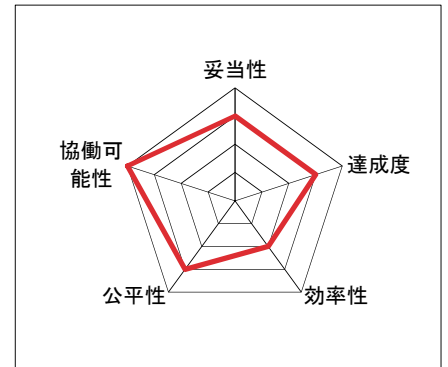
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 急激に人口が増加した市街化区域では、地域コミュニティのつながりが希薄である事が課題である。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|------------|------------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 3,787 千円 | 78 千円 | △ 3,709 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | ※新規行政評価対象 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| — | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 4 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---------------------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | — | — | 380 | 50 |
| 実績 | 258 | 543 | 420 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 地域共生ステーション建設に向けて、市民から様々な意見をを得ることができた。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 北小学校では、ステーションの開設後の取組について話し合い、その取組の実践の場として、地域でプログラムを企画・運営する「北ステおためし会」を行った。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| ・共生ステーションをより地域コミュニティの拠点としていくため、管理・運営をまちづくり協議会へ移管していきたい。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|---|-----------------------|--|------------------------|------------|------------|---------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 024 - | 事業名 | 国際化事業 | | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 文化をみがき、人が輝くまち | 会計区分 | 一般会計 | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 「やってみたい」でつながるまち | 2-1-10 国際化事業費 | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | - | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 長久手市国際交流協会運営事業費補助金交付要綱 | | | | | |
| | 事業開始の背景、経緯等 | 平成4年度にベルギー王国ワールロー市と姉妹都市友好提携を結び、交流を続けている。市内外国人や留学生と市民との交流を推進する事業を実施している。また、平成6年度に設立した長久手市国際交流協会の活動を支援するため、補助金を交付している。 | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 市内に生活する外国人や留学生と市民との交流を図りながら、次の多文化共生に係る事業を推進する。 ①ベルギー王国ワールロー市との姉妹都市交流 ②国際交流協会 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 国際交流に対する関心、相互理解を深める。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 国際化事務事業 | 拡充 | ④ | | | | |
| | ② 国際交流協会補助事業 | 改善・見直し | ⑤ | | | | | |
| | ③ 姉妹都市事業 | 改善・見直し | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 9,590 | 7,652 | 5,933 | 11,452 | 5,281 |
| | | | 決算 | 8,565 | 3,022 | 3,294 | 10,365 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 9,166 | 5,729 | 5,960 | 6,881 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 17,731 | 8,751 | 9,254 | 17,246 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 国際交流協会事業参加者総数 | 人 | 目標 | 3,500 | 4,400 | 3,300 | 5,000 | 5,000 |
| | | | 実績 | 4,000 | 3,000 | 5,000 | 5,500 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 国際化事業として具体的に市民参加している国際交流協会事業への総参加者数を、その成果指標とする。 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣の実施市町: 瀬戸市、日進市、尾張旭市、東郷町、豊明市 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 国際交流協会事業の参加者実績は、姉妹都市の関連事業を共同で実施したり、市民と協力して広報等を実施することで、増加につながった。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 国際交流協会事務局体制を市から市民、民間に移すための方策を検討してきた。ワールロー市と青少年訪問団の派遣など交流を続けている。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 市民主体の事業形態とするのを目的に市国際交流協会事務局を分離・独立させるために、市と協会の事業を明確化し、独立のための具体的な方策を検討する必要がある。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 市が行う国際化事業の明確化、及び市国際交流協会の市から事務局分離独立についてスケジュールを明確化する。姉妹都市交流は、青少年訪問団派遣以外のイベント・交流事業の検討をする。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 国際交流協会事務局独立への円滑な移行、また、独立後より良い運営となるための準備を完了する。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | <ul style="list-style-type: none">・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。・国際交流協会の自立を促進してください。・ワートルロー市の姉妹都市交流について、開催頻度などを検討し、経費の節減に努めてください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|---------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 国際化事業 | | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 国際化事務事業 | 予算区分 | 2-1-10 国際化事業費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成4年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民及び行政が国際交流を行うための、大使館等への出張旅費、表敬訪問対応、国際郵便等の筆耕翻訳国際交流等を行っている。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 他団体との交流を通して、国際交流に対する関心、相互理解を深める。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 451 259 | 789 212 | 789 308 | 878 139 | 1,387 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 日本ベルギー協会負担金 | | | | 50 | 千円 |
| (2) | | 県国際交流協会負担金 | | | | 30 | 千円 |
| (3) | | 消耗品費 | | | | 39 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 表敬訪問回数 | 回 | 見込 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | | 実績 | 2 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| ・平成30年度実績：カンボジア王国スヴァイリエン州副知事はじめ3人の表敬訪問受入(3/18) | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

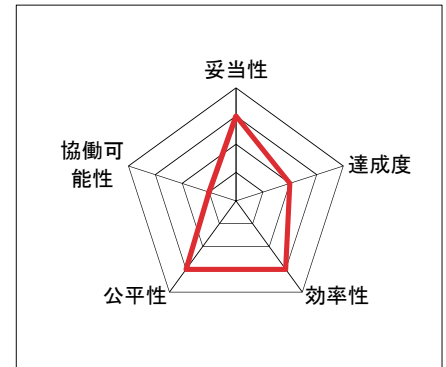
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 国では、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向け、スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図るため、「ホストタウン構想」を展開している。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---|---|--------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 878 千円 | 1,387 千円 | 509 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 拡充 | |
| ・前年度【コメント】 | 大使館やベルギー関連団体等との接触を図り、2020年の東京オリンピックに向けて、ホストタウン構想の推進に向けた取組を実施していく。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| ホストタウンの実施に向けて、ワートルロー市への青少年訪問団派遣の際にワートルロー市の担当者や、駐日ベルギー大使館へ打診をした。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 1 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | 10 | 10 | 10 |
| 実績 | — | 50 | 0 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 駐日ベルギー王国や日本ベルギー協会とのやりとり、表敬訪問の実施のみであったため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| ホストタウンへの登録申請に向けて進んでおらず、事業計画・事業実施のための情報収集等を実施する必要がある。外国人住民の増加が見込まれることから、市の多文化共生事業を推進するため、多文化共生推進計画の策定を検討しており、学識経験者等への相談をした。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 市の多文化共生事業を推進するため、多文化共生推進計画の策定を検討しており、そのための事前調査やワーキングなどを平成31年度に実施し、市の現状を把握し、多文化共生事業を担う人材を確保する必要がある。 |

7. 今後の方向性

| |
|-----------|
| 拡充 |
|-----------|

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|----------|------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 国際化事業 | | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 国際交流協会補助事業 | 予算区分 | 2-1-10 国際化事業費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成6年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 長久手市国際交流協会を、市民、大学、企業と行政とをつなぐパイプ役として位置づけ、協会に対し、事業費を補助する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 協会が自主的・自発的に国際理解や国際協力のために必要な施策を展開できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 4,796 | 2,923 | 2,970 | 2,923 | 2,923 |
| | | 決算 | 4,796 | 2,688 | 2,970 | 2,923 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 市国際交流協会補助金 | | | | 2,923 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 国際交流協会個人会員数 | 人 | 見込 | 500 | 500 | 500 | 500 | 500 |
| | | 実績 | 421 | 397 | 421 | 356 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 国際交流協会実施事業：国際交流フェスタ(3/3)、弁論大会(12/9)、近隣大学留学生ホームステイ受入、機関誌作成、日本語教室運営(木・土曜日に月3回程度)など | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

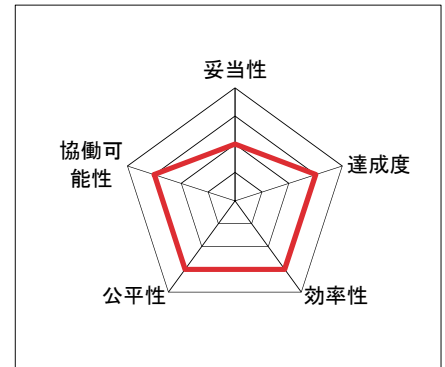
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 現在、協会事務を市職員が兼職で行っているが、専任の職員を協会に雇用し、より魅力ある国際交流事業を実施していけるよう取組中である。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---|--|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 2,923 千円 | 2,923 千円 | 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 拡充 | |
| ・前年度【コメント】 | 長久手市国際交流協会の事業内容の見直しや、事務局職員の増強を検討し、補助額を決定する。また、国際交流協会の事務の効率化を図り、独立を進めることにより、民間による幅広く多彩な事業展開の実現を目指す。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 独立に向けて事務局体制の変更など検討を進めていたが、人員配置等の問題により実現できていない。引き続き実現に向けて検討を重ねていく。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 2 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 4,400 | 3,300 | 5,000 | 5,000 |
| 実績 | 3,000 | 5,000 | 5,500 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 国際交流協会事業は国際交流フェスタや留学生のホームステイ受入、外国人児童への日本語支援など、多くの市民の協力により実施されている。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 長久手市国際交流協会独立を視野に入れ、協会事業と市事業の区別を明確化し、予算計上を行った。長久手市国際交流協会では、独立に向けて自立した運営を模索しているが、ボランティアによって成り立っていることもあり、難航している。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 民間による協会運営・事業展開の実現のため、理事会等の人員補強等を進め、独立に向けて支援を続ける。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------|------|---------------|---------------|---|
| 事業(A票)名 | 国際化事業 | | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ③ | 姉妹都市事業 | | 予算区分 | 2-1-10 国際化事業費 | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成4年度 | | 終了(予定)年度 | — | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民及び行政が姉妹都市ベルギー王国ワートルロー市との友好親善を深めるための訪問団相互派遣、国際郵便筆耕翻訳等を行っている。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 国際交流に対する関心、相互理解を深める。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|---------------|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 4,343 3,510 | 3,940 122 | 2,174 16 | 7,651 7,303 | 971 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | 姉妹都市訪問団旅行等委託 | | 6,075 千円 | | | | |
| (2) | 姉妹都市訪問団現地調整委託 | | 680 千円 | | | | |
| (3) | 消耗品費 | | 187 千円 | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 市民訪問団応募者数 | 人 | 見込 実績 | 10 10 | — — | — — | 20 20 | — — |
| ワートルロー市からの訪問団受入数 | 人 | 見込 実績 | — — | — — | 10 — | — — | 20 |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| ・ 青少年姉妹都市訪問団派遣 8/22～29 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

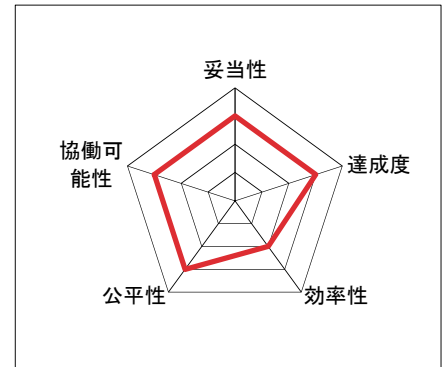
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 長久手市国際交流協会の独立を視野に入れ、姉妹都市交流については市事業として実施していく。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 7,651 千円 971 千円 △ 6,680 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・ 前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・ 前年度【コメント】 平成29年度はワートルロー市からの青少年姉妹都市訪問団を受け入れる予定であったが、ワートルロー市側の都合により中止となった。平成30年度は長久手市からの派遣を予定しており、市民への周知・啓発に努める。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 5年ぶりの青少年姉妹都市訪問団の派遣を実施するため、市民への周知に努め、ワートルロー市との調整を綿密に行った。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 20 | 40 | 20 | 40 |
| 実績 | — | — | 30 | — |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 青少年姉妹都市訪問団を20人派遣した。訪問団員と共に、国際交流協会や愛知県立大学の学生の協力を得て、訪問時のイベント企画や報告会等を実施した。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 5年ぶりに青少年姉妹都市訪問団をワートルロー市に派遣し、交流を深めることができた。実施のために、国際交流協会や愛知県立大学の学生などの協力を得ることができた。 |
|---|

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 平成31年度はワートルロー市からの訪問団を受け入れる予定であるため、ホームステイや市内観光、日本文化紹介等で市民の協力を得るために啓発や広報など進めていく必要がある。また、本市の魅力をより知ってもらえるよう、市内での交流事業等をより多く実施する必要がある。 |
|--|

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-------|-----|--------|------|---------------|
| 事業番号 | 025 - | 事業名 | 商工振興事業 | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 |
|------|-------|-----|--------|------|---------------|

| | | | | |
|-------------|--|----------------------------------|---|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ リリモでにぎわい交流するまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 「やってみたい」でつながるまち | 6-1-1 商工費 | |
| | 法定受託事務の有無 | - | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 長久手市商工業振興事業補助金交付要綱、小規模企業等振興資金融資制度要綱、長久手市信用保証料補給制度要綱 | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 市内中小企業が円滑に業を営めるよう、事業に対する補助や支援などを行う必要がある。 | | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|------------------------------------|----|---|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 個性的で魅力のある商業の振興を行う。 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市内の中小企業者 | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 地域経済の活性化を目指す | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 商工事務事業 | 拡充 | ④ | |
| | ② 小規模企業等振興事業 | 拡充 | ⑤ | | |
| | ③ 信用保証料補助事業 | 拡充 | ⑥ | | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | 千円 | 決算 | 予算 | 92,577 | 69,666 | 69,746 | 71,655 |
| 決算 | | | | 91,939 | 69,697 | 70,441 | 69,630 | |
| 人件費(B) | 千円 | 決算 | | 8,325 | 5,652 | 5,960 | 6,756 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | | 100,264 | 75,349 | 76,401 | 76,386 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|----------|--------|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A | 商工会会員数 | 人 | 目標 | 820 | 830 | 810 | 810 |
| 実績 | | | | 820 | 806 | 806 | 803 | |
| B | 銀行への預託金額 | 千円 | 目標 | 50,000 | 50,000 | 50,000 | 50,000 | 50,000 |
| | | | 実績 | 50,000 | 50,000 | 50,000 | 50,000 | |
| C | | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 事業所が増えることにより地域での商工業が活性化されるため、商工会に登録している会員数を指標とする。 | | | | | | | | |
| B 銀行へ市から預託を行うことにより銀行が市内中小企業者へ融資しやすくし、市内事業所の支援ができるため、預託金額を指標とする。 | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 瀬戸市、尾張旭市、東郷町、日進市など周辺市町村も同様の制度を設けている。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|---|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 商工会の会員数は伸びなかったが、商工会始め市内の中小企業に対し補助金や預託金などで補助を行うことで、商工業を支援し、商業の活性化を行うことができた。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 継続して商工会への補助を行いつつ、市の預託金や補給金等も行い、市内中小企業に対し支援している。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 中小企業への支援のため、金融機関への積極的なアピールが必要。 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 商工会始め、市内の中小企業に対し補助を行うことで、商工業の支援を行うため、積極的なPRを行いながら事業を継続する。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 市内中小企業に対し、健全な事業を行い市内商工業を活性化していくため、継続して支援を行っていく。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 商工振興事業 | | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 商工事務事業 | 予算区分 | 6-1-1 商工費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和60年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市内の商工会を支援するため、補助金を交付する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 地元中小企業の活性化 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-------------|------------------|------------------|------------------|------------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 38,277 38,183 | 15,723 15,519 | 15,803 15,337 | 17,628 16,326 | 18,582 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 商工会補助金 | | | 15,004 | | 千円 |
| (2) | | 商工会館用地借地料 | | | 637 | | 千円 |
| (3) | | 住民起業支援塾運営委託 | | | 580 | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----------|------------------|------------------|------------------|------------------|---------------|
| 商工会補助金 | 千円 | 見込 実績 | 19,000 14,000 | 14,000 14,000 | 14,000 14,000 | 15,500 15,005 | 14,000 |
| 経営指導員による指導 | 回 | 見込 実績 | 1,800 1,484 | 1,600 1,152 | 1,200 1,105 | 1,200 1,272 | 1,300 |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元商工会への補助金交付 ・ 地域の問題解決のための起業者を掘り起こすため、起業支援塾を開講する。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

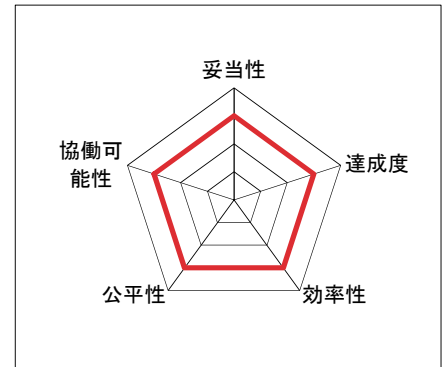
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成27年度より商工会主催による納涼まつりを中止した。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 17,628 千円 18,582 千円 954 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・ 前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・ 前年度【コメント】 |
| 商工会が市内中小企業に対し活性化の手助けをしているため、今後も引き続き事業内容を検討しながら、補助金の増額を含め、活動を補助していく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 補助金を有効活用し、商工会の経営指導員が伴走型支援に力を入れてより内容を充実させた相談を行い、市内中小企業の経営・技術の改善発達を手助けした。また、老朽化した商工会館の耐震診断を行った。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | - | - | - | - |
| 実績 | - | - | - | - |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 商工会への補助のみ対象のため。また、起業に特化した業者への委託が必要なため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 市内中小企業者への支援を行う商工会へ補助することで、市内企業の健全な経営を支援出来た。商工会への補助金額割合が他市町村より低く、商工会の財政が逼迫してきているため、増額を検討する必要がある。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 商工会が市内中小企業に対し活性化の手助けをしているため、今後も引き続き事業内容を検討しながら、補助金の増額を含め、活動を補助していく。 |

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 拡充 |
|----|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 商工振興事業 | | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 小規模企業等振興事業 | 予算区分 | 6-1-1 商工費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和61年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 年間を通して随時融資の受付を行うため、市内及び周辺の金融機関と覚書を締結し、預託金制度を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市内の中小企業者の資金の融通を円滑にする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 50,000 | 50,000 | 50,000 | 50,000 | 50,000 |
| | | 決算 | 50,000 | 50,000 | 50,000 | 50,000 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 小規模企業等振興資金貸付預託金 | | | | 50,000 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 融資件数 | 件 | 見込 | 50 | 50 | 50 | 40 | 40 |
| | | 実績 | 33 | 35 | 38 | 38 | |
| 融資金額 | 千円 | 見込 | 360,000 | 360,000 | 300,000 | 300,000 | 300,000 |
| | | 実績 | 117,556 | 123,700 | 127,200 | 210,600 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| ・市内及び近隣金融機関9行13支店に対し、小規模企業等振興資金の貸付として預託を行う。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

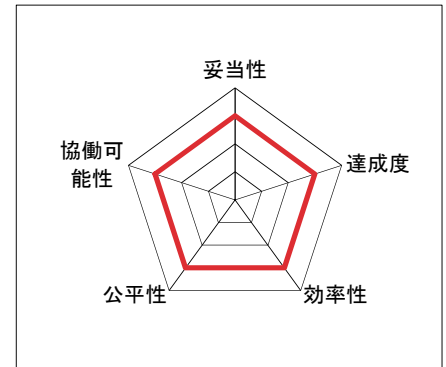
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成29年度から、小規模企業等振興資金などの利率が引き下げられ、より融資を受けやすくなった。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 50,000 千円 50,000 千円 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| 市内中小企業者からの需要もあり、金融機関が中小企業に対し資金の融通をしやすくするための制度であるため、今後も引き続き行い、融資を拡大していく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 金融機関ごとの実績に応じ、預託金額の見直しを行った。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | - | - | - | - |
| 実績 | - | - | - | - |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市内外の特定の金融機関が対象のため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 制度要綱に基づき、遅滞なく手続を進めた。融資を積極的に行う金融機関と、融資が難しい金融機関とがあり、各金融機関間で預託金額の変更などを行っている。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 市内中小企業者からの需要もあり、金融機関が中小企業に対し資金の融通をしやすくするための制度であるため、今後も引き続き行い、融資を拡大していく。また、近年市内金融機関が増加しているため、預託金の増額も検討の必要がある。 |

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 拡充 |
|----|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|-------------|-------|---------------|----------|---|--|
| 事業(A票)名 | 商工振興事業 | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 | 決算書ページ | — | |
| 事務事業名 | ③ 信用保証料補助事業 | 予算区分 | 6-1-1 商工費 | | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成6年度 | | 終了(予定)年度 | — | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 中小企業が融資を受けた際に支払う信用保証料の補助を随時受け付ける。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市内の中小企業者の負担を軽減する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|--|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 事業費 | 千円 | 予算 | 4,300 | 3,943 | 3,943 | 4,387 | 5,104 |
| | | 決算 | 3,756 | 4,178 | 5,104 | 3,304 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> (1) 信用保証料補助金 3,304 千円 (2) 千円 (3) 千円 | | | | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|--|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 件数 | 件 | 見込 | 70 | 70 | 70 | 70 | 60 |
| | | 実績 | 55 | 67 | 65 | 53 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> ・小規模資金の融資を受けた中小企業に、年1回最大15万円までの信用保証料補助を行う。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

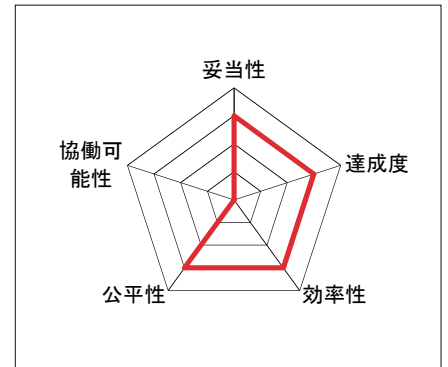
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 融資を希望する企業が徐々に増えており、信用保証料制度の活用件数も増加している。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|---|--------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 4,387 千円 | 5,104 千円 | 717 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 拡充 | |
| ・前年度【コメント】 | 信用保証料補助を利用して中小企業が融資を受けやすくすることにより、中小企業の倒産や流出を防ぐ。近年、1件あたりの補助金額が増額しているため、今後の予算額増額も視野に入れ、引き続き更なるPRを行うなどして事業を実施していく。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 金融機関からの補給金申請は減少したが、チラシ等による制度PR等を行い、融資を受けやすい体制づくりをした。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | - | - | - | - |
| 実績 | - | - | - | - |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市が行う補助金の為。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 金融機関へのPRはできているが、融資を希望する中小企業への制度のPRが不足しているため、チラシなどを作成して金融機関が企業への融資をする際に活用できるようにする必要がある。 |
|--|

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 信用保証料補助を利用して中小企業が融資を受けやすくすることにより、中小企業の倒産や流出を防ぐ。近年、1件あたりの補助金額が増額しているため、引き続き更なるPRを行うなどして事業を実施していく。 |
|--|

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-----|-----|---------|------|---------------|
| 事業番号 | 026 | 事業名 | 市民まつり事業 | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 |
|------|-----|-----|---------|------|---------------|

| | | | | |
|-------------|---------------|---|-----------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | 予算区分(款 一 項 一 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 「やってみたい」でつながるまち | 6-1-1 商工費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ ながくて市民まつり実行委員会規約 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | | 平成24年度から、市が主体で行っていた市民まつりを、市民が主体となり実行委員会を組織して企画や運営を行うこととなった。 | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|--|----|---|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 行政主導で実施してきた市民まつりを、市民が主体となって実行委員会を組織し、まつり全体の企画・運営を行う。 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民 | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 地域文化、産業の発展・向上を目指すため、市民相互のふれあいの場を創出する。 | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 市民まつり事業 | 拡充 | ④ | |
| | | ② | | ⑤ | |
| | | ③ | | ⑥ | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|--------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | 千円 | 決算 | 予算 | 2,854 | 3,100 | 3,100 | 3,300 |
| 決算 | | | | 2,801 | 2,978 | 3,090 | 3,297 | |
| 人件費(B) | 千円 | 決算 | 7,714 | 4,354 | 7,491 | 8,107 | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 10,515 | 7,332 | 10,581 | 11,404 | | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------------------------------|---|-----------|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A | 市民まつり来場者数 | 人 | 目標 | 18,000 | 19,000 | 22,000 | 24,000 |
| 実績 | | | | 18,000 | 21,000 | 23,000 | 22,000 | |
| B | | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| C | | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A | 実際に市民まつりに来場した人数を指標とする。雨天の場合は来場者数が減るものの全体的に増加傾向にあるため、前年度より1千人の増加を見込んだ。 | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 瀬戸市、尾張旭市、東郷町、日進市等、近隣市町村も同様のまつりを開催している。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|---|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 前年度より来場者は減少したが、まつり自体の規模は同程度だった。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 近年は天候に恵まれているため、来場者が年々増加している。健康展やリサイクルマーケットを同時開催しており、相互的な来場も増加している。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 市民まつりへの来場者は増えているが、毎年同じ形式で行うだけでなく、新しい企画を検討する必要がある。 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 市民主体の実行委員会による企画・運営を通じて市民同士の交流や連帯意識が生まれているため、毎年同じ形式で行うだけでなく新しい企画を検討しつつ、引き続き実行委員会により開催する。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 現在は市が務めている事務局を3年後を目指し実行委員会が担うようにし、実行委員会が企画だけでなく運営も行う。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会の自立を目指してください。 ・市民主体の事業とするよう、実行委員会の自立を目指すとともに、事業規模の見直しを検討し、経費の節減に努めてください。 ・市民まつり実行委員会の事務局機能や当日スタッフとしての役割について、業務であること(人件費が発生していること)を実行委員会メンバーと共に認識し、役割を再検討してください。 ・市民まつり実行委員会としての収入も検討してください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|---------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 市民まつり事業 | | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 市民まつり事業 | 予算区分 | 6-1-1 商工費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成24年度 | 終了(予定)年度 | - | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民が主体となって実行委員会を組織し、まつり全体の企画・運営を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 地域文化、産業の発展・向上を目指すため、市民相互のふれあいの場を創出する |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 2,854 | 3,100 | 3,100 | 3,300 | 3,300 |
| | | 決算 | 2,801 | 2,978 | 3,090 | 3,297 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 市民まつり実行委員会補助金 | | | | 3,297 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|----------------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 実行委員会人数 | 人 | 見込 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| | | 実績 | 14 | 24 | 10 | 14 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| ・市民まつり実行委員会に補助金を交付し、まつりの企画運営を行う。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

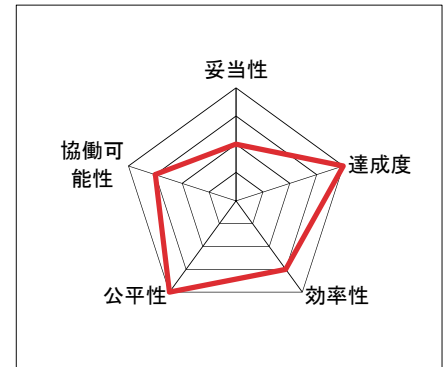
| |
|-----------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 平成24年度から、実行委員会形式の市民まつりとなった。 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 3,300 千円 3,300 千円 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| 市民主体の実行委員会による企画・運営を通じて市民同士の交流や連帯意識が生まれているため、今後も補助金を交付し、実行委員会による開催を引き続き行う。今後はより主体的に行うため、実行委員会が担う事務を順次増やしていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 実行委員が担う事務を、昨年度より増加させた。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 2 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|---------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| 実績 | 24 | 10 | 14 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市民から実行委員を募集し、まつりの運営等を行った。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 個別で行っていた健康展などの他事業と連携し、同時開催で事業を行った。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 市民主体の実行委員会による企画・運営を通じて市民同士の交流や連帯意識が生まれているため、今後も補助金を交付し、実行委員会による開催を引き続き行う。今後は運営も主体的に行えるよう、実行委員会が担う事務を更に増やしていく。 |

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 拡充 |
|----|

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-------|-----|----------|------|---------------|
| 事業番号 | 027 - | 事業名 | 観光交流推進事業 | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 |
|------|-------|-----|----------|------|---------------|

| | | | | | |
|------|---------------|---|-----------------|------|--|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ リリモでにぎわい交流するまち | 会計区分 | 一般会計 | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「みどり」～ふるさと(生命ある空間)の風景を子どもたちに～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪 | 6-1-2 観光費 | | |
| | 法定受託事務の有無 | - | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 第2次長久手市観光交流基本計画 | | |
| | 事業開始の背景、経緯等 | 愛知万博を契機に長久手市(長久手町)観光交流推進会議が発足し、平成28年1月に長久手市観光交流協会として独立した。 | | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|---|----|---|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 長久手市観光交流基本計画の理念にのっとり、観光交流資源の開発や観光交流施設及び行事等の紹介、宣伝を行い、観光交流人口の増加を図り、もって市の活性化に取り組む。 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民・観光者・来訪者 | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) リリモを基軸としたネットワークで観光資源や歴史的・文化的資源を結び、新たな観光交流を推進し、魅力あるまちづくりを目指す。 | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 観光PR事業 | 拡充 | ④ | |
| | | ② | | ⑤ | |
| | | ③ | | ⑥ | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|--------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 18,165 | 18,695 | 22,031 | 22,031 | 22,061 |
| | | | 決算 | 11,957 | 18,733 | 21,362 | 21,693 | |
| 人件費(B) | 千円 | 決算 | 9,394 | 5,118 | 5,719 | 8,468 | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 21,351 | 23,851 | 27,081 | 30,161 | | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 観光者数 | 千人 | 目標 | 3,000 | 2,800 | 2,800 | 2,900 | 2,900 |
| | | | 実績 | 3,223 | 2,841 | 2,863 | 2,880 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) 観光PRを行った結果増加すると思われる観光者数を成果指標とする。平成27年度は都市緑化あいちフェアのため短期的に増加を見込んだが、翌年度からは平成28年度並みに戻った。しかし、過去5年間の実績は増加傾向にあるため、平成31年度も増加する指標とした。 | | | | | | | | |
| A | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 尾張旭市観光協会、瀬戸市まるっとミュージアム・観光協会、豊明市観光協会、みよし市観光協会 平成28年1月に長久手市観光交流協会が独立し、平成31年4月には一般社団法人化予定。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 補助金を交付している市観光交流協会が、市内外での観光イベントでブースを設置し、観光ガイドブックや市内集客施設のパフレットなどで市の観光PRや交流などを行い、目標を達成出来た。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 平成28年に観光交流協会が市から独立し、独自の観光PRを行っている。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 観光資源を活用したPRは行っているが、施設間や団体間の連携はあまり出来ていないため、連携の必要がある。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 観光施設や商工団体、住民団体などとの連携を強化して、既存の観光資源を最大限に生かしながら、長久手の新たな魅力を創出する人材の発掘、育成が必要。また、特産品になり得る資源の発掘が必要。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 補助金を有効的に活用しながら、より観光PR等を強化するため、今年度中に観光交流協会として法人化する。また、平成29～31年度に県の補助金を活用し、特産品となり得る資源を具体化し、観光交流協会により市PRのためのツールとして活用する。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|----------|--------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 観光交流推進事業 | | 担当部課 | くらし文化部たつせがある課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 観光PR事業 | 予算区分 | 6-1-2 観光費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成16年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・市観光交流協会が、市内外での観光イベントでブースを設置し、観光ガイドブックや市内集客施設のパンフレットなどで市の観光PRや交流などを行うことを目的に補助金を交付する。 ・市の特産品となり得る資源を発掘するため、県の補助金を活用した地域ブランディング事業を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 交流を促進し、市の活力と魅力を高める。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 18,165 | 18,695 | 22,031 | 22,031 | 22,061 |
| | | 決算 | 11,957 | 18,733 | 21,362 | 21,693 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 観光交流協会補助金 | | | | 18,771 | 千円 |
| (2) | | 地域ブランディング事業委託 | | | | 2,689 | 千円 |
| (3) | | 観光事業負担金 | | | | 120 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|-------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 補助金交付 | 千円 | 見込 | 18,000 | 18,600 | 18,771 | 18,771 | 18,771 |
| | | 実績 | 11,860 | 18,600 | 18,771 | 18,771 | |
| 観光者数 | 千人 | 見込 | 3,000 | 2,800 | 2,800 | 2,900 | 2,900 |
| | | 実績 | 3,223 | 2,841 | 2,863 | 2,880 | |

<備考：活動の概要(30年度(2018))>
 ・市観光交流協会への補助金交付
 ・地域ブランディング事業における資源発掘委託
 ・平成30年秋開催の愛知デザインフェスティバルキャンペーンに伴う、県への負担金

4. 事務事業を取り巻く環境変化

(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
 平成27年度に都市緑化あいちフェアが開催。
 平成28年1月に観光交流協会独立。
 平成28年12月～29年1月までトヨタ博物館休館。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況

| | | |
|------------|------------|-------|
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 22,031 千円 | 22,061 千円 | 30 千円 |

(2) 前年度の評価状況《参考》

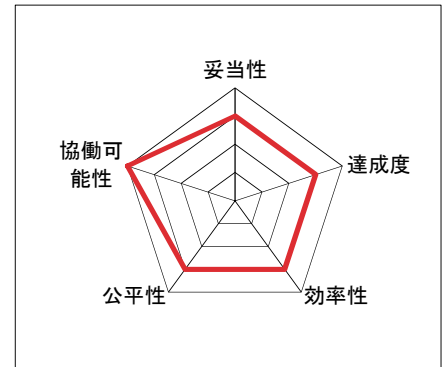
| | |
|--------------|---|
| ・前年度【今後の方向性】 | 拡充 |
| ・前年度【コメント】 | ・観光施設や商工団体、住民団体などとの連携を強化して、既存の観光資源を最大限に生かしながら、長久手の新たな魅力を創出する人材の発掘、育成を行うため、引き続き協会へ補助金を交付する。 ・平成29年度から31年度までの事業として、市の特産品開発を目指し、資源発掘のための計画作り等を行う。 |

(3) 改善状況

(何をどのような状態に改善したのか)
 補助金を交付している市観光交流協会が、市内外での観光イベントでブースを設置し、観光ガイドブックや市内集客施設のパンフレットなどで市の観光PRや交流などを行った。
 また、NTTドコモへ引き続き委託し、地域ブランディングプランに基づいて特産品となり得る資源発掘を行った。

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 4 |



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)

| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|----|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 見込 | - | - | - | - |
| 実績 | - | - | 62 | - |

(2) 協働の状況(30年度(2018))
 (協働で取り組んだこと、評価できない理由など)
 地域ブランディング事業の中で、主に市民がバイクシェア事業に参加した。

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
 市と協会で役割を明確にし、協会設立後3年が経過して協会独自で事業や事務を行っており、会員主導の事業が徐々に増えてきている。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
 ・観光施設や商工団体、住民団体などとの連携を強化して、既存の観光資源を最大限に生かしながら、長久手の新たな魅力を創出する人材の発掘、育成を行うため、引き続き協会へ補助金を交付する。
 ・平成29年度から31年度までの事業として、市の特産品開発を目指し、30年度に発掘した資源を具体化する。

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-----|-----|--------|------|---------------|
| 事業番号 | 028 | 事業名 | 市民相談事業 | 担当部課 | くらし文化部悩みごと相談室 |
|------|-----|-----|--------|------|---------------|

| | | | | |
|-------------|--|-------------------------------------|-----------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 一 項 一 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | 2-1-1 一般管理費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市悩みごと相談室相談員設置要綱、長久手市市民相談業務実施要綱 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 困りごとを抱えた市民からの相談について、関連部署や関係機関と情報共有、連携すると共に、専門家の適正配置を進めることで、複雑化する問題の早期解決を図る必要があるため。 | | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|---|--------|---|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 困りごとを抱えた市民の生活再建を図るため、関係機関と連携して支援するほか、行政では対応できない問題については、法律相談等の専門相談につなぐなど適切な相談支援を行います。また、戸別訪問により地域課題の把握に努めます。 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 困りごとを抱えた市民 | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 問題を解決し、生活再建を図る。 | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 市民相談事業 | 改善・見直し | ④ | |
| | | ② | | ⑤ | |
| | | ③ | | ⑥ | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | 千円 | 決算 | 予算 | 0 | 5,052 | 3,462 | 4,735 |
| 決算 | | | | 1,327 | 3,414 | 1,601 | 2,008 | |
| 人件費(B) | 千円 | 決算 | | - | 5,347 | 29,613 | 29,294 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | | - | 8,761 | 31,214 | 31,302 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 相談件数 | 件 | 目標 | 360 | 360 | 360 | 360 | 400 |
| | | | 実績 | 328 | 356 | 466 | 461 | |
| | B 訪問件数 | 件 | 目標 | — | — | 2,400 | 3,200 | 2,800 |
| | | | 実績 | — | — | 2,394 | 2,161 | |
| C | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 過去の相談実績を参考に相談実施回数から算出する。

B 過去の訪問実績、対象地区の世帯数、住居形態、世帯構成などを参考に算出する。

C

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 全国的に地域共生社会の実現に向けた「包括的支援体制構築事業」が進められている。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|---|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 相談件数について、市民相談室設置から4年が経過し、相談室の認知度も高まり一般相談件数が増加した。戸別訪問について、北小校区全域の訪問を行った。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 多機関協働相談支援包括化推進事業を推進し、複合的な課題や制度の対象とならない課題も持つ世帯に対しても、総合的に相談に応じる包括的な支援システムの構築を目指している。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 各相談窓口等が把握している生活再建や見守りが必要な個人又は世帯の情報共有体制の構築が必要である。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 包括的な支援体制の構築、運営のシステム化を図る。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 困りごとを抱えた市民を関係機関と連携して支援するほか、法律相談等の専門相談につなぐなど適切な相談支援を行います。制度の対象とならない課題についても、相談支援包括化推進員を中心とした相談支援体制に適切に繋げるシステムの構築を図る。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 市民相談事業 | | 担当部課 | くらし文化部悩みごと相談室 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 市民相談事業 | 予算区分 | 2-1-1 一般管理費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成16年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民に対し、随時受け付ける一般相談のほか、交通・相続相談、司法書士相談、法律相談を定期的に行っている。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 困りごとを抱えた市民の生活再建支援を図る。戸別訪問により地域課題の把握に努める。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|-----------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 0 | 5,052 | 3,462 | 4,735 | 1,431 |
| | | 決算 | 1,327 | 3,414 | 1,601 | 2,008 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 専門相談員委託料 | | | | 690 | 千円 |
| (2) | | 一般事務嘱託員報酬 | | | | 497 | 千円 |
| (3) | | 専門相談員謝礼 | | | | 330 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 相談件数 | 件 | 見込 | 360 | 360 | 360 | 360 | 400 |
| | | 実績 | 328 | 356 | 466 | 461 | |
| 訪問件数 | 件 | 見込 | — | — | 2,400 | 3,200 | 2,800 |
| | | 実績 | — | — | 2,394 | 2,161 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 一般相談 随時 法律相談 月2回 交通事故、相続相談 月1回 司法書士相談 月3回 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

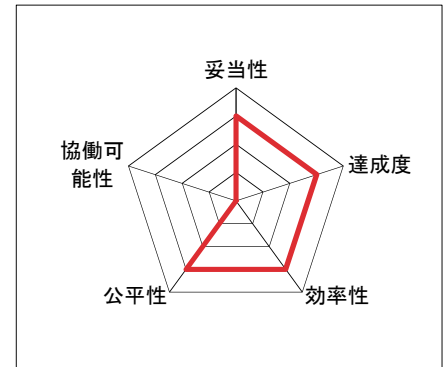
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 全国的に地域共生社会の実現に向けた「包括的支援体制構築事業」が進められている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 4,735 千円 1,431 千円 △ 3,304 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| <ul style="list-style-type: none"> 相談支援体制の強化と相談支援包括化推進員を中心とした多機関協働相談支援包括化推進事業の推進を図る。 地域課題を把握するため、順次、新たな校区における戸別訪問を実施する。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| <ul style="list-style-type: none"> 多機関協働相談支援包括化推進事業を推進し、複合的な課題や制度の対象とならない課題も持つ世帯に対しても、総合的に相談に応じる包括的な支援システムの構築を目指している。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 個人情報に関わるため市民との協働には適さない。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 戸別訪問時に留守宅に配布したチラシを見て悩みごと相談室に相談しに来るケースがあった。 |

【改善ポイント】

| |
|--------------------------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 戸別訪問で把握した地域課題を地域で解決していく仕組みづくりが必要である。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-----|-----|-----------|------|---------------|
| 事業番号 | 029 | 事業名 | 消費者行政推進事業 | 担当部課 | くらし文化部悩みごと相談室 |
|------|-----|-----|-----------|------|---------------|

| | | | | |
|-------------|--|----------------------------------|-----------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | 6-1-1 商工費 | |
| | 法定受託事務の有無 | ✓ 消費者安全法、長久手市消費生活センター条例 | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市消費生活相談設置要領 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 適切な情報の提供や相談業務の充実により、消費生活における被害防止を図り、住民一人ひとりが正しい知識を持ち、安心して安全な消費生活を送ることができるようにする必要があるため。 | | | |

| | | | | |
|-------|-----------------|--|--------|---|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 市民に対し消費生活講座や消費者啓発リーフレットの作成・配布を行います。消費生活に関する相談に対応し、被害の未然防止や救済・解決を支援します。 | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 消費者である市民 | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 消費者の安全・安心を守り、豊かな消費生活を実現する。 | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 消費者生活啓発事業 | 改善・見直し | ④ |
| | ② 消費者生活相談事業 | 改善・見直し | ⑤ | |
| | ③ | | ⑥ | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | 3,030 | 3,264 | 3,387 | 2,964 |
| 決算 | | | | 1,805 | 2,520 | 3,151 | 2,709 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | — | 9,242 | 9,168 | 6,301 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | — | 11,762 | 12,319 | 9,010 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-----------|------------|----|-----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 啓発リーフレット | 枚 | 目標 | 26,000 | 27,000 | 27,000 | 4,600 | 4,000 |
| | | | 実績 | 26,700 | 26,700 | 28,300 | 2,850 | |
| | B くらしの講座 | 人 | 目標 | 20 | 20 | 40 | 40 | 40 |
| 実績 | | | 10 | 26 | 48 | 70 | | |
| C 消費者生活相談 | 件 | 目標 | 120 | 120 | 140 | 140 | 180 | |
| | | 実績 | 178 | 152 | 186 | 218 | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 市民の消費者としての意識を高めるため、必要な消費者啓発リーフレットを作成し、配布する。

B 日常生活に役立つ知識を学ぶ「くらしの講座」を開催する。各回の定員を30名とする。

C 過去の相談実績を参考に相談実施回数から算出する。

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 国県等により自治体の消費生活センター設置及び消費者行政の強化が進められている。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 啓発活動は、概ね目標を達成している。 相談件数についても、目標値は達成しているが、まだ周知の余地がある。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 相談状況を考慮しつつ、相談日を増加し、平成30年3月に消費生活センターを開設した。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 消費生活について、被害の対象となりやすい高齢者に啓発情報が届きにくい。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 平成30年3月に設置した消費生活センターにおいて、消費生活相談及び啓発事業の充実を図る。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 地域における高齢消費者の見守り体制を構築する共に成人年齢の引下げに伴う若年層への啓発拡充を行う。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|-----------|-----------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 消費者行政推進事業 | | 担当部課 | くらし文化部悩みごと相談室 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 消費者生活啓発事業 | 予算区分 | 6-1-1 商工費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民に対し消費生活講座の開催や消費者啓発リーフレットの作成、配布等をする。また、市内消費者団体の支援のため、補助金を交付する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 消費生活トラブルを未然に防ぎ、市民の消費者としての意識を高める。また、市内の消費者団体の知識を向上させる。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 3,030 1,805 | 866 389 | 879 373 | 807 728 | 789 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 印刷製本費 | | | | | 521 千円 |
| (2) | | 消費者団体補助金 | | | | | 50 千円 |
| (3) | | 商品量目取締計量商品購入委託 | | | | | 42 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 啓発リーフレット | 枚 | 見込 | 26,000 | 27,000 | 27,000 | 4,600 | 4,000 |
| | | 実績 | 26,700 | 26,700 | 28,300 | 2,850 | |
| くらしの講座 | 人 | 見込 | 20 | 20 | 40 | 40 | 40 |
| | | 実績 | 10 | 26 | 48 | 70 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 高齢者及び若者向け消費者啓発リーフレットの作成・配布。くらしの豆知識の配布やくらしの講座の開催。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

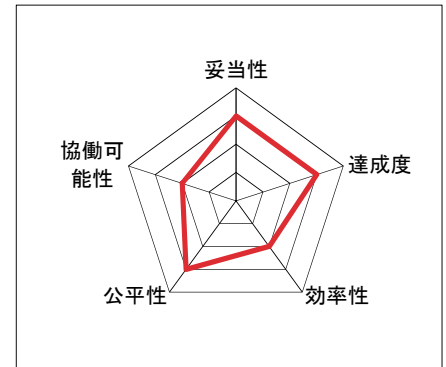
| |
|------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 平成30年3月 消費生活センター開設 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 807 千円 789 千円 △ 18 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| 啓発リーフレットの配布方法やくらしの講座等について、消費者がより理解しやすく興味を持って参加できるような内容や方法を検討し、開催する。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 啓発リーフレットの配布方法を広報折り込みの全戸配布から、サロン等の集まりや戸別訪問の際の手渡しに変更し、消費者がより関心を持てるようにした。また、くらしの講座に寸劇や体験型の内容を取り入れることで、理解しやすく興味を持って参加できるような内容とした。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 2 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|----------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | 63 | 63 |
| 実績 | | | 63 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 民生委員・児童委員に高齢者宅訪問の際の啓発冊子の配布を依頼した。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 啓発冊子の配布方法を変更したことにより、市民と直接の対話できる機会が増え、注意喚起を促すことができた。 |

【改善ポイント】

| |
|----------------------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 高齢者への啓発の充実と共に若年層への啓発方法の検討が必要である。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|-----------|-----------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 消費者行政推進事業 | | 担当部課 | くらし文化部悩みごと相談室 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 消費者生活相談事業 | 予算区分 | 6-1-1 商工費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成16年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 消費生活相談員が市民の契約トラブル・金融商品トラブル・製品事故などの相談に応じる また、積極的に情報収集及び共有を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 被害の救済及び拡大の防止 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | — — | 2,398 2,131 | 2,508 2,778 | 2,157 1,981 | 2,191 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 消費生活相談員謝礼 | | | | 1,865 | 千円 |
| (2) | | 通信運搬費 | | | | 67 | 千円 |
| (3) | | 特別旅費 | | | | 39 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 消費生活相談 | 件 | 見込 | 120 | 120 | 140 | 140 | 180 |
| | | 実績 | 178 | 152 | 186 | 218 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 週4回(月：9:00~12:00、 火・水・金：10:00~16:00 ※12:00~13:00を除く) | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

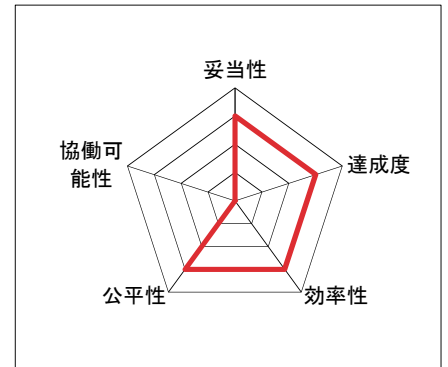
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成30年3月に消費生活センターを開設した。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 2,157 千円 2,191 千円 34 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 消費生活センターの周知を進め、消費トラブルの相談を図るとともに、被害の未然防止のため対象者を絞った啓発や見守り体制の構築を図る |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 消費生活センターの周知、啓発を行い、いち早く相談につなげられるよう取り組んだ。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) 個人情報に関わるため市民との協働には適さない。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 消費生活センターの啓発を兼ねて、相談員が地域のサロン等に出向いて説明を行う取組を始めた。 |
|--|

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 消費生活センターの更なる周知と共に、相談実績、状況等を考慮して、柔軟な相談体制の構築、見直しが必要である。 |
|---|

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|------------------------------|--|---|--------|------------|-----------------|-------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 030 | 事業名 | 交通安全事業 | | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | | | 会計区分 | 一般会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | | | 予算区分(款 一 項 一 目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | | | 2-1-11 交通安全対策費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | — | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 交通事故のない社会の実現を目指した取組を推進し、市民が安全に安心して暮らすことができる社会の実現に寄与することを目的とする。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 交通安全街頭活動及びキャンペーンの実施、並びに高齢者及び自転車利用者等を対象とした交通安全教室の開催等を行う。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 交通安全意識を高め、交通事故のないまちを目指す。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 交通安全対策事業 | 改善・見直し | ④ | | | | |
| | ② 交通安全啓発事業 | 改善・見直し | ⑤ | | | | | |
| | ③ | | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 19,677 | 18,408 | 18,458 | 18,172 | 17,994 |
| | | | 決算 | 18,554 | 17,108 | 17,084 | 17,608 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | - | 3,819 | 4,752 | 4,769 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | - | 20,927 | 21,836 | 22,377 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 人身事故 | 件 | 目標 | 341 | 328 | 291 | 327 | 281 |
| | | | 実績 | 345 | 306 | 344 | 296 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 市内で発生した人身事故の件数(5%減少を目指す) | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成27年6月1日の道路交通法の改正により、交通の危険を生じさせるおそれのある一定の違反行為(危険行為)を反復して行った自転車の運転者に対し、自転車運転者講習制度が始まった。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 人身事故件数は、前年を下回り、目標を達成した。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 子どもを対象とした交通安全教室の実施に加え、高齢者を対象とした講習会を開催した。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 人身事故件数は、前年を下回り、目標を達成したが、交通事故被害者の約6割が高齢者であることから、高齢者の事故を減少させるための周知、啓発を行って行く必要がある。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) より多くの市民に周知、啓発できるよう、啓発方法等を検討する。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 市内で、交通事故死ゼロの日が1日でも長く継続することを目標に、継続して啓発活動を行う。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 交通安全事業 | | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 交通安全対策事業 | 予算区分 | 2-1-11 交通安全対策費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成16年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・児童を対象 ・交通指導員が児童に対し、交通安全教育、登下校の通行指導や交通安全のための各種啓発活動などを行う。 ・市内にある6小学校すべてに、交通指導員を各校2名ずつ配置している。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 交通安全教室・指導を通して、児童生徒が自らの身の安全を守る行動ができるように育成する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|---------------|------------------|------------------|------------------|------------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 16,284 15,521 | 15,282 14,117 | 15,278 14,389 | 14,922 14,458 | 15,109 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 交通指導員報酬 | | | | | 12,332 千円 |
| (2) | | 消耗品費 | | | | | 902 千円 |
| (3) | | 交通安全協会愛知支部負担金 | | | | | 684 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 交通指導員人数 | 人 | 見込 実績 | 12 12 | 12 11 | 12 12 | 12 12 | 12 |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 交通指導員が児童に対し、交通安全教育、登下校の通行指導や交通安全のための各種啓発活動などを行う。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

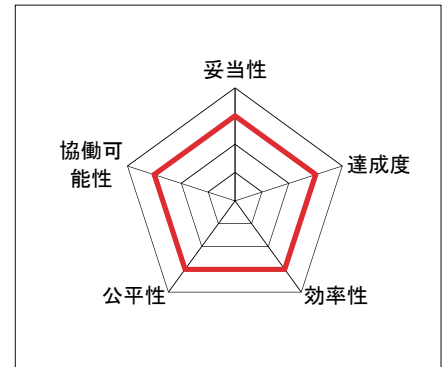
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・交通指導員は、実践的な交通指導を目的として各小学校区に配置しているが、最近では、児童の安全確保全般に期待されると感じる。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 14,922 千円 15,109 千円 187 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| 交通指導員が、日頃の交通安全指導の中で、特に伝えたいと感じている、指導ポイントを盛り込んだ交通安全教室の内容を検討する。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 交通指導員が、日頃の交通安全指導の中で、特に伝えたいと感じている、指導ポイントを盛り込んだ内容の交通安全教室を実施した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---------------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市内保育園や幼稚園の協力を得て、交通指導員による交通安全教室等を実施した。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 交通指導員が、日頃の交通安全指導の中で、特に伝えたいと感じている、指導ポイントを盛り込んだ内容の交通安全教室を実施した。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 平成31年度より、交通指導員が2名欠員となることから、引き続き募集を行うとともに、勤務体系についても検討が必要である。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 交通安全事業 | | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 交通安全啓発事業 | 予算区分 | 2-1-11 交通安全対策費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成16年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・ 市民対象 ・ 交通安全に関する講習会やキャンペーンを実施する。 交通事故被害者の約6割を高齢者が占めており、高齢者に対する啓発がより必要となってきた。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 交通安全意識の向上を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 3,393 3,033 | 3,126 2,991 | 3,180 2,695 | 3,250 3,150 | 2,885 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 消耗品 | | | | | 2,765 千円 |
| (2) | | 印刷製本費 | | | | | 307 千円 |
| (3) | | 交通安全啓発グッズコンクール賞品 | | | | | 68 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 交通安全講習会 開催回数 | 回 | 見込 実績 | 21 33 | 25 32 | 25 40 | 25 33 | 25 |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児交通安全教室 ・ シルバー安全講習会 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

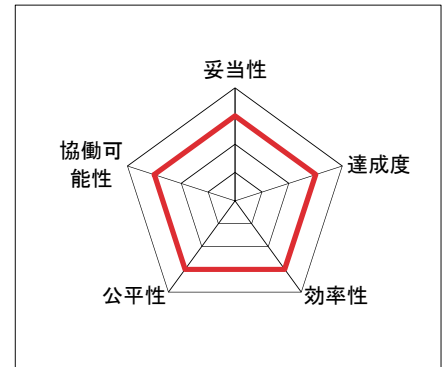
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 交通事故被害者の約6割が高齢者である一方で、高齢者が加害者と交通事故も社会的に取り上げられることが多くなった。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 3,250 千円 2,885 千円 Δ 365 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・ 前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・ 前年度【コメント】 小中学生を対象とした「交通安全啓発グッズデザインコンクール」は市独自の取り組みであり、また、交通安全意識の向上のためには、子どものころからの意識付けが重要であることから、引き続き事業を継続していきたい。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 高齢者が交通事故に遭わないよう、高齢者に特性に合った啓発を行った。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) 市内の大学等や高校の協力を得て、交通安全啓発キャンペーンを実施した。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 長久手市自転車の安全利用の促進に関する条例を制定した。 |
|---|

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 市内において、高齢者が被害者となる交通死亡事故発生した。今後、高齢者が被害者とならう啓発を行う必要がある。 |
|---|

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-------|-----|----------|------|-------------|
| 事業番号 | 031 - | 事業名 | 巡回バス運行事業 | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 |
|------|-------|-----|----------|------|-------------|

| | | | | |
|-------------|---|----------------------------------|-----------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ リリモでにぎわい交流するまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | 2-1-12 巡回バス運営費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | — | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 平成9年の住民意識調査において、住民ニーズの最も高い項目として「公共交通機関の整備や利用」が挙げられるなど、公共交通の整備・充実が多くの市民の要望であることがわかった。このため、当時、先進自治体でその活用が模索され始めた“巡回バス”や“コミュニティバス”に着目し、新たな市民の足づくりに向けた検討を始め | | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|--|--------|---|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 市内巡回バス「N-バス」として、小型バス5台、ワンボックス車1台を運用し、7ルート、74便/日、年間361日(年末試行運行を含む)の運行を行う。 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民 | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) ・市内交通空白地帯の解消・公共施設の利便性の向上・高齢者や子ども等交通弱者の社会参加の促進・子育て支援 | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 巡回バス運行事業 | 改善・見直し | ④ | |
| | | ② | | ⑤ | |
| | | ③ | | ⑥ | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | 102,516 | 112,657 | 114,275 | 118,454 |
| 決算 | | | | 107,644 | 109,886 | 111,899 | 114,816 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | — | 5,347 | 5,558 | 5,564 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | — | 115,233 | 117,457 | 120,380 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------------------------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 乗車人数 | 千人 | 目標 | — | — | — | 265 | 261 |
| | | | 実績 | 241 | 244 | 262 | 261 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| C | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 前年度実績 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 「市内交通空白地帯の解消」、「公共施設の利便性の向上」、「高齢者や子ども等交通弱者の社会参加の促進」を目的として運行を始めたN-バスだが、近年では、公共交通としての利便性を求められるようになり、ニーズの変化を感じる。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 前年度実績と比べ、0.5%減となった。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 平成28年4月に路線再編、平成29年10月に公園西駅駅前広場供用開始により三ヶ峯線のためのダイヤ改正を行った。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) イケア、イオンの開業や交通集中により夕方や週末に遅延が発生している。 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 運行を継続することにより、引き続き市民のための公共交通となる。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成28年4月の路線再編後の乗車人数や移動ニーズを参考に、市内の他の公共交通との役割分担を含め検討し、路線再編を実施する。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・料金体系の見直しや、新たな公共交通(N-タク)施策の実施に伴うN-バスの見直しなど、公共交通施策体系全体で、適正な受益者負担を求めつつ、一般財源の抑制が図れるような方向で検討してください。 ・第6次総合計画、中期財政計画及び行政改革指針を踏まえ、受益者負担の見直しについて、検討してください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 巡回バス運行事業 | | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 巡回バス運行事業 | 予算区分 | 2-1-12 巡回バス運営費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成10年度 | 終了(予定)年度 | | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・ 市民対象 ・ 市内巡回バス「Nーバス」として、小型バス5台、ワンボックス車1台を運用し、7ルート、74便/日、年間361日（年末試行運行を含む）の運行を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) ・ 市内交通空白地帯の解消・公共施設の利便性の向上 ・ 高齢者や子ども等交通弱者の社会参加の促進 ・ 子育て支援 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 120,516 107,544 | 112,657 109,886 | 114,275 111,899 | 118,454 114,816 | 121,916 |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | 巡回バス運行業務負担金 | | | | | 112,118 千円 |
| (2) | | バス停表示変更作業委託 | | | | | 1,304 千円 |
| (3) | | 印刷製本費 | | | | | 644 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 乗車人数 | 人 | 見込 | — | — | — | 265 | 261 |
| | | 実績 | 241 | 244 | 262 | 261 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| 市内にオープンした大型商業施設の影響で、特に週末で遅延が発生していることから、平成31年4月にダイヤ改正を実施するため、検討を行った。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

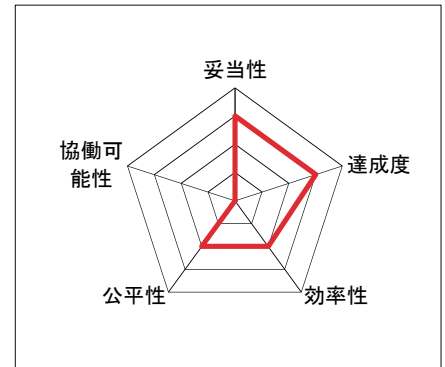
| |
|-------------------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 市内にオープンした大型商業施設の影響で、特に週末で遅延が発生している。 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 118,454 千円 121,916 千円 3,462 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・ 前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・ 前年度【コメント】 |
| 現在運休している年末の運行について、試行運行をあと数年実施し、検討する。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 市内にオープンした大型商業施設の影響で、特に週末で遅延が発生していることから、平成31年4月にダイヤ改正を実施するため、検討を行った。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 2 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 市内にオープンした大型商業施設の影響で、特に週末で遅延が発生していることから、平成31年4月にダイヤ改正を実施するため、検討を行った。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 平成28年4月の路線再編後の乗車人数や移動ニーズを参考に、市内の他の公共交通との役割分担を含め検討し、路線再編を実施する。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | | | |
|------------------------------|------------------------|--|--------|------------|------------|-----------------|------------|-------------|--|--|
| 事業番号 | 032 - | 事業名 | 防犯事業 | | | | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | | | | 会計区分 | 一般会計 | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | | | | 予算区分(款 - 項 - 目) | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | | | | 2-1-13 防犯費 | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | — | | | | | | | | |
| | 事業開始の背景、経緯等 | 県内の刑法犯認知件数は、平成6年と比べて平成15年には倍増するなど治安の悪化が心配されたため、平成16年に、愛知県安全なまちづくり条例が制定された。市としても市、市民、事業者の責務や取り組むべき施策の基本事項を定め、三位一体となって安全で安心して暮らせる社会を実現させることを目的とし、事業に取り組んでいる。 | | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) ①街頭活動やキャンペーンの実施、児童、高齢者及び市民を対象とした防犯教室の開催等により、市民の防犯意識の啓発、地域の絆づくりを推進する。 ②地域の自主防犯ボランティア団体の設立支援、育成を行い、地域防犯を推進する。 | | | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民、自主防犯団体、自治会等 | | | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 防犯意識を高め犯罪のないまちを目指す。 | | | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 防犯対策事業 | 改善・見直し | ④ | | | | | | |
| | ② 自主防犯活動支援事業 | 改善・見直し | ⑤ | | | | | | | |
| | ③ 防犯啓発事業 | 改善・見直し | ⑥ | | | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | | |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 4,485 | 6,305 | 5,063 | 2,004 | 2,641 | | |
| | | | 決算 | 4,632 | 6,488 | 4,264 | 1,681 | | | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 4,582 | 4,583 | 3,947 | 3,974 | | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 9,214 | 11,071 | 8,211 | 5,655 | | | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | | |
| | A 刑法犯認知件数 | 件 | 目標 | 790 | 584 | 488 | 469 | 321 | | |
| | | | 実績 | 648 | 542 | 521 | 338 | | | |
| | B | | 目標 | | | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | | | |
| A | 市内発生 of 刑法犯認知件数(5%の減少) | | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 愛知県内では、高齢者が被害に遭う特殊詐欺が、依然発生している。 | | | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 刑法犯が35%減少し、刑法犯認知件数が設定した目標数を下回った。 | | | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 毎年、刑法犯認知件数が減少している。 | | | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 刑法犯認知件数は減少しており、防犯啓発活動は一定の効果があったと考えるが、犯罪手口は多様化、複雑化していることから、警察等と連携し、啓発活動を進める必要がある。 | | | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) より多くの市民に周知、啓発できるよう、啓発方法等を検討する。 | | | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 高齢化が進む自主防犯ボランティア団体が、継続して活動できるよう、担い手の確保につながる支援を行う。 | | | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | <ul style="list-style-type: none">・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。・市民の防犯意識の向上により、活動が拡大するものと考えます。・セーフティステーションの運営を含め、協働事業として検討してください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|----------|--------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 防犯事業 | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① 防犯対策事業 | 予算区分 | 2-1-13 防犯費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成16年度 | 終了(予定)年度 | — | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 防犯協会の運営、愛知地区防犯協会連合会への助成を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 防犯意識を高め、犯罪の少ないまちを目指す。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|---------------------------|----|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 事業費 | 千円 | 予算 | 1,280 | 810 | 808 | 799 | 799 |
| | | 決算 | 1,374 | 792 | 764 | 766 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 愛知地区防犯協会連合会負担金 | | | | 700 | 千円 |
| (2) | | 消耗品費 | | | | 51 | 千円 |
| (3) | | 普通旅費 | | | | 13 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|---|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 助成額 | 千円 | 見込 | 700 | 700 | 700 | 700 | 700 |
| | | 実績 | 700 | 700 | 700 | 700 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 犯罪のない安心で安全に暮らせるまちの実現のため、防犯協会の運営、防犯協会連合会への助成を行う。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

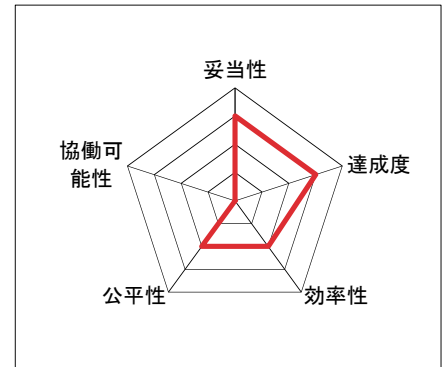
| |
|------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 助成額に変更はない。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|-----------------------------|------------|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 799 千円 | 799 千円 | 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| 今後も防犯意識向上の啓発のため、継続して行う。 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 愛知地区防犯協会連合会と協力し、防犯啓発活動を行った。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 2 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 協働すべき事業がない。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|-----------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 愛知地区防犯協会提供の啓発品により、啓発活動を行った。 |

【改善ポイント】

| |
|-------------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 今後も防犯意識向上の啓発のため、継続して行う。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|----------|------------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 防犯事業 | | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 自主防犯活動支援事業 | 予算区分 | 2-1-13 防犯費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成16年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 地域の自主防犯ボランティア団体の設立支援、育成を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 自主防犯ボランティア団体を支援することにより、防犯活動を活発にし、犯罪のないまちを目指す。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 2,634 | 5,484 | 3,434 | 234 | 234 |
| | | 決算 | 2,573 | 4,723 | 3,092 | 162 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 消耗品費 | | | | 161 | 千円 |
| (2) | | 食糧費 | | | | 2 | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|-----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 自主防犯ボランティア団体数 | 団体数 | 見込 | 27 | 27 | 27 | 27 | 26 |
| | | 実績 | 26 | 26 | 26 | 25 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 防犯ボランティア団体に活動資機材を貸与 4種類 自主防犯ボランティア連絡会議の開催 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

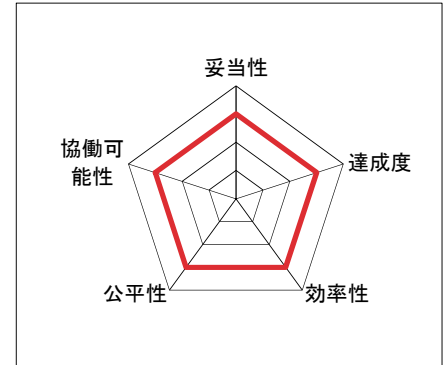
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 自主防犯ボランティア団体の高齢化により、活動の継続に影響が出始めている。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 234 千円 234 千円 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 縮小 |
| ・前年度【コメント】 |
| 今後は、防犯ボランティアリーダーを担う人材の育成等が課題である。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 昨年に引き続き、防犯ボランティアリーダー養成のための講座を開催し、防犯ボランティア団体等を通じ参加者を募ったが、新たな人材の参加が少なかった。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 自主防犯ボランティア団体の定例会などに、愛知警察署と共に参加し、情報交換等を行った。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|----------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 昨年に引き続き、防犯ボランティア養成講座を開催した。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 地域で設立が進む「まちづくり協議会」等の協力を得ながら、防犯活動の担い手の育成を進める必要がある。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------|------|-------------|------------|---|
| 事業(A票)名 | 防犯事業 | | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ③ | 防犯啓発事業 | | 予算区分 | 2-1-13 防犯費 | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成16年度 | | 終了(予定)年度 | — | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 街頭活動やキャンペーンの実施、児童、高齢者を対象とした防犯教室を開催する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 防犯意識を高め犯罪のないまちを目指す。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 571 685 | 821 973 | 821 408 | 971 753 | 1,608 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 消耗品費 | | | | 753 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 防犯講習会 | 回 | 見込 | 14 | 18 | 18 | 17 | 17 |
| | | 実績 | 18 | 18 | 19 | 14 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 防犯講習会の開催数は、見込みを下回った。 犯罪手口に合わせた防犯キャンペーンを実施した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

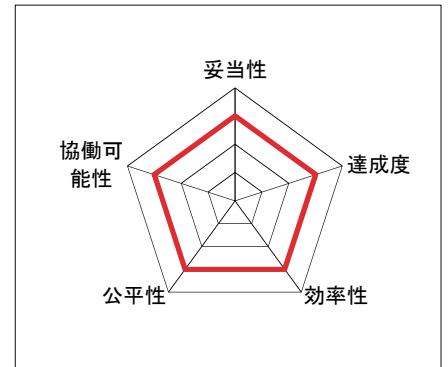
| |
|------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 特殊詐欺の犯罪手口が多様化、複雑化している。 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 971 千円 1,608 千円 637 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| 高齢者の方が特殊詐欺の被害に遭われていることから、高齢者の方への啓発を行いたいと考えている。しかし、市の行事に参加できない高齢者の方も多く、その方々への啓発方法を引き続き検討する。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 自転車盗被害が多いことから、愛知警察署の協力を得て、長久手古戦場駅及び杖ヶ池公園駅で、鍵かけ(ツーロック)の徹底を呼びかけキャンペーンを行った。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 地域の自治会連合会等の協力を得て、防犯講習会等を実施した。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 自転車盗被害が多いことから、愛知警察署の協力を得て、長久手古戦場駅及び杖ヶ池公園駅で、鍵かけ(ツーロック)の徹底を呼びかけキャンペーンを行った。 |

【改善ポイント】

| |
|-------------------------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 市内の犯罪発生状況により、その時に必要な防犯啓発を実施する必要がある。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-----|-----|------|------|-------------|
| 事業番号 | 033 | 事業名 | 防災事業 | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 |
|------|-----|-----|------|------|-------------|

| | | | | |
|------|---------------|--|-----------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | 2-1-14 防災費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | — | | |
| | 事業開始の背景、経緯等 | 本市の防災力向上に寄与するため、資機材の拡充や、備蓄食料等の購入を実施している。 | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|---|----|---|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 防災関係設備の保守点検や、更新、備蓄食料・飲料水の更新や拡充を実施している。 また、長久手市地域防災計画に基づき、拠点防災倉庫の整備を実施する。 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 住民、災害対応従事職員等 | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 防災対応力の向上、防災力のハード面での向上 | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 防災事務事業 | 拡充 | ④ | |
| | ② 災害用資機材購入事業 | 拡充 | ⑤ | | |
| | ③ 北中学校区防災倉庫建設事業 | 休・廃止 | ⑥ | | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | 千円 | 決算 | 予算 | 25,510 | 22,149 | 29,917 | 95,384 |
| 決算 | | | | 17,669 | 23,635 | 40,226 | 94,820 | |
| 人件費(B) | 千円 | 決算 | - | 8,402 | 9,585 | 7,856 | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | - | 32,037 | 49,811 | 102,676 | | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-----------|-------------|----|-----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 保守点検実施割合 | % | 目標 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | 実績 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | B 備蓄食料等購入割合 | % | 目標 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 実績 | | | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | |
| C 防災倉庫の整備 | % | 目標 | | 100 | 100 | 100 | 100 | |
| | | 実績 | | 100 | 100 | 100 | 100 | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 保守点検実施割合(100%を目標値とする。)

B 購入計画に対して、実際の購入数(購入数÷購入計画数)

C 防災倉庫の整備(H28:構想委託完了割合、H29:実施設計完了割合、H30:防災倉庫整備完了割合)

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町でも同様に備蓄の拡充や、防災倉庫の整備を進めている。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 機器点検や、備蓄の拡充等遅滞なく進んでいる。また、平成28年度より実施してきた、北中学校区防災倉庫設置についても、平成30年度をもって設置が完了した。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 平成30年度に北中学校区防災倉庫の設置が完了し、備蓄食料等を購入したため、本市の備蓄食料等が充足された。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 今後定期的な機器更新や、備蓄の拡充に向けて、計画的な予算措置が必要となる。 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 市内に3か所の防災倉庫の設置が完了し、不足している備蓄食料品や資機材等を整備する。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 飲料水及び主食の備蓄を想定避難者分確保する。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

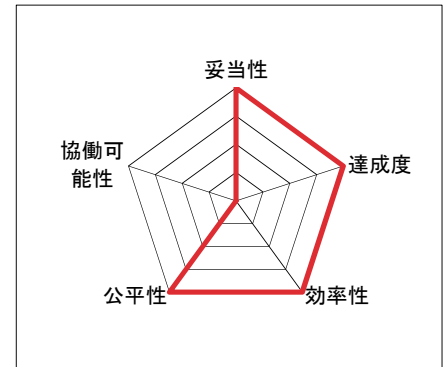
| | | | | | | |
|---------|----------|--------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 防災事業 | | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 防災事務事業 | 予算区分 | 2-1-14 防災費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成16年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 災害時等の緊急情報を伝達する防災行政無線や、災害対応にあたる職員や避難所との連絡手段であるMCA無線の保守点検等を実施する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 災害用機器等について、常時正常な状態を保つことが出来るようにする。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--------------------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 25,510 | 15,949 | 24,717 | 19,684 | 21,322 |
| | | 決算 | 17,669 | 15,860 | 29,836 | 18,978 | |
| ＜備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| (1) 防災行政無線保守点検委託 | | | | | | 3,100 千円 | |
| (2) 防災行政無線（同報系）直流電源装置バッテリー交換委託 | | | | | | 2,603 千円 | |
| (3) Jアラート新型受信機更新作業委託 | | | | | | 1,646 千円 | |

【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
|-------------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 災害用機器の整備については、協働で取り組むことができない。 | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 保守点検実施割合 | % | 見込 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | 実績 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| ＜備考：活動の概要（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| 保守点検について、遅滞なく実施した。 | | | | | | | |

【活動エピソード】

| | |
|-------------------------------|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) | |
| 予算の関係で、機器更新や修繕等の遅れが発生することがある。 | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 南海トラフ大規模地震の発災が迫る中、有事の際に機器不良等が発生しないよう、バッテリー交換や修繕等を定期的実施する。 |

【改善ポイント】

| |
|---------------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 市民への多様な情報伝達手段の検討を行う必要がある。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|------------|----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 19,684 千円 | 21,322 千円 | 1,638 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | ※新規行政評価対象 | |
| ・前年度【コメント】 | — | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| — | | |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|------------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 防災事業 | | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 災害用資機材購入事業 | 予算区分 | 2-1-14 防災費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成16年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 本市における最大想定避難者数2,500人に対応することを目的として、備蓄の拡充・更新を実施する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 備蓄の拡充・更新を実施する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|----------|------------|----------------|----------------|----------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | | 5,200 6,047 | 5,200 5,638 | 5,100 6,268 | 5,100 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 消耗品費 | | | | 5,008 | 千円 |
| (2) | | 災害用資機材 | | | | 1,260 | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------------------|----|----------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 備蓄食料購入数 | % | 見込 実績 | 100 100 | 100 100 | 100 100 | 100 100 | 100 |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 購入計画に基づく、備蓄食料等の購入を実施した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

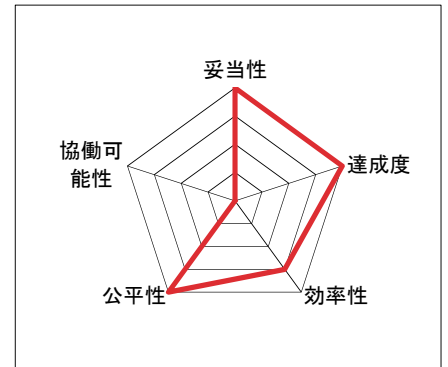
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 備蓄食料等の拡充だけでなく、女性への配慮や避難所生活の質の向上に寄与する、資機材の整備も必要となってきた。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|-----------------------------|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 5,100 千円 5,100 千円 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 ※新規行政評価対象 |
| ・前年度【コメント】 |
| — |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| — |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 協働すべき事業がない。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 女性への配慮や避難所生活の質を向上することが出来るような資機材の整備が進んでいない。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 備蓄計画に基づき、備蓄食料や飲料水の備蓄を進めているが、更新の割合が増加してきており、拡充が進んでいない。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

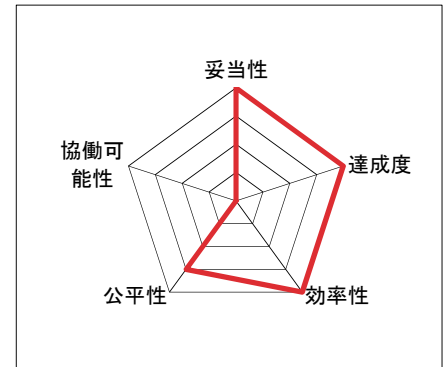
| | | | | | | |
|---------|-----------------|--------|-------------|----------|--------|--|
| 事業(A票)名 | 防災事業 | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | 決算書ページ | — | |
| 事務事業名 | ③ 北中学校区防災倉庫建設事業 | 予算区分 | 2-1-14 防災費 | | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成28年度 | | 終了(予定)年度 | 平成30年度 | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 地域防災計画に基づき、各中学校区に1つの拠点防災倉庫を整備してきた。 北中学校区に3つ目の防災倉庫の整備を実施した。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 防災倉庫の整備を実施する。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|---------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | | 1,000 | 0 | 70,600 | |
| | | 決算 | | 1,728 | 4,752 | 69,574 | |
| ＜備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| (1) | | 北中学校区防災倉庫設置工事 | | | | 60,426 | 千円 |
| (2) | | 消耗品費 | | | | 7,133 | 千円 |
| (3) | | 北中学校区防災倉庫設置工事監理業務委託 | | | | 1,566 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 防災倉庫の整備 | % | 見込 | | 100 | 100 | 100 | |
| | | 実績 | | 100 | 100 | 100 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| ＜備考：活動の概要（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| 防災倉庫の整備が完了した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

| |
|------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 平成30年度で事業完了 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|------------|-------------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 70,600 千円 | 0 千円 | △ 70,600 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | ※新規行政評価対象 | |
| ・前年度【コメント】 | — | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| — | | |

【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 協働すべき事業がない。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---------------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 平成30年度末に防災倉庫の整備及び、備蓄食料の搬入が完了した。 |

【改善ポイント】

| |
|--------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 事業完了 |

7. 今後の方向性

休・廃止

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-------|-----|--------|------|-------------|
| 事業番号 | 034 - | 事業名 | 防災訓練事業 | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 |
|------|-------|-----|--------|------|-------------|

| | | | | |
|------|---------------|--|-----------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | 2-1-14 防災費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | — | | |
| | 事業開始の背景、経緯等 | 平成25年度から、市内6小学校で一斉に訓練を行う市内一斉防災訓練へと変更した。各校区における訓練内容、訓練運営等については、連合会等を中心とした市民が主体で行っている。 | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|--|--------|---|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 市民に防災意識を高めるため、企画段階から市民や防災関係機関等に関わってもらい、市内6小学校を会場に避難訓練や避難所での訓練を市民参加型で行う。また、市役所は災害対策本部を立ち上げるとともに、会場となる避難所との情報伝達訓練などを行い、市民、関係機関、行政が連携した訓練とする。 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民、市職員、企業、消防・防災関連団体、ボランティア団体他 | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民1人1人が防災意識を高めるとともに、関係機関等の連携を確認し、大地震で被害を最小限に抑えること。 | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 防災訓練事業 | 改善・見直し | ④ | |
| | | ② | | ⑤ | |
| | | ③ | | ⑥ | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | 1,034 | 928 | 1,163 | 1,168 |
| 決算 | | | | 1,127 | 797 | 1,053 | 907 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | 14,130 | 14,130 | 13,909 | 5,472 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | 15,257 | 14,927 | 14,962 | 6,379 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------|-------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 訓練参加者数 | 人 | 目標 | 3,349 | 3,483 | 3,808 | 3,893 | 3,374 |
| | | | 実績 | 3,483 | 3,808 | 3,893 | 3,374 | |
| | B 訓練課題への取組率 | % | 目標 | — | — | 100 | 100 | 100 |
| 実績 | | | — | — | 100 | 100 | | |
| C | | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 防災訓練への参加者数の総計(前年度実績を目標値とする。)

B 防災訓練検証会で意見提出された訓練課題への取組率(取組んだ数/訓練課題数)

C

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 尾張旭市、瀬戸市、東郷町で同様の訓練を実施。 尾張旭市…自主防災組織による救助救出訓練。 消防・警察・自衛隊などが連携して事前に訓練内容を知らせずに行うブラインド訓練。 日進市…地区の訓練を持ち回りで実施している。 みよし市…毎年1つの中学校区で市主導の総合防災訓練を実施。 その他の地区では自主防災会が中心となり個別に自主的な防災訓練を実施。 岡崎市…全市一斉の防災訓練。市民による避難訓練や避難所運営訓練を実施。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 前年度より、参加者数が減少し目標を達成できなかった。 |
| | 過去5年間の振り返り | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) H26～H29については、参加者数が増加したが、H30に減少に転じてしまった。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) より市民主体の訓練となるように、実施要領等を検討する必要がある。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) より市民主体の訓練となるように、職員によるサポートを減らし、その分職員は、災害時における応急対応に関する訓練を行う。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成33年度頃までに、全ての校区で市民主体の訓練を実施できるようにする。 |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | *より市民主体の訓練となるように事業を進めてください。 *参加者が減少している理由、同時に参加者が多い訓練を研究し、市民に共有してください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 防災訓練事業 | | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 防災訓練事業 | 予算区分 | 2-1-14 防災費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成25年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市内住民や職員、その他団体などを対象に、防災訓練への参加を促進するために、啓発品等の購入を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民や各種団体、市職員それぞれの立場で防災意識を高め、災害時に応急対応を行うことができるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 1,034 1,127 | 928 797 | 1,163 1,053 | 1,168 907 | 1,185 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 消耗品費 | | | | | 814千円 |
| (2) | | 損害保険 | | | | | 57千円 |
| (3) | | 燃料費 | | | | | 20千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|-------------------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 参加者数 | 人 | 見込 | 3,349 | 3,483 | 3,808 | 3,893 | 3,374 |
| | | 実績 | 3,483 | 3,808 | 3,893 | 3,374 | |
| 取組率 | % | 見込 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | 実績 | 100 | 100 | 100 | 100 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 6回目となる市内一斉防災訓練を開催し、3,374人の住民参加があった。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

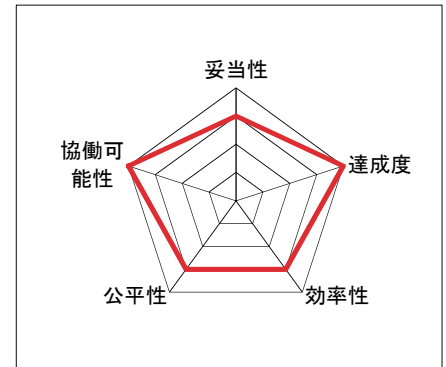
| |
|------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| より市民主体の防災訓練としていく必要がある。 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 1,168千円 1,185千円 17千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| 平成30年度も引き続き、防災訓練啓発ポスターの作成を行い、防災訓練への参加の呼びかけの拡充を図る。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 昨年度同様にポスターを作成し、市内事業所及び公共施設への掲示を行った。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 4 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 3,483 | 3,808 | 3,893 | 3,374 |
| 実績 | 3,808 | 3,893 | 3,374 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市民主体の防災訓練として、訓練計画等を連合会等を中心とした、地域住民が担っている。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---------------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 小学校区において、訓練の達成度や、主体性に差が生じてきている。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 防災訓練がイベント化してきており、参加者数が減少している。 市職員による地域へのサポートが手厚いため、参加職員数を減少させ、同日に災害時における職員の応急対応に関する訓練を行う。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-------|-----|------------|------|-------------|
| 事業番号 | 035 - | 事業名 | 自主防災活動支援事業 | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 |
|------|-------|-----|------------|------|-------------|

| | | | | |
|------|---------------|---|-----------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | 2-1-14 防災費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | — | | |
| | 事業開始の背景、経緯等 | 災害時には自助:共助:公助=7:2:1というように、自助及び共助が重要となることから、自助の啓発や、共助が可能となるよう資機材の貸与等を実施している。 | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|--|----|---|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 自主防災組織を設立した地区及び設立を目指す地区が行う自主防災活動を支援することを目的とする。自主防災組織や自治会等からの防災講習会の申込みに基づき、市職員及び防災関連団体(防災ボランティア、日赤、消防団等)を派遣し、各地区の地元で防災講習会を実施する。 また、新たに自主防災組織の設立を目指す地区について、①自治会単位での防災講習会または防災訓練を年間3回以上実施、②参加者が概ね世帯数の3分の1以上または30名以上、などの一定の条件を満たした場合に、防災倉庫及び防災資機材を貸与する。 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 自主防災組織や自治会等 | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 防災意識を高めてもらうとともに、地域の絆を深め、地域防災力の高いまちを目指す。 | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 防災講習会実施事業 | 拡充 | ④ | |
| | | ② 自主防災資機材貸与事業 | 拡充 | ⑤ | |
| | | ③ | | ⑥ | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------|-------------|--------|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 3,200 | 3,417 | 1,778 | 2,667 |
| | | | 決算 | 3,214 | 1,835 | 1,648 | 2,566 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 10,311 | 10,311 | 9,076 | 4,769 | |
| | 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 13,525 | 12,146 | 10,724 | 10,002 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--------|-----------|----|-------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 参加者数 | 人 | 目標 | 2,279 | 2,690 | 2,505 | 2,563 | 2,707 |
| | | | 実績 | 2,690 | 2,505 | 2,563 | 2,707 | |
| | B 自主防災組織率 | % | 目標 | 57.8 | 61.7 | 67.6 | 65.1 | 67.5 |
| 実績 | | | 59.8 | 65.7 | 63.9 | 67.0 | | |
| C 貸与割合 | % | 目標 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | |
| | | 実績 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 自主防災講習会への参加者数の総計(前年度実績を目標値とする)

B 全自治会数における自主防災組織の組織率(自主防災組織数÷自治会総数)目標値は2組織を増加した%とする。

C 前年度に、倉庫及び資機材貸与の要望があった自治会に対し、実施に貸与した割合

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 全国の市町村で同様に自主防災活動の支援を実施している。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|---|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 平成28年度初めて実施回数、参加者数とも減少したが、今年度は、前年度に比して、ともに増加した。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) H26:8、H27:4、H28:2、H29:2、H30:2と、自主防災会の組織数は年々増加している。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 自主防災倉庫を設置した以降、一度も防災講習会を実施していない自治会が複数ある。 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 自主防災倉庫を設置した以降、一度も防災講習会を実施していない自治会に対して、講習会の実施を働きかけていく。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 自主防災倉庫設置率をH32年度末までに70%とする。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------|-----------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 自主防災活動支援事業 | | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 防災講習会実施事業 | 予算区分 | 2-1-14 防災費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成10年 | 終了(予定)年度 | | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 自治会等を単位とした自主防災組織にて、自主防災講習会の開催を促す。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民の防災意識の向上を図るとともに、各自主防災組織の防災力向上を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|--------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 0 | 132 | 60 | 60 | 60 |
| | | 決算 | 0 | 62 | 0 | 24 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 自動車借上料 | | | | 24 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 参加者数 | 人 | 見込 | 2,279 | 2,690 | 2,505 | 2,563 | 2,707 |
| | | 実績 | 2,690 | 2,505 | 2,563 | 2,707 | |
| 組織率 | % | 見込 | 57.8 | 61.7 | 67.6 | 65.1 | 67.5 |
| | | 実績 | 59.8 | 65.7 | 63.9 | 67.0 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 炊き出し訓練、家具転倒防止訓練、防災資機材の取扱訓練等を、自主防災組織向けに60回開催した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

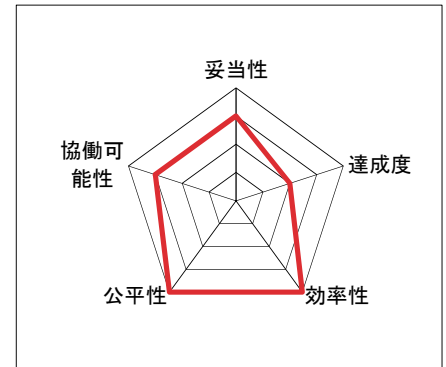
| |
|--------------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 訓練参加者の拡大を図るため、講習会内容等について検討していく |

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 60千円 60千円 0千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| 倉庫設置以降一度も開催していない自治会に対して、自主防災講習会の実施を働きかけていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 引き続き、市政協力員会議の場で、自主防災講習会の実施について働きかけを行った。 また、自治会の要望に合わせて、講習会内容について柔軟に対応した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | 2,690 | 2,505 | 2,563 | 2,707 |
| 実績 | 2,505 | 2,563 | 2,707 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 講習会には、各地域の市民が多数参加している。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|-------------------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 自主防災会独自で、防災講習会を実施することが出来る地域が増加している。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 平成30年度は3地区に、自主防災倉庫設置及び資機材貸与を行うこととしていたが、今年度は1自治会に対して自主防災倉庫設置及び資機材貸与を行う予定である。 また、今後、設置していない自治会への、情報提供や設置の推進方法の検討が必要。。 |

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 拡充 |
|----|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

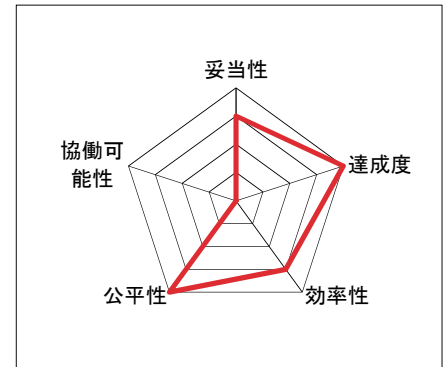
| | | | | | |
|---------|---------------|-------|-------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 自主防災活動支援事業 | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② 自主防災資機材貸与事業 | 予算区分 | 2-1-14 防災費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成10年 | | 終了(予定)年度 | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 1年間に、30人以上の防災講習会を3回実施した自治会等へ防災倉庫及び防災資機材の貸与を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 地域における自発的な防災意識の向上及び自主防災活動の啓発。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 3,200 | 3,417 | 1,778 | 2,667 | 968 |
| | | 決算 | 3,214 | 1,835 | 1,648 | 2,542 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 自主防災資機材 | | | | 1,232 | 千円 |
| (2) | | 自主防災倉庫設置工事 | | | | 896 | 千円 |
| (3) | | 消耗品費 | | | | 413 | 千円 |

【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 貸与事業であるため。 | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 貸与割合 | % | 見込 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| | | 実績 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 4つの自治会に対し、3つの地区に自主防災倉庫設置及び資機材の貸与を行った。 | | | | | | | |

【活動エピソード】

| |
|----------------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 設置自治会の地域に偏りがあり、東の地域に設置が少ない傾向にある。 |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近年開発が進む大型マンション等は、既に建物内に防災倉庫及び資機材の整備がなされており、市からの貸与を必要としていない。そのため、自治会数は増加していくが、要望が少ない状況である。 |
|---|

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 設置していない自治会への、情報提供や設置の推進方法の検討が必要。 市職員が主に講習会の講師を行っているが、今後は防災の知識のある市民等を講師として活用することを検討する。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|---|------------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 2,667 千円 | 968 千円 | △ 1,699 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 拡充 | |
| ・前年度【コメント】 | 平成29年度は2自治会に対して、自主防災倉庫設置及び資機材貸与を行うこととしていたが、今年度は4自治会に対して自主防災倉庫設置及び資機材貸与を行う予定である。 また、今後、設置していない自治会への、情報提供や設置の推進方法の検討が必要。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 連合会長等を通じて、未設置自治会に設置の呼びかけを実施した。 自主防災倉庫を設置する地区が3地区から1地区に減少したことから予算額が減少した。 | | |

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 拡充 |
|----|

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-----|-----|--------|------|-------------|
| 事業番号 | 036 | 事業名 | 消防補助事業 | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 |
|------|-----|-----|--------|------|-------------|

| | | | | |
|-------------|---------------|-------------------------------------|---------------------------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 一 項 一 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | 8-1-1 常備消防費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 長久手市補助金等交付規則、長久手市女性消防クラブ補助金交付要綱 | |
| 事業開始の背景、経緯等 | | 団体の設立時から事業支援として補助金を交付し、現在も継続実施している。 | | |

| | | | | |
|-------|-----------------|--|----|---|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 長久手市女性消防クラブが実施する事業経費について、補助金の交付を行う。 | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 長久手市女性消防クラブ | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 団体が実施する事業の経費を補助することで、災害の発生防止等の事業が推進できるよう支援する。 | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 消防補助事業 | 縮小 | ④ |
| | | ② | | ⑤ |
| | | ③ | | ⑥ |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | 450 | 450 | 450 | 350 |
| 決算 | | | | 433 | 450 | 450 | 350 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | 229 | 229 | 242 | 874 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | 662 | 679 | 692 | 1,224 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------|---------|-------------|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A | クラブ活動参加延べ人員 | 人 | 目標 | — | 200 | 250 | 250 |
| 実績 | | | | 232 | 256 | 264 | 283 | |
| B | クラブ活動事業 | 回 | 目標 | — | 30 | 35 | 35 | 35 |
| | | | 実績 | 37 | 39 | 41 | 44 | |
| C | | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 女性消防クラブ員の活動参加人数により、クラブ員個々の活動姿勢が把握でき、補助金の有効性を判断できる。

B 女性消防クラブの活動事業数により、団体としての事業展開が把握でき、補助金の有効性が判断できる。

C

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣他市においても同様な補助事業を実施している。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|---|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) クラブ活動を積極的に展開し、それに伴い参加人数も増え、災害発生防止事業の推進ができています。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 消防の広域化があり、補助対象団体が一つ減ったことにより、事業予算を縮小した。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) クラブ員の代謝が図られていないため、活動力が落ちてきている。 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) クラブ員の代謝が少なく活動力が落ちてきているので、新規クラブ員の獲得を促進する。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 一旦、クラブ員の意向確認をし、その後必要に応じて新規クラブ員の獲得を促進する。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|----------|--------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 消防補助事業 | | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 消防補助事業 | 予算区分 | 8-1-1 常備消防費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和60年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 長久手市女性消防クラブの実施する事業経費に対し、補助金を交付している。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 団体が実施する事業の経費を補助することで、災害の発生防止等を推進する事業が実施できるよう支援する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 450 | 450 | 450 | 350 | 350 |
| | | 決算 | 433 | 450 | 450 | 350 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 女性消防クラブ補助金 | | | | 350 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| クラブ活動参加延べ人員 | 人 | 見込 | — | 200 | 250 | 250 | 250 |
| | | 実績 | 232 | 256 | 264 | 283 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 防火広報の実施 防災訓練の参加 市民まつりでの防火啓発 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

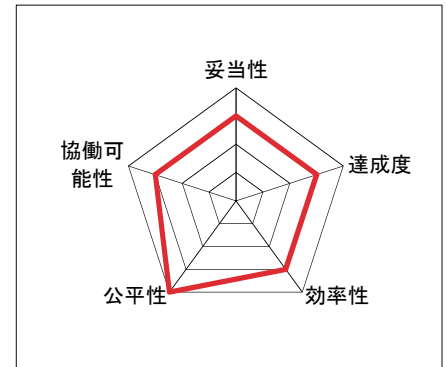
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 消防の広域化により、事務局が変更となり、活動の下支えができなくなった。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 350 千円 350 千円 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 縮小 |
| ・前年度【コメント】 |
| ・危険物安全協会への補助事業は、本市事業から尾三消防組合へ移行した。 |
| ・女性消防クラブは、事務局が新体制になることと、拠点が消防本部から市役所に移ることで、事業活動に支障がでることが予想されるので、現状を見定める必要がある。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 危険物安全協会への補助金は終了した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | 200 | 250 | 250 | 250 |
| 実績 | 256 | 264 | 283 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| クラブ員が全員市民であり、活動全てが該当する。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|-----------------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 市民まつりで炊き出しを実施した。 毎月の防火広報を実施した。 |

【改善ポイント】

| |
|-----------------------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| クラブの構成員数と実活動員数に差があるので、クラブ員の精査が必要。 |

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 縮小 |
|----|

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-------|-----|---------|------|-------------|
| 事業番号 | 037 - | 事業名 | 消防団運営事業 | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 |
|------|-------|-----|---------|------|-------------|

| | | | | |
|-------------|---------------|----------------------------------|-----------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | 8-1-2 非常備消防費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市消防団条例、長久手市消防団規則 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | | 昭和40年に消防団の組織が確立し、消防団運営事業を開始した。 | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|---|--------|---------|----|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 消防団の運営全般に係る事業 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 消防団員を中心に、全ての市民を含み、消防車両、消防装備等消防団行政に関わるすべて。 | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民啓発により消防団への市民理解を深めるとともに、消防団による防火防災活動に備え消防団体制を整える。 | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 消防団事務事業 | 拡充 | ④ 消防団手当 | 拡充 |
| | | ② 消防団活性化事業 | 拡充 | ⑤ | |
| | | ③ 自動車管理事業 | 改善・見直し | ⑥ | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | 2,345 | 37,450 | 35,636 | 35,748 |
| 決算 | | | | 1,747 | 31,910 | 29,602 | 27,071 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | 4,200 | 10,464 | 20,137 | 6,755 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | 5,947 | 42,374 | 49,739 | 33,826 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-----------|-----------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 訓練・研修回数 | 回 | 目標 | 60 | 60 | 60 | 80 | 80 |
| | | | 実績 | 85 | 82 | 85 | 91 | |
| | B 新規入団員数 | 人 | 目標 | 10 | 10 | 10 | 10 | 8 |
| 実績 | | | 16 | 6 | 9 | 14 | | |
| C 事故・故障回数 | 回 | 目標 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 実績 | 0 | 0 | 0 | 1 | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 訓練・研修回数により、消防団員の知識・技術の向上に努めていることが判断できる。

B 新規入団員数により、市民の消防団への理解の深まりや消防団活動の活性化進捗が判断できる。

C 事故・故障回数により、消防団車両の管理状態が判断できる。

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 他市町においても同様な取組を行っている。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 機能別消防団を設立したことにより、新入団員が目標を上回った。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 平成29年度にキッズ消防団を設立し、平成30年度に機能別消防団を設立した。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 正規団員そのものの活性化につなげる事業を実施しないといけない。 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 消防の広域化を受けて、従来の火災対応中心の活動から防災対応中心の活動へと変換していく。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 防災対応活動ができるように、資機材の整備と共に団員の技術の向上を図る。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|---------|----------|--------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 消防団運営事業 | | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 消防団事務事業 | 予算区分 | 8-1-2 非常備消防費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和55年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 消防団員を対象に、操法大会及び各種消防訓練を実施するほか出初式等の行事に参加する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 消防団員に訓練等を実施し、必要な知識・技術の習得向上を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|------------------|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | — | 5,931 | 6,149 | 7,721 | 7,624 |
| | | 決算 | — | 5,805 | 6,688 | 7,583 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | 消防団員等公務災害補償基金負担金 | | | | 4,274 千円 | | |
| (2) | 消耗品費 | | | | 844 千円 | | |
| (3) | MCA無線使用料 | | | | 596 千円 | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 訓練・研修回数 | 回 | 見込 | 60 | 60 | 60 | 80 | 80 |
| | | 実績 | 85 | 82 | 85 | 91 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・操法訓練 ・定期訓練 ・競練会 ・署合同訓練 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

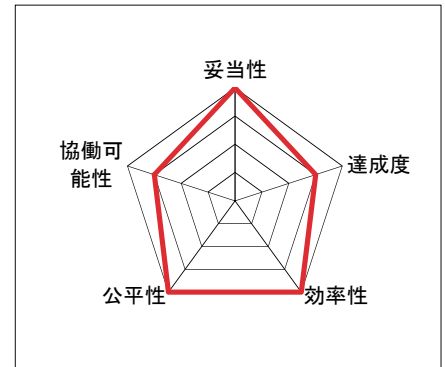
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 消防広域化により、火災対応中心の活動から、防災対応へと変更している。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 7,721 千円 7,624 千円 Δ 97 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| 消防の広域化により、消防団に求められるものが変化してきているので、今後のあり方を検討する必要がある。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 訓練項目に防災対応活動を取り入れて実施した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | 130 | 130 | 130 | 130 |
| 実績 | 128 | 122 | 125 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 団員の構成は、市民がほとんどである。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|----------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 愛知県消防操法大会ポンプ車の部で14位となりました。 |

【改善ポイント】

| |
|-------------------------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 地域防災力の中核を担う消防団として、防災対応力の充実強化を図っていく。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|--------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 消防団運営事業 | | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 消防団活性化事業 | 予算区分 | 8-1-2 非常備消防費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和55年度 | 終了(予定)年度 | - | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・市民等を対象に各種行事等で入団促進の事業を行っている。 ・消防団及び団員に災害時に必要な資機材や装備品を購入している。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 入団を促進し、団員の増加を図るとともに、消防団装備資機材の充実強化を図り、災害対応力の向上につなげる。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|-------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 626 | 7,063 | 4,421 | 2,724 | 2,913 |
| | | 決算 | 522 | 5,912 | 3,762 | 2,440 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 消耗品費 | | | | 1,836 | 千円 |
| (2) | | 印刷製本費 | | | | 148 | 千円 |
| (3) | | 広告料 | | | | 146 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 新入団員 | 人 | 見込 | 10 | 10 | 10 | 10 | 8 |
| | | 実績 | 16 | 6 | 9 | 14 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 機能別消防団を設立した。 チェーンソーを配備した。 編上げ靴及び雨衣を順次配備した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

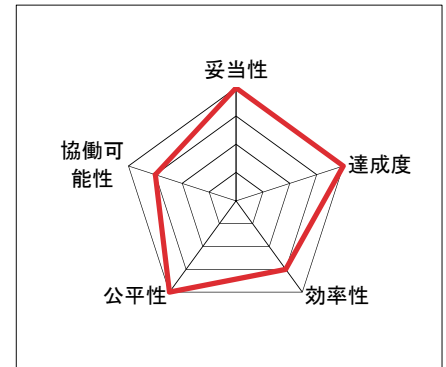
| |
|-------------------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 消防の広域化により、火災対応中心な活動から、防災対応へと変更している。 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 2,724 千円 2,913 千円 189 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| 消防団に新たな区分として、機能別消防団員を設立し、大規模災害時に不足する消防力を補完できるよう検討していく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 大規模災害時に不足する消防力を補完する目的で、機能別消防団員を設立した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | 130 | 130 | 130 | 130 |
| 実績 | 128 | 122 | 125 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 団員の構成は、市民がほとんどである。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 大規模災害時に不足する消防力を補完できるように、機能別消防団を設立し、9人が入団した。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 女性消防団員の活動が停滞しているため、定員増も図ったことから、活性化していく。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

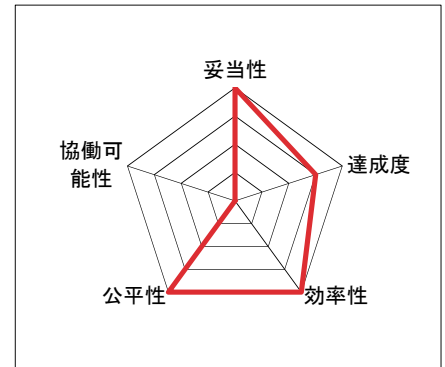
| | | | | | | |
|---------|-----------|--------|--------------|----------|---|--|
| 事業(A票)名 | 消防団運営事業 | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | 決算書ページ | — | |
| 事務事業名 | ③ 自動車管理事業 | 予算区分 | 8-1-2 非常備消防費 | | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和55年度 | | 終了(予定)年度 | - | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 消防団車両等10台を対象に、車検や定期点検を実施している。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 災害出動に即応するため、車両を維持管理する。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | - |



2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | - - | 1,445 991 | 1,807 990 | 1,862 1,492 | 1,974 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 修繕料 | | | | 348 | 千円 |
| (2) | | 燃料費 | | | | 285 | 千円 |
| (3) | | 自動車損害保険料 | | | | 228 | 千円 |

【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|--------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 車両等の維持管理は、協働で取り組める余地がない。 | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事故・故障回数 | 回 | 見込 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 実績 | 0 | 0 | 0 | 1 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 車検等の他、車両付属のポンプ等の点検を実施した。 上郷分団のポンプ車のポンプ廻りを修繕した。 | | | | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 災害対応時に、吸水が適切に行えない事象が発生した。定期点検の前に起こった事案であった。 |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

| |
|------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 他市町においても同様な取組を行っている。 |

【改善ポイント】

| |
|---------------------------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 業者委託する点検だけに頼ることなく、日頃からの日常点検の徹底が必要がある。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---|------------|--------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 1,862 千円 | 1,974 千円 | 112 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| 消防団事務局の移管に伴い、管理体制が変わるので、年間予定表を作成し、漏れのないように管理していく。 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 年間予定表を作成し、課内共有し適切に管理執行した。 | | |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|----------|--------|--------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 消防団運営事業 | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ④ 消防団手当 | 予算区分 | 8-1-2 非常備消防費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和55年度 | | 終了(予定)年度 | — |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 消防団員に対し長久手市消防団条例に基づき報酬及び費用弁償を支給する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 条例に基づいた適正な支払いを行う。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | — | 23,011 | 23,259 | 23,441 | 22,569 |
| | | 決算 | — | 19,202 | 18,162 | 15,556 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 費用弁償 | | | | 8,368 | 千円 |
| (2) | | 消防団員報酬 | | | | 5,574 | 千円 |
| (3) | | 消防操法訓練報償費 | | | | 600 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 支給ミス | 人 | 見込 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 消防団員の活動に対し、手当を支給する。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

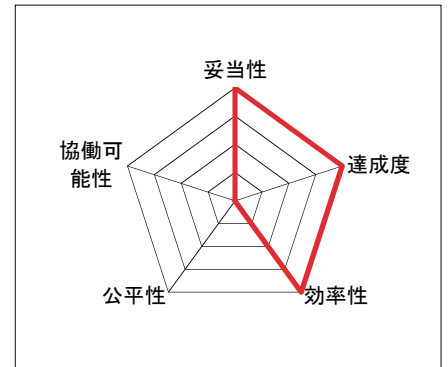
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 他市町においても同様な取組を行っている。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------------------------|----------------------------|----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 23,441 千円 | 22,569 千円 | △ 872 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | 報酬及び費用弁償の増額を検討し、条例改正を検討する。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 条例改正を行い、報酬及び費用弁償の支給額を増額した。団員定数を削減した。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | — |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 消防団活動に対する手当等の支給事務のため、協働の余地なし。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|----------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 台風の上陸などで、風水害被害による災害対応が増えた。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 団員への支給事務において、該当団員が毎月違うため、債権者選定に時間を要する。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-----|-----|-------------|------|-------------|
| 事業番号 | 038 | 事業名 | 女性消防クラブ運営事業 | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 |
|------|-----|-----|-------------|------|-------------|

| | | | | |
|-------------|---------------|---|-----------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | 8-1-2 非常備消防費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市女性消防クラブ規約 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | | 昭和57年に設立した長久手市女性消防クラブの活動を支援し、安定した活動を継続できるようにする。 | | |

| | | | | |
|-------|-----------------|--|--------|---|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 女性消防クラブ員が初期消火、火災予防普及啓発活動及び初期消火指導ができるように支援する。 | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 女性消防クラブ員、市内6か所に配備した軽可搬ポンプ | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) クラブ活動中の怪我等に対する補償。災害時に即時対応できるよう資機材の整備。 | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 女性消防クラブ活動支援事業 | 改善・見直し | ④ |
| | | ② | | ⑤ |
| | | ③ | | ⑥ |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | 千円 | 決算 | 予算 | - | 166 | 150 | 246 |
| 決算 | | | | - | 90 | 117 | 169 | |
| 人件費(B) | 千円 | 決算 | - | - | - | 4,769 | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | - | - | - | 4,938 | | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------|---------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 軽可搬ポンプの点検整備 | 台 | 目標 | - | 6 | 6 | 6 | 6 |
| | | | 実績 | - | 6 | 6 | 6 | 6 |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| C | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 市内6か所に配備した軽可搬ポンプを適切に運用できるよう整備する。

B

C

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 消防の広域化により、担当課が移管となり、ノウハウやマンパワーの不足が顕著となった。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|---|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 年次点検は実施できたが、月次点検ができなかった。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 消防の広域化により、過去の状況は不明。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 資機材整備の他にクラブ員の損害補償を実施しているが、対象者の精査が必要。 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 資機材整備については、継続し維持管理していくが、経年劣化を考慮した整備を検討する。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 引き続きクラブ活動を支援していくが、活動実態に合うような支援をしていく。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|-------------|---------------|----------|--------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 女性消防クラブ運営事業 | | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 女性消防クラブ活動支援事業 | 予算区分 | 8-1-2 非常備消防費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和57年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 長久手市女性消防クラブのクラブ活動に対する支援を実施する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) クラブ活動中の怪我等に対する補償。 災害時に即時対応できるよう資機材の整備。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | — — | 166 90 | 150 117 | 246 169 | 263 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 消耗品費 | | | | 72 千円 | |
| (2) | | 手数料 | | | | 52 千円 | |
| (3) | | 損害保険料 | | | | 45 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|-------------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 軽可搬ポンプの 点検整備 | 台 | 見込 | — | 6 | 6 | 6 | 6 |
| | | 実績 | — | 6 | 6 | 6 | 6 |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 市内6か所に配備した軽可搬ポンプの年次点検整備を実施する。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

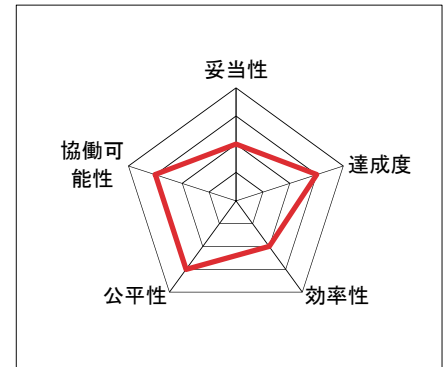
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 消防の広域化により、担当課の変更が行われた。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|------------|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 246 千円 | 263 千円 | 17 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | ※新規行政評価対象 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| 新規行政評価対象 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| — | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 2 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 115 | 113 | 113 | 60 |
| 実績 | 115 | 113 | 113 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| クラブ員は全員市民である。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| クラブ員の活動中の負傷等に対応するため、損害補償を行った。 防災訓練で軽可搬ポンプを使用した訓練指導を実施した。 クラブ員研修で、軽可搬ポンプの取扱い習熟を図った。 |

【改善ポイント】

| |
|----------------------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| クラブ員の活動は、構成員と実際の活動員に差があるので、精査する。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-----|-----|----------|------|-------------|
| 事業番号 | 039 | 事業名 | 消防水利設置事業 | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 |
|------|-----|-----|----------|------|-------------|

| | | | | |
|-------------|--|----------------------------------|-----------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | 8-1-3 消防施設費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 消防水利の基準 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 消防水利の基準が改正され、市町村の消防水利整備目標が示され、地域の実情に応じて計画的に整備することとされた。 | | | |

| | | | | |
|-------|-----------------|---|--------|---|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 大規模地震時等の火災時に対応するため、耐震性貯水槽を設置する。 市民居住地を中心に消火栓を整備するため、愛知中部水道企業団に設置要望を行う。 | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 区画整理事業に併せ、消防水利を整備していく。 | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市内における消防水利充足率を向上させるとともに、大規模地震時における消防水利を確保する。 | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 防火水槽設置事業 | 改善・見直し | ④ |
| | ② 消火栓設置事業 | 縮小 | ⑤ | |
| | ③ | | ⑥ | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | - | 24,878 | 6,278 | 40,348 |
| 決算 | | | | - | 17,423 | 4,212 | 34,781 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | - | 1,833 | 7,169 | 2,146 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | - | 19,256 | 11,381 | 36,927 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------------------|-------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 耐震性貯水槽設置 | 基 | 目標 | - | - | - | 2 | 2 |
| | | | 実績 | - | 1 | 0 | 2 | |
| | B 65ミリ消火栓設置 | 基 | 目標 | - | - | - | 1 | 1 |
| | | | 実績 | - | 1 | 0 | 0 | |
| | C 40ミリ消火栓設置 | 基 | 目標 | - | - | - | 1 | 1 |
| 実績 | | | - | 0 | 0 | 0 | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 都市公園の整備状況に併せて、公園毎に1基の耐震性貯水槽を設置していく。 | | | | | | | | |
| B 消防水利の不足する地区に毎年1基の消火栓を設置していく。 | | | | | | | | |
| C 市民からの要望を受けて、初期消火用消火栓を設置していく。 | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町も同様に実施している。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 耐震性貯水槽の設置はできたが、消火栓は、愛知中部水道企業団による水道管敷設の影響を受けるため、目標は達成できていない。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 耐震性貯水槽の設置は、進んでいるが、消火栓の設置は、既存の水道管部分への設置は停滞している。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 消火栓の設置には、本市のみの意向では設置できないため、継続して協議していく。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 耐震性貯水槽は、市内に都市公園を整備するタイミングで設置することで、工費を抑制できるので、引き続き実施する。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成32年度に耐震性貯水槽を設置することで、現在の設置計画は完了する。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------|-------|-------------|----------|--------|--|
| 事業(A票)名 | 消防水利設置事業 | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | 決算書ページ | — | |
| 事務事業名 | ① 防火水槽設置事業 | 予算区分 | 8-1-3 消防施設費 | | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成9年度 | | 終了(予定)年度 | 平成32年度 | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 区画整理事業で都市公園を整備するのに併せ、耐震性貯水槽を設置する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 大規模地震時等の火災時に対応するため、耐震性貯水槽を設置する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | — | 23,500 | 4,900 | 38,620 | 39,118 |
| | | 決算 | — | 16,266 | 4,212 | 34,781 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 耐震性貯水槽設置工事 | | | | 32,081 | 千円 |
| (2) | | 耐震性貯水槽設置工事監理委託 | | | | 1,512 | 千円 |
| (3) | | 耐震性貯水槽設置工事設計委託 | | | | 1,188 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 耐震性貯水槽設置 | 基 | 見込 | — | — | — | 2 | 2 |
| | | 実績 | — | 1 | 0 | 2 | 2 |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 下山1号公園に耐震性貯水槽1基設置 中央3号公園に耐震性貯水槽1基設置 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

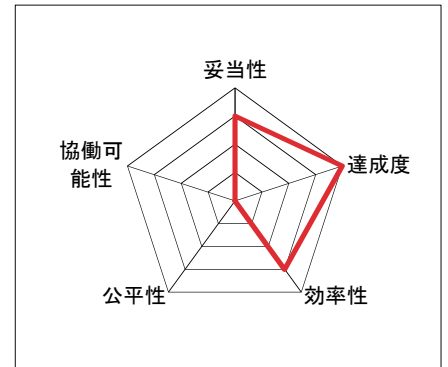
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 都市公園の整備進捗に併せて設置していく。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---|---|--------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 38,620 千円 | 39,118 千円 | 498 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 拡充 | |
| ・前年度【コメント】 | 区画整理事業に併せて都市公園が計画されるので、連携を密にして貯水槽を設置していく。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) 都市公園2か所に耐震性貯水槽を新たに設置した。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | — |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) 公共物の設置事業なので、協働は難しい。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 下山1号公園と中央3号公園に各1基の耐震性貯水槽を設置した。 |
|--|

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 都市公園への整備計画は、平成32年度で完了する予定であるので、その後の整備について検討が必要。 |
|---|

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|-----------|------|-------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 消防水利設置事業 | 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② 消火栓設置事業 | 予算区分 | 8-1-3 消防施設費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | | 終了(予定)年度 | — |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 消防水利が不足する地区に消火栓を設置するため、愛知中部水道企業団に要望していく。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市内における消防水利不足地区を減らす。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | — | 1,378 | 1,378 | 1,728 | 1,760 |
| | | 決算 | — | 1,157 | 0 | 0 | 0 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | | | | | | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 65ミリ消火栓設置 | 基 | 見込 | — | — | — | 1 | 1 |
| | | 実績 | — | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 40ミリ消火栓設置 | 基 | 見込 | — | — | — | 1 | 1 |
| | | 実績 | — | 0 | 0 | 0 | 0 |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| — | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

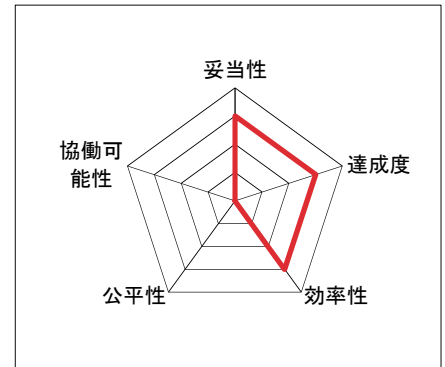
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 消火栓の設置は、水道管の敷設の影響を受けるため、積極的な設置は難しい。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------------------------|---------------------------------|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 1,728 千円 | 1,760 千円 | 32 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | 新たな消火栓設置可能場所がなく、水道管の敷設待ちとなっている。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 引き続き消防水利未充足地区への設置要望を行ったが、新たな設置はなかった。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | — |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 公共物の設置事業であるので、協働は難しい。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 実施事業なし |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 40ミリ消火栓は、設置目的である初期消火活動に使用されたことが最近はなく、費用対効果が見込めなくなっている。 |

7. 今後の方向性

縮小

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| 事業番号 | 040 | 事業名 | 環境基本計画推進事業 | 担当部課 | くらし文化部環境課 | | | |
|--|-----------------------|---|-----------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 万博理念を継承し、自然・環境にこだわるまち | 会計区分 | 一般会計 | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「みどり」～ふるさと(生命ある空間)の風景を子どもたちに～ | 予算区分(款 一 項 一 目) | | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ みんなで未来へつなぐ 緑はまちの宝物 | 4-1-3 環境衛生費 | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市環境基本条例、第3次長久手環境基本計画 | | | | | | |
| | 事業開始の背景、経緯等 | 平成23年3月に「第3次長久手町環境基本計画」を策定し、その5年後の平成28年3月に市民や事業者、大学と協働で見直しを行い、改訂した。 | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) ・第3次長久手環境基本計画改訂版で掲げた「低炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の3つの社会を実現するための事業を行う。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) ・市民 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) ・「人と地域がつながり、自然と環境にこだわるまち」を「めざす環境像」とする。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 環境基本計画推進事業 | 拡充 | ④ | | | | |
| | ② 地球温暖化対策設備導入促進補助事業 | 拡充 | ⑤ | | | | | |
| | ③ 自然環境調査事業 | 拡充 | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 13,244 | 6,417 | 9,044 | 15,636 | 11,246 |
| | | | 決算 | 10,924 | 4,103 | 8,552 | 14,190 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 3,152 | 2,606 | 4,776 | 5,989 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 14,076 | 6,709 | 13,328 | 20,179 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 一人あたりの二酸化炭素削減量 | t/人年 | 目標 | ▲0.40 | — | — | — | — |
| | | | 実績 | ▲0.40 | — | — | — | — |
| | B クールチョイス賛同者数 | 人 | 目標 | — | — | 300 | 500 | — |
| | | | 実績 | — | — | 971 | 932 | — |
| | C 環境学習への参加者数 | 人 | 目標 | — | 1,720 | 2,000 | 2,000 | 2,000 |
| 実績 | | | 1,677 | 1,859 | 2,242 | 2,656 | — | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 家庭での省エネ行動による二酸化炭素削減量。(平成25年度基準)市民へのアンケートにより算出。 | | | | | | | | |
| B 地球温暖化対策について個人レベルでの動機付け。 | | | | | | | | |
| C 環境問題への意識の高さが判断できる。 | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・パリ協定の発効、国連サミットでの「持続可能な開発目標(SDGs)」の採択、国の第5次環境基本計画の閣議決定、気候変動適応法の施行など。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) ・クールチョイス賛同者数は、市内小学生及び中学生にエコライアルアンケートを実施したため、目標を上回った。 ・環境学習について、市民活動団体と協働で実施した事業もあり、口コミにより多くの参加者が集まった。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) ・環境問題について情報提供を行ってきたが、実際の環境行動につながったかが不明である。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) ・環境問題について情報提供だけでなく「自分事」として、地域で継続的に取り組んでもらう仕組みが不十分である。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) ・「自然の叡智」をテーマにした愛・地球博の開催地として、「自然と環境にこだわるまち」を市民に意識づける取組を拡大していく。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いっごころまでに事業をどのような状態にしたいか) ・家庭での省エネ行動による一人当たりの二酸化炭素排出量を平成17年度比で平成32年度までに▲0.48t/人年にする。(平成27年度においては▲0.40t/人年) | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------|------------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 環境基本計画推進事業 | | 担当部課 | くらし文化部環境課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 環境基本計画推進事業 | 予算区分 | 4-1-3 環境衛生費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成12年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民を対象として、第3次長久手環境基本計画に基づき、環境学習事業を実施する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) ・持続可能な社会を目指すとともに、環境問題を自分の問題として捉えてもらうため。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|--------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 6,368 | 1,541 | 5,070 | 5,876 | 4,956 |
| | | 決算 | 4,493 | 752 | 4,736 | 5,537 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 環境イベント開催支援委託 | | | | 4,999 | 千円 |
| (2) | | グリーンマップ作成委託 | | | | 250 | 千円 |
| (3) | | 消耗品費 | | | | 142 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| グリーンマップ参加者数 | 人 | 見込 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 |
| | | 実績 | 37 | 25 | 21 | 21 | |
| クールチョイス訴求数 | 人 | 見込 | — | — | 1,500 | 5,000 | — |
| | | 実績 | — | — | 4,538 | 5,100 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| グリーンマップ作成事業：子どもを対象に東小校区にて環境に良いもの、悪いものを調査し、世界共通のアイコンで地図を作成。 クールチョイス普及促進事業：温暖化対策に資する賢い選択を促す運動を通じて、低炭素ライフスタイルの普及啓発を行った。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

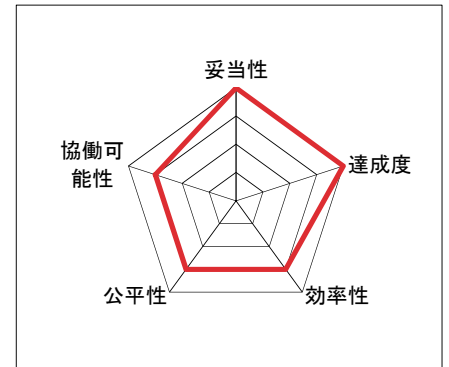
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成28年3月に改訂した第3次長久手環境基本計画を基に、環境を取り巻く世界情勢やトレンド、地域のニーズに即した環境施策を推進していく。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 5,876 千円 4,956 千円 Δ 920 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| 環境学習のイベントに多くの人々が参加してもらうために、より魅力的で親しみやすいアウトプットが必要である。参加者を募るのではなく、市民が集まる場所で環境学習を行う方法を考えていきたい。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| クールチョイス運動普及促進のため、エコトリアルアンケートを市内小学生、中学生を対象に実施。また、児童館で子ども向け省エネ教室、地域住民が主催で行う北小校区でのイベントで一般向けの省エネ教室を実施した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | — | — | — | 30 |
| 実績 | 18 | 27 | 89 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| グリーンマップ作成については、愛知淑徳大学学生と協働で実施し、クールチョイス事業におけるマップづくりについては、ワークショップにおいて市民と作成した。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| グリーンマップ作成事業については、愛知淑徳大学学生が地図作成ルートなどのプランニングや当日の運営を主体的に行なった。 ながくてクールチョイスマップ作りについては、市民とワークショップを行い、日常生活でどのようなクールチョイスの方法があるのか、そのためにどのような交通やお店があるのか地図型普及啓発ツールの作成を行った。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 作成した「グリーンマップ」や「ながくてクールチョイスマップ」を本市の環境について考えてもらうために、また、環境行動につなげていくために、どのように利用していくべきかを検討する必要がある。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------|-------------------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 環境基本計画推進事業 | | 担当部課 | くらし文化部環境課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 地球温暖化対策設備導入促進補助事業 | 予算区分 | 4-1-3 環境衛生費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成13年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民を対象に、地球温暖化防止対策の一環として、住宅に省エネ、創エネ、畜エネ設備機器、雨水貯留槽の設置及び断熱窓のリフォームに対して補助金を交付する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) ・環境への負担の少ない循環型社会の実現を目指すとともに、市民の環境保全意識の醸成を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 4,500 | 2,500 | 1,500 | 3,180 | 2,180 |
| | | 決算 | 4,055 | 1,061 | 1,494 | 2,029 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 住宅用地球温暖化対策設備導入促進費補助金 | | | | | | 2,029 千円 | |
| (2) | | | | | | 千円 | |
| (3) | | | | | | 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 住宅用太陽光発電設備補助件数 | 件 | 見込 | — | 50 | 35 | 20 | 20 |
| | | 実績 | 54 | 30 | 39 | 17 | |
| 雨水貯留槽補助件数 | 件 | 見込 | — | 10 | 10 | 10 | 10 |
| | | 実績 | 4 | 4 | 2 | 5 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 住宅用地球温暖化対策設備(太陽光発電設備、HEMS、定置型リチウムイオン蓄電システム、V2H、断熱窓設備、雨水貯留槽)を設置する者に対して補助金を交付。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

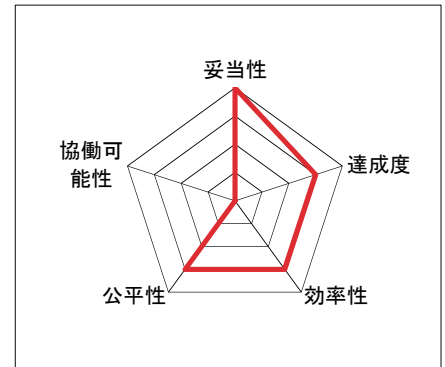
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) FIT制度の買取期間が順次終了すること等により、太陽光発電設備にて発電したエネルギーを自家消費することが重要視されてきた。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 3,180 千円 2,180 千円 Δ 1,000 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| エネルギーの自家消費を推進していくために、創エネ、省エネ、畜エネ設備に対して新たに補助をしていく。また、既存住宅のエコ住宅化を推進していくため、断熱窓設置に対する補助も行っていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 補助対象設備を増やすとともに、エネルギーの自家消費や既存住宅の太陽光発電設備に対する加算金の追加や断熱窓リフォームに対する補助を新たに追加するなど既存住宅の省エネ化を促進した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 補助金交付の事務事業であるため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 当初、断熱窓リフォームに対する補助の周知が行き届かなかったためか、申請が全くなかったが、回覧板による周知宣伝を行ったところ、10件の申請があった。今後も、補助対象施設を設置することによるメリットを市民に分かりやすく周知を行い、補助金を利用しての個人住宅のエコ住宅化を進めていきたい。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 国や県の施策に鑑みながら、再生可能エネルギーの自家消費を推進していくために、創エネ、省エネ、畜エネに対する補助対象設備の検討するとともに、補助対象設備を設置することで、どれだけ家計の負担が減り、地球温暖化対策に寄与できるかをPRしていくことが必要となる。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

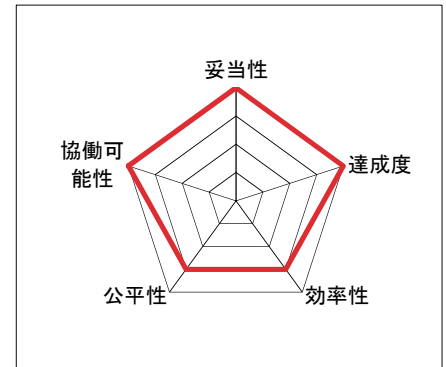
| | | | | | | |
|---------|------------|----------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 環境基本計画推進事業 | | 担当部課 | くらし文化部環境課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ③ | 自然環境調査事業 | 予算区分 | 4-1-3 環境衛生費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成24年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 自然環境の現状を正確に把握するための調査や本市における動植物種の分布状況等のデータベース化、また、地域の在来種や生態系に著しい悪影響を及ぼすおそれがある外来種駆除を目的とした勉強会や、希少種や環境指標性の高い種の保全対策を実施。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 本市の生物多様性の保全及び市民の自然環境保全に対する意識の醸成を図る。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 4 |



2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|---------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 2,376 | 2,376 | 2,474 | 6,580 | 4,110 |
| | | 決算 | 2,376 | 2,290 | 2,322 | 6,624 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 自然環境保全等事業委託 | | | | 6,458 | 千円 |
| (2) | | 印刷製本費 | | | | 100 | 千円 |
| (3) | | 自然環境アドバイザー報酬金 | | | | 66 | 千円 |

【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|---------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | 30 | 30 | 50 | 50 |
| 実績 | 33 | 32 | 50 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 外来種勉強会にて、オオキンケイギク駆除活動を実施。 | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 外来種勉強会参加者数 | 人 | 見込 | 30 | 30 | 30 | 50 | 50 |
| | | 実績 | 33 | 32 | 29 | 50 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 生物多様性の保全と外来種問題について考える機会として、東小学校4年生を対象に「外来種がどうしていけないのか」を学んだ上で駆除活動を行った。 | | | | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 自然環境シンポジウムを実施し、生態系保護エリア「ながくてふるさといきもの里」及び本市の自然環境の魅力、市民活動団体の活動報告などを行い、本市の自然環境を保全していくために何ができるか考える機会とした。 |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 愛知目標達成のために県の生物多様性戦略では、多様な主体の連携により、開発等で分断された自然を緑地等をつなぎ、地域本来の生態を保全再生する「生態系ネットワークの形成」を推進している。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 生態系保護エリアの保護保全策及び整備方針や、市民への自然環境情報提供の方針、方法を検討していく必要がある。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---|---|------------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 6,580 千円 | 4,110 千円 | △ 2,470 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 拡充 | |
| ・前年度【コメント】 | 生態系保護エリア設定に向けて、検討会を実施し、保護保全策及び整備方針の検討につなげていく。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 本市の財産として次世代に残していきたい自然性の高い地区を「生態系保護エリア」として設定し、広く市民に認識してもらうとともに、今後の保護保全策の検討につなげていく。 | | |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|--|--|---|---|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 041 - | 事業名 | 清掃センター運営事業 | 担当部課 | くらし文化部環境課 | | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 万博理念を継承し、自然・環境にこだわるまち | 会計区分 | 一般会計 | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「みどり」～ふるさと(生命ある空間)の風景を子どもたちに～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ みんなで未来へつなぐ 緑はまちの宝物 | 4-2-1 清掃費 | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | - | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 一般廃棄物処理基本計画、清掃センターリユース掲示板運営要領、清掃センター子ども服・図書リユース事業実施要領 | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 平成11年6月策定の第4次長久手町総合計画において、清掃センターの建設を掲げる。平成19年清掃センター(ながくてエコハウス)開館、平成29年11月出張ながくてエコハウス開設 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 市民が清掃センター(エコハウス)を利用するにあたり、以下を実施 ①清掃センター(エコハウス)の適切な維持・管理・運営 ②資源回収ステーションでの資源回収及び再資源化、リユース倉庫での不用品(制服、子ども服、図書等)の回収配布 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 環境への関心を高め、ごみの減量及び資源化に取り組む。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 清掃センター運営事業 | 拡充 | ④ | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 7,385 | 8,617 | 7,840 | 9,413 | 9,722 |
| | | | 決算 | 7,841 | 7,813 | 10,462 | 9,347 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 5,347 | 7,121 | 6,749 | 5,654 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 13,188 | 14,934 | 17,211 | 15,001 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 家庭系1人1日あたりのごみ排出量(資源ごみ、集団回収ごみを除く) | g | 目標 | 516 | 508 | 500 | 472 | 463 |
| | | | 実績 | 483 | 474 | 477 | 480 | |
| | B 資源回収量 | kg | 目標 | 4,213,601 | 4,386,682 | 4,513,239 | 3,500,569 | 3,551,763 |
| 実績 | | | 3,589,173 | 3,481,359 | 3,447,279 | 3,476,570 | | |
| C 資源化率 | % | 目標 | 28.70 | 29.60 | 30.50 | 25.2 | 25.5 | |
| | | 実績 | 26.08 | 25.78 | 25.22 | 25.0 | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 資源として回収することで、ごみの減量につながるため。一般廃棄物処理基本計画に掲げる目標値から算出して設定 | | | | | | | | |
| B 資源として回収することで、ごみの減量につながるため。 | | | | | | | | |
| C 資源として回収することで、ごみの減量につながるため。資源化するごみの量÷ごみの排出量 | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・日進市エコドーム、公園等100か所以上に資源回収場所がある。 ・尾張旭市リサイクル広場、リユース機能が充実している。 ・瀬戸市資源リサイクルセンター、イベント・講座が充実している。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 家庭系1人1日あたりのごみの排出量は成果指標の目標値を達成できているが、資源回収量、資源化率は学生や単身世帯等のごみ減量意識が低いと思われることから目標値を達成できていない。ただし、資源回収量は、新聞・雑誌等の発行数の減少など状況の変化があることから、単純な比較ができなくなっている。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) H26に金属製調理器具とプラスチック製容器包装、H29に羽毛ふとん、H30に水銀体温計・水銀血圧計の受け入れを開始し、受入品目を増加した。また、H30にリユース倉庫で制服のリユースを開始した。H29には、卯塚緑地公園内で出張ながくてエコハウスを開始した。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 市民のエコ意識の高まりとともにエコハウスの駐車場が混雑する。出張ながくてエコハウスを開設し、徐々に集客も増えたが、もっと周知する必要がある。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 市民のエコに対する意識は年々高まってきており、エコハウスの利用者も増加していることから、出張ながくてエコハウスを開設した。利用者も増えてきたことから、出張を継続しつつ、新たな施設の設置も検討していく。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 10年程度先には、まちづくり協議会とも連携し、地域による資源の回収システムを作り、ごみの減量化・資源化を推進する。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------|------------|----------|-----------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 清掃センター運営事業 | | 担当部課 | くらし文化部環境課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 清掃センター運営事業 | 予算区分 | 4-2-1 清掃費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成19年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民が清掃センター（エコハウス）を利用するにあたり、以下を実施 ①清掃センター（エコハウス）の適切な維持・管理・運営 ②資源回収ステーションでの資源回収及び再資源化、リユース倉庫での不用品（制服、子ども服、図書等）の回収配布 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 環境への関心を高め、ごみの減量及び資源化に取り組む。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 7,385 | 8,617 | 7,840 | 9,572 | 9,722 |
| | | 決算 | 7,841 | 7,813 | 10,462 | 9,347 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | 施設管理業務委託 | | | | | 6,374 千円 |
| (2) | | 光熱水費 | | | | | 760 千円 |
| (3) | | 植栽維持管理工事 | | | | | 675 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 資源回収ステーション利用者数 | 人 | 見込 | 150,000 | 160,000 | 180,000 | 190,000 | 190,000 |
| | | 実績 | 165,306 | 181,429 | 184,921 | 198,359 | |
| 資源回収量 | kg | 見込 | 4,213,601 | 4,386,682 | 4,513,239 | 3,500,569 | 3,551,763 |
| | | 実績 | 3,589,173 | 3,481,359 | 3,447,279 | 3,476,570 | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 清掃センター（エコハウス）の資源回収ステーション及びリユース倉庫の適切な維持、管理、運営 出張ながくてエコハウスの維持、管理、運営 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

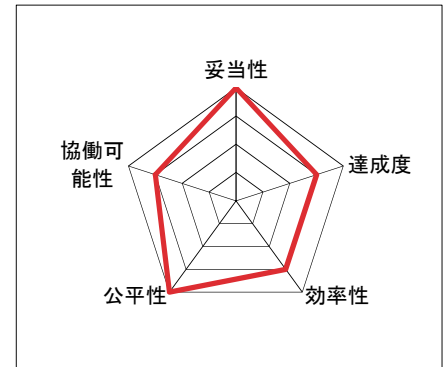
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| <ul style="list-style-type: none"> 日進市エコドーム、公園等100か所以上に資源回収場所がある。 尾張旭市リサイクル広場、リユース機能が充実している。 瀬戸市資源リサイクルセンター、イベント・講座が充実している。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|--|--------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 9,572 千円 | 9,722 千円 | 150 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 拡充 | |
| ・前年度【コメント】 | 市民のエコに対する意識は年々高まってきており、エコハウスの利用者も増加していることから、出張ながくてエコハウスを開設した。利用者も増えてきたことから、出張を継続しつつ、新たな施設の設置も検討していく。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| エコハウスで、水銀体温計及び水銀血圧計の受け入れ、またリユース倉庫の充実のため、市内中学校の制服リユースを開始した。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 160,000 | 180,000 | 190,000 | 190,000 |
| 実績 | 181,429 | 184,921 | 198,359 | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| エコハウスや出張エコハウスだけではなく、地域による回収拠点の設置を進め、市民主体による回収ができないか検討している。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| エコハウスで、水銀体温計及び水銀血圧計の受け入れ、またリユース倉庫の充実のため、市内中学校の制服リユースを開始した。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 市民のエコに対する意識は年々高まってきており、エコハウスや出張の利用者も増加していることから、出張を継続しつつ、新たな施設や地域による回収拠点の設置も検討していく。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|--|------------------------------------|---|---|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 042 - | 事業名 | ごみ啓発事業 | | 担当部課 | くらし文化部環境課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 万博理念を継承し、自然・環境にこだわるまち | 会計区分 | 一般会計 | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「みどり」～ふるさと(生命ある空間)の風景を子どもたちに～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ みんなで未来へつなぐ 緑はまちの宝物 | 4-2-1 清掃費 | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | - | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 一般廃棄物処理基本計画、資源回収推進に関する奨励金交付要綱、生ごみ堆肥化促進に関する補助金交付要綱、生ごみ発酵用密閉バケツ補助金交付要綱、生ごみ処理機購入費補助金交付要綱 | | | | | |
| | 事業開始の背景、経緯等 | 昭和42年もえるごみ収集開始、昭和60年資源の分別収集試行開始 | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) ごみ啓発事業として、次のものを実施 ①愛・Nクリーン ②リサイクルマーケット | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 5R(リデュース・リユース・リサイクル・リフューズ・リペア)に対する関心を高め、ごみの減量や分別などのマナーの向上を図る。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① ごみ啓発事業 | 改善・見直し | ④ | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 3,378 | 3,122 | 3,303 | 3,589 | 3,264 |
| | | | 決算 | 2,571 | 3,452 | 2,994 | 2,977 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 5,347 | 10,521 | 8,410 | 8,672 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 7,918 | 13,973 | 11,404 | 11,649 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 家庭系1人1日あたりのごみ排出量(資源ごみ、集団回収ごみを除く) | g | 目標 | 516 | 508 | 500 | 472 | 463 |
| | | | 実績 | 483 | 474 | 477 | 480 | |
| | B 愛・Nクリーン参加者数 | 人 | 目標 | 1,000 | 1,000 | 1,100 | 1,100 | 900 |
| | | | 実績 | 990 | 1,104 | 1,012 | 893 | |
| | C リサイクルマーケット参加者数 | 人 | 目標 | 500 | 500 | 600 | 600 | 600 |
| 実績 | | | 400 | 600 | 700 | 600 | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 5Rを推進することで、ごみの減量につなげるため。一般廃棄物処理基本計画に掲げる目標値から算出して設定 | | | | | | | | |
| B 環境美化に対する意識向上を図り、ごみの減量につなげるため。 | | | | | | | | |
| C 5Rを推進することで、ごみの減量につなげるため。 | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 市民の5Rに対する関心は高まってきている。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 家庭系1人1日あたりのごみ排出量の目標値は達成できている。また、愛・Nクリーン、リサイクルマーケットの参加者も増えてきている。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) H26に長久手市ごみ減量啓発キャラクター「あすりー」、「すいっとり」を作成した。また、H30にスマートフォン向けごみ分別アプリ「さんあ〜る」を導入した。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 学生、単身世帯等のごみ減量意識が低いと思われる市民に対しての啓発 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 大学や学生等と連携して、イベントやゲームを通じて子どもや学生、単身世帯を対象とした啓発事業を行うことで、ごみ減量に対する意識を高めていく。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 10年程度先には、まちづくり協議会とも連携し、地域による清掃活動やリサイクルマーケットを行い、環境美化とともにごみの減量化・資源化を推進する。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------|----------|-----------|--------|---|
| 事業(A票)名 | ごみ啓発事業 | | 担当部課 | くらし文化部環境課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | ごみ啓発事業 | 予算区分 | 4-2-1 清掃費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和63年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ごみ啓発事業として、次のものを実施 ①愛・Nクリーン ②リサイクルマーケット ③コンポスト等購入補助 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 5R(リデュース・リユース・リサイクル・リフューズ・リペア)に対する関心を高め、ごみの減量や分別などのマナーの向上を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|--------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 3,378 | 3,122 | 3,303 | 3,667 | 3,264 |
| | | 決算 | 2,571 | 3,452 | 2,994 | 2,977 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 資源回収奨励金 | | | | 2,208 | 千円 |
| (2) | | 印刷製本費 | | | | 516 | 千円 |
| (3) | | 生ごみ処理機購入費補助金 | | | | 207 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 愛・Nクリーン参加者数 | 人 | 見込 | 1,000 | 1,000 | 1,100 | 1,100 | 900 |
| | | 実績 | 990 | 1,104 | 1,012 | 893 | |
| リサイクルマーケット参加者数 | 人 | 見込 | 500 | 500 | 600 | 600 | 600 |
| | | 実績 | 400 | 600 | 700 | 600 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| ・愛・Nクリーン：参加者893人、ごみ収集量430kg ・リサイクルマーケット：参加者600人、出店数20店 ・あつまれ！おもちゃとぶんぼーぐ！～エコハウスでとりかえっこ～：参加者457人 ・購入費補助：生ごみ処理機13台、生ごみ発酵用密閉バケツ2個、コンポスト容器0基 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

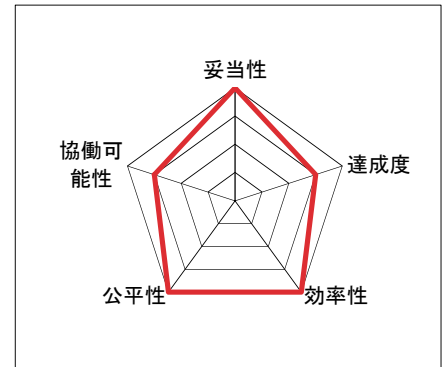
| |
|------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 市民の5Rに対する関心は高まってきている。 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 3,667 千円 3,264 千円 Δ 403 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| 引き続き大学や学生等と連携して、イベントやゲームを通じて子どもや学生、単身世帯を対象とした啓発事業を継続して行うことで、市民のごみ減量に対する意識を高めていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 市民の5Rに対する関心を高めるため、愛・Nクリーン、リサイクルマーケット、あつまれ！おもちゃとぶんぼーぐ！～エコハウスでとりかえっこ～、ごみゼロ運動を実施した。また、レジ袋削減の寄付金を活用し、地域清掃ごみ袋(L)の作成、ごみ分別アプリ「さんあ～る」を導入した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|----------------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | 1,500 | 1,600 | 1,600 | 1,400 |
| 実績 | 1,704 | 1,612 | 1,357 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| ごみゼロ運動、愛・Nクリーンにおいて、市と市民が協働で活動した。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 市民の5Rに対する関心を高めるため、愛・Nクリーン、リサイクルマーケット、あつまれ！おもちゃとぶんぼーぐ！～エコハウスでとりかえっこ～、ごみゼロ運動を実施した。また、レジ袋削減の寄付金を活用し、地域清掃ごみ袋(L)の作成、ごみ分別アプリ「さんあ～る」を導入した。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 引き続き大学や学生等と連携して、イベントやゲームを通じて子どもや学生、単身世帯を対象とした啓発事業を継続して行うことで、市民のごみ減量に対する意識を高めていく。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|--|--|---|--------|------------|-----------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 043 | 事業名 | 公害対策事業 | | 担当部課 | くらし文化部環境課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 万博理念を継承し、自然・環境にこだわるまち | | | 会計区分 | 一般会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「みどり」～ふるさと(生命ある空間)の風景を子どもたちに～ | | | 予算区分(款 一 項 一 目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ みんなで未来へつなぐ 緑はまちの宝物 | | | 4-3-1 公害対策費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 環境基本法、愛知県環境基本条例 等 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 第二次大戦後の産業の復興と急速な工業化に伴い、大都市を中心に公害問題が発生し、近年では、自動車走行に伴う大気汚染や生活排水による水質汚濁に代表される都市・生活型公害が問題となってきている。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 騒音・振動・水質等の定期的な測定を行う。また、環境汚染事故発生時に対処するため、緊急対応の環境測定を行う。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 騒音・振動・水質汚染・悪臭・土壌汚染 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民の健康の保全と生活環境保全 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 公害対策事務事業 | 改善・見直し | ④ | | | | |
| | ② 公害対策整備事業 | 拡充 | ⑤ | | | | | |
| | ③ | | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 3,235 | 3,238 | 3,734 | 3,705 | 3,859 |
| | | | 決算 | 2,157 | 2,125 | 2,934 | 3,336 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 2,291 | 1,712 | 4,559 | 4,973 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 4,448 | 3,837 | 7,493 | 8,309 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 香流川におけるBOD値 | mg/ℓ | 目標 | 8mg/ℓ以下 | 8mg/ℓ以下 | 8mg/ℓ以下 | 8mg/ℓ以下 | 8mg/ℓ以下 |
| | | | 実績 | 8mg/ℓ以下 | 8mg/ℓ以下 | 8mg/ℓ以下 | 8mg/ℓ以下 | |
| | B 県道力石名古屋線等価騒音レベル | 昼間・夜間dB | 目標 | 75・70dB以下 | 75・70dB以下 | 75・70dB以下 | 75・70dB以下 | 75・70dB以下 |
| | | | 実績 | 72・66dB | 71・67dB | 72・67dB | 69・63dB | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 微生物が有機物(汚れ)を食べるために使った酵素量で水質汚濁の指標である。 | | | | | | | | |
| B 自動車騒音に係る環境基準の達成状況を把握する指標。 | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 生活環境の多様化に伴い、環境問題も複雑化している。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 香流川の水質は、環境基準、自動車騒音は、要請限度を超過していない。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 特に問題なし。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 緊急時に対応するために専門知識や危機管理能力の不足。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 定期的な水質検査と主要事業所の排水調査、自動車騒音測定を継続していく。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 緊急時に対応できるよう職員の研修や事例研究に努めていく。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 公害対策事業 | | 担当部課 | くらし文化部環境課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 公害対策事務事業 | 予算区分 | 4-3-1 公害対策費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) <ul style="list-style-type: none"> 河川やため池の水質検査及び主要事業所の排水調査 幹線道路における自動車騒音測定 緊急時における環境測定 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) <ul style="list-style-type: none"> 市民の健康の保全と生活環境保全 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|--------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 3,235 2,157 | 3,238 2,125 | 3,734 2,934 | 3,668 3,299 | 3,821 |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | 環境保全対策事業委託 | | | | | 3,240 千円 |
| (2) | | 消耗品費 | | | | | 48 千円 |
| (3) | | 県フロン回収システム推進協議会負担金 | | | | | 10 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----------|----------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|---------------|
| 香流川におけるBOD値 | mg/l | 見込 実績 | 8 mg/l以下 8 mg/l以下 | 8 mg/l以下 8 mg/l以下 | 8 mg/l以下 8 mg/l以下 | 8 mg/l以下 8 mg/l以下 | 8 mg/l以下 |
| 県道力石名古屋線等価騒音レベル | 昼間・夜間 dB | 見込 実績 | 75・70 dB以下 72・66 dB | 75・70 dB以下 71・67 dB | 75・70 dB以下 72・67 dB | 75・70 dB以下 69・63 dB | 75・70 dB以下 |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| 河川やため池の水質検査及び主要事業所の排水調査。幹線道路における自動車騒音測定。緊急事故発生時における環境測定調査。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

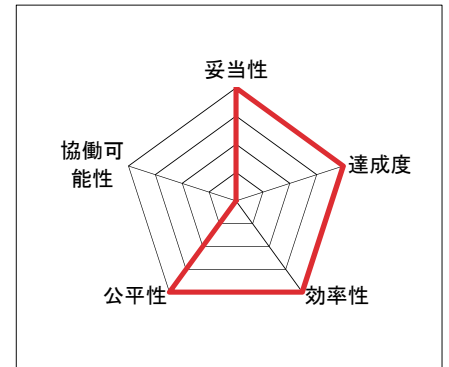
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 生活行動の多様化や住宅開発、大型商業施設開設に伴う自動車通行量の増加に伴う新たな環境問題の発生 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 3,668 千円 3,821 千円 153 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| 定期的な環境測定を継続していくとともに、事故発生時の対応シミュレーションを構築していく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 定期的な環境測定を継続していき、事故発生時には、対応報告書を作成し、共有を図った。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数 (人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況 (30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 環境調査は専門的な知識と技術が必要となるため市民との協働は不可 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 杖ヶ池での魚のえい死、自動車事故による油漏れによる水質汚濁、河川における水質汚濁に対して、関係部署及び関係機関と連携し、早期に対応した。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 事故発生時に臨機応変に対応していくため、事例研究を行い、対応シミュレーションを構築する必要がある。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 公害対策事業 | | 担当部課 | くらし文化部環境課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 公害対策整備事業 | 予算区分 | 4-3-1 公害対策費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 名古屋瀬戸道路と県道力石名古屋線周辺の自動車排気ガスの影響を測定 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 光化学スモッグの発生や、悪臭など都市生活型公害の発生を未然に防ぐため |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|--------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 32 | 37 | 37 | 37 | 38 |
| | | 決算 | 32 | 37 | 0 | 37 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 大気汚染測定仮設電源工事 | | | | 37 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 光化学オキシダント環境基準超過日 | 日 | 見込 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| | | 実績 | 0 | 4 | — | 0 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 県が所有する大気汚染測定車を県道力石名古屋線付近に設置し、大気汚染調査を約1ヶ月実施するもの。県実施事業を支援するもので、平成30年度は11月27日から12月19日まで実施。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

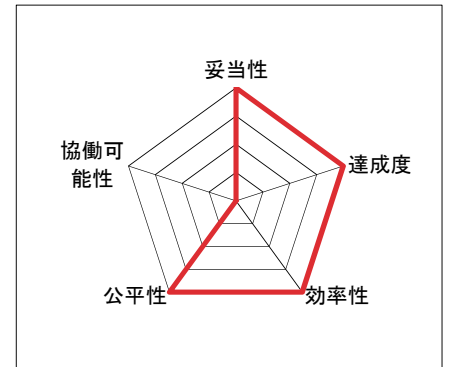
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 大型商業施設やモリコロパークへの来場者が急増し、名古屋瀬戸道路、県道力石名古屋線を通行する自動車が増加している。 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 37 千円 38 千円 1 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| 大型商業施設の開設やモリコロパークでのイベントなどで、道路通行量が急増しているため、定期的な監視体制が必要となる。平成29度は実施しなかったが、平成30年度は平成28年度同様実施していく予定。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 平成30年度は、県実施事業である大気汚染測定を実施し、その支援を行った。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|-------------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 専門的知識と技術を要する調査であるため、市民との協働は不可 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 例年気温が高い9月頃に実施するが、急遽県の都合で11月中旬から12月中旬に測定が行われたため、光化学オキシダントが環境基準を超過する日は皆無だった。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 大型商業施設や、モリコロパークでのイベント開催に伴う来場者の増加に伴い、長久手インターを利用する自動車が増加する可能性があるため、引き続き注視していきたい。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-------|-----|----------|------|-------------|
| 事業番号 | 044 - | 事業名 | 社会教育事務事業 | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 |
|------|-------|-----|----------|------|-------------|

| | | | | | |
|------|---------------|---|---|-----------------|--|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 文化をみがき、人が輝くまち | 会計区分 | 一般会計 | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | 9-4-1 社会教育総務費 | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 社会教育法第5条第1. 2. 12. 16号、44条、長久手市立小学校及び中学校施設使用料条例 | | |
| | 事業開始の背景、経緯等 | 市民の文化活動を行う場を増やし、学習等に関する情報の収集・整理及び提供を行う事によって生涯学習への参加を促すため。 | | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|---|--------|---|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 生涯学習課生涯学習係が分担する事務の総務 ・社会教育に必要な援助を行う。 ・社会教育委員の委嘱を行う。 ・文化芸術の発表会等の開催及びその奨励を行う。 ・社会教育に関する情報の収集、整理及び提供をする。 ・文化芸術の学習の場の提供として市内の小中学校の開放をする。 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民 | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民が自主的に生涯学習を行えるようにする。 | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 社会教育事務事業 | 改善・見直し | ④ | |
| | | ② | | ⑤ | |
| | | ③ | | ⑥ | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | 3,549 | 3,322 | 3,236 | 3,323 |
| 決算 | | | | 2,759 | 2,660 | 2,965 | 4,234 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | 2,700 | 2,902 | 4,543 | 3,970 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | 5,459 | 5,562 | 7,508 | 8,204 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------|----------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 学校開放事業利用人数 | 人 | 目標 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| | | | 実績 | 6 | 15 | 16 | 13 | |
| | B 生涯学習情報誌の発行部数 | 部 | 目標 | | | 5,000 | 5,000 | 5,000 |
| 実績 | | | | | 5,000 | 5,000 | | |
| C | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 学校開放事業利用人数20人を目指す。
※土曜日の北中学校及び北小学校の多目的室の利用人数

B 生涯学習情報誌を発行した部数

C

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) みよし市年に4回各150部、尾張旭市年に1回400部、瀬戸市年に2回各1,500部、日進市年に3回各全戸配布、東郷町年に4回各全戸配布で生涯学習に関する情報の収集、整理のため情報誌を作成している。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|---|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) ・学校開放事業は年間13人の利用であった。(文化芸術事業のみ) ・情報誌は、前期後期で、各約1,000部を退職後世代にDMで配布した。各約1,500部を生涯学習課や公共施設で配布した。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 学校開放に関しては、広報によりPRしているが利用が少ない現状であった。 生涯学習情報誌では、H29年度から情報誌に関するアンケートを実施し、市民の声を反映した紙面づくりに取り組んでいる。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 情報誌の内容充実と学校開放事業の周知の徹底 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 生涯学習を通して他者と交流することができるように、生涯学習を身近に感じる情報提供の充実や学びの場・発表の場の提供を行う。 |
| | 中長期の目標 | (いっところまでに事業をどのような状態にしたいか) ・情報誌にはがきを添付し、アンケートをもとにニーズにあった情報掲載ができるように改善していく。 ・広報等に学校開放事業について掲載し、生涯学習の場として使用できることを周知する。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|----------|------------------------------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 社会教育事務事業 | | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 社会教育事務事業 | 予算区分 | 9-4-1 社会教育総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 学校開放H22年度(2010年度)情報誌 H16年度(2003年度) | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民、市内講座・ボランティアに参加したい方に各種講座や社会教育関係団体を紹介し、学習情報の充実に努める。 また、学習の場の提供として、土曜日の長久手市立北小学校及び北中学校の施設を学校教育に支障のない範囲で、市民の文化活動等のために開放する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 冊子を手に取り、学校や公共施設を利用した市内講座・ボランティア・サークルに参加し、積極的に生涯学習に取り組む。(特に定年退職後世代) |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 3,549 | 3,322 | 3,236 | 3,323 | 2,836 |
| | | 決算 | 2,759 | 2,660 | 2,965 | 4,234 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 社会教育事務嘱託員 | | | | | | 1,267 千円 | |
| (2) 社会教育事務賃金 | | | | | | 1,242 千円 | |
| (3) 印刷製本費 | | | | | | 609 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|----------|----------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 掲載された講座数・団体数 | 講座 団体 | 見込 | | | 200 | 200 | 240 |
| | | 実績 | | | 227 | 230 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 生涯学習情報誌作成 2,500冊×2回(前期・後期) 目標：前期・後期でそれぞれ100(講座・団体)ずつ 実績：前期 125(講座・団体)、後期 110(講座・団体) | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

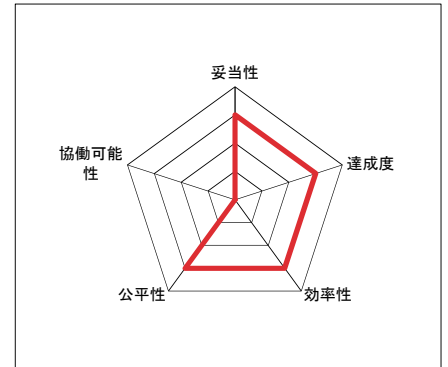
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 学校開放については、北小学校の図書館開放事業を終了したため、多目的室の利用人数のみとなり、利用人数が少なくなっている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 3,323 千円 2,836 千円 Δ 487 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| 各課や市内大学等に呼びかけ、生涯学習情報誌の掲載講座数及び団体数を増加させ、見やすいレイアウトを検討していく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 生涯学習情報誌にアンケートハガキを添付し、市民から意見聴取し、紙面の構成に反映する。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市民協働する事業でないため、評価できない。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|----------------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 生涯学習情報誌にアンケートハガキを添付し、市民から意見聴取する。 |

【改善ポイント】

| |
|------------------------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 庁舎内の情報だけでなく、市内大学等からの講座情報の提供を呼びかける。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|------------------------------|-----------------------|---|--------|------------|---------------|-------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 045 | 事業名 | 成人式事業 | | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 文化をみがき、人が輝くまち | | | 会計区分 | 一般会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | | 予算区分(款—項—目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | | | 9-4-1 社会教育総務費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | — | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 昭和57年度以前～ | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 新成人を主体とした実行委員会が、式典などの準備から運営までを企画し、成人の日に文化の家森のホールで成人式の式典を挙行する。式典後に、成人式の参加者を対象として茶話会(アトラクション)を開催する。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市内在住の新成人 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 成人したことを自覚し、主体的に企画・運営を行う。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 成人式事業 | 改善・見直し | ④ | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 1,251 | 1,258 | 1,264 | 1,247 | 1,650 |
| | | | 決算 | 1,089 | 841 | 673 | 911 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 1,452 | 1,222 | 2,980 | 3,989 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 2,541 | 2,063 | 3,653 | 4,900 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 成人式参加率 | % | 目標 | 70 | 70 | 70 | 70 | 70 |
| | | | 実績 | 66.1 | 66.1 | 61.3 | 66.5 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 成人式参加率70%を目指す。 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 尾張旭市他、愛知県内27の市町村で実行委員会形式で実施。 瀬戸市では、小学校単位に分かれて開催し、地元住民が運営している。 2022年民法の一部改正により、成人年齢が引き下げられ、18歳となる。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 成人式参加率は平成29年度61.3%から平成30年度66.5%にまで増加したが、目標値は達成できなかった。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 成人式参加率は、様々なPRに取り組んでいるが、横ばいの状況である。また、H30年度から別会場に家族席を設けた。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 公募の実行委員の応募者が少ない。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 引き続き、新成人による手作りの成人式を開催する。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 地域の人や家族が新成人を祝い励ます式とする。 2022年民法の一部改正により成人年齢が18歳となるが、引き続き、式の対象は20歳とし、市民に分かりやすい式の名称等を検討する。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|---------------------------------------|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・引き続き実行委員会形式で実施するなかで、職員の負担軽減を図ってください。 |
|------|-------------------------|---------------------------------------|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|------------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 成人式事業 | | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 成人式事業 | 予算区分 | 9-4-1 社会教育総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和57年度（1982年度）以前 | 終了（予定）年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市内在住の新成人に対し、新成人による実行委員会の企画・運営により、成人の日に文化の家森のホールで成人式の式典を開催。式典後に、成人式の参加者を対象として茶話会（アトラクション等）を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 成人したことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます。二十歳の青年らが主体的に企画・運営を行い、式への参加を呼びかけることで参加率を向上させる。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 1,251 | 1,258 | 1,264 | 1,247 | 1,650 |
| | | 決算 | 1,089 | 841 | 673 | 911 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) 会場設営委託 | | | | | | 396 | 千円 |
| (2) 消耗品費 | | | | | | 341 | 千円 |
| (3) 食糧費 | | | | | | 91 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 成人式実行委員の開催数 | 回 | 見込 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | | 実績 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| 式典参加者数 | 人 | 見込 | 431 | 459 | 467 | 459 | 437 |
| | | 実績 | 408 | 434 | 410 | 470 | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 当日の流れの把握や役割分担を実施した。 茶話会等アトラクションの企画の決定と作業を行った。 前年度の実行委員へ参加を呼びかけ、改善すべき点のアドバイスを受けた。（見込：H32年成人式対象者625人×70%） | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

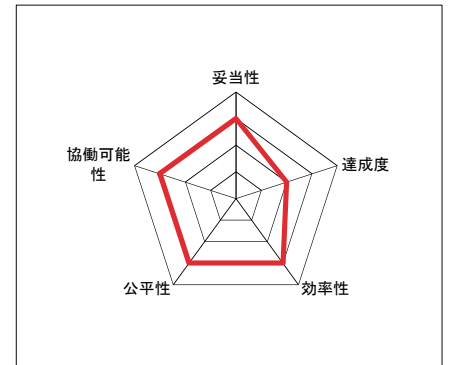
| |
|--------------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 式典中、別会場に家族席を設け、中継して式典の映像を放映した。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|---|--------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 1,247 千円 | 1,650 千円 | 403 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 改善・見直し | |
| ・前年度【コメント】 | <ul style="list-style-type: none"> パネル作成等に時間がかかるため、第1回実行委員会の時期を早め、早い時期から自主的な活動ができるよう促す。 実行委員と話し合いながら、会場内の家族の観覧席をなくし、別会場を家族用とする。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 実行委員会協議した結果、会場内の家族の観覧席をなくし、別会場を家族席とし、中継して式典の映像を放映した。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| 実績 | 11 | 10 | 3,989 | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 式典は、実行委員が役割分担して、運営を担った。実行委員主体のアトラクションとして実行委員手作りのパネル前で撮影する『クラス写真撮影』など新成人や実行委員にとって思い出に残るものとなった。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 実行委員会協議した結果、会場内の家族の観覧席をなくし、別会場を家族席とし、中継して式典の映像を放映した。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 第1回実行委員会が9月に開催されたため、パネル等の作成の時間が足りないとの意見があったため、時期を早める必要がある。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-------|-----|-------|------|-------------|
| 事業番号 | 046 - | 事業名 | 公民館事業 | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 |
|------|-------|-----|-------|------|-------------|

| | | | | |
|-------------|---------------|-------------------|---|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | — | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 「やってみたい」でつながるまち | 9-4-1 社会教育総務費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 社会教育法第20条、長久手市公民館条例、長久手市公民館条例施行規則、第2次長久手市生涯学習基本構想 | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 昭和49年～ | | | |

| | | | | |
|-------|-----------------|--|--------|---|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) ・公民館の貸出し ・公民館の管理・運営を行う。 | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 公民館利用者(市外の人も可) | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 公民館を良好な状態で市民及び公民館利用者に貸出し、教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興・社会福祉の増進に寄与することを目的とする。 | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 公民館事務事業 | 改善・見直し | ④ |
| | | | | ⑤ |
| | | | | ⑥ |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|-------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 3,952 | 4,032 | 3,240 | 3,229 | 3,595 |
| | | | 決算 | 3,685 | 3,739 | 3,070 | 3,049 | |
| 人件費(B) | 千円 | 決算 | 5,042 | 3,502 | 4,833 | 5,499 | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 8,727 | 7,241 | 7,903 | 8,548 | | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------|----------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 公民館稼働率 | % | 目標 | 60 | 60 | 60 | 50 | 50 |
| | | | 実績 | 58.4 | 54.5 | 43.9 | 45.6 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| C | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 前年度実績を上回るように目標設定する。

B

C

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 県内54市町村全てに公民館又はコミュニティ施設が設置されている。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) H29年度に文化の家大規模改修の完了及び確定申告、無料税理士相談を他施設で実施した結果、稼働率は減少気味であったが、H30年度は、時間貸しを開始し、稼働率が少し上昇した。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 公民館利用に関しては、これまで午前、午後、夜間の利用枠であったが、H30年度から時間貸しを開始し、利便性を改善した結果、稼働率が上昇した。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 午後6時以降(夜間の時間帯)の利用が少ない。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 地域の生涯学習の場である公民館を適切に管理する。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成30年度から公民館の時間貸しが開始されたため、1時間単位の利用ができることや、利用者が少ない夜間6時以降の定期的な夜間利用が可能であることをPRL、稼働率の向上を図る。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|---------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 公民館事業 | | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 公民館事務事業 | 予算区分 | 9-4-1 社会教育総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和49年(1974年)～ | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 適切な公民館の管理・運営を行い、市民及び公民館利用者に貸し出す。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 公民館を良好な状態で貸し出す。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 3,952 | 4,032 | 3,240 | 3,229 | 3,595 |
| | | 決算 | 3,685 | 3,739 | 3,070 | 3,049 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) 公民館等管理委託 | | | 2,819 千円 | | | | |
| (2) 損害保険料 | | | 114 千円 | | | | |
| (3) 印刷製本費 | | | 63 千円 | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 公民館利用者数 | 人 | 見込 | 57,000 | 55,000 | 44,000 | 40,000 | 44,000 |
| | | 実績 | 54,040 | 43,325 | 39,836 | 43,470 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| 公民館の管理・運営を行った。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

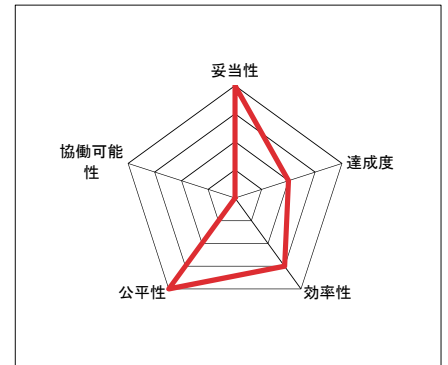
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 公用利用が減少し、多くの一般の方に利用してもらえるようになった。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 3,229 千円 3,595 千円 366 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| 平成30年度から公民館の時間貸しを開始するため、1時間単位の利用ができることや、夜間6時以降、定期的な利用が可能であることをサークル等にPRする。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 平成30年度から公民館の時間貸しを開始することで、1時間単位の利用ができるよう利便を図り、稼働率の向上に取り組んだ。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数 (人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | 5,499 | — |
| (2) 協働の状況 (30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市民協働する事業でないため、評価できない。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 平成30年度から公民館の時間貸しを開始することで、1時間単位の利用ができるよう利便を図り、稼働率の向上に取り組んだ。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 午後6時以降、公民館利用が少ないので、時間貸しのPR等により夜間利用者を増やす。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-------|-----|----------|------|-------------|
| 事業番号 | 047 - | 事業名 | 生涯学習推進事業 | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 |
|------|-------|-----|----------|------|-------------|

| | | | | |
|-------------|---|-------------------|---|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 文化をみがき、人が輝くまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 「やってみたい」でつながるまち | 9-4-1 社会教育総務費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 社会教育法第5条6・10・13・15、第2次長久手市生涯学習基本構想、ながくて・学び・アイ講座運営要綱 | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 公民館講座：昭和57年度以前～、ながくて・学び・アイ講座：平成20年度試行、平成21年開始 市民大学：平成26年度～、土曜英語学習事業：平成28年度～、囲碁講座：平成30年度～ | | | |

| | | | | |
|-------|-----------------|--|--------|---|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 長久手市公民館講座において、第2次長久手市生涯学習基本構想に基づき、「自主的な学習を支援する」「学習の内容を充実する」「学習機会を提供する」「学習の情報提供を充実する」「学習の場を充実する」を目標とする。 | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市内在住、在勤、在学の人(講座によっては、講座開講が確定しているもので、一定期日にまでに募集定員に満たなければ市外の人も可) | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 公民館において、様々な講座を開催することにより、学習の機会を提供し、講座の中で興味を持つジャンルを見つけることで、市民が集まり、交流できるきっかけづくり、つながりづくりを行う。 | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 生涯学習推進事業 | 改善・見直し | ④ |
| | ② | | ⑤ | |
| | ③ | | ⑥ | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | 599 | 1,252 | 1,926 | 1,689 |
| 決算 | | | | 616 | 1,153 | 1,632 | 1,222 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | 2,979 | 2,979 | 5,236 | 4,878 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | 3,595 | 4,132 | 6,868 | 6,100 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------------------------------|-------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 全講座の平均満足度 | | % | 目標 | — | — | 85 | 85 |
| 実績 | | | | — | — | 83.7 | 86.8 | |
| B 学び・アイ講座数に対する開講講座の割合 | | % | 目標 | 90 | 80 | 80 | 80 | 80 |
| | | | 実績 | 69.2 | 75.6 | 56.8 | 60.6 | |
| C 新規サークル | | 団体 | 目標 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 |
| | | | 実績 | 9 | 9 | 12 | 8 | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 前年度実績を上回るように目標設定する。 | | | | | | | | |
| B 前年度実績を上回るように目標設定する。 | | | | | | | | |
| C 新規サークル15団体の成立を目指す。 | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・市内に点在する史跡を巡る講座や市内の大学と連携した講座など地域の資源を生かした講座を実施。 ・近隣の尾張旭市、瀬戸市、日進市、豊明市で講師募集型講座を実施。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) ・全講座の平均満足度は目標の85%に届かなかった。 ・学び・アイ講座の開講率は目標の80%に届かなかった。 ・新規サークルについては目標の15団体に届かなかった。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) ・全講座の満足度は、ほぼ横ばいの状況であった。 ・学び・アイ講座の開講率は、伸び悩んでいる状況であった。 ・新規サークルについては、H30年度は減少した。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) ・受講生のアンケートでの意見や満足度を参考に、今後の講座内容を検討する。 ・チラシの内容について分かりやすいものにする。 ・継続した生涯学習を推進するために、サークル活動の実践を講座の中で案内する。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) ・公共施設に設置するチラシの活用等広報の方法を検討する。 ・講座終了後も自主的にサークルを立ち上げ活動できるよう講座の中で学習サークルの設立案内等を行う。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 講座終了後の学習活動の継続を促し、自主的な学習を支援していく。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | <ul style="list-style-type: none">・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。・他課が実施する類似講座等との統合を検討してください。・生涯学習事業について、他の生涯学習事業(講座)との連携(統廃合など)を検討してください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

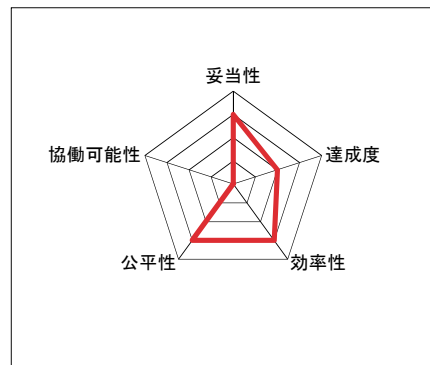
| | | | | | | |
|---------|----------|------------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 生涯学習推進事業 | | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 生涯学習推進事業 | 予算区分 | 9-4-1 社会教育総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和57年度(1982年度)以前 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・小学校1、2年生：土曜日の英語学習を企画・実施 ・18歳以上：市内在住、在勤、在学の方を対象に各種講座を実施し、参加者同士が交流しながら楽しく学ぶ機会を提供する。大学連携講座では大学における専門的な知識を市民に伝えるとともに研究成果を社会へ還元する。(全て原則、市内在住・在勤・在学) |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民の生涯学習への関心を高め、交流する楽しさを知るきっかけづくりとし、生きがいと居場所づくりを推進する。また、子どもたちに豊かな学習機会を提供する。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 599 | 1,252 | 1,926 | 1,689 | 1,689 |
| | | 決算 | 616 | 1,153 | 1,632 | 1,222 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> (1) 公民館講座講師料 793 千円 (2) 土曜学習事業委託 429 千円 (3) 千円 | | | | | | | |

【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)

| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|----|------------|------------|------------|-----------|
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |

(2) 協働の状況(30年度(2018))

(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)

市民協働する事業でないため、評価できない。

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 講座参加者数 | 人 | 見込 | 740 | 500 | 560 | 590 | 500 |
| | | 実績 | 498 | 552 | 587 | 498 | |
| 開講した学びアイ講座 | 講座 | 見込 | 35 | 28 | 35 | 15 | 25 |
| | | 実績 | 27 | 31 | 25 | 20 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> 市内在住、在勤、在学の人(講座開講が確定しているもので、期日までに募集定員に満たなければ、市外の人可)を対象に各種講座を実施し、参加者同士が交流しながら楽しく学ぶ機会を提供する。H30年度は史跡巡り講座、浴衣着付け講座、パソコン講座(4講座)、大学連携講座(2講座)、囲碁講座等を行った。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 自主的な生涯学習の推進のため、ながくて・学び・アイ講座で開講が可能であると思われる講座は、公民館講座として開講しないこととする。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 1,689 千円 1,689 千円 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| ・サークル成立数は伸び悩んでいる。平成30年度はチラシや広報、HP等でもサークル活動案内を行うことにより、成立数の増加を目指す。 ・講座参加者数が30年度は前年度より大きく減少した。HPやチラシ等、広報の方法を検討し、講座参加者数の増加を目指す。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 受講者の学びの継続、つながりづくりの大切さを話し、講座から派生するサークルの育成のPRを実施している。平成30年度は、8サークル成立した。 |

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)

受講者の学びの継続を推進するため、講座から派生するサークルの育成のPRを実施している。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)

講師から受講生への一方的な講義ではなく、講師も互いに講義の仕方などを学ぶことができるような仕組みを作る必要がある。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|------------------------------|-----------------------|--|------------|------------|---------------|-------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 048 | 事業名 | 社会教育団体補助事業 | | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 文化をみがき、人が輝くまち | | | 会計区分 | 一般会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | | 予算区分(款—項—目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | | | 9-4-1 社会教育総務費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市社会教育関係団体補助金交付要綱 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 昭和57年度以前～ | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 社会教育団体の社会教育に関する事業、研究、大会の参加及び交流事業に要する経費に対し、要綱に基づいて交付する。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市内の社会教育関係団体 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民団体の活発な活動を促進する。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 文化補助事業 | 改善・見直し | ④ | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 1,765 | 1,765 | 1,800 | 1,800 | 1,800 |
| | | | 決算 | 1,765 | 1,765 | 1,800 | 1,800 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 2,674 | 1,986 | 1,853 | 2,566 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 4,439 | 3,751 | 3,653 | 4,366 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 補助団体の会員数(総数) | 人 | 目標 | 5,400 | 5,500 | 5,600 | 5,600 | 5,800 |
| | | | 実績 | 5,354 | 5,402 | 5,571 | 5,746 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 前年度実績を上回るように目標設定する。 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町もほぼ同様に実施。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 会員数は増加傾向にあり、平成30年度は目標値を上回った。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 補助金により、それぞれの団体の活動を支援し、会員数は増加傾向にある。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | 団体活動の発展に寄与するように補助金を交付しているが、各団体による自己資金・自主財源等の確保にも努めてほしいと考える。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 各団体の会員数を増加させ、活動を促進する。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 各団体の会員数を増加させ、活動を促進する。また、自主財源等の確保を促進する。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------|------------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 社会教育団体補助事業 | | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 文化補助事業 | 予算区分 | 9-4-1 社会教育総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和57年度(1982年度)以前 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市内で活動している社会教育関係団体に対して、補助金を交付することで、社会教育事業の自主的な運営を支援する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 各団体の活動人数を増やし、活発な活動を促進する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 1,765 | 1,765 | 1,800 | 1,800 | 1,800 |
| | | 決算 | 1,765 | 1,765 | 1,800 | 1,800 | 1,800 |
| ＜備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| (1) 小中学校PTA連絡協議会補助金 | | | | | | 850 千円 | |
| (2) 文化協会補助金 | | | | | | 700 千円 | |
| (3) 郷土史研究会補助金 | | | | | | 200 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 補助団体の会員数 | 人 | 見込 | 5,400 | 5,500 | 5,600 | 5,600 | 5,800 |
| | | 実績 | 5,354 | 5,402 | 5,571 | 5,746 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| ＜備考：活動の概要（30年度(2018)）＞ 社会教育団体が社会教育のために行う事業に要する経費に対し、予算の範囲内において交付する。 長久手市文化協会700千円、長久手市小中学校PTA連絡協議会850千円、日本ボーイスカウト愛知連盟長久手第1団50千円、長久手市郷土史研究会200千円 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

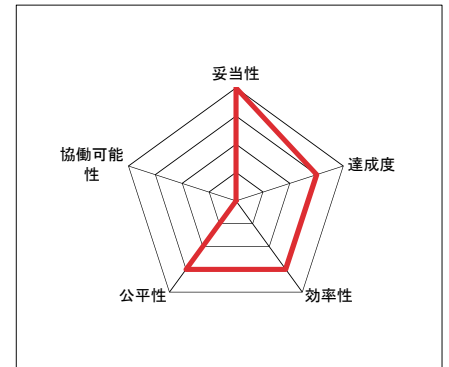
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町もほぼ同様に実施。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 1,800 千円 1,800 千円 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| 団体の活発な活動を促進するため、ヒアリングを行う。今後も継続して、会員数増加を目指す。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 補助金の申請時、交付時にヒアリングする他、会員の応募等がある時には、速やかに団体へ案内するなど、会員数の増加促進に寄与する。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数 (人) | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況 (30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市民協働する事業でないため、評価できない。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 補助金の申請時にヒアリングする他、会員の応募等がある時には、速やかに団体へ案内している。 |

【改善ポイント】

| |
|----------------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 各団体が自己資金、自主財源等の確保できるように促す。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-------|-----|----------|------|-------------|
| 事業番号 | 049 - | 事業名 | 文化・文化財事業 | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 |
|------|-------|-----|----------|------|-------------|

| | | | | |
|-------------|---------------|--------------------------|-----------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 文化をみがき、人が輝くまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪 | 9-4-6 文化財費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市文化財保護条例 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | | 文化財を保存し、且つ、その活用を図るため。 | | |

| | | | | |
|-------|-----------------|--|--------|---|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 市民共有の貴重な財産である文化財を保存、継承するとともに、地域の活性化に向けて積極的に活用する。 | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市内に存在する文化財全般。 | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 文化財の保存、継承及び活用。 | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 文化財事務事業 | 改善・見直し | ④ |
| | | | | ⑤ |
| | | | | ⑥ |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | 21,621 | 23,802 | 23,929 | 38,889 |
| 決算 | | | | 19,938 | 22,368 | 21,396 | 25,849 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | 3,895 | 5,041 | 6,074 | 4,401 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | 23,833 | 27,409 | 27,470 | 30,250 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------------|----------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 史跡案内回数 | | 回 | 目標 | 25 | 25 | 25 | 25 |
| 実績 | | | | 16 | 26 | 24 | 18 | |
| B 史跡確認点検回数 | | 回 | 目標 | | | | 12 | 12 |
| | | | 実績 | | | | 12 | |
| C | | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 郷土史研究会の史跡案内の回数25回を目指す。郷土史研究会の活動実績により、実現可能な数値とした。

B 文化財、史跡地への確認点検回数12回を目指す。定例的に文化財を巡視することを目的とし、月1回の頻度で実施する。

C

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) H30年度、文化財保護法が改正され、文化財の積極的な活用が望まれるようになった。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|---|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) ・史跡案内については、前年より減少し18回の実績であった。目標には至らなかった。 ・史跡確認回数は、目標の12回実施した。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) ・史跡案内回数については、横ばいで、これまで目標に至っていない。 ・H30年度から成果指標としている史跡確認回数は、目標の12回実施している。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 文化財の保存、継承及び活用の重要性を市民に情報発信していく必要がある。 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 文化財の保存、継承及び活用を積極的に推進していく。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 継続的に文化財の保存、継承及び活用を積極的に推進していく。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・古戦場公園の植栽管理について、回数・程度の見直しに努め、経費節減に努めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | | |
|---------|----------|---------|--|------|-------------|------------|---|
| 事業(A票)名 | 文化・文化財事業 | | | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 文化財事務事業 | | | 予算区分 | 9-4-6 文化財費 | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | | | 終了(予定)年度 | — | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 文化財の保存、継承及び活用するための事務事業を実施している。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 文化財の保存、継承及び活用。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 21,621 | 23,802 | 23,929 | 38,889 | 35,982 |
| | | 決算 | 19,938 | 22,368 | 21,396 | 25,849 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> (1) 古戦場公園史跡維持管理工事 18,708 千円 (2) 学芸員嘱託員報酬 2,210 千円 (3) 警固祭り補助金 2,000 千円 | | | | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 文化財保護審議会の回数 | 回 | 見込 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | | 実績 | 2 | 2 | 2 | 2 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> 文化財の保護及び活用に関し、古戦場公園史跡維持管理工事や警固祭り補助金の交付などを実施し、文化財の保護を図った。また、学芸員嘱託員を雇用し、文化財の保存活用のための体制を整えた。上記について、文化財保護審議会へ報告した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

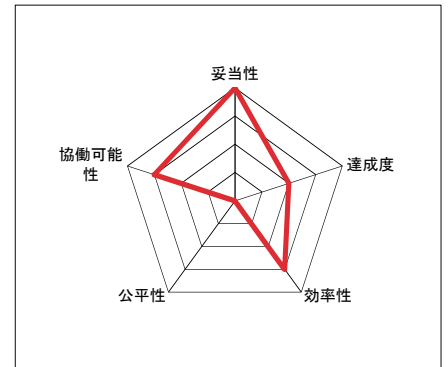
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) H30年度、文化財保護法が改正され、文化財の積極的な活用が求められる。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 38,889 千円 35,982 千円 △ 2,907 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| 文化財の歴史的価値、観光資源としての価値を高め、文化財の保存、継承及び活用を積極的に推進していく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 郷土史研究会と連携し、文化財の歴史的価値等、市民や本市に訪れる人にPRした。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | — |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数 (人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 108 | 104 | 106 | 110 |
| 実績 | 108 | 104 | 106 | |
| (2) 協働の状況 (30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 郷土史研究会と協働し、文化財の歴史的価値等を市民や本市に訪れる人にPRした。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 長久手市文化財保護審議会では、当該年度の文化財保護事業の計画や実績報告、次年度の計画等について説明し、審議会から意見聴取した。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 市民組織と協働して、史跡を保存活用していくことができるように、市民組織の育成を図る。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|------------------------------|--|---|---------------|------------|-------------|-------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 050 | 事業名 | 色金山歴史公園管理運営事業 | | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 文化をみがき、人が輝くまち | | | 会計区分 | 一般会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | | 予算区分(款—項—目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | | | 9-4-6 文化財費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 色金山歴史公園の設置及び管理に関する条例、色金山歴史公園の管理運営に関する規則 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 平成8年色金山歴史公園の供用開始により戦国武将も嗜んだとされる茶道に親しみ、来場者が歴史に触れられる事業に取り組む。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 国指定史跡「長久手古戦場附色金山」の保護及び有効活用を図る。 ・色金山歴史公園茶室管理棟の維持管理を行う。 ・茶室管理棟(胡牀庵、和室)の部屋の貸出しや立礼席での抹茶体験サービスを提供する。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 色金山歴史公園茶室の利用者。 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) ・史跡を適切に保存し、有効活用する。・茶室において快適な抹茶体験をしてもらう。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 色金山歴史公園管理運営事業 | 改善・見直し | ④ | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 11,666 | 10,777 | 10,913 | 11,775 | 11,141 |
| | | | 決算 | 11,239 | 10,269 | 10,394 | 11,028 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 5,186 | 5,190 | 5,506 | 6,294 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 16,425 | 15,459 | 15,900 | 17,322 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 年間利用者数 | 人 | 目標 | 13,000 | 12,000 | 11,000 | 11,000 | 11,000 |
| | | | 実績 | 11,762 | 10,575 | 10,553 | 9,920 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 前年度実績を上回るように目標設定する。 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 尾張旭市、東郷町、みよし市及び豊明市でほぼ同じ内容を実施。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 年間利用者数は横ばいで、目標には至らなかった。H30年度は、猛暑の影響で利用者は減少した。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 公園のPR等を実施してきたが、年間利用者数は横ばいで、これまで目標には至らなかった。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 色金山の歴史的価値と公園を広く知ってもらうことが課題である。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 公園及び庭園等の維持管理により、きれいな景観を保ち、利用数を増加できるよう努める。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 美しい景観と展望テラスからの眺望のため、史跡長久手古戦場保存活用計画に基づき、樹木の伐採を含めた公園整備を行う。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|---------------|---------------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 色金山歴史公園管理運営事業 | | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 色金山歴史公園管理運営事業 | 予算区分 | 9-4-6 文化財費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成9年度（1997年度） | 終了（予定）年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | <p>(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 胡麻庵・和室の貸出しや立礼席で抹茶サービスを提供する。 ・ 色金山歴史公園茶室及び園庭の美化に努め、憩いの場として維持管理する。 ・ 10月に色金山茶会（市民茶会）を史跡「長久手古戦場」のPRを兼ねて開催する。 ・ 市民が茶道に親しむ機会を作る。 |
| 意図 | <p>(対象をどのような状態にしたいか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 茶室の利用者及び茶会への参加者を増加させる。 ・ 国指定史跡地を含む色金山歴史公園をPRする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 11,666 | 10,777 | 10,913 | 11,775 | 11,141 |
| | | 決算 | 11,239 | 10,269 | 10,394 | 11,028 | |
| <p><備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）></p> <p>(1) 色金山歴史公園茶室管理棟管理賃金 3,514 千円</p> <p>(2) 色金山歴史公園維持管理委託 2,783 千円</p> <p>(3) 賄材料費 1,331 千円</p> | | | | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 開館日数 | 日 | 見込 | 307 | 306 | 307 | 306 | 306 |
| | | 実績 | 307 | 306 | 307 | 306 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <p><備考：活動の概要（30年度(2018)）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 色金山茶室管理棟・公園管理。 ・ 市民が茶道に親しむ機会を作る。 ・ 色金山茶会の開催 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

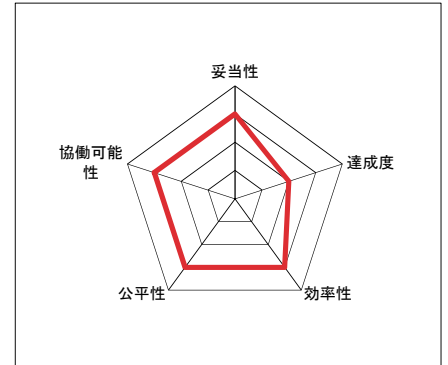
| |
|--------------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 史跡長久手古戦場保存活用計画に基づき、必要な整備を行っていく |

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 11,775 千円 11,141 千円 Δ 634 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・ 前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・ 前年度【コメント】 |
| 史跡長久手古戦場保存活用計画に基づき、展望テラスからの眺望のため、樹木の伐採を含めた公園整備を行う。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 月釜茶会、色金山茶会を文化協会（茶道部）と協働し開催した。景観改善のため、樹木の伐採等を実施した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | — | 70 | 80 |
| 実績 | — | — | 70 | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 月釜茶会、色金山茶会を文化協会（茶道部）と協働し開催した。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|-------------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 月釜茶会、色金山茶会を文化協会（茶道部）と協働し開催した。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 国指定史跡地を含む色金山歴史公園をチラシやパンフレット等によりPRし、来場者数を増加させる。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票 (A票：事業評価票)

| | | | | | |
|------|-------|-----|------------|------|-------------|
| 事業番号 | 051 - | 事業名 | 古戦場公園再整備事業 | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 |
|------|-------|-----|------------|------|-------------|

| | | | | |
|-------------|---|-----------------------------|-----------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 文化をみがき、人が輝くまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪 | 9-4-6 文化財費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 古戦場公園再整備基本計画 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 国指定史跡「長久手古戦場」を含む古戦場公園における施設の老朽化に伴い、古戦場公園再整備事業を第5次総合計画に施策として位置づけた。 | | | |

| | | | | |
|-------|-----------------|--|--------|---|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 古戦場公園再整備基本計画に基づき、古戦場公園一帯を再整備する。 | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 国指定史跡を含む古戦場公園一帯。 | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 歴史的価値を見出し、史跡を構成する要素を明らかにし、将来へわたって保存、活用していく。 | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 古戦場公園再整備事業 | 改善・見直し | ④ |
| | | ② | | ⑤ |
| | | ③ | | ⑥ |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | 11,659 | 3,300 | 4,405 | 44,773 |
| 決算 | | | | 0 | 20,665 | 4,554 | 44,105 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | — | 7,867 | 5,638 | 4,213 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | — | 28,532 | 10,192 | 48,318 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------|----------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 市民ワークショップ参加者 | 人 | 目標 | 140 | 100 | — | 20 | 80 |
| | | | 実績 | 98 | 15 | — | 70 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| C | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 前年度実績を上回るように目標設定する。

B

C

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 岐阜県関ヶ原町H22.3策定(史跡関ヶ原古戦場保存管理計画)、名古屋市H27.3策定(史跡志段味古墳群保存管理計画)、小牧市H27.3策定((仮称)史跡センター整備基本構想)、小牧市H28.3策定((仮称)史跡センター周辺史跡整備基本計画)、愛知県H28.3策定(史跡貝殻山貝塚保存管理計画) |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|---|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) パークマネジメント組織の立ち上げ準備のため、市民ワークショップを3回開催し、参加者は延べ70人であった。 古戦場公園再整備基本設計を策定した。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) これまで、市民と協働で古戦場公園再整備に関する意見交換やパークマネジメント組織の立ち上げ準備のため、市民ワークショップを実施してきた。H30年度は、古戦場公園再整備基本設計を作成した。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 古戦場公園再整備基本計画に基づき、市民主体で古戦場公園を運営する組織づくりを進めていく。 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 今後、史跡長久手古戦場保存活用計画及び基本設計に基づき、実施設計を行う。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 古戦場公園を再整備し、2022年度に供用開始すると共に、市民主体のパークマネジメント組織を立ち上げる。 |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | 令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------|----------------|----------|----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 古戦場公園再整備事業 | | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 古戦場公園再整備事業 | 予算区分 | 9-4-6 文化財費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成26年度(2014年度) | 終了(予定)年度 | 平成34年度(2022年度) | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 古戦場公園を訪れる来場者に対し、史跡の説明、公園の案内を行うことで、史跡「長久手古戦場」を知ってもらう。これらの役割を市民が主体的に担うことを促進する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 新しいガイダンス施設や公園内の史跡地等を整備し、市民が来場者を案内し、史跡について知ってもらう。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 11,659 | 3,300 | 4,405 | 44,773 | 52,602 |
| | | 決算 | 0 | 20,665 | 4,554 | 44,105 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 建築基本設計委託 | | | | | | 12,271 千円 | |
| (2) 展示基本設計委託 | | | | | | 9,801 千円 | |
| (3) 造園基本設計委託 | | | | | | 9,721 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 市民ワークショップ | 回 | 見込 | 4 | 1 | — | 3 | 6 |
| | | 実績 | 4 | 1 | — | 3 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 市民主体のパークマネジメント組織の立ち上げのため、市民ワークショップを開催した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

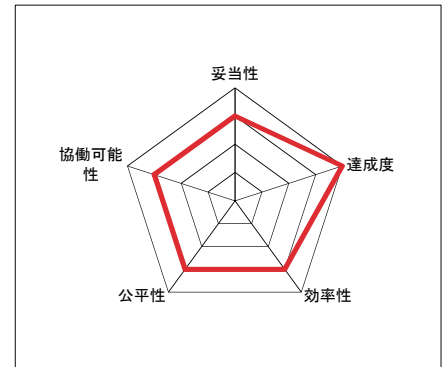
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成30年度6月に、文化財保護法が改正され、文化財の積極的な活用が求められている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 44,773 千円 52,602 千円 7,829 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 ※新規行政評価対象 |
| ・前年度【コメント】 |
| A・B票新規行政評価対象(前年度までS票) |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 市民主体のパークマネジメント組織の立ち上げのため、古戦場公園再整備事業キックオフパーティー及び市民ワークショップを開催した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | 100 | — | 20 | 80 |
| 実績 | 15 | — | 70 | |

| |
|--|
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) 古戦場公園再整備事業キックオフパーティーを開催し、1,006人の参加者があった。また、市民ワークショップを3回開催し、延べ70人の参加者を集め、パークマネジメント組織の立ち上げ準備に取り組んだ。 |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 市民主体のパークマネジメント組織の立ち上げのため、古戦場公園再整備事業キックオフパーティー及び市民ワークショップを開催した。 |
|--|

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 現状、市民ワークショップについて、ファシリテーターを業者委託しているが、市民の中からファシリテーター等を育成し、市民主体で意見交換していく。 |
|--|

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|---|---|--|-----------|------------|-------------|-------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 052 | 事業名 | 古戦場桜まつり事業 | | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 文化をみがき、人が輝くまち | | | 会計区分 | 一般会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | | 予算区分(款—項—目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | | | 9-4-6 文化財費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手古戦場桜まつり実行委員会補助金交付要綱 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 平成25年度の長久手古戦場桜まつりから市民による長久手古戦場桜まつり実行委員会の主催として、実施している。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 国指定史跡である長久手古戦場を含む古戦場公園で、市民及び長久手市の協働事業として長久手古戦場桜まつりを開催し、史跡のPR及び市民同士の交流を図る。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 長久手古戦場桜まつりの来場者。史跡のPR及び市民同士の交流。 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 国指定史跡「長久手古戦場」を多くの人に興味・関心を持ってもらう。市民同士が交流する場にする。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 古戦場桜まつり事業 | 改善・見直し | ④ | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 2,565 | 2,565 | 2,609 | 2,609 | 2,606 |
| | | | 決算 | 2,512 | 2,478 | 2,273 | 2,369 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 2,903 | 4,277 | 2,175 | 2,702 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 5,415 | 6,755 | 4,448 | 5,071 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 来場者数 | 人 | 目標 | 8,500 | 8,500 | 8,500 | 8,500 | 8,500 |
| | | | 実績 | 5,000 | 8,000 | 8,000 | 8,000 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 多くの市民等に史跡PRや交流促進を図るため、8,500人の来場者を目指す。 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 日進市の岩崎城春まつり(主催:日進市商工会)では、行政に頼らない運営を行い、行政で最低限のサポートをする体制を整えている。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 長久手古戦場桜まつり実行委員会が主体となり、まつりの企画・運営・PRしたが、目標値には至らなかった。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 来場者数は横ばいであるが、これまで、長久手古戦場桜まつり実行委員会が主体となり、アイデアを出し合い、企画・運営・PRしてきた。徐々に実行委員会の自主性、主体性が高まってきている。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 長久手古戦場桜まつりの魅力ある企画・運営に取り組んでいく必要がある。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 長久手古戦場桜まつり実行委員会が主体となって国指定史跡のPRと魅力あるまつりを開催していく。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 長久手古戦場桜まつり実行委員会主体で企画、運営を全て実施していく。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・実行委員会の自立を目指すとともに、事業規模の見直しを検討し、経費の節減に努めてください。 ・引き続き実行委員会形式で実施するなかで、職員の負担軽減を図ってください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|-----------|-----------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 古戦場桜まつり事業 | | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 古戦場桜まつり事業 | 予算区分 | 9-4-6 文化財費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和63年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 長久手古戦場桜まつりを実行委員会形式により市民主体で開催している。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民主体となり、長久手市が誇る国指定史跡「長久手古戦場」のPR、市民交流のため、多くの人に訪れてもらう。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 2,565 | 2,565 | 2,609 | 2,609 | 2,606 |
| | | 決算 | 2,512 | 2,478 | 2,273 | 2,369 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 古戦場桜まつり補助金 | | | 2,330 千円 | | | | |
| (2) 損害保険料 | | | 32 千円 | | | | |
| (3) 手数料 | | | 7 千円 | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 実行委員会開催回数 | 回 | 見込 | 5 | 5 | 5 | 6 | 6 |
| | | 実績 | 5 | 5 | 5 | 6 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> 古戦場桜まつり補助金の交付により、市民主体による実行委員会形式で6回の委員会を開催した。実行委員会では、まつりの企画や運営について検討を行った。当日は約8,000名の来場者であった。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

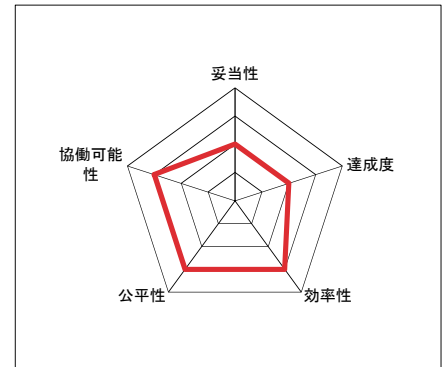
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 他市町でも実行委員会等が主体となって、まつりを開催することが多い。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 2,609 千円 2,606 千円 △ 3 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| 長久手古戦場桜まつり実行委員会が、さらに主体性を高めて、まつりの運営に取り組む。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 実行委員の主体性を高めるため、会議では、自分たちに何ができるか、また課題や解決策を考えた。本部受付は、実行委員が交代でその役割を担った。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 2 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | — | — | 70 |
| 実績 | 58 | 78 | 66 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市民主体の実行委員会がまつりの企画を考え、運営も手がけている。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 実行委員の主体性を高めるため、会議では、自分たちで何ができるか及び課題と解決策を考えた。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| まつりに多くの来場者を集めるため、実行委員によるPRや情報発信により、目標の来場者数に達するようにする。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|-------------|--|---|--------|-------------|-------------|
| 事業番号 | 053 | 事業名 | 学校開放事業 | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 文化をみがき、人が輝くまち | | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | 予算区分(款—項—目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | | 9-5-1 保健体育費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市立小学校及び中学校の施設の開放に関する規則、長久手市立小学校及び中学校施設使用料条例、長久手市教育振興基本計画 | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 小学校の運動場、小中学校の体育館を学校が使用しない時に一般市民に開放して、市民にスポーツを行う場を提供する。 | | | | |

| | | | | | | |
|-------|-----------------|---|--------|---|--|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 軽スポーツやファミリースポーツの普及およびレクリエーションスポーツ等の開催 年齢を問わず参加できるスポーツ教室や健康づくり教室の開催や場の提供 競技スポーツの推進 | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民(市内在住、在勤、在学の方で構成されている10名以上の登録チーム) | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民が生涯にわたりスポーツに親しみ、健康と体力の維持増進を図ることを目的とする。 | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 学校開放事業 | 改善・見直し | ④ | | |
| | | ② | | ⑤ | | |
| | | ③ | | ⑥ | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|--------|----|-------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 2,691 | 2,667 | 2,652 | 2,652 | 3,000 |
| | | | 決算 | 2,045 | 2,303 | 2,384 | 2,460 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 2,825 | 3,048 | 1,803 | 3,053 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 4,870 | 5,351 | 4,187 | 5,513 | | |

| | | | | | | | | |
|--|-------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 利用率 | % | 目標 | 79.2 | 82.9 | 81.2 | 77.9 | 80.0 |
| | | | 実績 | 80.2 | 72.3 | 73.6 | 84.0 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) A 施設の利用率を高めることを目標とする。目標は、利用率80%を目指す。 B C | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣の尾張旭市、瀬戸市、日進市、豊明市で同様の事業を行っている。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 前年度比+10.4%と大幅に利用率が上昇し、目標の利用率77.9%を達成した。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 利用率を高めるため、利用可能種目のPRなどを継続的に実施した。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 市内体育施設利用登録者の内、学校開放利用をしている登録者は少なく、同一登録者による利用が多い。また、小学校の運動場は、主にスポーツ少年団の利用が多く、一般市民グループの利用が低い傾向にある。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 学校ごとで設置されている備品が異なることから、利用可能なスポーツ種目も異なる。全ての学校で利用可能種目を増やすことにより、地域でのスポーツ利用を促し、さらなる利用率の向上を目指す。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 利用者が杖ヶ池体育館アリーナに集中しているため、3~5年を目途に、全ての学校で利用可能種目を6種目以上とし、稼働率の上昇を目指していく。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|----------------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 学校開放事業 | | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 学校開放事業 | 予算区分 | 9-5-1 保健体育費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成25年度（2013年度） | 終了（予定）年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民（市内在住、在勤、在学の方で構成されている10名以上の登録チーム） 市立小中学校の体育館及び運動場を学校教育に支障のない範囲で地域住民のスポーツ及びレクリエーションに開放するもの |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民が生涯にわたりスポーツに親しみ、健康と体力の維持増進を図ることを目的とする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 2,691 | 2,667 | 2,652 | 2,652 | 3,000 |
| | | 決算 | 2,045 | 2,303 | 2,384 | 2,460 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) 学校開放施設管理委託 | | | | | | 2,198 千円 | |
| (2) 修繕料 | | | | | | 208 千円 | |
| (3) 印刷製本費 | | | | | | 54 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 利用率 | % | 見込 | 79.2 | 82.9 | 81.2 | 77.9 | 80.0 |
| | | 実績 | 80.2 | 72.3 | 73.6 | 84.0 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> 小学校の運動場、小中学校の体育館を学校が利用しない時に一般市民に開放を行った。利用率の目標は、過去2年間の利用率平均+5%をめざし、小中学校の開放数延べ2,782コマに対し、2,339コマの利用数があり利用率84.0%となった。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

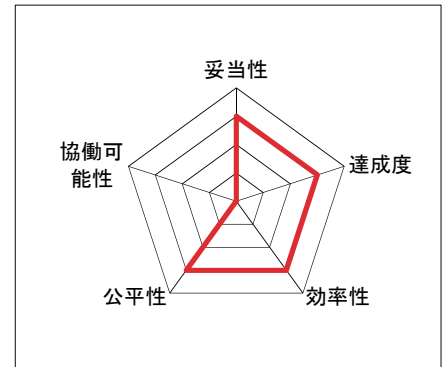
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) バレーボール、バスケットボールなど競技系のスポーツだけでなく、ダンスなどのエクササイズ系のスポーツを行う人口も増えるなど、ニーズが多様化してきている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 2,652 千円 3,000 千円 348 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 ・小学校の利用率が低いことから、広報、HPで各小学校の利用可能種目を積極的にPRする必要がある。 ・学校施設であり、スポーツも多様化してきていることから、全てのニーズに対応できていない。近年のニーズを踏まえた利用許可種目等の見直しを行う必要がある。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 開放日数増加のため、各小中学校の担当教員と協議を行い、可能な限り開放した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) 市民協働する事業でないため、評価できない。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 平成30年度は、小中学校合わせて、2,339コマの利用があり、杣ヶ池体育館のアリーナとほぼ同数の利用があった。 |
|---|

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) ・学校施設であり、スポーツも多様化してきていることから、全てのニーズに対応できていない。近年のニーズを踏まえた利用許可種目を増加していく必要がある。 |
|--|

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-------|-----|----------|------|-------------|
| 事業番号 | 054 - | 事業名 | 地域社会体育事業 | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 |
|------|-------|-----|----------|------|-------------|

| | | | | | |
|-------------|---|----------------------|-------------|-----------------|--|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 文化をみがき、人が輝くまち | 会計区分 | 一般会計 | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | 9-5-1 保健体育費 | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | — | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | スポーツイベントやレクリエーション活動を実施し、家族や仲間との交流を通して、絆を強めることを目標とする。 幅広い年齢層を対象として「歩く、走る、泳ぐ等」といった各種スポーツイベント及び教室を開催する。 | | | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|---|---------------------|-------------|--------|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 軽スポーツやファミリースポーツの普及及びレクリエーションスポーツイベント等の開催 年齢層を問わず参加できるスポーツ教室や健康づくり教室の開催や場の提供 競技スポーツの推進 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民(在勤、在学者を含む) | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民が参加できるスポーツ種目の増加を図り、市民の健康意識の向上や家庭、地域の交流を推進する。 | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 社会体育事業 | 改善・見直し | ④ 学校プール開放事業 | 改善・見直し |
| | ② マラソン大会事業 | 改善・見直し | ⑤ 愛知万博記念市町村対抗駅伝大会事業 | 改善・見直し | |
| | ③ 文化スポーツクラブ事業 | 改善・見直し | ⑥ | | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | 11,802 | 14,574 | 14,052 | 14,316 |
| 決算 | | | | 11,121 | 12,714 | 13,144 | 12,407 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | 3,436 | 3,430 | 4,638 | 8,396 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | 14,557 | 16,144 | 17,782 | 20,803 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------|---------------|----|-------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A スポーツ教室の申込率 | % | 目標 | 80.8 | 82.6 | 82.8 | 81.5 | 84.2 |
| | | | 実績 | 83.8 | 81.8 | 81.1 | 87.3 | |
| | B マラソン大会の参加者数 | 人 | 目標 | 1,540 | 1,500 | 1,500 | 2,000 | 2,000 |
| 実績 | | | 1,189 | 1,392 | 1,760 | 1,142 | | |
| C 学校プール開放参加者数 | 人 | 目標 | 2,300 | 3,500 | 2,565 | 2,442 | 1,768 | |
| | | 実績 | 1,424 | 2,443 | 2,326 | 1,684 | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A スポーツ教室の過去2年間の申込率平均を目指す。

B 平成31年度は、マラソン大会の参加者数2,000人を目指す。

C 学校プール開放事業の1校あたりの参加人数+5%を目指す。

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 各市町で独自にスポーツイベント等を実施 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) スポーツ教室の申込率目標81.5%に対して87.3%で、前年度に比べて5.8%上回った。 マラソン大会の参加者数目標2,000人に対し、1,142人で目標値を858人下回った。 学校プール開放参加者数目標2,442人に対し、1,684人で目標値を758人下回った。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) スポーツ教室の申込率については、概ね目標を達成している。 マラソン大会については、平成28年度から仮装賞を導入し、参加者の増加をはかった。ただし、平成30年度については雨天開催であったため、参加者は減少した。 学校プール開放の参加者数は、平成28年度から1校から2校へ開放箇所を増やしたため増加したが、平成29年度以降は、開放日の気温上昇などに伴い、減少傾向にある。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) スポーツの多様化やスポーツイベントに求められる考え方も変化しており、本市の地域社会体育事業のあり方について市民ニーズ等把握し、事業展開を図っていく必要がある。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 広く市民のスポーツ及び健康づくりに関するニーズを調査・把握し、参加者の向上を目指す。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成31年度に策定予定の長久手市スポーツ推進計画と実施事業との整合性を図る。 |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・マラソン大会、学校プール開放(こども分)など、無料の事業について、受益者負担の適正化を検討してください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

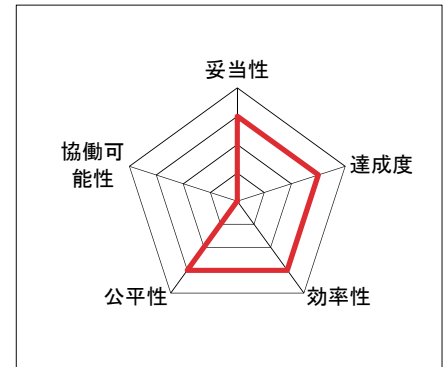
| | | | | | |
|---------|----------|--------------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 地域社会体育事業 | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① 社会体育事業 | 予算区分 | 9-5-1 保健体育費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成18年（2006年） | 終了（予定）年度 | — | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市内在住、在勤、在学の方に、市内のスポーツ施設を使用し、スポーツ教室を開催する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) スポーツを楽しむことで、健康で元気な生活を送れるようにする。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 3,162 | 3,489 | 3,135 | 3,015 | 3,184 |
| | | 決算 | 2,887 | 2,825 | 3,153 | 2,788 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> (1) スポーツ教室等講師委託 1,616 千円 (2) 自動車借上料 301 千円 (3) スポーツ教室等講師報酬金 281 千円 | | | | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| スポーツ教室の申込率 | % | 見込 | 80.8 | 82.6 | 82.9 | 81.5 | 84.2 |
| | | 実績 | 83.8 | 81.8 | 81.1 | 87.3 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> 市内在住、在勤、在学の方に、スポーツを楽しむことで、健康で元気な生活を送れるよう市内のスポーツ施設を使用し、スポーツ教室を開催。教室延べ定員520人に対し454人参加した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
 スポーツの種目等が多様化し、スポーツに対するニーズも様々なものとなっている。また、健康志向の強いスポーツが増加している。

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---|------------|--------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 3,015 千円 | 3,184 千円 | 169 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 改善・見直し | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| アンケートを行うなど、市民ニーズを把握し、今後の教室の内容について検討していく必要がある。 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 教室参加者に対しアンケートを実施し、結果を講師と共有。開催内容、時期等の検討材料とした。 | | |

【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市民協働する事業でないため、評価できない。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 市内在住、在勤、在学の方に、市内のスポーツ施設を使用し、スポーツ教室を22教室開講し、健康と体力の維持・増進に貢献できた。 |

【改善ポイント】

| |
|---------------------------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 市民ニーズを把握し、今後の教室の内容・時期について、引き続き検討していく。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|----------|--------------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 地域社会体育事業 | | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | マラソン大会事業 | 予算区分 | 9-5-1 保健体育費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成10年(1998年) | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 走ることが好きな人を対象に愛・地球博記念公園を使用して新春ふれあいマラソン大会を開催する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) スポーツを楽しむことで、健康で元気な生活を送れるようにするとともに参加者のふれあいの場とする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|--------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 777 | 931 | 788 | 1,014 | 1,061 |
| | | 決算 | 747 | 789 | 927 | 894 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | マラソン大会会場設営委託 | | | | 459 | 千円 |
| (2) | | 手数料 | | | | 131 | 千円 |
| (3) | | 印刷製本費 | | | | 112 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 参加者数 | 人 | 見込 | 1,540 | 1,500 | 1,500 | 2,000 | 2,000 |
| | | 実績 | 1,189 | 1,392 | 1,760 | 1,142 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 走ることが好きな人を対象に愛・地球博記念公園を使用して新春ふれあいマラソン大会を開催した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

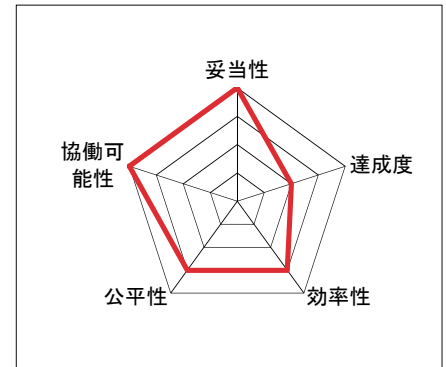
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) マラソン競技人口の増加により、参加者のマラソン大会に求めるニーズが多様化してきている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 1,014 千円 1,061 千円 47 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| 参加者アンケートを初めて実施し、参加者の大半が現イベント内容に満足していることが分かった。そこでは競技性を高めていくよりも、現行のふれあいマラソンとしての内容を高めていくことが「新春ふれあいマラソン大会」の参加者増に繋がるものと考え、その内容を検討していく。また、参加者が増加することによる運営の体制についても一般ボランティアを取り入れるなど検討していく必要がある。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 一般ボランティアを募り、運営体制の強化を図った。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 4 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|-------------------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | — | — | 10 | 10 |
| 実績 | — | — | 10 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 平成30年度から初めて一般ボランティアを募り、当日の大会運営を行った。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 平成28年度から市民団体による太鼓の演奏などを取り入れ、参加者同士や運営に関わる人とのふれあいを意識したイベント内容とし、誰でも気軽に参加できるマラソン大会としている。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 平成30年度は小雨だったため、参加者数が例年と比べて減少したが、申込者数は年々増加しており、適正な運営のため、運営スタッフ等の増員が必要である。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 地域社会体育事業 | | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ③ | 文化スポーツクラブ事業 | 予算区分 | 9-5-1 保健体育費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成14年（2002年） | 終了（予定）年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 児童生徒の学校部活動を地域や行政と共に支援するもの（外部指導者、指導手当の予算化、大会の開催等） |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 児童生徒への様々な文化・スポーツを学ぶ機会を提供し、心身の健全な成長を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 5,405 | 5,497 | 5,330 | 5,430 | 4,854 |
| | | 決算 | 5,402 | 4,727 | 4,529 | 4,166 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) 文化スポーツクラブ指導員報償金 | | | | | | 3,783 千円 | |
| (2) 連盟加入負担金 | | | | | | 193 千円 | |
| (3) 損害保険料 | | | | | | 190 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 指導者数 | 人 | 見込 | 85 | 107 | 96 | 123 | 126 |
| | | 実績 | 107 | 96 | 123 | 126 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| 児童生徒の学校部活動について外部指導者の登録、指導手当の支援を行うことにより、学校教員の多忙化の軽減や児童への様々な文化・スポーツを学ぶ機会を提供した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

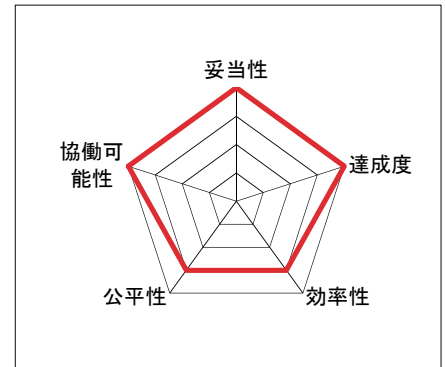
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 部活動顧問の負担軽減のため、今後の部活動のあり方を地域も交えて検討する必要がある。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 5,430 千円 4,854 千円 Δ 576 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| ・小学校の現場では、部活動指導の多くを正規職員で賄っている現状があり、人材確保のため、地域の人材等情報提供を学校に行うことで登録指導者を増やすしていく必要がある。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 本事業の周知を行うことで、指導者数は123人から126人に増加した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 4 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 20 | 30 | 25 | 22 |
| 実績 | 30 | 25 | 22 | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 小中学校の部活動指導において、外部指導者による指導を行った。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|-------------------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 外部指導者の登録により、学校教職員の多忙化の軽減及び指導補助が行えた。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 新しい外部指導者の登録を増やしていく必要があるが、新規登録者を確保することが困難である。本事業を市民に対して周知する方法を検討する。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 地域社会体育事業 | | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ④ | 学校プール開放事業 | 予算区分 | 9-5-1 保健体育費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成14年（2002年） | 終了（予定）年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民に対し、8月の夏休み期間中に長久手小学校及び南小学校のプールを開放する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民の体力増進・泳力向上と夏休みの地域・親子のコミュニケーションを図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 2,213 | 4,512 | 4,524 | 4,570 | 4,570 |
| | | 決算 | 1,965 | 4,225 | 4,303 | 4,372 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) 学校プール開放管理委託 | | | | | | 4,190 千円 | |
| (2) 消耗品費 | | | | | | 182 千円 | |
| (3) | | | | | | 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 参加人数 | 人 | 見込 | 2,300 | 3,500 | 2,565 | 2,442 | 1,768 |
| | | 実績 | 1,424 | 2,443 | 2,326 | 1,684 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| 市民に対し、8月の夏休み期間中に市民の健康増進と体力づくりを目的として長久手小学校及び南小学校のプールを開放し、長久手小学校1,012人、南小学校672人の参加があった。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

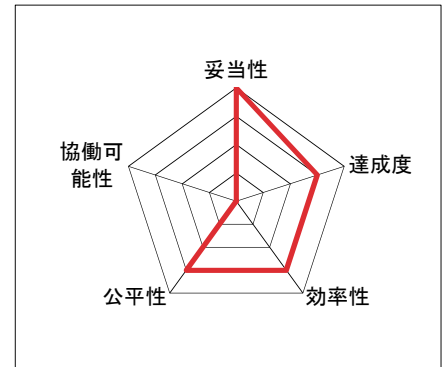
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成27年度までは長久手小学校1校での開放だったが、平成28年度からは、長久手小学校と南小学校の2校を開放し、利用者が参加しやすい状況とした。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 4,570 千円 4,570 千円 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| 広報やHPIによりPRのみでなく、チラシを作成し、学校配布を行うなど、PR方法を見直す必要がある。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| チラシを作成し、子供が多く集まる市内の児童館等へ配布した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市民協働する事業でないため、評価できない。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 南小学校の工事の関係で例年よりも開放日数が減少したこと、及び開放日の気温上昇に伴い、昨年度と比較し、参加者が大幅に減少した。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 参加人数が年々減少傾向にある。暑さ対策の実施及び開放日数の増加を検討する必要がある。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|-------------------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 地域社会体育事業 | | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ⑤ | 愛知万博記念市町村対抗駅伝大会事業 | 予算区分 | 9-5-1 保健体育費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成18年（2006年） | 終了（予定）年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市内在住、在勤、在学、小・中・高生で構成する県内54市町村の代表者が、モリコロパークで行う愛知駅伝にて順位を競う。 市部門については、全38市である。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民に市町村の交流や広域で行うスポーツに親しんでもらうとともに市内の長中距離競技レベルの向上を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 245 | 145 | 275 | 287 | 290 |
| | | 決算 | 120 | 148 | 232 | 187 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) 食料費 | | | | | | 58千円 | |
| (2) 愛知駅伝市代表選手出場記念品 | | | | | | 45千円 | |
| (3) 選手控え用テント借用料 | | | | | | 38千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 市部門の順位向上 | 位 | 見込 | 32 | 28 | 28 | 20 | 20 |
| | | 実績 | 29 | 33 | 20 | 25 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> 市内在住、在勤、在学、小・中・高生で構成する県内54市町村の代表者がモリコロパークで順位を競う愛知駅伝で、市内の長中距離競技レベルの向上を図り、順位は前年度と比べ下がったが、タイムは過去最高を記録した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

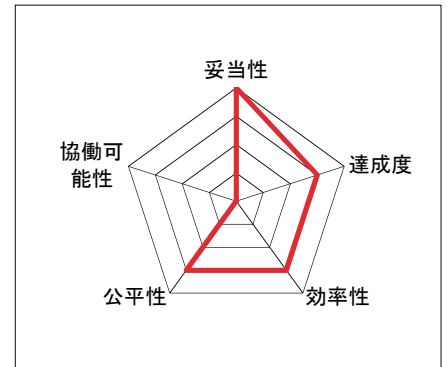
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成27年度に長久手市体育協会に陸上部が発足し、選手の指導が行われている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 287千円 290千円 3千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| ・順位上昇のため、競技人口や小・中学生の年代から育成を行い、選手層を厚くすることが必要である。 |
| ・十分な練習が行える場所の確保が必要である。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 平成27年度から長久手市体育協会の中に発足した陸上部が個人の目標タイムなどを設定した練習方法など確立したことから、選出された選手の個々の能力が上昇し、総合力が上がった。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市民協働する事業でないため、評価できない。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 平成17年度に開催された愛知万博を記念して、翌平成18年度から県内54市町村が参加し開催されている駅伝で、年齢別の選手が選出されるため、老若男女で楽しめる大会である。 |

【改善ポイント】

| |
|------------------------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 安全が確立された練習場所の確保が課題であり、屋内等も含めて検討する。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-----|-----|----------------|------|-------------|
| 事業番号 | 055 | 事業名 | 総合型スポーツクラブ運営事業 | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 |
|------|-----|-----|----------------|------|-------------|

| | | | | |
|-------------|--|--------------------------|-------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 文化をみがき、人が輝くまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | 予算区分(款—項—目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪 | 9-5-1 保健体育費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | — | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 地域と密着したスポーツ及びレクリエーション活動を通して、住民の健康づくり、地域社会の活性化に寄与することを目標とし、「いつでも、どこでも、誰でも」を合言葉に、子どもから高齢者、初心者から上級者まで参加できる各種スポーツ教室やイベントを開催する総合型地域スポーツクラブの運営を図る。 | | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|--|--------|---|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) いつでも、どこでも、誰でも参加できる様々な年齢を問わず参加できるスポーツ教室や健康づくり教室の開催や場の提供を行う総合型地域スポーツクラブの運営推進 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民(在勤、在学含む) | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 地域と密着したスポーツ及びレクリエーション活動を通して、市民の健康づくり、地域社会の活性化に寄与する。 | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 総合型地域スポーツクラブ運営事業 | 改善・見直し | ④ | |
| | ② | | | ⑤ | |
| | ③ | | | ⑥ | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | 千円 | | 予算 | 2,833 | 3,181 | 3,526 | 3,572 |
| 決算 | | | | 2,170 | 2,879 | 2,712 | 2,752 | |
| 人件費(B) | 千円 | | 決算 | 2,901 | 3,430 | 4,219 | 2,316 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | | 決算 | 5,071 | 6,309 | 6,931 | 5,068 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--------------------------------------|-------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 会員数 | 人 | 目標 | 422 | 469 | 570 | 598 | 541 |
| | | | 実績 | 447 | 543 | 570 | 516 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| C | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 年度更新である会員数の増加を目標とする。前年の会員数+5%を目指す。 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 各市町で独自にクラブ運営を実施。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|---|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 会員数598人の目標に対し、実績は516人となり目標を達成できなかった。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 教室内容等の見直しを行った結果、5年前と比較し会員数は増加している。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 市から独立したクラブ運営となっておらず、自立組織の形成が必要である。 また、スポーツ教室等事業については、漫然と前年度事業を踏襲するのではなく、市民ニーズを的確に把握する必要がある。 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 自立に向けた組織の形成及び事業のあり方について、関係者と検討するとともに、クラブの活動拠点についても検討していく。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成35年度までに、行政から独立した総合型地域スポーツクラブを立ち上げる。 |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | <ul style="list-style-type: none">・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。・事業意図などから「協働の可能性」について、研究・検討してください。・他の健康づくり事業との連携を図ってください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|--------------------|--------|-------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 総合型スポーツクラブ運営事業 | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① 総合型地域スポーツクラブ運営事業 | 予算区分 | 9-5-1 保健体育費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成24年度 | | 終了(予定)年度 | - |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 地域と密着したスポーツ及びレクリエーション活動を通して、市民の健康づくり、地域社会の活性化に寄与することを目標とし、「いつでも、どこでも、誰でも」を合言葉に、子どもから高齢者、初心者から上級者まで参加できる各種スポーツ教室やイベントを開催する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 地域と密着したスポーツ及びレクリエーション活動を通して、市民の健康づくり、地域社会の活性化に寄与する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|---------------------------|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 事業費 | 千円 | 予算 | 2,833 | 3,181 | 3,526 | 3,572 | 3,480 |
| | | 決算 | 2,170 | 2,879 | 2,712 | 2,752 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) 総合型地域スポーツクラブ教室等講師委託 | | | | | 1,569 | 千円 | |
| (2) 総合型地域スポーツクラブ指導者報償金 | | | | | 924 | 千円 | |
| (3) 入場料 | | | | | 178 | 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|--|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 会員数 | 人 | 見込 | 422 | 469 | 570 | 598 | 541 |
| | | 実績 | 447 | 543 | 570 | 516 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| 子どもから高齢者、初心者から上級者まで参加できる教室を開催し、516人の会員登録があった。H31年度の目標は、会員登録数を前年度の+5%とする。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

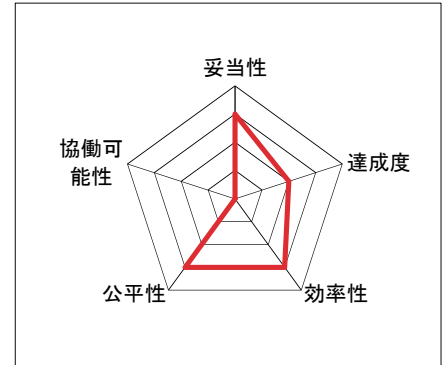
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) スポーツが多様化し、スポーツに対するニーズも様々なものとなっている。また、ヨガなどの健康を意識した運動が増加している。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---|------------|---------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 3,572 千円 | 3,480 千円 | △ 92 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 改善・見直し | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| ・スポーツの多様化に対応し、スポーツに親しみのない人にもスポーツを通じた健康づくりを促していくため、毎年同様の教室ではなく、アンケートを行うなど市民のニーズを把握し、事業展開していく必要がある。 ・クラブの活動拠点を整備検討していくとともに、自立組織の形成を図っていく必要がある。 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| ・アンケートの実施により、参加者のニーズを把握し、教室内容の見直しや講師と情報共有を行った。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数 (人) | | | | |
|-------------------------|-------------|-------------|-------------|------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | - | - | - | - |
| 実績 | - | - | - | - |
| (2) 協働の状況 (30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市民協働する事業でないため、評価できない。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 子どもから大人まで、市内のスポーツ施設を使用したスポーツ教室を開講し、健康と体力の維持増進に貢献できた。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| ・クラブの活動拠点を整備検討していくとともに、クラブマネージャーの育成及び自立組織の形成を図っていく必要がある。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-------|-----|------------|------|-------------|
| 事業番号 | 056 - | 事業名 | 社会体育団体補助事業 | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 |
|------|-------|-----|------------|------|-------------|

| | | | | |
|-------------|---------------|-----------------|----------------------------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 文化をみがき、人が輝くまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | 9-5-1 保健体育費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 長久手市補助金等交付規則、長久手市社会教育関係団体補助金交付要綱 | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 昭和57年度以前～ | | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|---|--------|---|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 社会体育団体に対し、社会体育に関する事業、研究、交流事業等に要する経費に対し、要綱に基づいて交付する。 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市内の社会体育関係団体 | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民団体の活発な活動を促進する。 | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 社会体育(教育)団体補助事業 | 改善・見直し | ④ | |
| | | ② | | ⑤ | |
| | | ③ | | ⑥ | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 6,843 | 8,312 | 7,482 | 7,390 | 7,416 |
| | | | 決算 | 7,051 | 7,331 | 7,300 | 7,460 | |
| 人件費(B) | 千円 | 決算 | - | 1,451 | 1,530 | 1,033 | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | - | 8,782 | 8,830 | 8,493 | | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------------------------------|----------------|----|-------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 補助団体の会員数(総数) | 人 | 目標 | 5,400 | 5,500 | 5,600 | 5,600 | 5,800 |
| | | 実績 | 5,354 | 5,402 | 5,571 | 5,746 | | |
| B | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |
| C | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 前年度実績を上回るように目標設定する。 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町もほぼ同様に実施。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 会員数は増加傾向にあり、平成30年度は目標値を上回った。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 補助金により、それぞれの団体の活動を支援し、会員数は増加傾向にある。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 団体活動の発展に寄与するように補助金を交付しているが、各団体による自己資金・自主財源等の確保にも努めてほしいと考える。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 各団体の会員数を増加させ、活動を促進する。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 各団体の会員数を増加させ、活動を促進する。また、自主財源等の確保を促進する。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------|----------------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 社会体育団体補助事業 | | 担当部課 | くらし文化部生涯学習課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 社会体育（教育）団体補助事業 | 予算区分 | 9-5-1 保健体育費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和57年度以前～ | 終了（予定）年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市内で活動している社会体育関係団体に対して、補助金を交付することで、社会体育事業の自主的な運営を支援する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 各団体の活動人数を増やし、活発な活動を促進する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 6,843 | 8,312 | 7,482 | 7,390 | 7,416 |
| | | 決算 | 7,051 | 7,331 | 7,300 | 7,460 | |
| ＜備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| (1) 体育協会補助金 | | | | | | 2,400 千円 | |
| (2) スポーツ施設利用補助金 | | | | | | 2,308 千円 | |
| (3) スポーツ振興補助金 | | | | | | 1,602 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 補助団体の会員数 | 人 | 見込 | 5,400 | 5,500 | 5,600 | 5,600 | 5,800 |
| | | 実績 | 5,354 | 5,402 | 5,571 | 5,746 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| ＜備考：活動の概要（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| 社会体育団体に対し、社会体育に関する事業、研究、交流事業等に要する経費に対し、要綱に基づいて交付する。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

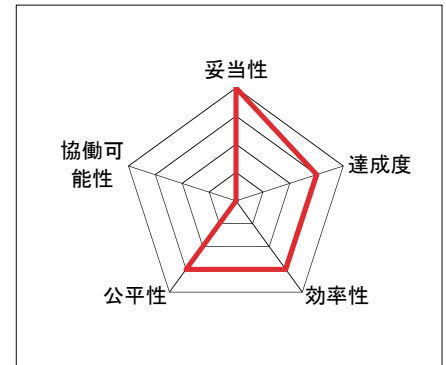
| |
|------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 近隣市町もほぼ同様に実施。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---------------------------------|------------|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 7,390 千円 | 7,416 千円 | 26 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | ※新規行政評価対象 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 各団体の事業チラシ等を積極的に館内に掲示し、団体PRを行った。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市民協働する事業でないため、評価できない。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---------------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 各団体の事業チラシ等を積極的に館内に掲示し、団体PRを行った。 |

【改善ポイント】

| |
|----------------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 各団体が自己資金、自主財源等の確保できるように促す。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|---|---|--|-----------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 057 - | 事業名 | 文化の家企画事業 | | 担当部課 | くらし文化部文化の家 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 文化をみがき、人が輝くまち | 会計区分 | 一般会計 | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪 | 9-4-5 文化の家施設費 | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | ✓ 文化芸術基本法(H29.6)、文化芸術の振興に関する基本的な方針(第4次)、劇場法H24.6) | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市第5次総合計画基本方針4「文化をみがき、人が輝くまち」(H24.1)、文化芸術マスタープラン(H30.3) | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 長久手市は、歴史の中で培われ継承・発展してきた風土や伝統文化を持ち、周辺を含め大学が多数存在し、地域には学生や芸術家、専門家が多数在住している。このような地域の特性と市民一人ひとりの個性を活かしつつ、たくさんの人が協力して新たな魅力ある文化芸術の創造を図る。また、豊かな地域社会が織りなす質の高い生活空間を創出することによって、真に市民がゆとりと潤いに満ち、生き生きときらめいている市を目指す。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 市の文化芸術政策の基本理念『ともに創る きらめく長久手』を実現するために、3つの基本方針のもと、6つの事業に取り組む。事業については、重点的な5つの施策を定め、今計画期間において特に力を入れて取り組む。これらの取り組みを基礎にして、さまざまな分野に文化芸術を活用していく。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民、近隣住民等 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 「暮らしが楽しい地域・環境の創出」「地域の活力の向上」「主体的なまちづくりの担い手の育成」「経済の活性化」などを實現、市民が地域に愛着と誇りを持ち、快適で魅力と活力あるまちづくり | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① ホール公演事業 | 改善・見直し | ④ アウトリーチ事業 | 改善・見直し | | | |
| | ② 企画展示事業 | 改善・見直し | ⑤ 映像鑑賞会事業 | 改善・見直し | | | | |
| | ③ アートスクール事業 | 改善・見直し | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 50,636 | 46,975 | 42,688 | 44,363 | 44,020 |
| | | | 決算 | 40,785 | 41,852 | 40,751 | 41,352 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 46,792 | 47,967 | 55,569 | 51,540 | |
| | 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 87,577 | 89,819 | 96,320 | 92,892 | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 来場者数 | 人 | 目標 | 40,000 | 40,000 | 40,000 | 40,000 | 40,000 |
| | | | 実績 | 43,762 | 41,973 | 38,209 | 42,552 | |
| | B 市民参加事業 | 本 | 目標 | 3 | 3 | 4 | 4 | 4 |
| | | | 実績 | 3 | 3 | 4 | 4 | 4 |
| | C 新聞掲載数 | 件 | 目標 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 |
| | | | 実績 | 47 | 60 | 29 | 37 | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 市民がアートのまちを実感でき、文化芸術を創造し活用していくための社会基盤づくり | | | | | | | | |
| B 市民が文化の家に親しみを持ち、主体的に参画する機会を設けるため | | | | | | | | |
| C 文化の家の事業や活動情報を収集・整理して市民へきめ細やかに情報を提供する | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 名古屋市においては、大中規模の劇場が軒並み閉館および改修工事などが行われており、文化の家の貸し館のニーズが高まっている。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) A: 芸術のまちのシティブランドやアイデンティティの形成に一定の役割を果たした。 B: フレンズ、ながくてアートフェスティバル、シネマ会議などの推進。 C: 本市では、転入・転出者が多く文化の家の取組に関する市民の認知度は低下。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) A: 芸術のまちのシティブランドやアイデンティティの形成に一定の役割を果たした。 B: 職員が行ってきた事業を少しずつ市民へ移す取り組みが増えている。 C: 改修工事時期に一時的に減少したが、少しずつ増加傾向にある。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 市民の関心の多様性やライフスタイルに応じたプログラムを提供していく必要。分野別・担当部署別の縦割りを越えた取組を進めていく必要。継続的な情報発信、情報通信技術を活用する必要。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 文化芸術は、人の営みに広く深く関わっており、まちづくりに向けて、市民は文化芸術を子どもの教育、福祉・健康づくり、市民の絆づくり等に活用すべき。そのために、市は必要に応じて部署を越えて協力し、さまざまな分野の団体と連携していくことが必要。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 5年程度で成果と課題を整理し、計画内容の見直しを行い、市民ニーズの変化やサービス向上に対応する。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・管理業務部分については指定管理の導入を検討してください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|----------|---------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 文化の家企画事業 | | 担当部課 | くらし文化部文化の家 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | ホール公演事業 | 予算区分 | 9-4-5 文化の家施設費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成10年 | 終了(予定)年度 | なし | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民ニーズをふまえながら質の高いプログラムを編成し、市民が芸術にふれ、楽しむ機会を設けるとともに、市民自ら芸術活動を始め多岐多様にわたる文化活動を誘発する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 本事業の展開は、市民文化及び地域文化を活性化する上での基礎体力づくりとなり、将来の発展に大きく寄与する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-----------|----------------|------------------|------------------|------------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | | 37,177 33,846 | 34,044 33,068 | 35,674 33,454 | 35,779 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 事業・公演等委託 | | | | 26,751 | 千円 |
| (2) | | 講座・講演等報償金 | | | | 1,904 | 千円 |
| (3) | | 印刷製本費 | | | | 1,799 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| ジョイントフェス集客率 | % | 見込 実績 | 100 102 | 100 100 | — — | 100 91 | 100 |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> 平成30年3月に改定された文化芸術マスタープランに基づき、今後10年の具体的な行動計画をつくる「アクションプラン市民検討会議」を9～3月にかけて市民館長を中心に行った。このなかで注目されたことは「子ども」へのアプローチを拡充すること、より多彩なジャンルへの展開であった。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

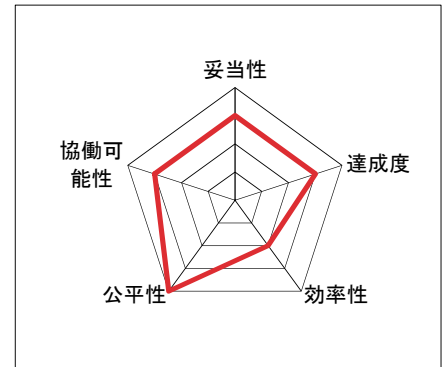
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 本市の人口増加の中核である同時に子育て世代へのニーズが高まっている。市制移行し、市民主体のまちづくりを掲げ、国では、劇場・音楽堂等の活性化に関する法律や文化芸術基本法を制定し、文化芸術を基盤とする社会の形成を明確に示した。これらを踏まえ文化の家で蓄えた「文化力」をまち全体で活かす「市全体の文化芸術マスタープラン」として改定した。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 35,674 千円 35,779 千円 105 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 ジョイントフェスティバルは、有意義な連携やプログラムが提供できる一方、職員が従事する拘束率が高いため、適度な距離感を持って臨みたい。県芸とは、今後はただ場を提供するだけでなく学生の社会性などを鑑みた人的交流(講師派遣やインターン制度)などが必要と考える。市民参画事業は、フレンズが安定しているが一歩踏み込んだ発展性のある組織づくりが望まれる。また市民のアイデア生かす住民企画の窓口も広げていきたい。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) ジョイントフェスティバルは、実行委員会と協議して会議の開催回数を制限する方向となった。県芸との提携事業では、事業で関わった優秀な学生をアウトリーチで起用するなどの成果につながった。吹奏楽フェスティバルは、市民の声により実行委員会が結成され復活した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 実績 | | | 50名 155名 | 50名 |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) アクションプラン検討会議(25名) おんぱく実行委員会&ボランティア(100名) 吹奏楽フェスティバル実行委員会(10名) ながくておやおこ劇場企画(20名) | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 隔年で行う「おんぱく」により、多くの市民(親子)が来場し、チケットも完売した。ターゲットを親子向けとしたことで現在の長久手市のニーズに応えられたと実感している。また大学生を中心にのべ100名のボランティアがこのイベントを支えた。吹奏楽フェスティバルは休止していたが、市民より実行委員会形式の提案を受けて再開した。200名を超える市内の中高大学生らが一同に介した。 |
|---|

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 提携事業について、長年行って定例化してきたものについては、公益性や必然性を鑑みて一度見直しを図る必要があると考えた。そのために、各主催者と改めて協議を行った結果、3つの定例事業については今年度限りとする事とした。新しいアイデアや事業展開により、これまで文化の家に関わってこなかった市民を取り込めるよう工夫をしていきたいと思う。 |
|---|

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|----------|--------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 文化の家企画事業 | | 担当部課 | くらし文化部文化の家 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 企画展示事業 | 予算区分 | 9-4-5 文化の家施設費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成10年 | 終了(予定)年度 | なし | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民ニーズをふまえながら質の高いプログラムを編成し、市民が芸術にふれ、楽しむ機会を設けるとともに、市民自ら芸術活動を始め多岐多様にわたる文化活動を誘発する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 本事業の展開は、市民文化及び地域文化を活性化する上での基礎体力づくりとなり、将来の発展に大きく寄与する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|-----------|------------|----------------|----------------|----------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | | 2,467 2,461 | 2,222 2,206 | 2,625 2,455 | 2,625 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 印刷製本費 | | | | 790 | 千円 |
| (2) | | 講座・講演等報償金 | | | | 609 | 千円 |
| (3) | | 事業・公演等委託 | | | | 636 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 来場者数① | 人 | 見込 | 20,000 | 20,000 | 20,000 | 20,000 | 20,000 |
| | | 実績 | 16,292 | 16,897 | 19,275 | 17,193 | |
| 応募者数② | 人 | 見込 | 250 | 250 | 250 | 250 | 250 |
| | | 実績 | 265 | 265 | 230 | 202 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> ながくてアートフェスティバル(NAF)は、文化の家をはじめとし市内のアトリエ、ギャラリー、カフェ、店舗などを会場として一か月にわたり美術作品の展示やワークショップが行われ17,193名の来場があった。絵画コンクール展示会は、小中学生の部が571名、一般の部が408名の入場者だった。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

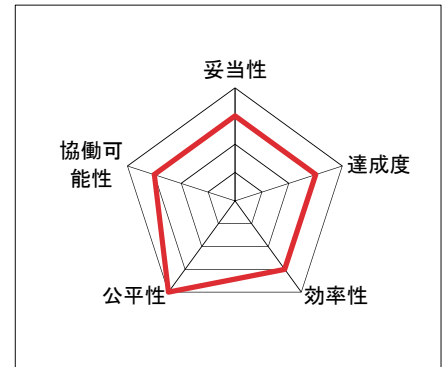
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 本市の人口増加の中核である同時に子育て世代へのニーズが高まっている。市制移行し、市民主体のまちづくりを掲げ、国では、劇場・音楽堂等の活性化に関する法律や文化芸術基本法を制定し、文化芸術を基盤とする社会の形成を明確に示した。これらを踏まえ文化の家で蓄えた「文化力」をまち全体で活かす「市全体の文化芸術マスタープラン」として改定した。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 2,625 千円 2,625 千円 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| NAFは、実行委員会が作家中心となって運営されているため発信力に限界があり、今後は観光や他団体との連携によってイベントそのものの広がりや長久手の魅力につなげる取り組みが必要である。絵画コンクールは、受賞作品の展示数を限定して、来場者にとっても観覧しやすい環境を整えていきたい。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| NAFの課題であった発信については、大きな改善はみられなかったが、民間企業との連携による展示など新しい展開がみられた。絵画コンクールは、受賞作品の展示数を限定したことで、展示される価値の意味合いがふかまり、来場者にも好評であった。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|------------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | | | 200名 | 200名 |
| 実績 | | | 200名 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| NAF実行委員会10名 NAF会場提供など190名 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| NAFは、毎年9-10月に開催しているアートイベントで、今年で12年目を迎えている。市民の作家たちによる実行委員会形式は安定した運営を行っており、作品の展示が無償で提供されている。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| NAF開催期間中は、アトリビングの大半が会場となり、今年度からは一部ホール(土日)も使用した。一方、貸し館の利用者への影響も起きており、開催期間の圧縮などを提案している。また、新しい取り組みを行うための準備期間を取るために隔年の開催などの議論も出ている。これらについて実行委員会側との協議を継続して行っていく。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|-----------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 文化の家企画事業 | | 担当部課 | くらし文化部文化の家 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ③ | アートスクール事業 | 予算区分 | 9-4-5 文化の家施設費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成10年 | 終了(予定)年度 | なし | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民ニーズをふまえながら質の高いプログラムを編成し、市民が芸術にふれ、楽しむ機会を設けるとともに、市民自ら芸術活動を始め多岐多様にわたる文化活動を誘発する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 本事業の展開は、市民文化及び地域文化を活性化する上での基礎体力づくりとなり、将来の発展に大きく寄与する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|-----------|------------|----------------|----------------|----------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | | 4,883 3,558 | 4,414 3,936 | 4,296 3,872 | 3,796 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 講座・講演等報償金 | | | | 3,088 | 千円 |
| (2) | | 事業・公演等委託 | | | | 500 | 千円 |
| (3) | | 消耗品費 | | | | 164 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--|----|----------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 受講率 | % | 見込 実績 | 100 95 | 100 87 | 100 94 | 100 100 | 100 |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| アートスクールは、市民がみずからの文化活動を行い交流するきっかけづくりとしてバレエ、絵画、ギター、戯曲など13講座を開講。文化の家の多機能性を活かした他分野の講座を行った。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

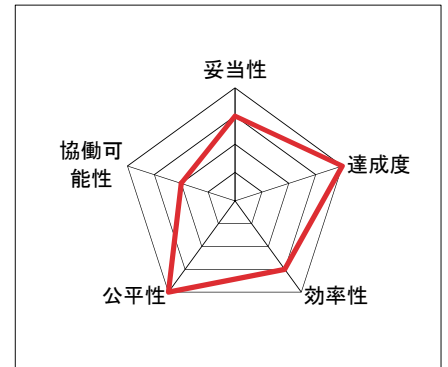
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 本市の人口増加の中核である同時に子育て世代へのニーズが高まっている。市制移行し、市民主体のまちづくりを掲げ、国では、劇場・音楽堂等の活性化に関する法律や文化芸術基本法を制定し、文化芸術を基盤とする社会の形成を明確に示した。これらを踏まえ文化の家で蓄えた「文化力」をまち全体で活かす「市全体の文化芸術マスタープラン」として改定した。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 4,296千円 3,796千円 Δ500千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| 講座内容や講師を定期的に入れ替えるなどの対策が必要。そのために、この講座の意義や未来像などを今一度見直す必要がある。開館から20年が経過し、社会環境の変化が著しいなか、新しいマスタープランの方向性などを汲み、時代に合った講座のあり方へ抜本的に変革していく必要があると考える。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 長年同じ講師・受講生が参加する問題について、各講師と話し合いを行い3カ年計画で、講師及び受講生の入れ替え、または講座内容の改定を行う方向となった。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | 2 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 講座の開講は、受講料や講師との契約などがあるため、文化の家事務局がすべて行っている。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 認知症を患っている受講生とのトラブルが起きた。講師と話し合いを行い、本人の意向を尊重する形で進めたが、他の受講生たちとの調整がとても難しかった。3月には1年の成果発表の場が設定されているが、ひとまずは事故なく無事に終えることができた。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 受講生の大半は中高年層であり、今後このような事例が増えてくると思われる。職員はもちろんのこと、講師や受講生など、社会との接点となる部分をどのように調整していくかが課題である。長寿課や包括支援センターなどに相談しながら対策していきたい。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 文化の家企画事業 | | 担当部課 | くらし文化部文化の家 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ④ | アウトリーチ事業 | 予算区分 | 9-4-5 文化の家施設費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成10年 | 終了(予定)年度 | なし | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民ニーズをふまえながら質の高いプログラムを編成し、市民が芸術にふれ、楽しむ機会を設けるとともに、市民自ら芸術活動を始め多岐多様にわたる文化活動を誘発する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 本事業の展開は、市民文化及び地域文化を活性化する上での基礎体づくりとなり、将来の発展に大きく寄与する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|-----------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | | 1,600 | 1,200 | 1,200 | 1,200 |
| | | 決算 | | 1,597 | 1,010 | 979 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 事業・公演等委託 | | | | 859 | 千円 |
| (2) | | 講座・講演等報償金 | | | | 120 | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| ガレリアコンサート来場者 | % | 見込 | 2,000 | 2,000 | 2,000 | 2,000 | |
| | | 実績 | 1,930 | 2,502 | 2,000 | 1,878 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 月に1回文化の家のアトリウムで行われる無料のコンサートを12回行い、計1,878名の参加があった(ガレリアコンサート)。市内の小中学校にアーティストを派遣する「であーと」を行い、1,306名の生徒が参加した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

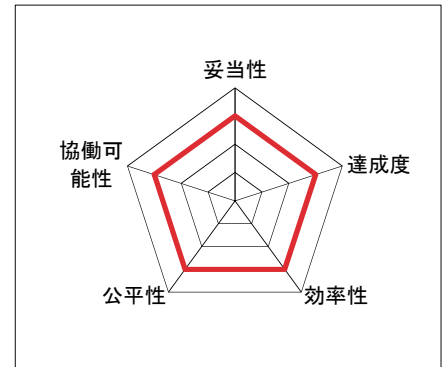
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 本市の人口増加の中核である同時に子育て世代へのニーズが高まっている。市制移行し、市民主体のまちづくりを掲げ、国では、劇場・音楽堂等の活性化に関する法律や文化芸術基本法を制定し、文化芸術を基盤とする社会の形成を明確に示した。これらを踏まえ文化の家で蓄えた「文化力」をまち全体で活かす「市全体の文化芸術マスタープラン」として改定した。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 1,200 千円 1,200 千円 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| アトリウムに併設されているビュッフェカウンターの日常的な弾力的な活用が必要である。ガレリアコンサート開催時以外にも営業されることで交流の場を提供し、普段から市民の憩いの場として機能することで、ガレリアコンサートの効果がより発揮されると考える。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| アトリウムのビュッフェの活用について協議してきた。今後は観光交流協会との連携なども視野に入れて、具体化を進めていきたいと考えている。ガレリアコンサートも「日常的なにぎわいづくり」を目標として、ビュッフェ活用と併せて協議していく。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| ビュッフェ活用における市内の団体との連携を協議。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| ガレリアコンサートは毎月開催してきたが、今後はビュッフェの活用を含めた「パブリックスペースのにぎわいづくり」の一環として位置づけ、今後はコンサートの内容も含めて、運営する団体に一任していく方向で検討している。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| アトリウムを中心とした文化の家1Fのパブリックスペースは、平日に人が少なく閑散としていることが多い。これまで不定期にビュッフェを活用してコーヒーの販売などを行ってきたが、今後は日常的な運営を任せられるような団体(観光交流協会など)と連携して、市民の方々が用事がなくてもふらっと立ち寄れる場所を提供できるような工夫をしたい。 |

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|---------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 文化の家企画事業 | | 担当部課 | くらし文化部文化の家 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ⑤ | 映像鑑賞会事業 | 予算区分 | 9-4-5 文化の家施設費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成10年 | 終了(予定)年度 | なし | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民ニーズをふまえながら質の高いプログラムを編成し、市民が芸術にふれ、楽しむ機会を設けるとともに、市民自ら芸術活動を始め多岐多様にわたる文化活動を誘発する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 本事業の展開は、市民文化及び地域文化を活性化する上での基礎体力づくりとなり、将来の発展に大きく寄与する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|--------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 600 | 848 | 808 | 568 | 620 |
| | | 決算 | 396 | 389 | 531 | 592 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 映像鑑賞会フィルム借上料 | | | | 300 | 千円 |
| (2) | | 講座・講演等報償金 | | | | 240 | 千円 |
| (3) | | 印刷製本費 | | | | 52 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| メンバー数 | % | 見込 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| | | 実績 | 1 | 4 | 8 | 7 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| シネマ会議は、開館以来行ってきた映像鑑賞会を「市民にわたす事業」として、平成28年度より公募により組織された実行委員会の活動である。H29年度は、実行委員会の人数が2名増え、8月に行われた親子向けの上映会は263名、毎月光のホールで行われる鑑賞会は1,187名の入場があった。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

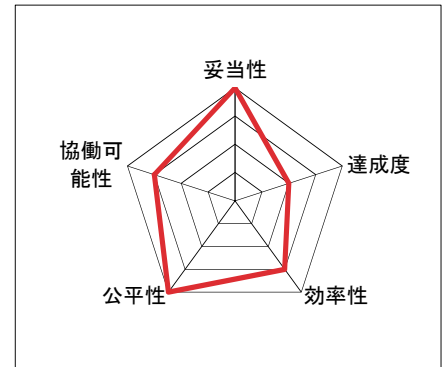
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 本市の人口増加の中核である同時に子育て世代へのニーズが高まっている。市制移行し、市民主体のまちづくりを掲げ、国では、劇場・音楽堂等の活性化に関する法律や文化芸術基本法を制定し、文化芸術を基盤とする社会の形成を明確に示した。これらを踏まえ文化の家で蓄えた「文化力」をまち全体で活かす「市全体の文化芸術マスタープラン」として改定した。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|------------|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 568 千円 | 620 千円 | 52 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 改善・見直し | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| シネマ会議は、自立性を促すために今後事務局は会議から外れる形で試行する。このことで実行委員会が自らの責任を持って意思決定を行うきっかけとなることを期待する。 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 文化の家は毎月行われる会議には参加せず、自立した運営を促す取り組みを行ってきた。これにより、これまで講師を招いて行ってきた作品選定を自ら行う意志決定がなされ、新年度からはこの体制で運営が行われることとなった。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 実績 | 4 | 8 | 7 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 著作権の問題などを協働で研究して、作品選定などでどのように反映させるかを協議してきた。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| この1年でシネマ倶楽部のあるべき方向性などが協議されたが、メンバー内でも意見の相違がみられ、結果としてメンバーチェンジなどを経て、文化の家と協働で進めていく方向性が打ち出された。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 文化の家としての目標は、シネマ倶楽部の自立であり、それにはまだまだ多くの課題がある。まず会として「文化の家からお願いされてやっている」というスタンスがあり、職員にも業務上や運営について多くの要求がある。また、著作権上作品選定が限定的であったことから、これまで入場無料としてきたものを有料化して、より幅広い作品を選定対象としたい意向を示しており、これに伴い予算の課題が浮上してきた。文化の家として、協議を重ねて今後着地点を見いだしていきたいと思う。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| 事業番号 | 058 - 1 | 事業名 | 地域福祉推進事業 | | | 担当部課 | 福祉部福祉課 | |
|---|-----------------------|---|--------------------|--------------|------------|------------|------------|-----------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 一般会計 | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | | | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | 3-1-1 社会福祉総務費 | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | - | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 長久手市地域福祉計画 | | | | | |
| | 事業開始の背景、経緯等 | 平成26年9月に策定した長久手市地域福祉計画に基づき、誰もが住み慣れたまちで安心して暮らせるよう、「地域福祉の推進」のための取組を行っている。 | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) ・地域の支え合いの実情を把握し、地域課題の解決につなげるため支え合いマップづくりを行う。 ・市の地域福祉において大きな役割を担っている社会福祉協議会に対して、事業費・運営費等の補助を行う。 ・市民活動に対し、スマイルポイントを付与し、地域社会に参加するきっかけづくりとする。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民、事業者、市職員 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) ・高齢者をはじめ市民が、地域の支え合いにより、地域課題を主体的に解決できるようにする。 ・高齢者をはじめ市民が、健康で自分らしく暮らせるよう地域社会へ参加するきっかけづくりとする。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 地域福祉推進事業 | 改善・見直し | ④ 地域福祉計画策定事業 | 休・廃止 | | | |
| | ② 社会福祉協議会補助事業 | 改善・見直し | ⑤ 多機関協働相談支援包括化推進事業 | 改善・見直し | | | | |
| | ③ ながくて地域スマイルポイント事業 | 拡充 | ⑥ 地域力強化推進事業 | 改善・見直し | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 103,114 | 107,504 | 122,829 | 190,851 | 171,090 |
| | | | 決算 | 98,478 | 99,323 | 113,475 | 168,560 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 16,040 | 13,451 | 20,541 | 26,840 | |
| | 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 114,518 | 112,774 | 134,016 | 195,400 | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 支え合いマップづくり | 箇所 | 目標 | 8 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| | | | 実績 | 8 | 8 | 6 | 8 | |
| | B 社会福祉協議会事業達成度 | % | 目標 | - | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | 実績 | - | 80.1 | 89.3 | 91.6 | |
| | C スマイルポイント還元者数 | 数 | 目標 | - | 100 | 300 | 500 | 600 |
| | | | 実績 | - | 105 | 395 | 571 | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 市内全域に支え合いマップづくりを進めて行く必要性から、箇所数で進捗状況を図る。 | | | | | | | | |
| B 地域福祉活動計画に基づく補助事業のうち、目標を達成できている事業の割合とする。 | | | | | | | | |
| C スマイルポイント事業に登録し、活動をした対価としての交換品に還元した人数により周知度が判断できる。 | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・支え合いマップづくりは、近隣での取組はない。 ・ボランティアポイントは、豊明市、日進市、東郷町で実施。 | | | | | | |
| | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) ・支え合いマップづくりについては、新たな地区での取組ができず、目標を達成できなかった。 ・スマイルポイント事業については、今年度から目標を還元者数に変更した。 | | | | | | |
| 評価 | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) ・支え合いマップづくりは、市民主体の支え合い活動へ発展させることを目的とするが、行政主体から市民主体への活動に移行するにあたっては、地域の実情に応じ、時間をかけて行う必要性がある。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 市民主体の活動を推進するためには、地域の実情や課題を十分に把握し、市民とともに、事業の必要性や目的について理解を深めてもらいながら、地域での話し合いの場をく設けていく必要がある。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) ・支え合いマップづくりを通じて、小地域における話し合いの場を設け、市民による自主的な活動へと発展を促す。 ・地域社会へ参加のきっかけづくりとなる方法を検討するため、スマイルポイントの効果検証を実施する。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 2025年までに、地域住民による支え合いや見守りの体制を構築する。 | | | | | | |

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|---------|-----|----------|------|--------|
| 事業番号 | 058 - 2 | 事業名 | 地域福祉推進事業 | 担当部課 | 福祉部福祉課 |
|------|---------|-----|----------|------|--------|

| | | | | |
|-------------|---------------|-----------------------------|-----------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | 3-1-1 社会福祉総務費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市地域福祉計画 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | | | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|--------------------|------|---|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ⑦ 地域共生社会推進全国サミット事業 | 休・廃止 | ④ | |
| | | | ⑤ | | |
| | | | ⑥ | | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 決算 | | | | | |
| 人件費(B) | 千円 | 決算 | | | | | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | | | | | | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------------------------------|------|----------|----------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A | 箇所 | 目標 実績 | | | | | |
| B | % | 目標 実績 | | | | | | |
| C | 数 | 目標 実績 | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|-----------------------------------|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) |

| | | |
|----|--------|--------------------------|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | <ul style="list-style-type: none">・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。・社会福祉協議会の補助金の内容を見直してください。職員体制が整わないことが原因で、補助金が返金される事態となった経緯を踏まえ、業務量の見直しや人員体制の見直しを行ってください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 地域福祉推進事業 | | 担当部課 | 福祉部福祉課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 地域福祉推進事業 | 予算区分 | 3-1-1 社会福祉総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成26年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 平成26年度に策定した地域福祉計画を推進するため、福祉全般に関する情報収集や、支え合いマップづくり等を通じて、地域の見守りや支え合い活動を推進し、小地域での話し合いの場づくりを支援等を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民が地域福祉に関しての理解を深め、地域福祉の担い手となってもらう |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 3,026 | 1,293 | 2,504 | 2,803 | 3,158 |
| | | 決算 | 2,867 | 1,161 | 2,337 | 1,741 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 印刷製本費 | | | | | | 940 千円 | |
| (2) 地図情報使用料 | | | | | | 292 千円 | |
| (3) 特別旅費 | | | | | | 277 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| マップづくり | 箇所 | 目標 | 4 | 8 | 10 | 10 | 10 |
| | | 実績 | 4 | 8 | 6 | 8 | |
| 施策事業化 | 数 | 目標 | — | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | | 実績 | — | 0 | 1 | 0 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 平成26年度から開始した支え合いマップづくりは、29年度末までに6箇所が市民主体の活動へ移行し、30年度は2箇所(丸山・ミケ峯)で月1回の話し合いが継続している。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

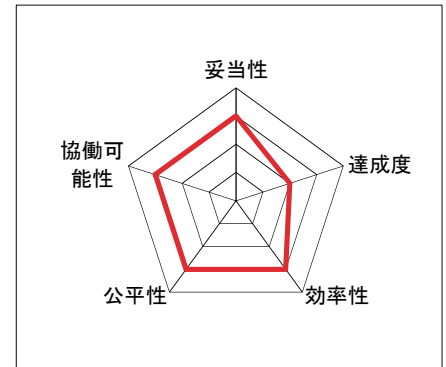
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 地域福祉への理解を深め、地域における課題を地域住民が自らの課題として主体的に捉える働きかけが必要。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 2,803 千円 3,158 千円 355 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 次期地域福祉計画の策定のために、より多くの市民が主体的に携わり、計画に地域の意見を反映していける体制づくりが必要である。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 平成30年度は、次期地域福祉計画策定を行うため、地域福祉計画策定事業として、地域福祉推進と別途評価を行うこととした。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|------------------|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | 300 | 300 | 200 | 230 |
| 実績 | 399 | 350 | 190 | |

(2) 協働の状況(30年度(2018))

(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)
支え合いマップづくりを通じて、月1回、地域における支え合いの必要性について話し合う場を設け、地域に応じた市民主体の活動を行うことができるよう、市民と共に検討を重ねた。

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
前年度と比較して協働人数が減少しているのは、支え合いマップで市民主体の活動に移行した地区については、人数に含めていないため。今後も、新たに話し合い地区を増やし、協働人数を増やすとともに、市民主体への活動への移行も進めていく。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
小地域における話し合いの場を設け、行政主体から市民による自主的な活動へ発展できるよう支援を継続していくが、市内全体でこの取組を広めるためには、より多くの市民に関心をもってもらうことが重要であることから、本事業の目的を理解してもらうよう事業周知をさらに広く行う必要がある。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|-------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 地域福祉推進事業 | | 担当部課 | 福祉部福祉課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 社会福祉協議会補助事業 | 予算区分 | 3-1-1 社会福祉総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和60年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 長久手市社会福祉協議会に対し、福祉のまちづくりの実現を目指した事業の充実、地域活動の支え合いを活性化し、知育福祉の向上を図るため補助金を交付する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 社会福祉協議会の運営基盤の安定を図り、行政等と連携し、地域のネットワークづくりの推進と地域課題の解決を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|------------------|-------------------|-------------------|------------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 97,591 94,639 | 100,949 93,607 | 102,837 96,186 | 95,164 79,618 | 94,694 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 社会福祉協議会補助金 | | | | | | 79,618 千円 | |
| (2) | | | | | | 千円 | |
| (3) | | | | | | 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業達成度 | % | 目標 | — | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | 実績 | — | 80.1 | 89.3 | 81.3 | |
| | | 目標 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> 社会福祉協議会で実施した8つの補助対象事業のうち、サロン助成事業については目標に達することができなかったが、その他、ボランティアセンター事業や地域福祉事業等5事業の目標を達成し、1事業は一部未達成。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

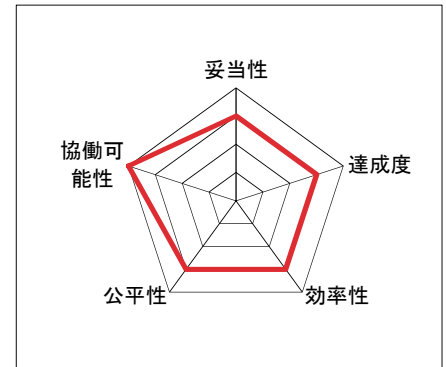
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 制度の狭間の問題や、多様化する福祉ニーズに対応するためには、社会福祉協議会が担う役割は大きい。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 95,164 千円 94,694 千円 Δ 470 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 地域課題に対応できる仕組みづくりを、地域福祉の担い手である社会福祉協議会が中心となって取り組めるよう事業内容を精査しながら支援をする必要がある。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 事業内容を把握し、適正な事業運営のための支援を行うため、補助事業の一部を委託事業とし、市と協働で地域課題に対応できる仕組みづくりを行う体制を強化した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 4 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) 社会福祉協議会を支援することで、地域の福祉の推進に寄与し、市民と協働による地域づくりを目指す事業である。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 社会福祉協議会は、社会福祉法に基づき、地域福祉の推進主体として中心的な役割を担い、市民・団体・事業者・行政などと連携し、地域づくりのコーディネートをすることが求められる。 |
|---|

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 地域住民が主体的に地域課題に対応できる仕組みづくりを、地域福祉の担い手である社会福祉協議会が中心となり取り組めるよう、事業内容を精査しながら支援を行う必要があるが、社協としても、事業内容に見合った会員数の確保並びに自主財源確保の努力を図るよう要請する。 |
|--|

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|----------|------------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 地域福祉推進事業 | | 担当部課 | 福祉部福祉課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ③ | ながくて地域スマイルポイント事業 | 予算区分 | 3-1-1 社会福祉総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成28年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市内での市民活動の推進、きっかけづくりとなるよう、市民活動に参加した人に対してポイントを付与し、貯まったポイントを交換品に換えることができる事業を実施している。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 高齢者をはじめ市民が、健康で自分らしく暮らせるよう地域社会への更なる参加を促す。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 2,497 | 5,262 | 5,701 | 7,410 | 7,748 |
| | | 決算 | 972 | 4,555 | 5,198 | 8,408 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) スマイルポイント還元品 | | | | | | 3,208 千円 | |
| (2) 一般事務嘱託員報酬 | | | | | | 1,874 千円 | |
| (3) ながくて地域スマイルポイント事業業務委託 | | | | | | 1,610 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 還元者数 | 人 | 目標 | — | 100 | 300 | 500 | 600 |
| | | 実績 | — | 105 | 395 | 571 | |
| 事業登録者 | 人 | 目標 | — | 500 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| | | 実績 | — | 915 | 783 | 858 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 市内福祉事業所におけるボランティア、市主催行事等への参加及び市民団体が自主的に実施する奉仕活動に対してポイントを付与し、貯まったポイントを図書カード等への交換を行った。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

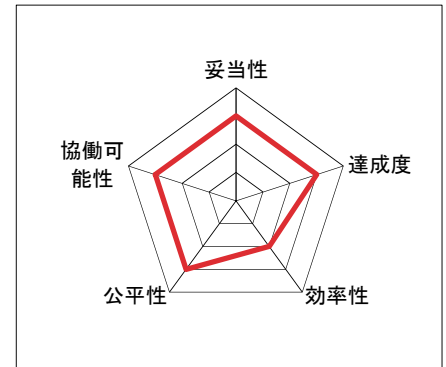
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| ポイントの対象となる活動に、市民団体が自主的に実施する奉仕活動を加えたことで、自主的な市民活動への啓発となった。 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 7,410 千円 7,748 千円 338 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| 1年間の活動内容や、事業についての改善点を把握していくことが必要。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| ポイントの交換について、10ポイントに満たない端数ポイントを生かすため、有効期限内であれば次の手帳への繰越を可能とした。 また、活動指標について、事業登録者人数を延べ人数ではなく、有効期限内の手帳を保持している人数とした。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 500 | 1,000 | 1,500 | 2,000 |
| 実績 | 915 | 1,294 | 1,723 | |

| |
|--|
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) |
| 事業登録をすることで、市民参加のきっかけとなる。手帳の有効期限が1年であることから、期限が近づいた登録者に対して周知をし、更新を促した。 |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| ポイントを貯めるということが、新しい事に参加する、楽しみながら参加する、継続して参加する事へのインセンティブとして効果がある。平成30年度については、還元人数も増加し、市民活動への参加につながっていると考えられる。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 未更新のままの登録者に対して、なぜ更新しないか、どういった活動を市民は求めているか、などを把握するため、アンケート調査等を実施する必要がある。 また、スクールガード等短時間の活動への適用方法などの検討をすすめていく必要がある。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 地域福祉推進事業 | | 担当部課 | 福祉部福祉課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ④ | 地域福祉計画策定事業 | 予算区分 | 3-1-1 社会福祉総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成30年度 | 終了(予定)年度 | 平成30年度 | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 平成26年度に策定した地域福祉計画の期間終了に伴い、次期計画として第2次地域福祉計画を策定し、地域で抱える様々な課題に対して、市民・団体・事業者・行政などが協働して解決に取り組み、住み慣れた地域において誰もが安心して暮らせるまちづくりを進める。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民が地域福祉に関する理解を深め、地域福祉の担い手となってもらう |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | — — | — — | 1,310 869 | 5,936 4,489 | 0 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 地域福祉計画策定委託 | | | | | | 3,479 千円 | |
| (2) 地域福祉計画策定委員報償金 | | | | | | 402 千円 | |
| (3) 通信運搬費 | | | | | | 232 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 講演会参加者 | 人 | 目標 | 200 | 100 | 100 | 200 | — |
| | | 実績 | 265 | 100 | 200 | 201 | — |
| 市民参加 | 人 | 目標 | — | — | 500 | 500 | — |
| | | 実績 | — | — | 833 | 2,267 | — |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 計画に市民の声を反映し、市民とともに計画をつくるため、市民意識調査や、地域懇談会、市民ワークショップ等を行った。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

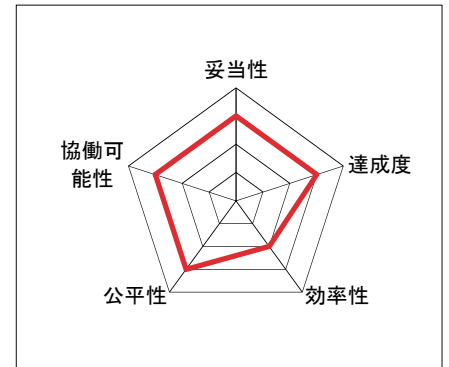
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成29年の社会福祉法改正により、地域福祉計画は、福祉に関する分野別計画の「上位計画」として位置づけられた。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|-----------------------------|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 5,936 千円 0 千円 △ 5,936 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 ※新規行政評価対象 |
| ・前年度【コメント】 |
| 新規行政評価対象 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 新規行政評価対象 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | 500 | 500 | — |
| 実績 | | 833 | 2,267 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市民意識調査や、各小学校区ごとに懇談会、市内で活動する団体へヒアリング、集いの場を訪問したアンケート調査等の他、市民ワークショップ等を開催した。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 本計画は、社会福祉法の改正に基づき、地域における高齢者、障がい者、児童、その他の福祉に関し、共通して取り組むべき事項を明記した。また、法に規定される「包括的な支援体制の整備」についても位置づけた。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 計画策定後は、地域とともに計画を推進していくことが必要であり、推進にあたっては、これまで以上に住民参加を重視する必要がある。また、これに加えて福祉、医療、保健などの専門職のみならず、福祉分野以外との分野とも連携して進めて行くことが求められ、地域福祉推進事業として進めていくものとする。 なお、本事業については次期改定まで休止。 |

7. 今後の方向性

休・廃止

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|------------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 地域福祉推進事業 | | 担当部課 | くらし文化部悩みごと相談室 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ⑤ | 多機関協働相談支援包括化推進事業 | 予算区分 | 3-1-1 社会福祉総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成29年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 複合化・複雑化した生活課題に総合的に対応するための包括的な相談支援体制を構築し、福祉分野に限らず、様々な分野の関係機関や地域資源等と連携・協働しながら、複合的な課題を抱える人や世帯の生活再建や自立を支援する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 複合的な課題を抱える人や世帯の生活再建や自立 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | — | — | 7,644 | 19,829 | 22,436 |
| | | 決算 | — | — | 6,741 | 18,985 | — |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> (1) 相談支援包括化推進事業業務委託 16,993 千円 (2) 相談支援包括化推進協議会委員報償金 110 千円 (3) 特別旅費 51 千円 | | | | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 相談対応件数 | 件 | 目標 | | | | 20 | 40 |
| | | 実績 | | | | 16 | |
| | | 目標 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> 相談支援包括化推進員を配置し、週1回個別ケース会議を実施。また、相談支援に必要な関係機関との連絡調整のため、「相談支援包括化推進協議会」を設置した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

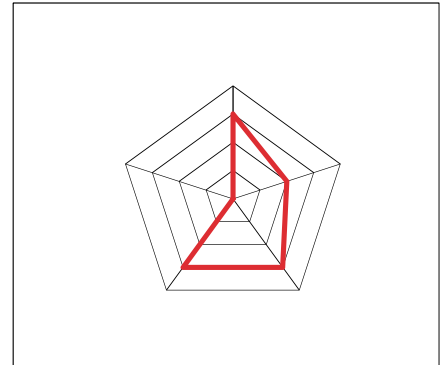
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 市民の抱える福祉ニーズが多様化、複雑化し、多分野・多機関にわたる福祉分野に関連する相談に包括的に受け止める体制が必要。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|------------------------------|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 19,829 千円 22,436 千円 2,607 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 ※新規行政評価対象 |
| ・前年度【コメント】 |
| 平成30年度から行政評価対象事業 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 平成30年度から行政評価対象事業 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 個人情報に関わるため市民との協働には適さない。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|-------------------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 成年後見制度の市長申立てについてなど、司法書士による勉強会を実施した。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 本事業の趣旨及び各相談機関からつながった相談事案への対応について関係機関への周知と理解が不足している。本事業の推進のため、関係機関への周知、理解の推進による連携強化に努める。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|-------------|--------|---------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 地域福祉推進事業 | 担当部課 | 福祉部福祉課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ⑥ 地域力強化推進事業 | 予算区分 | 3-1-1 社会福祉総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成29年度 | | 終了(予定)年度 | — |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくりを支援し、市民主体の地域づくりを推進するため、市民の地域福祉活動への関心を高め、CSWが中心となって、地域の様々な関係者と連携し、地域の支え合い体制を構築する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民が市民の困りごとを主体的に解決できる |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | | | 2,833 | 32,209 | 43,054 |
| | | 決算 | | | 2,144 | 32,148 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> (1) 地域力強化推進事業業務委託 32,148 千円 (2) 千円 (3) 千円 | | | | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 相談件数 | 数 | 目標 | | | | 3,600 | 3,600 |
| | | 実績 | | | | 3,995 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> 市民の地域福祉活動に対する関心の向上のための学習会の実施や、市民が把握した課題を受け止め、必要に応じて支援機関につなぐため「福祉のなんでも相談」を実施した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

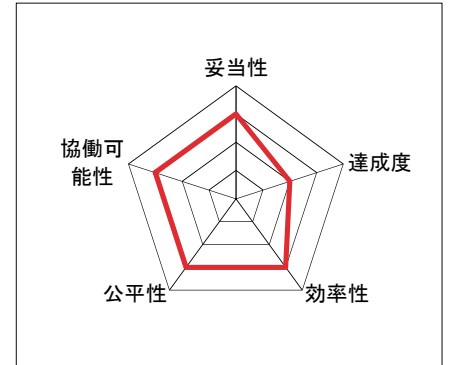
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 地域福祉への理解を深め、地域における課題を地域住民が自らの課題として主体的に捉える働きかけが必要。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|------------|-----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 32,209 千円 | 43,054 千円 | 10,845 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | ※新規行政評価対象 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| H30年度から行政評価対象事業 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| H30年度から行政評価対象事業 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | - | 100 | 1,500 | 2,000 |
| 実績 | - | 100 | 1,853 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 4つの小学校区に設置した地区社協において、把握した地域課題に対して、地域福祉学習会の開催や、部会活動を通じて、地域のボランティアとともに様々な取組を行っている。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 地域において、放課後の子どもの居場所が少ないとの声から、地域のボランティアを募り、「子ども広場」や「北っこ広場」として子どもの居場所に関する事業を実施した。また、生活困窮の子どもや、孤食の子どもの支援となるよう、学校の長期休暇中においては、「もりもり元気食堂」を実施した。 |
|--|

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 地域づくりは、福祉分野に限らず、多様な主体と連携していくことが必要であることから、事業の目的を広く周知し、市民に分かり易く説明のうえ、理解をしてもらい、市民・事業者・行政等が課題を共有できる取組を推進していく必要がある。 |
|--|

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|------------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 地域福祉推進事業 | | 担当部課 | 福祉部福祉課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ⑦ | 地域共生社会推進全国サミット事業 | 予算区分 | 3-1-1 社会福祉総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成30年度 | 終了(予定)年度 | 平成30年度 | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 全国から医療・介護・福祉関係者やまちづくり関係者などを集め、シンポジウムや分科会等を通じて、本市が進める「市民主体のまちづくり」の取組や「地域共生社会」の実現についての取組等について、全国へ情報発信するとともに、市民に対してもその取組についての周知を図った。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民に、市が進める「市民主体のまちづくり」の理解を深める |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|------------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | | | | 27,500 23,171 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 地域共生社会推進サミット実行委員会補助金 | | | | | | 23,171 千円 | |
| (2) | | | | | | 千円 | |
| (3) | | | | | | 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 参加者数 | 人 | 目標 | | | | 2,000 | |
| | | 実績 | | | | 1,900 | |
| ボランティア | 人 | 目標 | | | | 500 | |
| | | 実績 | | | | 558 | |

<備考：活動の概要(30年度(2018))>
地域共生社会をテーマとした第1回目のサミットとして、学識者や実践者によるシンポジウム、分科会等を行った。

4. 事務事業を取り巻く環境変化

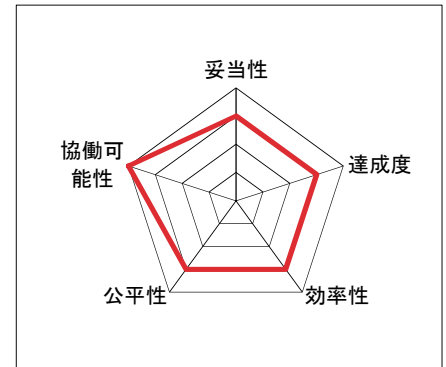
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 国においても「地域共生社会の実現」が提唱され、介護保険からテーマを移行することとなった。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|-----------------------------|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 27,500 千円 0 千円 △ 27,500 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 ※新規行政評価対象 |
| ・前年度【コメント】 |
| — |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| なし |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 4 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | 500 | |
| 実績 | | | 558 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 全国からの来場者をおもてなしするため、市民ボランティア「サミットたのしみ隊」を結成し、協働で運営にあたった。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 「サミットたのしみ隊」として、約4ヶ月間、サミットを盛り上げるために、主体的に何度も集まり話し合いを重ねて、当日の運営を行った。期間中、延べ558人のボランティアの参加があった。 |

【改善ポイント】

| |
|--------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 単年度事業のためなし。 |

7. 今後の方向性

休・廃止

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| 事業番号 | 059 | 事業名 | 社会福祉事業 | | | | 担当部課 | 福祉部福祉課 | |
|---------------------------------------|---|--|--------|------------|------------|---------------|-----------------|-----------|--|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | | | | 会計区分 | 一般会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | | | | | 予算区分(款 - 項 - 目) | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | | | | 3-1-1 社会福祉総務費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | - | | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 戦没者追悼事業実施要領 | | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 先の大戦において散華された戦没者の霊に対し哀悼の誠を捧げるため、市内在住の戦没者遺族を対象に、長久手市戦没者追悼式を実施。 | | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 福祉課における総務全般。また、総合福祉システムの保守・委託業務。 | | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 福祉課における総務事務全般 | | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 嘱託職員等を雇用することにより、窓口業務・システム入力作業を行い、職員の事務軽減を図る。 | | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 社会福祉事務事業 | 改善・見直し | ④ | | | | | |
| | ② 戦没者追悼事業 | 改善・見直し | ⑤ | | | | | | |
| | ③ | | ⑥ | | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 13,940 | 12,551 | 14,596 | 18,755 | 16,822 | |
| | | | 決算 | 11,780 | 10,267 | 14,768 | 13,192 | | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | - | 10,924 | 15,254 | 6,033 | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | - | 21,191 | 30,022 | 19,225 | | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | |
| | A システム委託数 | 件 | 目標 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | | | 実績 | 3 | 3 | 3 | 3 | | |
| | B 遺族会員の参加率 | % | 目標 | 69.0 | 69.9 | 63.1 | 75.9 | 40.0 | |
| | | | 実績 | 69.9 | 63.1 | 75.9 | 36.2 | | |
| | C | | 目標 | | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | | |
| A システムの委託数で事務効率化の状況が判断できる | | | | | | | | | |
| B 戦没者追悼式への遺族会員の参加率前年度実績以上(関心度が判断できる。) | | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) マイナンバー制度の導入等、必要とされるシステム改修が毎年のように発生している。 戦没者追悼式を平和祈念事業と一体的に実施する自治体がある(小牧市、東郷町) | | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 必要なシステムを導入して対応できている。 | | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 戦没者追悼式について、平和祈念事業との一体的実施をすることで、幅広い世代が平和について考える機会とする必要がある。 | | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 戦没者追悼式について、平和祈念事業との一体的実施をすることで、幅広い世代が平和について考える機会とする必要がある。 | | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) システム導入で簡素化される業務の見直しを実施する(社会福祉事務事業) 平和祈念事業と連携し、幅広い世代を対象とした事業展開を検討する(戦没者追悼式) | | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平和祈念式典について、幅広い年代層の市民が参加するものとして周知し、定着させる。(平成35年度頃までに) | | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・戦没者追悼事業と平和行政事業の連携を進めてください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|------------|------|---------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 社会福祉事業 | 担当部課 | 福祉部福祉課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① 社会福祉事務事業 | 予算区分 | 3-1-1 社会福祉総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | | 終了(予定)年度 | — |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 障害者に対する手当や福祉サービスの提供を正確且つ円滑に推進する |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 嘱託職員を雇用し専門的に取り組む業務及び団体事務を任せ、システム導入で効率的な事務を推進する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|---------------------------|----|------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 事業費 | 千円 | 予算 | 13,309 | 11,928 | 12,822 | 18,132 | 16,263 |
| | | 決算 | 11,228 | 9,695 | 13,030 | 13,000 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 一般事務賃金 | | | | 4,284 | 千円 |
| (2) | | 一般事務嘱託員報酬 | | | | 2,812 | 千円 |
| (3) | | 総合福祉システム機器改修対応委託 | | | | 1,561 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|----------|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 嘱託職員雇用人数 | 人 | 見込 | 0 | 1 | 1 | 2 | 2 |
| | | 実績 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| システム委託数 | 件 | 見込 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | | 実績 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |

<備考：活動の概要(30年度(2018))>
嘱託員を2名、臨職を7名採用し、団体事務や窓口や電話の対応、簡単な入力作業等に当たった。福祉システムを導入し、資料等に必要統計等の作業時間短縮を図った。

4. 事務事業を取り巻く環境変化

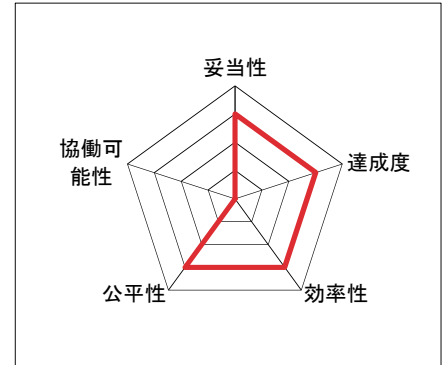
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 税制改正や報酬改定等、必要とされるシステム改修が毎年のように発生している。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---|---|------------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 18,132 千円 | 16,263 千円 | △ 1,869 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 改善・見直し | |
| ・前年度【コメント】 | 嘱託員、臨時的任用職員の雇用やシステム導入により事務の効率化を図る。 システム導入で簡素化される業務の見直しを実施する。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 前年度より嘱託員を1名増員し、市手当の支払事務やコミュニケーション支援事業等経常的な事業の事務に当たった。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---------------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 個人情報も多く取り扱うものであり、協働に適した事業ではないため | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 継続的に取り組む団体事務や市手当等の事務については、基本的に異動のない嘱託員に担当させることで安定した事務が行える。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 臨時職員の窓口マニュアル等を見直し、経験年数に関係なく使いやすいものに改善する必要がある。 システム導入で簡素化される業務の見直しを実施し、確実な業務の遂行を行う。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|---------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 社会福祉事業 | | 担当部課 | 福祉部福祉課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 戦没者追悼事業 | 予算区分 | 3-1-1 社会福祉総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | - | 終了(予定)年度 | - | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 先の大戦において犠牲となった戦没者の霊に対し哀悼の誠を捧げるため、市内在住の戦没者遺族を対象に年に1回長久手市戦没者追悼式を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 戦没者の霊を追悼し、戦争の悲惨さ、平和の尊さを後世に伝えていく。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 631 552 | 623 572 | 623 564 | 623 192 | 559 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 追悼式壇設置委託 | | | | | | 111 千円 | |
| (2) 消耗品費 | | | | | | 73 千円 | |
| (3) 手数料 | | | | | | 5 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 遺族会員の参加率 | % | 見込 | 69.0 | 69.9 | 63.1 | 75.9 | 40.0 |
| | | 実績 | 69.9 | 63.1 | 75.9 | 36.2 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> 実施日及び場所：平成30年8月10日 文化の家風のホール 主な内容：平和記念式典として実施。献花、戦争体験を聞く集い、中学生広島平和体験学習報告 等 遺族会参加者数：149人中59人 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

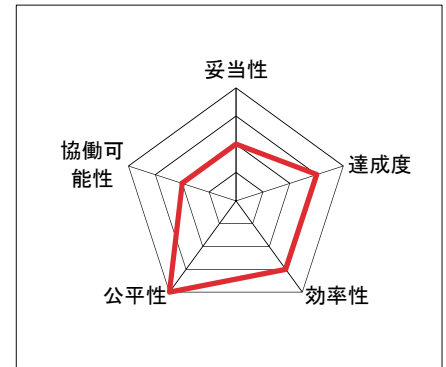
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 戦後70年以上経過して戦没者遺族の高齢化が進み、出席対象者の数が年々減っている。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 623 千円 559 千円 △ 64 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| 長久手市平和推進委員会と連携して実施することが必要。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 平成30年度は平和祈念式典として開催し、幅広い年代の市民が集い、戦没者への哀悼の意を表するとともに、平和への思いを改めて認識する式典となった。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 2 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | 2 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 200 | 200 | 200 | 200 |
| 実績 | 265 | 273 | 162 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) 遺族会と連携して式を開催し、戦争の悲惨さ平和の尊さを若い世代に伝えた。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 平和記念式典として、幅広い年代の市民が集い、語り部による戦争体験を聞いたり、中学生の広島平和体験学習についての報告を行ったことで、市民にとっても改めて平和への思いを認識する式典となった。 |
|---|

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 幅広い年齢層に戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えていくため、平和祈念式典として新しい内容の式典を開催することが必要。遺族会、行政課、長久手市平和推進委員会と連携をして実施内容を検討し、実施する。年々参加者層が高齢化しているが、もっと若い世代が参加する内容の検討と、活動推移の指標について、参加者数の増減で図るよう検討したい。 |
|--|

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|------------------------------------|-----------------------------|--|----------|-----------------|-----------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 060 | 事業名 | 障がい者福祉事業 | | 担当部課 | 福祉部福祉課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | | | 会計区分 | 一般会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | | | 予算区分(款 一 項 一 目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | | | 3-1-4 身体障がい者福祉費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市障がい者社会見学事業助成金交付要綱 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 障害者の社会参加の促進や自立した生活を支援するため実施 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 障がい者の社会参加の促進や自立した生活支援をすることを目的に、障がい者作業施設外での就労を推進し、障がい者を支援する団体が実施する社会見学事業に対する補助を行う。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 障がい者および障がい者の社会参加の促進や自立した生活を支援することを目的として活動する団体 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 障がい者の社会参加や外出機会を創出するために活動する団体の活性化を支援する | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 障がい者福祉事務事業 | 改善・見直し | ④ 障がい者計画策定・評価事業 | 拡充 | | | |
| | ② 心身障がい者社会見学事業 | 改善・見直し | ⑤ | | | | | |
| | ③ 障がい援護事業 | 改善・見直し | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | — | 74,441 | 75,391 | 94,570 | 94,068 |
| | | | 決算 | — | 73,626 | 75,690 | 79,492 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | — | 12,221 | 19,327 | 21,746 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | — | 85,847 | 95,017 | 101,238 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A ながふく就労体験利用延べ人数 | 人 | 目標 | — | 10 | 30 | 40 | 45 |
| | | | 実績 | — | 14 | 27 | 30 | |
| | B 心身障がい者社会見学申請団体数 | 団体 | 目標 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | | | 実績 | 1 | 2 | 2 | 2 | |
| | C 福祉有償運送講習会参加者数 | 人 | 目標 | — | 15 | 15 | 15 | 15 |
| 実績 | | | — | 18 | 10 | 8 | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 障がい者の社会参加の機会が創出できる | | | | | | | | |
| B 申請団体が増加すると障がい者の外出機会も増加していると判断できる | | | | | | | | |
| C 担い手を増やすことにより、障がい者の外出機会の促進を図れる | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 人口増加に伴い障がい者数も増加しているため、手当等の財源が毎年増加し続けている。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 施設外就労の依頼件数が目標を下回っている | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 平成28年度から障がい者市役所内職業訓練委託(ながふく就労体験)及び福祉有償運送ドライバー講習会を実施した。平成30年度からながふく就労体験を福祉部内から全庁に拡大した。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 福祉有償運送の制度の担い手が不足しているため、制度の周知及びボランティアドライバーの養成を行う必要がある。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) ながふく就労体験の利用人数を増加させるため、新任課長に向けた研修などで事業のPRを行っていく | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成32年度中に福祉有償運送の制度及びドライバー認定講習の周知が進んでいる | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・市単独の障がい者手当について、目指す事業効果や必要性を検討し、見直しを進めてください。 ・各事務事業に関し、「協働の可能性」について、研究・検討してください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|------------|----------|-----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 障がい者福祉事業 | | 担当部課 | 福祉部福祉課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 障がい者福祉事務事業 | 予算区分 | 3-1-4 身体障がい者福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | - | 終了(予定)年度 | - | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 障がい者にかかる事務を正確且つ円滑に進める |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 障がい者の社会参加の促進や自立した生活を支援する |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | - - | 1,317 853 | 1,127 499 | 971 376 | 1,077 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 消耗品費 | | | | 130 千円 | |
| (2) | | 特別旅費 | | | | 122 千円 | |
| (3) | | 障がい者市役所内職業訓練委託 | | | | 86 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| ながふく就労体験利用延べ人数 | 人 | 見込 実績 | - - | 10 14 | 30 27 | 40 30 | 45 |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 障がいのある人に市役所内で軽易な業務を体験してもらった。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

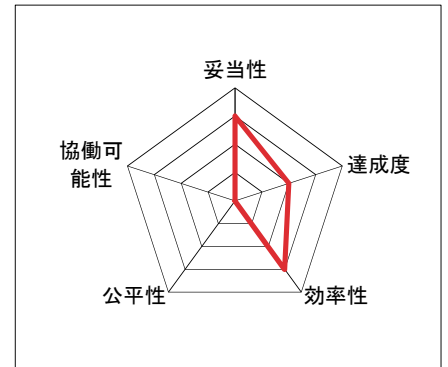
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
将来一般就労を目指す障がい者が自分にあった仕事を選択するための体験の場が求められているため、ながふく障がい者プランの重点施策に位置づけられている。

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|-------------------------------------|------------|--------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 971 千円 | 1,077 千円 | 106 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 拡充 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| 現在は福祉部内で依頼する業務の募集を行っているが、対象を全庁に拡充する | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 平成30年11月実施分から業務の募集対象を全庁に拡大した。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | - |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 障がい福祉サービスである就労支援を利用する障がい者と事業所の職員が実施するものであるため、該当しない | | | | |

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
平成30年11月実施分から業務の募集対象を全庁に拡大した。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
全庁に向けての募集を実施したが、応募する課が限られているため、新任課長に向けて実施する障害者差別解消法の研修などでPRを行っていく。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|----------------|------|-----------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 障がい者福祉事業 | 担当部課 | 福祉部福祉課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② 心身障がい者社会見学事業 | 予算区分 | 3-1-4 身体障がい者福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | | 終了(予定)年度 | — |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 障がい者の社会参加を促進するため、障がい者を支援する団体が障がい者を対象に社会見学事業を企画・運営して実施する場合に補助金を交付する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 障がい者の社会参加が促進されたり、自立した生活を送ることにつながるものとした。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | — | 900 | 800 | 800 | 800 |
| | | 決算 | — | 513 | 545 | 546 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> (1) 心身障がい者社会見学助成金 546 千円 (2) 千円 (3) 千円 | | | | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 申請団体数 | 団体 | 見込 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | | 実績 | 2 | 2 | 2 | 2 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> 障がいのある人の学習機会の提供及び外出する機会の創出のため、団体等が開催した社会見学事業の一部費用を助成する。平成30年度は希望の会に150,000円、長久手市身体障害者福祉協会に395,720円の助成を行った。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

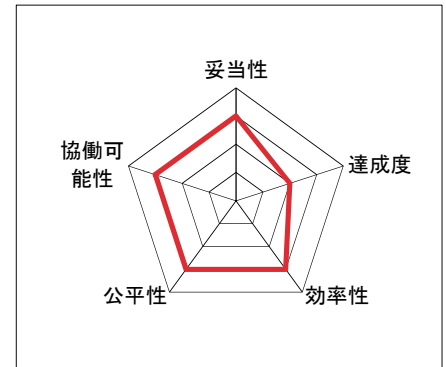
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 今まで市が主催していた社会見学事業を補助事業に変更した。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|-------------------------|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 800 千円 | 800 千円 | 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | HPや広報、関係団体の会合等で事業の周知を図る | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 関係団体に事業の周知を図った | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数 (人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況 (30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 障がい者団体が計画、実施する事業に助成を行った。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
|------------------------|

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 関係団体へのヒアリング等を行い、事業をより利用しやすいものになるよう検討する。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|---------|----------|-----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 障がい者福祉事業 | | 担当部課 | 福祉部福祉課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ③ | 障がい援護事業 | 予算区分 | 3-1-4 身体障がい者福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | - | 終了(予定)年度 | - | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ①障がい者に対して手当等を支給する ②福祉有償運送の担い手を希望する者に対し、講習を開催する |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 障がい者の経済的負担の軽減を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | - | 71,639 | 72,071 | 92,797 | 91,586 |
| | | 決算 | - | 72,186 | 73,711 | 78,570 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | 障害者手当（市単費） | | | | 56,843 千円 | |
| (2) | | 特別障害者手当等給付費 | | | | 15,672 千円 | |
| (3) | | タクシー料金助成金 | | | | 3,263 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 有償運送講習参加者数 | 人 | 見込 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 |
| | | 実績 | 18 | 10 | 8 | 6 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| 福祉有償運送の担い手であるドライバーを増やすため、ドライバー認定講習会を開催する。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

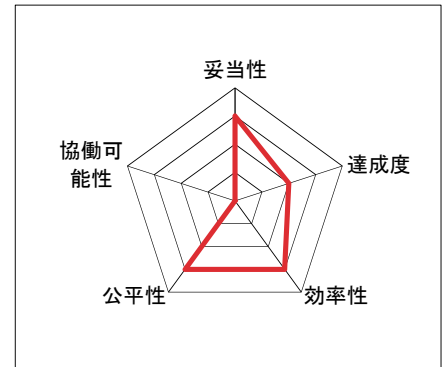
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 人口増加に伴い障がい者数も増加しているため、手当等の財源が毎年増加し続けている。 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 92,797 千円 91,586 千円 △ 1,211 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| 毎年増加する費用に対し、今後どのように対応するか検討する。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 運営協議会で担い手の増加のため、制度及びドライバー講習の周知について検討した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 運営協議会でチラシの作成及びチラシの配布場所等（ボランティアセンター、介護に関する講習会の会場等）について検討を行った。 |

【改善ポイント】

| |
|-------------------------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 福祉有償運送協議会で検討した制度及びドライバー講習について周知を行う。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|---------------|----------|-----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 障がい者福祉事業 | | 担当部課 | 福祉部福祉課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ④ | 障がい者計画策定・評価事業 | 予算区分 | 3-1-4 身体障がい者福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成27年 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ながふく障がい者プランの策定、評価等を障がい者自立支援協議会の計画策定部会、評価部会で検討する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 障害者の社会参加や外出機会を創出する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | — | 585 | 1,393 | 2 | 605 |
| | | 決算 | — | 74 | 935 | 0 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | | | | | | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 評価部会AB判定数 | 個 | 見込 | — | 12 | 14 | 15 | 15 |
| | | 実績 | — | 12 | 13 | 13 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| ながふく障がい者プランの評価等を障がい者自立支援協議会の計画評価部会で行った。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

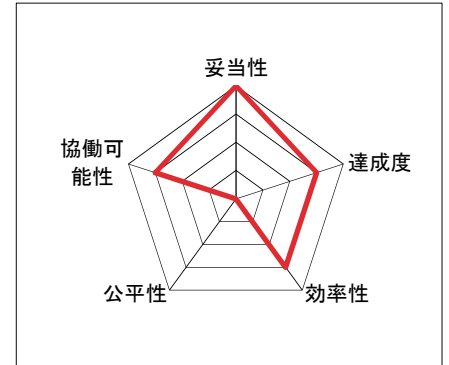
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) これまで計画策定については市役所中心で策定を進めていたが、自立支援協議会を立ち上げたことにより、障がい者や関係者の多くの意見を聞くことができる状況となった。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 2千円 605千円 603千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 縮小 |
| ・前年度【コメント】 |
| 策定スケジュールを遅延なく実施する。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 計画と施策が連動するよう、重点施策等を担当する部会等に評価委員からの意見のフィードバックを行った。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | — |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 平成29年度の策定の中間見直しでは、市民、事業所にヒアリングを行い、施策についての検討を行った。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 平成29年度の策定の中間見直しでは、市民、事業所にヒアリングを行い、施策についての検討を行った。計画の進捗状況が正確に把握できるように、計画の評価は、計画を策定した委員で実施した。 |

【改善ポイント】

| |
|---------------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 次回の策定にあたり、市民の意見を集める必要がある。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|---------------------------------------|---|--|------------|--------------------|-----------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 061 - | 事業名 | 障がい者自立支援事業 | | 担当部課 | 福祉部福祉課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | | | 会計区分 | 一般会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | | | 予算区分(款 - 項 - 目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | | | 3-1-4 身体障がい者福祉費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | - | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 障害者総合支援法 | | | | | | |
| | 事業開始の背景、経緯等 | 障害者総合支援法に基づくサービスの提供 | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) ・障害者総合支援法に基づく地域生活支援事業の実施 ・虐待発生時の緊急対応 ・障害者総合支援法に基づく自立支援給付の実施 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 障がい者本人、その支援者及び事業所 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 障がい者が自立した生活を送ることができる | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 障がい者自立支援事務事業 | 改善・見直し | ④ 障がい者総合支援通所施設管理事業 | 改善・見直し | | | |
| | ② 地域生活支援事業 | 改善・見直し | ⑤ | | | | | |
| | ③ 自立支援給付事業 | 改善・見直し | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | - | 412,184 | 480,896 | 723,489 | 776,887 |
| | | | 決算 | - | 505,343 | 550,835 | 616,244 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | - | 12,221 | 23,645 | 22,072 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | - | 517,564 | 574,480 | 638,316 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 認定調査数 | 件 | 目標 | - | - | 90 | 100 | 100 |
| | | | 実績 | - | - | 95 | 93 | |
| | B 手話奉仕員研修参加人数 | 人 | 目標 | - | - | 6 | 7 | 8 |
| | | | 実績 | - | - | 7 | 4 | |
| | C 施設利用者数 | 人 | 目標 | - | - | 24 | 26 | 26 |
| 実績 | | | - | - | 26 | 25 | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 支援を必要としている人の指標となる | | | | | | | | |
| B 担い手を増やすことにより、障害者が地域で自立した生活を送ることができる | | | | | | | | |
| C 利用者が安全かつ快適に施設で過ごしている指標となる | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 人口増加に伴う対象者の増加により、支給額が増加傾向にある | | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 認定調査、手話奉仕員研修参加人数、施設利用者数すべて目標を達成している | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 自立支援法に基づき事業を実施している | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 支給金額が年々増加傾向にある | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 今後も支援を必要とする障がい者に適切な支援を支給する | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成31年度に障がい者総合支援通所施設の指定管理期間が終了することに伴い、次の指定管理事務を行い、切れ目無くサービスを提供する。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|----------------|------|-----------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 障がい者自立支援事業 | 担当部課 | 福祉部福祉課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① 障がい者自立支援事務事業 | 予算区分 | 3-1-4 身体障がい者福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | - | | 終了(予定)年度 | - |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 障害者総合支援法に基づくサービス提供のための消耗品の購入 医師意見書作成依頼に対する手数料の支払 認定調査委託費等の支払 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 障害者総合支援法に基づくサービス提供に関する事務が滞りなく実施できる |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|--------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | - - | 2,400 2,145 | 2,469 2,258 | 2,469 2,251 | 2,474 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 障害認定審査会委員報酬 | | | | 1,560 | 千円 |
| (2) | | 手数料 | | | | 383 | 千円 |
| (3) | | 障害支援区分認定調査委託 | | | | 287 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--------------------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 認定調査数 | 件 | 見込 | - | - | 90 | 100 | 100 |
| | | 実績 | - | - | 95 | 93 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 障害福祉サービスの利用を希望する障がい者に支援の量を量るための調査を行う | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

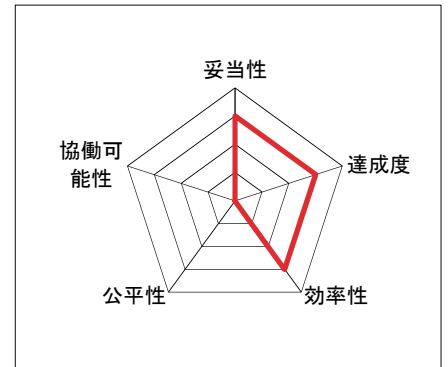
| |
|------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
|------------------------|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|------------|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 2,469 千円 | 2,474 千円 | 5 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| 今後も滞りなく事務を進めていく | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | - |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 障害者総合支援法に基づき、医師や認定調査員等専門的な資格をもつ者が行う事業であるため | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 障害者総合支援法に基づく障がい福祉サービスの支給決定を行うため、障害認定審査会を毎月実施し、区分認定調査等を行った。 |

【改善ポイント】

| |
|--------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
|--------------------|

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------|----------|----------|-----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 障がい者自立支援事業 | | 担当部課 | 福祉部福祉課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 地域生活支援事業 | 予算区分 | 3-1-4 身体障がい者福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | | 終了(予定)年度 | | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者総合支援法に基づく地域生活支援事業の実施 ・ 相談支援及び意思疎通支援事業の実施 ・ 虐待への対応 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) <ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者が自立した日常生活や社会生活を営むことができる ・ 障がい者の権利擁護が図れる |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-------------|----------------|------------------|------------------|------------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | - - | 72,535 68,226 | 73,976 68,102 | 93,625 76,556 | 98,267 |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | 日中一時支援事業給付費 | | | | 32,553 千円 | |
| (2) | | 相談支援事業委託 | | | | 24,035 千円 | |
| (3) | | 移動支援事業給付費 | | | | 7,860 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|----------------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 手話奉仕員研修参加人数 | 人 | 見込 実績 | - - | - - | 6 7 | 7 4 | 7 |
| | | 見込 実績 | - - | - - | 7 - | 4 - | - |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| 手話奉仕員を養成する全40回の講座の実施 講座に関する広報 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

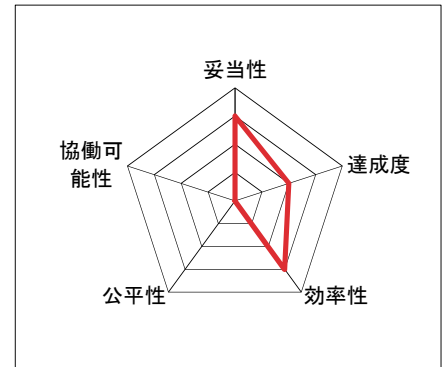
| |
|------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
|------------------------|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 93,625 千円 98,267 千円 4,642 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・ 前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・ 前年度【コメント】 |
| 今後も滞りなく事務を進めていく |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 障がい者相談支援センターを基幹化した。 就労支援コーディネーターを設置した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | - |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数 (人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 協働の状況 (30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 障害者総合支援法に基づく事業で、相談支援専門員や手話奉仕員等専門的な資格をもつ者が実施する事業のため | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| ながふく障がい者プランに基づき平成30年度に相談支援センターを基幹化するとともに、就労支援コーディネーターを設置し、相談機能の充実を図った。 |

【改善ポイント】

| |
|----------------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 手話奉仕員養成講座の広報を見直し、参加者数を増加する |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|------------|----------|-----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 障がい者自立支援事業 | 担当部課 | 福祉部福祉課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ③ 自立支援給付事業 | 予算区分 | 3-1-4 身体障がい者福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 終了(予定)年度 | | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 障害者総合支援法に基づく自立支援給付の実施 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 障がい者の自立を支援する |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | — | 337,199 | 404,401 | 627,345 | 676,096 |
| | | 決算 | — | 434,829 | 480,376 | 537,436 | |
| ＜備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| (1) | | 日中活動系介護給付費 | | | | 163,546 千円 | |
| (2) | | 訪問系介護給付費 | | | | 143,448 千円 | |
| (3) | | 日中活動系訓練等給付費 | | | | 126,675 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 育成医療給付申請 | 件 | 見込 | — | — | 11 | 4 | 5 |
| | | 実績 | — | — | 4 | 9 | |
| 更生医療給付申請 | 件 | 見込 | — | — | 84 | 67 | 70 |
| | | 実績 | — | — | 81 | 55 | |
| ＜備考：活動の概要（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| 障害者総合支援法に基づく自立支援給付の実施 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

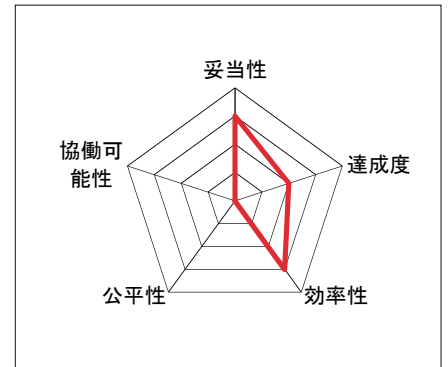
| |
|------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
|------------------------|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|------------|-----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 627,345 千円 | 676,096 千円 | 48,751 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| 今後も滞りなく事務を進めていく | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | — |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数 (人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 協働の状況 (30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 障害者総合支援法に基づく給付事業であるため | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 今後も滞りなく事務を進めていく |

【改善ポイント】

| |
|--------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
|--------------------|

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|--------------------|----------|-----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 障がい者自立支援事業 | 担当部課 | 福祉部福祉課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ④ 障がい者総合支援通所施設管理事業 | 予算区分 | 3-1-4 身体障がい者福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 終了(予定)年度 | | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 障がい者総合支援通所施設を安心・安全に管理する |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 障がい者が安心して施設を使用できる |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | — | 50 | 50 | 50 | 50 |
| | | 決算 | — | 143 | 99 | 0 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | | | | | | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 施設利用者数 | 人 | 見込 | — | — | 24 | 26 | 26 |
| | | 実績 | — | — | 26 | 25 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 福祉の家にある「障がい福祉サービスつばさ」の指定管理業務の見直しを行った。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

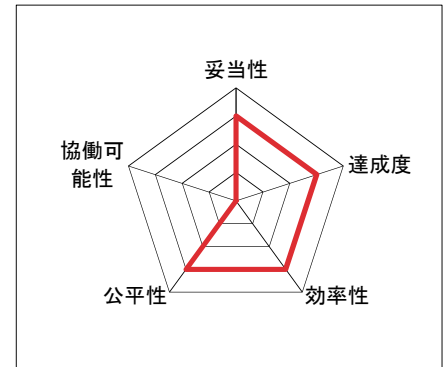
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 指定管理が平成31年度で完了となり、事業の見直し等を行う必要 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|-------------|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 50千円 | 50千円 | 0千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | 修繕等に迅速に対応する | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 修繕であるため | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 修繕等に迅速に対応する |

【改善ポイント】

| |
|-------------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 次の指定管理に向け、指定管理事務を滞りなく行う |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|-------------|---------------|----------------------------------|------------------|-----------------|--------|
| 事業番号 | 062 - | 事業名 | 生活保護事業 | 担当部課 | 福祉部福祉課 |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | | 3-3-1 生活保護総務費 | |
| | 法定受託事務の有無 | ✓ | 生活保護実施に関する事務 | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 生活保護法、生活困窮者自立支援法 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 法に基づく扶助事業 | | | | |

| | | | | | | |
|-------|-----------------|---|--------|---|--|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 生活保護：生活保護法の定める要件を満たす生活困窮者の程度に応じ、必要な保護を行い、その最低限度の生活を保障するとともに、その自立を助長する。 生活困窮者自立支援：生活保護に至る前段階の自立支援策の強化を図るため、支援を実施。 | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 生活困窮者 | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 自立した生活のため支援する | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 生活保護事務事業 | 改善・見直し | ④ | | |
| | ② 生活困窮者自立支援事業 | 拡充 | ⑤ | | | |
| | ③ | | ⑥ | | | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | 30,776 | 33,223 | 33,230 | 36,388 |
| 決算 | | | | 22,094 | 28,706 | 29,807 | 36,090 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | 29,519 | 21,209 | 22,492 | 23,198 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | 51,613 | 49,915 | 52,299 | 59,288 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|---------------------|----|-----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 就労自立促進事業による就職者数 | 人 | 目標 | 25 | 39 | 20 | 25 | 19 |
| | | | 実績 | 21 | 26 | 15 | 23 | |
| | B 生活困窮者自立支援事業新規相談件数 | 件 | 目標 | 118 | 95 | 84 | 84 | 92 |
| 実績 | | | 95 | 84 | 84 | 89 | | |
| C 保護受給者訪問回数 | 回(のべ) | 目標 | 353 | 343 | 341 | 360 | 360 | |
| | | 実績 | 360 | 459 | 596 | 714 | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 生活困窮者等の就労を促進し自立を促すことで、生活保護費の削減につながる。

B 支援の必要な者に適切な助言ができる体制をつくり、生活保護の受給に至らないようにする。

C 保護受給者の心身の状態や生活状況の変化に気づき、必要に応じて指導することで、保護費の適正な給付ができる。

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 生活保護事業は、市制を敷くことにより市の業務となった。他自治体においては専門性の確保のため、専門職員(医療、年金等)が配置されている。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 就労自立促進事業については対象者が少なく、また就労可能な新規保護受給者も少なかったため、目標を達成できなかった。保護受給者の訪問は目標を達成した。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 生活困窮者自立支援事業の実施により、生活保護の受給に至る前に適切な支援ができるようになった。新規相談件数としては横ばいだが、継続して支援しているケースは着実に増えている。生活保護受給者については、高齢者や障がい・傷病による対象者が多く、生活状況の確認のため訪問回数を増やし、適正な給付につながっている。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 就労相談を行い自立を促しているが、就労しても短期間で離職してしまうケースも多い。就労を継続させ、自立した生活を維持できるよう、定期的に指導をしていく必要がある。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 生活保護事業については法定受託事務であるため、事業を辞めることはできない。いかに求められる専門性に効率よく、ハード・ソフト両面に対応していくかが課題である。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 生活困窮者自立支援事業の学習支援事業について、30人前後の中学生が年間を通して参加できるよう、事業を定着させる。(平成35年度までに) |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 生活保護事業 | | 担当部課 | 福祉部福祉課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 生活保護事務事業 | 予算区分 | 3-3-1 生活保護総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 生活保護法の定める要件を満たす生活困窮者の程度に応じ、必要な保護を行い、その最低限度の生活を保障するとともに、その自立を助長するための事務費 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 健康で文化的な最低限度の生活を維持し、自立を助長する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|--------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 14,456 | 11,740 | 11,890 | 14,629 | 14,891 |
| | | 決算 | 6,805 | 10,477 | 9,930 | 13,203 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 就労支援員報酬 | | | | | 2,504 千円 |
| (2) | | 生活保護システム改修委託 | | | | | 2,484 千円 |
| (3) | | 面接相談員報酬 | | | | | 2,330 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|-----------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 保護受給者訪問回数(のべ) | 回 | 見込 | 353 | 343 | 341 | 360 | 306 |
| | | 実績 | 360 | 459 | 596 | 714 | |
| 就労自立促進事業による就職者数 | 人 | 見込 | 25 | 39 | 20 | 25 | 19 |
| | | 実績 | 21 | 26 | 15 | 23 | |

<備考：活動の概要(30年度(2018))>
 嘱託員の配置：面接相談員1名、就労支援相談員1名、精神保健相談員1名(H29.7月から不在)
 嘱託医による審査：(一般)毎月第2・第4火曜日 年24回(精神)年3回(10月、11月、3月)
 生活保護システム賃貸借契約：H29年～H33年までの5年契約

4. 事務事業を取り巻く環境変化

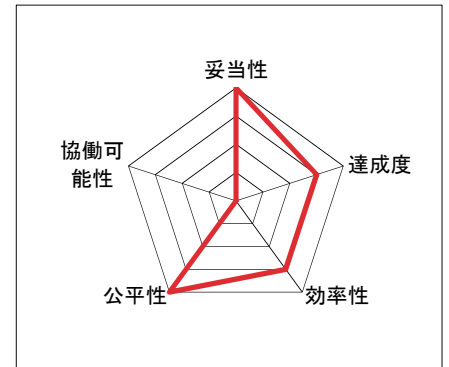
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 生活保護申請者の抱える問題は年々複雑化しており、他自治体においては専門性の確保のため、専門職員(医療、年金等)が配置されている。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 14,629 千円 14,891 千円 262 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 生活保護システムを利用し、事務の効率化を図っているが、依然として経験年数の浅い職員が多く、対応に苦慮することも多い。今後も知識の習得に励む。 また、前任者が離職し、平成29年7月から不在となっている専門職の嘱託員(精神保健相談員)については、常時求人しているが応募がない状況であり、早期に雇用できるよう対処が必要である。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 研修やシンポジウム等に積極的に参加し、知識の習得に励んだ。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) 法定受託事務であり、市民協働にそぐわない業務と考える。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 法定受託事務である生活保護事業を行うための事務費である。 面接相談員の嘱託員を配置し、生活状況の確認のための訪問を確実に行うことで適正な給付につなげている。 就労支援相談の嘱託員を配置し、保護受給者の就労・自立を支援することで生活保護費の削減を図っている。 |
|--|

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 経験の浅い職員が多い中で、日々細くなる制度への対応が課題。 また、前任者が離職し、平成29年7月から不在となっている専門職の嘱託員(精神保健相談員)については、常時求人しているが応募がない状況であり、早期に雇用できるよう対処が必要である。 |
|--|

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|----------|-------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 生活保護事業 | | 担当部課 | 福祉部福祉課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 生活困窮者自立支援事業 | 予算区分 | 3-3-1 生活保護総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成26年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 生活困窮者に対し、包括的な支援、対象者別に個別的な支援、継続的に必要な支援を実施する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 生活困窮状態からの脱却、自立を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 16,320 | 21,483 | 21,340 | 21,759 | 22,218 |
| | | 決算 | 15,289 | 18,229 | 19,877 | 22,887 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 自立相談支援事業委託 | | | | 12,444 | 千円 |
| (2) | | 学習支援事業委託 | | | | 3,842 | 千円 |
| (3) | | 返還金 | | | | 3,610 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 相談件数(新規) | 人 | 見込 | — | 95 | 84 | 84 | 92 |
| | | 実績 | | 95 | 84 | 84 | 89 |
| 就労件数 | 人 | 見込 | — | 20 | 17 | 15 | 24 |
| | | 実績 | | 12 | 16 | 15 | 24 |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 支援実績 | | | | | | | |
| ・自立相談支援事業 相談件数(新規)89件(継続)566件 就労支援者数 18人 | | | | | | | |
| ・家計改善支援事業 相談件数(新規)4件(継続)142件 | | | | | | | |
| ・学習支援事業 参加者数 28人 | | | | | | | |
| ・個別訪問調査 32件 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

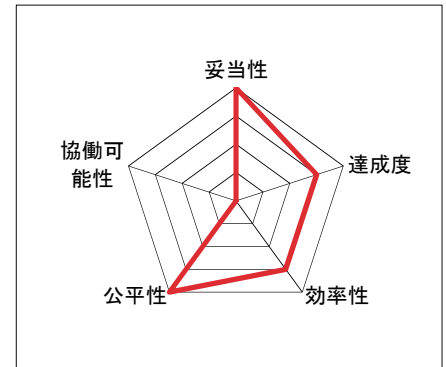
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 厳しい経済状況下において、生活困窮者の課題が複雑化・複合化している。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 21,759 千円 22,218 千円 459 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| 事業開始からまだ数年であるが、生活困窮になる問題が多様化・複雑化しているため、研修等により相談員の専門的な知識の蓄積を図る。 また、子どもの貧困対策を強化するため、生活困窮世帯の中学生を対象とした学習支援事業について、1学期中に事業開始し、年間を通じて支援できるよう検討する。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 相談員が研修やシンポジウム等に積極的に参加し、知識の習得に励んだ。 また、学習支援事業について、1学期中(6月から)に事業開始し、前年(9月から)よりも長期間、中学生の支援を実施した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 現状は市民参加の事業は実施していない。 今後、就労準備支援事業や学習支援事業等でどのような形で市民参加が可能かを含め検討していく。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 平成27年度からの制度実施に先立ち、平成26年1月からモデル事業として実施していることから、事業の経験や関係機関との連携ができています。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 事業開始からまだ数年であるが、生活困窮になる問題が多様化・複雑化しているため、研修等により相談員の専門的な知識の蓄積を図り、多機関協働相談支援包括化推進事業や地域力強化推進事業と連携して、事業実施をする。 また、子どもの貧困対策を強化するため、生活困窮世帯の中学生を対象とした学習支援事業について、可能な限り早期に開始し、年間を通じて支援できるよう検討する。 |

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 拡充 |
|----|

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|-------------|---|----------------------------------|--------|-----------------|--------|
| 事業番号 | 063 | 事業名 | 災害救助事業 | 担当部課 | 福祉部福祉課 |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | | 3-4-1 災害救助費 | |
| | 法定受託事務の有無 | - | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市地域防災計画、長久手市避難行動要支援者支援要綱 | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 長久手市地域防災計画に基づき、高齢者や障がい者等の支援を要する者が、平常時、災害時及び緊急時における支援を地域の中で受けられるようにするための制度を整備することにより、安心して暮らすことができる地域づくりの推進を図る。 | | | | |

| | | | | |
|-------|-----------------|---|--------|---|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 支援を必要とする高齢者や障がい者に対し、災害時に備え要支援者名簿登録を行っている。 | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 高齢者や障がい者で災害時に支援の必要な方 | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 災害時に支援できる体制の整備 | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 災害救助対策事業 | 改善・見直し | ④ |
| | ② | | ⑤ | |
| | ③ | | ⑥ | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----------|----------------|----------------|--------------|--------------|-----------|
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 決算 | 8,632 1,586 | 8,632 1,514 | 8,357 219 | 8,357 351 | 8,367 |
| 人件費(B) | 千円 | 決算 | - | 4,583 | 6,444 | 4,712 | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | - | 6,097 | 6,663 | 5,063 | | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------|-----------------|----------|------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 要支援者登録率(高齢者) | % | 目標 | 50.0 | 50.0 | 50.0 | 50.0 | 50.0 |
| | | | 実績 | 43.4 | 43.3 | 46.0 | 39.8 | |
| | B 要支援者登録率(障がい者) | % | 目標 | 60.0 | 60.0 | 60.0 | 60.0 | 60.0 |
| 実績 | | | 71.3 | 31.0 | 74.5 | 70.9 | | |
| C | | 目標 実績 | | | | | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 高齢者については民生委員の訪問による登録。登録率から高齢者の災害対策に関する関心度の高さが判断できる。

B 障がい者については郵送による登録依頼。登録率から障がい者の災害対策に関する関心度の高さが判断できる。

C

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 高齢者については、民生委員に避難行動要支援者登録の協力をお願いしているが、なかなか登録率が上がらない。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 平成27年度には目標を達成したものの、毎年登録の更新が必要であり、一度登録した後更新をしない対象者が多いため、目標が達成できていない。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 登録名簿を作成するまではできているが、その後の活用方法について、地域とともに検討をする必要があるが、現状、一部の地区において、一斉防災訓練時における安否確認のみとなっている。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 登録名簿を作成し、地域において災害時のみならず、平常時においても見守りの体制を構築できるよう、地域とともに活用方法を検討する必要がある。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 市民への登録の必要性の周知を行い、登録率を高めていく。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 5年以内に各小学校区で避難行動要支援者名簿を活用した安否確認が実施できるようにする。 |

| | | |
|------|-------------------------|----------------------|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・防災関連事業との連携を図ってください。 |
|------|-------------------------|----------------------|

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 災害救助事業 | | 担当部課 | 福祉部福祉課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 災害救助対策事業 | 予算区分 | 3-4-1 災害救助費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 支援を必要とする高齢者や障がい者に対し、災害時に備え要支援者名簿登録を行っている。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 登録率を高め、支援できる体制作りを進める。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 8,632 1,586 | 8,632 1,514 | 8,357 219 | 8,357 351 | 8,367 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 消耗品費 | | | | | | 312 千円 | |
| (2) 印刷製本費 | | | | | | 39 千円 | |
| (3) | | | | | | 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|-------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 要支援者登録率 (高齢者) | % | 目標 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 |
| | | 実績 | 43.4 | 43.3 | 46.0 | 39.8 | |
| 要支援者登録率 (障がい者) | % | 目標 | 60 | 60 | 60 | 60 | 60 |
| | | 実績 | 71.3 | 31.0 | 74.5 | 70.9 | |

<備考：活動の概要(30年度(2018))>
災害時に支援が必要と考えられる方を対象に、支援を受けるために必要な基礎的な情報を市に登録する。

4. 事務事業を取り巻く環境変化

(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
高齢者については、民生委員に避難行動要支援者登録の協力をお願いしているが、なかなか登録率が上がらない。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況

| | | |
|------------|------------|-------|
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 8,357 千円 | 8,367 千円 | 10 千円 |

(2) 前年度の評価状況《参考》

- 前年度【今後の方向性】 改善・見直し
- 前年度【コメント】

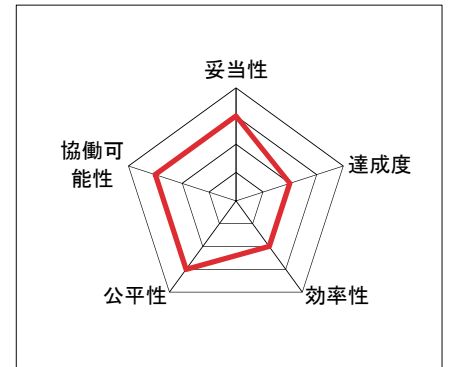
登録データの入力作業期間を短縮し、早い時期に通知できるようにする。

(3) 改善状況

(何をどのような状態に改善したのか)
高齢者、障がい者とも同時期に訪問、通知が行えるよう事務を進める。

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)

| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|----|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |

(2) 協働の状況(30年度(2018))
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)
一斉防災訓練等で、自治会連合会と民生委員が協働し、名簿を活用した訓練が進みつつあるが、人数の把握ができていない。

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
これまで一斉防災訓練時における要支援者への安否確認については、民生委員が実施していたが、平成29年度からは、自治会連合会や自主防災会、社会福祉協議会等、支援団体が名簿を受領し、民生委員とともに安否確認を行った。
平成30年度は、前年度よりも協働して安否確認を行った地域が増えた。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
要支援者の登録率を高めるため、リーフレット等を作成し登録する意味を周知する必要がある。
また、登録事務作業に時間を要しているため、効率的な事務作業を行えるよう検討する必要がある。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| 事業番号 | 064 | 事業名 | 高齢者福祉事業 | | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | | | |
|---|---|---|---|------------------|------------|------------|------------|-----------|--|--|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 一般会計 | | | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | | | | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | 3-1-2 老人福祉費 | | | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | - | | | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | シニアクラブ運営事業費補助金交付要綱、シニアクラブ連合会運営事業費補助金交付要綱、敬老金贈呈要綱、長生学園実行委員会設置要綱、シルバーハウジング生活援助員派遣事業実施要綱 | | | | | | | |
| | 事業開始の背景、経緯等 | 高齢者等の健康の維持や日常生活の助長を図ることで、安心して生活できる環境を整備することを目的とする。 | | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 健康的な日常生活維持を図るため、高齢化や認知症の進行により、心身機能が低下している高齢者等に対し、生活上の福祉サービスの支援を行う。 | | | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市内在住の65歳以上の市民 | | | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けられるようにすること。 | | | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 老人福祉事務事業 | 改善・見直し | ④ 高齢者福祉事業・生涯学習事業 | 改善・見直し | | | | | |
| | ② 敬老事業 | 改善・見直し | ⑤ 高齢者住宅等安心確保事業 | 拡充 | | | | | | |
| | ③ 長生学園事業 | 改善・見直し | ⑥ | | | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | | |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 28,191 | 31,823 | 27,086 | 24,658 | 32,319 | | |
| | | | 決算 | 27,110 | 30,436 | 25,293 | 29,614 | | | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 8,850 | 12,493 | 9,611 | 8,758 | | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 35,960 | 42,929 | 34,904 | 38,372 | | | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | | |
| | A シニアクラブ会員数 | 人 | 目標 | 1,490 | 1,550 | 1,610 | 1,549 | 1,666 | | |
| | | | 実績 | 1,547 | 1,549 | 1,536 | 1,438 | | | |
| | B 長生学園参加者 | 人 | 目標 | 410 | 410 | 400 | 400 | 357 | | |
| | | | 実績 | 391 | 408 | 371 | 337 | | | |
| | C | | 目標 | | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | | | |
| A 平成30年度会員数1,438人+76人(1クラブ平均値)×3クラブ増加見込み=1,666人 | | | | | | | | | | |
| B 平成30年度参加者337人+20人 | | | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 高齢者福祉事業は、近隣市町でも同様のサービスが提供されている。平成31年度から高齢者福祉事業・生涯学習事業を介護保険特別会計の地域支援事業費として整理した。 | | | | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 概ね目標値を達成することができている。着実に高齢者の生活ニーズに必要な福祉サービスの提供ができていく。 | | | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 長生学園事業については、行政の業務を市民で構成する実行委員会に移している。将来的には、事業費を補助金として整理するなど、市民主体の事業となるように取組を進める。 | | | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 急速な高齢化の進行によって、現行の福祉サービスを提供し続けることは、将来的に財源不足になることが予想されるため、介護予防、日常生活支援総合事業との連携や見直しが必要である。 | | | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 高齢者にとって福祉サービスが利用しやすくなるよう、制度の周知、申請方法等の改善に努めていく。 | | | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) サービスの対象要件や事業の統廃合を進めながら、サービスが必要な人にきちんと利用されるように利便性の向上を図る。 | | | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・長生学園の実行委員会の自立を促すとともに、長年行っている事業内容も見直しを検討してください。 ・他課が実施する類似講座等との統合を検討してください。 ・高齢者への入泉券の助成について見直しを検討してください(高齢者優待事業との重複)。 ・敬老事業について、行政サービス公平性の面から見直しを図ってください。 ・長生学園の実行委員会の事務局機能や当日スタッフとしての役割について、事務局の負担軽減(人件費を含む。)となるように見直しを図ってください。 ・生涯学習事業について、他の生涯学習事業(講座)との連携(統廃合など)を検討してください。 ・高齢者優待事業を含め、事業の意図と対象者である高齢者の活動内容を再確認し、各事業の見直しを検討してください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|---------------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 高齢者福祉事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 老人福祉事務事業 | 予算区分 | 3-1-2 老人福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和40年(シニアクラブ) | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 概ね60歳以上の高齢者に対し、自発的に生きがい、健康、居場所づくりのための活動が実践できるように補助金を交付して活動を後方支援している。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 高齢者が要介護状態に成らないように、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしく生活することができるようにしたい。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 19,748 | 18,657 | 16,985 | 14,831 | 25,867 |
| | | 決算 | 18,921 | 18,185 | 15,909 | 19,761 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) コンピュータ賃借料 | | | | | | 4,324 千円 | |
| (2) 老人福祉一般事務賃金 | | | | | | 3,862 千円 | |
| (3) 高齢者等移動支援事業委託 | | | | | | 2,752 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 会員数 | 人 | 見込 | 1,490 | 1,550 | 1,610 | 1,549 | 1,666 |
| | | 実績 | 1,547 | 1,549 | 1,536 | 1,438 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 各単位シニアクラブが、地域の特性に応じた活動(健康事業、スポーツ、清掃、奉仕活動、文化活動、親睦・交流活動、組織運営活動等)を行っている。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

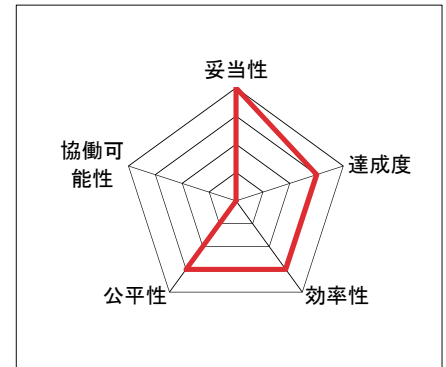
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 今後も高齢者の増加が見込まれ、地域で孤立しないような見守り活動(友愛活動)が望まれている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 14,831 千円 25,867 千円 11,036 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| シニアならではの経験や知識を生かされる公益的な事業展開をシニアクラブが主体となって事業の計画立案から事業の運営まで行うことができるよう行政として後方支援をする。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 平成30年度から活動内容を6つに分類し、多種多様な活動を実施することで補助金が増額される仕組み作りを行い、シニアクラブの活性化に努めた。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市が補助金を交付し、個別のシニアクラブの自主的な方針活動にしたがって取り組む事業であるので、協働して取り組む事業がないため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 定年後も65歳まで働く高齢者が増加してきたことによって、会員となる母数が減少傾向にある。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 補助金を活用して活動を行った結果、どのような取組ができて、どのような効果があったのか明確に評価をしていく必要がある。 申請書類等の簡素化に努めているが、交付申請や実績報告書の内容に不備が多く見受けられる。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|------|------|----------|-------------|---|
| 事業(A票)名 | 高齢者福祉事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 敬老事業 | | 予算区分 | 3-1-2 老人福祉費 | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | | 終了(予定)年度 | — | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市の住民基本台帳に登録されている75歳以上の方 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民自身が高齢社会の現状を認識し、高齢者福祉の推進に一層の理解を深めると共に健康で元気に過ごす意欲を持ってもらう。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 5,802 | 6,731 | 3,564 | 3,448 | 3,402 |
| | | 決算 | 5,491 | 6,213 | 2,800 | 3,376 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 敬老事業入泉券助成金 | | | | | | 1,241 千円 | |
| (2) 敬老金 | | | | | | 1,050 千円 | |
| (3) 敬老事業アトラクション委託 | | | | | | 486 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 入泉券 | 枚 | 見込 | 7,276 | 7,880 | 2,500 | 2,500 | 2,500 |
| | | 実績 | 4,585 | 4,832 | 2,378 | 2,482 | |
| 敬老金贈呈数 | 人 | 見込 | 523 | 623 | 134 | 170 | 172 |
| | | 実績 | 523 | 620 | 134 | 170 | |

<備考：活動の概要(30年度(2018))>
75歳以上にござらっせ入泉券1枚を贈呈。
数え88歳の方に5,000円、数え100歳の方に30,000円を贈呈。
その他、平成30年9月22日(土)に敬老事業催事を実施。参加者453人。

4. 事務事業を取り巻く環境変化

(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)

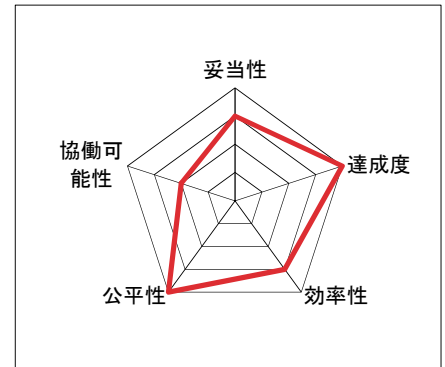
- ・H29年度 入泉券の交付枚数を2枚から1枚に変更
- ・H29年度 敬老金の対象者数を限定(数え75歳から数え100歳までの5歳刻みと100歳以上→数え88歳と数え100歳のみ)

5. 前年度からの改善状況

| |
|------------------------------|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 3,448 千円 3,402 千円 △ 46 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 ※新規行政評価対象 |
| ・前年度【コメント】 |
| S票からの変更のため記載なし。 ※新規行政評価対象 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| S票からの変更のため記載なし。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | 2 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | - | - | - | - |
| 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市が企画・運営を行っていたため。 | | | | |

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)

送迎バスのルートを見直し、ルート数を増やした。結果乗車人数及び催事の参加人数が増えた。
(ルート：4ルート→6ルート、乗車人数：64人→101人)

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)

敬老金贈呈は市が行う必要があるが、催事部分は実行委員会を設置するなどして、少しずつでも移管を行う。
催事当日の来場者案内等を民生委員・児童委員が行っているが、催し物を含め少しずつ市民主体で実施することができるように見直す必要がある。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------|------|----------|-------------|---|
| 事業(A票)名 | 高齢者福祉事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ③ | 長生学園事業 | | 予算区分 | 3-1-2 老人福祉費 | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成3年度 | | 終了(予定)年度 | — | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 対象：概ね60歳以上の方 手段：年1回、目的に応じた事業を実行委員会で企画・運営する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 高齢者が地域で安心して暮らせるよう、自らが進んで地域行事に参加し、高齢者同士のつながりを強化させたい。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 1,723 | 1,961 | 1,912 | 1,912 | 1,912 |
| | | 決算 | 1,783 | 1,810 | 1,967 | 2,022 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 日帰り親睦研修業務委託 | | | | 1,677 | 千円 |
| (2) | | 実行委員謝礼 | | | | 345 | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 長生学園事業参加者 | 人 | 見込 | 410 | 410 | 400 | 400 | 400 |
| | | 実績 | 391 | 408 | 371 | 337 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 年1回、概ね60歳以上の方を対象に長島温泉にバスで日帰り旅行をした。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

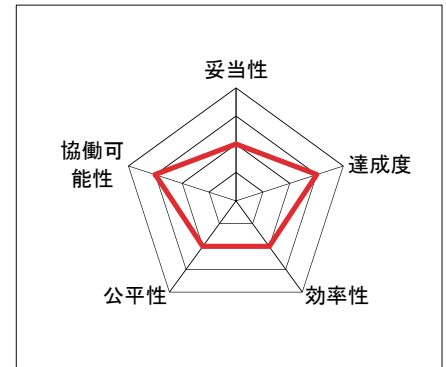
| |
|---------------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 平成25年度より実行委員会形式で事業の企画・運営を行っている。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|------------|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 1,912 千円 | 1,912 千円 | 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 改善・見直し | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| 市民主体の事業として実行委員会が中心となって行っているようにし、シニアクラブ事務局に事務を移管する。 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 今まで市が担っていた事務の一部を実行委員会に移管した。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 2 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 2 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|-----------------------------|----------------|------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 15 | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 15 | 15 | 20 | 20 |
| 実績 | 14 | 13 | 16 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 今まで市が担っていた事務の多くを実行委員会に移管した。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 参加者が限定される傾向があるため、広く参加を呼びかける必要がある。実行委員会形式で事業を行っているが、市の事務局が行う事務が多い。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 市が事務局として行っている事務を、すべて実行委員会へ移管を行う。または補助金交付事業に移行する。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|------------------|--------|-------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 高齢者福祉事業 | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ④ 高齢者福祉事業・生涯学習事業 | 予算区分 | 3-1-2 老人福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成15年度 | | 終了(予定)年度 | — |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】 市内在住かつ住所を有する60歳以上の者（講座開講中に60歳になる者も含む。） 【内容】 福祉の家で高齢者の健康増進、生きがいきづくり及び教養の向上を目的に、年4クール毎の講座を実施する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 高齢者自ら進んで学びの場に参加し、高齢者同士のつながりを強化するための機会を拡充することによって、生きがいきづくり、介護予防、認知症予防につなげる。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | — | 3,483 | 3,534 | 3,346 | — |
| | | 決算 | — | 3,239 | 3,525 | 3,330 | — |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | 一般事務嘱託員報酬 | | | | 1,850 | 千円 |
| (2) | | 生涯学習事業講師謝金 | | | | 1,480 | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|-------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 参加人数 | 人 | 見込 | — | 459 | 373 | 546 | — |
| | | 実績 | — | 381 | 552 | 490 | — |
| 開催講座数 | 講座 | 見込 | — | 25 | 34 | 31 | — |
| | | 実績 | — | 25 | 34 | 31 | — |

<備考：活動の概要（30年度(2018)）>
 高齢者の健康増進、生きがいき作り及び教養の向上を目的に、福祉の家において、年4クールで、ヨガ、エアロビクス、アクアトレーニング等の運動系講座やカラオケ、編み物等の文化系講座を実施する。

4. 事務事業を取り巻く環境変化

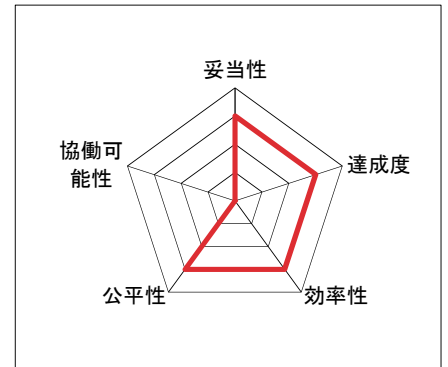
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
 平成27年度までは社協に事業を委託していたが、平成28年度より長寿課が事業を行うこととなった。また、平成30年度よりパソコン講座のみ生涯学習課の事業に移管した。

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|---|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 3,346 千円 | — 千円 | — 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 拡充 | |
| ・前年度【コメント】 | 平成30年度は、複数の課で重複していた講座について整理したため、パソコン講座を生涯学習課に移行した。また、人気のヨガ講座の種類を増やしたり、男性の受講を促す目的で男性限定の運動講座を設定し、運動系講座の拡大を図る。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 生きがいきづくりや趣味活動の活性化と高齢者の健康づくりの活性化を一体的に進めるため、令和元年度から一般会計において行っていた事業を介護保険特別会計の地域いきいき事業に統合した。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数 (人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況 (30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市が企画・運営する講座であるため。 | | | | |

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)

生きがいきづくりや趣味活動の活性化と高齢者の健康づくりの活性化を一体的に進めるため、令和元年度から一般会計において行っていた事業を介護保険特別会計の地域いきいき事業に統合した。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)

市の事務手続の負担が軽減できるよう、効率的な方法を検討したい。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 高齢者福祉事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ⑤ | 高齢者住宅等安心確保事業 | 予算区分 | 3-1-2 老人福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成18年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】 ・ 65歳以上の夫婦世帯 ・ 65歳以上の親族からなる二人世帯 ・ 65歳以上の単身者世帯 【内容】 県営山野田住宅内のシルバーハウジングに居住する者に対し、生活援助員の派遣を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 高齢者の日常生活における不安を軽減し、安心して生活できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 918 | 991 | 1,091 | 1,121 | 1,138 |
| | | 決算 | 915 | 989 | 1,092 | 1,125 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 高齢者住宅生活援助業務委託 | | | | 1,065 | 千円 |
| (2) | | 通信運搬費 | | | | 43 | 千円 |
| (3) | | 光熱水費 | | | | 16 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 利用者数 | 世帯 | 見込 | 24 | 24 | 24 | 24 | 24 |
| | | 実績 | 22 | 24 | 24 | 24 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 県営山野田住宅内のシルバーハウジングに居住する者に対し、生活援助員の派遣を行った。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

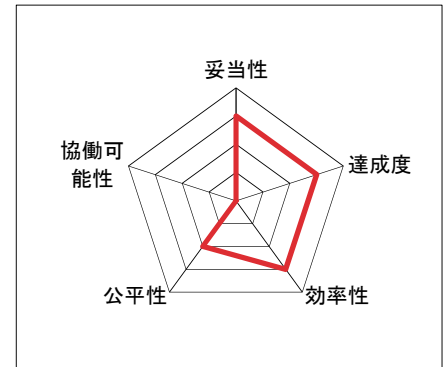
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 入居者の高齢化が進んでおり、日常生活における相談、支援の必要性が高まってきている。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|-----------------------------------|-------------------------------------|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 1,121 千円 | 1,138 千円 | 17 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | 入居者が安心して生活できるように、引き続き相談、支援体制の充実を図る。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 継続的に実施することで、高齢者が安心して生活できる環境を整備した。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 2 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 高齢者住宅への生活援助員派遣事業であり、共同の余地がないため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 生活援助員の派遣により、高齢者が安心して生活することができる。 入居者の高齢化によって、相談内容も複雑化しており、支援の在り方を見直す必要がある。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 入居者の高齢化が進む中、入居者が安心して生活できる環境整備を図るため、引き続き相談、生活援助員の派遣の支援体制の充実を図る。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|-------------|---------------|---|-----------------|------|--------|
| 事業番号 | 065 | 事業名 | 在宅介護支援事業 | 担当部課 | 福祉部長寿課 |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 一般会計 | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 一 項 一 目) | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | 3-1-2 老人福祉費 | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 紙おむつ助成金支給要綱、家族介護慰労金支給事業実施要綱、高齢者等訪問理美容サービス事業実施要綱 | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | | | | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|---|--------|---------------|------|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 加齢や認知症の進行等により、心身機能が低下した高齢者等に対して、生活環境の改善のための支援を行うことで、健康的な日常生活の維持を図る。 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市内在住の満65歳以上の市民 | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 高齢者等が、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるようにする。 | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 紙おむつ助成事業 | 改善・見直し | ④ 家族介護慰労金支給事業 | 休・廃止 |
| | ② 訪問理美容サービス事業 | 改善・見直し | ⑤ | | |
| | ③ 徘徊高齢者等家族支援事業 | 休・廃止 | ⑥ | | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 5,217 | 6,149 | 6,601 | 6,891 | 6,547 |
| | | | 決算 | 6,775 | 6,337 | 6,271 | 6,305 | |
| 人件費(B) | 千円 | 決算 | - | - | - | 1,312 | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | - | - | - | 7,617 | | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------|-------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 紙おむつ助成事業利用者数 | 人 | 目標 | 125 | 130 | 135 | 150 | 155 |
| | | | 実績 | 183 | 162 | 154 | 163 | |
| | B 訪問理美容サービス事業利用者数 | 人 | 目標 | 26 | 28 | 30 | 31 | 35 |
| 実績 | | | 26 | 21 | 22 | 24 | | |
| C | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 前年度実績を基に目標を設定

B 前年度実績を基に目標を設定

C

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町においても同様のサービスが提供されている。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|---|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 概ね目標値であり、着実に高齢者等の生活の支援を行えている。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 事業の利用方法や補助金の支払方法について、利用者及び市の事務手続等の効率的な方法が検討課題となっている。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 今後の急速な高齢化に伴い、現行制度では近い将来に財源不足になることが予測されるため、介護予防・日常生活支援総合事業(新しい総合事業)の導入に伴い事業の見直しが必要と考えられる。 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 支援を必要としている人に確実な支援ができるよう、制度の周知及び利用方法の改善を進める必要がある。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 次期計画期間(2021～2023)を目標に対象要件の見直し、補助事業の統廃合により、交付申請手続の簡易化を図り、利用者の利便性を図る。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・各種事業の受益者負担の割合を見直してください。(所得等に応じて1～3割など幅を持たせる など) |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 在宅介護支援事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 紙おむつ助成事業 | 予算区分 | 3-1-2 老人福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成12年度 | 終了(予定)年度 | - | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | <p>(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)</p> <p>【対象者】常時、紙おむつが必要な次のいずれにも該当する方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要介護2以上の方 ・介護保険施設に入所していない方 ・本人の所得が200万円未満の方 <p>【内容】紙おむつ、尿取りパット、使い捨て手袋等の購入金額の9割、年度上限5万円までを助成する。</p> |
| 意図 | <p>(対象をどのような状態にしたいか)</p> <p>介護者の経済的な負担を軽減し、高齢者等が衛生的な生活を送ることができるようにする。</p> |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|---------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 4,635 | 5,551 | 6,080 | 6,135 | 6,135 |
| | | 決算 | 6,370 | 5,856 | 5,729 | 5,799 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 紙おむつ支給費 | | | | 5,799 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業利用者数 | 人 | 見込 | 125 | 130 | 135 | 150 | 155 |
| | | 実績 | 183 | 162 | 154 | 163 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 高齢者を在宅介護している家族に対し、紙おむつ等の購入にかかる費用の一部を助成した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

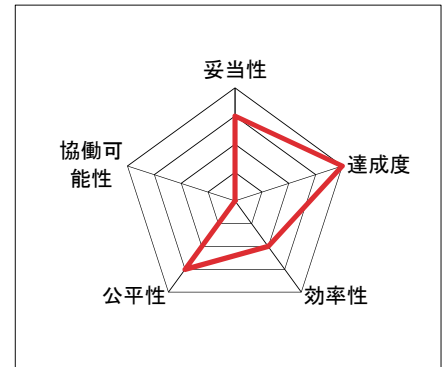
| |
|-----------------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 高齢化に伴い利用者数も安定しており、支給事務の簡略化が求められる。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---|------------|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 6,135 千円 | 6,135 千円 | 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 改善・見直し | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| 事業の利用方法や補助金の支払方法について、利用者、市の事務手続等の負担が軽減できるよう、効率的な方法を検討したい。 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| これまで、年度中に対象外となった利用者への案内を年度末に一斉に行っていたが、H30年度より毎月同作業を行うことにしたため、年度末の事務負担が軽減するとともに利用者目線での改善をすることができた。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市が行う助成事業のため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 目標値を大きく超えていることから、介護者のニーズに対応できており、利用者及び介護者の経済的な負担軽減につながっている。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 引き続き、事業の利用方法や補助金の支払方法について、利用者及び市の事務手続等の負担が軽減できるよう、効率的な方法を検討したい。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|-------------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 在宅介護支援事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 訪問理美容サービス事業 | 予算区分 | 3-1-2 老人福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成12年度 | 終了(予定)年度 | - | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】 ・要介護3以上で、寝たきり状態又は認知症の所定の状態の方 ・身体障害者手帳1級（内部疾患障がい者を除く。）の方 【内容】 1回につき3,000円を上限として助成（年間6回以内） |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 自力で理美容に行くことができない高齢者及び重度身体障がい者（児）が衛生的な生活を送ることができるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|--------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 288 211 | 288 217 | 211 219 | 312 254 | 312 |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | 訪問理美容サービス支給費 | | | | 254 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業利用者数 | 人 | 見込 | 26 | 28 | 30 | 31 | 35 |
| | | 実績 | 26 | 21 | 22 | 24 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| 寝たきり状態の高齢者及び障がい者に対して、在宅理美容サービス費用を1回につき3,000円、年間最大18,000円助成する。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

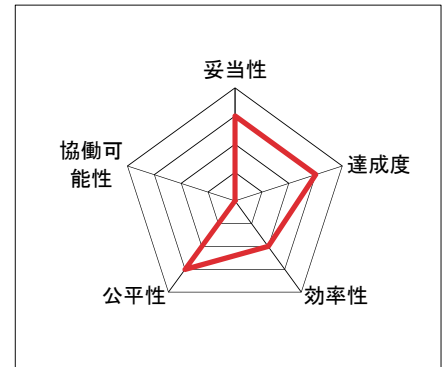
| |
|------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 利用者数は、ほぼ横ばい傾向である。 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 312 千円 312 千円 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| 広報等で周知し、高齢者等の経済的負担を軽減するため、今後も事業を継続する。 交付決定者に対し、請求忘れのないように周知などを検討する。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| これまでは、年度中に対象外となった利用者への案内を年度末に一斉に行っていたが、H30年度より毎月同作業を行うことにしたため、年度末の事務負担が軽減するとともに利用者目線での改善をすることができた。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市が行う助成事業のため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|-------------------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 毎年度、一定の利用があり、利用者及び介護者の負担軽減につながっている。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 事業の利用方法や補助金の支払方法について、利用者及び市の事務手続の負担が軽減できるよう、効率的な方法を検討したい。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|----------------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 在宅介護支援事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ③ | 徘徊高齢者等家族支援事業 | 予算区分 | 3-1-2 老人福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成13年度（2001年度） | 終了（予定）年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | （誰、何に対し、何をどのように実施しているのか） 不意の外出の見られる認知症高齢者や知的障がい者等を介護する家族及び保護者 【内容】 GPS機能のある専用端末を貸し出し、保護の対象者が行方不明になった時の早期発見に役立てる。 |
| 意図 | （対象をどのような状態にしたいか） 不意の外出の見られる認知症高齢者や知的障がい者等を介護する家族及び保護者が安心して介護できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 194 | 210 | 210 | 344 | |
| | | 決算 | 194 | 264 | 323 | 252 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | 徘徊高齢者家族支援事業委託 | | | | 252 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 利用者数 | 人 | 見込 | 4 | 6 | 8 | 4 | |
| | | 実績 | 3 | 5 | 4 | 3 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| GPS機能のある専用端末を認知症高齢者等を介護する家族や保護者に貸し出した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

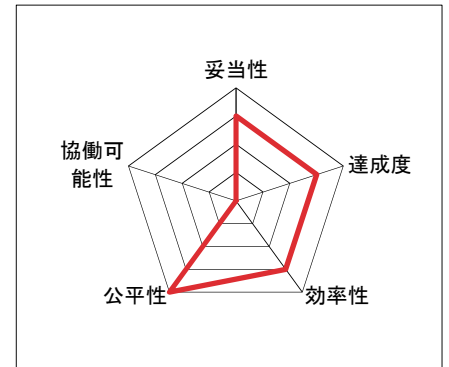
| |
|--|
| （制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など） 地域支援事業の認知症施策の一環として実施するため、平成31年度から介護保険特別会計包括的支援事業へ移行する。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---|---|----------|
| (1) 財政状況 | | |
| （前年度【予算額】） | （今年度【予算額】） | （増減額） |
| 344 千円 | 0 千円 | △ 344 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | 委託先の変更により利便性が向上したため、不意の外出をしてしまう人を見つける方法の1つとして、今後も広報等で周知し、利用促進を図る。 | |
| (3) 改善状況 | （何をどのような状態に改善したのか） | |
| 平成30年度から認知症高齢者家族支援事業として実施。利用者の家族等が自らインターネットを利用して位置検索を行うことが可能となった。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| （協働で取り組んだこと、評価できない理由など） | | | | |
| 保護の対象者へ専用端末を貸し出し検索する事業であり、市民と協働して実施するものではないため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| （活動のエピソード、コメント、特記事項など） |
| 平成30年度から認知症高齢者家族支援事業として実施。利用者の家族等が自らインターネットを利用して位置検索を行うことが可能となった。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| （改善が必要なこと、改善の方法など） |
| 昨今、高齢者にも携帯電話やスマートフォンの普及が進んでおり、位置検索ができる機種も多い。認知症高齢者家族支援事業に本事業を引き継ぎつつも、社会の状況にあわせて、認知症高齢者の家族を支援できる事業を検討していく必要がある。 |

7. 今後の方向性

休・廃止

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|---------------|--------|-------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 在宅介護支援事業 | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ④ 家族介護慰労金支給事業 | 予算区分 | 3-1-2 老人福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成13年度 | | 終了(予定)年度 | — |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】要介護4又は5の高齢者を過去1年以上在宅で介護している家族介護者で、世帯構成員の主たる生計者が市民税非課税者であり、且つ、要介護認定を受けた被保険者が、介護期間において法第40条に規定する介護給付を1年間受給していない方 【内容】年に1回100,000円の慰労金を支給する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護者の精神的かつ経済的負担を軽減する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|---------------------------|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 事業費 | 千円 | 予算 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | 決算 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | | | | | | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|--|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 事業利用者数 | 人 | 見込 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | | 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> 年に1回100,000円の慰労金を支給する。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

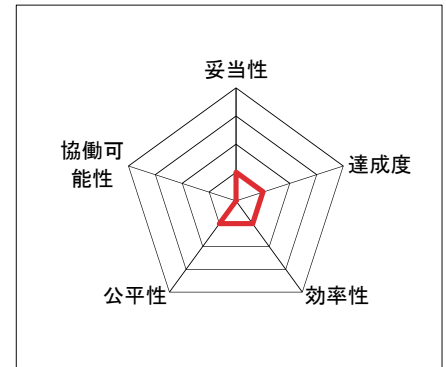
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 介護サービスの多様化、充実により、要介護4以上の方を在宅介護しながら介護サービスを利用しない方は稀で、事業実績がない状況が続いている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|--|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 100 千円 | 100 千円 | 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 改善・見直し | |
| ・前年度【コメント】 | 他市町の状況を参考にしつつ、事業の妥当性を再度見直し、事業廃止も含めた検討が必要である。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 利用者が分かりやすいよう要綱、ホームページ及び福祉ガイドの記載の見直しを行った。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 1 |
| 達成度 | 1 |
| 効率性 | 1 |
| 公平性 | 1 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市が行う支給事業のため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 事業実績なし |

【改善ポイント】

| |
|-------------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 事業実績なしが続いているため、事業廃止とする。 |

7. 今後の方向性

休・廃止

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|---|-----------------------|---|-------------|-------------|-----------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 066 | 事業名 | 高齢者日常生活支援事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | | | 会計区分 | 一般会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | | | 予算区分(款 一 項 一 目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | | | 3-1-2 老人福祉費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 高齢者住宅改修事業補助金交付要綱 | | | | | | |
| | 事業開始の背景、経緯等 | 高齢者の健康的な生活を支援し、日常生活の安全と利便の向上を図ることで、その福祉の増進に資することを目的とする。 | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 加齢や認知症の進行等により、心身機能が低下した高齢者等に対して、生活環境の改善のための支援を行うことで、健康的な日常生活の維持を図る。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市内在住の満65歳以上の市民等 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 高齢者等が、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるようにする。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 緊急通報システム事業 | 改善・見直し | ④ 高齢者防犯対策事業 | 改善・見直し | | | |
| | ② 寝具洗濯乾燥事業 | 改善・見直し | ⑤ 高齢者住宅改修事業 | 改善・見直し | | | | |
| | ③ 家具転倒防止事業 | 拡充 | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 12,552 | 14,159 | 14,036 | 14,584 | 13,466 |
| | | | 決算 | 12,981 | 15,331 | 13,521 | 13,317 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 716 | 3,055 | 3,933 | 2,786 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 13,697 | 18,386 | 17,454 | 16,103 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 事業利用者数 | 人 | 目標 | 230 | 247 | 265 | 290 | 330 |
| | | | 実績 | 270 | 324 | 338 | 327 | |
| | B 補助金支給件数 | 件 | 目標 | 7 | 8 | 10 | 10 | 10 |
| | | | 実績 | 9 | 15 | 8 | 18 | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 長久手市第7次高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画により目標値を設定。 | | | | | | | | |
| B 長久手市第7次高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画により目標値を設定。 | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町においても同様のサービスが提供されている。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 概ね目標値を上回っており、着実に高齢者等の生活支援ができています。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 概ね目標値を上回っており、着実に高齢者等の生活支援ができています。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 今後の急速な高齢化に伴い、現行制度では近い将来に財源不足になることが予測されるため、介護予防・日常生活支援総合事業(新しい総合事業)の導入に伴い事業の見直しが必要と考えられる。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 支援を必要としている人が確実にサービスを利用することができるよう、制度の周知及び利用方法の改善を進める必要がある。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 次期計画期間を目途に対象要件の見直し、補助事業の統廃合により、交付申請手続の簡易化を図り、利用者の利便性を図る。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・各種事業の受益者負担の割合を見直してください。(所得等に応じて1～3割など幅を持たせる など) |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|--------------|-------|-------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 高齢者日常生活支援事業 | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① 緊急通報システム事業 | 予算区分 | 3-1-2 老人福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成8年度 | | 終了(予定)年度 | — |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】65歳以上のひとり暮らしの方、75歳以上の方のみの世帯及び日中又は夜間において長時間に渡り独居状態になる重度身体障がい者 【内容】緊急通報装置を貸出し、請負事業者が定期的に安否確認を行う。緊急時の通報機器に係る費用の9割を助成。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 高齢者等の日常生活における不安を軽減し、安心して生活できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|---|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 事業費 | 千円 | 予算 | 9,548 | 10,248 | 10,210 | 10,210 | 8,984 |
| | | 決算 | 9,498 | 9,907 | 9,753 | 7,585 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> (1) 緊急通報システム業務委託 5,865 千円 (2) 高齢者住宅緊急通報システム業務委託 966 千円 (3) 緊急通報システム保守点検委託 519 千円 | | | | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|--|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 利用者数 | 人 | 見込 | 145 | 155 | 165 | 175 | 185 |
| | | 実績 | 182 | 198 | 204 | 197 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> 緊急通報装置を貸出し、センターによる定期的な安否確認を行う。緊急時の通報機器に係る費用の9割を助成。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

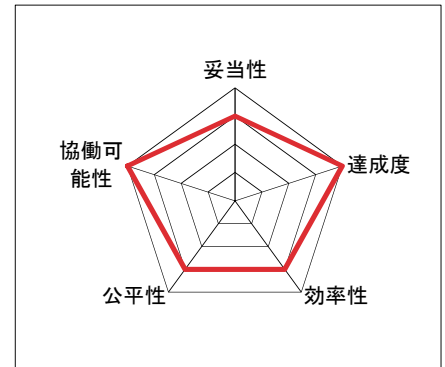
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 高齢化、核家族化によって、日常生活上の不安を軽減し、安心して生活できる環境整備への需要が高まっている。 (高齢者実態把握調査対象世帯2,382世帯【H30年8月1日現在】) |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|------------------------------------|--|------------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 10,210 千円 | 8,984 千円 | △ 1,226 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | 高齢者等が安心して自宅で生活できる環境整備を図るために事業を継続しつつ、本人負担金の納付方法などの改善により利便性を向上する必要がある。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 継続的に実施することで、高齢者等が安心して生活できる環境を整備した。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 4 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | - | - | 406 | 420 |
| 実績 | - | - | 406 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 協力員、民生委員の協力を得て見守りをしている。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 緊急通報装置を貸出し、請負事業者が定期的な安否確認をすることで、ひとり暮らし高齢者等が安心して生活することができる。 |
|--|

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 対象世帯の利用率が低く、十分な周知がなされていない。高齢者等が安心して自宅で生活できる環境を整備するために事業を継続しつつ、本人負担金の納付方法などの改善により利便性を向上する必要がある。 |
|--|

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|-------------|----------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 高齢者日常生活支援事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 寝具洗濯乾燥事業 | 予算区分 | 3-1-2 老人福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和62年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】65歳以上で要介護3以上の寝たきり状態又は認知症の方、65歳以上のひとり暮らしの方、75歳以上の方のみの世帯及び身体障がい者手帳1～2級の方 【内容】寝具洗濯乾燥費用の9割を助成 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 高齢者等が、衛生的で快適な生活を送ることができるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 551 | 551 | 551 | 997 | 1,053 |
| | | 決算 | 528 | 841 | 1,033 | 925 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 寝具洗濯乾燥事業委託 | | | | 925 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 利用者数 | 人 | 見込 | 55 | 57 | 60 | 80 | 110 |
| | | 実績 | 68 | 100 | 111 | 107 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 寝具洗濯乾燥費用の9割を助成 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

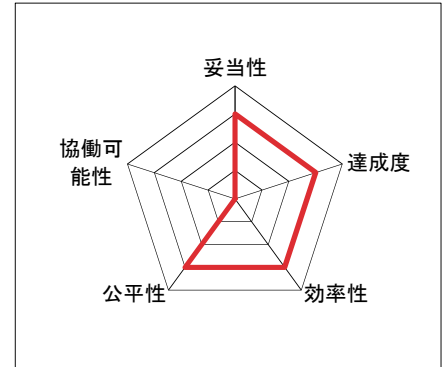
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 高齢化に伴い利用者数が増えてきており、行政負担を含めた制度の在り方の見直しが求められる。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 997 千円 1,053 千円 56 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 高齢者等が自立して快適な生活を送れるよう、今後も事業を継続しながら、事業内容や対象者の要件などを検討していくことが必要である。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 継続的に実施することで、高齢者の衛生的な環境を整備した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) 高齢者への支援サービスであるため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 平成28年度以降に大幅な利用者の増加があり、事業の認知度が上がったと考えられる。 |
|--|

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 高齢者等が自立して快適な生活を送れるよう、今後も事業を継続しながら、事業内容や対象者の要件などを検討していくことが必要である。 |
|---|

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|-------------|----------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 高齢者日常生活支援事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ③ | 家具転倒防止事業 | 予算区分 | 3-1-2 老人福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成17年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) |
| | 【対象者】 ・65歳以上のひとり暮らしの方 ・75歳以上の方のみの世帯 ・身体障害者手帳2級以上の方 ・要介護3以上の方 【内容】 家具転倒防止器具設置費用の9割を助成する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 高齢者等が安心して生活できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 146 | 153 | 153 | 153 | 156 |
| | | 決算 | 102 | 136 | 63 | 81 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | 家具転倒防止事業委託 | | | | 81 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 利用件数 | 件 | 見込 | 10 | 13 | 15 | 20 | 20 |
| | | 実績 | 12 | 11 | 5 | 11 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| 65歳以上のひとり暮らし高齢者や後期高齢者世帯宅などのタンスや書棚等に、家具転倒防止器具を設置し、その費用の9割を助成する。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

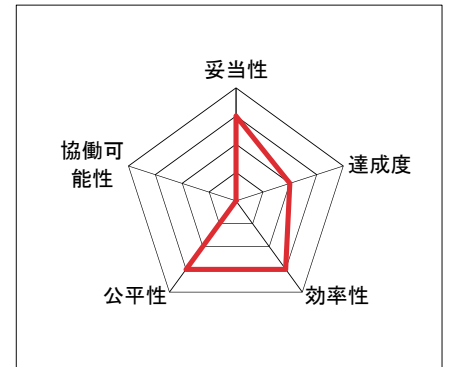
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 平成30年6月の大阪府北部地震、平成30年9月の北海道胆振東部地震により、防災に対する意識が高まり、申請件数が増加した。 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 153 千円 156 千円 3 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| サービスの利用を促すための周知方法や更なる取付器具の種類の拡大について取り組む。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 取り付ける器具の種類の制限をなくし、家電も対象とした。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数 (人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況 (30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 高齢者への支援サービスであるため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 実際の取付工事費の1割のみの負担で、地震に対応できる固定金具の取付を行うことができる。大地震が発生すると防災に対する意識が向上し、利用者が増加するが、時間の経過と共に意識が低下して申請件数も減少する。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| サービスの利用を促すための周知方法や、対象家具及び取付器具の拡大について取り組む。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|-------------|--------|-------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 高齢者日常生活支援事業 | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ④ 高齢者防犯対策事業 | 予算区分 | 3-1-2 老人福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成17年度 | | 終了(予定)年度 | — |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】 ・65歳以上のひとり暮らしの方 ・75歳以上の方のみの世帯 【内容】 玄関前等にセンサーライトを取り付ける費用を9割助成する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 高齢者宅の侵入盗等を予防することで、安心して生活することができるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 207 | 207 | 122 | 224 | 273 |
| | | 決算 | 121 | 224 | 273 | 175 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 高齢者防犯対策事業委託 | | | | 175 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 利用件数 | 件 | 見込 | 20 | 22 | 25 | 15 | 15 |
| | | 実績 | 8 | 15 | 18 | 12 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 65歳以上のひとり暮らしや後期高齢者世帯の玄関前などに、1世帯に1回限り、センサーライト1個を設置する。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

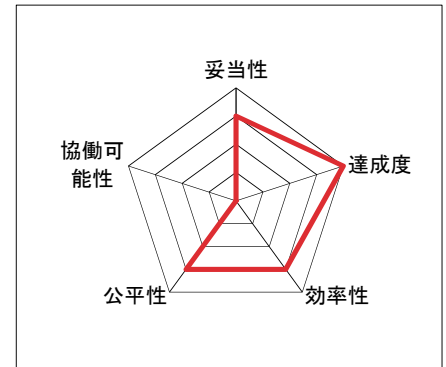
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 高齢化、核家族化の進行によって、防犯対策による安心・安全な住環境の需要が高まっている。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|----------------------------|---|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 224 千円 | 273 千円 | 49 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 改善・見直し | |
| ・前年度【コメント】 | 事業の利用を促すため周知方法を改善するとともに、事業内容についても、センサーライト以外の防犯対策も視野に入れ見直す必要がある。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 近隣市町の動向を含め、改善方法について検討中である。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 高齢者への支援サービスであるため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 取付工事費の1割の負担で、センサーライトの取付を行うことができる。年度によって利用者の増減があるため、更なる事業の周知が必要である。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 事業内容について、センサーライト以外の防犯対策も視野に入れ見直す必要がある。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

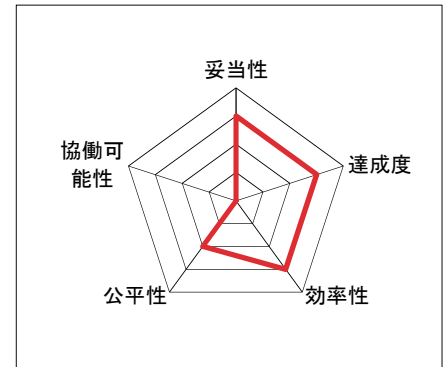
| | | | | | |
|---------|-------------|--------|-------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 高齢者日常生活支援事業 | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ⑤ 高齢者住宅改修事業 | 予算区分 | 3-1-2 老人福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成16年度 | | 終了(予定)年度 | — |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】次のいずれにも該当する方 ・65歳以上の方 ・改修する住宅に住居登録されている方 ・市民税非課税世帯 【内容】手すりの取付、段差解消等の住宅改修費用を30万円を限度に補助する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 高齢者が、バリアフリーの環境の中で快適な生活を送ることができる。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 2 |
| 協働可能性 | — |



2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 31年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 2,100 | 3,000 | 3,000 | 3,000 | 3,000 |
| | | 決算 | 2,732 | 4,223 | 2,399 | 4,551 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> (1) 高齢者住宅改修事業補助金 4,551 千円 (2) 千円 (3) 千円 | | | | | | | |

【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 31年度 (2019) |
| 見込 | / | / | / | / |
| 実績 | / | / | / | / |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 高齢者への支援サービスであるため | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 31年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 補助金支給件数 | 件 | 見込 | 7 | 8 | 10 | 10 | 10 |
| | | 実績 | 9 | 15 | 8 | 18 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> 手すりの取付、段差解消等の住宅改修費用を30万円を限度に全額補助する。 | | | | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 近年は、当初予算額を大幅に上回る申請があり、高齢化による住宅改修の必要性が高まっている。 1件当たりの補助額が大きく、申請件数の増加に伴う財政負担が大きくなっている。 |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

| |
|-------------------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 高齢化、核家族化によって、住宅をバリアフリー化する需要が高まっている。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 高齢者が住み慣れた自宅で生活できるように、今後も事業継続しながら、財源確保や支給条件の見直しなどをしていく。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|------------|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 3,000 千円 | 3,000 千円 | 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| 高齢者が住み慣れた自宅で生活できるように、今後も継続しながら、財源確保や支給条件の見直しをしていく。 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 平成29年度からガス調理器を「日常生活用具給付事業」の対象である電磁調理器へ変更することも当該事業の対象とし、利用者にとって利用しやすい制度に見直した。 | | |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| 事業番号 | 067 | 事業名 | 高齢者優待事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | | |
|------------------------------|--|---|---------|------------|-------------|-----------------|------------|-----------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | | | 会計区分 | 一般会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | | | | 予算区分(款 一 項 一 目) | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | | | 3-1-2 老人福祉費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市高齢者文化施設優待事業実施要綱、あつたかあど交付要綱、長久手市高齢者外出促進事業実施要綱 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 市内の施設や公共交通機関の利用を優待補助し、高齢者の外出を促すことで社会的視野を広めるとともに生きがいを得られるよう事業を開始した。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 高齢者に対し、福祉の家や市内の文化施設、公共交通機関の利用について全額又は一部を助成する。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市内在住の満65歳以上の市民 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 高齢者の外出機会を増やし、社会参加を促すことで健康寿命の延伸や地域内交流を活性化させる。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 高齢者文化施設優待事業 | 改善・見直し | ④ | | | | |
| | ② あつたかあど事業 | 拡充 | ⑤ | | | | | |
| | ③ 高齢者外出促進事業 | 改善・見直し | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 6,492 | 9,070 | 9,975 | 10,799 | 9,105 |
| | | | 決算 | 6,032 | 8,382 | 8,824 | 9,164 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 3,397 | 2,452 | 2,611 | 1,340 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 9,429 | 10,834 | 11,435 | 10,504 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 文化施設優待事業利用者数 | 人 | 目標 | 980 | 1,020 | 1,060 | 1,100 | 1,100 |
| | | | 実績 | 1,255 | 1,034 | 1,251 | 1,065 | |
| | B 福祉浴優待利用人数 | 人 | 目標 | 5,250 | 5,450 | 5,650 | 5,650 | 5,650 |
| | | | 実績 | 4,640 | 4,658 | 4,536 | 4,179 | |
| | C リニモ利用券交付枚数 | 枚 | 目標 | 3,580 | 3,750 | 3,850 | 3,950 | 5,100 |
| | | | 実績 | 4,151 | 5,015 | 4,693 | 5,087 | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 前年度実績を元に目標を設定 | | | | | | | | |
| B 前年度実績を元に目標を設定 | | | | | | | | |
| C 前年度実績を元に目標を設定 | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 名古屋市の敬老パス、尾張旭市の高齢者タクシー基本料金助成等、高齢者の外出負担の補助を行う制度が中心である。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 福祉浴の利用は横ばいかやや減少傾向であるが、文化施設優待とリニモ利用券交付の指標は目標値を達成しており、高齢者等の外出の機会は、概ね確保できていると考えられる。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 実績値はほぼ横ばい状況であるが、高齢者等の外出の機会は、概ね確保できていると考えられる。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 過去3年間の実績値も頭打ち又は減少しているため、閉じこもっている人の外出を促す改善等が必要。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 外出のための経済的な支援だけでなく、外出するための機会や目的の創出を行う。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 一方的な優待事業ではなく、自ら外出したくなる仕組みづくり、市民協働による輸送手段の確保等を検討したい。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・高齢者福祉事業を含め、事業の意図と対象者である高齢者の活動内容を再確認し、各事業の見直しを検討してください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|-------------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 高齢者優待事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 高齢者文化施設優待事業 | 予算区分 | 3-1-2 老人福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成8年度 | 終了(予定)年度 | - | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) |
| | 【対象者】 満65歳以上の市民 【内容】 年度内に名都美術館3回及びトヨタ博物館1回無料で入館することができる。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 高齢者の文化活動への関心を高めることで、外出してもらう。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 551 707 | 562 572 | 610 712 | 601 598 | 640 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 文化施設利用助成金 | | | | 598 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 利用者数 | 人 | 見込 | 980 | 1,020 | 1,060 | 1,100 | 1,100 |
| | | 実績 | 1,255 | 1,034 | 1,251 | 1,065 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 名都美術館入館者：862人(517千円) トヨタ博物館入館者：203人(80千円) | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

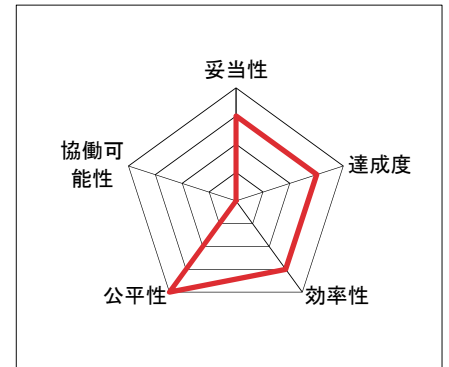
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 孤立化する高齢者の増加に伴い、高齢者の外出機会の創出、居場所づくりは喫緊の課題である。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|-------------------------------------|----------------------------|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 601 千円 | 640 千円 | 39 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 改善・見直し | |
| ・前年度【コメント】 | あったかあど優待事業への編入などの見直しを検討する。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 申請場所が長寿課のみであったが、福祉の家でも申請できるように変更した。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市が行う高齢者への優待事業であるため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 申請場所を長寿課窓口の他に福祉の家の窓口でもできるように改善したことで、概ね目標どおりの利用件数があり、高齢者の外出のきっかけづくりとなっている。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 利用者が一部の方に偏る傾向があり、多くの方が利用できるよう事業内容の見直しが必要である。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|------------|--------|-------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 高齢者優待事業 | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② あったかあど事業 | 予算区分 | 3-1-2 老人福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成14年度 | | 終了(予定)年度 | - |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】 満65歳以上の市民 【内容】 ござらっせの優待料金(700円→400円)による利用、福祉浴室・歩行浴室の利用及びN-バスの無料乗車ができる。 ※年間10回は、福祉の家の福祉浴室及び歩行浴室が無料 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 高齢者の外出の機会を増やし、社会参加を促すことで地域との交流を盛んにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 2,518 | 2,518 | 3,195 | 3,327 | 3,521 |
| | | 決算 | 3,021 | 3,391 | 3,581 | 3,525 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 健康増進事業助成金 | | | | | 3,525 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 福祉浴優待利用人数 | 人 | 見込 | 5,250 | 5,450 | 5,650 | 5,650 | 5,650 |
| | | 実績 | 4,640 | 4,658 | 4,536 | 4,179 | |
| カード発行枚数 | 枚 | 見込 | 785 | 815 | 845 | 875 | 900 |
| | | 実績 | 2,250 | 1,485 | 1,206 | 1,110 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 62店舗を訪問し、あったかあど協賛店に加入してもらえるように、協力を依頼した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

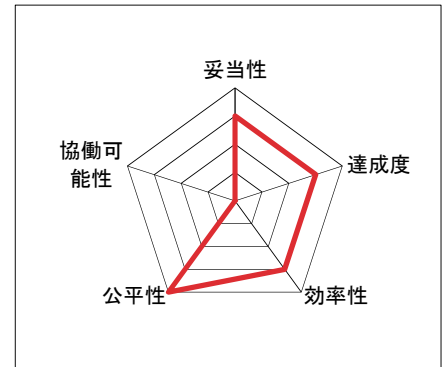
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 孤立化する高齢者の増加に伴い、高齢者の外出機会の創出、居場所づくりは喫緊の課題である。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|------------------------------------|--|--------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 3,327 千円 | 3,521 千円 | 194 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | 外出を促進し、つながりの強化、社会への参加機会の拡充を図るため、高齢者が興味を持って外出したくなるような、赤あったかあど協賛店の店舗拡大を検討し、今後も事業を継続する。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 外出促進の機会を増やすため、赤あったかあど協賛店の店舗拡大を行った。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市が行う高齢者への優待事業であるため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) あったかあどの発行枚数は、目標を大きく上回っており、利用が定着してきている。しかし、あったかあど保有のメリットが少ないため、利用方法の拡大等の検討が必要である。 |
|--|

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 外出を促進し、高齢者同士のつながりの強化、社会への参加機会の拡充を図るため、高齢者が興味を持って外出したくなるような赤あったかあど協賛店の店舗拡大を目指す。 |
|--|

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|-----------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 高齢者優待事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ③ | 高齢者外出促進事業 | 予算区分 | 3-1-2 老人福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成20年度 | 終了(予定)年度 | - | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】 満65歳以上の市民 【内容】 年度に1回マナカチャージ券(1,000円分)を交付する。 運転免許証自主返納者に1回限りのマナカチャージ券(5,000円分)を交付する。 |
| | (対象をどのような状態にしたいか) 意図 高齢者の外出の機会を増やす。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 3,423 | 5,990 | 6,170 | 6,871 | 4,944 |
| | | 決算 | 2,304 | 4,419 | 4,531 | 5,041 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 高齢者外出促進事業委託 | | | | | | 4,911 千円 | |
| (2) 印刷製本費 | | | | | | 130 千円 | |
| (3) | | | | | | 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 交付枚数 | 枚 | 見込 | 3,580 | 3,750 | 3,850 | 3,950 | 5,100 |
| | | 実績 | 4,151 | 5,015 | 4,693 | 5,087 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> 年度内に1回マナカチャージ券(1,000円分)を4,502枚交付。 運転免許証自主返納者に1回限りマナカチャージ券(1,000円分×5枚)を585枚(60代14人、70代45人、80代54人、90代4人)交付。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

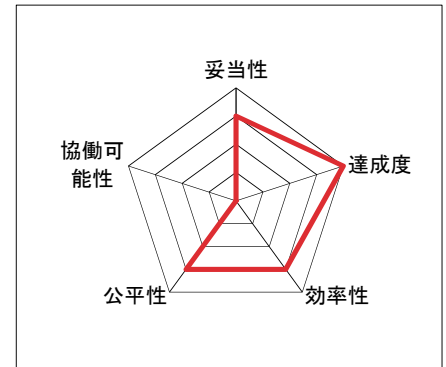
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 公共交通機関の乗車券のIC化が進み、リコモでもマナカが利用できるようになった。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 6,871 千円 4,944 千円 △ 1,927 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 高齢者外出促進事業のほか、あったかぁど事業及び高齢者文化施設優待事業においても外出促進を視野に事業改善を行い、高齢者の外出の機会を増やしていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 継続的に実施することで、高齢者の外出支援を行った。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) 市が行う高齢者への優待事業であるため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) リコモカードからマナカチャージ券に変更したことにより、名鉄バス、名古屋市営地下鉄等、利用できる公共交通機関が増えた。 運転免許証の自主返納日の属する年度で申請が必要としたため、返納時期による申請期間の猶予に不公平感が生じた。 |
|---|

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 運転免許証を返納した日から1年間、マナカチャージ券(5,000円)を交付できるようにした。 また、高齢者外出促進事業のほか、あったかぁど事業及び高齢者文化施設優待事業においても事業改善を行い、高齢者の外出の機会を増やしていく。 |
|--|

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|--------------------------------------|---|--|---------|------------|-----------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 068 | 事業名 | 老人憩の家事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | | | 会計区分 | 一般会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | | | 予算区分(款 一 項 一 目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | | | 3-1-2 老人福祉費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市老人憩の家の設置及び管理に関する条例 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 地域の高齢者の交流、憩いの場を設置し、高齢者の心身の健康の増進を図るため老人憩の家を設置した。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 地域の高齢者の交流、憩いの場として、適切な環境整備、運営管理を行う。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市内在住の満60歳以上の市民 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 施設を広く活用してもらうことで地域での交流を深めてもらう。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 老人憩の家管理事業 | 改善・見直し | ④ | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 2,412 | 2,265 | 2,286 | 2,228 | 2,105 |
| | | | 決算 | 2,067 | 1,770 | 1,798 | 1,674 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 671 | 764 | 805 | 585 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 2,738 | 2,534 | 2,603 | 2,259 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 施設利用者数 | 人 | 目標 | 4,500 | 6,000 | 6,400 | 7,000 | 7,500 |
| | | | 実績 | 6,013 | 6,408 | 7,177 | 7,602 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 市内の老人憩の家(7施設)の利用者数。(前年度実績を元に目標を設定) | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町においても同様の施設を設置している。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 目標値を達成しており、高齢者の交流、憩いの場として活用されている。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 地域によって施設の利用率に差異があるが、高齢者の交流、憩いの場として活用されている。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 地域によって施設の利用率に差異があり、高齢者だけでなく地域の多世代の交流の場としての活用を検討していく必要がある。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 地域サロン等の地域活動の拠点として、高齢者だけでなく、地域の多世代の交流の場としての活用を検討していく必要がある。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いっごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 多世代交流の場として利用が始まっている施設もあり、今後、5年間で同様の取組を他の施設においても行われるようにしたい。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--------------------|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・施設の有効活用を検討してください。 |
|------|-------------------------|--------------------|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|-----------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 老人憩の家事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 老人憩の家管理事業 | 予算区分 | 3-1-2 老人福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和54年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】 満60歳以上の市民 【内容】 地域の高齢者の交流及び憩いの場所として、適切な環境整備、運営管理を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 施設を幅広い用途で活用してもらうことで、地域での交流を深めてもらう。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 2,412 | 2,265 | 2,286 | 2,228 | 2,105 |
| | | 決算 | 2,067 | 1,770 | 1,798 | 1,674 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 光熱水費 | | | | | | 563 千円 | |
| (2) 老人憩の家管理委託 | | | | | | 490 千円 | |
| (3) 放送受信料 | | | | | | 270 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------|----|----|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 施設利用者数 | 人 | 見込 | 4,500 | 6,000 | 6,500 | 7,000 | 7,500 |
| | | 実績 | 6,013 | 6,408 | 7,177 | 7,602 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 【各施設の年間利用者数】 | | | 楓老人憩の家：1,458人 色金老人憩の家：376人 菫老人憩の家：2,169人 老人憩の家永和荘：940人 | | | | |
| | | | 睦老人憩の家：682人 老人憩の家椿荘：1,092人 老人憩の家さつき荘：885人 | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

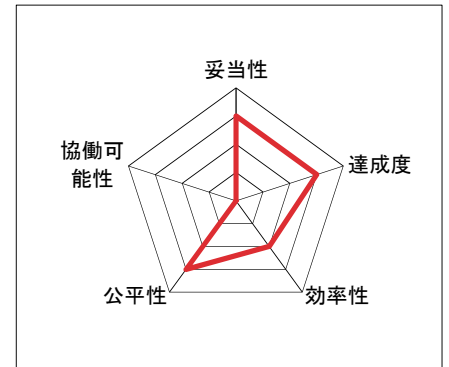
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
まちづくり協議会、地区社協の設立等、地域における世代を超えた繋がり、取組が広がっており、老人憩の家も多世代が利用、交流できる活用が求められている。

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|--|----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 2,228 千円 | 2,105 千円 | △ 123 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | 施設利用の対象を高齢者だけではなく、地域の交流の場として、多世代が多様な目的に利用できるようにする。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 利便性を高めるため、網戸の設置や、物置の設置を行った。また、サークルやサロン、市の事業を開催し、交流の場として活用できるようにした。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 施設管理委託事業のため。 | | | | |

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
シニアクラブがクロリティ(輪投げ)に取り組んでおり、各施設で実施した。保育園児を招待しての体験交流会を実施した施設もある。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
施設利用の対象を高齢者だけではなく、地域の交流の場として、多世代が多様な目的に利用できるようにする。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | | |
|-------------|--|---|----------|--|--|------------|--------------|-----------|--|
| 事業番号 | 069 | 事業名 | 介護職員確保事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | — | | | 会計区分 | 一般会計 | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守 | | | 予算区分(款 一 項 一 目) | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | | | 3-1-2 老人福祉費 | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市潜在的有資格者等再就業促進事業実施要綱、長久手市介護職員初任者研修等受講料助成金交付要綱 | | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 市内の介護サービス事業所における介護人材不足は喫緊の課題であり、将来にわたって介護の必要な人が安心してサービスを受けられるよう介護人材を量と質の両面から確保していくことが必要であるため、必要な事業を実施する。 | | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 将来にわたって介護の必要な人が安心してサービスを受けられるよう、介護サービス事業所で働く介護人材を量と質の両面から確保する | | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 介護の仕事に興味のある方 | | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市内介護サービス事業所への就職を促進する | | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 介護職員確保事業 | 拡充 | ④ | | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 決算 | | | 500 22 | 1,850 310 | 1,850 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | | | 2,014 | 1,987 | | |
| | 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | | | 2,036 | 2,297 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | |
| | A 介護人材確保数 | 人 | 目標 実績 | | | 5 4 | 5 5 | 5 | |
| | B | | 目標 実績 | | | | | | |
| | C | | 目標 実績 | | | | | | |
| | 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| | A | 市内の介護サービス事業所等への就職者数 | | | | | | | |
| B | | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 今後高齢者が急速に増えることに伴い、介護人材の確保がより一層重要となる | | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 概ね達成されている | | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 概ね計画どおり事業実施できている | | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 利用が低調であるため、より多くの利用者が見込め人材確保につながるような新規事業の実施が必要 | | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 介護人材のすそ野の拡大に向けて、より多くの方が介護を知る機会とするとともに、介護分野で働く際の不安を払拭できるように多様な人材の確保につなげるため、介護未経験者でも受講しやすい研修等を新たに実施する | | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 団塊の世代が75歳以上となる2025年までに必要な介護人材を確保する | | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|------------|--------|-------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 介護職員確保事業 | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① 介護職員確保事業 | 予算区分 | 3-1-2 老人福祉費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成29年度 | | 終了(予定)年度 | — |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | （誰、何に対し、何をどのように実施しているのか） 介護の仕事に興味のある方を対象に、①介護職員初任者研修の市内実施②子育て等で離職した有資格者や、介護職に興味がある方を対象に、介護事業所で2～5日間の体験研修を実施③介護職員初任者研修及び実務者研修を修了後、市内の介護事業所もしくは障がい事業所へ新たに就職した方を対象に、研修受講料を全額支給。 |
| 意図 | （対象をどのような状態にしたいか） 市内介護サービス事業所への就職を促進する |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | | | 500 22 | 1,850 310 | 1,850 |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) 介護職員初任者研修等受講料助成金 | | | | | | 264 千円 | |
| (2) 手数料 | | | | | | 40 千円 | |
| (3) 潜在的有資格者等実技研修業務委託 | | | | | | 6 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|-----------------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 介護職員初任者研修実施回数 | 回 | 見込 実績 | | | 1 1 | 1 1 | 1 |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| ・介護職員初任者研修を事業者と市の共催により市内(福祉の家)で実施 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

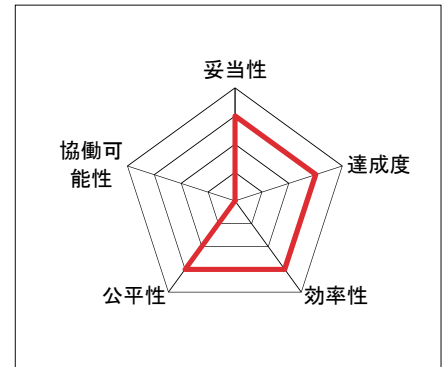
| |
|---|
| （制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など） 今後高齢者が急速に増えることに伴い、介護人材の確保がより一層重要となる |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|------------|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 1,850 千円 | 1,850 千円 | 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | ※新規行政評価対象 | |
| ・前年度【コメント】 | — | |
| (3) 改善状況 | | |
| （何をどのような状態に改善したのか） | | |
| — | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| （協働で取り組んだこと、評価できない理由など） | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| （活動のエピソード、コメント、特記事項など） 利用は低調ではあるものの利用後介護サービス事業所等への就職につながる割合は高く、コストも低いため、今後も継続的に事業を実施し介護人材を確保していくことが重要である |
|---|

【改善ポイント】

| |
|---|
| （改善が必要なこと、改善の方法など） 利用が低調であるため、より多くの利用者が見込め人材確保につながるような新規事業の実施が必要 |
|---|

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|------------------------------|--|---|---------|------------|-----------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 070 | 事業名 | 福祉の家事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | | | 会計区分 | 一般会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | | | 予算区分(款 一 項 一 目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | | | 3-1-8 福祉の家施設費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 福祉の家条例 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 福祉の家は開館して15年が経過し、施設を取り巻く状況は急激に変化しており、この変化に対応し、より効果的・効率的に施設の設置目的を達成するため、運営・管理方法の見直しを行う必要が生じている。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 公民連携を活用した施設の改修、運営方法を含めた施設の利活用の更なる推進を図る。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 福祉の家 福祉エリア | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護予防、健康増進の拠点施設として、幅広い利用者の交流の場として利用される施設とする。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 福祉の家管理事業 | 改善・見直し | ④ | | | | |
| | ② 福祉の家整備事業 | 拡充 | ⑤ | | | | | |
| | ③ | | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 294,849 | 321,808 | 278,254 | 239,680 | 223,531 |
| | | | 決算 | 259,785 | 307,801 | 254,370 | 228,310 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 5,333 | 5,340 | 2,756 | 12,008 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 265,118 | 313,141 | 257,126 | 240,318 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 福祉浴室、歩行浴室利用者数 | 人 | 目標 | 14,500 | 14,700 | 14,900 | 15,100 | 15,800 |
| | | | 実績 | 14,721 | 16,407 | 16,497 | 15,733 | |
| | B 貸室利用者数 | 人 | 目標 | 27,000 | 28,000 | 29,000 | 30,000 | 30,000 |
| | | | 実績 | 27,248 | 27,770 | 37,870 | 28,785 | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 前年度実績を元に目標を設定 | | | | | | | | |
| B 前年度実績を元に目標を設定 | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・公民連携による整備事例(福岡県福岡市東区、岡山県岡山市) ・行政100%出資による運営事例(愛知県東郷町) | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 大規模修繕工事に向けた調査業務を実施した。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 開館して16年が経過し、維持修繕だけでは限界が来ている。施設を取り巻く環境の変化に対応し、より効果的・効率的な運営方法等の見直しが必要である。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 福祉エリアも含めた指定管理区域の再編等の再整備事業だけでなく、老朽化や更新時期を迎える機械設備の修繕、改修についても同時に実施していくことが必要である。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 福祉の家の再整備及び大規模修繕工事の実施に向けた、実施計画を今年度中に作成し、実施設計についても今年度中の着手を目標とする。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 開館から20年程度で施設全体の再整備及び大規模修繕工事を完了させる。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 福祉の家事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 福祉の家管理事業 | 予算区分 | 3-1-8 福祉の家施設費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成14年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民の福祉の向上並びに健康の維持及び増進を図るとともに、市内外の広域的な交流を促進するため、福祉の家を運営する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護予防、健康増進の拠点施設と位置づけ、幅広い利用者の交流の場として利用される施設とする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 294,849 259,785 | 229,793 215,286 | 256,078 235,246 | 227,980 219,112 | 214,772 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 光熱水費 | | | | | 95,096 千円 |
| (2) | | 施設管理業務委託 | | | | | 72,521 千円 |
| (3) | | 福祉の家維持修繕工事 | | | | | 16,309 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 福祉浴室、歩行 浴室利用者数 | 人 | 見込 | 14,500 | 14,700 | 14,900 | 15,100 | 15,800 |
| | | 実績 | 14,721 | 16,407 | 16,497 | 15,733 | |
| 貸室利用者数 | 人 | 見込 | 27,000 | 28,000 | 29,000 | 30,000 | 30,000 |
| | | 実績 | 27,248 | 27,770 | 30,870 | 28,785 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 施設を維持するために適切な管理及び修繕を行った。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

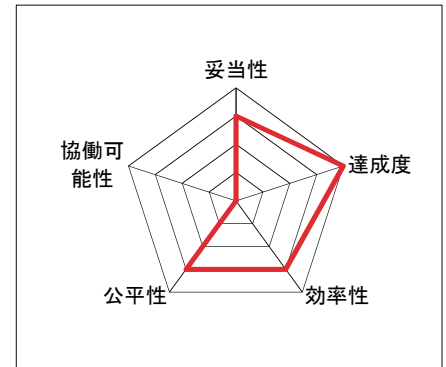
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 様々なニーズに対応するため、貸室は、時間貸しから時間貸しに変更した。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|-----------------------------------|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 227,980 千円 214,772 千円 △ 13,208 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 ※新規行政評価対象 |
| ・前年度【コメント】 |
| 新規のためなし |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 貸室の利用方法を、時間貸しから時間貸しに変更した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 施設の管理事業であるため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 福祉の家は開館して16年が経過し、施設を取り巻く状況は急激に変化しており、この変化に対応し、より効果的・効率的に施設の設置目的を達成するため、運営・管理方法の見直しを行う必要が生じている。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 温泉エリアだけでなく、福祉エリアも含めた指定管理区域の検討を進める。また、老朽化や更新時期を迎える機械設備の大規模修繕が喫緊の課題となっている。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|------------|--------|---------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 福祉の家事業 | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② 福祉の家整備事業 | 予算区分 | 3-1-8 福祉の家施設費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成28年度 | | 終了(予定)年度 | — |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民の福祉の向上並びに健康の維持及び増進を図るとともに、市内外の広域的な交流を促進するため、福祉の家を運営する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 開館して16年が経過したことから、施設を取り巻く状況は急激に変化している。より効果的・効率的に施設の設置目的を達成するため、運営・管理方法の見直す再整備を行う |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|---------------------------|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 事業費 | 千円 | 予算 | — | 92,015 | 22,176 | 11,700 | 8,759 |
| | | 決算 | — | 92,515 | 19,124 | 9,198 | |
| ＜備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| (1) 福祉の家大規模修繕工事調査業務委託 | | | | | 9,198 | 千円 | |
| (2) | | | | | | 千円 | |
| (3) | | | | | | 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|--|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 調査業務 | 件 | 見込 | — | — | — | 1 | 1 |
| | | 実績 | — | — | — | 1 | 1 |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| ＜備考：活動の概要（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| 施設全般の修繕について専門家の視点から現況調査を行って総合的に改修内容を洗い出し、修繕計画の立案及び修繕に掛かる概算費用を算出した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

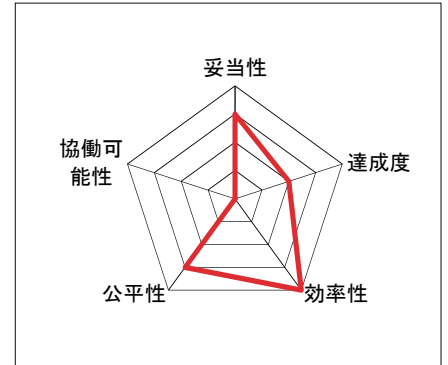
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣では、温浴施設のオープンやリニューアルがあり、温泉施設の利用者数に影響がある。瀬戸大府東海線の延伸が決まっており、それに合わせた再整備を進める。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|------------|------------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 11,700 千円 | 8,759 千円 | △ 2,941 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | ※新規行政評価対象 | |
| ・前年度【コメント】 | 新規のためなし | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 施設全般の修繕について専門家の視点から現況調査を行って総合的に修繕内容を洗い出し、修繕計画の立案及び修繕に掛かる概算費用を算出した。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 施設の整備事業であるため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 16年が経過したことで、福祉の家の利用形態にも変化が生じている。当初のコンセプトから利用方法が変わってきている部分は、将来を見据えた利用形態に見直していく必要がある。 |
|---|

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 福祉の家は、開館してから16年が経過した。温泉設備及び空調設備については、突発的な故障に対応することができない状況が危惧されており、大規模修繕が喫緊の課題となっている。 |
|--|

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|---|---|---|-------------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 071 - | 事業名 | ファミリーサポートセンター運営事業 | 担当部課 | 子ども部子ども家庭課 | | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 一般会計 | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 子どもが元気に育つまち | 3-2-1 児童福祉総務費 | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | ✓ | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 子ども・子育て支援法 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 平成17年度から、次世代育成支援法(当時)に基づき、地域において育児の援助を行いたい者(援助会員)と援助を受けたい者(依頼会員)との相互援助活動として開始した事業 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 地域において育児の援助を行いたい者(援助会員)と援助を受けたい者(依頼会員)の会員登録を行い(両方の登録がある者(両方会員))、保育所への送迎など相互援助活動の橋渡しを行う。また、援助会員向けのフォローアップ研修や会員同士の交流を図り、活動のサポートを行う。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 小学生までの子どもを育てている家庭の保護者 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 仕事と育児を両立し、安心して子育てができる環境をつくる。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① ファミリーサポートセンター運営事業 | 改善・見直し | ④ | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 3,877 | 4,104 | 4,021 | 4,264 | 4,625 |
| | | | 決算 | 3,702 | 3,820 | 3,682 | 4,152 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 5,270 | 5,900 | 7,139 | 7,992 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 8,972 | 9,720 | 10,821 | 12,144 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 活動件数/依頼件数 | % | 目標 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | 実績 | 100 | 100 | 100 | 100 | |
| | B 援助・両方会員数 | 人 | 目標 | - | - | 220 | 220 | 220 |
| | | | 実績 | - | 215(参考) | 217 | 230 | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 事業の目標を達成するためには、援助会員と依頼会員のマッチングが必要である。 | | | | | | | | |
| B 相互援助活動の効果として、依頼会員の立場から、援助・両方会員への登録に繋げていくことが必要である。 | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣の実施市町: 瀬戸市、尾張旭市、日進市、豊明市、東郷町 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 現行どおり実施していく。平成30年度までの成果指標における目標は概ね達成できている。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 概ね計画どおりに遂行できている。交流会等で会員からの声はきいている。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 今後も、ファミリーサポートセンター事業に対するニーズは継続していくものと考えられるため、相互援助活動の体制構築に努めていく。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 「援助・両方会員数」の獲得に注力していくとともに、「援助会員」との相互理解の場の提供に努めていく。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 引き続き必要な援助を継続できるよう、利用者ニーズに対応できる体制を構築していきたい。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|---------------------|--------|---------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | ファミリーサポートセンター運営事業 | 担当部課 | 子ども部子ども家庭課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① ファミリーサポートセンター運営事業 | 予算区分 | 3-2-1 児童福祉総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成17年度 | | 終了(予定)年度 | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 小学生までの子どもを育てている保護者のうち、子育ての援助を受けたい人に対して支援を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 仕事と育児を両立させ、安心して子育てができる環境をつくる。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|--|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 事業費 | 千円 | 予算 | 3,877 | 4,104 | 4,021 | 4,264 | 4,625 |
| | | 決算 | 3,702 | 3,820 | 3,682 | 4,152 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> (1) ファミリーサポート事業アドバイザー賃金 3,426 千円 (2) 消耗品費 103 千円 (3) 損害保険料 322 千円 | | | | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|---|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 依頼件数 | 件 | 見込 | 3,565 | 3,572 | 3,581 | 3,592 | 3,598 |
| | | 実績 | 3,617 | 3,362 | 2,785 | 2,862 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> ・会員の募集、登録その他の会員組織事務 ・相互援助活動の調整・把握等 ・会員に対して相互援助に必要な知識を付与する講習会の開催 ・会員の交流を深め、情報交換の場を提供するための交流会の開催 → 講習会や交流会等を合計で9回実施 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

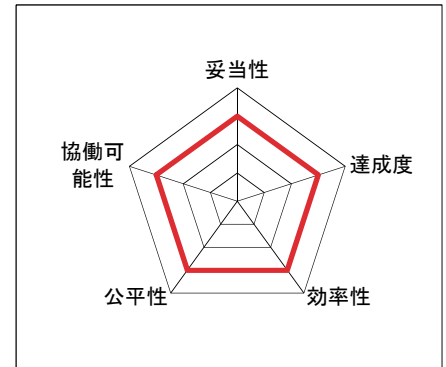
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 依頼件数は減少傾向だが、土曜保育の時間延長等、他の子育て支援施策の拡充によるものである。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---|---|--------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 4,264 千円 | 4,625 千円 | 361 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | 小学校6年生の児童を持つ依頼会員について、今後、退会が予想されることから、これらの者に対して、新たに「援助・両方会員」登録を依頼していく。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 小学校6年生の児童を持つ依頼会員について、新たに「援助・両方会員」として活動ができるよう、会員登録講習会への参加を促した。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数 (人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況 (30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) ・援助会員と依頼会員のマッチングを100%達成できている。引き続き「援助・両方会員」の確保に努めていく。 |
|--|

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 子育て支援センターの講習会と連携した取組を行うなど、「依頼会員」と「援助・両方会員」との相互理解を深めるための取組を推進することで、相互援助活動の質の向上を図っていく。 |
|--|

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|-------------|--|----------------------------------|-----------------|------|------------|
| 事業番号 | 072 | 事業名 | 子育て支援センター運営事業 | 担当部課 | 子ども部子ども家庭課 |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 一般会計 | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 一 項 一 目) | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 子どもが元気に育つまち | 3-2-1 児童福祉総務費 | | |
| | 法定受託事務の有無 | ✓ | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 子ども・子育て支援法 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 平成20年度から、次世代育成支援法(当時)に基づき、子育て親子の交流の場の提供、子育て等に関する相談・援助を行うものとして開始した事業。 | | | | |

| | | | | | | |
|-------|-----------------|--|--------|---|--|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 子育て親子の交流の場の提供、子育て等に関する相談・援助の実施、地域の子育て関連情報の提供、子育てに関する講習会等の実施。 | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市内の子ども及び子育て中の保護者 | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 子育て環境の孤立化を防ぎ、虐待のない健やかな環境で子育てができること。 | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 子育て支援センター運営事業 | 改善・見直し | ④ | | |
| | | ② | | ⑤ | | |
| | | ③ | | ⑥ | | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | 千円 | 決算 | 予算 | 2,883 | 3,001 | 2,555 | 3,071 |
| 決算 | | | | 3,113 | 3,384 | 2,662 | 3,095 | |
| 人件費(B) | 千円 | 決算 | | 3,112 | 4,294 | 5,450 | 5,416 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | | 6,225 | 7,678 | 8,112 | 8,511 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | |
|---|-------------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|--------|
| | A 市内の子ども及び子育て中の保護者の来館者数 | 人 | 目標 | | 23,000 | 24,960 | 24,960 | 24,960 | 24,960 |
| | | | 実績 | | 20,259 | 24,673 | 20,065 | 18,793 | |
| | B | | 目標 | | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | | |
| C | | 目標 | | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | | |
| A 前年度実施からの増加（平成28年度からは、子ども・子育て支援事業計画の数値に変更） | | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣の実施市町：瀬戸市、尾張旭市、日進市、豊明市、東郷町 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 目標達成はできていないが、来館者数に対して定員超過を理由に制限を行ったことはなく、全ての来館者の受け入れはできている。なお、来館者が平成28年度に比べて減少しているのは、各種講座について児童館で実施する等、アウトリーチを進めているためである。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 概ね計画どおりに遂行はできている。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 今後も、子育て支援センター運営事業に対する一定のニーズは継続していくものと考えられるため、引き続き事業の拡充に努める。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 今後も引き続き、利用者が参加しやすい環境づくりに努めていくとともに、利用者ニーズに合ったプログラムの改善等に取り組んでいく。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 本市では引き続き児童数が増加傾向にあることから、こうした状況に対応できる体制を構築していきたい。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|---------------|---------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 子育て支援センター運営事業 | | 担当部課 | 子ども部子ども家庭課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 子育て支援センター運営事業 | 予算区分 | 3-2-1 児童福祉総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成20年度 | 終了(予定)年度 | | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市内の子育て中の親子に対し、子育て支援センターを運営することで、子育て親子の交流の場の提供と交流の促進を図る。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 子育て中の保護者を安心して子育てができるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 948 | 3,001 | 2,555 | 3,071 | 3,096 |
| | | 決算 | 1,185 | 3,384 | 2,662 | 3,095 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 一般事務嘱託員報酬 | | | | | | 2,540 | 千円 |
| (2) 消耗品費 | | | | | | 229 | 千円 |
| (3) 清掃委託 | | | | | | 86 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 来館者数 | 人 | 見込 | 23,000 | 24,960 | 24,960 | 24,960 | 24,960 |
| | | 実績 | 20,259 | 24,673 | 20,065 | 18,793 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進に関する事務 子育て等に関する相談、援助の実施に関する事務 地域の子育て関連情報の提供に関する事務 子育て及び子育て支援に関する講習会等の実施に関する事務 → リズム遊びや育児講座等を合計で38回実施 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

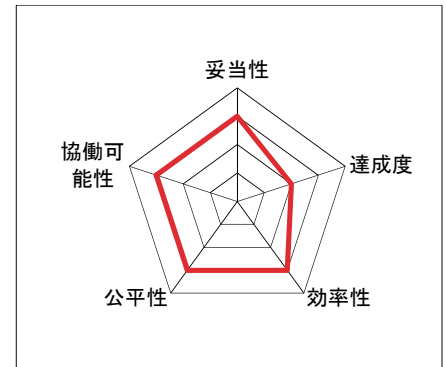
| |
|--------------------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 子育て支援ニーズに対する身近な地域での支援体制の構築が必要となっている。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---|--|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 3,071 千円 | 3,096 千円 | 25 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 改善・見直し | |
| ・前年度【コメント】 | 講習会の見直しを継続していくとともに、ファミリーサポートセンター運営事業における会員同士の交流の場の提供の取組とも連携を図ることで、地域の子育て環境の向上に取り組んでいく。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 引き続き、地域に出向いての事業実施を意識していくとともに、施設内で実施している事業についても、より魅力的なプログラムとなるよう改善を図り、利用者ニーズに沿った内容としていく。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 利用者ニーズを捉え、事業内容について質の向上を図ることができている。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 講習会の見直しを継続していくとともに、ファミリーサポートセンター運営事業における会員同士の交流の場の提供の取組とも連携を図ることで、地域の子育て環境の向上に取り組んでいく。 |
| (※ 平成29年度の来館者数の減少は、地域での事業実施に伴うもの) |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|-------------|--|----------------------------------|-----------------|------|------------|
| 事業番号 | 073 - | 事業名 | 放課後児童クラブ事業 | 担当部課 | 子ども部子ども未来課 |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 一般会計 | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 子どもが元気に育つまち | 3-2-1 児童福祉総務費 | | |
| | 法定受託事務の有無 | - | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市児童クラブ運営要綱 | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 児童福祉法の規定に基づき、保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している子どもたちに対し、授業の終了後に小学校や児童館等を利用して適切な遊び及び生活の場を提供して、その健全な育成を図る。 | | | | |

| | | | | | | |
|-------|-----------------|--|----|---|--|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 放課後に、保護者が就労等により留守になる家庭の児童を保護者に替わって預かる。 児童クラブ7箇所(長久手南、下山、長久手、東、東2、市が洞、西) 学童保育所4箇所(長久手、長久手長南、長久手北、市が洞) | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 児童クラブ 市内に住所を有する小学校1年生から6年生までの児童 学童保育所 市内に住所を有する小学校1年生から6年生までの児童 | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 入所要件を満たす児童をすべて受け入れる。 | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 放課後児童クラブ運営事業 | 拡充 | ④ | | |
| | ② 放課後児童クラブ整備事業 | 拡充 | ⑤ | | | |
| | ③ | | ⑥ | | | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | 千円 | 決算 | 予算 | 62,629 | 72,218 | 112,332 | 287,619 |
| 決算 | | | | 56,410 | 89,667 | 119,416 | 276,673 | |
| 人件費(B) | 千円 | 決算 | | 9,777 | 7,485 | 9,012 | 12,473 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | | 66,187 | 97,152 | 128,428 | 289,146 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------------------------------|--------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 児童クラブ加入希望者の受入れ割合 | % | 実績 | 目標 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 実績 | | | | 85.8 | 84.7 | 81.0 | 86.9 | |
| B 学童保育所加入希望者の受入れ割合 | % | 実績 | 目標 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100 |
| | | | 実績 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | |
| C | | 実績 | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A (児童クラブにおいての) 入所児童数/申込者数 | | | | | | | | |
| B (学童保育所においての) 入所児童数/申込者数 | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成27年度に施行された、子ども・子育て新制度では、放課後児童クラブも対象事業の1つとされており、質・量ともに充実を図っていくこととしている。 近隣の実施市町:尾張旭市、日進市、豊明市、東郷町 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 児童クラブ入所希望者数増加のため、緊急的な措置として、定員を超えた受入れを行った後、さらに運営に支障がない範囲で、再度追加で入会承諾をした(南、下山)。また、東小学校区では、既存の児童クラブではこれ以上の受入れ人数の拡充は難しいため、過去に児童クラブを開設していた上郷児童館内で、第2児童クラブを開設した。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 平成27年度に策定した子ども・子育て支援事業計画に基づき、児童クラブ及び学童保育所の整備等を行うことにより、実施箇所は5年間で2カ所開所し、定員数は307人拡充した。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 今後も、児童数の増加が続く中、児童クラブや学童保育所に対するニーズは高まると考えられるため、引き続き、放課後の子どもの居場所づくりに努める。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 「長久手市 子ども・子育て支援事業計画」に基づき、放課後の子どもの居場所づくりに努める。 国によって示された「放課後子ども総合プラン」に基づき、放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体型に努めることとし、南小学校(平成30年度)と北小学校(平成31年度)において、実現を目指す。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 児童クラブ及び学童保育所、放課後子ども教室とは運営の形態として類似性があり、保護者の就労状況やニーズも時代とともに変化してきているものと認識しており、これらの事業の新たな形態について、次期総合計画や子ども子育て支援事業計画を策定する中で検討していく必要があると考えている。 |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・児童クラブ及び放課後子ども教室の一体型を引き続き図ってください。 ・運営面の民間活用について、研究・検討してください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | | |
|---------|------------|----------------------------|--|------|------------|---------------|---|
| 事業(A票)名 | 放課後児童クラブ事業 | | | 担当部課 | 子ども部子ども未来課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 放課後児童クラブ運営事業 | | | 予算区分 | 3-2-1 児童福祉総務費 | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 児童クラブ：平成10年 学童保育所：昭和57年 | | | 終了（予定）年度 | — | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 放課後に、保護者が就労等により留守になる家庭の児童を保護者に替わって預かる。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 放課後の児童を健全に育成する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 62,629 | 72,218 | 103,772 | 113,869 | 149,165 |
| | | 決算 | 56,410 | 89,667 | 111,280 | 122,424 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) 児童クラブ事業委託 | | | 67,055 千円 | | | | |
| (2) 児童クラブ指導補助員賃金 | | | 25,568 千円 | | | | |
| (3) 児童厚生施設指導嘱託員報酬 | | | 18,925 千円 | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 児童クラブ参加人数 | 人 | 見込 | 300 | 340 | 360 | 360 | 509 |
| | | 実績 | 297 | 321 | 359 | 412 | |
| 学童保育所参加人数 | 人 | 見込 | 290 | 290 | 330 | 330 | 370 |
| | | 実績 | 215 | 266 | 300 | 334 | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| ・児童クラブ：【定員】南50人、下山59人、長久手80人、市が洞70人、東60人、東240人、西40人 【受入数】412人 ・学童保育所：【定員】長久手69人、長南71人、北70人、市が洞120人 【受入数】334人 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

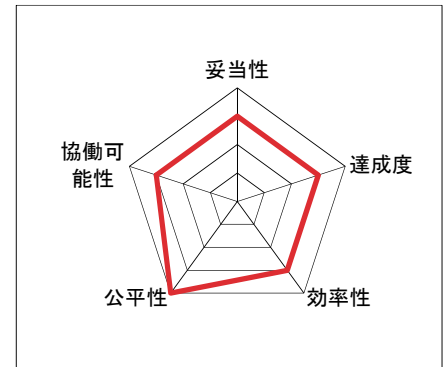
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 「長久手市 子ども・子育て支援事業計画」に基づき、平成31年度までに全小学校に放課後子ども教室を開室すると共に、うち半数で放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体型を実現することとしている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 113,869 千円 149,165 千円 35,296 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 待機児童の解消に向けた取組みについて、児童クラブは、毎日、定員全ての児童が参加する訳ではないため、過去の参加状況と当年度の受入れ体制から、運用に支障がない範囲で受入れ人数を増やすことにより、待機児童の解消を図る。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 児童クラブ入所希望者数増加のため、定員を超えた受入れを行った後、さらに運営に支障がない範囲で、再度追加で入会承諾をした（南、下山）。また、東小学校区では、過去に児童クラブを開設していた上郷児童館内で、第2児童クラブを開設した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 地域との協議により、児童館に隣接する集会場内で児童クラブを実施することができた。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 南児童クラブにおいて、夏休みに利用児童数が多くなったため、南児童館に隣接する長配・菖蒲池集会場を借用することにより、児童が安全に過ごすことができた。 |
|--|

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 待機児童の解消に向けた取組みとして、今後整備を予定している、北児童館及び上郷児童館内にも児童クラブ室を設置することにより児童クラブの受入れ定員を拡充することを見込んでいます。 |
|---|

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 拡充 |
|----|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------|----------------------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 放課後児童クラブ事業 | | 担当部課 | 子ども部子ども未来課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 放課後児童クラブ整備事業 | 予算区分 | 3-2-1 児童福祉総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 児童クラブ：平成10年 学童保育所：昭和57年 | 終了（予定）年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 長久手市子ども・子育て支援事業計画に基づき、放課後の児童の居場所を確保する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 放課後の児童の居場所を拡充する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | | | 8,560 | 173,750 | 0 |
| | | 決算 | | | 8,136 | 154,249 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) 放課後クラブ棟工事 | | | | | | 129,517 千円 | |
| (2) 消耗品費 | | | | | | 5,643 千円 | |
| (3) 放課後クラブ棟工事監理委託 | | | | | | 5,143 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 児童クラブの整備箇所数 | 箇所 | 見込 | - | - | 1 | 2 | 2 |
| | | 実績 | - | - | 1 | 2 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 南小学校多目的棟 構造：木造2階建て 延床面積：395.02㎡ 北小学校多目的棟 構造：木造2階建て 延床面積：434.74㎡ | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

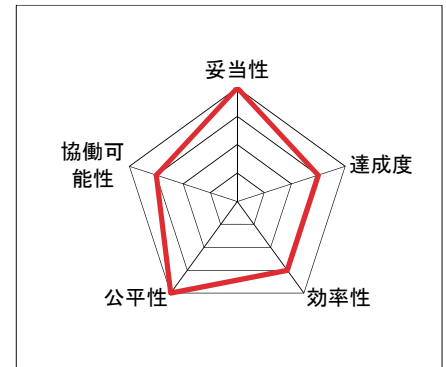
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 「長久手市 子ども・子育て支援事業計画」に基づき、平成31年度までに全小学校に放課後子ども教室を開室すると共に、うち半数で放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体型を実現することとしている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 173,750 千円 0 千円 △ 173,750 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 児童クラブと放課後子ども教室との一体型の実施については、南小学校（平成30年1月～）と北小学校（平成31年4月～）において、実現を目指す。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 南小学校及び北小学区ににおいて一体型の整備工事を実施したことにより、受入れ定員を合わせて110人拡充することができた。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
|------------------------|

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 待機児童の解消に向けた取組みとして、今後整備を予定している、北児童館及び上郷児童館内にも児童クラブ室を設置することにより児童クラブの受入れ定員を拡充することを見込んでいる。 |
|--|

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-------|-----|-----------|------|------------|
| 事業番号 | 074 - | 事業名 | 上郷保育園改築事業 | 担当部課 | 子ども部子ども未来課 |
|------|-------|-----|-----------|------|------------|

| | | | | |
|-------------|---|----------------------------------|-----------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 子どもが元気に育つまち | 3-2-5 保育園費 | |
| | 法定受託事務の有無 | - | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 老朽化が進んでいる上郷保育園について、平成26年3月に策定した「長久手市立保育所改築整備方針」に基づき整備を実施するもの。 | | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|---|----|---|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 現農村環境改善センター多目的広場(グラウンド)において、上郷保育園、上郷児童館(児童クラブ含む)及び児童発達支援センター(すぐのご教室含む)の一体的な整備を行う。 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 児童及びその保護者 | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 安心して子育てができる環境を整備する。 | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 上郷保育園改築事業 | 拡充 | ④ | |
| | | ② | | ⑤ | |
| | | ③ | | ⑥ | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | - | - | - | 71,364 |
| 決算 | | | | - | - | 1,372 | 6,761 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | - | - | - | 7,869 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | - | - | - | 14,630 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------------------------------|----------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 整備進捗状況 | | % | 目標 | | | 100 | 100 |
| 実績 | | | | | | 100 | | |
| B | | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| C | | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A (整備工事進捗率)実施値/目標値 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町においても保育所と障がい児施設とを一体的に整備している事例があるため、参考としたい。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 基本設計業務及び実施設計業務に着手した。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 平成29年度に整備の基本構想策定し、構想を基に平成30年度当初に公募型プロポーザルにて設計業者を選定した。今年度は、基本設計と市民ワークショップを同時に実施したが、意見の反映、検討に時間を要したため実施設計工期を繰越した。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 工事を2か年の継続費としており、予定どおり工事を遂行するため、来年度の工事に向けた準備を継続して実施する。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 「第6次総合計画」に基づき、順次保育所の改築を進めます。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 令和2年4月に保育園を開園し、翌年4月に児童発達支援センター、児童館の開所を目指す。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|-------------|--------|------------|----------|-------|
| 事業(A票)名 | 上郷保育園改築事業 | 担当部課 | 子ども部子ども未来課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① 上郷保育園改築事業 | 予算区分 | 3-2-5 保育園費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成29年度 | | 終了(予定)年度 | 令和3年度 |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 保護者が就労等により留守になる家庭の児童を保護者に替わって保育をする。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 安心して子育てができる環境を整備する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----------|----------------|----------------|----------------|-----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | | | - 1,372 | 71,364 6,761 | 679,529 |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> (1) 補償調査・用地測量業務委託 3,809 千円 (2) 上郷保育園等改築地質調査委託 1,350 千円 (3) 上郷保育園等改築測量委託 952 千円 | | | | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 設計 | 千円 | 見込 実績 | | | | | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> 基本設計業務及び実施設計業務に着手した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

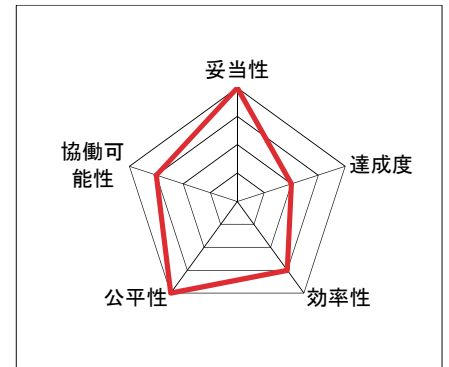
| |
|------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
|------------------------|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|------------|------------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 71,364 千円 | 679,529 千円 | 608,165 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | ※新規行政評価対象 | |
| ・前年度【コメント】 | - | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数 (人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況 (30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
|------------------------|

【改善ポイント】

| |
|--------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
|--------------------|

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|-------------|---|----------------------------------|-------------------------|------|------------|
| 事業番号 | 075 | 事業名 | 子育てコンシェルジュ設置事業(利用者支援事業) | 担当部課 | 子ども部子ども未来課 |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 一般会計 | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 一 項 一 目) | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 子どもが元気に育つまち | 3-2-5 保育園費 | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 子ども子育て支援法、子ども・子育て支援事業計画 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 切れ目のない子育て支援の充実に向け、子ども及びその保護者等、または妊娠している方が教育・保育施設や地域の子育て支援事業等を円滑に利用できるよう、情報収集と提供を行い、必要に応じて相談・助言等を行うとともに、関係機関との連絡調整等を実施し、支援を行う。 | | | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|--|----|---|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 子育て支援課窓口利用者支援専門員(子育てコンシェルジュ)を配置し、保育施設や子育てに関するサービスの利用などの情報提供、相談業務を行います。 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 子どもとその保護者などの子育て世代 | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 教育・保育施設や子育て支援事業を円滑に利用できるようにする。 | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 子育てコンシェルジュ設置事業 | 拡充 | ④ | |
| | | ② | | ⑤ | |
| | | ③ | | ⑥ | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | 千円 | | 予算 | — | 1,900 | 2,224 | 2,276 |
| 決算 | | | | — | 1,471 | 2,224 | 2,268 | |
| 人件費(B) | 千円 | | 決算 | — | | | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | | 決算 | — | 1,471 | 2,224 | 2,268 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------|------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A のべ相談受付件数 | 件 | 目標 | — | 80 | 120 | 600 | 600 |
| | | | 実績 | — | 70 | 622 | 615 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| C | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 子育てコンシェルジュ1人による対応のため、平成31年度の目標は平成30年度と同様とし、月50人×12月と設定した。

B

C

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 子ども・子育て支援交付金を活用した事業 愛知県内の実施市町: 瀬戸市、津島市、刈谷市、安城市、犬山市、大府市、高浜市、岩倉市 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 平成28年8月から事業を開始し、幼児教室や母子手帳の交付時など、アウトリーチも実施することにより、子育てコンシェルジュを指名した相談も増えており、事業が認知されていると感じる。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 認可外保育施設など、市内にある市の認可ではない保育施設について、市として施設の情報をあまり把握していないため、子育て世代に保育状況などが説明できるよう情報共有を図りたい。 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 保育園に入所できなかった子どもの状況把握や認可外保育施設等の保育施設に関する保護者への情報提供等のフォローについて、今後充実を図る。また、案内する認可外保育施設等の情報について、事業者と協力して施設の状況確認を行い保護者の希望にあうよう案内していきたい。 |
| | 中長期の目標 | (いっごうまでに事業をどのような状態にしたいか) 保育需要の増加により、認可保育園のみではなく、地域型保育事業や認可外保育事業など様々な保育の受け皿が増えているため、より保護者の希望に合う施設を案内できるよう、地域の施設との連携を高めていく。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|-------------------------|--------|------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 子育てコンシェルジュ設置事業(利用者支援事業) | 担当部課 | 子ども部子ども未来課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① 子育てコンシェルジュ設置事業 | 予算区分 | 3-2-5 保育園費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成28年度 | | 終了(予定)年度 | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 子育て支援課窓口を利用者支援相談員(子育てコンシェルジュ)を設置し、子育て中もしくはこれから子育てを考えている方の相談に応じます。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 保育を中心とした施設や子育て支援サービスの利用に関する相談を受け付け、ニーズとサービスを結びつけていきます。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | — | 1,900 | 2,224 | 2,276 | 2,276 |
| | | 決算 | — | 1,471 | 2,224 | 2,268 | |
| ＜備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))＞ | | | | | | | |
| (1) | | 一般事務嘱託員報酬 | | | | 2,268 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| のべ相談受付件数 | 件 | 見込 | — | 80 | 120 | 600 | 600 |
| | | 実績 | — | 70 | 622 | 615 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| ＜備考：活動の概要(30年度(2018))＞ | | | | | | | |
| 平成30年度相談者数 | | | | | | | |
| 市役所窓口 170人 | | | | | | | |
| 保育園、保健センター等 157人 | | | | | | | |
| 電話等 288人 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

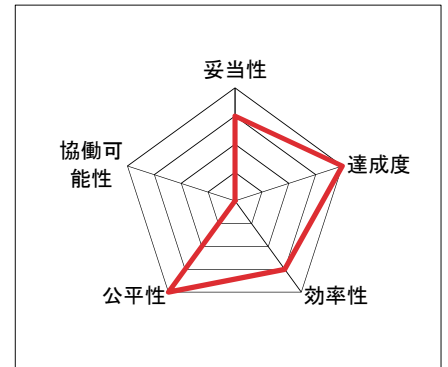
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 教育・保育の無償化が平成31年10月から開始されるため、本市の保育に関する入園案内の変更点に関する検討が必要となる。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|---|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 2,276 千円 | 2,276 千円 | 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 拡充 | |
| ・前年度【コメント】 | 保育園に入所できなかった子どもの保護者等への情報提供などのアフターフォロー業務や、子どもを持つ保護者の相談に応じるため、アウトリーチでの相談支援の充実を図りたい。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 母子手帳の一斉配布や保育園の園庭開放、児童館の幼児教室など幼児とその保護者が集まる場所に子育てコンシェルジュが参加し、保育に関する質問等に対応できる回数を増やした。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 平成30年度より児童館の幼児教室へも出向き、保育施設以外での相談支援の場を新たに設けました。 |
|--|

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 子育て支援課の窓口が基本的な相談場所であり、一般的な質問等による窓口対応が多くなり、保育所に入所できなかった者へのアフターフォローの実施がしっかりとできていない。 |
|---|

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|--|---|--|-----------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 076 - | 事業名 | 児童館利用促進事業 | | 担当部課 | 子ども部子ども未来課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 一般会計 | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 子どもが元気に育つまち | 3-2-6 児童館費 | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | - | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 児童福祉法第40条 | | | | | |
| | 事業開始の背景、経緯等 | 児童福祉法の施行により、児童館は地域における子どもの余暇活動の拠点として、不特定多数の地域の子どもたちに対して、健全な遊びを提供し、健全育成活動を行う場として、社会的に認知された。 | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 児童に健全な遊び場を与え、その健康を増進し、情操を豊かにするとともに、異年齢児、地域との交流の場とすることを目的とする。 (概要) 青少年児童センター、上郷児童館、下山児童館、長久手西児童館及び長久手南児童館を運営する。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 乳幼児及びその保護者、小学生を中心とした児童 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 児童の発達を増進し、地域住民と連携した活動を進め、活性化を図る。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 児童館活動事業 | 拡充 | ④ | | | | |
| | ② 児童館まつり実施事業 | 拡充 | ⑤ | | | | | |
| | ③ | | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 1,121 | 914 | 1,044 | 982 | 993 |
| | | | 決算 | 752 | 839 | 751 | 785 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 3,666 | 4,736 | 5,316 | 8,425 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 4,418 | 5,575 | 6,067 | 9,210 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 入館者数 | 人 | 目標 | 80,000 | 85,000 | 90,000 | 90,000 | 90,000 |
| | | | 実績 | 90,624 | 90,822 | 88,480 | 85,134 | |
| | B 児童館まつり協力者の満足度 | % | 目標 | - | - | 80 | 85 | 90 |
| | | | 実績 | - | - | 92 | 95 | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 児童館の入館者数 前年度実績及び過去の伸び率より設定した | | | | | | | | |
| B 各会場において、子どもスタッフやボランティアへのアンケートを実施することにより課題を見つけ、改善を図る。 | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 尾張旭市、日進市(複合施設)、東郷町にて、同様の取組を実施 児童館において運営の参考としていた、国策定の「児童館ガイドライン」が平成30年10月に改定された。 | | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 平成27年度から市が洞児児童館が開館し、全小学校区にて児童館を配置できた(6小学校区に6児童館)。また、児童館まつりにおいては、平成28年度から市が洞児児童館も開催会場とし、市内4会場での開催となった。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 市が洞児児童館が開館し、各小学校区に児童館が配置された(H26.4)。長期休暇中における児童館の開館時間を8時30分とし、従来より30分早くした(H28.4)。地域の住民等による児童館活動の補助や環境整備の手伝い等を通して児童および幼児とその保護者との世代間交流を図ることを目的とした、児童館おたすけたいを開始した(H28.10) | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 今後も、子どもの居場所に対するニーズは高まると考えられるため、今後も地域に身近な事業を実施することで、児童館を地域における子育て支援の拠点とするとともに、子どもの健全育成の場とする。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 国が策定し、平成30年10月に改正された「児童館ガイドライン」を参考に、引き続き児童館運営を展開していく。また児童館まつりについては、会場ごとに課題を見つけることで、改善を図っていく。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 旧長湫北保育園の跡地に、平成31年度中に複合機能を持った児童館を整備する。 農村環境改善センターの多目的広場に、平成33年度を目標に児童館を整備する。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童館まつりと地域との連携を検討するとともに、事業規模及び内容の見直しを検討してください。 ・児童館まつりについて、例えば各児童課ごとに開催するなど、大掛かりになりすぎないように、また職員の負担軽減を図ってください。 ・児童館の運営・管理面の民間活用について、研究・検討してください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | | |
|---------|-----------|---------|--|------|------------|------------|---|
| 事業(A票)名 | 児童館利用促進事業 | | | 担当部課 | 子ども部子ども未来課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 児童館活動事業 | | | 予算区分 | 3-2-6 児童館費 | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和49年 | | | 終了(予定)年度 | — | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 乳幼児及びその保護者、児童を対象に、児童厚生員が料理教室、人形劇公演、お楽しみ遠足等を実施する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 児童館が地域の子育ての拠点となり、発達の増進を図るとともに、豊かな人間性の発達を促す。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 471 226 | 237 206 | 235 179 | 235 180 | 246 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 人形劇団等公演委託 | | | | | | 120 | 千円 |
| (2) 賄材料費 | | | | | | 41 | 千円 |
| (3) 修繕料 | | | | | | 12 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 入館者数 | 人 | 見込 | 80,000 | 85,000 | 90,000 | 90,000 | 90,000 |
| | | 実績 | 90,624 | 90,822 | 88,480 | 85,134 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> 子どもたちに人気のある陶芸教室、料理教室、人形劇観賞会等の全体行事及び工作、ゲーム等の各館行事を企画、運営した。6館で様々な行事を開催し、多くの子どもたちに健全な遊びの場を提供した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

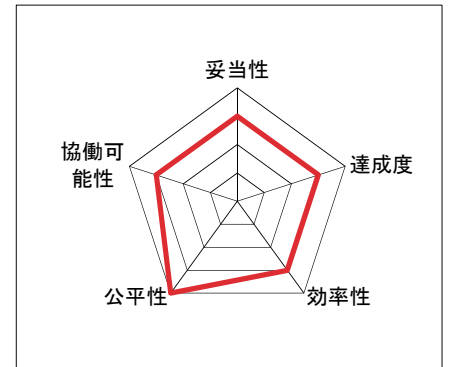
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 今度も、子どもの居場所に対するニーズは高まると考えられる |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 235 千円 246 千円 11 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| ・児童館おたすけたいを広めるとともに地域の人とつながった児童館運営を目指す。 |
| ・乳幼児、子育て中の保護者向けイベントを実施し、子育て支援の充実を図る。 |
| ・各種研修に参加し、児童厚生員としてのスキルアップに繋げる。 |
| ・他児童館を視察することにより、技術やアイデアを学び、児童館行事の充実を目指す。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 幼児向けの児童館だよりやイベントだよりを作成し、平日午前中の乳幼児向けおよび子育て中の保護者向けイベントの充実を図っている。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) ※児童館おたすけたい登録者数 | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 20 | 30 | 30 | 40 |
| 実績 | 25 | 57 | 33 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) 児童館おたすけたいは、児童館の環境整備や活動補助など、児童館のちょっとした困り事を地域の方に助けていただいている。また、児童館サークル活動では、地域の方にボランティアで指導いただいている。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 国において、平成23年3月に策定し、児童館において運営の参考とされていた「児童館ガイドライン」について、昨今の子どもをめぐる福祉的な課題への対応や、子育て支援に対する児童館のもつ機能への期待等をふまえ、平成30年10月に改正を行った。 |
|---|

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) ・児童館おたすけたいの取り組みの見直しをする ・児童館の乳幼児利用率の向上を図る ・職員向けに新児童館ガイドラインの講習会を行う |
|--|

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 拡充 |
|----|

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|-----------|------------|----------|------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 児童館利用促進事業 | | 担当部課 | 子ども部子ども未来課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 児童館まつり実施事業 | 予算区分 | 3-2-6 児童館費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成3年 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 乳幼児及びその保護者、小学生を中心とした児童に対し、こどもスタッフ会議を実施し、児童館まつりを実施する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 子どものボランティアの育成・援助を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 650 | 677 | 809 | 747 | 747 |
| | | 決算 | 526 | 633 | 572 | 605 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 児童館まつりイベント委託 | | | | | | 295 千円 | |
| (2) 消耗品費 | | | | | | 222 千円 | |
| (3) 食糧費 | | | | | | 85 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 児童館まつり協 力者の満足度 | % | 見込 | | | 80.0 | 85.0 | 90.0 |
| | | 実績 | | | 92.2 | 95.0 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 5月19日(土)に、こどもスタッフを始めとしたボランティアスタッフとともに市内4会場で児童館まつりを開催し、2,004人の参加者があった。まつりによって、子どもたちに健全な遊びを与え、交流を深め、児童館の存在や活動内容に関心を持たせた。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

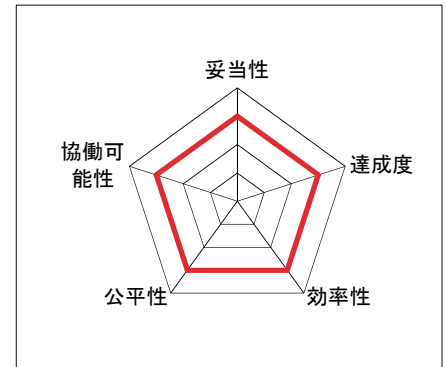
| |
|-------------------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 今後も、子どもスタッフを始め、地域住民の企画運営への参加促進に努める。 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 747 千円 747 千円 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| 児童館まつりの各会場の参加人数や状況、スタッフやボランティアへのアンケート実施により、事業の改善を図っていきたい。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| アンケート等により会場ごとに児童館まつりの振り返りを行うことにより、例えば、青少年児童センターの靴置き場を増やし、入口の混雑を解消することができた等、前年度不具合が発生した案件について改善を図ることができた。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 250 | 250 | 250 | 250 |
| 実績 | 231 | 231 | 252 | |

| |
|--|
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) |
| こどもスタッフ(105人参加)と児童館職員がアイデアを出し合って内容を計画し、子ども主体の児童館まつりとなりました。 |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 子どもスタッフと児童館職員がアイデアを出し合って内容を計画し、子どもスタッフ主体の児童館まつりを実施することができた。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 平成31年度に北児童館の整備を行うことから、平成32年度からは北児童館も新たに児童館まつりの会場となり、市内5カ所での開催となる予定。 また、中長期的に児童館まつりの地域(各児童館)での開催や地域住民の一層の参画を検討したい。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|-------------|--|----------------------------------|----------------------|------|------------|
| 事業番号 | 077 - | 事業名 | 放課後子ども教室事業 | 担当部課 | 子ども部子ども未来課 |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 文化をみがき、人が輝くまち | 会計区分 | 一般会計 | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 子どもが元気に育つまち | 9-4-1 社会教育総務費 | | |
| | 法定受託事務の有無 | - | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 長久手市放課後子ども教室推進事業実施要綱 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 地域住民や大学生・企業OBなど様々な人材の協力を得て、放課後等に全ての子供を対象とした学習支援や多様なプログラムを実施する。 | | | | |

| | | | | | | |
|-------|-----------------|--|----|---|--|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 各教室ともに定員60人で、給食開始日から3月末までの期間で、授業終了後から午後4時50分の間で開室。体験プログラムとして、ボランティアの講師を招いて、将棋体験、茶道体験、絵手紙体験、指導員による遊び体験などの事業を実施。 | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 放課後子ども教室登録者(西小学校、南小学校及び東小学校) | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 西、南及び東小学校児童の放課後の安全な居場所づくりを推進する。 | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 放課後子ども教室運営事業 | 拡充 | ④ | | |
| | ② 放課後子ども教室整備事業 | 休・廃止 | ⑤ | | | |
| | ③ | | ⑥ | | | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | 9,098 | 11,873 | 12,941 | 13,699 |
| 決算 | | | | 8,123 | 10,864 | 12,225 | 11,942 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | 4,902 | 3,284 | 4,719 | 5,057 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | 13,025 | 14,148 | 16,944 | 16,999 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------------------------------|-----------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 放課後子ども教室加入希望者の受入れ割合 | % | 目標 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | 実績 | 76 | 63 | 75 | 63 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| C | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A (放課後子ども教室においての) 参加児童数/申込者数 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣の実施市町: 瀬戸市、日進市、豊明市、東郷町 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 放課後子ども教室の申込者数増加のため、登録待ちの児童が発生している。このため、毎日の利用状況により、定員を超えての受入れを行っている。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 平成28年度に東小学校において市内初の児童クラブとの一体型が実現した後、平成31年2月に南小学校、平成31年4月に北小学校においても一体型が実現した。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 今後も、児童数の増加が続く中、放課後子ども教室に対するニーズは高まると考えられるため、引き続き、放課後の子どもの居場所づくりに努める。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 放課後子ども教室未開設の長久手小と市が洞小については、学校運営に支障がない範囲での運営方法について教育委員会と協議していく。 |
| | 中長期の目標 | (いっごうまでに事業をどのような状態にしたいか) 児童クラブ及び学童保育所、放課後子ども教室とは運営の形態として類似性があり、保護者の就労状況やニーズも時代とともに変化してきているものと認識しており、これらの事業の新たな形態について、次期総合計画や子ども子育て支援事業計画を策定する中で検討していく必要があると考えている。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・児童クラブ及び放課後子ども教室の一体型について、引き続き、図ってください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------|--------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 放課後子ども教室事業 | | 担当部課 | 子ども部子ども未来課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 放課後子ども教室運営事業 | 予算区分 | 9-4-1 社会教育総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成21年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 西小学校及び南小学校、東小学校の放課後子ども教室登録者に対し、小学校の空き教室を利用して、放課後子ども教室を実施する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 児童の放課後の安全な居場所づくりを推進する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 9,098 | 11,873 | 12,494 | 13,699 | 17,266 |
| | | 決算 | 8,123 | 10,864 | 11,781 | 11,942 | |
| ＜備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| (1) 放課後子ども教室指導者賃金 | | | | | | 9,972 千円 | |
| (2) 消耗品費 | | | | | | 1,093 千円 | |
| (3) 通信運搬費 | | | | | | 347 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 放課後子ども教室登録者数 | 人 | 見込 | 120 | 180 | 180 | 180 | 240 |
| | | 実績 | 140 | 204 | 200 | 226 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| ＜備考：活動の概要（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| ＜延べ参加児童数＞ | | | | | | | |
| 西小：5,376人（215日開室） | | | | | | | |
| 南小：5,289人（225日開室） | | | | | | | |
| 東小：6,237人（217日開室） | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

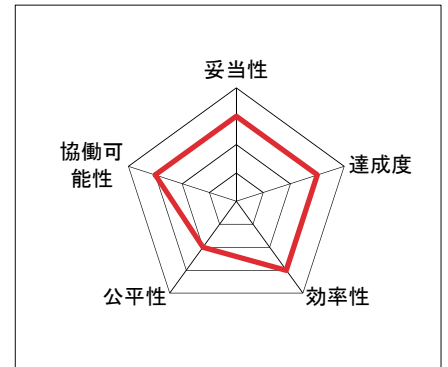
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 「長久手市 子ども・子育て支援事業計画」に基づき、平成31年度までに全小学校に放課後子ども教室を開室すると共に、うち半数で放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体型を実現することとしている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 13,699 千円 17,266 千円 3,567 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 児童クラブと放課後子ども教室との一体型の実施については、南小学校（平成30年1月～）と北小学校（平成31年4月～）において、実現を目指す。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 児童クラブと放課後子ども教室との一体型の実施については、平成31年2月から南小学校で実現した。 また、北小学校においても平成31年4月から実現する見込み。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 2 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 未集計 | 500 | 600 | 600 |
| 実績 | 未集計 | 526 | 631 | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 地域の人材を活用した体験プログラム実施し、平成30年度は、23種類の体験プログラムを実施することができた。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 地域のシニアクラブによるグラウンドゴルフや、大学生による外国語教室等、新たな人材による体験プログラムを実施することができている。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 放課後子ども教室未開設の長久手小と市が洞小については、学校運営に支障がない範囲での運営方法について教育委員会と協議していく。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|----------------|--------|---------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 放課後子ども教室事業 | 担当部課 | 子ども部子ども未来課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② 放課後子ども教室整備事業 | 予算区分 | 9-4-1 社会教育総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成21年度 | | 終了(予定)年度 | — |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 放課後子ども教室を適切に運営するため、環境の整備を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 放課後子ども教室の環境を整備する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | | | 447 | 0 | 0 |
| | | 決算 | | | 444 | 0 | 0 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | | | | | | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 環境整備の必要箇所数 | | 見込 | | | 3 | 0 | 0 |
| | | 実績 | | | 3 | 0 | 0 |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

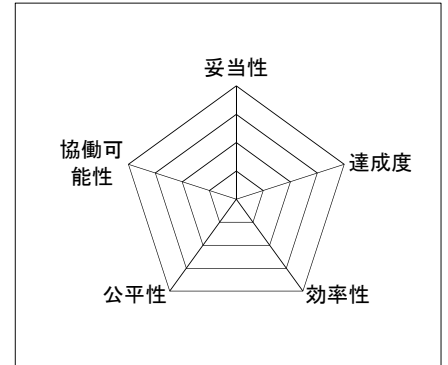
| |
|------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
|------------------------|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|---|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 休・廃止 | |
| ・前年度【コメント】 | 児童クラブとの一体型については、南小学校(平成30年度)と北小学校(平成31年度)において、実現を目指す。※児童クラブ整備費に一体で予算計上 放課後子ども教室未開設の長久手小と市が洞小については、学校運営に支障がない範囲での運営方法について教育委員会と協議していくが、運営開始に向けて、環境整備が必要になると見込まれる。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | |
| 達成度 | |
| 効率性 | |
| 公平性 | |
| 協働可能性 | |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
|------------------------|

【改善ポイント】

| |
|--------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
|--------------------|

7. 今後の方向性

| |
|------|
| 休・廃止 |
|------|

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|---------------------------------|--|--|--------|------------|------------|-----------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 078 | 事業名 | 成人保健事業 | | 担当部課 | 福祉部健康推進課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | | | 会計区分 | 一般会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | | | | 予算区分(款 一 項 一 目) | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | | | 4-1-2 予防費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | ✓ | 健康増進法 | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | — | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 生活習慣病を予防する対策の一環として、疾病の早期発見・早期治療によって市民の生涯にわたる健康の保持増進を図ることを目的とし実施。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 市民が自分の健康状態を確認し、疾病の早期発見・早期治療によって、健康の保持・増進を図る。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民の健康の保持・増進を図る。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 健康診査事業 | 拡充 | ④ | | | | |
| | ② 検診事業 | 拡充 | ⑤ | | | | | |
| | ③ | | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 97,552 | 120,307 | 123,451 | 148,159 | 144,627 |
| | | | 決算 | 95,050 | 113,949 | 129,554 | 136,804 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | — | 23,955 | 23,999 | 23,701 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | — | 137,904 | 153,553 | 160,505 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 健康診査受診者数 | 人 | 目標 | — | 29,201 | 29,607 | 30,209 | 30,721 |
| | | | 実績 | — | 29,607 | 30,209 | 30,721 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 疾病の早期発見・早期治療のため、受診者数増加を指標とする。 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 他市町においても同様に実施している。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 各取組の実績は、39歳以下健診318人、一般健康診査5人、胸部検診6,780人、胃検診4,594人(X線3,607人、内視鏡987人)、大腸6,571人、前立腺がん2,339人、肝炎ウイルス478人、眼底4,666人、喀痰36人、子宮2,207人、乳腺1,989人、歯周病747人。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 健康診査事業、検診事業とともに、普及・啓発を図ることで、年々受診者数は増加している。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 事業の普及・啓発を図り、検診受診者増加を図ることが課題である。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 市民自ら健康の保持・増進に取り組めるよう事業を実施する。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 継続して受診者数増加を目指す。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・他の健康診査事業などと連携を図ってください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------|----------|-----------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 成人保健事業 | | 担当部課 | 福祉部健康推進課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 健康診査事業 | 予算区分 | 4-1-2 予防費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和62年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 39歳以下の方を対象とした39歳以下健診、生活保護受給者を対象とした一般健康診査を実施。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 疾病の早期発見・早期治療によって市民の健康の保持増進を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 2,689 | 3,161 | 2,924 | 3,070 | 2,659 |
| | | 決算 | 1,642 | 1,645 | 1,587 | 1,923 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 39歳以下健診委託 | | | | 1,889 | 千円 |
| (2) | | 一般健康診査委託(生活保護者分) | | | | 34 | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 受診者数 | 人 | 見込 | — | 383 | 376 | 314 | 323 |
| | | 実績 | — | 376 | 314 | 323 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))>【受診者数】 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・39歳以下健診318人 ・一般健康診査(対象者：生活保護受給者)5人 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

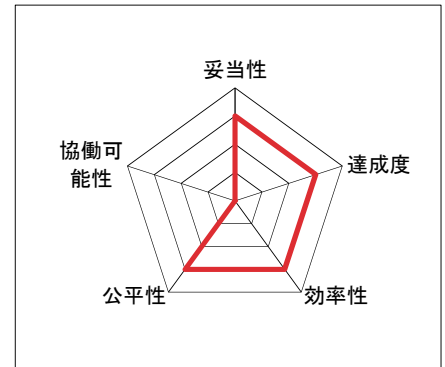
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 39歳以下及び、生活保護受給者を対象とする健康診査は、健康の保持・増進のためニーズがある。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 3,070 千円 2,659 千円 Δ 411 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| 市広報、各種事業を通じて普及・啓発に取り組み、受診者の増加を図る。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 平成29年度に受診者数が減少した39歳以下検診について、平成30年度は早期から周知を行うとともに、共生ステーションにチラシを設置したり、乳幼児健診の通知にチラシを同封したりすることで、受診者数が増加した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 事業の性質上、協働、市民参加する事業には該当しないため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|----------------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 39歳以下や生活保護受給者の疾病の早期発見・早期治療に繋がった。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 受診者数が前年度と比較し、事業全体で9人増加したが、引き続き市広報、各種事業を通じて普及・啓発に取り組み、受診者の増加を図る。 |

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 拡充 |
|----|

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|----------|--------|----------|-----------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 成人保健事業 | | 担当部課 | 福祉部健康推進課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 検診事業 | 予算区分 | 4-1-2 予防費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和41年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民を対象に、胸部、胃、大腸、前立腺、肝炎ウイルス、眼底、喀痰、子宮、乳腺、歯周病検診を実施。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 疾病の早期発見・早期治療によって市民の健康の保持増進を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 94,863 | 117,146 | 120,527 | 145,089 | 141,968 |
| | | 決算 | 93,408 | 112,304 | 127,967 | 134,881 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 胃検診委託 | | | | 49,472 千円 | |
| (2) | | 肺がん検診委託 | | | | 20,261 千円 | |
| (3) | | 子宮がん検診委託 | | | | 14,614 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 受診者数 | 人 | 見込 | — | 28,818 | 29,231 | 29,895 | 30,398 |
| | | 実績 | — | 29,231 | 29,895 | 30,398 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))>【受診者数】 胸部検診6,780人、胃検診4,594人(X線3,607人、内視鏡987人)、大腸6,571人、前立腺がん2,339人、肝炎ウイルス478人、眼底4,666人、喀痰36人、子宮2,207人、乳腺1,989人、歯周病747人。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

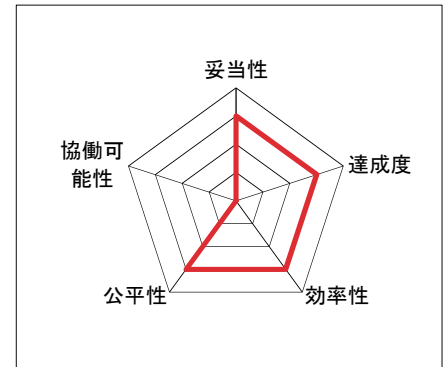
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 各種健康診査は、健康の保持・増進のためニーズがある。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 145,089 千円 141,968 千円 Δ 3,121 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| 市広報、各種事業を通じて普及・啓発に取り組み、受診者の増加を図る。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 平成29年度に受診者数が減少した子宮検診について、特に受診率が低かった20代、30代の未予約者対象に、年1回だった勧奨通知を年2回送付した。また、新規で40～69歳の未予約者対象に、勧奨通知を送付することで、受診者数が増加した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) 事業の性質上、協働、市民参加する事業には該当しないため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 受診者数が前年度と比較し、事業全体で503人増加した。 |
|---|

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 各種検診の内、肝炎ウイルス検診、眼底検診、喀痰検診および歯周病検診については前年度より受診者数が減少しているため、市広報、各種事業を通じて事業の普及・啓発に取り組み、受診者の増加を図ることが必要である。 |
|---|

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|--|-------------------------|--|--------|------------|-------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 079 | 事業名 | 予防接種事業 | | 担当部課 | 福祉部健康推進課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | | | 会計区分 | 一般会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | | 予算区分(款—項—目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | | | 4-1-2 予防費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 予防接種法 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 予防接種法に基づき、昭和34年から事業を開始。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 予防接種法に基づき感染症を予防し、住民の健康保持のため予防接種事業を実施する。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 予防接種機会の安定的な確保と一定の接種率の確保により市民全体の免疫水準を維持する。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 予防接種事業 | 拡充 | ④ | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 219,311 | 193,899 | 218,643 | 218,711 | 238,032 |
| | | | 決算 | 194,122 | 198,833 | 207,979 | 216,079 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | — | 19,534 | 28,643 | 23,858 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | — | 218,367 | 236,622 | 239,937 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A MRワクチン接種率 | % | 目標 | 95以上 | 95以上 | 95以上 | 95以上 | 96以上 |
| | | | 実績 | 95.1 | 96.6 | 98.2 | 96.3 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| C | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) A 国が示す目標値95%以上を本市は達成しているため、31年度は96%以上を成果指標とした。 B C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 予防接種法に基づく定期接種は他市町も同様に実施している。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 目標は達成できている。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 接種案内、未接種者への勧奨等により、目標は達成できている。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 予防接種法改正に対する適正かつ円滑な事業運営を行うことが課題である。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 接種率を維持するべく保健活動の継続。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 接種率の目標達成が継続する。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|----------------------|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・受益者負担の見直しを検討してください。 |
|------|-------------------------|----------------------|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------|----------|-----------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 予防接種事業 | | 担当部課 | 福祉部健康推進課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 予防接種事業 | 予算区分 | 4-1-2 予防費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和34年 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 予防接種法に基づき、市民に予防接種を実施している。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 予防接種機会の安定的な確保と一定の接種率の確保により市民全体の免疫水準を維持する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|--------------------|----------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 219,311 194,122 | 193,899 198,833 | 218,643 207,979 | 218,711 216,079 | 238,032 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | 予防接種委託 | | 198,138 千円 | | | | |
| (2) | 予防接種事業看護師等賃金 | | 4,405 千円 | | | | |
| (3) | 任意高齢者肺炎球菌接種費助成事業委託 | | 4,184 千円 | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| MRワクチン接種率 | % | 見込 実績 | 95以上 95.1 | 95以上 96.6 | 95以上 98.2 | 95以上 96.3 | 96以上 |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| BCGIは保健センターで集団接種だが、それ以外の予防接種については、かかりつけ医による個別接種で実施している。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

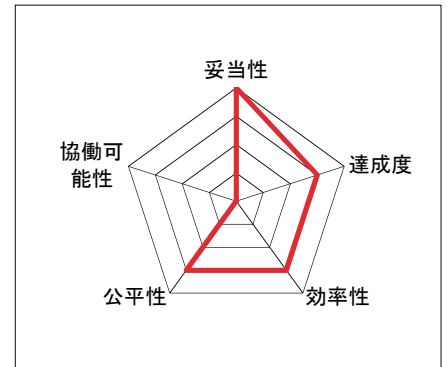
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 国が高齢者肺炎球菌ワクチン定期接種の経過措置を平成31年度から5年間延長したことで接種機会が確保できたため、任意高齢者肺炎球菌ワクチン接種費助成事業を平成30年度で終了する。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 218,711 千円 238,032 千円 19,321 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| 今後も市民全体の免疫水準を維持するために、接種機会の安定的な確保と一定の接種率の確保ができるよう事業を遂行していく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 平成30年度で任意高齢者肺炎球菌ワクチン接種費助成事業が終了するため、未接種者全員へ個別通知により接種勧奨を実施した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 事業の性質上、協働、市民参加する事業には該当しないため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 任意高齢者肺炎球菌ワクチン接種費助成事業の対象者に接種勧奨を実施したため、ワクチン接種費用の助成者数が増加した。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 接種機会の安定的な確保と事業の普及・啓発に取り組み、一定の接種率の確保を図ることが必要である。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| 事業番号 | 080 | 事業名 | 健康づくり推進事業 | | 担当部課 | 福祉部健康推進課 | | |
|------------------------------------|-----------------------|---|-----------|------------|-----------------|------------|------------|-----------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | | | 会計区分 | 一般会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | | | 予算区分(款 一 項 一 目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | | | 4-1-2 予防費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | ✓ | 健康増進法 | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | - | | | | | | |
| | 事業開始の背景、経緯等 | 健康増進法に基づき平成15年度に策定した「健康づくり計画」を推進するため、平成16年度から事業を開始した。その後、平成25年度に「健康づくり計画(第2次)」を策定し、継続して健康づくり事業に取り組んでいる。 | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 平成25年度に策定した「健康づくり計画(第2次)」に基づき、健康に対する啓発を目的に健康教育、8020・8520・9020運動、健康展、こころの体温計及び禁煙外来治療費助成を実施し、市民の健康づくり事業を推進していく。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民の健康づくりを推進する。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 健康づくり計画推進事業 | 拡充 | ④ | | | | |
| | ② | | ⑤ | | | | | |
| | ③ | | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 2,995 | 2,878 | 3,162 | 3,468 | 3,385 |
| | | | 決算 | 2,210 | 3,262 | 2,773 | 3,017 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 17,439 | 16,268 | 15,729 | 18,700 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 19,649 | 19,530 | 18,502 | 21,717 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 事業参加者数 | 人 | 目標 | 10,900 | 11,100 | 11,300 | 13,600 | 16,200 |
| | | | 実績 | 16,085 | 9,330 | 13,377 | 16,084 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 健康づくりに取り組む市民を増やすため、参加者数増加を指標とする。 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 瀬戸市、尾張旭市、豊明市、日進市、東郷町すべて、健康日本21(第2次)市町村計画を策定し、健康づくり事業を実施。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 実績が前年度より上がり、目標を達成した。各取組の実績は健康教育3,411人、8520・9020運動31人、健康展1,000人、こころの体温計11,604人、禁煙外来治療費助成申請者数38人。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 平成27年度から一旦は事業参加者数が減少したが、健康マイレージ事業やラジオ体操事業等、新規の事業に取り組むことで、平成29年度から増加している。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 事業の普及・啓発を図り、健康づくりに取り組む人を増やすと共に、継続した健康づくりへと繋げることが課題である。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 市民自ら健康づくりに取り組めるよう事業を実施する。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 「健康づくり計画(第2次)」の最終年度である平成35年度までに、健康づくり事業に関わった年間延べ人数が目標である市人口の20%を継続して達成する。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・他の健康づくり関連事業との連携を図ってください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|---------------|--------|-----------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 健康づくり推進事業 | 担当部課 | 福祉部健康推進課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① 健康づくり計画推進事業 | 予算区分 | 4-1-2 予防費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成16年度 | | 終了(予定)年度 | — |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 「健康づくり計画(第2次)」に基づき、市民に対して健康教育、8020・8520・9020運動、健康展、こころの体温計及び禁煙外来治療費助成を実施している。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 健康に関する様々な知識を知ってもらい、生活習慣病の予防等、自ら健康づくりを推進する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|--|----|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 事業費 | 千円 | 予算 | 2,995 | 2,878 | 3,162 | 3,468 | 3,385 |
| | | 決算 | 2,210 | 3,262 | 2,773 | 3,017 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 印刷製本費 | | | | 1,031 | 千円 |
| (2) | | 消耗品費 | | | | 493 | 千円 |
| (3) | | 健康づくり推進事業委託 | | | | 372 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|--|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 参加者数 | 人 | 見込 | 10,900 | 11,100 | 11,300 | 13,600 | 16,200 |
| | | 実績 | 16,085 | 9,330 | 13,377 | 16,084 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> 【受診者数】 | | | | | | | |
| 健康教育3,411人、8520・9020運動31人、健康展1,000人、こころの体温計11,604人、禁煙外来治療費助成申請者数38人。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

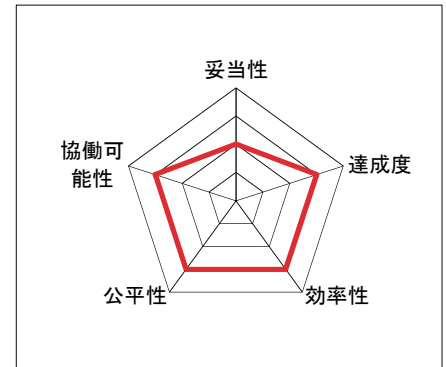
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 「健康づくり計画(第2次)」に基づき、継続して市民の健康づくりを推進する。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---------------------------------------|--|---------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 3,468 千円 | 3,385 千円 | △ 83 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 拡充 | |
| ・前年度【コメント】 | 今後も「ラジオ体操第一」の普及に取り組み、継続した健康づくりに繋げる。 全体的に事業の普及・啓発に取り組み、参加者の増加を図る | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| こころの体温計は、各種事業を通じて普及・啓発に取り組み、利用者が増加した。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 2 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|--|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| ラジオ体操交流会として、ラジオ体操の正しい実施方法についての実践と茶話会を通じた交流に取り組み、市民自ら健康づくりに取り組むきっかけづくりを図った。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 参加者数が前年度と比較し、健康教育、8520・9020運動、こころの体温計、禁煙外来治療費助成申請については増加し、事業全体では2,777人参加者数が増加した。 |

【改善ポイント】

| |
|--------------------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 事業の普及・啓発に努め、参加者の増加を図ることが必要である。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | | |
|------------------------------|-----------------------|--|--------|------------|------------|-------------|-----------------|-----------|--|
| 事業番号 | 081 | 事業名 | 母子保健事業 | | | | 担当部課 | 福祉部健康推進課 | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | | | | 会計区分 | 一般会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | | | | | 予算区分(款 一 項 一 目) | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 子どもが元気に育つまち | | | | 4-1-4 母子保健費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 母子保健法、子ども・子育て支援法、健康増進法 | | | | | | | |
| | 事業開始の背景、経緯等 | 法律に基づき、昭和34年から事業を開始。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 母性及び乳幼児の健康の保持増進を図る。 | | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 妊産婦・乳幼児とその家族 | | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 妊産婦の健康増進と乳幼児の健全な発育 | | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 母子保健事務事業 | 拡充 | ④ | | | | | |
| | ② 未熟児医療事業 | 拡充 | ⑤ | | | | | | |
| | ③ | | ⑥ | | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 111,411 | 112,399 | 123,181 | 125,072 | 116,927 | |
| | | | 決算 | 108,312 | 105,011 | 103,684 | 109,710 | | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | — | 27,742 | 26,748 | 23,927 | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | — | 132,753 | 130,432 | 133,637 | | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | |
| | A 3～4か月児健診受診率 | % | 目標 | 96.0 | 96.0 | 96.0 | 96.0 | 96.0 | |
| | | | 実績 | 96.8 | 99.7 | 97.1 | 96.8 | | |
| | B | | 目標 | | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | | |
| A 健やか親子21(第2次)計画の評価指標となっている。 | | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 母子保健法に基づく事業は他市町でも同様に実施。 | | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 目標は達成できている。 | | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 健診案内、未受診者への受診勧奨等により、目標は達成できている。 | | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 妊娠から出産、育児期までの切れ目ない支援を行うための体制整備が課題である。 | | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 相談支援体制の充実、関連機関との連携強化により、切れ目ない支援の体制整備を図る。 | | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 継続して切れ目ない支援を実施するため体制整備を図る。 | | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------|--------|-------------|----------|---|--|
| 事業(A票)名 | 母子保健事業 | 担当部課 | 福祉部健康推進課 | 決算書ページ | — | |
| 事務事業名 | ① 母子保健事務事業 | 予算区分 | 4-1-4 母子保健費 | | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和34年度 | | 終了(予定)年度 | — | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 母性及び乳幼児の健康の保持増進を図る。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 妊産婦の健康増進と乳幼児の健全な発育。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|---------------------------|----|--------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 事業費 | 千円 | | 106,438 | 107,319 | 117,923 | 119,813 | 111,812 |
| | | | 98,354 | 99,399 | 99,632 | 105,934 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | 妊婦医療機関健診業務委託 | | | | 67,606 | 千円 |
| (2) | | 乳児医療機関健診業務委託 | | | | 6,787 | 千円 |
| (3) | | 乳幼児健診医師等報償金 | | | | 6,367 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|--|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 3~4か月児健診受診率 | % | 見込 | 96.0 | 96.0 | 96.0 | 96.0 | 96.0 |
| | | 実績 | 96.8 | 99.7 | 97.1 | 96.8 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| 妊娠届出から乳幼児期までの健診や相談、教室等の母子保健活動を実施している。活動指標の3~4か月児健診は保健センターで年間17回実施している。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

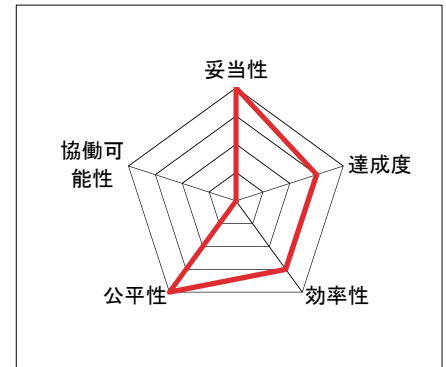
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 出生率が県内で高く子育て世代が多いが、困った時に頼れる人がいない世帯もあり、子育て支援の充実についてニーズがある。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|--|------------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 119,813 千円 | 111,812 千円 | △ 8,001 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 拡充 | |
| ・前年度【コメント】 | 妊娠から出産、育児までの切れ目ない支援の推進のため、今後は子育て世代包括支援センター機能を発揮し、事業の推進をしていく。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 平成30年度に子育て世代包括支援センターを設置し、関係機関との連携強化を図る体制を整備した。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数 (人) | | | | |
|-----------------------------|-------------|-------------|-------------|------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況 (30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 事業の性質上、協働、市民参加する事業に該当しないため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 切れ目ない支援の推進のため、母子保健コーディネーターを1人増員し、相談体制の強化を図った。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 妊娠から出産、育児までの切れ目ない支援の推進のため、子育て世代包括支援センターの機能を強化し、支援体制の整備を図ることが必要である。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

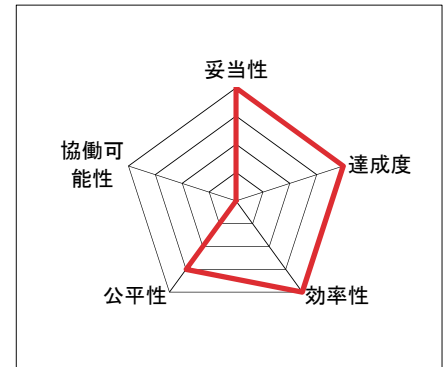
| | | | | | | |
|---------|-----------|--------|-------------|----------|---|--|
| 事業(A票)名 | 母子保健事業 | 担当部課 | 福祉部健康推進課 | 決算書ページ | — | |
| 事務事業名 | ② 未熟児医療事業 | 予算区分 | 4-1-4 母子保健費 | | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成25年度 | | 終了(予定)年度 | — | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 養育のため病院等に入院することを必要とする未熟児に対し、その養育に必要な医療の給付を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 養育医療の給付。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|-----------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 5,003 | 5,080 | 5,258 | 5,259 | 5,115 |
| | | 決算 | 9,958 | 5,612 | 4,052 | 3,776 | |
| ＜備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| (1) | | 未熟児養育医療費負担金 | | | | | 3,712 千円 |
| (2) | | 返還金 | | | | | 63 千円 |
| (3) | | 未熟児養育医療審査支払事務委託 | | | | | 2 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------------------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 給付率 | % | 見込 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | 実績 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| ＜備考：活動の概要（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| 未熟児の養育に必要な医療の給付を行い、適正な養育を行う。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

| |
|------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 特になし。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---|-----------------|----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 5,259 千円 | 5,115 千円 | △ 144 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | 法に基づき円滑に事務を進める。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 親子健康手帳交付時等、妊娠中から事業周知に努め、出産後に対象児が制度を円滑に利用できるよう取り組んだ。 | | |

【協働可能性について】

| | | | | |
|-----------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 事業の性質上、協働、市民参加する事業に該当しないため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 入院期間や治療内容等に給付費が左右されるため、予算の支出見込みが困難である。 |

【改善ポイント】

| |
|--------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 法に基づき円滑に事務を進める。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|---|---|---|-----------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 082 | 事業名 | 道路新設事業 | | 担当部課 | 建設部土木課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ リニモでにぎわい交流するまち | 会計区分 | 一般会計 | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 一 項 一 目) | | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ あえて歩いてみたくなるまち | 7-2-2 道路新設改良費 | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 道路法、道路構造令 | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 今後増大する自動車交通需要により、将来的にはより深刻な交通渋滞混雑が懸念されている | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 交通渋滞混雑解消を図るため都市幹線道路網を計画的に整備し、安全で円滑な交通網を整えるとともに、歩行者、自転車 が安全に通行できるよう、通行環境を確保し交通安全の向上を図る。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市の管理する道路 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 道路利用者の安全で円滑・快適な通行を確保する | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 道路新設事業・市単独事業 | 拡充 | ④ | | | | |
| | ② 道路新設事業・県費補助事業 | 拡充 | ⑤ | | | | | |
| | ③ | | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | | 15,653 | 77,000 | 126,313 | 109,193 |
| | | | 決算 | | 20,250 | 55,012 | 108,243 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | | 3,404 | 4,395 | 5,531 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | | 23,654 | 59,407 | 113,774 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 設計延長 | km | 目標 | | 1.8 | 2.1 | 1.9 | — |
| | | | 実績 | | 1.8 | 2.1 | 0.1 | |
| | B 工事延長 | m | 目標 | | | 39 | 62 | 85 |
| | | | 実績 | | | 39 | 64 | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 事業を実施する路線や内容が年度毎に違うため比較は困難であるが、事業成果として設定した。 | | | | | | | | |
| B 工事進捗を示す基準として、工事延長を設定した。 | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町村のほとんどが実施している。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 目標に対して数値は達成している。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 事業を進めるには、多額の事業費と日数を要する。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 早期に事業効果が発生できる計画的な予算配分が必要。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 道路新設事業 | | 担当部課 | 建設部土木課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 道路新設事業・市単独事業 | 予算区分 | 7-2-2 道路新設改良費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成28年度 | 終了(予定)年度 | | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 今後も自動車交通需要の増大が見込まれる路線等について、道路新設計画を検討し、安全で円滑な道路網を整える。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 安全で円滑な道路網を整備する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | — | 15,653 | 37,000 | 69,311 | 58,482 |
| | | 決算 | — | 20,250 | 37,216 | 50,601 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 瀬戸大府東海線公共補償用地 | | | | 37,516 千円 | |
| (2) | | 浮江隅田2号線外測量設計委託 | | | | 4,450 千円 | |
| (3) | | 前熊一ノ井地内外新設道路設計委託 | | | | 4,104 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 設計延長 | km | 見込 | | 1.8 | 2.1 | 1.9 | — |
| | | 実績 | | 1.8 | 2.1 | 0.1 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 浮江隅田2号線外測量設計業務委託 予備設計0.1km (同一路線の設計を継続的に行っていないため、各年度間を比較するための指標を設定することが困難である。) | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

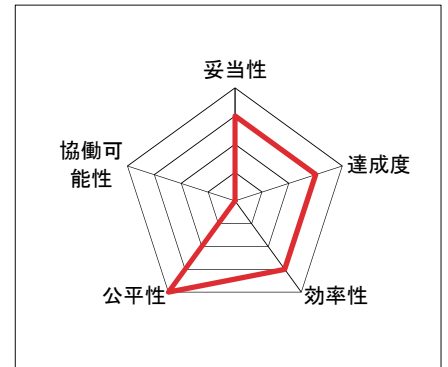
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 事業費に用地費、工事費等も含まれているため、今後の事業費の推移に大きな変動が生じる。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|-----------------------------------|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 69,311 千円 58,482 千円 △ 10,829 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| H28については、繰越事業があったため、決算額が大きくなっている。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| — |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市民協働の余地がない事業であるため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 境界確定測量時に沿線住民に対して事業の理解と進捗の報告も兼ねることができた。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 事業に対する理解を得るために、訪問の機会を増やしたことにより、事業への同意者が増加した。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|-----------------|--------|---------------|----------|--------|
| 事業(A票)名 | 道路新設事業 | 担当部課 | 建設部土木課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② 道路新設事業・県費補助事業 | 予算区分 | 7-2-2 道路新設改良費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成29年度 | | 終了(予定)年度 | 平成31年度 |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 県道岩作諸輪線の連続していない歩道において、歩道の設置を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 県道岩作諸輪線の連続していない箇所の歩道を整備し、歩行者の交通安全の向上を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | — | 0 | 40,000 | 57,002 | 50,711 |
| | | 決算 | — | 0 | 17,796 | 57,642 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) 岩作中根地内外新設歩道設置工事 | | | | | | 57,000 千円 | |
| (2) 岩作中根地内外新設歩道設置仮設資材賃借料 | | | | | | 641 千円 | |
| (3) | | | | | | 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 設計延長 | km | 見込 | — | — | 39.0 | 62.0 | 85.0 |
| | | 実績 | — | — | 39.0 | 64.0 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| 工事延長64m | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

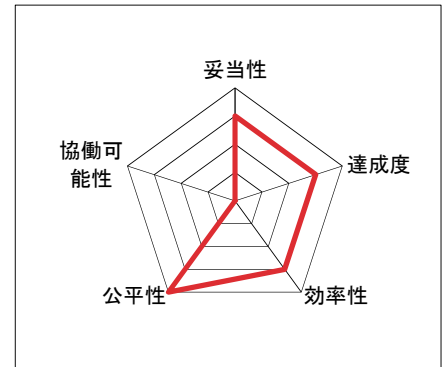
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 他市町も県費や国費を活用し道路整備を進めている。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---|------------|------------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 57,002 千円 | 50,711 千円 | △ 6,291 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| 関係機関協議の進捗により、施工予定内容に変更があり、予算額と決算額に差異が生じた。 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| — | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市民協働の余地がない事業であるため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 1工区の歩道整備が完成し、歩行者の交通安全の向上を図れた。また、市町村土木事業費補助金が受けられた。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 護岸崩壊と流下による浸食を防止するため、小口止めとして簡易の擁壁及び河床コンクリートを打設した。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|-------------|--|----------------------------------|-------------------|------|----------|
| 事業番号 | 083 | 事業名 | 住宅耐震事業 | 担当部課 | 建設部都市計画課 |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ リリモでにぎわい交流するまち | 会計区分 | 一般会計 | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 一 項 一 目) | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | 7-5-1 建築開発総務費 | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 長久手市耐震改修促進計画(改訂版) | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 阪神・淡路大震災等の大震災で従来の被害想定を超えた被害に、これまでの地震対策のあり方に多くの課題を残すこととなり、平成19年度に住宅や建築物の耐震化を図るために「長久手市耐震改修促進計画」を策定しました。 | | | | |

| | | | | | | |
|-------|-----------------|---|--------|---|--|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 安心安全なまちづくりの観点から住宅に対する耐震意識を高めるため、木造住宅及び非木造住宅を対象とし、無料耐震診断・耐震改修の補助等を行い地震に強いまちづくりに貢献する。 | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 昭和56年以前の木造住宅及び非木造住宅 | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 昭和56年以前の耐震性のない住宅を本事業により、耐震化又は減災化する。 | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 木造住宅耐震事業 | 改善・見直し | ④ | | |
| | ② 非木造住宅耐震事業 | 改善・見直し | ⑤ | | | |
| | ③ | | ⑥ | | | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | 25,732 | 25,553 | 24,953 | 23,753 |
| 決算 | | | | 2,263 | 3,189 | 3,024 | 1,370 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | - | 9,930 | 7,652 | 8,346 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | - | 13,119 | 10,676 | 9,716 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------|------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 啓発活動戸別訪問件数 | 件 | 目標 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 |
| | | | 実績 | 99 | 32 | 46 | 137 | |
| | B 木造住宅耐震改修補助累積件数 | 件 | 目標 | 78 | 80 | 82 | 83 | 83 |
| 実績 | | | 70 | 72 | 75 | 76 | | |
| C | | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 住宅の耐震化には所有者の理解を得ることが必要で、個別で啓発することが耐震化に繋がるため。

B 耐震改修補助実績が、耐震化率の指標の一つであるため。

C

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・国、県の補助を受け、全国的に実施している。 ・近隣でも各市町の特性に応じた様々な補助を行っている。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 木造住宅耐震改修について、平成30年度は、引き続き出前講座や防災イベントでの啓発活動を行ったものの、平成29年度より実績が減少した。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 木造住宅耐震改修について、実績は低迷している。耐震改修には経済的な負荷が高いことが原因の一つであるものの、地道な啓発活動や様々な補助メニューを検討していく必要がある。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 平成14年度より木造住宅耐震化事業を行っており、耐震改修に意欲のある市民は既に診断及び改修を行っているため、意欲のない市民への啓発活動が課題である。 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 啓発活動について、改善の余地はあるため、見直し等の検討を行う。木造住宅耐震診断、耐震改修工事の事業を促進する方策と実績のない補助メニューに代わって新たな補助メニューを検討する必要がある。 |
| | 中長期の目標 | (いっごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 対象住宅の所有者と会話できる機会をとらえ、直接啓発活動を行うことで少しでも耐震化率をあげる。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 住宅耐震事業 | | 担当部課 | 建設部都市計画課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 木造住宅耐震事業 | 予算区分 | 7-5-1 建築開発総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成14年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 昭和56年以前の木造住宅に無料耐震診断・耐震改修の補助等を行う |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 昭和56年以前の耐震性のない住宅を本事業により、耐震化又は減災化する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 12,372 2,263 | 12,352 3,189 | 11,752 3,024 | 10,552 1,370 | 10,352 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 住宅耐震改修費等補助金 | | | | | 1,000 千円 |
| (2) | | 木造住宅耐震診断委託 | | | | | 370 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 啓発活動戸別訪問件数 | 件 | 見込 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 |
| | | 実績 | 99 | 32 | 46 | 137 | |
| 木造住宅耐震改修補助累積件数 | 件 | 見込 | 78 | 80 | 82 | 83 | 83 |
| | | 実績 | 70 | 72 | 75 | 76 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 耐震診断戸別訪問(101件) 耐震改修戸別訪問(36件) 瀬戸市・尾張旭市と合同で耐震相談会の開催 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

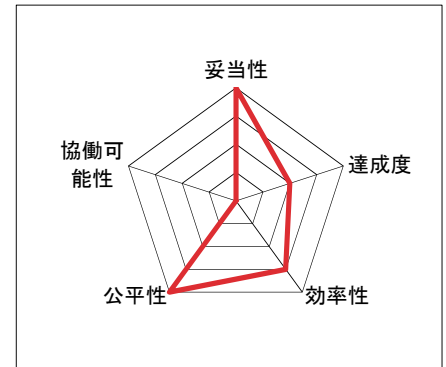
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| <ul style="list-style-type: none"> 国、県の補助を受け、全国的に実施している。 近隣でも各市町の特性に応じた様々な補助を行っている。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|------------|----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 10,552 千円 | 10,352 千円 | △ 200 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | ※新規行政評価対象 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| 新規行政評価対象 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 自己所有の対象住宅を耐震化する若しくは、除却する工事に対し、費用の一部を補助する事業のため | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 啓発活動として、DM送付、個別訪問、出前講座、市内一斉防災訓練で小学校へ出展、瀬戸市・尾張旭市と合同で耐震相談会開催を行った。新たに除却工事の補助を開始した。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 新たに除却工事の補助を開始したが、実績がないため、これまでの広報、ホームページ、ダイレクトメールに加えて、市内一斉防災訓練等イベントにおいて周知活動を行う。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|-----------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 住宅耐震事業 | | 担当部課 | 建設部都市計画課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 非木造住宅耐震事業 | 予算区分 | 7-5-1 建築開発総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成19年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 昭和56年以前の非木造共同住宅に耐震診断・設計・改修費の補助を行う |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 昭和56年以前の耐震性のない住宅を本事業により、耐震化又は減災化する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 13,360 0 | 13,201 0 | 13,201 0 | 13,201 0 | 13,339 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | | | | | | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 啓発活動回数 | 件 | 見込 実績 | — 2 | — 2 | — 4 | — 3 | 3 |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報、ホームページ 各1回/年 ・ 市内一斉防災訓練(西小校区)にてブースを出展 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

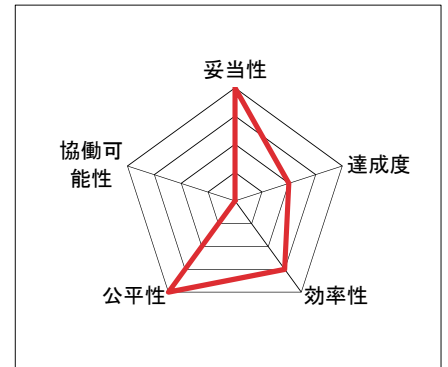
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 国、県の補助を受け、全国的に実施している。 ・ 近隣でも各市町の特性に応じた様々な補助を行っている。 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|-----------------------------|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 13,201 千円 13,339 千円 138 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・ 前年度【今後の方向性】 ※新規行政評価対象 |
| ・ 前年度【コメント】 |
| 新規行政評価対象 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 対象住宅を耐震化する工事に対し、費用の一部を補助する事業のため | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 広報、HP、防災訓練にて周知しています。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 事業に関する問合せが少ないため、非木造共同住宅の所有者等に周知方法の検討を行う。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|-------------|---|---|--------|-----------------|------------|
| 事業番号 | 084 | 事業名 | 農業振興事業 | 担当部課 | 建設部みどりの推進課 |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 万博理念を継承し、自然・環境にこだわるまち | | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「みどり」～ふるさと(生命ある空間)の風景を子どもたちに～ | | 予算区分(款 一 項 一 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ みんなで未来へつなぐ 緑はまちの宝物 | | 5-1-3 農業振興費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市農業振興事業補助金交付要綱、長久手市経営所得安定対策推進費補助金交付要綱、長久手市農業近代化資金等利子補給規則 | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 農業の担い手不足や耕作放棄地などの対策として、各種補助金制度を充実し、農業振興を行う。 | | | | |

| | | | | | | |
|-------|-----------------|---|----|---|--|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 耕作放棄地対策事業、農業資金利子補給事業、営農振興事業の補助により農業振興を図る。 | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 農業者、農地 | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 農業者の耕作意欲の向上を図ることにより、農地の有効活用を促し、農業生産を増やす。 | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 農業振興事務事業 | 拡充 | ④ | | |
| | ② 米政策対策推進事業 | 拡充 | ⑤ | | | |
| | ③ | | ⑥ | | | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | 3,097 | 3,341 | 8,907 | 4,000 |
| 決算 | | | | 2,365 | 2,487 | 5,907 | 3,170 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | 4,227 | 4,583 | 2,900 | 4,064 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | 6,592 | 7,070 | 8,807 | 7,234 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------|-----------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 景観作物栽培面積 | ㎡ | 目標 | 4,104 | 4,104 | 4,048 | 3,698 | 4,262 |
| | | | 実績 | 4,104 | 4,958 | 2,437 | 4,827 | |
| | B 米の生産調整の取組面積(水稲作付面積) | ha | 目標 | 88 | 84 | 80 | 80 | 80 |
| 実績 | | | 83 | 81 | 77 | 76 | | |
| C | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 耕作放棄地の状況を改善し、農業者の農地の利活用につながる景観作物栽培事業の取組実施面積を成果指標とした。

B 農業者の需要にあった適切な米生産と営農活動を支援する米生産対策推進事業を実施するにあたり、農家が転作による米の生産調整を実施し、米生産量が数量目標値を下回る必要があるため、農家の米の生産調整の取組面積(水稲作付面積)を成果目標とした。(目標値を下回る必要がある。)

C

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成30年度より、国の経営所得安定対策事業の制度が一部変更された。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|---|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 景観作物栽培面積は目標値を上回ることができた。 また、米の生産調整についても作付面積の実績値が目標面積を下回ることができた。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 景観作物栽培については、平成29年度のみ目標を達成できていないが、それ以外については目標を達成している。生産調整の取組については、順調に目標を達成している。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 各種補助事業を実施し、農業者を支援する。 耕作放棄地を含め、農地の利活用を進め、多様な農業者を増やす。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 耕作放棄地を含め、農地の利活用を進め、多様な農業者を増やす。 各種補助事業を適切に実施し、農業者を支援することによって、農業者の耕作意欲を高める。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 耕作放棄地を含めた農地の利活用が進み、農業者が増え、農業生産が増える。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 農業振興事業 | | 担当部課 | 建設部みどりの推進課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 農業振興事務事業 | 予算区分 | 5-1-3 農業振興費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 農業者に対し、耕作放棄地対策事業、農業資金利子補給事業、営農振興補助事業を実施。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 農業者の営農を支援し、事業意欲を高める。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 1,465 | 1,349 | 1,276 | 1,277 | 1,307 |
| | | 決算 | 1,083 | 863 | 809 | 922 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 農業展補助金 | | | | 400 | 千円 |
| (2) | | 営農振興事業補助金 | | | | 251 | 千円 |
| (3) | | 手数料 | | | | 200 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 景観作物栽培面積 | ㎡ | 見込 | 4,104 | 4,104 | 4,048 | 3,698 | 4,262 |
| | | 実績 | 4,104 | 4,958 | 2,437 | 4,827 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 景観作物栽培 合計11筆(4,827㎡) 【昨年度実績：6筆(2,437㎡)】 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

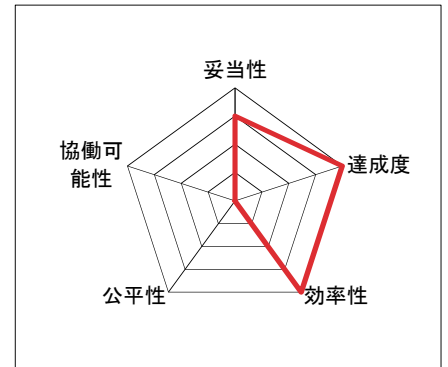
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 以前、対象にした農地の所有者が自ら景観作物栽培を始めるようになった方もいる。 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 1,277 千円 1,307 千円 30 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| 今後も引き続き、景観作物栽培を行います。 また、耕作放棄地の活用と新しい担い手の育成を図るため、農地中間管理事業や利用権設定等の制度を活用し、担い手に耕作を行ってもらえるよう働き掛けを行ってまいります。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 景観作物栽培面積を増加させたことにより、耕作放棄地を減少させた。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | — |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市民協働の余地がない事業であるため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|-----------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 20年来の耕作放棄地が景観作物栽培により、解消された。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 今後は景観作物栽培から、農業者による農作物栽培への転換が図られるよう検討しつつ、引き続き、景観作物栽培を行う。 また、耕作放棄地の活用と新たな担い手の育成を図るため、農地中間管理事業や利用権設定等の制度を活用し、担い手に耕作を行ってもらえるよう働き掛けを行って行く。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|-----------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 農業振興事業 | | 担当部課 | 建設部みどりの推進課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 米政策対策推進事業 | 予算区分 | 5-1-3 農業振興費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 農業者に対し、米生産調整推進対策補助金事業、転作用種子配布事業等を実施。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 農業者が必要にあった適切な米生産を行い、あわせて活発な営農活動を行う。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|--------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 1,632 | 1,992 | 7,631 | 2,723 | 2,208 |
| | | 決算 | 1,282 | 1,624 | 5,098 | 2,248 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 米生産調整推進対策補助金 | | | | 815 | 千円 |
| (2) | | 水田台帳システム使用料 | | | | 454 | 千円 |
| (3) | | 水田台帳システム改修委託 | | | | 378 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 米の生産調整の取組結果(水稲作付面積) | ha | 見込 | 88 | 84 | 80 | 80 | 80 |
| | | 実績 | 83 | 81 | 77 | 76 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 米生産調整推進対策補助金 117,296㎡(815,429円) 【昨年度実績 111,774㎡(807,686円)】 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

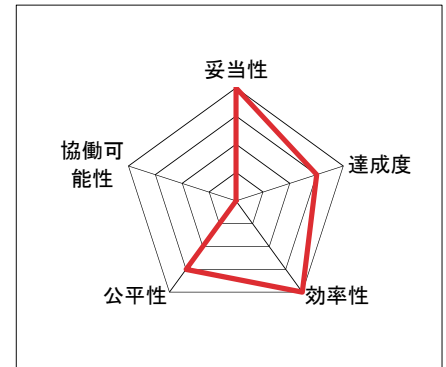
| |
|-----------------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 平成30年度より、国の経営所得安定対策事業の制度が一部変更された。 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 2,723 千円 2,208 千円 Δ 515 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| 平成30年度に水田台帳システムと既存の農家台帳システムとの連携システムの構築を行うことで、水田台帳システム内の水田情報を最新の状況に保ち、更なる米政策推進対策事業の効率化を図る。また、耕作放棄地の積極的利用と稲作を含めた農業の担い手育成を進めるため、農地中間管理事業や利用権設定等の制度を活用し、担い手に耕作を行ってもらえるよう働き掛けを行っていきます。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 水田台帳システムと農家台帳システムとの連携構築を行った。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市民協働の余地がない事業であるため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 米の生産調整が順調で、目標を達成することができた。水田台帳システムと農家台帳システムの連携構築を行った。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 耕作放棄地の活用と新たな担い手の育成を図るため、農地中間管理事業や利用権設定等の制度を活用し、担い手に耕作を行ってもらえるよう働き掛けを行っていく。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | | |
|--|-----------------------|--|----------------------|------------|-------------------|------------|------------|-----------|--|
| 事業番号 | 085 - | 事業名 | 地域農業整備促進事業 | | | 担当部課 | 建設部みどりの推進課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | — | | | 会計区分 | 一般会計 | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | | 予算区分(款 - 項 - 目) | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | | | 5-1-6 地域農業整備促進事業費 | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 農業振興地域整備計画、農用地利用集積計画 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | - | | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 法律に基づき、農業振興地域整備計画の変更や農業振興地域整備促進協議会の運営、経営・生産対策推進会議の運営を行う。 | | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 農用地利用計画変更申出書の申請者、利用権設定申出書の申請者 | | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 農地の保全及び有効活用 | | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① | 地域農業整備促進事業 | 改善・見直し | ④ | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 414 | 671 | 3,172 | 5,118 | 756 | |
| | | | 決算 | 349 | 338 | 2,982 | 4,269 | | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | - | 4,007 | 4,799 | 5,325 | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | - | 4,345 | 7,781 | 9,594 | | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | |
| | A なし | | 目標 | | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | | |
| | B | | 目標 | | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | | |
| A 法律に基づき計画の変更を行うものであり、裁量の余地はなく、指標設定できない。 | | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 法律に基づき計画の変更を行うものであり、他市町と違いはない。制度変更もない。 | | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) - | | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) - | | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) - | | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) - | | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) - | | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|--------------|------|-------------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 地域農業整備促進事業 | 担当部課 | 建設部みどりの推進課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① 地域農業整備促進事業 | 予算区分 | 5-1-6 地域農業整備促進事業費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | - | | 終了(予定)年度 | - |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | <p>(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)</p> <p>農用地利用計画変更申出書について、農業振興地域整備促進協議会（委員が審議する）の運営を行う。審議結果に基づき、県に同意を求める。</p> <p>利用権設定申出書について、経営・生産対策推進会議（委員が審議する）の運営を行う。</p> |
| 意図 | <p>(対象をどのような状態にしたいか)</p> <p>農地の保全及び有効活用</p> |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|---|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 事業費 | 千円 | 予算 | 414 | 671 | 3,172 | 5,118 | 756 |
| | | 決算 | 349 | 338 | 2,982 | 4,269 | |
| <p><備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）></p> <p>(1) 農業振興地域整備計画策定業務委託 4,050 千円</p> <p>(2) 農業振興地域整備促進協議会委員報償金 110 千円</p> <p>(3) 経営・生産対策推進会議委員報償金 110 千円</p> | | | | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|--|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| - | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <p><備考：活動の概要（30年度(2018)）></p> <p style="text-align: center;">-</p> | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

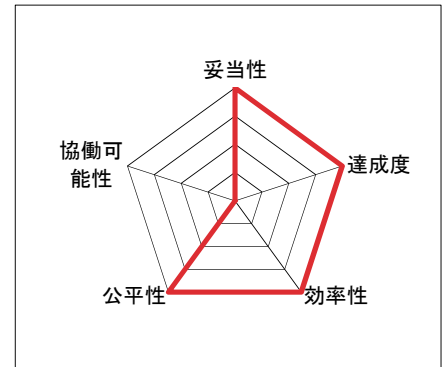
| |
|---|
| <p>(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)</p> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">制度の変更なし。</p> |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|------------|------------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 5,118 千円 | 756 千円 | △ 4,362 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | ※新規行政評価対象 | |
| ・前年度【コメント】 | - | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| - | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | - | - | - | - |
| 実績 | - | - | - | - |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市民協働の余地がない事業であるため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| <p>(活動のエピソード、コメント、特記事項など)</p> <p style="margin-top: 20px;">法律に基づき計画の変更を行うものであり、裁量の余地がない。</p> |
|--|

【改善ポイント】

| |
|--|
| <p>(改善が必要なこと、改善の方法など)</p> <p style="margin-top: 20px;">申出者に対し、制度や手続内容について今後も丁寧な説明に努めるとともに、同意権者である県とも調整し、今後も手続きが円滑に進むようにする。</p> |
|--|

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| 事業番号 | 086 | 事業名 | 田園バレー事業 | | 担当部課 | 建設部みどりの推進課 | | |
|------------------------------|---|---|-------------------------------|------------|------------|-------------------|------------|-----------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ | 万博理念を継承し、自然・環境にこだわるまち | | | 会計区分 | 一般会計 | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ | 「みどり」～ふるさと(生命ある空間)の風景を子どもたちに～ | | | 予算区分(款 一 項 一 目) | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ | みんなで未来へつなぐ 緑はまちの宝物 | | | 5-1-7 長久手田園バレー事業費 | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 長久手田園バレー基本計画、長久手市食育推進計画 | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 平成25年度に改訂された長久手田園バレー基本計画に基づき、「農」の多様な役割を生かし「農のある暮らし・農のあるまち」の実現を目指すため。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 食育推進、あぐりん村再整備等により「農のある暮らし・農のあるまち」の実現を目指す。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 農に関わる市民 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 多くの市民が農に親しみ、農とふれあいながら、自身の居場所や役割を見つけ幸福に暮らす。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① | 長久手田園バレー事務事業 | 拡充 | ④ | | | |
| | ② | 長久手田園バレー整備事業 | 拡充 | ⑤ | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 4,234 | 406 | 442 | 25,088 | 13,901 |
| | | | 決算 | 2,374 | 643 | 214 | 19,841 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | — | 3,972 | 3,383 | 4,973 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | — | 4,615 | 3,597 | 24,814 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 長久手食育推進支援会議開催回数 | 回 | 目標 | — | — | 1 | 1 | 2 |
| | | | 実績 | — | — | 1 | 1 | 2 |
| | B 再整備施設数 | 施設 | 目標 | — | — | — | — | — |
| | | | 実績 | — | — | — | — | — |
| | C | | 目標 | — | — | — | — | — |
| 実績 | | | — | — | — | — | — | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A | 市民と行政が連携し、積極的かつ魅力的な食育活動推進を目的とする会議を開催し、各事業の取組状況について議論することで食育を推進するため。 | | | | | | | |
| B | あぐりん村の売り場拡大を行うことで、農業者の耕作意欲向上、生産者と消費者の交流の場創出、地産地消を促進するため。なお、平成32年度の工事完了を目標とする。 | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 食育基本法(平成17年制定)、第3次愛知県食育推進計画(平成28年策定)等に基づき、他市町でも食育推進計画を作成している。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 食育推進支援会議の開催回数は目標を達成している。 再整備施設数は平成30年度に基本計画及び基本設計が完了している。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 平成30年度からあぐりん村再整備等の新規事業を開始した。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) あぐりん村の売り場面積の不足や、天候不良による不作、鳥獣被害など様々な要因により、農業者の耕作意欲が減少している。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 引き続き、食育推進計画、あぐりん村再整備等の事業を進める。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) あぐりん村の売り場拡大や充実等の再整備を行うことで、農業者の耕作意欲の向上に繋がる。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------------|------|-------------------|----------|---|--|
| 事業(A票)名 | 田園バレー事業 | 担当部課 | 建設部みどりの推進課 | 決算書ページ | — | |
| 事務事業名 | ① 長久手田園バレー事務事業 | 予算区分 | 5-1-7 長久手田園バレー事業費 | | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | | 終了(予定)年度 | — | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 長久手市食育推進計画に基づき、長久手食育推進支援会議を開催し、各事業の進捗状況を議論する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 長久手市食育推進計画の進捗状況を分析し、より地域の実情に沿った食育に関する施策を計画的に推進する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | — | 246 | 282 | 324 | 335 |
| | | 決算 | — | 200 | 133 | 227 | — |
| ＜備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| (1) | | 長久手食育推進支援会議委員報償金 | | | | | 110 千円 |
| (2) | | 消耗品費 | | | | | 76 千円 |
| (3) | | 食育アンケート仕分け事務作業委託 | | | | | 38 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 長久手食育推進支援会議開催回数 | 回 | 見込 | — | 1 | 1 | 2 | 2 |
| | | 実績 | — | 1 | 1 | 2 | 2 |
| | | 見込 | — | — | — | — | — |
| | | 実績 | — | — | — | — | — |
| ＜備考：活動の概要（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| 長久手食育推進支援会議を開催し、各事業の取組について議論した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

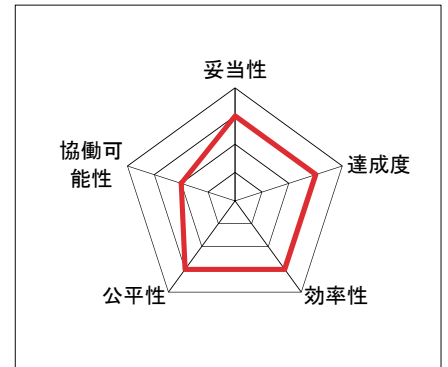
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 食育基本法（平成17年制定）、第3次愛知県食育推進計画（平成28年策定）等に基づき、本市でも平成28年に第2次長久手市食育推進計画を策定した。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|------------|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 324 千円 | 335 千円 | 11 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | ※新規行政評価対象 | |
| ・前年度【コメント】 | - | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| - | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 2 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 実績 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 長久手食育推進支援会議において、市民の意見を聞くため公募委員に審議してもらった。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 平成30年度は第2次長久手市食育推進計画の中間アンケート調査を行い、計画の進捗状況と対策について食育推進支援会議で議論した。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 平成32年度が第2次長久手市食育推進計画の完了年度であるため、関係各課と連携しながら、計画の進捗状況を踏まえて各事業に取り組んでいく。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------------|----------|-------------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 田園バレー事業 | | 担当部課 | 建設部みどりの推進課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 長久手田園バレー整備事業 | 予算区分 | 5-1-7 長久手田園バレー事業費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) あぐりん村の売り場拡大や充実等の再整備を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 農業者の耕作意欲が向上するとともに、あぐりん村の新たな魅力が創出される。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|---------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | — | 160 | 160 | 24,764 | 13,566 |
| | | 決算 | — | 443 | 81 | 19,614 | — |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | あぐりん村改修事業委託 | | | | 10,476 千円 | |
| (2) | | あぐりん村改修工事 | | | | 4,946 千円 | |
| (3) | | アグリサポートセンター基礎調査業務委託 | | | | 2,160 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 再整備施設数 | 施設 | 見込 | — | — | — | — | — |
| | | 実績 | — | — | — | — | — |
| | | 見込 | — | — | — | — | — |
| | | 実績 | — | — | — | — | — |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 平成30年度にあぐりん村再整備の基本計画策定及び基本設計を実施した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

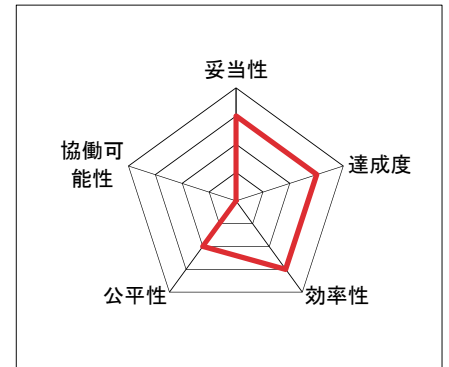
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) あぐりん村の売り場面積の不足により出荷が妨げられ、農業者の耕作意欲の低下に繋がった。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---------------------------------|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 24,764 千円 13,566 千円 △ 11,198 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 ※新規行政評価対象 |
| ・前年度【コメント】 |
| — |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| — |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 2 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| あぐりん村の再整備は指定管理者及び市民を中心とする出荷者組織と協議して進めている。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| あぐりん村において平成29年度に「旬菜ごはん市場」をオープンし、惣菜と米の売り場を充実させた。また、平成30年度にはレストランをリニューアルオープンするなど、指定管理者と連携しながら施設全体の魅力向上に努めている。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| あぐりん村の売り場面積の不足や、天候不良による不作、鳥獣被害など様々な要因により、農業者の耕作意欲が減少しているため、あぐりん村の再整備を行うことで意欲向上を図る必要がある。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|---|---|--|-------------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 087 | 事業名 | 農楽校事業 | | 担当部課 | 建設部みどりの推進課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 万博理念を継承し、自然・環境にこだわるまち | 会計区分 | 一般会計 | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「みどり」～ふるさと(生命ある空間)の風景を子どもたちに～ | 予算区分(款 一 項 一 目) | | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ みんなで未来へつなぐ 緑はまちの宝物 | 5-1-7 長久手田園バレー事業費 | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手農楽校設置要綱 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 長久手田園バレー事業の施策として、多様な担い手の育成を目指し、農業を始めたい人又は農作業を体験したい人が、農作業を行うにあたっての基本的又は実践的知識及び技術を習得するために開設された。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 農業を始めたい人又は農作業を体験したい人が、農作業を行うにあたっての基本的又は実践的知識及び技術を習得することで、多様な担い手の育成を目指す。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 農作業を体験したい市民、農業を勉強したい市民、農業を始めたい市民。 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 農場での実習、農業に関する講義を通して、希望する市民に農業知識、技術を習得してもらう。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 農楽校事業 | 拡充 | ④ | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 1891 | 1946 | 1946 | 1,961 | 1,967 |
| | | | 決算 | 1,835 | 1,736 | 1,771 | 1,868 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | - | 1,146 | 2,819 | 1,452 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | - | 2,882 | 4,590 | 3,320 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 修了生(農業知識、技術を習得した市民) | 人 | 目標 | 40 | 40 | 40 | 40 | 40 |
| | | | 実績 | 32 | 33 | 28 | 41 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 様々な「農」に関わる市民を増やし多様な農業の担い手を育成するため、修了生(農業知識、技術を習得した市民)を指標とする。 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町にも同様な農業塾の取組が行われている。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 近年応募人数が定員に達しない状況だったが、受講生募集のチラシ配布等を行ったことで農楽校の周知に繋がり、平成30年度は目標を達成した。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 圃場での野菜栽培実習のほか、平成30年度からは東山地区での稲作にも農楽校事業で参画している。修了生のなかには、個人で農地を借りて野菜等を栽培し、あぐりん村やJAIに出荷する人もいる。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 開校から16年目を迎え、講師・コーチの高齢化、カリキュラムの硬直化が課題としてあげられる。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 修了生の事業実施・運営への参画を促進するとともに、事業の運営体制を更新する。 市民へ事業の周知を行い、ニーズの掘り起こしを図る。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いっごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 様々な「農」に関わる市民を増やし、多様な農業の担い手を育成するための学習機関として、多くの市民が参加する場とする。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------|----------|-------------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 農楽校事業 | | 担当部課 | 建設部みどりの推進課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 農楽校事業 | 予算区分 | 5-1-7 長久手田園バレー事業費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成16年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・対象 農作業を体験したい市民、農業を勉強したい市民、農業を始めたい市民 ・手段 農場実習や加工実習、販売実習、講義を実施 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 農場での実習、農業に関する講義を通して、希望する市民に農業知識、技術を習得してもらう。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 1,891 | 1,946 | 1,946 | 1,961 | 1,967 |
| | | 決算 | 1,835 | 1,736 | 1,771 | 1,868 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 農楽校講師報償金 | | | | 747 | 千円 |
| (2) | | 消耗品費 | | | | 643 | 千円 |
| (3) | | 光熱水費 | | | | 278 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 修了生(農業知識、技術を習得した市民) | 人 | 見込 | 40 | 40 | 40 | 40 | 40 |
| | | 実績 | 32 | 33 | 28 | 41 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| ・農場(3,500㎡)実習50回・加工実習3回・販売実習1回・農業講義(座学)10回 | | | | | | | |
| ・保育園連携事業(芋掘り遠足) | | | | | | | |
| ・市民向け収穫体験・市民向け加工体験(味噌造り)各1回 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

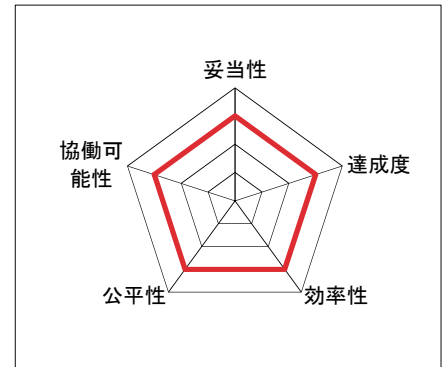
| |
|------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| ・講師、コーチの高齢化 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 1,961 千円 1,967 千円 6 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| ・農楽校事業への市民参加を促進する。 |
| ・農あるくらしの担い手となる、農に関わる市民を継続的に増やしていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 平成29年度に受講生募集のチラシ配布等を行ったことで、修了生を増やすことができた。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 7 | 7 | 10 | 10 |
| 実績 | 7 | 7 | 10 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 実習コーチ及び講師を市内農家や農業試験場OBに依頼しているほか、一部の修了生にボランティアでサポートスタッフを依頼している。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 平成29年度に受講生募集のチラシ配布等を行ったことで農楽校を周知することができた。修了生のなかには、個人で農地を借りてあぐりん村等に出荷する人もいる。農に関する知識・技術を持ち、様々な場面で「農」に関わる活動に携わる人が増えている。 |

【改善ポイント】

| |
|------------------------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| ・農楽校事業への市民参加を促進する。 |
| ・農あるくらしの担い手となる、農に関わる市民を継続的に増やしていく。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|-------------|--|--|----------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------|
| 事業番号 | 088 | 事業名 | 平成こども塾事業 | | 担当部課 | 建設部みどりの推進課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 万博理念を継承し、自然・環境にこだわるまち | | | 会計区分 | 一般会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | | 予算区分(款 - 項 - 目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 子どもが元気に育つまち | | | 9-4-1 社会教育総務費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ (長久手市)平成こども塾マスタープラン・里山プラン・里山基本計画・田園バレー基本計画 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 平成11年に策定された第4次総合計画の柱の一つ、環境緑地系プロジェクトとして「長久手田園バレー構想」が掲げられ、平成14年度より「長久手田園バレー事業」が実施された。その子ども版プロジェクトとして平成18年4月に「長久手町(現市)平成こども塾」がオープンした。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) ・平成こども塾の施設管理・運営等を行う。 ・学校連携活動 ・地域の環境や自然についての学習活動 ・学習活動を通じた地域住民との交流 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 小、中学生 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 里山の豊かな環境を生かした体験活動による、子どもたちの生きる力の育成 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 平成こども塾管理事業 | 改善・見直し | ④ | | | | |
| | ② 平成こども塾企画事業 | 改善・見直し | ⑤ | | | | | |
| | ③ | | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 決算 | 12,645 12,035 | 12,365 11,590 | 12,426 11,647 | 14,614 14,297 | 15,351 |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 24,773 | 15,405 | 21,164 | 17,736 | |
| | 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 36,808 | 26,995 | 32,811 | 32,033 | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 安心安全な施設等の維持管理 | % | 目標 実績 | 100 100 | 100 100 | 100 100 | 100 100 | 100 |
| | B 参加者の満足が得られること | % | 目標 実績 | 85 98 | 85 98 | 85 98 | 85 98 | 85 |
| | C | | 目標 実績 | | | | | |
| | 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) A 医療機関で治療をするようなケガをさせない B おおむね参加者の満足が得られること(満足度85%以上) C | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 周辺市町村で子どもを主体とした食と農、創作、自然体験等の多面的な取組を実践する施設があるという例は聞かない。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) ある程度達成できている。 学校連携プログラムの評価、また専門プログラムの評価も高い。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 目標が継続してある程度達成できている。同様に大きなケガもなく、参加者の満足度も高い。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) ・プログラム運営団体が徐々に高齢化しつつあるのでその対策。 ・施設の老朽化対策のため、適切な管理と予算の確保が必要である。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 地域の自然環境や文化などについての学習活動ができるよう、施設の維持管理等を継続する。 地域で活動する団体等と連携をすることにより、こども塾周辺の里山里地の整備を進め、活動エリアの拡大を図る。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 5年後を目処に ・プログラムの講師の若返りを順次図る。 ・劣化が激しい施設の修繕を、プログラムに影響の出ないよう計画的に実施する。里山での冒険遊び場作りを進める。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | 令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

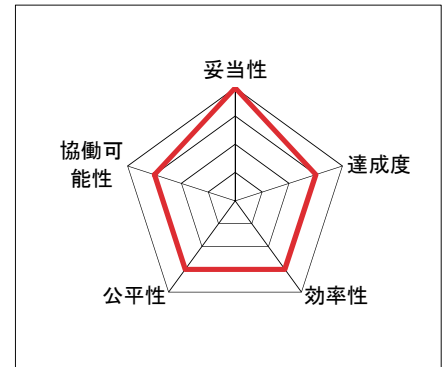
| | | | | | | |
|---------|----------|------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 平成こども塾事業 | | 担当部課 | 建設部みどりの推進課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 平成こども塾管理事業 | 予算区分 | 9-4-1 社会教育総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成18年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・小中学生を対象に ・今までどおり、安心で安全な体験プログラムが実施できるように、施設管理・プログラム運営を行います。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) ・安心安全な状況でプログラムを体験させる。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)

| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|----|------------|------------|------------|-----------|
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |

(2) 協働の状況(30年度(2018))

(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)

—

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)

- ・予定通り上水道の凍結対策工事及び衛生面向上のため外部水道口の温水化工事を行った。
- ・男子トイレ入口の引き戸等修繕工事を実施した。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)

- ・かまど施設内に設置された「かまど本体」の劣化がここ最近で急速に進んでおり、急ぎ修繕が必要となってきている。
- ・地域で活動する団体等と連携することにより、こども塾周辺の里山里地の整備を進め、活動エリアの質的向上と拡大を図る。
- ・平成31年度の施設管理として、予定通りシロアリ検査、デッキ部分取替修繕、木製建具修繕、配管及び構造丸太材の締増し調査を行う。

7. 今後の方向性

改善・見直し

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|-----------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 9,010 | 8,653 | 8,714 | 10,772 | 11,403 |
| | | 決算 | 8,496 | 7,942 | 7,964 | 10,499 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 一般事務嘱託員報酬 | | | | | 6,108 千円 |
| (2) | | 消耗品費 | | | | | 900 千円 |
| (3) | | 光熱水費 | | | | | 820 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 安全な活動の実施 | | 見込 | 200 | 200 | 200 | 200 | 205 |
| | | 実績 | 200 | 204 | 205 | 213 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| ・救急車を呼ぶことも大げがをすることもなく1年間の事業を終了できた。・今後もけがの無いように予防安全に努めつつ、プログラムの内容を充実させていく。 | | | | | | | |
| 実績例：緊急情報配信メール委託事業1件 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
・長久手市は、転入してくる若い住民が増えており、子どもたちの数も増えている。そのため、平成こども塾活動の存在意義も高まっている。これまでと同様に里山里地といった地の利を生かした、体験活動や文化継承の体験活動の継続が重要である。

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---|------------|--------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 10,772 千円 | 11,403 千円 | 631 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 改善・見直し | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| ・プログラムの実施主体であるサポーターの新規参加促進と育成を進める。 | | |
| ・地域で活動する団体等と連携することにより、こども塾周辺の里山里地の整備を進め、活動エリアの質的向上と拡大を図る。 | | |
| ・里山里地を活用した体験学習(学校連携・委託事業)を充実させる。 | | |
| ・評価の高い学校連携プログラムのさらなる充実を図る。 | | |
| ・劣化が激しい施設・備品の修繕を計画的に実施する。 | | |
| ・上水道の凍結対策及び衛生面向上のため外部水道口の温水化を行う。 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| ・サポーターの育成は、木工作品制作、サポーター研修も兼ねて大人向けのプログラムを実施した。 | | |
| ・こども塾に隣接した里山で活動している里山クラブとの連携は、具体的にはこれからだが、こども塾周辺の里山を整備したエリアは少しずつ拡大している。 | | |

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | | |
|---------|----------|------------|--|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 平成こども塾事業 | | | 担当部課 | 建設部みどりの推進課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 平成こども塾企画事業 | | 予算区分 | 9-4-1 社会教育総務費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成18年度 | | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) <ul style="list-style-type: none"> ・長久手市民を主体とする小中学生とその保護者。 ・環境団体、地域で活動する団体(サポート隊)や専門家の指導の下、様々な体験活動を実施する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの感性や、生きる力、世代を超えたコミュニケーション能力を育む。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 3,635 | 3,712 | 3,712 | 3,842 | 3,948 |
| | | 決算 | 3,539 | 3,648 | 3,683 | 3,798 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 平成こども塾創造スタッフ委託 | | | | 2,208 | 千円 |
| (2) | | 平成こども塾講師報酬金 | | | | 1,590 | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 計画事業の実施件数 | 事業 | 見込 | 200 | 200 | 200 | 200 | 205 |
| | | 実績 | 200 | 200 | 205 | 213 | |
| 参加者の満足が得られること | % | 見込 | 85 | 85 | 85 | 85 | 85 |
| | | 実績 | 98 | 98 | 98 | 98 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・計画事業の実施件数は予定通り実施することができた。 ・参加者の満足度は、目標を上回り評価は全体的に高かった。 実績例：専門プログラム「里山冒険クラブ」年間5回実施 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

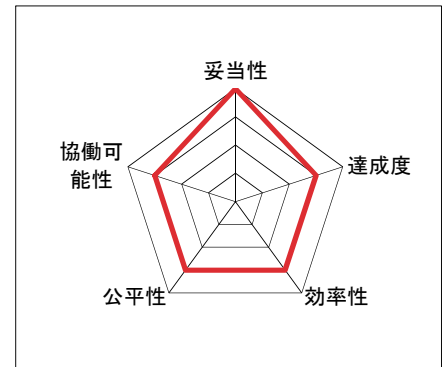
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・長久手市は、転入してくる若い住民が増えており、子どもたちの数も増えている。そのため、平成こども塾活動の存在意義も高まっている。これまでと同様に里山里地といった地の利を生かした、体験活動や文化の継承活動を行っていくことが重要となっている。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---|--|--------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 3,842 千円 | 3,948 千円 | 106 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 改善・見直し | |
| ・前年度【コメント】 | <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの実施主体であるサポーターの新規参加促進と育成を進める。 ・地域で活動する団体等と連携することで、こども塾周辺の里山里地の整備を進め、活動エリアの拡大を図る。 ・里山里地を活用した体験学習(学校連携・委託事業)を充実させる。 ・評価の高い学校連携プログラムのさらなる充実を図る。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの内容、進行方法や参加者の理解度等の改善を常に意識した運営を実施した。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 400 | 400 | 400 | 400 |
| 実績 | 464 | 408 | 431 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| NAF(ながくてアートフェスティバル)との協働によりこども塾祭りの実施他、下記の協働プログラムを実施した。日本介助犬協会、愛知県芸術大学、南木曾町等 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・平成こども塾サポート隊に29年度に加入された方(60歳台男)が星空に関するスペシャリストで、新規プログラムを企画・実施されるようになった。名古屋科学館との連携もできる人物で今後の活動が期待される。 ・里山の冒険遊び場運営を担う人物の発掘が急務である。 ・学校連携プログラムが強化され、週2日間職員が派遣されることになった。 ・プログラムの実施主体であるサポーターの新規参加促進と育成を引き続き進める。 ・里山里地を活用した体験学習(学校連携・委託事業)を充実させる。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの実施主体であるサポーターの新規参加促進と育成を継続して進める。 ・地域で活動する団体等と連携することにより、こども塾周辺の里山里地の整備を進め、活動エリアの拡大を図る。 ・里山里地を活用した体験学習(学校連携・委託事業)を充実させる。 ・評価の高い学校連携プログラムのさらなる充実を図る。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|-------------|---|----------------------|--------|-------------|------|
| 事業番号 | 089 | 事業名 | 会計管理事業 | 担当部課 | 会計課 |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | 予算区分(款—項—目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 市民から信頼される市政の運営 | | 2-1-3 会計管理費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 会計管理者の権限に属する事務について、補助組織として効率的かつ適切に処理するため、支払事務手法の一部を見直しする等職員の事務の削減を図るとともに、支払忘れを防止し適切な支払を行ってきた。 | | | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|--|----|---|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 会計管理者の権限に属する事務を処理するため、会計管理者の補助組織としての業務を行う。 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 全職員 | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 担当課の歳出及び歳入に関する事務等を効率的かつ適切に処理してもらう。 | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 会計管理事務事業 | 拡充 | ④ | |
| | ② 公共料金口座自動振替化事業 | 改善・見直し | ⑤ | | |
| | ③ | | ⑥ | | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | 17,536 | 16,717 | 17,435 | 20,236 |
| 決算 | | | | 17,128 | 16,273 | 17,032 | 18,065 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | 28,664 | 26,184 | 36,659 | 36,407 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | 45,792 | 42,457 | 53,691 | 54,472 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--|----------|------------|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A | 口座振込組戻し件数率 | % | 目標 | | 0.65% | 0.65% | 0.59% |
| 実績 | | | | | 0.76% | 0.59% | 0.55% | |
| B | 月平均作成伝票数 | 枚 | 目標 | 93 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | 実績 | 99 | 99 | 101 | 97 | |
| C | | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 適切な支払を行うために伝票審査によりいかに事前に防ぎ振込誤りを減らすことができるかの指標とした。 | | | | | | | | |
| B 公共料金口座自動振替により納付書払時よりいかに担当課の作業量を減らすことができるかの指標とした。 | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 会計管理事務事業：三菱UFJ銀行が指定金融機関の市町は振込組戻し手数料1件につき864円 公共料金口座自動振替化事業：静岡県牧ノ原市：平成25年2月から実施。現在は水道、電気、電話(一部除く)。宮城県大和町：平成24年3月から実施。現在は水道、電気、電話。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|---|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 前年度に引き続き口座振込組戻し件数率を減少させることができた。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 口座振込誤りは減少しているが、人事異動などによる伝票担当の変更などにより、作成された伝票の内容について会計課から担当課へ指摘するといった状況は続いている。公共施設の光熱水費の予算は一括管理ではないため機構改革や予算体系が変わると年度替わりの科目マスタ作成業務に時間を要し苦慮する。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 組戻し件数の減少のため、引き続き伝票作成時の注意点について全庁的な通知等を行い、周知を図る。公共施設の光熱水費の予算については、科目マスタの管理方法など業務時間数減につながるよう、改善できる項目を検討していく。 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 支払事務を効率的かつ適切に処理するために周知方法を工夫し全職員に周知徹底する。公共施設の光熱水費の予算については、科目マスタの管理方法など業務時間数減につながるよう、関係課と連携しながら改善できる項目を検討していく。 |
| | 中長期の目標 | (いっところまでに事業をどのような状態にしたいか) 口座振込誤り件数が年度ごとに次第に減少し、会計課において100%防ぎ適切な支払が実施されることを最終的な目標とする。電話料金の一部を口座自動振替化導入可能かどうか検証し、効率化を図れるようであれば導入時期も検討していく。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

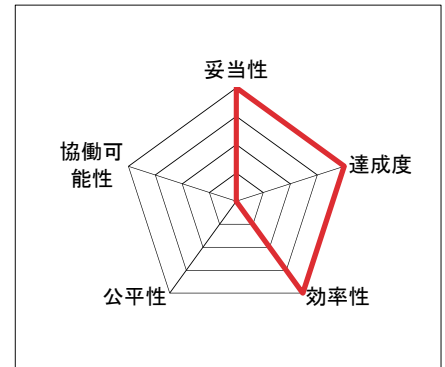
| | | | | | | |
|---------|------------|------|-------------|----------|---|--|
| 事業(A票)名 | 会計管理事業 | 担当部課 | 会計課 | 決算書ページ | — | |
| 事務事業名 | ① 会計管理事務事業 | 予算区分 | 2-1-3 会計管理費 | | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | | 終了(予定)年度 | — | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 全職員に対し会計課が伝票を審査し誤りを指摘し修正することにより適正に支払処理を進めている。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 職員のミスによる口座の振込誤りを無くす。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | — |
| 協働可能性 | — |



2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 17,363 | 16,523 | 17,241 | 20,042 | 42,390 |
| | | 決算 | 17,000 | 16,143 | 16,901 | 17,937 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | 歳入システム処理委託 | | | | | 6,487 千円 |
| (2) | | 手数料 | | | | | 5,762 千円 |
| (3) | | 印刷製本費 | | | | | 829 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 口座振込組戻し件数率 | % | 見込 | | 0.65 | 0.65 | 0.59 | 0.55 |
| | | 実績 | | 0.76 | 0.59 | 0.55 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| 適切な支払をするために多数の職員で伝票審査を行い、特に例月出納検査で指摘された内容は重点的に伝票審査を行っている。また指摘の多い内容については予算留意事項説明会等で職員に周知した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

| |
|------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
|------------------------|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|--|-----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 20,042 千円 | 42,390 千円 | 22,348 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | 引き続き全職員に対し説明会や通知等で周知していく。さらに指摘の多い内容については、随時通知をする。会計課の職員は共通事項で伝票審査するよう審査項目を徹底をする。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 新規採用や異動により、伝票事務を行う職員は変更されることから、引き続き全職員に対し説明会や通知等を実施した。会計課の職員は朝礼・終礼等を活用し、共通事項で伝票審査するよう統一を図った。また、現行歳入システムから総合収納システムへの移行事務を進めた。 | | |

【協働可能性について】

| | | | | |
|------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 出納事務の性質上、市民による執行ができないため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
|------------------------|

【改善ポイント】

| |
|--------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
|--------------------|

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|---------------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 会計管理事業 | | 担当部課 | 会計課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 公共料金口座自動振替化事業 | 予算区分 | 2-1-3 会計管理費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成26年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 施設を管理している全職員に対し、公熱水費の一部の伝票を会計課が口座自動振替するための「公振くん」のシステムを活用し一括作成する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 173 | 194 | 194 | 194 | 187 |
| | | 決算 | 128 | 131 | 132 | 128 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 手数料 | | | | 128 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 月平均作成伝票数 | 枚 | 見込 | 93 | 100 | 100 | 110 | 100 |
| | | 実績 | 99 | 99 | 101 | 97 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 水道料金については月1回の口座自動振替、電気料金(一部)については月3回の口座自動振替、平成30年度としては合計48回口座自動振替業務を行った。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

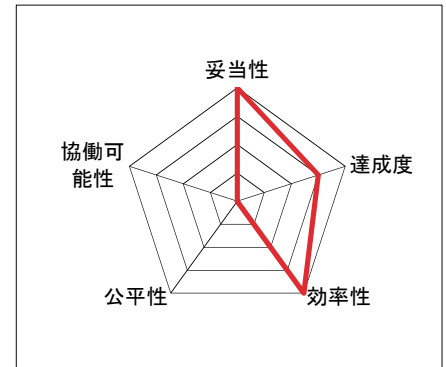
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 平成28年から口座自動振替に係る伝票は一括伝票でなくなったため口座自動振替に係る伝票は1処理=1枚伝票とする。 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 194 千円 187 千円 Δ 7 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| 電話料金の複数債権者のうちの債権者が口座自動振替可能か、また支払日を月1回に統一できるか等含めて電話料金の一部でも公共料金口座自動振替することにより担当課及び会計課の事務効率化が図られるか検証していく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 電話料金については、お客様番号の変更、支払日の変更など契約形態の見直しが生じることから、現行の口座自動振替を適正に実施したうえで、課題の整理に努めた。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | — |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 出納事務の性質上、市民による執行ができないため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
|------------------------|

【改善ポイント】

| |
|--------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
|--------------------|

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-------|-----|-----------|------|----------|
| 事業番号 | 090 - | 事業名 | 教育委員会事務事業 | 担当部課 | 教育部教育総務課 |
|------|-------|-----|-----------|------|----------|

| | | | | |
|-------------|---------------|---|-----------------|------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 文化をみがき、人が輝くまち | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 子どもが元気に育つまち | 9-1-1 教育委員会費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市就学援助費事務取扱要綱 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | | 教育委員会の事務事業を円滑に行い、適正な就学を行うため、就学に向けた切れ目のない支援体制を構築するとともに、支援を必要とする児童、生徒及び保護者に対し支援を行う。 | | |

| | | | | |
|-------|-----------------|--|----|---|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) ・個々の児童生徒に寄り添った支援 ・経済的な理由により就学困難な児童生徒の保護者に対する援助 | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 児童生徒、保護者、教職員 | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 就学に向けた切れ目のない支援体制を構築し、教育に係る経済的負担の軽減を図ることで、児童生徒が安心して成長できる環境を整備する。 | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 教育委員会事務事業 | 拡充 | ④ |
| | | ② | | ⑤ |
| | | ③ | | ⑥ |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----------|------------|------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 決算 | | | 217,654 201,203 | 222,052 222,964 | 256,744 240,666 |
| 人件費(B) | 千円 | 決算 | | | 3,617 | 6,654 | 8,873 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | | | 204,820 | 229,618 | 249,539 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|-----------------------|----|----------|------------|------------|------------------|------------------|-----------|
| | A 保育園・幼稚園と小学校の見学・体験研修 | 回 | 目標 実績 | | - | 3 5 | 9 20 | 20 |
| | B 就学援助平均受給額 | 円 | 目標 実績 | | - | 72,480 83,736 | 84,000 75,147 | 84,000 |
| | C | | 目標 実績 | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 保育園・幼稚園と小学校の見学・体験研修実施回数 | | | | | | | | |
| B 支給総額/受給者数 法で義務づけられた事業であり、対象者に対して正確、効率的に支給を行う。 | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・就学援助費の新入学児童生徒学用品費については、入学前支給を実施する市町村が増えている。 ・平成31年度から、国の要保護児童生徒援助費補助金の予算区分に、「卒業アルバム代等」が新設、消費税増税対応として各区分の予算単価が増額されている。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) ・保幼小中連携事業について、情報交換を密に行うことで、適正な就学につなげることができた。 ・就学援助事業について、必要な援助を行うことで、保護者の経済的負担を軽減することができた。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) ・保幼小中連携事業について、子育て支援課や健康推進課と積極的に情報共有を行い、就学相談を進めることができるようになった。 ・就学援助事業について、所得基準を設け、申請者の利便性が向上したことで、保護者の経済的負担を軽減することができた。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 子どもたちやその家庭環境が多様化しているため、個に応じたきめ細やかな教育、子育て世帯に対する切れ目のない支援体制の構築が必要である。 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) ・保幼小中連携事業について、児童生徒と保護者が安心して就学、進学を迎えられるように、より現場の意見、要望を取組に反映させ、共通理解を深めることで、適正な就学を進める。 ・就学援助事業について、国の支給基準額を注視しながら、必要な援助を行う。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 2023年度までに、インクルーシブ教育システムの構築を目指す。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|-----------|-----------|----------|--------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 教育委員会事務事業 | | 担当部課 | 教育部教育総務課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 教育委員会事務事業 | 予算区分 | 9-1-1 教育委員会費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・園児、児童、生徒及び保護者に対し、保育園・幼稚園と小学校の交流カリキュラムの充実、職員間の交流研修や情報共有、積極的な就学相談を行う。 ・経済的な理由によって就学困難な児童生徒の保護者に対し、就学援助を行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) ・切れ目のない支援体制を構築し、円滑で適正な就学を図る。 ・経済的負担の軽減を図り、教育環境を整える。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|------------------|------------|--------------------|--------------------|--------------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | | 217,654 201,203 | 222,052 222,964 | 256,744 240,666 | 266,173 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 学校非常勤講師賃金 | | | | 71,219 千円 | |
| (2) | | 学校講師嘱託員報酬 | | | | 39,482 千円 | |
| (3) | | 要保護及び準要保護児童生徒扶助費 | | | | 20,821 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|----|----------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 交流・研修・意見交換会 | 回 | 見込 実績 | | - | 3 5 | 9 20 | 20 |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| ・保幼小中連携事業：小学校見学・体験研修6回、保育園・幼稚園見学・体験研修13回、就学時健診、小中情報交換会1回 ・就学援助：就学援助対象児童生徒277人に、学期末及び随時就学援助費を支給 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

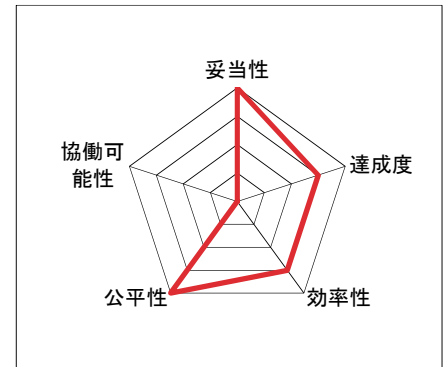
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・子どもたちやその家庭環境が多様化しているため、個に応じたきめ細やかな教育、子育て世帯に対する切れ目のない支援体制の構築が必要である。 ・平成31年度から、国の要保護児童生徒援助費補助金の予算区分に、「卒業アルバム代等」が新設、消費税増税対応として各区分の予算単価が増額されている。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 256,744 千円 266,173 千円 9,429 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| ・保育士・幼稚園教諭を対象とした小学校見学、体験研修、及び小学校教諭を対象とした保育園・幼稚園見学、体験研修を新たに実施していく。 ・新入学児童生徒学用品費について、平成30年度からは、入学前に支給できるように要綱を改正した。今後、認定から支給までを円滑に行うことができる「就学援助事務システム」について、情報収集し、導入に向けて検討を行う。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) ・保育士・幼稚園教諭を対象とした小学校見学、体験研修、及び小学校教諭を対象とした保育園・幼稚園見学、体験研修を新たに実施することで、児童生徒支援に役立てることができた。 ・新入学児童生徒学用品費を、入学前の1月末に支給した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| | | | | |
|------------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 事業の性質上、協働、市民参加する事業には該当しないため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| ・特に、1学期に行った新小学校1年生にかかわる意見交換を行うことにより、「小1プロブレム」を緩和する手立てとなった。 ・適切な時期に就学援助費を支給することによって、必要な援助を実施することができた。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| ・小学校の意見・要望を小学校見学に反映させること、保育園・幼稚園の意見・要望を保育園・幼稚園見学に反映させることにより、より現状に即した見学、意見交換の場とする。 ・就学援助受給者数の増加により、認定・支給事務が複雑になっているため、「就学援助事務システム」について、情報収集し、導入に向けて検討を行う。 |

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 拡充 |
|----|

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| 事業番号 | 091 | 事業名 | 適応指導教室事業 | | 担当部課 | 教育部教育総務課 | | |
|--------------------------------|--|---|----------|------------|--------------|-------------|------------|-----------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 文化をみがき、人が輝くまち | | | 会計区分 | 一般会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | | | | 予算区分(款－項－目) | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 子どもが元気に育つまち | | | 9-1-1 教育委員会費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | — | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 全国的な問題である不登校の対策として、学校生活に適應できない児童生徒を対象に、学校以外の場で配慮した指導を行うために適応指導教室を設置。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) ・個々の児童生徒に応じたプログラム学習(スポーツ、体験活動、個別学習) ・保護者の会「こーひーぶれいく」を各学期に1回実施 ・学校との連携(学校訪問、運営委員会、連絡会) | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 児童生徒 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 不登校児童生徒が適応指導教室で安心して過ごすことができ、学校や社会への復帰を目指す。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 適応指導教室事務事業 | 改善・見直し | ④ | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | | 8,416 | 8,272 | 10,316 | 10,323 |
| | | | 決算 | | 8,229 | 8,056 | 9,097 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | | 2,013 | 1,095 | 874 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | | 10,242 | 9,151 | 9,971 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A スクールソーシャルワーカーと適応指導教室の定期連絡会 | 回/週 | 目標 | | - | - | 1 | 1 |
| | | | 実績 | | - | - | 1 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A スクールソーシャルワーカーと適応指導教室の定期連絡会回数 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 他市町でも同様の事業を実施。平成28年12月7日に「教育機会確保法」が成立し、学校以外の場の重要性が認められ、家庭への訪問等による支援の充実を図る必要があることが通知された。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) スクールソーシャルワーカーを中心として、学校や関係機関との情報共有を密に行うことで、家庭への働きかけを含め、学校への復帰に必要な支援を多角的に行うことができた。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 不登校児童生徒は年々増加しており、不登校児童生徒が適応指導教室で安心して過ごせるよう、環境整備を図るとともに、指導員を適正に配置してきた。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 適応指導教室にも通うことができない、家庭にいる児童生徒が増加しているため、家庭訪問等必要な支援を行う必要がある。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 適応指導教室の充実を図るとともに、家庭にいる不登校児童生徒に対して、スクールソーシャルワーカーが中心となって、学校や関係機関との連携を図り、家庭訪問等学校への復帰に必要な支援を行う。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 2023年度までに、家庭にいる不登校児童生徒に対して、家庭への訪問等による支援体制を確立する。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|------------|----------|--------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 適応指導教室事業 | | 担当部課 | 教育部教育総務課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 適応指導教室事務事業 | 予算区分 | 9-1-1 教育委員会費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成13年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 学校生活に適応できない児童生徒を対象に、学校以外の場で、個々の児童生徒に応じた支援、プログラム学習(スポーツ、体験活動、個別学習)を実施している。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 不登校児童生徒が適応指導教室で安心して過ごすことができ、学校や社会への復帰を目指す。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|-------------|----------|------------|----------------|----------------|-----------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | | 8,416 8,229 | 8,272 8,056 | 10,316 9,097 | 10,323 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | 適応指導教室指導員報酬 | | | | | | 5,234 千円 |
| (2) | 適応指導教室指導員賃金 | | | | | | 3,077 千円 |
| (3) | 児童適応相談報償金 | | | | | | 330 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|-----|----------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| スクールソーシャルワーカーと適応指導教室の定期連絡会 | 回/週 | 見込 実績 | | - - | - - | 1 1 | 1 1 |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> スクールソーシャルワーカーと適応指導教室の定期連絡会を週1回実施し、不登校及び登校渋りのある児童生徒についての情報共有を行った。 こーひーぶれいくを年3回実施した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

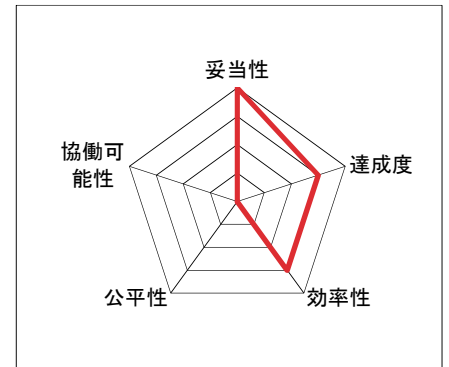
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成28年12月7日に「教育機会確保法」が成立し、学校以外の場の重要性が認められ、家庭への訪問等による支援の充実を図る必要があることが通知された。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 10,316 千円 10,323 千円 7 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| 適応指導教室指導員を増員し、学校、スクールソーシャルワーカーと連携し、学校や適応指導教室に通うことができない引きこりの児童生徒への支援を充実していく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| <ul style="list-style-type: none"> 適応指導教室指導員を1人増員した。 スクールソーシャルワーカーと適応指導教室の定期連絡会を週1回実施した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | - |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| | | | | |
|------------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 事業の性質上、協働、市民参加する事業には該当しないため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| <ul style="list-style-type: none"> 適応指導教室指導員を増員し、相談体制の拡充を図った。 スクールソーシャルワーカーと定期連絡会を実施することで、不登校及び登校渋りのある児童生徒について情報共有を行い、学校が関係機関との連携につなげることができた。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| <ul style="list-style-type: none"> 家庭にいる不登校児童生徒に対し、家庭訪問等必要な支援を行っていくために、スクールカウンセラーや心のアドバイザーとも連携していく必要がある。 適応指導教室の利用人数が増加傾向にあるため、2つめの適応指導教室を設置することも研究課題である。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|---|-----------------------|--|--------|------------|-----------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 092 - | 事業名 | 給食調理事業 | | 担当部課 | 教育部給食センター | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | | | 会計区分 | 一般会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | | 予算区分(款 - 項 - 目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 子どもが元気に育つまち | | | 9-5-3 給食センター費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市食育推進計画、あいち食育いきいきプラン2020 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 昭和47年度から給食センターで調理開始。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 給食の安定供給のため食材を不足無く調達する。給食用物資選定委員会を月1回開催し、物資を選定する。地場産農畜産物の使用に努め、多様な食材を安定確保する。安全衛生管理した安全な給食を提供する。平成28年2学期から一部調理等を委託化している。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市立小中学校児童生徒及び市立保育園園児 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 子どもたちが、安心して安全な給食を毎日食べることで、健全に育ち食に対する意識を高めることができるようになる。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 給食調理事業 | 改善・見直し | ④ | | | | |
| | ② 給食物資調達事業 | 改善・見直し | ⑤ | | | | | |
| | ③ | | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | - | 517,765 | 554,257 | 561,730 | 588,233 |
| | | | 決算 | - | 468,705 | 511,017 | 525,652 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | - | 49,859 | 31,847 | 31,124 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | - | 518,564 | 542,864 | 556,776 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 給食の供給割合 | % | 目標 | - | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| | | | 実績 | - | 100.0 | 100.0 | 100.0 | |
| | B 愛知県産食材の割合 | % | 目標 | 53.0 | 53.0 | 50.0 | 50.0 | 50.0 |
| | | | 実績 | 47.3 | 52.8 | 55.6 | 44.8 | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 提供した給食の実施割合により、給食の安定的な供給状況が判断できる。 | | | | | | | | |
| B 食材として使用した全農畜産物のうち愛知県産の占める割合(重量を基準)により、地元産食材の使用状況が判断できる。 | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 人件費や輸送費の高騰、天候による青果物の品不足により食材が高騰している。児童生徒数の増加ピーク期を迎え、施設の調理能力最大で稼働となる見込み。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 子どもたちに毎日給食を提供できた。愛知県産物資の使用について、献立や旬の時期をねらうなど工夫し努力したが、天候による生育状況などが原因で目標達成できなかった。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 学校給食調理等業務の一部を専門業者に委託化し安全衛生管理が進んだ。長久手市産食材の使用を推進したいが生産数から困難だったため、範囲を愛知県全体に拡大し地場産農畜産物の使用に努めた。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 献立を工夫し安価な旬のものを使用するようにしているが、平成30年度から食材費が高騰し必要な栄養価の充足のため努力と創意工夫が必要である。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 引き続き、子どもたちが、異物混入等の無い安心して安全な給食用物資を使用し衛生的に調理された給食を毎日食べることができるようにする。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成32年度から36年度にかけて児童生徒数ピーク期を迎え調理能力最大となるが、献立、調理の工夫で給食の提供を実施する。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 給食調理事業 | | 担当部課 | 教育部給食センター | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 給食調理事業 | 予算区分 | 9-5-3 給食センター費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・市立小中学校児童生徒及び市立保育園園児の食べる給食を調理する。 ・学校給食調理、学校給食配膳を民間会社に委託している。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 子どもたちに、衛生面に配慮した安心で安全な給食を毎日届ける。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|------------------|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | — | 154,869 | 169,149 | 171,071 | 173,381 |
| | | 決算 | — | 133,160 | 165,376 | 169,829 | — |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | 長久手給食センター調理等業務委託 | | | | | 132,764 千円 | |
| (2) | 配送業務委託 | | | | | 22,920 千円 | |
| (3) | 消耗品費 | | | | | 4,646 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 異物混入回数 | 回 | 見込 | — | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 実績 | — | 16 | 4 | 4 | — |
| 配膳員定数と比較した実績値 | 人 | 見込 | — | 19 | 19 | 19 | 19 |
| | | 実績 | — | 20 | 25 | 31 | — |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 異物混入を防ぐため、スライサーの調整を行い、食材に適した刃の交換をこまめに行った。 配膳従事者は、31名を配置することができた。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

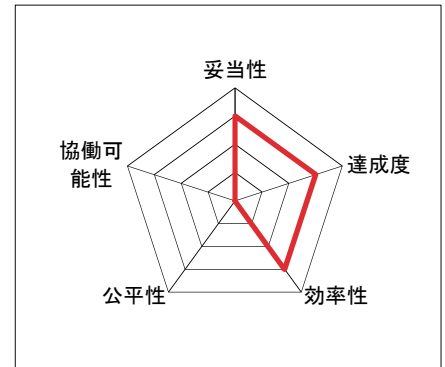
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| <ul style="list-style-type: none"> 毎年児童生徒数が増加しており、食数の増加が進んでいる。 衛生や安全に対する世間の意識は高まっている。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|--|----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 171,071 千円 | 173,381 千円 | 2,310 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | <ul style="list-style-type: none"> 労務管理に留意し、衛生管理や安全管理の確度を高める 衛生講習会や衛生検査、機器使用説明会を適宜実施し、作業員の衛生管理及び安全管理意識を高める 学校訪問や施設見学会を行い、作り手側と食べる側双方の給食に対する意識を高める | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| <ul style="list-style-type: none"> AEDを設置し、併せて救命講習会を実施し、従業員の安全意識が高まった。 衛生講習会を定期的に行い、ATP検査、食器等の洗浄残留物検査結果の情報共有を行い、調理作業員の安全意識が高まった。 市民の意見により試食を伴わない施設見学会を新設した。施設運営に興味のある見学者が新しい視点をもたらした。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | — |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 調理場内の調理業務に係る事業のため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| <ul style="list-style-type: none"> アレルギー対応給食の配膳状況の確認のため全校を視察し、教育総務課が主催するアレルギー検討委員会で情報共有した。 クリップの壊れた配膳用保温二重食缶を安易に買い換えるのではなく、クリップ部分の取替修繕をおこない、備品購入費の経費削減に努めた。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| <ul style="list-style-type: none"> アレルギー対応給食の配膳について、学校により細かい運用が異なるが、安全確保のためなるべく均質な対応となるよう基本事項を学校側に提案していく。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 給食調理事業 | | 担当部課 | 教育部給食センター | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 給食物資調達事業 | 予算区分 | 9-5-3 給食センター費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) <ul style="list-style-type: none"> ・ 市立小中学校児童生徒及び市立保育園園児が食べる給食用物資を対象にする。 ・ 食材を不足無く調達する。 ・ 給食用物資選定委員会を開催する。 ・ 地場産農畜産物を優先使用している。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 安心して安全な給食を安定して供給できることを優先に、地場産食材をできるだけ多く使用する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|--------------------|--------------------|--------------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | — — | 362,896 335,545 | 385,108 345,641 | 390,659 355,823 | 414,852 |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | 賄材料費 | | | | 355,823 千円 | |
| (2) | | | | | | 千円 | |
| (3) | | | | | | 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 地場産農産物の品目数 | 品 | 見込 実績 | 40 42 | 45 37 | 45 40 | 45 34 | 45 |
| 食材残留農薬検査の実施 | 回 | 見込 実績 | — — | — 1 | 2 2 | 2 2 | 2 |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちの食材への関心を高めるため、地元産食材が旬となる季節に使うなど献立の工夫を行った。 ・ 食材残留農薬検査の実施により、市場を通らない地元産食材の安全性を確認した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

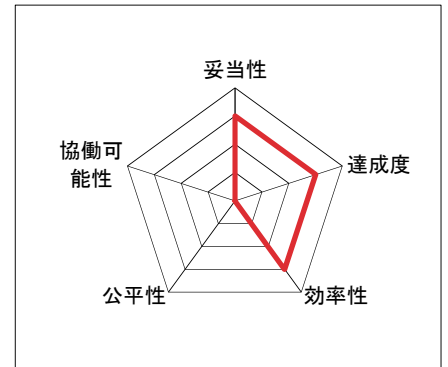
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年児童生徒数が増加しており、食数の増加が進んでいる。 ・ 物価が上がり、栄養素の充足のためにさらなる工夫が必要となっている。 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 390,659 千円 414,852 千円 24,193 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・ 前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・ 前年度【コメント】 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 担当課と連携し、地元生産者の協力を得て地元産食材の使用、紹介に努め、地産地消を推進する。 ・ 引き続き、地元産食材に対し残留農薬検査を実施し安全性を確かめる。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校給食献立表に献立で使用予定の長久手市産野菜及び生産者名を（6月、7月、11月～3月）、給食だより「ながくての給食」3学期号で真菜と生産者を紹介した。 ・ 市場を通らない地元産食材2種に残留農薬検査を実施し、安全性を確認した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | — |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数 (人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況 (30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 長久手給食食材生産者会との懇談会を実施し、生産者のつくりたいものの方向性と給食で使用する食材のニーズの違いがあり、長久手市産農産物の推進に多くの課題があるため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 行事食や伝統食の提供や、季節感のある食材や地場産食材を使用するように努め、子どもたちに食について興味関心を持たせるようにした。 ・ 栄養士が学校や保育園に赴き栄養指導を行い、食材についての話や食に関するマナーなど食育の推進に取り組んだ。 ・ 葉物食材始め、人件費や輸送費の高騰により食材価格が値上がり中、費用を抑えつつ栄養価を確保することに努力した。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 食材の値上がりは今後も進むと予想されるため、限られた費用の中で子どもの食を進め栄養価を充足するよう献立や調理法、使用食材の工夫にいつそうの努力が必要である。 ・ 児童生徒数のピーク期を迎えるにあたり、時間内に提供できるよう献立や調理法を工夫する。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | | |
|-------------|---|---|---------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|-----------|--|
| 事業番号 | 093 | 事業名 | 中央図書館事業 | | 担当部課 | 教育部中央図書館 | | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 文化をみがき、人が輝くまち | 会計区分 | 一般会計 | | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | 予算区分(款—項—目) | | | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 子どもが元気に育つまち | 9-4-4 図書館費 | | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 図書館法、第2次子ども読書活動推進計画 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 市民の読書活動を支える場として、平成4年に開館した。 | | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 図書館法に基づき、図書等を収集、整理、保存し、市民に提供する。 | | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民を始めとする図書館利用者。貸出対象は、市在住、在学、在勤、在園者と広域地区利用者(瀬戸市、尾張旭市、日進市、豊田市、名古屋市名東区、守山区)。 | | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民の教養の向上、調査研究等の課題解決、レクリエーション及び生涯学習活動の充実等を意図する。 | | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 中央図書館運営事業 | 拡充 | ④ | | | | | |
| | ② 中央図書館管理事業 | 拡充 | ⑤ | | | | | | |
| | ③ 講座等企画事業 | 拡充 | ⑥ | | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 決算 | 159,291 144,189 | 89,493 86,851 | 92,309 88,861 | 96,705 93,885 | 97,375 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 37,199 | 34,531 | 46,719 | 57,342 | | |
| | 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 181,388 | 121,382 | 135,580 | 151,227 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | |
| | A 市内利用者の貸出点数 | 点 | 目標 実績 | 296,266 314,331 | 308,110 310,802 | 320,400 311,642 | 330,000 322,229 | 328,000 | |
| | B 第2次子ども読書活動推進計画事業の進捗率 | % | 目標 実績 | — — | — — | — — | 20 12 | 30 | |
| | C | | 目標 実績 | | | | | | |
| | 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| | A 長久手市民への個人貸出の貸出総点数の増減が、長久手市民の利用状況を端的に表しているため。 B 第2次子ども読書活動推進計画(H30年-34年、5年計画)の各事業の達成状況の割合から計画全体の進捗率が判断できる。 C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市(瀬戸市、尾張旭市、日進市)の中でH29年度現在「市民一人あたりの貸出点数」は、当市は第2位である。愛知県内での子ども読書活動推進計画の策定状況は73%である。 | | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 市内利用者の貸出点数はH29年度よりも約3%増加となった。他の統計値は、新規登録者数も3%増加した。第2次子ども読書活動推進計画のH30年度分の目標は全体の62%達成した。 | | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 貸出冊数全体は横ばいであるが、種類別では児童書の貸出が増加傾向であるため、子ども読書活動推進計画の成果が上がっていると考えられる。図書ボランティアの登録者数は増えており、その結果、ボランティアの経験年数も伸び、図書館が生きがい形成の場としての機能を高めている。 | | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 市内登録率が人口の約55%であるため、新たな施策を検討し、市内を始めとした新規登録者と貸出冊数の増加を図りたい。 | | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 郷土行政資料のレファレンス強化を図ると共に、レファレンスカウンターへ職員を常駐化させて地域の情報センターを目指す。第2次子ども読書活動推進計画の目標値達成に努め、学校や児童館等との連携事業を拡充していく。図書ボランティアと協働し、市民参加型の図書館運営を継続する。 | | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 郷土行政資料を年間約200冊を目標に収集する。第2次子ども読書活動推進計画に上げている「中央図書館での小学生までの貸出冊数」を年約3,300冊増加させる。 | | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理の導入を検討してください。 ・図書の管理にICチップ、セルフレジの導入と合わせて、窓口職員の削減を検討してください(費用対効果の検証を行ってください)。 ・行政改革指針に基づき、アウトソーシング(指定管理者制度、外部委託など)を検討してください。 ・近隣市町だけでなく、広範囲で比較検討してください。(貸出点数のみではなく、『総コスト』も比較してください。) |
|------|-------------------------|---|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|---------------|----------|------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 中央図書館事業 | | 担当部課 | 教育部中央図書館 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 中央図書館運営事業 | 予算区分 | 9-4-4 図書館費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成4年度（1992年度） | 終了（予定）年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民を始めとする図書館利用者に対し、図書等を収集、整理、保存し、提供する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とし、市民の読書活動の活性化を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-----------|------------------|------------------|------------------|------------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 67,292 75,616 | 66,044 62,152 | 71,506 69,815 | 70,135 68,819 | 70,879 |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | 一般事務嘱託員報酬 | | | | | 20,958 千円 |
| (2) | | 図書資料 | | | | | 20,000 千円 |
| (3) | | 光熱水費 | | | | | 9,963 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 小学生までの貸出冊数 | 冊 | 見込 実績 | — 126,750 | — 130,629 | — 133,477 | — 136,505 | 139,700 |
| 郷土行政資料の受入数 | 冊 | 見込 実績 | — 309 | — 239 | — 188 | — 197 | 200 |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 中央図書館で貸出しされた小学生までの冊数を読書の好きな子どもが増える指標とする。 郷土行政資料の受入冊数を司書業務である地域資料収集事業の指標とする。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

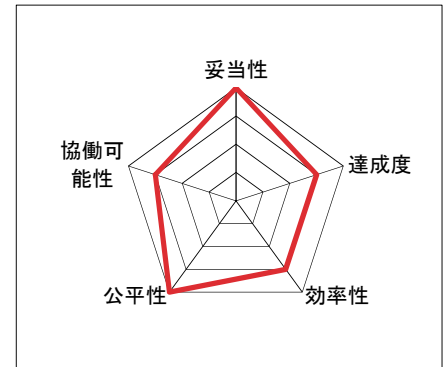
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 子ども読書活動推進計画の策定が全国的に進み、図書館が学校や児童館、保育園等の外部施設と連携する事業形態が増えている。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 70,135 千円 70,879 千円 744 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| <ul style="list-style-type: none"> 「第2次長久手市子ども読書活動推進計画」を策定したことから、計画に記された各種取組を実施していく。 行政資料を含めた郷土資料の収集、保存、整理を行う。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| <ul style="list-style-type: none"> 第2次子ども読書活動推進計画のH30年度取組項目は62%目標達成した。 郷土行政資料は197冊収集し、特別整理期間で特別資料閲覧室の開架閉架の図書を200冊入れ替えた。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） 図書ボランティア登録者数 | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 70 | 80 | 70 | 90 |
| 実績 | 76 | 65 | 84 | |

(2) 協働の状況（30年度(2018)）

| |
|--|
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) おはなし会、図書修理、返本書架整理等の図書ボランティアが継続的に参加している。H30年度は、新たに障がい者向け図書である点訳絵本の作成を点訳ボランティアと協働で開始した。 |
|--|

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) <ul style="list-style-type: none"> H30年8月から館外返却ポストを市が洞小校区共生ステーション1か所を増設し、館外の返却場所を合計3か所とした。 市内の全児童館に司書が選定した良質な図書を貸出す「団体貸出」を行った。 長久手高校と連携し、新たに高校生による本のPOP展示企画を中央図書館で開催した。 |
|--|

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 子どもの利用増加に伴い、おはなし会の開催数を増やすため、ボランティアの育成・増員が課題である。ボランティアの年齢が高齢化しているため、新たな人材を育成し、おはなし会の継続と拡大に努める。 |
|---|

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 拡充 |
|----|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|---------------|----------|------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 中央図書館事業 | | 担当部課 | 教育部中央図書館 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 中央図書館管理事業 | 予算区分 | 9-4-4 図書館費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成4年度（1992年度） | 終了（予定）年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民を始めとする図書館利用者が快適に施設利用できるよう、図書館設備の管理・運営をする。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とし、市民の読書活動の活性化を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 91,779 | 23,086 | 20,440 | 26,286 | 26,211 |
| | | 決算 | 68,423 | 24,523 | 18,884 | 24,901 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | 清掃等管理委託 | | | | 8,265 | 千円 |
| (2) | | 駐車場・駐輪場借地料 | | | | 4,484 | 千円 |
| (3) | | 火災報知設備改修工事 | | | | 4,428 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 清掃委託日数 | 日 | 見込 | 309 | 306 | 305 | 308 | 307 |
| | | 実績 | 309 | 306 | 305 | 308 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| 日常清掃及び毎月の全館清掃（カーペットクリーニング、床面洗浄、ガラス清掃等）の日数 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

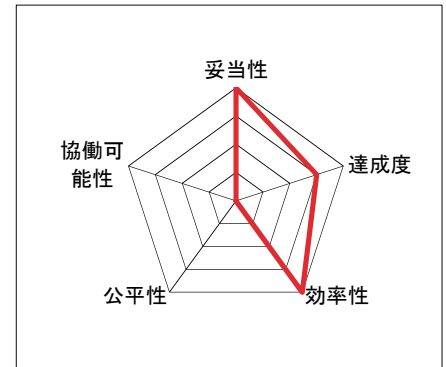
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 日本人の生活様式の変化に伴い、利用者から洋式トイレの数を増やすことが求められている。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 26,286 千円 26,211 千円 Δ 75 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| 施設の建物診断を行い、修繕計画を作成し計画的に修繕することで建物の長寿命化を図っていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 建物の適正なメンテナンスを行うため、市でまとめた公共施設点検マニュアルを活用し、職員による建物の目視確認を継続し修繕計画に反映させる。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | — |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-----------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 図書ボランティアは「図書に関わること」で活動しているため該当なし。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| ・利用者の快適性向上のために、1階に読書用椅子を11席増設した。 ・1階部分全ての席で利用者の持込端末が使用できるようにし、利便性を高めた。(Wi-Fi対応可) |

(改善が必要なこと、改善の方法など)

| |
|--|
| ・修繕計画を作成し、計画的に修繕することにより建物の長寿命化を図る。 ・利用者の持込端末の電源を確保するために図書館の机等に電源を設置する必要がある。 |
|--|

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|---------------|----------|------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 中央図書館事業 | | 担当部課 | 教育部中央図書館 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ③ | 講座等企画事業 | 予算区分 | 9-4-4 図書館費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成4年度（1992年度） | 終了（予定）年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民を始めとする図書館利用者に対し、図書館講座やギャラリー企画展示を実施する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 生涯活動の場として市民が図書館を活発に利用するとともに、市民が図書館事業へ参加できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 220 | 363 | 363 | 284 | 285 |
| | | 決算 | 150 | 176 | 162 | 165 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | ギャラリー企画展報償金 | | | | 90 | 千円 |
| (2) | | 図書館講座等講師謝礼 | | | | 30 | 千円 |
| (3) | | 印刷製本費 | | | | 22 | 千円 |

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 講座参加者数 | 人 | 見込 | 30 | 40 | 40 | 13 | 13 |
| | | 実績 | 30 | 60 | 22 | 8 | |
| ギャラリー企画 展示回数 | 回 | 見込 | 2 | 3 | 4 | 4 | 3 |
| | | 実績 | 2 | 4 | 3 | 3 | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 図書館修理ボランティアを対象とした上級者向け図書館講座の参加者数 ギャラリー企画展示の実施回数（H30年度：現代美術展、中学生美術展、折り紙展） | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

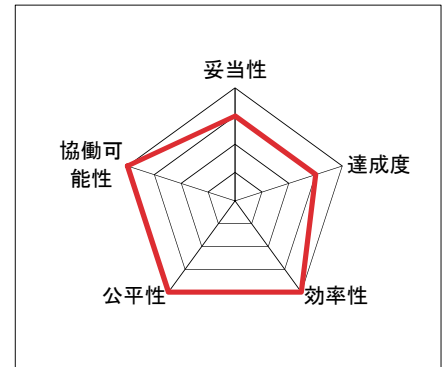
| |
|-----------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| ・他館では、講座やイベントの企画内容が多様化している。 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 284 千円 285 千円 1 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| <ul style="list-style-type: none"> 美術展等の企画展示は、催事内容について中央図書館で行う意義を改めて検討したい。 講座・企画の種類についても、図書の本にとられない「認知症と読書」など、視野を広げたテーマ設定を検討していきたい。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| <ul style="list-style-type: none"> 現代美術展の企画内容を見直す方向で県芸大と協議し始めた。テーマや展示方法等、今後、新たな取組を考える。 長寿課、社会福祉協議会とのコラボ企画として、認知症についての企画展示を催すとともに、福祉の家の認知症啓発本棚（オレンジ棚）設立に協力した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | 4 |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数（人） 図書修理ボランティア講座参加者数 | | | | |
|-----------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 10 | — | 10 | 10 |
| 実績 | 13 | — | 8 | |

(2) 協働の状況（30年度(2018)）

| |
|---|
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) |
| <p>図書修理ボランティア養成講座（上級編）を開催した。受講者は、図書ボランティアとして図書館の破損本の修理を担い、その実績は年間約2,000冊に及んでいる。</p> |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| <ul style="list-style-type: none"> 図書修理ボランティアが新たに布絵本の修理を試みることとなった。障がい者向け図書のサービス拡大につながる。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| <ul style="list-style-type: none"> 図書館講座の種類・回数を増やし、市民の参加を促していきたい。 経験値の高い図書修理ボランティアが増えているため、関連施設での図書修理の講師等、活躍の場を増やしたい。 |

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 拡充 |
|----|

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|-------------|---|-----|--|-----------------|-------|
| 事業番号 | 094 - | 事業名 | 議会運営事業 | 担当部課 | 議会事務局 |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | — | | 会計区分 | 一般会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | 予算区分(款 - 項 - 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | | 1-1-1 議会費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 地方自治法、長久手市議会基本条例、長久手市議会会議規則、長久手市議会委員会に関する条例等 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 地方分権の推進により、地方への権限委譲が進み、議会が市民の代表機関として果たすべき役割が重要となっている。 | | | | |

| | | | | | | |
|-------|-----------------|---|----------|-------------|--------|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 議会運営全般に係る事業 | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民、市議会議員 | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市議会に対する関心を高める。議会及び議員活動を活性化させる。 | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 議会事務事業 | 改善・見直し | ④ 議会だより発行事業 | 改善・見直し | |
| | ② 会議録作成事業 | 改善・見直し | ⑤ 議会研修事業 | 改善・見直し | | |
| | ③ 録画配信事業 | 改善・見直し | ⑥ | | | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | | 16,989 | 16,686 | 19,011 |
| 決算 | | | | | 14,106 | 13,365 | 20,711 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | | 27,497 | 28,997 | 30,826 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | | 41,603 | 42,362 | 51,537 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------|-------------------|----|--------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A HP(会議録)年間アクセス数 | 件 | 目標 | - | - | - | 2,433 | 2,745 |
| | | | 実績 | 2,421 | 2,592 | 2,433 | 2,745 | |
| | B HP(録画映像)年間アクセス数 | 件 | 目標 | - | - | - | 17,838 | 14,441 |
| 実績 | | | 19,143 | 19,083 | 17,838 | 14,441 | | |
| C | | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A HPへのアクセス数から市民の議会への関心度を判断する。

B HPへのアクセス数から市民の議会への関心度を判断する。

C

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市議会と同程度の内容を実施している。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|---|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 年度により増減はあるが、一定のアクセス数を保っている。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 議会運営に必要な経費や議員活動の情報発信等の事務事業であるため、活動内容の評価が困難である。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 議会運営を円滑に進めるため、事業を継続して行う。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) - |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|----------|------|-----------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 議会運営事業 | 担当部課 | 議会事務局 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① 議会事務事業 | 予算区分 | 1-1-1 議会費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | - | | 終了(予定)年度 | - |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 議会運営を円滑に進める。 議員に対し政務活動費を交付する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 議員活動を活性化する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|-----------|------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 5,038 | 5,038 | 5,106 | 6,430 | 5,654 |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | 議会備品 | | | | 5,499 | 千円 |
| (2) | | 政務活動費 | | | | 1,573 | 千円 |
| (3) | | 一般事務嘱託員報酬 | | | | 1,528 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|-------------------------------------|----|----------|------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 政務活動費執行額 | 千円 | 見込 実績 | 1,573 | 1,518 | 1,651 | 1,651 | 1,573 |
| - | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| 交付額2,030,000円、執行額1,573,413円 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

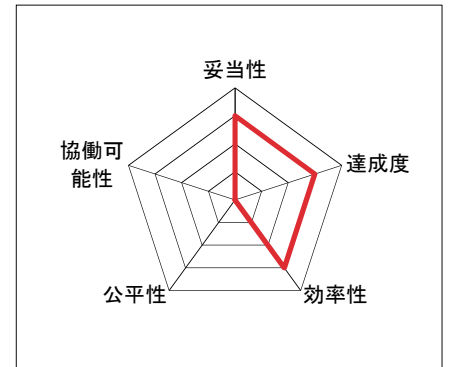
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 議会運営に必要な経費の管理等を行う。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|----------------------------------|----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 6,430 千円 | 5,654 千円 | △ 776 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | 政務活動費は議員活動によるものであるため、行政評価が困難である。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| - | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | - |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | - | - | - | - |
| 実績 | - | - | - | - |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 政務活動費は議員活動によるものであるため、市民参加することはできない。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| - |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 効果的な支出が行われるよう政務活動費は透明性の確保が必要だが、議員活動によるものであるため行政単独の判断による改善等は困難である。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|---------|----------|-----------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 議会運営事業 | | 担当部課 | 議会事務局 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 会議録作成事業 | 予算区分 | 1-1-1 議会費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | - | 終了(予定)年度 | - | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 地方自治法第123条に基づき会議録を作成する。作成した会議録はインターネットで公表し、議会活動を発信する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市議会に対する関心を高める。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|--------------|------------|----------------|----------------|----------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | | 3,505 3,439 | 3,629 3,293 | 4,123 3,342 | 4,336 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 議会会議録作成業務委託 | | | | 2,803 | 千円 |
| (2) | | 会議録検索システム使用料 | | | | 389 | 千円 |
| (3) | | 議会会議録配信業務委託 | | | | 149 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------|----|----------|------------|------------|------------|----------------|-----------|
| 会議時間数 | 時間 | 見込 実績 | | - 94 | - 90.5 | 90.5 91.5 | 91.5 |
| ページ数 | 枚 | 見込 実績 | | - 1,436 | - 1,354 | 1,354 1,384 | 1,384 |

<備考：活動の概要(30年度(2018))>
 会議時間及び会議録ページ数
 第1回定例会26.5時間、405ページ、第1回臨時会1.5時間、22ページ、第2回定例会20時間、310ページ、第3回定例会22.5時間、345ページ、第4回定例会21時間、302ページ

4. 事務事業を取り巻く環境変化

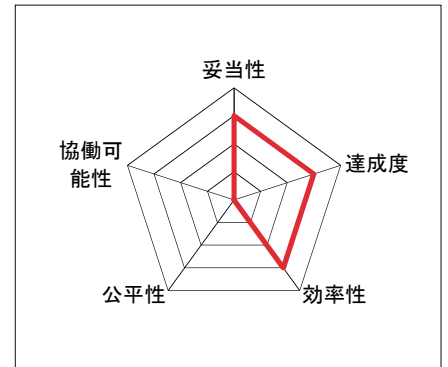
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市議会と同程度の内容を実施している。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 4,123 千円 4,336 千円 213 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| 事業の大半は、地方自治法第123条に基づき、会議録を作成する事業であるため、目標が設定できない。会議時間により会議録のページ数は変動し、また、臨時会が招集されるとその都度作成する必要があるため、事務事業としての評価が困難である。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| - |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | - |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|--|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | - | - | - | - |
| 実績 | - | - | - | - |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 事業の大半は、地方自治法第123条に基づき、会議録を作成する事業であるため、市民参加することはできない。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| - |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 地方自治法に基づく事業であり、近隣市でも同程度の内容を実施しており現状維持とする。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

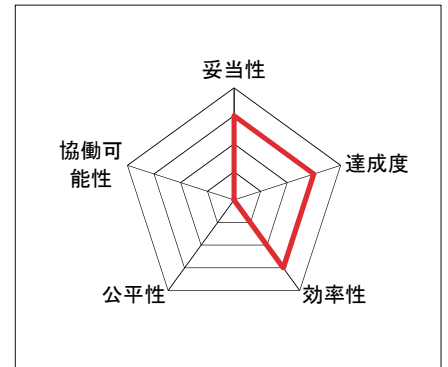
| | | | | | |
|---------|----------|----------------|-----------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 議会運営事業 | 担当部課 | 議会事務局 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ③ 録画配信事業 | 予算区分 | 1-1-1 議会費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成23年度(2011年度) | | 終了(予定)年度 | - |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民に対し議会活動を情報発信するため、本会議（一般質問）の様子を市役所庁舎2か所で生中継する。録画映像をインターネットで放映する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市議会に対する関心を高める。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | - |
| 協働可能性 | - |



2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|-----------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | | 1,846 | 1,846 | 1,948 | 2,020 |
| | | 決算 | | 1,799 | 1,801 | 1,823 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | 議会モニター撮影委託 | | | | 853 | 千円 |
| (2) | | 議会録画映像配信システム使用料 | | | | 778 | 千円 |
| (3) | | 議会録画映像配信業務委託 | | | | 192 | 千円 |

【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
|--|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | - | - | - | - |
| 実績 | - | - | - | - |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 議会撮影および配信業務は、専門的技術等が必要であり市民参加になじまないため。 | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 録画時間数 | 時間 | 見込 | | - | - | 67 | 63.5 |
| | | 実績 | | 66.5 | 67 | 63.5 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| 録画時間数 第1回定例会16時間、第2回定例会16時間、第3回定例会16時間、第4回定例会15.5時間 | | | | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| - |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 瀬戸市：本会議、委員会（議案審査が行われる委員会のみ）のライブ配信及び録画配信 |
| 尾張旭市：本会議のライブ配信及び録画配信 |
| 日進市：本会議のライブ配信及び録画配信 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| スマートフォン等による視聴に対応していないため、システム改修や新規の配信方法を研究する必要があるが、議会運営委員会等での協議が必要であり、行政単独の判断による改善は困難である。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|------------|-------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 1,948 千円 | 2,020 千円 | 72 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| 事業の拡大及び見直しは議会運営委員会での協議が必要であり、事務事業としての評価が困難である。 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| - | | |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|-------------|---------------|-----------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 議会運営事業 | 担当部課 | 議会事務局 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ④ 議会だより発行事業 | 予算区分 | 1-1-1 議会費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成8年度(1996年度) | | 終了(予定)年度 | - |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民に対し議会活動を情報発信するため、臨時会1回と定例会4回について議会だよりを作成し、全世帯へ配布する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市議会に対する関心を高める。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|-----------|----------|---------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 4,661 3,648 | 4,661 3,648 | 4,259 3,103 | 4,627 3,877 | 4,444 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | 印刷製本費 | | | | 3,301 | | 千円 |
| (2) | 議会だより配布委託 | | | | 575 | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|--------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 発行部数 | 部 | 見込 | 133,000 | 133,000 | 136,500 | 140,500 | 140,500 |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 議会だより5月号27,900部、7月号28,400部、8月号28,000部、11月号28,100部、2月号28,100部 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

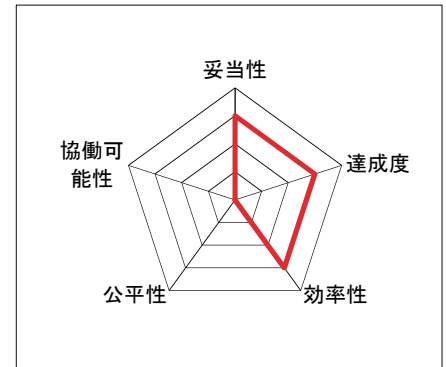
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) より多くの市民に議会だよりを手にとってもらい、議会への興味・関心を喚起する目的として、平成29年度途中に企画提案方式(プロポーザル)による議会だより印刷製本業者を選定した。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|--|----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 4,627 千円 | 4,444 千円 | △ 183 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | 議会だより編集特別委員会を設置し、議員による執筆、編集により発行しているため、事務事業としての評価が困難である。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| - | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | - |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | - | - | - | - |
| 実績 | - | - | - | - |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 議会だより編集特別委員会を設置し、議員による執筆、編集により発行しているため、市民参加は困難である。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| - |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 平成29年度にはプロポーザル方式でより見やすいデザインとなるよう業者選定をして改善してきたが、議会だより編集特別委員会を設置し、議員が執筆・編集に携わって発行していることから行政単独の判断による改善は困難である。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|--------|----------|-----------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 議会運営事業 | | 担当部課 | 議会事務局 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ⑤ | 議会研修事業 | 予算区分 | 1-1-1 議会費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | - | 終了(予定)年度 | - | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市議会主催の研修会を全議員に対して実施する。 委員会の視察研修を実施する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 各種研修を行い、議員活動を活性化する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | | 1,939 1,589 | 1,846 1,207 | 1,883 864 | 1,650 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 費用弁償 | | | | 659 | 千円 |
| (2) | | 特別旅費 | | | | 112 | 千円 |
| (3) | | 自動車借上料 | | | | 79 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 視察研修 | 回 | 見込 | 4 | 4 | 4 | 4 | 3 |
| | | 実績 | 3 | 4 | 4 | 4 | 3 |
| 議員研修 | 回 | 見込 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | | 実績 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |

<備考：活動の概要(30年度(2018))>
3常任委員会が視察研修を実施
議会基本条例に基づき全議員を対象に研修を実施(三重県いなべ市議会「予算決算常任委員会化について」)

4. 事務事業を取り巻く環境変化

(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
議会基本条例第14条に基づき、平成27年度から市議会主催の研修会を年1回実施している。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況

| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
|------------|------------|----------|
| 1,883 千円 | 1,650 千円 | △ 233 千円 |

(2) 前年度の評価状況《参考》

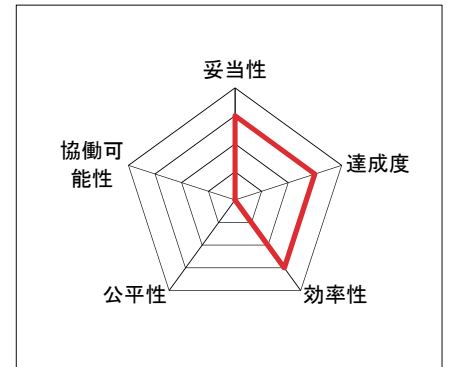
- 前年度【今後の方向性】 現状維持
- 前年度【コメント】

議会基本条例に基づき委員会及び議会が実施する研修に必要な経費であるため、事務事業としての評価が困難である。

(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
-

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | - |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)

| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|----|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 見込 | - | - | - | - |
| 実績 | - | - | - | - |

(2) 協働の状況(30年度(2018))
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)
議会基本条例に基づき委員会及び議会が実施する研修のため、市民参加は困難である。

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
-

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
議会基本条例に基づき実施されるものであり、より効果的な視察が行えるように議員へ情報提供していく必要があると考える。市民の意思を市政に的確に反映させるため、目的に合った視察を実施し、議会活動の充実を図る必要があるが、委員会ごとに活動されるため行政単独の判断による改善は困難である。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|---|---|---|--------|------------|-------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 095 | 事業名 | 監査運営事業 | | 担当部課 | 監査委員事務局 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | | | 会計区分 | 一般会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | | 予算区分(款—項—目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 市民から信頼される市政の運営 | | | 2-6-1 監査委員費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 地方自治法、地方公共団体の財政の健全化に関する法律、地方公営企業法 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 地方自治法、地方公共団体の財政の健全化に関する法律及び地方公営企業法の規定による。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 地方自治法、地方公共団体の財政の健全化に関する法律及び地方公営企業法の規定に基づき、財務に関する事務の執行及び経営に係る事業の管理について、監査、検査及び審査を実施する。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市の財務に関する事務の執行及び経営に係る事業の管理並びに事務の執行 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市の行政の適法性、効率性、妥当性の保障を期すものとする。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 監査運営事業 | 拡充 | ④ | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | | 2,500 | 2,446 | 2,410 | 2,456 |
| | | | 決算 | | 2,308 | 2,441 | 2,288 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | | 27,497 | 28,997 | 28,613 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | | 29,805 | 31,438 | 30,901 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 法令どおりの実施割合 | % | 目標 | — | — | — | 100 | 100 |
| | | | 実績 | 100 | 100 | 100 | 100 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 監査、検査、審査を地方自治法及び地方公共団体の財政の健全化に関する法律等の規定どおり実施することを成果目標とした。 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 地方自治法及び地方公共団体の財政の健全化に関する法律の規定に基づき、各自治体等において実施されている。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 監査、検査、審査を地方自治法、地方公共団体の財政の健全化に関する法律及び地方公営企業法の規定どおり実施している。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 監査、検査、審査を地方自治法及び地方公共団体の財政の健全化に関する法律等の規定どおり実施できた。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 地方自治法の改正により、令和2年4月までに監査基準を定め、公表する必要がある。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 監査、検査、審査を地方自治法、地方公共団体の財政の健全化に関する法律及び地方公営企業法の規定どおり実施する。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 監査、検査、審査を地方自治法、地方公共団体の財政の健全化に関する法律及び地方公営企業法の規定どおり実施する。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

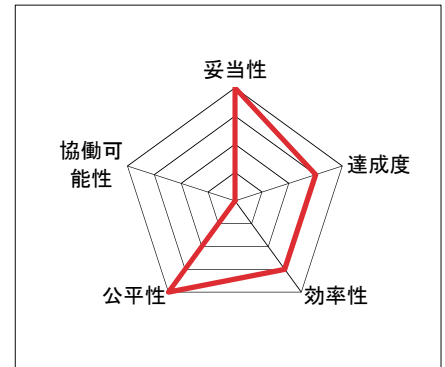
| | | | | | | |
|---------|----------|--------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 監査運営事業 | | 担当部課 | 監査委員事務局 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 監査運営事業 | 予算区分 | 2-6-1 監査委員費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市の財務に関する事務の執行及び経営に係る事業の管理並びに事務の執行に対し、地方自治法、地方公共団体の財政の健全化に関する法律及び地方公営企業法の規定に基づき、監査、検査及び審査を実施する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市の行政の適法性、効率性、妥当性の保障を期すものとする。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--|----|----------|------------|----------------|----------------|----------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | — — | 2,500 2,308 | 2,446 2,441 | 2,410 2,288 | 2,456 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> (1) 監査委員報酬 1,152 千円 (2) 消耗品費 576 千円 (3) 工事関係技術調査委託 194 千円 | | | | | | | |

【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|--|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 監査は監査委員が法令に定められた権限に基づき実施するもので、市民と協働し実施するものではないため評価することができない。 | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|----|----------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 法令どおりの実施割合 | % | 見込 実績 | — 100 | — 100 | 100 100 | 100 100 | 100 |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> 監査、検査、審査を地方自治法、地方公共団体の財政の健全化に関する法律及び地方公営企業法の規定どおりに実施する。 (平成30年度) 例月出納検査12日、定期監査及び行政監査6日、工事監査2日、財政援助団体等監査1日、決算審査9日、健全化判断比率等審査1日 | | | | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 平成30年4月に下水道事業が法適用化され、公営企業会計の検査、監査を実施した。 |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 地方自治法が改正され、平成30年4月からは市の条例で定めれば議員選出の監査委員を置かなくてもよくなった。 令和2年4月までに監査基準を定め、公表する必要がある。 |

【改善ポイント】

| |
|--------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 職員のレベルアップ |

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 2,410 千円 2,456 千円 46 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| 特になし。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 下水道事業の法適用化により、要項の改正や監査資料等の検討を行い、公営企業会計の検査、監査を実施した。 |

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 拡充 |
|----|

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|--|--|--|---------------|------------|-------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 096 | 事業名 | 国民健康保険・趣旨普及事業 | | 担当部課 | 福祉部保険医療課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | — | | | 会計区分 | 国民健康保険特別会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | | 予算区分(款—項—目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | | | 1-4-1 趣旨普及費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 国民健康保険法 | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 国民健康保険の制度改革について、国保被保険者にわかりやすく伝えるためにパンフレット等の媒体を活用して周知する事業を実施する。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 国保制度が抱える課題や国保制度改革の内容を「わかりやすく」被保険者に周知するためにパンフレット等を作成し、広報する。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民(国保被保険者) | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 国保制度の課題及び国保制度改革について理解できるようにする。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 国民健康保険・趣旨普及事業 | 改善・見直し | ④ | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 336 | 1,147 | 234 | 1,280 | 1,251 |
| | | | 決算 | 159 | 671 | 424 | 1,065 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | - | 1,910 | 2,175 | 2,305 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | - | 2,581 | 2,599 | 3,370 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A パンフレットの作成・配布 | 回 | 目標 | 1 | 2 | 3 | 3 | 3 |
| | | | 実績 | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| | B 広報紙への掲載 | 回 | 目標 | 1 | 1 | 3 | 3 | 3 |
| | | | 実績 | 1 | 3 | 2 | 2 | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 国保制度について解説するパンフレットを作成・購入し、被保険者世帯全体に配布することで理解を促す。 | | | | | | | | |
| B 国保制度改革、重症化予防、医療費適正化等、広報に特集記事を掲載し、市民全体への周知を図る。 | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 新しい政策手法として「ナッジ(無意識によい選択を促す)手法」を応用して案内を作成し、行動変容を促す取組が目玉されている。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 保険税率の改正について、2回にわたり全被保険者世帯に送付することで、理解を得ることができた。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 平成28年度からイラストを活用した広報が定着してきている。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) わかりやすく説明するだけでなく、国保被保険者の実際の行動を引き出す広報が必要。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 国保被保険者の実践行動(健診受診、医療の適正受診)を引き出す広報を行う。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成31年度 国保の財政状況、医療費の状況など客観的なデータを基にして広報を行う。 平成32年度 国保被保険者の実践行動を引き出すような事業と連動させる。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|---------------|---------------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 国民健康保険・趣旨普及事業 | | 担当部課 | 福祉部保険医療課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 国民健康保険・趣旨普及事業 | 予算区分 | 1-4-1 趣旨普及費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | — | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 納税通知書に国保制度改正や保険税率改正についてのパンフレットを同封。 保険証、高齢受給者証に制度案内のパンフレットを同封。 広報に国保制度改正に関する特集記事を掲載。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 国保制度改正の内容についての理解を深め、自分たちの問題として考えてもらえるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 336 | 1,147 | 234 | 1,280 | 1,251 |
| | | 決算 | 159 | 671 | 424 | 1,065 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) 消耗品費 | | | | | | 654 千円 | |
| (2) 印刷製本費 | | | | | | 411 千円 | |
| (3) | | | | | | 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| パンフレットの作成・配布 | 回 | 見込 | 1 | 2 | 3 | 3 | 3 |
| | | 実績 | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 広報掲載 | 回 | 見込 | 1 | 1 | 3 | 3 | 3 |
| | | 実績 | 1 | 3 | 2 | 2 | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> パンフレット作成 6,000部（5月制度周知案内：5,724件、窓口配布で活用） 8,000部（7月納税通知書同封：5,820件、窓口配布で活用） 広報紙掲載 平成30年5月号、9月号（保険税算定方法） | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

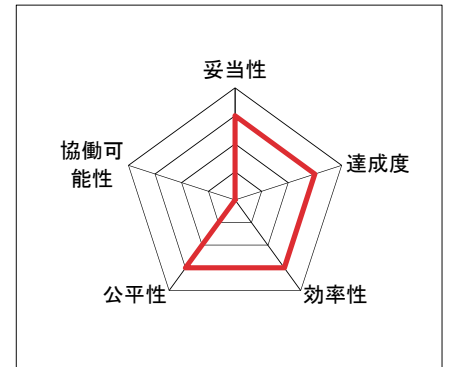
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 新しい政策手法として「ナッジ（無意識によい選択を促す）手法」を応用して案内を作成し、行動変容を促す取組が注目されている。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 1,280 千円 1,251 千円 Δ 29 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| イラストを活用した広報の特集記事やダイレクトメールにより国保制度等について周知理解してもらう。 送付時には封筒に「必ずご開封ください」等の注意書きや中身が分かるように表示して、見てもらえるような工夫をする。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 広報掲載だけでなく、国保加入世帯にダイレクトメールで送付した。送付にあたり、封筒を目立つ色（黄色）とし、国保制度改正の内容及び「必ずご開封ください」との文言を記載し、見てもらえるような工夫を施した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 国保加入全世帯に国保制度改正を知らせるダイレクトメールを送付したところ、100件を超える問合せをいただいた。問合せに対しては、事前にパンフレットの説明内容を職員全体で共有し、誰もが適切な対応ができるように準備を行った。 |
|---|

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 広報等で単に知らせるだけでなく、医療費適正化など国保加入者の実際の行動変容につながるよう内容・デザインに工夫を凝らす必要がある。 |
|--|

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | | |
|--|-----------------------|---|----------|------------|------------|-----------------|------------|-----------|--|
| 事業番号 | 097 - | 事業名 | 保健衛生普及事業 | | | | 担当部課 | 福祉部保険医療課 | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | — | | | | 会計区分 | 国民健康保険特別会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | | | 予算区分(款 - 項 - 目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | | | | 5-1-1 保健衛生普及費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 国民健康保険法 | | | | | | | |
| | 事業開始の背景、経緯等 | 国保保険者として、健康寿命の延伸と医療費の適正化に向けて、保健事業を実施する。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 国保保険者として、健康寿命の延伸と医療費の適正化に向けて、保健事業を実施する。 ・糖尿病重症化予防事業 ・毎日コツコツ健康づくり教室 ・しっかり運動教室 ・医療費通知 ・後発医薬品差額通知 ・医療費分析業務委託 | | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民(国保被保険者) | | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 健康づくりへの関心を高めて「行動変容」を促し、最期まで健康でいきいきと暮らせるようにする。 | | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 保健衛生普及事業 | 改善・見直し | ④ | | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 4,614 | 7,228 | 6,217 | 6,428 | 8,090 | |
| | | | 決算 | 4,216 | 6,598 | 3,765 | 4,811 | | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 10,686 | 7,688 | 3,958 | 3,009 | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 14,902 | 14,286 | 7,723 | 7,820 | | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | |
| | A 生活習慣の改善意欲がある人の割合 | % | 目標 | 60.0 | 61.0 | 62.0 | 62.0 | 62.5 | |
| | | | 実績 | 58.1 | 60.6 | 59.7 | 67.1 | | |
| | B | | 目標 | | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | | |
| A 保健事業の実施効果を見るために、生活習慣の改善意欲(健診時)がある人の割合を成果指標とする。 | | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 健康寿命の延伸に向けて、高齢者の保健事業ではメタボ予防だけでなく、フレイル予防のために、国保・後期保健事業と介護予防の一体的な実施が求められている。 | | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 生活習慣の改善意欲がある人の割合が、平成30年度は前年度比で7.4%増加しており、運動や食事など生活習慣を改めようという人が増加傾向にある。 | | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 健康づくり教室を毎月定例開催とすることで、参加者の日頃の運動の継続につながっている。 | | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 日常的に健康づくりに取り組めるような仕掛けが必要。 | | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) ポイント付与など、インセンティブ(行動を促す動機付け)制度の導入により、誰もが楽しみながら継続して健康づくりに取り組めるようにする。 | | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成32年度中に、誰もが参加できる健康づくり(ウォーキング等)ポイント制度を導入する。 | | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 保健衛生普及事業 | | 担当部課 | 福祉部保険医療課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 保健衛生普及事業 | 予算区分 | 5-1-1 保健衛生普及費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成28年度 | 終了(予定)年度 | - | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ①元気高齢者を対象に健康増進のため、健康づくり教室を実施 ②糖尿病のリスク(血糖値)の高い被保険者を対象に保健師等による保健指導を実施 ③医療費分析業務委託により、健診・レセプト(医療・薬剤)データに基づく傾向分析を行った。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 健康づくりへの関心を高めて「行動変容」を促し、最期まで健康でいきいきと暮らせるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 4,614 | 7,228 | 6,217 | 6,428 | 8,090 |
| | | 決算 | 4,216 | 6,598 | 3,765 | 4,811 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 通信運搬費 | | | | | | 1,389 千円 | |
| (2) 保健師事務賃金 | | | | | | 911 千円 | |
| (3) 医療費通知作成委託 | | | | | | 619 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 参加登録数 | 人 | 見込 | - | - | 150 | 150 | 180 |
| | | 実績 | - | - | 121 | 172 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 重症化予防事業：利用者23人(対象者68人) 毎日コツコツ健康づくり教室 11回(5~3月)参加登録数103人 しっかり運動教室 11回(5~3月)参加登録数69人 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

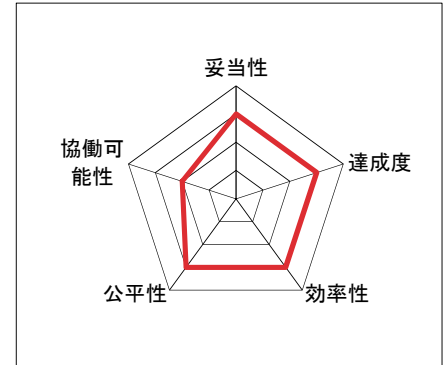
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 健康寿命の延伸に向けて、高齢者の保健事業ではメタボ予防だけでなく、フレイル予防のために、国保・後期保健事業と介護予防の一体的な実施が求められている。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 6,428 千円 8,090 千円 1,662 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| 糖尿病重症化予防事業として、集団ではなく個別指導を行う。参加者の体力(意欲)に合わせたプログラム構成の教室を開催する。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 糖尿病重症化予防事業では、個別に食事・運動指導を行った結果、個々の状況に合わせた効果的な指導を行うことができた。健康づくり教室では、体力レベルを分けることで、参加しやすくなり、外出・運動のきっかけを提供することができた。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 2 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | - | - | - | 275 |
| 実績 | - | - | - | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 健康づくり教室の準備や講師のサポートなど参加者による運営が少しずつできるようになってきている。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 健康づくり教室は、誰もが気軽に参加できるプログラム構成となっていること、講師である健康運動指導士のたくみな話術により、参加者から好評価を受けている。月2回の教室が外出し、いろんな人とおしゃべりして元気になる機会となっている。今後も続けてほしい、もっと回数を増やしてほしいとの声が多く寄せられている。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| ウォーキングポイント等を導入し、年齢問わず誰もが気軽に運動を始められ、継続できる仕組みを構築する。 高齢者だけでなく、若年世代の参加を促すため、子ども向けイベントプログラムを実施し、親子で楽しみながら運動できるよう仕掛ける。 |
| 健診・医療・服薬情報データ分析により重複服薬者を抽出し、服薬情報通知や薬剤師による講座を実施する。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|---|--|---|----------|------------|------------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 098 | 事業名 | 特定健康診査事業 | | 担当部課 | 福祉部保険医療課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | | | 会計区分 | 国民健康保険特別会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | | 予算区分(款 一 項 一 目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | | | 5-2-1 特定健康診査等事業費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 高齢者の医療の確保に関する法律、国民健康保険法、保健事業の実施等に関する指針 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 国保の保険者は、内臓脂肪型肥満に着目した特定健康診査、特定保健指導の他、被保険者の健康の保持増進に必要な保健事業を行うこととなっている。データヘルス計画に基づき、健診・医療データを活用した効果的な保健事業を行う。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 特定健康診査、特定保健指導の実施 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民(国保被保険者：40～74歳) | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 自ら生活習慣における健康課題を認識して、行動変容と自己管理(セルフケア)できるようにする。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 特定健康診査事業 | 改善・見直し | ④ | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 41,725 | 36,417 | 38,925 | 36,881 | 37,778 |
| | | | 決算 | 37,672 | 35,512 | 34,488 | 33,163 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | 2,444 | 3,745 | 2,468 | 2,512 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | 40,116 | 39,257 | 36,956 | 35,675 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 特定健康診査 受診率 | % | 目標 | 55.0 | 57.5 | 60.0 | 54.0 | 56.0 |
| | | | 実績 | 52.0 | 53.6 | 53.0 | 49.8 | |
| | B 特定保健指導 対象者割合 | % | 目標 | 10.0 | 9.0 | 8.0 | 8.0 | 9.0 |
| 実績 | | | 11.3 | 9.3 | 9.8 | 10.1 | | |
| C 特定保健指導終了率 | % | 目標 | 35.0 | 40.0 | 60.0 | 29.0 | 30.0 | |
| | | 実績 | 26.9 | 32.4 | 28.9 | 未集計 | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 生活習慣病予防のために、メタボ該当＝特定保健指導の対象者を見つけるための健診の受診率を成果指標とする。 | | | | | | | | |
| B 健診受診者のうち、メタボ該当＝特定保健指導の対象者を減らすことを成果指標とする。 | | | | | | | | |
| C 特定保健指導対象者(＝メタボ該当者)について、生活習慣の改善までつなげることを成果指標とする。 | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 特定健診・保健指導の受診率は、これまで総計など統計情報として公表されていたが、2019年度公表分から保険者別に受診率ランキングが公表されるようになる。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 特定健診の受診率及び保健指導の終了率は目標の数値に届いていない。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 健診受診率は、50%を超えて推移しているが目標達成には至っていない。 保健指導は30%前後で伸び悩んでいる。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 特定健診の受診率向上には、未受診理由の把握と対応、保健指導は初回面接の方法の変更等、目標達成のため実施方法の見直しを行う必要がある。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 特定健診及び特定保健指導の実施方法の見直しを行い、受診率を向上させるとともに、健診結果データの分析結果を保健事業に活用できるようにする。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 第2期データヘルス計画に基づき、2023年度までに、特定健診の受診率60%、特定保健指導の終了率40%を目指す。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--------------------------|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・他の健康診査関連事業との連携を図ってください。 |
|------|-------------------------|--------------------------|

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|------------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 特定健康診査事業 | | 担当部課 | 福祉部保険医療課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 特定健康診査事業 | 予算区分 | 5-2-1 特定健康診査等事業費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成20年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 国保被保険者(40歳から74歳まで)に対して、特定健康診査を実施。 健診受診者のうち、生活習慣病等のリスクの高い人に対して、特定保健指導を実施。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 自ら生活習慣における健康課題を認識して、行動変容と自己管理(セルフケア)できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 39,725 | 36,417 | 37,097 | 36,881 | 37,778 |
| | | 決算 | 35,750 | 35,512 | 34,488 | 33,163 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 特定健康診査委託 | | | | | | | 28,724千円 |
| (2) 栄養士嘱託員報酬 | | | | | | | 2,262千円 |
| (3) 手数料 | | | | | | | 745千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------------------------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 健診受診者数 | 人 | 見込 | 3,610 | 3,600 | 3,800 | 3,800 | 3,330 |
| | | 実績 | 3,414 | 3,349 | 3,285 | 3,340 | |
| 保健指導利用者数 | 人 | 見込 | 135 | 140 | 150 | 150 | 93 |
| | | 実績 | 110 | 109 | 107 | 107 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> (暫定値) | | | | | | | |
| 特定健康診査 受診者数：3,340人 受診率：49.8% (暫定値) | | | | | | | |
| 特定保健指導 対象者数：339人→利用者数：107人 | | | | | | | |
| メタボリックシンドローム該当者：505人(該当割合：15.1%) | | | | | | | |
| 予備群：380人(該当割合：11.4%) | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

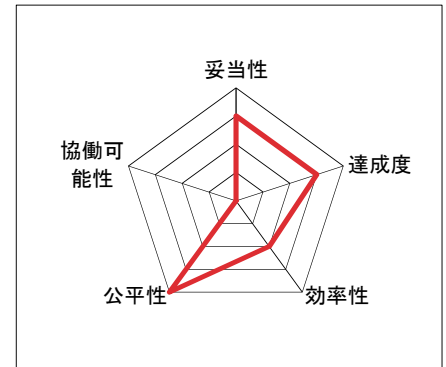
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 「ナッジ(無意識によい選択を促す)手法」を活用して受診勧奨を行うなど健康無関心層も含めた新たな対策を進める。 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 36,881千円 37,778千円 897千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| 特定健康診査の受診率・受診効果向上に向けて、 ①年代別に合わせた受診勧奨を行う。 ②健診未受診・医療機関未受診者や不定期受診者の実態調査を行うことで、健診に行かない理由を把握し、タイプ別に受診勧奨メッセージを送る。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 健診未受診者の実態調査の結果を基に未受診理由別の対策を検討し、次年度以降の受診勧奨方法や健診事業の見直しを行うことができた。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 未受診者の実態調査結果からは、健診を受けなかった理由として、①通院中②時間がない③忘れていた④自己負担で人間ドックなどを受けているなどの回答があった。その一方で、アンケートに答えてくれた人のうち、半数以上の人が来年の健診は受けたいと答えており、何かきっかけがあれば行動変容は起こせるとの手応えを感じた。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 健診の受診勧奨方法を見直し、往復ハガキによる申込みができるようにする。合わせて未受診理由のアンケートも行き、早い段階での受診につなげる。 スマホドック(簡易血液検査)や自己負担で受診した人間ドックの結果の提供を依頼するなど未受診理由別のアプローチを行う。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|--|--|--|--------------------|------------|-----------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 099 | 事業名 | 土地取得事業 | | 担当部課 | 総務部財政課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ | みんなの力を結集する自治と協働のまち | | 会計区分 | 土地取得特別会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | | 予算区分(款 一 項 一 目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | | | 1-1-1 土地取得費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 長久手市土地開発基金条例 | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 昭和44年、公用若しくは公共用に供する土地又は公共の利益のために取得する必要のある土地をあらかじめ取得することにより、事業の円滑な執行を図るため、長久手市土地開発基金を設置した。土地取得特別会計は、この基金を管理するために設けた会計である。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 公用若しくは公共用に供する土地又は公共の利益のために取得する場合で、土地をあらかじめ取得する必要がある場合、土地開発基金から必要な額を繰り出し、土地の取得及び補償金の支払いを行う。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 土地所有者または支障物件補償対象者 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 先行的な用地取得、突発的な用地取得に適切に対応する。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① | 土地取得事業 | 拡充 | ④ | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 300,000 | 300,000 | 200,000 | 300,000 | 200,000 |
| | | | 決算 | 62,550 | 180,954 | 18,033 | 99,482 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | - | 4,582 | 5,638 | 3,179 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | - | 185,536 | 23,671 | 102,661 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 土地取得率 | % | 目標 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | | 実績 | 100 | 100 | 100 | 100 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) A 当初予算に計上されない土地取得を安定的に実施することが目的となるため、対象物件の取得率を目標とする。 B C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 土地取得特別会計を設けていない自治体もある。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 例年予算の範囲内で執行できており、特別会計設置の目的を達成できている。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 基金で先行取得した土地は、必要な時期に一般会計で買戻しするが、状況により土地開発基金の残高が減少し、十分な予算額を確保できない年もあった。安定的に運用するため、平成30年度に土地開発基金の積み増しを行った。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 市道の狭あい道路対策等の先行取得が必要な案件は引き続きあるので、今後も適切に土地開発基金を管理していく必要がある。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 今後、整備が予定される道路新設事業や狭あい道路の拡幅、道路改良事業などで、先行的に用地を取得する必要がある場合には、本事業を活用し、適切な時期に購入できるため、引き続き事業を実施していく。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 今後も土地開発基金確保に努め、継続的に運用していきます。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|----------|--------|-------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 土地取得事業 | 担当部課 | 総務部財政課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① 土地取得事業 | 予算区分 | 1-1-1 土地取得費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 昭和44年度 | | 終了(予定)年度 | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 公用若しくは公共用に供する土地又は公共の利益のために取得する場合で、土地をあらかじめ取得する必要がある場合、土地開発基金から必要な額を繰り出し、土地の取得及び補償金の支払いを行う。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 先行的な用地取得、突発的な用地取得に適切に対応する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|-------------------|--------------------|-------------------|-------------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 300,000 62,550 | 300,000 180,954 | 200,000 18,033 | 300,000 99,482 | 200,000 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 補償金 | | | | | | 56,617 千円 | |
| (2) 公共用地先行取得 | | | | | | 42,865 千円 | |
| (3) | | | | | | 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----------|-------------------|--------------------|-------------------|-------------------|---------------|
| 取得額 | 千円 | 見込 実績 | 300,000 62,550 | 300,000 180,954 | 200,000 18,033 | 300,000 99,482 | 200,000 |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| H30年度購入実績 土地購入：42,865千円 物件補償：56,617千円 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

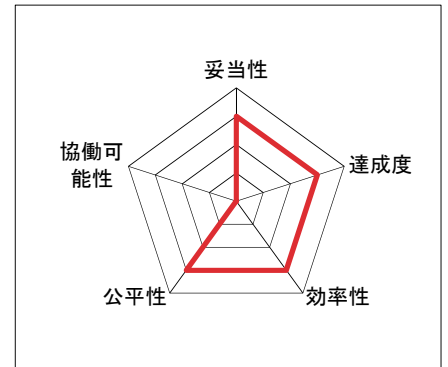
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近年は、狭あい道路対策や道路改良事業に係る取得が中心となっており、継続的に対象事案が発生することが見込まれる。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 300,000 千円 200,000 千円 △ 100,000 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 |
| 将来実施整備が予定もしくは見込まれる、道路新設事業や狭あい道路の拡幅、道路改良事業など、先行的に用地を取得する必要がある場合には、本事業により実施する。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 基金で先行取得した土地は、必要な時期に一般会計で買戻しするが、状況により土地開発基金の残高が減少し、十分な予算額を確保できない年もあった。安定的に運用するため、平成30年度に土地開発基金の積み増しを行った。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 土地取得は用地交渉案件になるため、関係者が土地所有者と市のみとなり、市民参加については評価ができない。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 先行的な用地取得、突発的な用地取得等に備えるため、必要な基金及び特別会計となります。 |

【改善ポイント】

| |
|-------------------------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 安定的に3億円程度の予算確保ができるよう、土地開発基金の管理に努める。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | | | |
|------------------------------|---|--|--------------------|------------|-----------------|------------|------------|-----------|--|--|
| 事業番号 | 100 | 事業名 | 包括的支援事業(生活支援体制整備等) | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | | | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | | | 会計区分 | 介護保険特別会計 | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | | | 予算区分(款 一 項 一 目) | | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | | | 3-2-1 包括的支援事業費 | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 介護保険法 | | | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 平成29年3月から開始された新しい総合事業の一環として、地域の支え合いの体制づくりを推進し、要支援者等に対する効果的かつ効率的な支援体制を構築する。 | | | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 生活支援コーディネーターを配置し、生活支援サポーターの養成や地域に不足するサービス・支援の創出、協議体など関係者間のネットワークを構築する。 | | | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民 | | | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民主体の地域の支え合い体制づくりにより、介護や生活支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して暮らすことができる。 | | | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 包括的支援事業(生活支援体制整備等) | 改善・見直し | ④ | | | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | | |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 8,000 | 16,000 | 16,000 | 16,000 | 16,000 | | |
| | | | 決算 | 7,850 | 16,000 | 11,593 | 12,415 | | | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | — | 4,201 | 5,236 | 7,153 | | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | — | 20,201 | 16,829 | 19,568 | | | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | | |
| | A 生活支援サポーター養成 | 人数 | 目標 | 30 | 50 | 70 | 80 | 90 | | |
| | | | 実績 | 32 | 48 | 62 | 71 | | | |
| | B | % | 目標 | | | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | | | |
| | C | 数 | 目標 | | | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | | | |
| A | 生活支援サポーター養成研修の質を保つためには、1回あたりの受講者数は10人程度であり、年2回程度の実施としていることから、年間20人の養成人数とした。 | | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・H28年度中にほとんどの市町において、生活支援コーディネーターを設置している。 | | | | | | | | |
| | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 目標人数としては達成できなかったが、サポーターに対するフォローアップを行い、サポーター同士の交流や勉強会等を行った。 | | | | | | | | |
| 評価 | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 生活支援サポーターの知識・技術の向上と活動場所の拡充を図る必要がある。 | | | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 生活支援サポーターの知識・技術の向上と活動場所の拡充を図る必要があるため、サポーターと支援者をつなぐコーディネートに力をいれる必要がある。 | | | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 多様な地域資源を活用しながら、生活支援・介護予防にかかるサービスの基盤整備を行う。 | | | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 2025年までに、市民主体の地域の支え合いによる生活支援・介護予防サービスが創出される。 | | | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|--------------------|--------------------|----------|----------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 包括的支援事業(生活支援体制整備等) | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 包括的支援事業(生活支援体制整備等) | 予算区分 | 介護保険特別会計 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成27年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 生活支援コーディネーターを配置し、生活支援サポーターの養成や地域に不足するサービスの創出、関係者間のネットワークの構築を実施している。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護や生活支援が必要になっても、市民が住み慣れた地域で安心して暮らすことができる。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 8,000 | 16,000 | 16,000 | 16,000 | 16,000 |
| | | 決算 | 7,850 | 16,000 | 11,593 | 12,415 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 生活支援体制整備委託 | | | | | | 12,115 千円 | |
| (2) 印刷製本費 | | | | | | 300 千円 | |
| (3) | | | | | | 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 生活支援サポーター養成 | 任 | 目標 | 30 | 50 | 70 | 80 | |
| | | 実績 | 32 | 48 | 62 | 71 | |
| | | 目標 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 平成30年度は生活支援サポーター養成研修を2回実施し、生活支援サポーターに対してもフォローアップ研修を実施した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

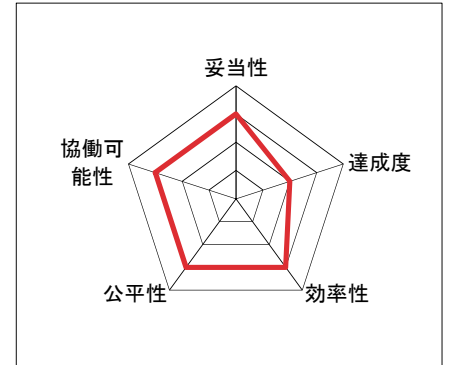
| |
|------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| H29.3 総合事業開始 |

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 16,000 千円 16,000 千円 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| 平成30年度は、平成29年度の取組を踏まえ、サロン等に対して行ったアンケートの整理や分析、行こ居こガイドマップの充実、サロン等への参加、生活支援サポーター研修の再確認や定期的な交流会を実施していく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| サロン等集いの場を広く周知するため、行こ居こガイドマップを冊子として製本し、事業所等に広く配布した。また、生活支援サポーターの養成においては、地域で活動していくための役割や活動内容を分かり易くするよう改善した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| サポーター | 50 | 70 | 80 | |
| | 48 | 62 | 71 | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 行こ居こガイドマップの作成にあたっては、サロン主催者に各ページを作成してもらった。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| サロンアンケート結果から、課題のあるサロンに対して、課題解決に向けて訪問、情報を収集した。また、市内のサロンの情報を集約し、行こ居こガイドマップを作成した。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 現状の社会資源の把握をし、地域に不足するサービス・支援の創出をしていくことが必要。また、元気な高齢者が担い手として活動する場の確保をするため、生活支援サポーターの養成とともに、地域のニーズとマッチングできるようコーディネートが必要。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|--|--|--|------------|-----------------|---------------|------------------|------------|------------------|
| 事業番号 | 101 | 事業名 | 居宅介護サービス事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | — | | | 会計区分 | 介護保険特別会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | | 予算区分(款—項—目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | | | 2-1-1 介護サービス費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 介護保険法 | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 寝たきりや認知症の高齢者が急増する一方、核家族化や介護者の高齢化などにより、家族だけで介護を行うことが難しくなっている社会現象に対し、介護を社会全体で支えるための介護サービスを給付するため、平成12年度から介護保険制度が開始された。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 居宅介護サービスとして行われる、訪問介護や通所介護、福祉用具購入、住宅改修、介護サービスの計画作成に係る給付費について、支給するもの。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 要介護認定を受けている方 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、介護サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 居宅介護サービス給付事業 | 拡充 | ④ 居宅介護住宅改修費給付事業 | 拡充 | ② 特例居宅介護サービス給付事業 | 縮小 | ⑤ 居宅介護サービス計画給付事業 |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 1,074,932 | 1,167,428 | 1,029,803 | 1,158,175 | 1,250,145 |
| | | | 決算 | 1,071,303 | 991,737 | 1,081,266 | 1,090,129 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | — | 1,528 | 1,611 | 2,384 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | — | 993,265 | 1,082,877 | 1,092,513 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A サービス給付費 | 千円 | 目標 | 1,039,252 | 974,665 | 1,103,545 | 1,163,441 | 1,234,262 |
| | | | 実績 | 1,071,303 | 991,737 | 1,081,266 | 1,090,129 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) A 3年に1度策定している介護保険事業計画において見込額を設定している。 B C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 国の制度であるため、各市町とも基本的に取組内容は同じ。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 介護サービスの種類によって、介護保険事業計画において見込んだ介護サービス給付費と実績値に差が出ているものがあるが、全体的に見ると長久手市はサービスが充実しており、要介護者に安心して介護を受けていただくという目標は達成できていると思われる。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 高齢者の増加に伴い、年々、介護保険サービスの利用者は増加しているが、必要なサービスが不足することのないように、計画策定時に検証を行い、整備を進めてきた。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 3年に1度の介護保険事業計画の策定において、過去の給付実績や高齢者人口・認定者数の推計等から介護サービス給付費を事業毎に見込むが、実績との差が出ないように見込むことが難しい。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護サービス給付事業を進めていく。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成31年度に高齢者等へニーズ等のアンケート調査を行い、平成32年度中に、次の介護保険事業計画を策定する中で、給付費の見込みを検証する。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------|--------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 居宅介護サービス事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 居宅介護サービス給付事業 | 予算区分 | 2-1-1 介護サービス費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成12年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 要介護認定を受けている方に対し、居宅介護サービスとして行われる、訪問介護や通所介護等に係る給付費について、支給するもの。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、介護サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) | |
|---------------------------|----|-------------|--------------------|----------------------|--------------------|----------------------|---------------|--|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 971,373 969,772 | 1,057,973 896,213 | 926,798 975,538 | 1,051,428 976,310 | 1,127,485 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | | |
| (1) | | 居宅介護サービス給付費 | 976,310 千円 | | | | | |
| (2) | | | 千円 | | | | | |
| (3) | | | 千円 | | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----------|--------------------|--------------------|--------------------|----------------------|---------------|
| サービス給付費 | 千円 | 見込 実績 | 939,254 969,772 | 863,572 896,213 | 989,087 975,538 | 1,056,161 976,310 | 1,116,921 |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 訪問介護、通所介護等の利用があり、サービス費の支給を行った。 各月の利用件数合計実績：21,014件 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

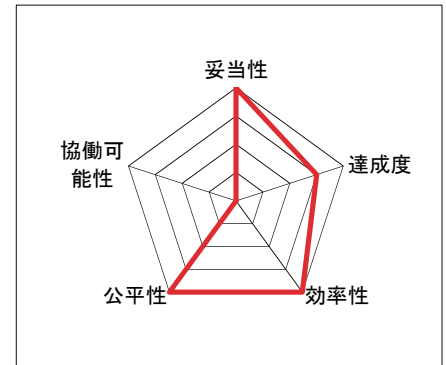
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 急速な高齢化に伴い、年々、介護サービスの利用者数は増加してきており、それに対応するために3年に1回、介護保険事業計画の見直しを行っている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 1,051,428 千円 1,127,485 千円 76,057 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護サービス給付事業を進めていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 平成30年度は3年間の介護保険事業計画の初年度になるため改善は実施していないが、平成31年度からは、平成33年度からの次期計画の策定のための事業者、市民等へのアンケートやヒアリング等を開始し、平成32年度末までに検証を行い計画を策定する。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | 20 | — | 60 |
| 実績 | — | 17 | — | — |

(2) 協働の状況(30年度(2018))

| |
|--|
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) |
| 平成30年度は計画策定の年度ではなかったため、市民協働は実施していないが、平成31年度に次期計画策定に向けて市民協働を行う予定。 |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 3年に1度の介護保険事業計画の策定において、過去の給付実績や高齢者人口・認定者数の推計等から介護サービス給付費を事業毎に見込むが、実績との差が出てしまった。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護サービス給付事業を進めていく。 |

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 拡充 |
|----|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------|----------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 居宅介護サービス事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 特例居宅介護サービス給付事業 | 予算区分 | 2-1-1 介護サービス費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成12年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 要介護認定を受ける前に緊急で介護サービスの利用が必要な方に対し、居宅介護サービスとして行われる、訪問介護や通所介護に係る給付費について、支給するもの。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、介護サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | 決算 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | | | | | | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| サービス給付費 | 千円 | 見込 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 緊急でのサービス利用がなかったため、実績件数0件 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

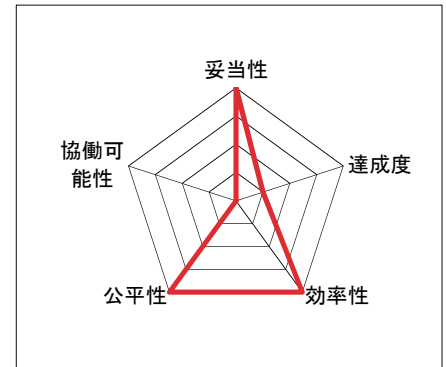
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 急速な高齢化に伴い、年々、介護サービスの利用者数は増加してきており、それに対応するために3年に1回、介護保険事業計画の見直しを行っている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 100 千円 100 千円 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 縮小 |
| ・前年度【コメント】 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護サービス給付事業を進めていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 平成30年度は3年間の介護保険事業計画の初年度になるため改善は実施していないが、平成31年度からは、平成33年度からの次期計画の策定のための事業者、市民等へのアンケートやヒアリング等を開始し、平成32年度末までに検証を行い計画を策定する。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 1 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | 20 | — | 60 |
| 実績 | — | 17 | — | — |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 平成30年度は計画策定の年度ではなかったため、市民協働は実施していないが、平成31年度に次期計画策定に向けて市民協働を行う予定。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 緊急時に国制度である介護保険サービスの給付費の支給をするものであるため、特になし。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護サービス給付事業を進めていく。 |

7. 今後の方向性

縮小

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------|-----------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 居宅介護サービス事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ③ | 居宅介護福祉用具購入費給付事業 | 予算区分 | 2-1-1 介護サービス費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成12年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 要介護認定を受けている方に対し、居宅介護サービスとして行われる、福祉用具購入費に係る給付費について、支給するもの。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、介護サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 2,275 2,077 | 2,569 2,051 | 2,128 1,873 | 2,371 2,758 | 3,736 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 居宅介護福祉用具購入費 | | | | | 2,758 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| サービス給付費 | 千円 | 見込 実績 | 2,275 2,077 | 2,527 2,051 | 3,015 1,873 | 2,371 2,758 | 3,700 |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 腰掛便座や入浴補助用具などの福祉用具購入費に対する給付を行った。 各月の利用件数合計実績：93件 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

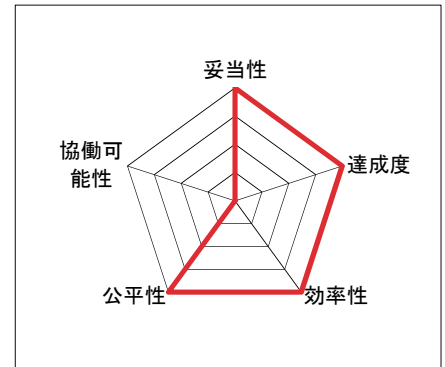
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 急速な高齢化に伴い、年々、介護サービスの利用者数は増加してきており、それに対応するために3年に1回、介護保険事業計画の見直しを行っている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 2,371 千円 3,736 千円 1,365 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 縮小 |
| ・前年度【コメント】 |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護サービス給付事業を進めていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 平成30年度は3年間の介護保険事業計画の初年度になるため改善は実施していないが、平成31年度からは、平成33年度からの次期計画の策定のための事業者、市民等へのアンケートやヒアリング等を開始し、平成32年度末までに検証を行い計画を策定する。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | 20 | — | 60 |
| 実績 | — | 17 | — | — |

(2) 協働の状況(30年度(2018))

| |
|--|
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) |
| 平成30年度は計画策定の年度ではなかったため、市民協働は実施していないが、平成31年度に次期計画策定に向けて市民協働を行う予定。 |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 3年に1度の介護保険事業計画の策定において、過去の給付実績や高齢者人口・認定者数の推計等から介護サービス給付費を事業毎に見込むが、実績との差が出てしまった。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護サービス給付事業を進めていく。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|------------|---------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 居宅介護サービス事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ④ | 居宅介護住宅改修費給付事業 | 予算区分 | 2-1-1 介護サービス費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成12年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 要介護認定を受けている方に対し、居宅介護サービスとして行われる、住宅改修費に係る給付費について、支給するもの。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、介護サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 10,900 | 9,792 | 8,972 | 8,334 | 13,420 |
| | | 決算 | 8,394 | 7,234 | 7,464 | 9,211 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 居宅介護住宅改修費 | | | | 9,211 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| サービス給付費 | 千円 | 見込 | 10,900 | 12,808 | 14,720 | 8,334 | 13,293 |
| | | 実績 | 8,394 | 7,234 | 7,464 | 9,211 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 手すりの取付けや床の段差解消などの住宅改修費に対しての給付を行った。 各月の利用件数合計実績：78件 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

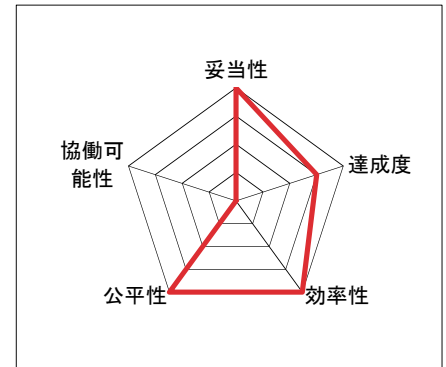
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 急速な高齢化に伴い、年々、介護サービスの利用者数は増加してきており、それに対応するために3年に1回、介護保険事業計画の見直しを行っている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 8,334 千円 13,420 千円 5,086 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 縮小 |
| ・前年度【コメント】 |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護サービス給付事業を進めていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 平成30年度は3年間の介護保険事業計画の初年度になるため改善は実施していないが、平成31年度からは、平成33年度からの次期計画の策定のための事業者、市民等へのアンケートやヒアリング等を開始し、平成32年度末までに検証を行い計画を策定する。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | 20 | — | 60 |
| 実績 | — | 17 | — | |

(2) 協働の状況(30年度(2018))

| |
|--|
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) |
| 平成30年度は計画策定の年度ではなかったため、市民協働は実施していないが、平成31年度に次期計画策定に向けて市民協働を行う予定。 |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 3年に1度の介護保険事業計画の策定において、過去の給付実績や高齢者人口・認定者数の推計等から介護サービス給付費を事業毎に見込むが、実績との差が出てしまった。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護サービス給付事業を進めていく。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------|----------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 居宅介護サービス事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ⑤ | 居宅介護サービス計画給付事業 | 予算区分 | 2-1-1 介護サービス費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成12年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 要介護認定を受けている方に対し、居宅介護サービスを利用するために必要な計画作成に係る費用について、支給するもの。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、介護サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 90,184 | 96,894 | 91,705 | 95,842 | 105,304 |
| | | 決算 | 91,060 | 86,239 | 96,391 | 101,850 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 居宅介護サービス計画給付費 | 101,850 千円 | | | | |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| サービス給付費 | 千円 | 見込 | 86,623 | 95,558 | 96,523 | 96,375 | 100,148 |
| | | 実績 | 91,060 | 86,239 | 96,391 | 101,850 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 居宅介護サービス利用のための計画作成費についての給付を行った。 各月の利用件数合計実績：6,930件 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

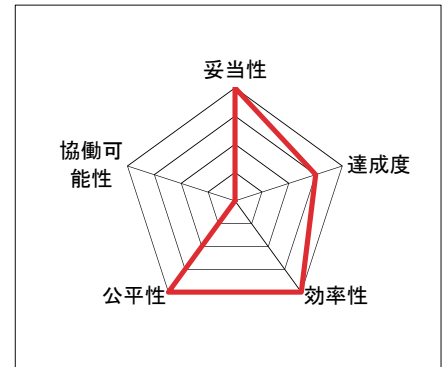
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 急速な高齢化に伴い、年々、介護サービスの利用者数は増加してきており、それに対応するために3年に1回、介護保険事業計画の見直しを行っている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 95,842 千円 105,304 千円 9,462 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護サービス給付事業を進めていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 平成30年度は3年間の介護保険事業計画の初年度になるため改善は実施していないが、平成31年度からは、平成33年度からの次期計画の策定のための事業者、市民等へのアンケートやヒアリング等を開始し、平成32年度末までに検証を行い計画を策定する。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | 20 | — | 60 |
| 実績 | — | 17 | — | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 平成30年度は計画策定の年度ではなかったため、市民協働は実施していないが、平成31年度に次期計画策定に向けて市民協働を行う予定。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 3年に1度の介護保険事業計画の策定において、過去の給付実績や高齢者人口・認定者数の推計等から介護サービス給付費を事業毎に見込むが、ほぼ目標に近い実績となった。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護サービス給付事業を進めていく。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|------------|------------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 居宅介護サービス事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ⑥ | 特例居宅介護サービス計画給付事業 | 予算区分 | 2-1-1 介護サービス費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成12年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 要介護認定を受ける前に緊急で介護サービスの利用が必要な方に対し、居宅介護サービスを利用するために必要な計画作成に係る費用について、支給するもの。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、介護サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | 決算 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | | | | | | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| サービス給付費 | 千円 | 見込 | 100 | 100 | 100 | 100 | |
| | | 実績 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 緊急でのサービス利用がなかったため、実績件数0件 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

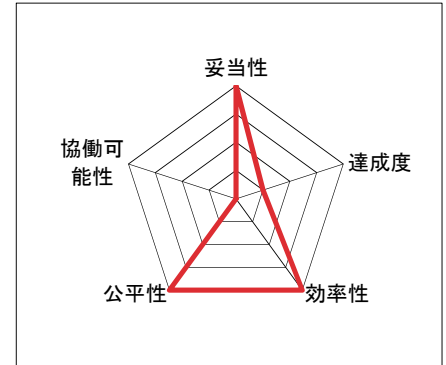
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 急速な高齢化に伴い、年々、介護サービスの利用者数は増加してきており、それに対応するために3年に1回、介護保険事業計画の見直しを行っている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 100 千円 100 千円 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 縮小 |
| ・前年度【コメント】 |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護サービス給付事業を進めていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 平成30年度は3年間の介護保険事業計画の初年度になるため改善は実施していないが、平成31年度からは、平成33年度からの次期計画の策定のための事業者、市民等へのアンケートやヒアリング等を開始し、平成32年度末までに検証を行い計画を策定する。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 1 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | 20 | — | 60 |
| 実績 | — | 17 | — | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 平成30年度は計画策定の年度ではなかったため、市民協働は実施していないが、平成31年度に次期計画策定に向けて市民協働を行う予定。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 緊急時に国制度である介護保険サービスの給付費の支給をするものであるため、特になし。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護サービス給付事業を進めていく。 |

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 縮小 |
|----|

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|-------------|--|-----|---------------|-----------------|----------|
| 事業番号 | 102 | 事業名 | 地域密着型介護サービス事業 | 担当部課 | 福祉部長寿課 |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | — | | 会計区分 | 介護保険特別会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | 予算区分(款 一 項 一 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | | 2-1-1 介護サービス費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 介護保険法 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 寝たきりや認知症の高齢者が急増する一方、核家族化や介護者の高齢化などにより、家族だけで介護を行うことが難しくなっている社会現象に対し、介護を社会全体で支えるための介護サービスを給付するため、平成12年度から介護保険制度が開始された。 | | | | |

| | | | | | | |
|-------|---------------------|---|----|---|--|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 地域密着型介護サービスとして行われる、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護(小規模特養)や認知症対応型共同生活介護(グループホーム)等に係る給付費について、支給するもの。 | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 要介護認定を受けている方 | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、介護サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。 | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 地域密着型介護サービス給付事業 | 縮小 | ④ | | |
| | ② 特例地域密着型介護サービス給付事業 | 縮小 | ⑤ | | | |
| | ③ | | ⑥ | | | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | 千円 | 決算 | 予算 | 387,119 | 423,075 | 549,656 | 537,407 |
| 決算 | | | | 393,002 | 494,582 | 469,716 | 457,879 | |
| 人件費(B) | 千円 | 決算 | — | 2,291 | 2,819 | 1,987 | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | — | 496,873 | 472,535 | 459,866 | | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--------------------------------------|-----------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A サービス給付費 | 千円 | 目標 | 374,115 | 683,396 | 741,831 | 536,259 | 611,959 |
| | | | 実績 | 393,002 | 494,582 | 469,716 | 457,879 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| C | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 3年に1度策定している介護保険事業計画において見込額を設定している。 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 国の制度であるため、各市町とも基本的に取組内容は同じ。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 介護サービスの種類によって、介護保険事業計画において見込んだ介護サービス給付費と実績値に差が出ているものがあるが、全体的に見ると長久手市はサービスが充実しており、要介護者に安心して介護を受けていただくという目標は達成できていると思われる。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 高齢者の増加に伴い、年々、介護保険サービスの利用者は増加しているが、必要なサービスが不足することのないように、計画策定時に検証を行い、整備を進めてきた。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 3年に1度の介護保険事業計画の策定において、過去の給付実績や高齢者人口・認定者数の推計等から介護サービス給付費を事業毎に見込むが、実績との差が出ないように見込むことが難しい。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護サービス給付事業を進めていく。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成31年度に高齢者等ヘニーズ等のアンケート調査を行い、平成32年度中に、次の介護保険事業計画を策定する中で、給付費の見込みを検証する。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|---------------|-----------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 地域密着型介護サービス事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 地域密着型介護サービス給付事業 | 予算区分 | 2-1-1 介護サービス費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成12年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 要介護認定を受けている方に対し、地域密着型介護サービスとして行われる、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護(小規模特養)や認知症対応型共同生活介護(グループホーム)等に係る給付費について、支給するもの。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、介護サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|----------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 387,019 | 422,975 | 549,556 | 537,307 | 600,136 |
| | | 決算 | 393,002 | 494,582 | 469,716 | 457,879 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 地域密着型介護サービス給付費 | 457,879 千円 | | | | |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| サービス給付費 | 千円 | 見込 | 374,015 | 683,296 | 741,731 | 536,159 | 611,859 |
| | | 実績 | 393,002 | 494,582 | 469,716 | 457,879 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護や認知症対応型共同生活介護等の利用があり、サービス費の支給を行った。 各月の利用件数合計実績：2,366件 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

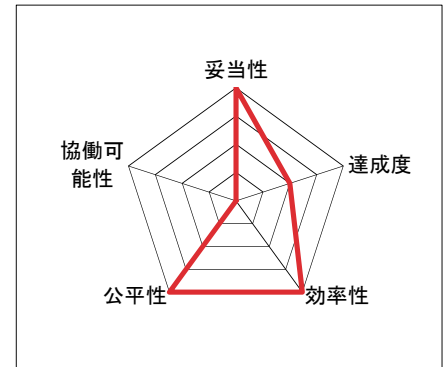
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 急速な高齢化に伴い、年々、介護サービスの利用者数は増加してきており、それに対応するために3年に1回、介護保険事業計画の見直しを行っている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 537,307 千円 600,136 千円 62,829 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 縮小 |
| ・前年度【コメント】 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護サービス給付事業を進めていく。 看護小規模多機能型居宅介護事業所の整備を平成31年度を目処に進める。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 平成30年度は3年間の介護保険事業計画の初年度になるため改善は実施していないが、平成31年度からは、平成33年度からの次期計画の策定のための事業者、市民等へのアンケートやヒアリング等を開始し、平成32年度末までに検証を行い計画を策定する。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | — | 20 | — | 60 |
| 実績 | — | 17 | — | |

(2) 協働の状況(30年度(2018))

| |
|---|
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) 平成30年度は計画策定の年度ではなかったため、市民協働は実施していないが、平成31年度に次期計画策定に向けて市民協働を行う予定。 |
|---|

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 3年に1度の介護保険事業計画の策定において、過去の給付実績や高齢者人口・認定者数の推計等から介護サービス給付費を事業毎に見込むが、実績との差が出てしまった。 |
|--|

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護サービス給付事業を進めていく。 看護小規模多機能型居宅介護事業所の整備を平成31年度中を目処に進める。 |
|---|

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 縮小 |
|----|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|---------------|-------------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 地域密着型介護サービス事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 特例地域密着型介護サービス給付事業 | 予算区分 | 2-1-1 介護サービス費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成12年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 要介護認定を受ける前に緊急で介護サービスの利用が必要な方に対し、地域密着型介護サービスとして行われる、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（小規模特養）や認知症対応型共同生活介護（グループホーム）等に係る給付費について、支給するもの。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、介護サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 100 0 | 100 0 | 100 0 | 100 0 | 100 |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | | | | | | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| サービス給付費 | 千円 | 目標 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| 緊急でのサービス利用がなかったため、実績件数0件 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

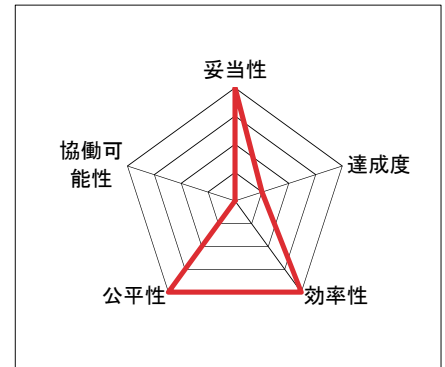
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 急速な高齢化に伴い、年々、介護サービスの利用者数は増加してきており、それに対応するために3年に1回、介護保険事業計画の見直しを行っている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 100 千円 100 千円 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 縮小 |
| ・前年度【コメント】 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護サービス給付事業を進めていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 平成30年度は3年間の介護保険事業計画の初年度になるため改善は実施していないが、平成31年度からは、平成33年度からの次期計画の策定のための事業者、市民等へのアンケートやヒアリング等を開始し、平成32年度末までに検証を行い計画を策定する。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 1 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数 (人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | 20 | — | 60 |
| 実績 | — | 17 | — | |
| (2) 協働の状況 (30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 平成30年度は計画策定の年度ではなかったため、市民協働は実施していないが、平成31年度に次期計画策定に向けて市民協働を行う予定。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 緊急時に国制度である介護保険サービスの給付費の支給をするものであるため、特になし。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護サービス給付事業を進めていく。 |

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 縮小 |
|----|

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|-------------|--|-----|------------|-----------------|----------|
| 事業番号 | 103 | 事業名 | 施設介護サービス事業 | 担当部課 | 福祉部長寿課 |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | — | | 会計区分 | 介護保険特別会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | 予算区分(款 一 項 一 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | | 2-1-1 介護サービス費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 介護保険法 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 寝たきりや認知症の高齢者が急増する一方、核家族化や介護者の高齢化などにより、家族だけで介護を行うことが難しくなっている社会現象に対し、介護を社会全体で支えるための介護サービスを給付するため、平成12年度から介護保険制度が開始された。 | | | | |

| | | | | | |
|-------|------------------|--|----|---|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 施設介護サービスとして行われる、介護老人福祉施設入所者生活介護(特養)や介護老人保健施設に係る給付費について、支給するもの。 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 要介護認定を受けている方 | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、介護サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。 | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 施設介護サービス給付事業 | 拡充 | ④ | |
| | ② 特例施設介護サービス給付事業 | 縮小 | ⑤ | | |
| | ③ | | ⑥ | | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | 324,959 | 268,665 | 303,001 | 356,298 |
| 決算 | | | | 275,691 | 301,818 | 327,643 | 387,756 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | - | 1,528 | 403 | 397 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | - | 303,346 | 328,046 | 388,153 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--------------------------------------|-----------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A サービス給付費 | 千円 | 目標 | 314,978 | 314,462 | 471,117 | 381,861 | 400,591 |
| | | | 実績 | 275,691 | 301,818 | 327,643 | 387,756 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| C | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 3年に1度策定している介護保険事業計画において見込額を設定している。 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 国の制度であるため、各市町とも基本的に取組内容は同じ。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 施設介護サービスの種類によって、介護保険事業計画において見込んだ施設介護サービス給付費と実績値に差が出ているものがあるが、全体的に見ると長久手市はサービスが充実しており、要介護者に安心して介護を受けていただくという目標は達成できていると思われる。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 高齢者の増加に伴い、年々、介護保険サービスの利用者は増加しているが、必要なサービスが不足することのないように、計画策定時に検証を行い、整備を進めてきた。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 3年に1度の介護保険事業計画の策定において、過去の給付実績や高齢者人口・認定者数の推計等から介護サービス給付費を事業毎に見込むが、実績との差が出ないように見込むことが難しい。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき施設介護サービス給付事業を進めていく。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成31年度に高齢者等ヘニーズ等のアンケート調査を行い、平成32年度中に、次の介護保険事業計画を策定する中で、給付費の見込みを検証する。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------|--------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 施設介護サービス事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 施設介護サービス給付事業 | 予算区分 | 2-1-1 介護サービス費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成12年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 要介護認定を受けている方に対し、施設介護サービスとして行われる、介護老人福祉施設入所者生活介護(特養)や介護老人保健施設等に係る給付費について、支給するもの。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、施設介護サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|-------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 324,859 | 268,565 | 302,901 | 356,198 | 421,406 |
| | | 決算 | 275,691 | 301,818 | 327,643 | 387,756 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 施設介護サービス給付費 | 387,756 | | | | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| サービス給付費 | 千円 | 見込 | 314,878 | 314,362 | 471,017 | 381,761 | 400,491 |
| | | 実績 | 275,691 | 301,818 | 327,643 | 387,756 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 介護老人福祉施設入所者生活介護や介護老人保健施設等の利用があり、サービス費の支給を行った。 各月の利用件数合計実績：1, 485件 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

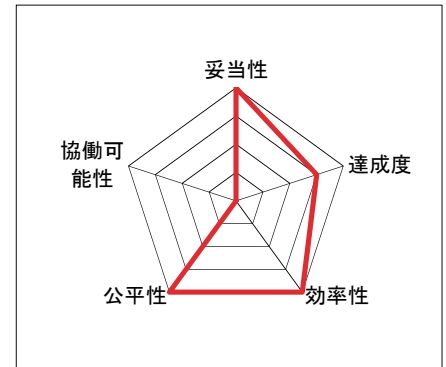
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 急速な高齢化に伴い、年々、施設介護サービスの利用者数は増加してきており、それに対応するために3年に1回、介護保険事業計画の見直しを行っている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|---|-----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 356,198 千円 | 421,406 千円 | 65,208 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 縮小 | |
| ・前年度【コメント】 | 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき施設介護サービス給付事業を進めていく。 介護老人保健施設の給付費については、平成27年度から平成29年度までの3年間についての介護保険事業計画において市内に開所を見込んでいたが、実際には平成30年3月から開所となったため、平成30年度から給付費が増加していくことを現行の計画で見込んでいる。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) 平成30年度は3年間の介護保険事業計画の初年度になるため改善は実施していないが、平成31年度からは、平成33年度からの次期計画の策定のための事業者、市民等へのアンケートやヒアリングを開始し、平成32年度末までに検証を行い計画を策定する。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
|------------------|------------|------------|------------|-----------|
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | — | 20 | — | 60 |
| 実績 | — | 17 | — | |

(2) 協働の状況(30年度(2018))

(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)
平成30年度は計画策定の年度ではなかったため、市民協働は実施していないが、平成31年度に次期計画策定に向けて市民協働を行う予定。

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
3年に1度の介護保険事業計画の策定において、過去の給付実績や高齢者人口・認定者数の推計等から介護サービス給付費を事業毎に見込んでいるが、実績はほぼ見込どおりとなった。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき施設介護サービス給付事業を進めていく。
介護老人保健施設の給付費については、平成27年度から平成29年度までの3年間についての介護保険事業計画において市内に開所を見込んでいたが、実際には平成30年3月から開所となったため、平成30年度から給付費が増加していくことを現行の計画で見込んでいる。

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------|----------------|----------|---------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 施設介護サービス事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 特例施設介護サービス給付事業 | 予算区分 | 2-1-1 介護サービス費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成12年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 要介護認定を受ける前に緊急で介護サービスの利用が必要な方に対し、施設介護サービスとして行われる、介護老人福祉施設入所者生活介護(特養)や介護老人保健施設等に係る給付費について、支給するもの。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、施設介護サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | 決算 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | | | | | | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| サービス給付費 | 千円 | 見込 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 緊急でのサービス利用がなかったため、実績件数0件 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

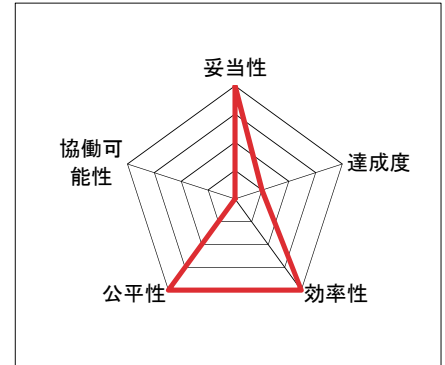
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 急速な高齢化に伴い、年々、施設介護サービスの利用者数は増加してきており、それに対応するために3年に1回、介護保険事業計画の見直しを行っている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 100 千円 100 千円 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 縮小 |
| ・前年度【コメント】 |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき施設介護サービス給付事業を進めていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 平成30年度は3年間の介護保険事業計画の初年度になるため改善は実施していないが、平成31年度からは、平成33年度からの次期計画の策定のための事業者、市民等へのアンケートやヒアリング等を開始し、平成32年度末までに検証を行い計画を策定する。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 1 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | 20 | — | 60 |
| 実績 | — | 17 | — | — |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 平成30年度は計画策定の年度ではなかったため、市民協働は実施していないが、平成31年度に次期計画策定に向けて市民協働を行う予定。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 緊急時に国制度である介護保険サービスの給付費の支給をするものであるため、特になし。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき施設介護サービス給付事業を進めていく。 |

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 縮小 |
|----|

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|--------------------------------------|--|--|--------------------|-----------------|-----------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 104 | 事業名 | 介護予防サービス事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | — | | | 会計区分 | 介護保険特別会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | | 予算区分(款—項—目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | | | 2-2-1 介護予防サービス費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 介護保険法 | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 寝たきりや認知症の高齢者が急増する一方、核家族化や介護者の高齢化などにより、家族だけで介護を行うことが難しくなっている社会現象に対し、介護を社会全体で支えるための介護サービスを給付するため、平成12年度から介護保険制度が開始された。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 介護予防サービスとして行われる、介護予防訪問看護や介護予防福祉用具購入、介護予防住宅改修、介護予防サービスの計画作成に係る給付費について、支給するもの。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 要支援認定を受けている方 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、介護予防サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 介護予防サービス給付事業 | 縮小 | ④ 介護予防住宅改修費給付事業 | 縮小 | | | |
| | ② 特例介護予防サービス給付事業 | 縮小 | ⑤ 介護予防サービス計画給付事業 | 縮小 | | | | |
| | ③ 介護予防福祉用具購入費給付事業 | 縮小 | ⑥ 特例介護予防サービス計画給付事業 | 縮小 | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 113,960 | 115,686 | 80,680 | 54,934 | 66,240 |
| | | | 決算 | 188,077 | 109,132 | 71,557 | 47,880 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | - | 1,528 | 1,611 | 2,384 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | - | 110,660 | 73,168 | 50,264 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A サービス給付費 | 千円 | 目標 | 110,525 | 124,894 | 93,526 | 55,312 | 65,786 |
| | | | 実績 | 188,077 | 109,132 | 71,557 | 47,880 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 3年に1度策定している介護保険事業計画において見込額を設定している。 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 国の制度であるため、各市町とも基本的に取組内容は同じ。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 介護予防サービスの種類によって、介護保険事業計画において見込んだ介護予防サービス給付費と実績値に差が出ているものがあるが、全体的に見ると長久手市はサービスが充実しており、要支援者に安心して介護を受けていただくという目標は達成できていると思われる。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 高齢者の増加に伴い、年々、介護保険サービスの利用者は増加しているが、必要なサービスが不足することのないように、計画策定時に検証を行い、整備を進めてきた。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 3年に1度の介護保険事業計画の策定において、過去の給付実績や高齢者人口・認定者数の推計等から介護予防サービス給付費を事業毎に見込むが、実績との差が出ないように見込むことが難しい。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護予防サービス給付事業を進めていく。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成31年度に高齢者等へニーズ等のアンケート調査を行い、平成32年度中に、次の介護保険事業計画を策定する中で、給付費の見込みを検証する。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|------------|--------------|----------|-----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 介護予防サービス事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 介護予防サービス給付事業 | 予算区分 | 2-2-1 介護予防サービス費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成12年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 要支援認定を受けている方に対し、介護予防サービスとして行われる、介護予防訪問看護、介護予防訪問リハビリテーション等に係る給付費について、支給するもの。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、介護予防サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 96,910 | 97,598 | 65,519 | 37,745 | 45,173 |
| | | 決算 | 92,109 | 91,782 | 56,274 | 32,476 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 介護予防サービス給付費 | | | | 32,476 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| サービス給付費 | 千円 | 見込 | 93,805 | 106,592 | 79,008 | 37,976 | 44,846 |
| | | 実績 | 92,109 | 91,782 | 56,274 | 32,476 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 介護予防訪問看護、介護予防訪問リハビリテーション等の利用があり、サービス費の支給を行った。 各月の利用件数合計実績：2, 326件 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

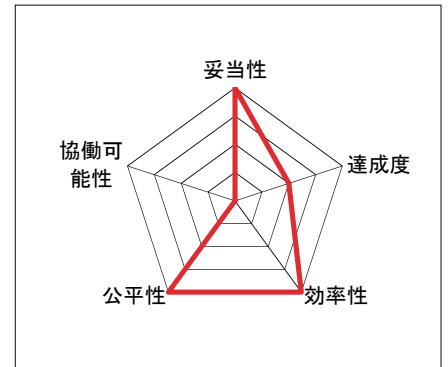
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 急速な高齢化に伴い、年々、介護サービスの利用者数は増加してきており、それに対応するために3年に1回、介護保険事業計画の見直しを行っている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 37,745 千円 45,173 千円 7,428 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 縮小 |
| ・前年度【コメント】 |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護予防サービス給付事業を進めていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 平成30年度は3年間の介護保険事業計画の初年度になるため改善は実施していないが、平成31年度からは、平成33年度からの次期計画の策定のための事業者、市民等へのアンケートやヒアリング等を開始し、平成33年度末までに検証を行い計画を策定する。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | 20 | — | 60 |
| 実績 | — | 17 | — | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 平成30年度は計画策定の年度ではなかったため、市民協働は実施していないが、平成31年度に次期計画策定に向けて市民協働を行う予定。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 3年に1度の介護保険事業計画の策定において、過去の給付実績や高齢者人口・認定者数の推計等から介護サービス給付費を事業毎に見込むが、実績との差が出てしまった。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護予防サービス給付事業を進めていく。 |

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 縮小 |
|----|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------|----------------|----------|-----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 介護予防サービス事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 特例介護予防サービス給付事業 | 予算区分 | 2-2-1 介護予防サービス費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成12年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 要支援認定を受ける前に緊急で介護サービスの利用が必要な方に対し、介護予防訪問看護、介護予防訪問リハビリテーション等に係る給付費について、支給するもの。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、介護予防サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | 決算 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | | | | | | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| サービス給付費 | 千円 | 目標 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 緊急でのサービス利用がなかったため、実績件数0件 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

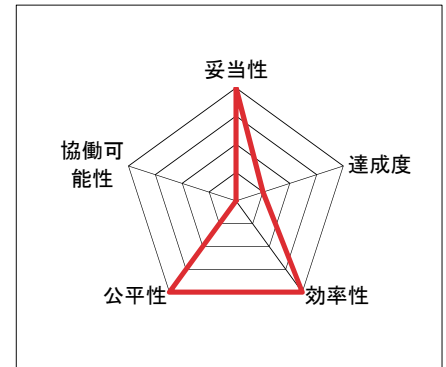
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 急速な高齢化に伴い、年々、介護サービスの利用者数は増加してきており、それに対応するために3年に1回、介護保険事業計画の見直しを行っている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 100 千円 100 千円 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 縮小 |
| ・前年度【コメント】 |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護予防サービス給付事業を進めていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 平成30年度は3年間の介護保険事業計画の初年度になるため改善は実施していないが、平成31年度からは、平成33年度からの次期計画の策定のための事業者、市民等へのアンケートやヒアリング等を開始し、平成32年度末までに検証を行い計画を策定する。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 1 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | 20 | — | 60 |
| 実績 | — | 17 | — | — |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 平成30年度は計画策定の年度ではなかったため、市民協働は実施していないが、平成31年度に次期計画策定に向けて市民協働を行う予定。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 緊急時に国制度である介護保険サービスの給付費の支給をするものであるため、特になし。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護予防サービス給付事業を進めていく。 |

7. 今後の方向性

縮小

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------|-----------------|----------|-----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 介護予防サービス事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ③ | 介護予防福祉用具購入費給付事業 | 予算区分 | 2-2-1 介護予防サービス費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成12年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 要支援認定を受けている方に対し、介護予防福祉用具購入費に係る給付費について、支給するもの。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、介護予防サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|-------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 320 | 721 | 705 | 1,202 | 1,818 |
| | | 決算 | 541 | 613 | 854 | 1,027 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 介護予防福祉用具購入費 | | | | 1,027 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| サービス給付費 | 千円 | 見込 | 320 | 393 | 597 | 1,202 | 1,800 |
| | | 実績 | 541 | 613 | 854 | 1,027 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 腰掛便座や入浴補助用具などの介護予防福祉用具購入費に対しての給付を行った。 各月の利用件数合計実績：32件 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

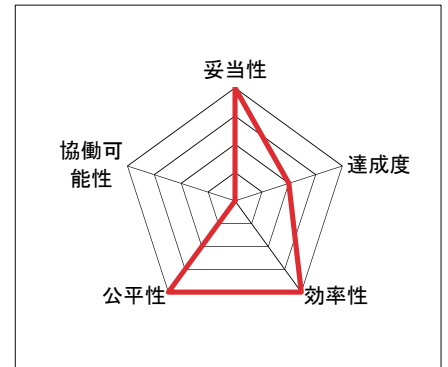
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 急速な高齢化に伴い、年々、介護サービスの利用者数は増加してきており、それに対応するために3年に1回、介護保険事業計画の見直しを行っている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 1,202 千円 1,800 千円 598 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護予防サービス給付事業を進めていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 平成30年度は3年間の介護保険事業計画の初年度になるため改善は実施していないが、平成31年度からは、平成33年度からの次期計画の策定のための事業者、市民等へのアンケートやヒアリング等を開始し、平成32年度末までに検証を行い計画を策定する。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | — | 20 | — | 60 |
| 実績 | — | 17 | — | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 平成30年度は計画策定の年度ではなかったため、市民協働は実施していないが、平成31年度に次期計画策定に向けて市民協働を行う予定。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 3年に1度の介護保険事業計画の策定において、過去の給付実績や高齢者人口・認定者数の推計等から介護サービス給付費を事業毎に見込むが、実績との差が出てしまった。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護予防サービス給付事業を進めていく。 |

7. 今後の方向性

縮小

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

| | | | | | | |
|---------|------------|---------------|----------|-----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 介護予防サービス事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ④ | 介護予防住宅改修費給付事業 | 予算区分 | 2-2-1 介護予防サービス費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成12年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 要支援認定を受けている方に対し、介護予防住宅改修費に係る給付費について、支給するもの。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、介護予防サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 6,021 | 4,445 | 5,308 | 5,460 | 7,707 |
| | | 決算 | 3,318 | 4,436 | 4,760 | 6,341 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 介護予防住宅改修費 | | | | 6,341 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| サービス給付費 | 千円 | 見込 | 6,021 | 6,864 | 8,008 | 5,460 | 7,634 |
| | | 実績 | 3,318 | 4,436 | 4,760 | 6,341 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 手すりの取付けや床の段差解消などの住宅改修費に対しての給付を行った。 各月の利用件数合計実績：52件 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

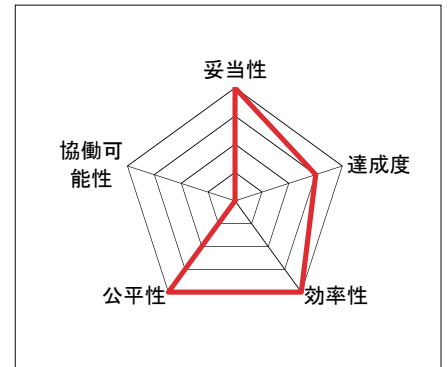
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
急速な高齢化に伴い、年々、介護サービスの利用者数は増加してきており、それに対応するために3年に1回、介護保険事業計画の見直しを行っている。

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---|--|----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 5,460 千円 | 7,634 千円 | 2,174 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 縮小 | |
| ・前年度【コメント】 | 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護予防サービス給付事業を進めていく。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 平成30年度は3年間の介護保険事業計画の初年度になるため改善は実施していないが、平成31年度からは、平成33年度からの次期計画の策定のための事業者、市民等へのアンケートやヒアリング等を開始し、平成32年度末までに検証を行い計画を策定する。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | 20 | — | 60 |
| 実績 | — | 17 | — | |

(2) 協働の状況(30年度(2018))

(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)
平成30年度は計画策定の年度ではなかったため、市民協働は実施していないが、平成31年度に次期計画策定に向けて市民協働を行う予定。

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
3年に1度の介護保険事業計画の策定において、過去の給付実績や高齢者人口・認定者数の推計等から介護サービス給付費を事業毎に見込むが、実績との差が出てしまった。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護予防サービス給付事業を進めていく。

7. 今後の方向性

縮小

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------|----------------|----------|-----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 介護予防サービス事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ⑤ | 介護予防サービス計画給付事業 | 予算区分 | 2-2-1 介護予防サービス費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成12年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 要支援認定を受けている方に対し、介護予防サービスの計画作成に係る給付費について、支給するもの。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、介護予防サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|---------------|------------------|------------------|----------------|-----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 10,509 92,109 | 12,722 12,301 | 9,811 9,669 | 10,327 8,036 | 11,342 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 介護予防サービス計画給付費 | | | | | 8,036 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---|----|----------|------------------|------------------|----------------|-----------------|---------------|
| サービス給付費 | 千円 | 見込 実績 | 10,179 92,109 | 10,845 12,301 | 5,713 9,669 | 10,474 8,036 | 11,306 |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> 居宅介護予防サービス利用のための計画作成費についての給付を行った。 各月の利用件数合計実績：1,754件 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

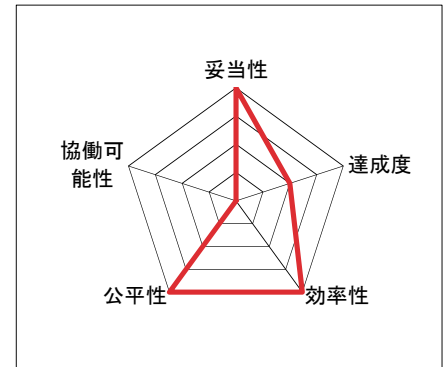
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 急速な高齢化に伴い、年々、介護サービスの利用者数は増加してきており、それに対応するために3年に1回、介護保険事業計画の見直しを行っている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 10,327 千円 11,342 千円 1,015 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護予防サービス給付事業を進めていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 平成30年度は3年間の介護保険事業計画の初年度になるため改善は実施していないが、平成31年度からは、平成33年度からの次期計画の策定のための事業者、市民等へのアンケートやヒアリング等を開始し、平成32年度末までに検証を行い計画を策定する。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 2 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | 20 | — | 60 |
| 実績 | — | 17 | — | — |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) 平成30年度は計画策定の年度ではなかったため、市民協働は実施していないが、平成31年度に次期計画策定に向けて市民協働を行う予定。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 3年に1度の介護保険事業計画の策定において、過去の給付実績や高齢者人口・認定者数の推計等から介護サービス給付費を事業毎に見込むが、実績との差が出てしまった。 |
|--|

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護予防サービス給付事業を進めていく。 |
|--|

7. 今後の方向性

縮小

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------|------------------|----------|-----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 介護予防サービス事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ⑥ | 特例介護予防サービス計画給付事業 | 予算区分 | 2-2-1 介護予防サービス費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成12年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 要支援認定を受ける前に緊急で介護サービスの利用が必要な方に対し、介護予防サービスの計画作成に係る給付費について、支給するもの。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、介護予防サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | 決算 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | | | | | | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| サービス給付費 | 千円 | 目標 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 緊急でのサービス利用がなかったため、実績件数0件 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

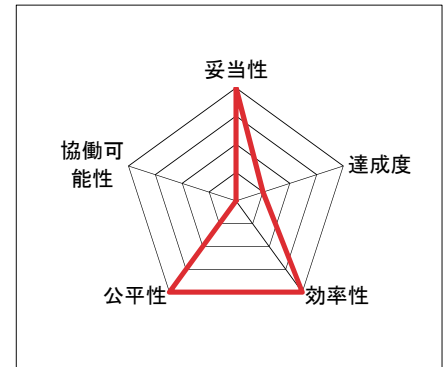
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 急速な高齢化に伴い、年々、介護サービスの利用者数は増加してきており、それに対応するために3年に1回、介護保険事業計画の見直しを行っている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 100 千円 100 千円 0 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 縮小 |
| ・前年度【コメント】 |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護予防サービス給付事業を進めていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 平成30年度は3年間の介護保険事業計画の初年度になるため改善は実施していないが、平成31年度からは、平成33年度からの次期計画の策定のための事業者、市民等へのアンケートやヒアリング等を開始し、平成32年度末までに検証を行い計画を策定する。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 1 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | 20 | — | 60 |
| 実績 | — | 17 | — | — |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 平成30年度は計画策定の年度ではなかったため、市民協働は実施していないが、平成31年度に次期計画策定に向けて市民協働を行う予定。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 緊急時に国制度である介護保険サービスの給付費の支給をするものであるため、特になし。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護予防サービス給付事業を進めていく。 |

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 縮小 |
|----|

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|--------------------------------------|--|---|-----------------|-----------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 105 | 事業名 | 地域密着型介護予防サービス事業 | 担当部課 | 福祉部長寿課 | | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | — | | 会計区分 | 介護保険特別会計 | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | 予算区分(款—項—目) | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | | 2-2-1 介護予防サービス費 | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 介護保険法 | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 寝たきりや認知症の高齢者が急増する一方、核家族化や介護者の高齢化などにより、家族だけで介護を行うことが難しくなっている社会現象に対し、介護を社会全体で支えるための介護サービスを給付するため、平成12年度から介護保険制度が開始された。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 地域密着型介護予防サービスとして行われる、介護予防小規模多機能型居宅介護や介護予防認知症対応型共同生活介護(グループホーム)等に係る給付費について、支給するもの。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 要支援認定を受けている方 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、介護サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 地域密着型介護予防サービス給付事業 | 縮小 | ④ | | | | |
| | ② 特例地域密着型介護予防サービス給付事業 | 縮小 | ⑤ | | | | | |
| | ③ | | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 3,310 | 1,039 | 1,438 | 957 | 971 |
| | | | 決算 | 921 | 860 | 0 | 766 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | - | 1,910 | 805 | 795 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | - | 2,770 | 805 | 1,561 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A サービス給付費 | 千円 | 目標 | 3,299 | 3,292 | 3,714 | 970 | 971 |
| | | | 実績 | 921 | 860 | 0 | 766 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| C | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 3年に1度策定している介護保険事業計画において見込額を設定している。 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 国の制度であるため、各市町とも基本的に取組内容は同じ。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 地域密着型介護予防サービスについては、平成29年度は利用者が1人もいなかったが、平成30年度は利用があり、目標に近い数値となった。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 高齢者の増加に伴い、年々、介護保険サービスの利用者は増加しているが、必要なサービスが不足することのないように、計画策定時に検証を行い、整備を進めてきた。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 3年に1度の介護保険事業計画の策定において、過去の給付実績や高齢者人口・認定者数の推計等から地域密着型介護予防サービス給付費を事業毎に見込むが、実績との差が出ないように見込むことが難しい。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき地域密着型介護予防サービス給付事業を進めていく。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成31年度に高齢者等へニーズ等のアンケート調査を行い、平成32年度中に、次の介護保険事業計画を策定する中で、給付費の見込みを検証する。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|-----------------|-------------------|----------|-----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 地域密着型介護予防サービス事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 地域密着型介護予防サービス給付事業 | 予算区分 | 2-2-1 介護予防サービス費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成12年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 要支援認定を受けている方に対し、地域密着型介護予防小規模多機能型居宅介護や介護予防認知症対応型共同生活介護(グループホーム)等に係る給付費について、支給するもの。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、地域密着型介護予防サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---------------------------|----|------------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 3,210 | 939 | 1,338 | 947 | 961 |
| | | 決算 | 921 | 860 | 0 | 766 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 地域密着型介護予防サービス給付費 | | | | 766 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|--|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| サービス給付費 | 千円 | 見込 | 3,199 | 3,192 | 3,614 | 960 | 961 |
| | | 実績 | 921 | 860 | 0 | 766 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 平成29年度は利用がなかったが、平成30年度は、小規模多機能型居宅介護の利用があった。 各月の利用件数合計実績：10件 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

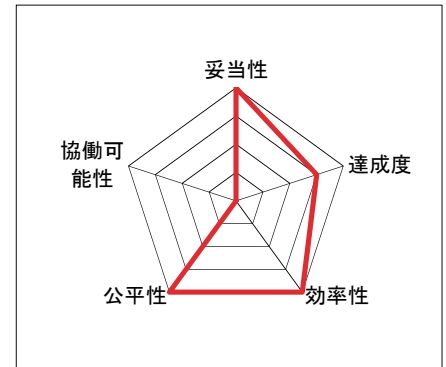
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 急速な高齢化に伴い、年々、介護サービスの利用者数は増加してきており、それに対応するために3年に1回、介護保険事業計画の見直しを行っている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 947 千円 961 千円 14 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 縮小 |
| ・前年度【コメント】 |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき地域密着型介護予防サービス給付事業を進めていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 平成30年度は3年間の介護保険事業計画の初年度になるため改善は実施していないが、平成31年度からは、平成33年度からの次期計画の策定のための事業者、市民等へのアンケートやヒアリング等を開始し、平成32年度末までに検証を行い計画を策定する。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | — | 20 | — | 60 |
| 実績 | — | 17 | — | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 平成30年度は計画策定の年度ではなかったため、市民協働は実施していないが、平成31年度に次期計画策定に向けて市民協働を行う予定。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 小規模多機能型居宅介護は、要介護の人が利用するのに適したサービスと言え、要支援の利用者がいなくなったことは、不自然なことではない。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき地域密着型介護予防サービス給付事業を進めていく。 |

7. 今後の方向性

縮小

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|-----------------|---------------------|----------|-----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 地域密着型介護予防サービス事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 特例地域密着型介護予防サービス給付事業 | 予算区分 | 2-2-1 介護予防サービス費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成12年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 要支援認定を受ける前に緊急で地域密着型介護予防サービスの利用が必要な方に対し、介護予防小規模多機能型居宅介護や介護予防認知症対応型共同生活介護（グループホーム）等に係る給付費について、支給するもの。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、地域密着型介護予防サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 100 | 100 | 100 | 10 | 10 |
| | | 決算 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | | | | | | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| サービス給付費 | 千円 | 目標 | 100 | 100 | 100 | 10 | 10 |
| | | 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| 緊急でのサービス利用がなかったため、実績件数0件 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

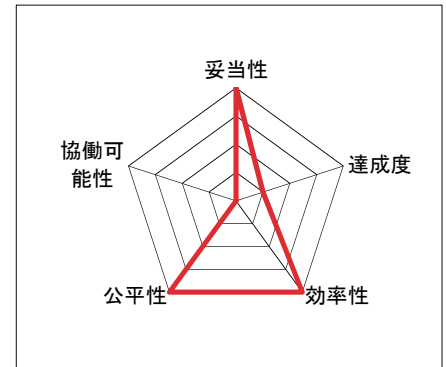
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 急速な高齢化に伴い、年々、介護サービスの利用者数は増加してきており、それに対応するために3年に1回、介護保険事業計画の見直しを行っている。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 10千円 10千円 0千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 縮小 |
| ・前年度【コメント】 |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき地域密着型介護予防サービス給付事業を進めていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 平成30年度は3年間の介護保険事業計画の初年度になるため改善は実施していないが、平成31年度からは、平成33年度からの次期計画の策定のための事業者、市民等へのアンケートやヒアリング等を開始し、平成32年度末までに検証を行い計画を策定する。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 1 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | — | 20 | — | 60 |
| 実績 | — | 17 | — | — |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 平成30年度は計画策定の年度ではなかったため、市民協働は実施していないが、平成31年度に次期計画策定に向けて市民協働を行う予定。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 緊急時に国制度である介護保険サービス給付費の支給をするものであるため、特になし。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき地域密着型介護予防サービス給付事業を進めていく。 |

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 縮小 |
|----|

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|---|--|--|--------------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 106 | 事業名 | 介護予防・生活支援事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 介護保険特別会計 | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 一 項 一 目) | | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | 3-1-1 介護予防・生活支援事業費 | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市第8次高齢者福祉計画及び第7期介護保険事業計画 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 介護保険法の改正により、全ての市町村が平成29年4月から「介護予防・日常生活支援総合事業」を開始し、高齢者に対して、地域の実情に応じた効果的な介護予防及び日常生活支援を行うことが定められたため。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 軽度の虚弱者に対してケアマネジメント、ホームヘルプ、デイサービスのサービスを提供する。国による一律の基準ではなく、地域の実情に応じたサービス類型を設定し、効果的・効率的なサービス導入を進める。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市内在住で要支援認定または事業対象者の認定を受けた人 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 自立支援・重度化防止を推進する | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 介護予防ケアマネジメント事業 | 縮小 | ④ | | | | |
| | ② 介護予防・生活支援サービス事業 | 縮小 | ⑤ | | | | | |
| | ③ | | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | | | 36,521 | 75,422 | 77,257 |
| | | | 決算 | | | 38,578 | 77,153 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | | | 1,611 | 2,384 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | | | 40,189 | 79,537 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 介護予防・生活支援サービス事業費 | 千円 | 目標 | | | 34,000 | 75,000 | 75,000 |
| | | | 実績 | | | 34,732 | 69,475 | |
| | B | 人 | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 自立支援・重度化防止を進めることで、要支援・要介護認定者の増加を抑制し、元気で活動的な高齢者を増やす。 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町においても同様に地域の実情に応じた取組に着手している。 本市では平成29年3月から介護予防・日常生活支援総合事業を開始。平成29年度から予算、事業の組み直しを実施。 | | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 地域いきいき事業により介護が必要になる前の地域での介護予防、生活支援の仕組みづくりに取り組んでいるが、まだ当事業の対象者の受け皿となるまでには仕組みが整っていない。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 要支援認定がなくても基本チェックリストへの該当で当該サービスが受けられるようになり、ハードルが下がっている。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 介護報酬の低下、人材不足等により、介護保険事業者の経営はひっ迫しているところが多く、新しいサービス類型の設定に対応できる状況ではない。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) できる限り対象者が増えないよう、地域いきいき事業によるサービスを充実させる。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 5年後を目途として、全サービスを地域いきいき事業へ移行させる。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|------------------|--------|--------------------|----------|--------|--|
| 事業(A票)名 | 介護予防・生活支援事業 | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — | |
| 事務事業名 | ① 介護予防ケアマネジメント事業 | 予算区分 | 3-1-1 介護予防・生活支援事業費 | | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成28年度 | | 終了(予定)年度 | 平成35年度 | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 軽度の虚弱者に対してケアマネジメントのサービスを提供する。 国による一律の基準ではなく、地域の実情に応じたサービス類型を設定し、効果的・効率的なサービス導入を進める。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 自立支援・重度化防止を推進する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | | 0 | 3,760 | 7,629 | 7,893 |
| | | 決算 | | 0 | 3,846 | 7,678 | |
| ＜備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| (1) | | 介護予防サービス計画給付費 | | | | 7,678 | 千円 |
| (2) | | | | | | | 千円 |
| (3) | | | | | | | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 計画数 | 件 | 見込 | | | 1,000 | 2,000 | 2,000 |
| | | 実績 | | | 976 | 1,688 | |
| ＜備考：活動の概要（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| 介護保険法に基づく、介護予防・日常生活支援総合事業の一つとして、事業対象者及び要支援認定者のサービス利用に係るケアマネジメントを行った。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

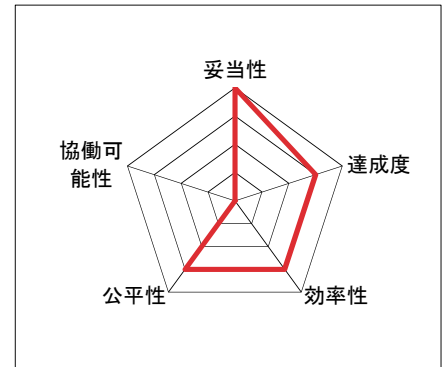
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町においても同様に地域の実情に応じた取組に着手している。本市では平成29年3月から介護予防・日常生活支援総合事業を開始。平成29年度から予算、事業の組み直しを実施。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|------------|--------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 7,629 千円 | 7,893 千円 | 264 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| できる限り、対象者が増えないよう地域いきいき事業によるサービスを充実させる。 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| ※前年度新規行政評価対象事業 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数 (人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況 (30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) できる限り対象者が増えないよう、地域いきいき事業によるサービスを充実させる。 |
|--|

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) できる限り対象者が増えないよう、地域いきいき事業によるサービスを充実させる。 |
|--|

7. 今後の方向性

縮小

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|-------------|-----------------|----------|--------------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 介護予防・生活支援事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② | 介護予防・生活支援サービス事業 | 予算区分 | 3-1-1 介護予防・生活支援事業費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成28年度 | 終了(予定)年度 | 平成35年度 | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) |
| | 軽度の虚弱者に対してホームヘルプ、デイサービスのサービスを提供する。 国による一律の基準ではなく、地域の実情に応じたサービス類型を設定し、効果的・効率的なサービス導入を進める。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 自立支援・重度化防止を推進する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|-----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | | | 32,761 | 67,793 | 69,364 |
| | | 決算 | | | 34,732 | 69,475 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 介護予防通所介護費 | | | | 52,040 | 千円 |
| (2) | | 介護予防訪問介護費 | | | | 17,163 | 千円 |
| (3) | | 手数料 | | | | 160 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| サービス費 | 千円 | 見込 | | | 32,672 | 67,638 | 67,638 |
| | | 実績 | | | 34,732 | 69,363 | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 介護保険法に基づく、介護予防・日常生活支援総合事業の一つとして、事業対象者及び要支援認定者にホームヘルプ、デイサービスのサービスを提供した。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

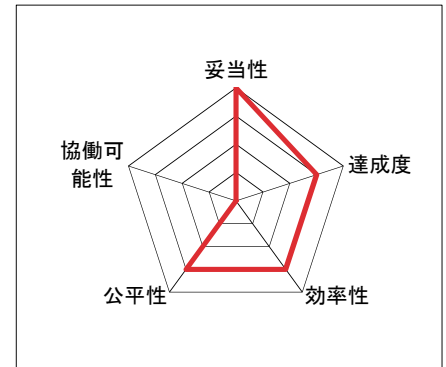
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 近隣市町においても同様に地域の実情に応じた取組に着手している。本市では平成29年3月から介護予防・日常生活支援総合事業を開始。平成29年度から予算、事業の組み直しを実施。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|------------|----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 67,793 千円 | 69,364 千円 | 1,571 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| できる限り、対象者が増えないよう地域いきいき事業によるサービスを充実させる。 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| ※前年度新規行政評価対象事業 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| できる限り対象者が増えないよう、地域いきいき事業によるサービスを充実させる。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| できる限り対象者が増えないよう、地域いきいき事業によるサービスを充実させる。 |

7. 今後の方向性

縮小

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|---|---|---|-----------------------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 107 - | 事業名 | 地域いきいき事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 介護保険特別会計 | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 - 項 - 目) | | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | 3-1-2 一般介護予防費 | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | - | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 長久手市第8次高齢者福祉計画及び第7期介護保険事業計画 | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 介護保険法の改正により、全ての市町村が平成29年4月から「介護予防・日常生活支援総合事業」を開始し、高齢者に対して、地域の実情に応じた効果的な介護予防及び日常生活支援を行うことが定められたため。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 市民をはじめとするたくさんの主体の意欲や能力を最大限に発揮し、地域での健康づくり活動や支え合い活動等が創出されるような支援を推進する。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 主として、市内在住で要介護の認定を受けていない65歳以上の人 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 自助、互助の力を高める。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 地域いきいき事業 | 拡充 | ④ | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | | 2,136 | 30,246 | 31,925 | 38,333 |
| | | | 決算 | | 225 | 25,069 | 28,434 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | | 8,020 | 10,447 | 10,514 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | | 8,245 | 35,516 | 38,948 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 事業参加延べ人数 | 人 | 目標 | | 30 | 8,000 | 10,000 | 12,000 |
| | | | 実績 | | 45 | 9,339 | 9,893 | |
| | B ワンコインサービス提供回数 | 回 | 目標 | | | | | 1,100 |
| | | | 実績 | 293 | 437 | 593 | 1,228 | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 事業参加者の延べ人数(いきいきライフ推進事業、一般介護予防事業、いきいきサロン、いきいき介護予防教室) | | | | | | | | |
| B ワンコインサービスについて支援者がサービスを提供した回数 | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町においても同様に地域の実情に応じた取組を行っている。本市では平成29年3月から介護予防・日常生活支援総合事業を開始し、平成29年度から予算、事業の組み直しを実施。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 順調に実績を伸ばし、目標を達成している。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 平成28年度に事業を開始し、徐々に事業参加者を取り込めている。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 地域での健康づくり活動や支え合い活動に興味関心が高くない人の参加につながっていない。また、参加している方でも自発的な活動につながっていない。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 事業の意図及び事業参加のメリットを適切に広報し、参加者層の拡大及び自発的な活動につなげていく。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 5年後を目処として、基本的に自助、互助の形を確立させ、市民や企業等様々な主体の自発的な活動へと移行させていく。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|----------------|----------|----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 地域いきいき事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 地域いきいき事業 | 予算区分 | 3-1-2 一般介護予防費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成28年度（2016年度） | 終了（予定）年度 | 平成40年度（2028年度） | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民をはじめとするたくさんの主体の意欲や能力を最大限に発揮し、地域での健康づくり活動や支え合い活動等が創出されるような支援を推進する。それによって、主として、市内在住で要介護の認定を受けていない65歳以上の人の介護予防・日常生活支援を推進する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 自助・互助の力を高める。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------------|----------------|----------------|------------------|------------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | | 2,136 225 | 30,246 25,069 | 31,925 28,434 | 38,333 |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | いきいきライフ推進事業委託 | | | | 15,082 | 千円 |
| (2) | | いきいきサービス事業委託 | | | | 12,892 | 千円 |
| (3) | | ワンコインサービス事業補助金 | | | | 313 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| どこでもいきいき運動教室延べ参加者数 | 人 | 見込 実績 | | 10 6 | 3,000 3,975 | 4,000 4,388 | 5,000 |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

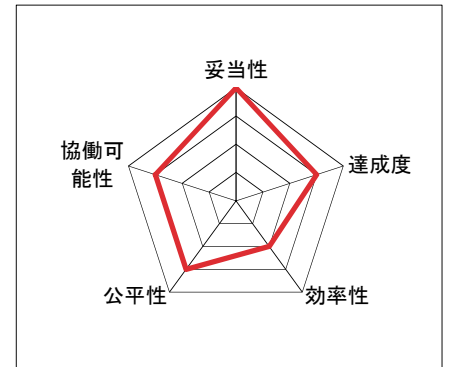
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
近隣市町においても同様に地域の実情に応じた取組に着手している。本市では平成29年3月から介護予防・日常生活支援総合事業を開始。平成29年度から予算、事業の組み直しを実施。

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 31,925 千円 38,333 千円 6,408 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 拡充 |
| ・前年度【コメント】 |
| 事業の意図及び事業参加のメリットを適切に広報し、参加者層の拡大及び自発的な活動につなげていく。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 運動だけでない市民の多様なニーズに対応し事業参加者を取り込むため、民間企業と連携した取組に着手した。また、地域サロン等における健康づくり等の先導役を養成するための講座を実施し、「いきいきライフパートナー」として約60名を認定した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|---|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | 30 | 8,000 | 10,000 | 12,000 |
| 実績 | 45 | 9,339 | 9,893 | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 市民と一緒に振り付けを考えた体操を市民まつりのステージで参加者が披露し、事業周知を行った。 | | | | |

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)

参加者層の拡大や担い手づくりをさらに意識して進める必要がある。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)

事業参加による個人の状態の変化を分析する必要がある。

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | | | | |
|------------------------------|--|---|------------------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 108 | 事業名 | 包括的支援事業(地域支援事業等) | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 介護保険特別会計 | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 一 項 一 目) | | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | 3-2-1 包括的支援事業費 | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 介護保険法 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 高齢者のケアに関する地域の総合的なマネジメントのため、平成18年度に地域包括支援センターが設けられた。また、平成30年4月から全ての市町村で在宅医療・介護連携、認知症総合支援、地域ケア会議推進事業(新しい包括的支援事業)を開始することとなっている。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 介護保険法第115条の44第1項第2号から5号に定める事業を包括的支援事業として実施する。地域包括支援センターの運営を行い、介護予防ケアマネジメント、総合相談、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント等の業務を行う。医療と介護の連携を推進する事業、地域での認知症のケアを効果的に推進する事業、多職種による地域のケアマネジメントのあり方や課題を抽出する事業を行う。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 主として市内在住の65歳以上の人 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) いつまでも住み慣れた地域で自分らしく生活できるようにする。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 包括的支援事業(地域支援事業等) | 拡充 | ④ | | | | |
| | ② | | ⑤ | | | | | |
| | ③ | | ⑥ | | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 47,194 | 57,579 | 68,151 | 80,986 | 83,202 |
| | | | 決算 | 45,915 | 46,992 | 64,346 | 77,884 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | | 11,075 | 15,683 | 15,825 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | | 58,067 | 80,029 | 93,709 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 包括支援センターへの相談件数 | 件 | 目標 | | | | 3,000 | 3,300 |
| | | | 実績 | 2,903 | 2,395 | 2,440 | 3,606 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 地域包括支援センターに寄せられた相談延べ件数 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 全市町村で行っている事業であるが、各市町村の地域の実情に応じた取り組みがなされている。新しい包括的支援事業の開始により、地域包括支援センターに求められる機能がふくらんでいる。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 高齢者増加に伴い、地域包括支援センターへの相談件数も増えており、目標を達成している。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 地域包括支援センターの業務量増加に対応しつつ、地域包括ケアシステム構築への仕組みづくりを推進するため、役割を整理し、地域のネットワークの中核となるよう意識した事業展開を進めた。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 独居高齢者や後期高齢者のみの世帯が増加しており、支援を必要とする人は増加傾向にあるが、事業にかけられるコストには限りがあり、間接的な支援者を増やしていく必要がある。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 地域のネットワークを構築し、多様な主体が高齢者のケアに携わる仕組みづくりを進める。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 5年後を目途として、本市としての地域包括ケアシステムのあり方の合意形成を図る。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|--------------------|----------------|----------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 包括的支援事業(地域支援事業等) | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① 包括的支援事業（地域支援事業等） | 予算区分 | 3-2-1 包括的支援事業費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成18年度（2006年度） | 終了（予定）年度 | — | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | （誰、何に対し、何をどのように実施しているのか） 対象：主として市内在住の65歳以上の人 地域包括支援センターの運営を行い、介護予防ケアマネジメント、総合相談、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント等の業務を行う。 医療と介護の連携を推進する事業、地域での認知症のケアを効果的に推進する事業、多職種による地域のケアマネジメントのあり方や課題を抽出する事業を行う。 |
| 意図 | （対象をどのような状態にしたいか） いつまでも住み慣れた地域で自分らしく生活できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|---------------------------|----|---------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 事業費 | 千円 | 予算 | 47,194 | 57,579 | 68,151 | 80,986 | 83,202 |
| | | 決算 | 45,915 | 46,992 | 64,346 | 77,884 | |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | 包括的支援事業委託 | | | | 50,950 | 千円 |
| (2) | | 認知症地域支援推進委託 | | | | 7,337 | 千円 |
| (3) | | 在宅医療・介護連携支援センター業務委託 | | | | 7,182 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|------------------------|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 地域包括支援センターへの相談件数 | 件 | 見込 | 1,350 | 1,400 | 2,300 | 2,380 | |
| | | 実績 | 1,591 | 1,554 | 2,440 | 3,606 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要（30年度(2018)）> | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

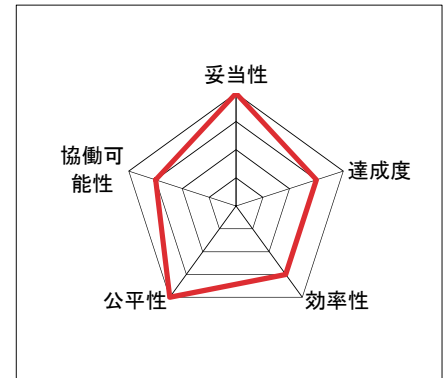
| |
|--|
| （制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など） 市町村で行っている事業であるが、各市町村の地域の実情に応じた取組がなされている。新しい包括的支援事業の開始により、地域包括支援センターに求められる機能がふくらんでいる。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--|------------|----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 80,986 千円 | 83,202 千円 | 2,216 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| 地域のネットワークを構築し、多様な主体が高齢者のケアに携わる仕組みづくりを進める。 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| （何をどのような状態に改善したのか） | | |
| 地域ケア会議学習会を毎月開催し、多様な専門職が集って高齢者の自立支援についてアイデアやアドバイスを出し合い、ネットワークの構築に努めた。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | 3 |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|-------|-------|-------|-------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
| 見込 | | | 1,250 | 1,260 |
| 実績 | 1,582 | 1,223 | 1,265 | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| （協働で取り組んだこと、評価できない理由など） | | | | |
| 認知症のことを正しく理解し、認知症の方やご家族を温かく見守る応援者である認知症サポーターを養成した。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| （活動のエピソード、コメント、特記事項など） |
| 独居高齢者や後期高齢者のみの世帯の増加により、家族内での互助機能が低下し、高齢者数の伸び以上に、支援を必要とする人が増加している。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| （改善が必要なこと、改善の方法など） |
| 高齢者が日常生活の中で接する可能性が高いスーパーや喫茶店等の民間事業者との連携を進める必要がある。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| 事業番号 | 109 | 事業名 | 介護保険・任意事業 | | 担当部課 | 福祉部長寿課 | | |
|------------------------------|---|---|-----------|------------|-----------------|------------|------------|-----------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | | | 会計区分 | 介護保険特別会計 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | | | 予算区分(款 一 項 一 目) | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | | | 3-2-2 任意事業費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市第8次高齢者福祉計画及び第7期介護保険事業計画 | | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 地域の実情に応じて、市町村の任意事業として、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるための事業を行う。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 高齢者への配食サービスの提供による見守り、栄養状態の維持・改善を図る事業、成年後見制度の充実に係る事業等 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 主として市内在住の65歳以上の人 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) いつまでも住み慣れた地域で自分らしく生活できるようにする。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 介護保険・任意事業 | 拡充 | ④ | | | | |
| | ② | | | ⑤ | | | | |
| | ③ | | | ⑥ | | | | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | 2,135 | 2,837 | 18,023 | 15,945 | 19,418 |
| | | | 決算 | 1,709 | 2,784 | 17,524 | 16,522 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | — | 7,913 | 4,833 | 4,559 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | — | 10,697 | 22,357 | 21,081 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 食の自立支援事業配食数 | 回 | 目標 | 30,200 | 34,100 | 38,600 | 38,600 | 46,920 |
| | | | 実績 | 32,424 | 33,276 | 37,938 | 42,023 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A | 食の自立支援事業による配食の回数 | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 全市町村で行っている事業であるが、各市町村の地域の実情に応じた取組がなされている。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 概ね達成されている。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 宅配業者の数を2者に増やし、昼食と夕食を選択できるようにした。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 独居高齢者や後期高齢者のみの世帯が増加しており、支援を必要とする人は増加傾向にあるが、事業にかけられるコストには限りがあり、間接的な支援者を増やしていく必要がある。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 地域のネットワークを構築し、多様な主体が高齢者のケアに携わる仕組みづくりを進める。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 5年後を目途として、本市としての地域包括ケアシステムにどう位置づけるか合意形成を図る。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|-------------|--------|-------------|----------|---|
| 事業(A票)名 | 介護保険・任意事業 | 担当部課 | 福祉部長寿課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① 介護保険・任意事業 | 予算区分 | 3-2-2 任意事業費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成18年度 | | 終了(予定)年度 | - |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 対象：原則として市内在住の65歳以上の高齢者への配食サービスの提供による見守り、栄養状態の維持・改善を図る事業、成年後見制度の充実に係る事業等 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) いつまでも住み慣れた地域で自分らしく生活できるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|---------------------------|----|------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 事業費 | 千円 | 予算 | 2,135 | 2,837 | 18,023 | 15,945 | 19,418 |
| | | 決算 | 1,709 | 2,784 | 17,524 | 16,522 | |
| ＜備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| (1) | | 「食」の自立支援事業委託 | | | | 12,607 | 千円 |
| (2) | | 成年後見センター負担金 | | | | 2,237 | 千円 |
| (3) | | 「食」の自立支援事業訪問調査委託 | | | | 1,096 | 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 |
|--|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | (2015) | (2016) | (2017) | (2018) | (2019) |
| 食の自立支援事業配食数 | 回 | 見込 | 30,200 | 34,100 | 38,600 | 38,600 | 46,920 |
| | | 実績 | 32,424 | 33,276 | 37,938 | 42,023 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| ＜備考：活動の概要（30年度(2018)）＞ | | | | | | | |
| 高齢者への配食サービスの提供による見守り、栄養状態の維持・改善を図る事業、成年後見制度の充実に係る事業等 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

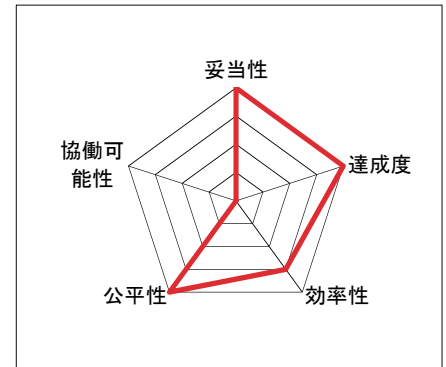
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| 全市町村で行っている事業であるが、各市町村の地域の実情に応じた取組がなされている。 |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|---|------------|----------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 15,945 千円 | 19,418 千円 | 3,473 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 | |
| ・前年度【コメント】 | | |
| 地域のネットワークを構築し、多様な主体が高齢者のケアに携わる仕組みづくりを進める。 | | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| 継続的に実施することで、定期的な見守りを実施した。 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 4 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | - |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|------------|------------|------------|-----------|
| (1) 市民参加の延べ人数（人） | | | | |
| 区分 | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況（30年度(2018)） | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| 高齢者に対する福祉サービスであるため。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| 月に1回配食サービスを行う事業者の食事を検食している。また、実際に市民にサービス等の案内を行う機会がある民生委員・児童委員に対して試食会を開催した。 |

【改善ポイント】

| |
|--|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 配食数が年々増加している。現在の利用者も含め、食の自立支援事業として配食が必要な方を見極める必要がある。 |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|-------------|---|--|-----------------|-------------|----------|
| 事業番号 | 110 | 事業名 | 後期高齢者医療・健診事業 | 担当部課 | 福祉部保険医療課 |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 後期高齢者医療特別会計 | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | 予算区分(款 一 項 一 目) | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | 1-3-1 保健事業費 | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 高齢者の医療の確保に関する法律、愛知県後期高齢者医療健康診査事業実施要綱 | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 後期高齢者医療の保険者である愛知県後期高齢者広域連合は、生活習慣病の早期発見、重症化予防のため健康診査を行うこととなっている。愛知県後期高齢者広域連合は県下の市町村に委託して事業を実施している。 | | | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|---|--------|---|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 健康診査の実施 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民(愛知県後期高齢者医療の被保険者) | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 対象者が自らの生活習慣における健康課題を認識して、行動変容と自己管理ができるようにする。 | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 後期高齢者医療・健診事業 | 改善・見直し | ④ | |
| | ② | | ⑤ | | |
| | ③ | | ⑥ | | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | 千円 | 決算 | 予算 | 18,524 | 20,401 | 24,214 | 33,302 |
| 決算 | | | | 18,331 | 20,447 | 23,246 | 25,656 | |
| 人件費(B) | 千円 | 決算 | - | - | 571 | 1,272 | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | - | - | 23,817 | 26,928 | | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|---|-----------------------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 健康診査 受診率(愛知県後期高齢者広域連合発表値) | % | 目標 | 46.00 | 47.00 | 48.00 | 49.00 | 50.00 |
| | | | 実績 | 45.73 | 47.89 | 44.54 | 45.93 | |
| | B | | 目標 | | | | | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) | | | | | | | | |
| A 後期高齢者の生活習慣病を早期に発見するための健診の受診率を成果指標とする。 | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | |
| C | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 健康寿命の延伸に向けて、高齢者の保健事業ではメタボ予防だけでなく、フレイル予防のために、国保・後期保健事業と介護予防の一体的な実施が求められている。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|---|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 健診受診率は、ほぼ横ばいの推移となっており、目標の達成はできていない。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 受診勧奨は、前年度受診者及び75歳年齢到達者に対して行っており、未受診者対策ができていない。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 健診未受診者の対策の他、健診結果データの分析による後期高齢者の状況把握、保健事業への活用が課題となっている。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 健診受診率の向上及び健診結果データを活用した保健事業の展開(国保保健事業・介護予防事業との連携) |
| | 中長期の目標 | (いっごころまでに事業をどのような状態にしたいか) 健診結果データの分析・活用により、後期高齢者の健康課題を把握し、保健事業に反映させる。 |

| | | |
|------|-------------------------|------------------------|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・他の健診関連事業との連携を図ってください。 |
|------|-------------------------|------------------------|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|--------------|--------------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 後期高齢者医療・健診事業 | | 担当部課 | 福祉部保険医療課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 後期高齢者医療・健診事業 | 予算区分 | 1-3-1 保健事業費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成20年度 | 終了(予定)年度 | — | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 後期高齢者医療被保険者に対して、市内の医療機関で健康診査を実施。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 対象者が自らの生活習慣における健康課題を認識して、行動変容と自己管理ができるようにする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 18,524 | 20,401 | 24,214 | 33,302 | 29,034 |
| | | 決算 | 18,331 | 20,447 | 23,246 | 25,656 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 後期高齢者保健事業委託 | | | 24,629 千円 | | | | |
| (2) 電算委託 | | | 867 千円 | | | | |
| (3) 印刷製本費 | | | 157 千円 | | | | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 健診受診者数 | 人 | 見込 | 1,452 | 1,810 | 1,879 | 2,136 | 2,333 |
| | | 実績 | 1,628 | 1,816 | 1,824 | 1,994 | |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| 後期高齢者被保険者数 4,341人 健康診査 受診者数：1,994人 受診率：45.93% (速報値) | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

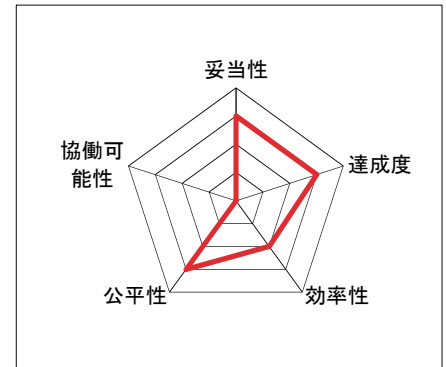
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 健康寿命の延伸に向けて、高齢者の保健事業ではメタボ予防だけでなく、フレイル予防のために、国保・後期保健事業と介護予防の一体的な実施が求められている。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| |
|---|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 33,302 千円 29,034 千円 △ 4,268 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 改善・見直し |
| ・前年度【コメント】 |
| 健診受診率向上のため、前年度未受診者に対しても受診勧奨を行う。健診受診結果をデータ化して健康課題の分析を行う。健診だけでなく、国保被保険者の実施する保健事業等と連携して生活習慣病の重症化予防事業を実施する。 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) |
| 健診結果のデータ化を行うことができた。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 3 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| これまで活用できていなかった後期高齢者の健診結果のデータ化を行うことができたため、傾向分析を行っている。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| 後期高齢者の健診結果のデータを基にして傾向分析を行い、健康状態をグラフ化するなどして、広報等で現状を周知する。 |
| フレイル予防のため、国保・後期・介護予防一体となった保健事業を行えるよう連携を図る。 |

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|-------------|---|----------------------|------------------|------------|-----------|
| 事業番号 | 111 - | 事業名 | 卯塚墓園事務事業 | 担当部課 | くらし文化部環境課 |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | 会計区分 | 卯塚墓園事業特別会計 | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | 予算区分(款 - 項 - 目) | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | 1-1-1 一般管理費 | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 長久手市卯塚墓園条例、同施行規則 | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 平成17年3月「卯塚墓園整備基本計画」、平成24年3月に「卯塚墓園整備基本方針」の見直しを行う。平成24年度に墓地用地約1.2haを取得。 | | | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|---|----|---|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 市営卯塚墓園管理及び運営に係る事務 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 墓地使用者及び市営卯塚墓園 | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市営卯塚墓園の円滑で適切な管理運営のため | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 卯塚墓園事務事業 | 拡充 | ④ | |
| | ② | | ⑤ | | |
| | ③ | | ⑥ | | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | 千円 | 決算 | 予算 | 22,022 | 18,482 | 21,610 | 21,411 |
| 決算 | | | | 3,559 | 8,149 | 12,553 | 14,013 | |
| 人件費(B) | 千円 | 決算 | — | 6,464 | 4,166 | 6,914 | | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | - | 14,613 | 16,719 | 20,927 | | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------|----------------------|----|-------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 芝生型墓所応募者率(申込数/募集数) | % | 目標 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| | | | 実績 | 93.9 | 100.0 | 97.2 | 268.0 | |
| | B 樹木型合葬式墓所(申込数/募集数) | % | 目標 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 実績 | | | 584.0 | 152.6 | 74.4 | 245.0 | | |
| C | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 芝生型墓所使用者募集数に対する応募者数

B 樹木型合葬式墓所募集数に対する応募者数

C

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 人口減少時代の到来や価値観の多様化から、承継者がいない方が安心して使用いただける管理の必要がない合葬式墓所への需要が大きくなっている。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 平成30年度から芝生型墓所は市外居住者の応募を行ったため、定員を超える応募があった。また、樹木型合葬式墓所は前年度は定員に満たなかったが、条例改正の報道もあり、市内居住者対象で募集を行ったが、定員を超える応募があった。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 市内居住者の樹木型合葬式墓所への応募者が平成29年度に定員割れとなったが、市外居住者を受け入れる条例改正を行った結果、市内居住者の応募が多くなった。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 土地取得や墓園整備等イニシャルコストにかかる起債返済 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 樹木型合葬式墓所に対するニーズが高いため、第二期工事以降での墓地形状の検討を進めていくとともに、問合せが多い市外居住者にも樹木型合葬式墓所使用者を拡大し、墓園の健全経営に努める。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 墓地を求める方のニーズに鑑みて、第二期以降の整備工事の方針を検討していく。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・管理面の民間活用について、研究・検討してください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 卯塚墓園事務事業 | | 担当部課 | くらし文化部環境課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 卯塚墓園事務事業 | 予算区分 | 1-1-1 一般管理費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成24年度 | 終了(予定)年度 | | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) <ul style="list-style-type: none"> 市営卯塚墓園維持管理事業 市営卯塚墓園使用者募集事務 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 合理的、効果的な墓園事業経営に努め、美観を保ち、安心安全に墓参しやすい環境を整える。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|-----------------|-----------------|------------------|------------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 22,022 3,559 | 18,482 8,149 | 21,610 12,203 | 21,411 14,013 | 17,211 |
| <備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）> | | | | | | | |
| (1) | | 施設管理委託 | | | | | 7,181 千円 |
| (2) | | 手数料 | | | | | 622 千円 |
| (3) | | 印刷製本費 | | | | | 421 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 芝生型墓所応募者率 (申込数/募集数) | % | 見込 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| | | 実績 | 93.9 | 100.0 | 97.2 | 268.0 | |
| 樹木型合葬式墓所 (申込数/募集数) | % | 見込 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| | | 実績 | 584.0 | 152.6 | 74.4 | 245.0 | |

<備考：活動の概要（30年度(2018)）>
 安心安全に墓参でき、緑地として憩いの場所となるよう美観を保つため市営卯塚墓園維持管理を行う。また、市営墓園使用者の募集事務を行う。

4. 事務事業を取り巻く環境変化

(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
 人口減少時代の到来や価値観の多様化から、承継者がいない方が安心して使用いただける管理の必要がない合葬式墓所への需要が大きくなっている。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況

| | | |
|------------|------------|------------|
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 21,411 千円 | 17,211 千円 | △ 4,200 千円 |

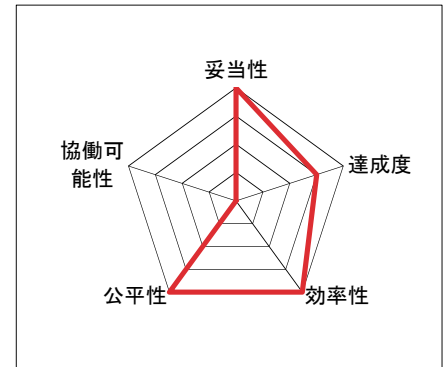
(2) 前年度の評価状況《参考》

| | |
|--------------|--|
| ・前年度【今後の方向性】 | 現状維持 |
| ・前年度【コメント】 | 墓園使用者を市外居住者に拡大し、健全な墓園経営に努めるとともに、緑豊かな墓地公園として美観を保ち、安心安全に墓参できる環境を整える。 |

(3) 改善状況
 (何をどのような状態に改善したのか)
 条例改正を行い、平成30年度は芝生型墓所の使用者を市外居住者にも拡大した。

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 4 |
| 公平性 | 4 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数（人）

| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|----|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 見込 | — | — | — | — |
| 実績 | — | — | — | — |

(2) 協働の状況（30年度(2018)）
 (協働で取り組んだこと、評価できない理由など)
 墓園管理及び使用者募集事務については、専門的知識や技術が必要となるため。

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
 市営墓地という観点から市内居住者を優遇するため、抽選にもれた市内居住の芝生型墓所応募者は、随時募集にすべて受入れを行った。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
 墓園使用者を市外居住者に拡大し、また、時代のニーズにあった墓地需要に応えるため、第2期工事の墓地形状を検討していく。

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|-------------|--|------------------------------------|-----------------------|-----------------|--------------------|
| 事業番号 | 112 - | 事業名 | 公園西駅周辺・区画整備事業（区画整理事業） | 担当部課 | 建設部区画整理課 |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ リンモでにぎわい交流するまち | | 会計区分 | 公園西駅周辺土地区画整理事業特別会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「みどり」～ふるさと（生命ある空間）の風景を子どもたちに～ | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ あえて歩いてみたくなるまち | | 2-1-1 土地区画整理事業費 | |
| | 法定受託事務の有無 | - | | | |
| | その他（関係計画、要綱等） | ✓ 土地区画整合法、都市計画法、その他公物管理（道路法、都市公園法） | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | リンモ公園西駅周辺という立地状況を活かし、良好な市街地整備を誘導するため、平成25年7月より土地区画整理事業を施行している。 | | | | |

| | | | | | | |
|-------|-----------------|--|----|---|--|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) リンモ公園西駅周辺地区において、駅前広場を整備し、リンモ及びN-バスとの交通結節点機能の充実を図りつつ、都市機能の充実と魅力ある拠点形成を図るため、土地区画整理事業を施行し、公共施設整備と宅地整備を実施する。 | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) リンモ公園西駅周辺の20.6ha。土地205筆、地権者118人。 | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 土地区画整理事業による基盤整備を行うことにより、都市機能の充実と魅力ある拠点形成を図る。 | | | | |
| | 事業を構成する事務事業（B票） | ① 公園西駅周辺・区画整理整備事業 | 拡充 | ④ | | |
| | | ② | | ⑤ | | |
| | | ③ | | ⑥ | | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | 1,377,510 | 1,073,153 | 381,489 | 538,115 |
| 決算 | | | | 952,735 | 1,477,349 | 731,658 | 499,496 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | - | 20,241 | 20,942 | 19,870 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | - | 1,497,590 | 752,600 | 519,366 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------|-----------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 使用収益開始率 | % | 目標 | - | - | - | 80 | 95 |
| | | | 実績 | 2 | 61 | 66 | 86 | |
| | B 事業費進捗率 | % | 目標 | - | - | - | 90 | 93 |
| 実績 | | | 37 | 59 | 78 | 86 | | |
| C | | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |

【指標の説明】（指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など）

A 公園西駅周辺土地区画整理事業の換地について、その使用が可能となった換地の比率（使用収益開始率）を成果指標とする。

B 公園西駅周辺土地区画整理事業の事業計画の事業費に対する執行率（事業費進捗率）を成果指標とする。

C

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 長久手市と同様に名古屋市、豊田市の近郊都市である日進市、東郷町、みよし市では、堅調な住宅需要を背景とした新市街地型の土地区画整理事業が施行されている。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|----|-------------|---|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 平成30年度末の使用収益開始率は85.8%で、目標の80%を上回った。 同事業費進捗率は86.5%で、目標の90%は下回ったが、使用収益開始率が上回ったように、施工すべき範囲は完了した。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 平成26年度の仮換地指定以降、平成28年度の横断歩道橋整備、平成29年度の大型商業施設開店と、段階的かつ計画的に事業を実施している。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 平成35年度の完了に向け、着実に事業進捗を図る。 |

| | | |
|----|--------|---|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 平成34年度までに、換地処分を行う。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成33年度までに、地区全域の使用収益開始を達成する。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|-----------------------|--------|-----------------|----------|--------|--|
| 事業(A票)名 | 公園西駅周辺・区画整備事業(区画整理事業) | 担当部課 | 建設部区画整理課 | 決算書ページ | — | |
| 事務事業名 | ① 公園西駅周辺・区画整理整備事業 | 予算区分 | 2-1-1 土地区画整理事業費 | | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成25年度 | | 終了(予定)年度 | 平成35年度 | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) <ul style="list-style-type: none"> 公園西駅周辺地区を対象とする。 対象地区において、駅前広場を整備し、リニモ及びN-バスとの交通結節点機能の充実を図りつつ、都市機能の充実と魅力ある拠点形成を図るため、市施行による土地区画整理事業を実施する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) <ul style="list-style-type: none"> 公共施設と宅地を一体的に整備する。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 1,377,510 | 1,073,153 | 381,489 | 538,115 | 297,858 |
| | | 決算 | 952,735 | 1,477,349 | 731,658 | 499,496 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | | 街区整備工事 | | | | | 202,138 千円 |
| (2) | | 補償金 | | | | | 111,044 千円 |
| (3) | | 包括支援業務委託 | | | | | 98,280 千円 |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 使用収益開始率 | % | 見込 | - | - | - | 80 | 95 |
| | | 実績 | | 2 | 61 | 66 | 86 |
| 事業費進捗率 | % | 見込 | - | - | - | 90 | 93 |
| | | 実績 | | 37 | 59 | 78 | 86 |

<備考：活動の概要(30年度(2018))>
 ・街区整備工事により、地区南側の区画道路10-5-1号の整備と沿道街区を整備し、使用収益開始率向上を図った。
 ・補償金により、3件の補償契約を行い、すべての補償契約が完了した。

4. 事務事業を取り巻く環境変化

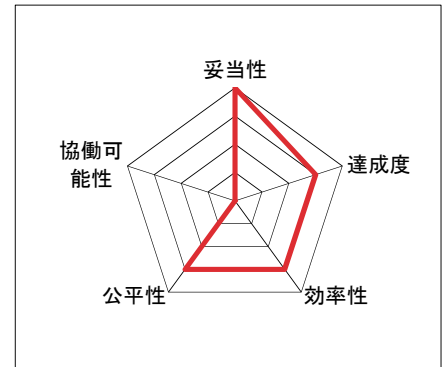
| |
|------------------------------|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) |
| ・10月に事業計画変更を行い、駅前中高層街区を一体化した |

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|---|--------------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 538,115 千円 | 297,858 千円 | △ 240,257 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 拡充 | |
| ・前年度【コメント】 | ・平成30年度に設計図変更、資金計画の見直しを反映した事業計画変更に取り組む。 ・駅前広場周辺を大街区化し、生活利便施設の立地促進を図るとともに、積極的な保留地分譲に取り組む。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| — | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| なし。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|--|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| ・平成29年度から一般保留地の分譲を開始し、平成30年度は約2億円の分譲を予算計上した。 ・年度半ばでは分譲契約に至らなかったが、結果4億円もの分譲契約となった。 |

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| ・駅前中高層街区の日用品、食料品を扱う商業施設立地を促進し、地区周辺も含めた生活利便性の向上に取り組む。 ・地区全体の市街地整備の促進により、計画的な保留地分譲に取り組む。 |

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 拡充 |
|----|

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| | | | | | |
|------|-------|-----|-----------------|------|----------|
| 事業番号 | 113 - | 事業名 | 公園西駅周辺・区画整理関連事業 | 担当部課 | 建設部区画整理課 |
|------|-------|-----|-----------------|------|----------|

| | | | | |
|-------------|--|---------------------------------|----------------------------------|--------------------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ リリモでにぎわい交流するまち | 会計区分 | 公園西駅周辺土地区画整理事業特別会計 |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「みどり」～ふるさと(生命ある空間)の風景を子どもたちに～ | 予算区分(款 一 項 一 目) | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ みんなで未来へつなぐ 緑はまちの宝物 | 2-2-1 土地区画整理事業関連事業費 | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 土地区画整理法、都市計画法、その他公物管理(道路法、都市公園法) | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 公園西駅周辺土地区画整理事業で整備する公共施設を対象に、環境配慮した整備の実施や施設のグレードアップを平成27年度から取組んでいる。 | | | |

| | | | | | |
|-------|-----------------|--|----|---|--|
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) 公園西駅周辺土地区画整理事業において環境配慮型まちづくりの実現を図るため、環境配慮型舗装の施工や、緑地、調整池の緑化を実施する。 | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 公園西駅周辺土地区画整理事業で整備する道路の歩道舗装、公園、緑地、調整池の緑化を対象とする。 | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 緑化等による環境に配慮した公共施設整備に取り組み、環境配慮型まちづくりの実現を図る。 | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 公園西駅周辺・区画整理関連事業 | 拡充 | ④ | |
| | | ② | | ⑤ | |
| | | ③ | | ⑥ | |

| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|-------------|--------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 予算 | 532,197 | 618,902 | 282,390 | 138,890 |
| 決算 | | | | 638,700 | 615,214 | 169,813 | 130,929 | |
| 人件費(B) | | 千円 | 決算 | - | 12,221 | 12,485 | 12,717 | |
| 総コスト(A)+(B) | | 千円 | 決算 | - | 627,435 | 182,298 | 143,646 | |

| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
|------|--------------|----|----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| | A 環境配慮型舗装整備率 | % | 目標 | - | - | - | 88 | 92 |
| | | | 実績 | 29 | 56 | 69 | 90 | |
| | B 公園・緑地等整備率 | % | 目標 | - | - | - | 31 | 77 |
| 実績 | | | 0 | 0 | 0 | 17 | | |
| C | | | 目標 | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | |

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 環境配慮型舗装を行う歩道舗装について、その整備面積率を成果指標とする。

B 緑化整備を行う公園・緑地・調整池について、その整備面積率を成果指標とする。

C

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 地球温暖化対策や東日本大震災以降のエネルギー対策の見直しが求められる中、面的な市街地整備手法である土地区画整理事業は、低炭素まちづくりなど環境配慮の実現に向けた施策の展開が求められている。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|----|-------------|--|
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 平成29年度の環境配慮舗装整備率は90.1%で、目標の88%を上回った。 同公園・緑地等整備率は17%で、目標の31%を下回ったが、緑化を行う施設を新たに追加したことによる減であり、予定した施設の整備は完了した。 |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 平成27年度の着工以降、整備する歩道はすべて環境配慮型舗装を実施している。 今後は公園、緑地等の整備を推進する。 |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 事業の実施が、環境配慮へどのように貢献しているかをわかりやすい指標で示すことが必要。 |

| | | |
|----|--------|--|
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 対象施設の整備について、平成33年度までに整備を図る。 |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 公園・緑地等の緑化について、平成31年度までに詳細設計を完了し、整備内容の具体化を図る。 |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|-------------------|--------|---------------------|----------|--------|--|
| 事業(A票)名 | 公園西駅周辺・区画整理関連事業 | 担当部課 | 建設部区画整理課 | 決算書ページ | — | |
| 事務事業名 | ① 公園西駅周辺・区画整理関連事業 | 予算区分 | 2-2-1 土地区画整理事業関連事業費 | | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成27年度 | | 終了(予定)年度 | 平成33年度 | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・公園西駅周辺地区を対象とする。 ・対象地区において、環境配慮型舗装の施工や公園、緑地、調整池等の公共施設の緑化を実施する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) ・公共施設のグレードアップや環境配慮型まちづくりの実現化を図る。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|--------------|----------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | 532,197 638,700 | 618,902 615,214 | 282,390 169,813 | 138,890 130,929 | 375,267 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) | 1号調整池上部整備工事 | | | | | 71,764 千円 | |
| (2) | 香流川緑地整備工事 | | | | | 27,255 千円 | |
| (3) | 電線類地中化実施設計委託 | | | | | 9,911 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 環境配慮型舗装整備率 | % | 見込 実績 | - 29 | - 56 | - 69 | 88 90 | 92 |
| 公園・緑地等整備率 | % | 見込 実績 | - 0 | - 0 | - 0 | 31 17 | 77 |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| ・調整池整備工事により、1号調整池の緑化等の整備が完了した。 ・緑地整備工事により、香流川沿い緑地の段階的な整備が進められている。 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

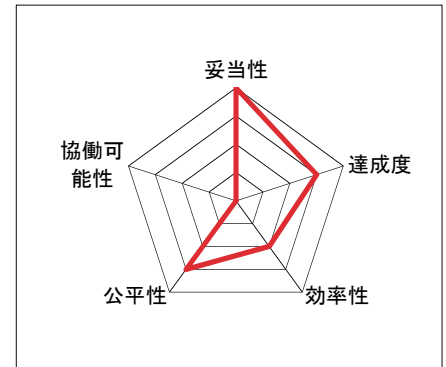
| |
|--|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・環境配慮型まちづくりの取組は、社会的な要求度が依然として高い。 |
|--|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|---|------------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 138,890 千円 | 375,267 千円 | 236,377 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | 拡充 | |
| ・前年度【コメント】 | 予算執行管理だけでなく、その他の方法をもって、わかりやすく評価できるよう、適切な指標を検討する。あらためて、担当職員として環境に配慮したまちづくりがどのようなもので、どうあるべきかを再整理する。 | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| — | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 2 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| なし。 | | | | |

【活動エピソード】

| |
|---|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) ・平成30年度より「環境配慮型まちづくり施策研究会」を組織化し、環境配慮型まちづくりを庁内で検討する下地が整った。 |
|---|

【改善ポイント】

| |
|---|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) ・環境配慮型まちづくりの取組をより具体化し、実践していくため、上述の施策研究会で、長久手市としての環境配慮の取組を共有し、検討、検証を経て、有効な施策を展開していく。 ・環境配慮舗装について、その効果をわかりやすい指標で測定し、結果を情報発信していく。 |
|---|

7. 今後の方向性

| |
|----|
| 拡充 |
|----|

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

| 事業番号 | 114 | 事業名 | 下水道事業・建設改良事業 | | 担当部課 | 建設部下水道課 | | |
|--|---|---|----------------|------------|-------------|-----------------|------------|-----------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ | リノモでにぎわい交流するまち | | 会計区分 | 下水道事業会計・資本的支出 | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | | | 予算区分(款 一 項 一 目) | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ | あえて歩いてみたくなるまち | | 01-01 建設改良費 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ | 下水道法、都市計画法 | | | | | |
| 事業開始の背景、経緯等 | 社会基盤の整備による人口増加に伴い、早急に下水道整備を行う必要から、平成2年度より、長久手市公共下水道事業に着手した。 | | | | | | | |
| 事業目的等 | 事業内容 | (どのような事業なのか) ①長久手市公共下水道事業計画区域882haを計画的に整備を行う。 ②長久手浄化センターを計画的に改築する。 | | | | | | |
| | 事業対象 | (誰、何を対象にしているか) 長久手市公共下水道事業計画区域 | | | | | | |
| | 事業意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 計画的に下水道を整備することにより、生活排水などによる河川などの汚れを防ぎ、清潔で快適なまちにする。 | | | | | | |
| | 事業を構成する事務事業(B票) | ① 管路建設改良事業 | ② 処理場建設改良事業 | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | |
| コスト推移 | 項目 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | 事業費(A) | 千円 | 予算 | | | | 604,709 | 842,752 |
| | | | 決算 | | | | 389,431 | |
| | 人件費(B) | 千円 | 決算 | | | | 20,160 | |
| 総コスト(A)+(B) | 千円 | 決算 | | | | 409,591 | | |
| 成果推移 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 27年度(2015) | 28年度(2016) | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) |
| | A 整備率(管渠) | % | 目標 | 79.3 | 82.0 | 84.2 | 85.0 | 86.2 |
| | | | 実績 | 81.0 | 82.6 | 84.2 | 85.5 | |
| | B 事業費(処理場) | 千円 | 目標 | | | | 234,000 | 499,832 |
| | | | 実績 | | | | 117,264 | |
| | C | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) A 長久手市公共下水道事業計画区域の面積に対する整備率を成果目標とする。 B 長久手浄化センターの高度処理完了年度(H39年度)までの事業予定金額を成果目標とする。 C | | | | | | | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成30年4月より地方公営企業法適用。 | | | | | | |
| 評価 | 目標達成状況 | (成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 平成29年度末の整備率は85%であり、目標を達成している。 | | | | | | |
| | 過去5年間の振り返り | (過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) ①管路建設改良工事については、計画的に整備を進めてきた。 ②処理場建設改良事業については、平成31年度より行政評価対象となった。 | | | | | | |
| | 事務事業全体を見た課題 | (構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 下水道整備に伴う財源の確保が課題となる。 | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性 | (事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 汚水管渠の整備については、市街化区域の整備が概ね完了した。今後は、より多くの市民の生活環境向上のため、市街化調整区域を中心に計画的に整備を進めていく。 | | | | | | |
| | 中長期の目標 | (いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成34年度までに、公共下水管渠整備率を94%にする。 平成39年度までに、長久手浄化センターの高度処理を完了する。 | | | | | | |

| | | |
|------|-------------------------|--|
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |
|------|-------------------------|--|

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | | |
|---------|--------------|----------|----------|-------------|--------|---|
| 事業(A票)名 | 下水道事業・建設改良事業 | | 担当部課 | 建設部下水道課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ① | 管路建設改良事業 | 予算区分 | 01-01 建設改良費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成2年度 | 終了(予定)年度 | 平成35年度 | | |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|--|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 長久手市公共下水道事業計画区域を対象に、汚水管渠の整備を計画的に進めていく。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 公衆衛生の向上と、公共用水域の水質保全を目的とする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 | 349,778 | 392,465 | 356,719 | 370,709 | 342,920 |
| | | 決算 | 188,809 | 241,414 | 140,735 | 272,167 | |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 公共下水道築造工事 | | | | | | 180,914 千円 | |
| (2) 取付管設置工事 | | | | | | 44,818 千円 | |
| (3) 公共汚水ます設置工事 | | | | | | 5,375 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|------------------------|----|----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 整備率 | % | 見込 | 82.0 | 84.2 | 85.0 | 85.8 | 86.2 |
| | | 実績 | 82.6 | 84.2 | 85.0 | 85.5 | |
| | | 見込 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> | | | | | | | |
| ・汚水管渠布設 2, 232m | | | | | | | |
| ・取付管設置工事 121箇所 | | | | | | | |
| ・公共汚水ます設置工事 78箇所 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

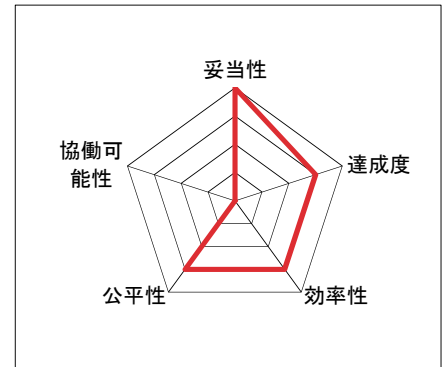
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成30年4月より地方公営企業法適用。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| |
|--|
| (1) 財政状況 |
| (前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額) |
| 370,709 千円 342,920 千円 △ 27,789 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 |
| ・前年度【今後の方向性】 ※新規行政評価対象 |
| ・前年度【コメント】 |
| ※新規行政評価対象 |
| (3) 改善状況 |
| (何をどのような状態に改善したのか) 公営企業法の適用により、建設改良費の繰越工事が可能になったことから、年度末の取付管工事の申請を受理し、工事を繰越で発注することにより、市民ニーズに対応した。 |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|--|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| — | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| — |

【改善ポイント】

| |
|--------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| — |

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

| | | | | | |
|---------|--------------|--------|-------------|----------|--------|
| 事業(A票)名 | 下水道事業・建設改良事業 | 担当部課 | 建設部下水道課 | 決算書ページ | — |
| 事務事業名 | ② 処理場建設改良事業 | 予算区分 | 01-01 建設改良費 | | |
| 事務事業の期間 | 事務事業開始年度 | 平成26年度 | | 終了(予定)年度 | 平成39年度 |

1. 事務事業の目的

| | |
|-------|---|
| 対象・手段 | (誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 対象となる長久手市公共下水道事業計画区域内の汚水を適切に処理し、有事の際も適切に処理できる体制を確保する。 |
| 意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 公衆衛生の向上と、公共用水域の水質保全を目的とする。 |

2. コスト推移

| 項目 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|---------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|--------------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 予算 決算 | / | / | / | 234,000 117,264 | 499,832 |
| <備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))> | | | | | | | |
| (1) 浄化センター実施設計委託 | | | | | | 77,720 千円 | |
| (2) 浄化センター建設工事(電気設備) | | | | | | 34,468 千円 | |
| (3) | | | | | | 千円 | |

3. 活動推移

| 活動指標 | 単位 | 区分 | 27年度 (2015) | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
|--|----|----------|----------------|----------------|----------------|--------------------|---------------|
| 事業費 | 千円 | 見込 実績 | / | / | / | 234,000 117,264 | 499,832 |
| | | 見込 実績 | | | | | |
| <備考：活動の概要(30年度(2018))> 浄化センター実施設計委託 一式 浄化センター建設工事(電気設備) 一式 | | | | | | | |

4. 事務事業を取り巻く環境変化

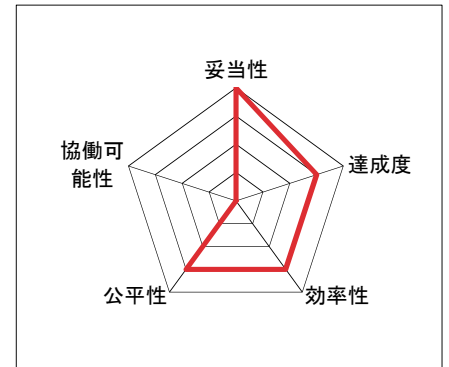
| |
|---|
| (制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成30年4月より地方公営企業法適用。 |
|---|

5. 前年度からの改善状況

| | | |
|--------------------|------------|------------|
| (1) 財政状況 | | |
| (前年度【予算額】) | (今年度【予算額】) | (増減額) |
| 234,000 千円 | 499,832 千円 | 265,832 千円 |
| (2) 前年度の評価状況《参考》 | | |
| ・前年度【今後の方向性】 | ※新規行政評価対象 | |
| ・前年度【コメント】 | — | |
| (3) 改善状況 | | |
| (何をどのような状態に改善したのか) | | |
| ※新規行政評価対象 | | |

6. 評価

| 項目 | 評価 |
|-------|----|
| 妥当性 | 4 |
| 達成度 | 3 |
| 効率性 | 3 |
| 公平性 | 3 |
| 協働可能性 | — |



【協働可能性について】

| | | | | |
|-------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| (1) 市民参加の延べ人数(人) | | | | |
| 区分 | 28年度 (2016) | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 元年度 (2019) |
| 見込 | | | | |
| 実績 | | | | |
| (2) 協働の状況(30年度(2018)) | | | | |
| (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) | | | | |
| — | | | | |

【活動エピソード】

| |
|------------------------|
| (活動のエピソード、コメント、特記事項など) |
| — |

【改善ポイント】

| |
|--------------------|
| (改善が必要なこと、改善の方法など) |
| — |

7. 今後の方向性

拡充

**“「長久手市役所の仕事」通知表”
（行政評価）**

施策評価（S票）

令和元年度 “「長久手市役所の仕事」通知表” (行政評価)
 [平成30年度実施施策内部評価]

○施策評価 (S票) 対象一覧

| 施策 No | <施策評価 (S票)> 施策名【担当課】 |
|----------|---------------------------------|
| 1 | 総合計画事業【市長公室経営企画課】 |
| 2 | 自治基本条例事業【市長公室経営企画課】 |
| 3 | 幸せのモノサシづくり【市長公室経営企画課】 |
| 4 | 職員の働き方改革の推進【市長公室人事課】 |
| 5 | 文書の削減計画【総務部行政課】 |
| 6 | 5S運動【総務部財政課】 |
| 7 | 市役所周辺整備【市長公室経営企画課】 |
| 8 | 交番誘致事業【くらし文化部安心安全課】 |
| 9 | 安心メール事業【くらし文化部安心安全課】 |
| 10 | スポーツターミナル整備【市長公室経営企画課】 |
| 11 | 地区社会福祉協議会の推進【福祉部福祉課】 |
| 12 | 在宅医療・介護連携事業の推進【福祉部長寿課】 |
| 13 | 子ども教室と児童クラブの一体型の推進【子ども部子ども未来課】 |
| 14 | 狭隘道路事業【建設部土木課】 |
| 15 | 香流川近自然工法による整備【建設部土木課】 |
| 16 | 道路・河川維持修繕【建設部土木課】 |
| 17 | 公共物の管理の移行【建設部みどりの推進課】 |
| 18 | 里山保全事業【建設部みどりの推進課】 |
| 19 | 都市公園の整備【建設部みどりの推進課】 |
| 20 | 計画的な下水道事業の推進、汚泥処理方法の検討【建設部下水道課】 |

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

| | | | | | |
|------|-----------|------|--------|--|--|
| 施策番号 | S01 - | 施策名 | 総合計画事業 | | |
| 担当部課 | 市長公室経営企画課 | 関係部課 | 全課 | | |

| | | | | | |
|------|---------------|--|--|--|--|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市みんなで作るまち条例、長久手市総合計画審議会条例 | | | |
| | 施策開始の背景、経緯等 | 総合計画については、地方自治法による法的な策定根拠はなくなったが、まちづくりの課題は多様化しており、従来以上に総合的かつ計画的に市政運営を図ることの重要性が高まっていることから、継続して総合計画を策定していくこととし、2018年7月に施行した「長久手市みんなで作るまち条例」に策定根拠と議決要件が明記された。 | | | |

| | | | | | |
|--------|-------|---|--|--|--|
| 施策の目的等 | 施策の内容 | (どのような施策なのか) ・総合的かつ計画的な行政運営を図るため、総合計画を策定し推進する。 ・多くの市民に関わっていただきながら、計画を策定し推進する。 | | | |
| | 施策の対象 | (誰、何を対象にしているか) ・市職員 ・市民 | | | |
| | 施策の意図 | (対象をどのような状態にしたいか) ・(市職員)総合計画に基づき、事業を実施する。 ・(市民)まちづくりの担い手として、意識を持ち、主体的にまちづくり活動に携わっていただく。 | | | |

| | | | | | | |
|-----------|----------|----------------------|------------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 目標・成果推移等① | 施策に係る取組① | 第6次総合計画の策定・推進 | | | | |
| | | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 31年度 (2019) | 中期 (おおよそ3年後) | 長期 (おおよそ5年後) |
| | | 成果・実績 | 成果・実績 | 成果・目標 | 成果・目標 | 成果・目標 |
| | | 基本構想(素案)を策定した。 | 第6次総合計画(基本構想・基本計画)及びアクションプランを策定した。 | アクションプランの進捗管理 | アクションプランの進捗管理 | アクションプランの見直し |
| | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) |
| | | 総合計画策定業務委託 6,091千円 | 総合計画策定業務委託 6,772千円 | 特になし | 特になし | 特になし |
| | | 総合計画関連資料配布委託 729千円 | 総合計画関連資料配布委託 925千円 | | | |
| | | 市民参加数・実績 | 市民参加数・実績 | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み |
| | | (延べ) 3943 人 | (延べ) 30 人 | (延べ) — 人 | (延べ) — 人 | (延べ) — 人 |

| | | | | | | |
|-----------|----------|----------------------|----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 目標・成果推移等② | 施策に係る取組② | 市民まちづくり計画の策定 | | | | |
| | | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 31年度 (2019) | 中期 (おおよそ3年後) | 長期 (おおよそ5年後) |
| | | 成果・実績 | 成果・実績 | 成果・目標 | 成果・目標 | 成果・目標 |
| | | — | 市民まちづくり計画を策定した。 | 市民まちづくり計画の推進 | 市民まちづくり計画の推進 | 市民まちづくり計画の推進 |
| | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) |
| | | — | 上記に含む | 特になし | 特になし | 特になし |
| | | — | 上記に含む | | | |
| | | 市民参加数・実績 | 市民参加数・実績 | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み |
| | | (延べ) — 人 | (延べ) 275 人 | (延べ) 200 人 | (延べ) 250 人 | (延べ) 300 人 |

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や施策を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 本市にもいずれ訪れる超高齢・人口減少社会に備えるため、多くの市民にまちづくりの担い手としての意識をもってもらう必要がある。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|------|---------|---|
| 活動状況 | 活動エピソード | (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 市民まちづくり計画策定においては、意見を述べるだけでなく、実際に行動に移してもらうため、「お試しアクション」という実践プログラムを、策定過程に組み込んだ。そのため、市民への負担は増え、参加者は減ったが、「まちのためにできることを、自分たちで実践する」という意識付けにつながった。 |
|------|---------|---|

| | | |
|------|--------------------|---|
| 改善状況 | 改善ポイント | (何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど) 従来の総合計画では、計画を推進していくのは行政としていたが、第6次総合計画では、「市民と行政が協働する市民主体のまち」実現のため、市民が基本構想実現のために取り組む内容をまとめた市民まちづくり計画を策定した。 |
| 評価 | 評価・課題 | (進捗状況や課題など) 多くの市民に関わっていただき、総合計画を策定することができた。また、単に策定に関わるだけでなく、計画を推進する担い手として、10組のチームが結成され、それぞれのチームが取り組む市民アクションをまとめた市民まちづくり計画を策定することができた。 |
| 今後 | 今後の方向性、改善点 | (施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) 市民まちづくり計画を知っていたり、積極的に関わる市民は、まだ一部の市民に限られているため、今後多くの市民に知ってもらい関わってもらうことが必要になる。 |
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当 | ・トータル・システムが構築されるように、長久手市みんなでつくるまち条例、中期財政計画、行政改革指針、行政評価等と連携を引き続き図ってください。 |

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

| | | | | | |
|------|-----------|------|----------|--|--|
| 施策番号 | S02 - | 施策名 | 自治基本条例事業 | | |
| 担当部課 | 市長公室経営企画課 | 関係部課 | 全課 | | |

| | | | | | |
|------|---------------|---|--|--|--|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | — | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | — | | | |
| | 施策開始の背景、経緯等 | 地方分権改革に伴い、団体自治はもとより住民自治を拡充し、本市の実状に合わせたまちづくりを進めいくため、まちづくりの基本事項並びに市民、議会及び市それぞれの役割等を定める。 | | | |

| | | | | | |
|--------|-------|---|--|--|--|
| 施策の目的等 | 施策の内容 | (どのような施策なのか) まちづくりの基本的な事項を定めると共に、まちづくりの担い手となる市民、議会、市それぞれの役割等を明らかにする「みんなでつくるまち条例」を制定する。 | | | |
| | 施策の対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民、議会、市 | | | |
| | 施策の意図 | (対象をどのような状態にしたいか) まちづくりの基本として条例を制定することによって、まちづくりの理念を共有すると共に、市民、議会、市がそれぞれの役割を担い、市民主体のまちづくりの実現を図る。 | | | |

| | | | | | | | | |
|-----------|----------------------------|--|----------------------|--|-----------------------|--|-----------------------|-----------------------|
| 目標・成果推移等① | 施策に係る取組① | | 長久手市みんなでつくるまち条例の制定 | | | | | |
| | 29年度(2017) | | 30年度(2018) | | 31年度(2019) | | 中期(おおよそ3年後) | 長期(おおよそ5年後) |
| | 成果・実績 | | 成果・実績 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | 成果・目標 |
| | 条例を制定した。 | | — | | — | | — | — |
| | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) |
| | 自治基本条例制定アドバイザー報酬費 135千円 | | 特になし | | 特になし | | 特になし | 特になし |
| | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み |
| | (延べ) 26人 | | (延べ) —人 | | (延べ) —人 | | (延べ) —人 | (延べ) —人 |

| | | | | | | | | |
|-----------|----------------------|--|--|--|---|--|---|-----------------------|
| 目標・成果推移等② | 施策に係る取組② | | 長久手市みんなでつくるまち条例の推進 | | | | | |
| | 29年度(2017) | | 30年度(2018) | | 31年度(2019) | | 中期(おおよそ3年後) | 長期(おおよそ5年後) |
| | 成果・実績 | | 成果・実績 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | 成果・目標 |
| | — | | ・周知のための条例施行記念シンポジウムを開催した。 ・「まち詩」に曲をつけ、市民が出演するPR動画を作成した。 | | ・基本原則推進のための手引き書作成 ・条例に沿ったまちづくりを推進する。 | | ・条例推進委員会(検証含む)の設置 ・条例に沿ったまちづくりを推進する。 | 条例に沿ったまちづくりを推進する。 |
| | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) |
| | | | 自治基本条例シンポジウム運営支援委託 395千円 | | 特になし | | 特になし | 特になし |
| | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み |
| | (延べ) —人 | | (延べ) 684人 | | (延べ) —人 | | (延べ) —人 | (延べ) —人 |

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や施策を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣では、日進市、みよし市が自治基本条例を策定済み |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|------|---------|--|
| 活動状況 | 活動エピソード | (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 条例の趣旨を広めるため、条例づくりの過程で生まれた「まち詩(うた)」に曲をつけ、市民が出演するPR動画を制作し、「第1回地域共生社会推進全国サミットinながくて」にて披露した。 |
|------|---------|--|

| | | |
|------|--------------------|--|
| 改善状況 | 改善ポイント | (何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど) — |
| 評価 | 評価・課題 | (進捗状況や課題など) ・自治KEN(みんなで作るまち条例検討委員会)が解散したのち、そのメンバー有志が主体となって、条例の周知及び進捗状況をチェックしていくことを目的とした市民グループ「じちのはな研究会」を立ち上げた。 ・条例に沿ったまちづくりを進めていくための具体的な取組等を検討していく必要がある。 |
| 今後 | 今後の方向性、改善点 | (施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) 条例に沿ったまちづくりを進めていくため、市民グループ(じちのはな研究会)とともに条例の共有化の取組を進めていく。 |
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当 | ・総合計画と連携を図りつつ、引き続き周知面について取り組んでください。 |

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

| | | | | | |
|------|-----------|------|------------|--|--|
| 施策番号 | S03 - | 施策名 | 幸せのモノサシづくり | | |
| 担当部課 | 市長公室経営企画課 | 関係部課 | - | | |

| | | | | | |
|------|---------------|--|--|--|--|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | - | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | - | | | |
| | 法定受託事務の有無 | - | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | - | | | |
| | 施策開始の背景、経緯等 | これまでの右肩上がりの経済成長を追求してきた社会とは異なり、心の豊かさや幸せの実感を実現していく時代となった。 市民一人ひとりの幸福度が高いまちを目指し、市民自らが地域のことを考え、地域の困りごとは自分たちで解決していくため、地域社会の状況やまちづくりの方向性を確認する独自の指標が必要であるため。 | | | |

| | | | | | |
|--------|-------|---|--|--|--|
| 施策の目的等 | 施策の内容 | (どのような施策なのか) 市民の生活実感や幸福度を調査・研究し、市独自の指標を作り、その活用を図る。 | | | |
| | 施策の対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民 | | | |
| | 施策の意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 長久手市の幸せ実感を高める市民主体の活動の実践 | | | |

| | | | | | | | | | |
|-----------|----------|--|---|-----------------------|-----------------------|-------------------|-----------------------|-------------------|----|
| 目標・成果推移等① | 施策に係る取組① | 幸せのモノサシの活用 | | | | | | | |
| | | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 31年度(2019) | 中期(おおそ3年後) | | 長期(おおそ5年後) | | |
| | | 成果・実績 | 成果・実績 | 成果・目標 | 成果・目標 | | 成果・目標 | | |
| | | 幸せのモノサシについて知って、考えてもらうための講演会を実施し、リーフレットを配布した。 | ・幸せのモノサシをながくして未来図の基本構想に融合させる形で反映した。 ・幸せ実感広め隊の活動として、地域で活動する方を「長久手人」と呼び、取材し市ホームページで紹介した。 | - | - | | - | | |
| | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | |
| | | 幸せのモノサシづくりアドバイザー報酬費 | 136千円 | 特になし | 特になし | | 特になし | | |
| | | 印刷製本費 | 38千円 | | | | | | |
| | | 市民参加数・実績 (延べ) | 38人 | 市民参加数・実績 (延べ) | 17人 | 市民参加数・見込み (延べ) | —人 | 市民参加数・見込み (延べ) | —人 |
| | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-----------|----------|----------------------|----------------------|-----------------------|-----------------------|-------------------|-----------------------|-------------------|----|
| 目標・成果推移等② | 施策に係る取組② | | | | | | | | |
| | | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 31年度(2019) | 中期(おおそ3年後) | | 長期(おおそ5年後) | | |
| | | 成果・実績 | 成果・実績 | 成果・目標 | 成果・目標 | | 成果・目標 | | |
| | | - | - | - | - | | - | | |
| | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | |
| | | | | | | | | | |
| | | 市民参加数・実績 (延べ) | —人 | 市民参加数・実績 (延べ) | —人 | 市民参加数・見込み (延べ) | —人 | 市民参加数・見込み (延べ) | —人 |
| | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|------|-----------------------|--|--|--|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や施策を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 県内では、本市のほか、安城市、高浜市、一宮市が住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合(幸せリーグ)に加入し、幸福度に関する調査・研究を行っている。 | | | |
|------|-----------------------|--|--|--|--|

| | | | | | |
|------|---------|--|--|--|--|
| 活動状況 | 活動エピソード | (活動のエピソード、コメント、特記事項など) ・これまでに取材してきた「長久手人」同士が互いの活動を知ったり、交流したりすることによって、新たなつながりを作るきっかけとするため「長久手人カフェ」を開催した。開催にあたり、企画から当日の運営まで、幸せ実感広め隊メンバーが主体的に関わり取り組んだ。 ・地域共生社会推進全国サミットにおいて、幸せ実感広め隊メンバーが主体的に活動紹介の展示を行った。 | | | |
|------|---------|--|--|--|--|

| | | |
|------|--------------------|--|
| 改善状況 | 改善ポイント | (何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど) メンバーそれぞれの主体性が引き出されるよう配慮しながら取り組んだ。 |
| 評価 | 評価・課題 | (進捗状況や課題など) — |
| 今後 | 今後の方向性、改善点 | (施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) 平成28年度に幸せのモノサシが完成し、講演会を開催するなど「幸せ実感広め隊」メンバーによる周知活動を行ってきたが、「長久手人カフェ」の開催を機に実質解散することになった。今後は、メンバーの自発的な活動に期待する。 |
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当 | ・本事業を総合計画、長久手市みんなでつくるまち条例、各種計画との連携について、研究・検討してください。 |

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

| | | | |
|------|---------|------|-------------|
| 施策番号 | S04 - | 施策名 | 職員の働き方改革の推進 |
| 担当部課 | 市長公室人事課 | 関係部課 | |

| | | |
|-------------|---------------|--|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 市民から信頼される市政の運営 |
| | 法定受託事務の有無 | — |
| | その他(関係計画、要綱等) | — |
| 施策開始の背景、経緯等 | | 平成31年度より、働き方改革関連法案が施行され、時間外勤務時間の上限が設定されることから、職員のワーク・ライフ・バランスを推進し、働き甲斐のある職場環境の実現を目指します。 |

| | | |
|--------|-------|---|
| 施策の目的等 | 施策の内容 | (どのような施策なのか) 事務の効率化により、長時間労働の是正や多様で柔軟な働き方の実現に取り組めます。合わせて、多様な人材の活躍を促進します。 |
| | 施策の対象 | (誰、何を対象にしているか) 職員 |
| | 施策の意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 長時間労働の是正など、職員のワーク・ライフ・バランスを実現することで、誰もが働き甲斐のある職場環境の実現。 |

| | | | | | | | | | | |
|-----------|--|--|---|--|--|--|-----------------------|--|------------------------|--|
| 目標・成果推移等① | 施策に係る取組① | | 時間外勤務の削減 | | | | | | | |
| | 29年度(2017) | | 30年度(2018) | | 31年度(2019) | | 中期(おおよそ3年後) | | 長期(おおよそ5年後) | |
| | 成果・実績 | | 成果・実績 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | |
| | 全庁一斉の定時退庁日、各課での定時退庁日の実施の徹底と各課における時間外勤務削減目標を設定。 | | 各課での時間外削減目標を基に、毎月、前年同月との比較、検証を行い、平成31年2月末で対前年比12%削減。各課の削減目標の平均値も上回った。 | | 平成30年度の取組を基に各課で検証を行い、各課の削減目標を設定。毎月の確認と検証を行い、削減目標を達成する。 | | 平成30年度の時間外勤務時間数から6%削減 | | 平成30年度の時間外勤務時間数から10%削減 | |
| | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | |
| | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | |

| | | | | | | | | | | |
|-----------|--|--|---|--|-----------------------|--|-----------------------|--|-----------------------|--|
| 目標・成果推移等② | 施策に係る取組② | | 育児休業取得の推進 | | | | | | | |
| | 29年度(2017) | | 30年度(2018) | | 31年度(2019) | | 中期(おおよそ3年後) | | 長期(おおよそ5年後) | |
| | 成果・実績 | | 成果・実績 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | |
| | 男性の育児参加を推進するため、育児休暇制度の周知と取得の推奨。 ・男性の育児休業取得率0% | | 男性の育児参加を推進するため、育児休暇制度の周知と取得の推奨。 ・男性の育児休業取得率21.4% | | 男性の育児休業取得率12.5%以上 | | 男性の育児休業取得率12.5%以上 | | 男性の育児休業取得率12.5%以上 | |
| | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | |
| | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | |

| 目標・成果推移等② | 施策に係る取組③ | 多様な人材の活躍促進 | | | | | | | | | |
|-----------|---------------------------------------|---|---|-----------------------|---|-----------------------|---|-----------------------|---|--|--|
| | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | | 31年度 (2019) | | 中期 (おおよそ3年後) | | 長期 (おおよそ5年後) | | | |
| | 成果・実績 | 成果・実績 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | | | |
| | 多様な人材が活躍できる職場環境を目指す。 ・女性職員の割合44.7% | 多様な人材が活躍できる職場環境を目指す。 ・女性職員の割合51.2% | | 女性職員の割合52% | | 女性職員の割合52% | | 女性職員の割合52% | | | |
| | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | 市民参加数・実績 | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | | | |
| (延べ) | 人 | (延べ) | 人 | (延べ) | 人 | (延べ) | 人 | (延べ) | 人 | | |
| 環境変化 | 他市町での取組状況や施策を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成31年4月1日から労働基準法や労働安全衛生法の改正により、時間外勤務の上限が設定され、年休を取得させることが義務化されています。 | | | | | | | | | |
| 活動状況 | 活動エピソード | (活動のエピソード、コメント、特記事項など) — | | | | | | | | | |
| 改善状況 | 改善ポイント | (何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど) 時間外勤務の前年との比較において、選挙や防災対応などの時間外を除外し、通常業務での比較ができるようにしています。 | | | | | | | | | |
| 評価 | 評価・課題 | (進捗状況や課題など) 平成30年度の時間外勤務時間数は、平成29年度と比べ12%削減することができました。 | | | | | | | | | |
| 今後 | 今後の方向性、改善点 | (施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) 時間外勤務の削減や年休取得に向け、課内での業務分担や業務の見直しに引き続き取り組むとともに、他の自治体の取組も参考にしながら、働きやすい職場環境を目指します。 | | | | | | | | | |
| 内部意見 | 総計画担当、財政担当、行政改革担当 | <ul style="list-style-type: none"> ・行政改革指針に係る「働き方改革の推進」等に基づき、引き続き取り組んでください。 ・定員管理、人員配置、その他の人事課以外での取組を連携し、本施策が推進されるよう、引き続き取り組んでください。 | | | | | | | | | |

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

| | | | | | |
|------|--------|-----|---------|------|--|
| 施策番号 | S05 - | 施策名 | 文書の削減計画 | | |
| 担当部課 | 総務部行政課 | | 関係部課 | 全課室等 | |

| | | | | | |
|------|---------------|---|--|--|--|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 市民から信頼される市政の運営 | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | |
| | その他（関係計画、要綱等） | ✓ 決裁の簡素化等に関する検討委員会設置要綱 | | | |
| | 施策開始の背景、経緯等 | 平成26年11月14日開催の長久手市アドバイザー懇談会で、「事務改善に向けた決裁の簡素化について」が議題となり、決裁を簡素化することにより、職員が地域に出る時間を作ることが求められたことにより本取組を開始した。 | | | |

| | | | | | |
|--------|-------|--|--|--|--|
| 施策の目的等 | 施策の内容 | (どのような施策なのか) ・文書の削減を図り、文書の作成時間を他の業務に充てる。 ・文書の削減として、決裁の簡素化、資料・議事録の簡略化を図る。 | | | |
| | 施策の対象 | (誰、何を対象にしているか) ・市職員 | | | |
| | 施策の意図 | (対象をどのような状態にしたいか) ・文書の削減により、文書の作成時間が短縮され、職員が地域に出る時間を作ることができる。 | | | |

| | | | | | | | | |
|-----------|--------------------------------|----------------|----------------------|-----------------|------------------------|--|--------------------------------|--|
| 目標・成果推移等① | 施策に係る取組① | | 決裁文書及び閲覧・報告文書の削減 | | | | | |
| | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 31年度 (2019) | 中期 (おおよそ3年後) | 長期 (おおよそ5年後) | | | |
| | 成果・実績 | | 成果・実績 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | |
| | 平成26年度比△50% (決裁文書及び閲覧・報告文書) | | 印刷枚数 前年比0.1%増 | | 印刷枚数として、前年 同月比10%削減 | | 平成26年度比△50% (決裁文書及び閲覧・報告文書) | |
| | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | |
| | | | | | | | | |
| | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | |
| | (延べ) 0人 | | (延べ) 0人 | | (延べ) 0人 | | (延べ) 0人 | |

| | | | | | | | | |
|-----------|----------------------|----------------|----------------------|-----------------|-----------------------|--|-----------------------|--|
| 目標・成果推移等② | 施策に係る取組② | | | | | | | |
| | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 31年度 (2019) | 中期 (おおよそ3年後) | 長期 (おおよそ5年後) | | | |
| | 成果・実績 | | 成果・実績 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | |
| | | | | | | | | |
| | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | |
| | | | | | | | | |
| | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | |
| | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | |

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や施策を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 行政改革指針が改定され、職員の働き方改革の推進を重点課題とされました。 その中で、事務の効率化を挙げています。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|------|---------|---|
| 活動状況 | 活動エピソード | (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 印刷枚数を前年同月比較した数値を毎月示したところ、各課で意識することができました。 ただ、やむを得ず増えている課があります。 |
|------|---------|---|

| | | |
|------|--------------------|--|
| 改善状況 | 改善ポイント | (何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど) 各職員のパソコンから印刷される枚数を、各課ごとに、前年同月比を含めて内部で公表し、印刷数量を意識させる仕組みを継続し、10%を超える課にはその理由をヒアリングしています。 |
| 評価 | 評価・課題 | (進捗状況や課題など) ・会議の配布資料が多い課等に、印刷枚数が多い傾向ある ・議案作成、一般質問への準備としての印刷枚数が多い傾向がある |
| 今後 | 今後の方向性、改善点 | (施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) ・ペーパーレス会議の活用を促進し、会議資料の作成時間を短縮させます。 ・契約の包括化(例えばシルバー人材センターとの契約)を進め、事務手続きを減らします。 |
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当 | ・文書削減により、高騰している紙の費用の抑制につながるものと考えます。 ・ICTの活用と連携し、引き続き文書の削減に取り組んでください。 |

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

| | | | | | | |
|----------------------|--|--|---|---|--|-------------|
| 施策番号 | S06 | 施策名 | 5S運動 | | | |
| 担当部課 | 総務部財政課 | | 関係部課 | 全課室等 | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 市民から信頼される市政の運営 | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 5S活動推進要綱 | | | | |
| 施策開始の背景、経緯等 | 職場環境の改善と個々の業務の合理化思考への意識付けを目的とし、平成25年8月26日に要綱を制定した。 | | | | | |
| 施策の目的等 | 施策の内容 | (どのような施策なのか) 職員が職場の整理・整頓・清掃・清潔・しつけの重要性を認識し、習慣とすることで、職場を機能的かつ安全快適な環境に改善し、行政活動の効率化や市民サービスの向上に繋げる活動である。 | | | | |
| | 施策の対象 | (誰、何を対象にしているか) 全職員 | | | | |
| | 施策の意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 活動の推進によって機能的な職場環境づくりを進め、無駄の削減、市民サービスの向上を目指す。 | | | | |
| 目標・成果推移等① | 施策に係る取組① | 5S点検 | | | | |
| | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 31年度(2019) | 中期(おおよそ3年後) | 長期(おおよそ5年後) | |
| | 成果・実績 | 成果・実績 | 成果・目標 | 成果・目標 | 成果・目標 | |
| | 5S活動の実施状況を毎月の点検により100点満点で採点し、年平均が57.5%であった。 | 前年度と同じ採点表を用いて活動を継続した結果、年平均が60.2%であった。 | 業務効率化の成果として、時間外勤務時間や文書量の削減を、30年度比で10分の9にする。 | 業務効率化の成果として、時間外勤務時間や文書量の削減を、30年度比で10分の7にする。 | 業務効率化の成果として、時間外勤務時間や文書量の削減を、30年度の10分の5にする。 | |
| | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | |
| | | | | | | |
| | 市民参加数・実績 | 市民参加数・実績 | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | |
| | (延べ) 0人 | (延べ) 0人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | |
| | 目標・成果推移等② | 施策に係る取組② | | | | |
| | | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 31年度(2019) | 中期(おおよそ3年後) | 長期(おおよそ5年後) |
| 成果・実績 | | 成果・実績 | 成果・目標 | 成果・目標 | 成果・目標 | |
| | | | | | | |
| 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | |
| | | | | | | |
| 市民参加数・実績 | | 市民参加数・実績 | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | |
| (延べ) 人 | | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | |
| 環境変化 | | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町では同様の取組は確認できない。退庁前の一斉清掃や整理整頓が習慣化し、定着してきたが、業務の効率化については大きな成果が出ていないため、文書整理などの技術的な面でも活動を推進する必要がある。 | | | | |
| 活動状況 | | (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 市の幹部職員が5S活動を推進することで、全体として一定のレベルが維持できている。また各課の5S実施状況を毎月評価し順位付けすることでも、底上げが図られている。 | | | | |

| | | |
|------|--------------------|---|
| 改善状況 | 改善ポイント | (何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど) 推進委員の点検に加え、各課等の長によるセルフチェックを実施したことで、自主点検の活動が促進された。 |
| 評価 | 評価・課題 | (進捗状況や課題など) 月1回の点検を実施し、表面上の整理・整頓・清掃については高いレベルを維持している。活動が5年を経過し、一定レベルには達したと思われるが、行政活動の効率化や市民サービスの向上という目的で成果を実感するには、活動の飛躍が必要と思われる。 |
| 今後 | 今後の方向性、改善点 | (施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) 文書の整理や作業手順のマニュアル化など、既存の5S活動の枠を上げて、行政改革等の他の取組と協調して活動を推進していく必要がある。 |
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当 | ・文書の削減、行政改革等との連携を図り、引き続き取り組んでください。 |

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

| | | | | | | |
|-----------|---------------|--|---|---|--------------------------|--------------------------|
| 施策番号 | S07 - | 施策名 | 市役所周辺整備 | | | |
| 担当部課 | 市長公室経営企画課 | 関係部課 | 財政課、生涯学習課、子育て支援課、長寿課はじめ全課室等 | | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ あえて歩いてみたくなるまち | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | — | | | | |
| | 施策開始の背景、経緯等 | 市役所の防災拠点としての機能、躯体設備の老朽化、駐車場等の狭小に対応するため平成26年度に基本構想、平成27年度、28年度に基本計画を作成した。 | | | | |
| 施策の目的等 | 施策の内容 | (どのような施策なのか) 市役所の防災拠点としての機能を充実 市民サービスの更なる向上 | | | | |
| | 施策の対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民 | | | | |
| | 施策の意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 災害が発生した際においても市役所機能を損することなく市民サービスが継続できる | | | | |
| 目標・成果推移等① | 施策に係る取組① | 基本設計に向けた準備を行う | | | | |
| | | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 31年度 (2019) | 中期 (おおよそ3年後) | 長期 (おおよそ5年後) |
| | | 成果・実績 | 成果・実績 | 成果・目標 | 成果・目標 | 成果・目標 |
| | | 市民ワークショップを1回開催し、現状の情報共有を行った。 | 市民ワークショップを4回開催し、参加者から出た意見のとりまとめを行った。 | 2019年度末までの2か年で策定しているスポーツ施設等整備計画と整合性を図りつつ調整を進める。 | 市役所周辺整備に向け、法令等の条件整理を進める。 | 市役所周辺整備に向け、公民連携手法導入を進める。 |
| | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) |
| | | 意見交換会 コーディネーター報償金 27千円 | ファシリテーター報償金 117千円 | 特になし | 特になし | 特になし |
| | | ワーキング スタッフ謝礼品費 2千円 | ワーキング スタッフ謝礼品費 18千円 | | | |
| | | 市民参加数・実績 | 市民参加数・実績 | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み |
| | | (延べ) 24 人 | (延べ) 90 人 | (延べ) — 人 | (延べ) — 人 | (延べ) — 人 |
| | 目標・成果推移等② | 施策に係る取組② | | | | |
| | | 29年度 (2017) | 30年度 (2018) | 31年度 (2019) | 中期 (おおよそ3年後) | 長期 (おおよそ5年後) |
| | | 成果・実績 | 成果・実績 | 成果・目標 | 成果・目標 | 成果・目標 |
| | | | | | | |
| | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) |
| | | | | | | |
| | | 市民参加数・実績 | 市民参加数・実績 | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み |
| | | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 |
| 環境変化 | | 他市町での取組状況や施策を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 瀬戸市：増築(平成26年10月竣工) みよし市：建替え(平成25年5月竣工) | | | |
| | | 活動エピソード | (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 市民WSを行う中で、市民が早く市役所庁舎の建設を求めていることを確認することができた。 | | | |

| | | |
|------|--------------------|--|
| 改善状況 | 改善ポイント | (何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど) 大学の准教授にファシリテーターをお願いし、ワークショップの進行をお願いし実施した。 |
| 評価 | 評価・課題 | (進捗状況や課題など) 台風によるWSの延期があり、若干スケジュールが遅くなったが、確実に実行できた。 |
| 今後 | 今後の方向性、改善点 | (施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) 財政負担の低減を前提に、公民連携手法等の新しい施設整備手法の研究を進める。施設建設に伴う法令等の条件整理、財源確保を進める。これらの事項について、調整等を関係機関、関係部署等と実施していく。施設整備に向けて、整備手法を含め、市民等との合意形成を進める。 |
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・総合計画、中期財政計画、行政改革指針等と引き続き連携を図って取り組んでください。 |

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

| | | | | | | |
|----------------------|---|---------------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|--|
| 施策番号 | S08 | 施策名 | 交番誘致事業 | | | |
| 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | | 関係部課 | | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | — | | | | |
| 施策開始の背景、経緯等 | 長久手市南部地域は、区画整理事業による人口増加区域であると同時に、住宅侵入盗被害が多発していることから、市民の安全・安心の確保と防犯環境の向上は喫緊の課題となっている。 | | | | | |
| 施策の目的等 | 施策の内容 | (どのような施策なのか) 交番の新設 | | | | |
| | 施策の対象 | (誰、何を対象にしているか) 愛知県警察 | | | | |
| | 施策の意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市内3か所目の交番新設 | | | | |
| 目標・成果推移等① | 施策に係る取組① | 愛知県警察への交番新設要望 | | | | |
| | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 31年度(2019) | 中期(おおよそ3年後) | 長期(おおよそ5年後) | |
| | 成果・実績 | 成果・実績 | 成果・目標 | 成果・目標 | 成果・目標 | |
| | 日進市との連名で、愛知県警察に対し、要望書を提出した。(H29.12.19) | 日進市との連名で、愛知県警察に対し、要望書を提出した。(H31.1.21) | 市内3箇所目の交番の新設を目標とする。 | 市内3箇所目の交番の新設を目標とする。 | 市内3箇所目の交番の新設を目標とする。 | |
| | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | |
| | | | | | | |
| | 市民参加数・実績 | 市民参加数・実績 | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | |
| | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | |
| | 目標・成果推移等② | | | | | |
| | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 31年度(2019) | 中期(おおよそ3年後) | 長期(おおよそ5年後) | |
| 成果・実績 | 成果・実績 | 成果・目標 | 成果・目標 | 成果・目標 | | |
| | | | | | | |
| 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | |
| | | | | | | |
| 市民参加数・実績 | 市民参加数・実績 | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | | |
| (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | | |
| 環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 日進市でも区画整理事業による人口増加や犯罪発生件数の増加など、本市と状況が似た状況が発生している。 | | | | | |
| 活動状況 | (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 日進市と連名で長久手市南部地区と日進市北部地区を一体市街地として交番新設の要望を行った | | | | | |

| | | |
|------|--------------------|--|
| 改善状況 | 改善ポイント | (何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど) 前年度に引き続き、日進市と連名で愛知県警察に要望を行った。 |
| 評価 | 評価・課題 | (進捗状況や課題など) 平成31年度の愛知県予算において、交番新設に向け、設計費が計上された。 |
| 今後 | 今後の方向性、改善点 | (施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) 平成31年度の愛知県予算において、新設交番の設計費が計上されており、引き続き交番新設に向け愛知県警察に協力していく。 |
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当 | 令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

| | | | | | |
|------|-------------|------|---------|--|--|
| 施策番号 | S09 - | 施策名 | 安心メール事業 | | |
| 担当部課 | くらし文化部安心安全課 | 関係部課 | 長寿課 | | |

| | | |
|-------------|--|----------------------------------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち |
| | 法定受託事務の有無 | — |
| | その他(関係計画、要綱等) | — |
| 施策開始の背景、経緯等 | 平成20年度より、市で把握した、不審者などの防犯情報、災害時の避難所の開設などの防災情報等を住民へ情報提供を行うことを目的として、メール配信を開始しました。 | |

| | | |
|--------|-------|--|
| 施策の目的等 | 施策の内容 | (どのような施策なのか) 登録制メール配信システムにより、地域住民に対して、不審者などの防犯情報、災害時の避難所の開設などの防災情報や認知症などで行方が分からなくなったときにその方の特徴などの情報をメールで配信します。 |
| | 施策の対象 | (誰、何を対象にしているか) 市内在住、在勤及び在学の方 |
| | 施策の意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 防犯、防災及び高齢者等の行方不明の情報等をメールで配信し、注意喚起等を行う。 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|------------------------|---------|------------------------|---------|-------------------------|---------|-------------------------|---------|--------------------------|---------|---------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 目標・成果推移等① | 施策に係る取組① | | | | | | | | | | 安心メール事業 | | | | | | | | | |
| | 29年度(2017) | | 30年度(2018) | | 31年度(2019) | | 中期(おおよそ3年後) | | 長期(おおよそ5年後) | | | | | | | | | | | |
| | 成果・実績 | | 成果・実績 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | | | | | | | | | | | |
| | 登録者数7,482人 | | 登録者数7,980人 | | 登録者数8,200人 | | 登録者数9,000人 | | 登録者数10,000人 | | | | | | | | | | | |
| | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | | | | | | | | | | |
| | 緊急情報メールシステム使用料 | 1,095千円 | 緊急情報メールシステム使用料 | 1,095千円 | 緊急情報メールシステム使用料 | 1,105千円 | 緊急情報メールシステム使用料 | 1,200千円 | 緊急情報メールシステム使用料 | 1,200千円 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 市民参加数・実績 (延べ) 7482人 | | 市民参加数・実績 (延べ) 7980人 | | 市民参加数・見込み (延べ) 8200人 | | 市民参加数・見込み (延べ) 9000人 | | 市民参加数・見込み (延べ) 10000人 | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|----------------------|--|----------------------|--|-----------------------|--|-----------------------|--|-----------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 目標・成果推移等② | 施策に係る取組② | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 29年度(2017) | | 30年度(2018) | | 31年度(2019) | | 中期(おおよそ3年後) | | 長期(おおよそ5年後) | | | | | | | | | | | |
| | 成果・実績 | | 成果・実績 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | | | | | | | | | | | |
| | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 市民参加数・実績 (延べ) 人 | | 市民参加数・実績 (延べ) 人 | | 市民参加数・見込み (延べ) 人 | | 市民参加数・見込み (延べ) 人 | | 市民参加数・見込み (延べ) 人 | | | | | | | | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や施策を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町でも同様のメール配信を行っている。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|------|---------|--|
| 活動状況 | 活動エピソード | (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 市内一斉防災訓練において、加入促進のため各小学校に特設ブースを設置し、登録者の拡大を図った。また、自主防災講習会等において周知・啓発を実施した。 |
|------|---------|--|

| | | |
|------|--------------------|---|
| 改善状況 | 改善ポイント | (何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど) 登録者が拡大するよう、より一層の啓発が必要。 |
| 評価 | 評価・課題 | (進捗状況や課題など) 登録者が頭打ち状態となっており、今後、登録者の大幅な増加を見込むことは難しい。 |
| 今後 | 今後の方向性、改善点 | (施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) 啓発の方法を再検討し、登録者の増加を図る。 |
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当 | ・引き続き周知を図り、登録者数が増えるように取り組んでください。 |

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

| | | | |
|------|-----------|------|--------------------------|
| 施策番号 | S10 - | 施策名 | スポーツターミナル整備 |
| 担当部課 | 市長公室経営企画課 | 関係部課 | 総務部、くらし文化部、福祉部、建設部、教育委員会 |

| | | |
|-------------|---|----------------------------------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 文化をみがき、人が輝くまち |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪 |
| | 法定受託事務の有無 | — |
| | その他(関係計画、要綱等) | — |
| 施策開始の背景、経緯等 | 第5次総合計画の主要プロジェクトである「健康プロジェクト『ながくてアクティブ構想』」において、健康づくりセンターと多目的スポーツ機能を備えた健康スポーツ拠点「スポーツターミナル」の整備が位置づけられている。 | |

| | | |
|--------|-------|--|
| 施策の目的等 | 施策の内容 | (どのような施策なのか) 健康スポーツ拠点となる施設整備 市役所等公共施設と一体となった施設整備 健康づくり・スポーツを取り組む環境の充実 |
| | 施策の対象 | (誰、何を対象にしているか) 施設利用者、スポーツターミナル |
| | 施策の意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 施設利用者が気軽に健康づくり・スポーツに取り組みやすく、また訪れたい場所にする |

| | | | | | | | | | | |
|-----------|----------|--|---|---|------------------------------|---------------------------------|--|--|--|--|
| 目標・成果推移等① | 施策に係る取組① | スポーツ施設等整備 | | | | | | | | |
| | | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 31年度(2019) | 中期(おおよそ3年後) | 長期(おおよそ5年後) | | | | |
| | | 成果・実績 | 成果・実績 | 成果・目標 | 成果・目標 | 成果・目標 | | | | |
| | | 庁内組織を立ち上げ、スポーツと健康づくりの連携、公民連携手法に関する意見交換を実施。公民連携手法の研究、施設整備に関するニーズ調査として民間事業者を対象とした簡易サウンディング調査を実施。 | 2019年度末までの2か年でスポーツ施設等整備計画を策定している。整備の基本方針及びコンセプトを検討する。また、機能や施設規模の検討を行う。公民連携手法の導入について検討を行う。 | 2019年度末までの2か年でスポーツ施設等整備計画を策定している。整備の基本方針及びコンセプトを検討する。また、機能や施設規模の検討を行う。公民連携手法の導入について検討を行う。 | スポーツターミナル整備に向け、法令等の条件整理を進める。 | スポーツターミナル整備に向け、公民連携手法による整備を進める。 | | | | |
| | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | | | |
| | | 特になし | スポーツ施設等整備計画策定委託 3,361千円 | スポーツ施設等整備計画策定委託 7,200千円 | 特になし | 特になし | | | | |
| | | | | 特別旅費 147千円 | | | | | | |
| | | 市民参加数・実績 | 市民参加数・実績 | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | | | | |
| | | (延べ) — 人 | (延べ) — 人 | (延べ) 25 人 | (延べ) 150 人 | (延べ) — 人 | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-----------|----------|----------------------|----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|--|--|--|--|
| 目標・成果推移等② | 施策に係る取組② | | | | | | | | | |
| | | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 31年度(2019) | 中期(おおよそ3年後) | 長期(おおよそ5年後) | | | | |
| | | 成果・実績 | 成果・実績 | 成果・目標 | 成果・目標 | 成果・目標 | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | 市民参加数・実績 | 市民参加数・実績 | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | | | | |
| | | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | | | | |

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や施策を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 杓ヶ池体育館は、人口2万人規模を想定して建設された体育館であり、現在の人口規模に対応する施設利用に関する市民需要に応えきれていない。また、現在の多種多様なスポーツニーズに対応できていない現状がある。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|------|---------|--|
| 活動状況 | 活動エピソード | (活動のエピソード、コメント、特記事項など) スポーツ施設整備等基本構想を基にスポーツ施設等整備計画策定に取り組んでいる。市役所等公共施設整備と一体とした整備となるため、事業の推進に関して関係部署との調整を要した。 |
|------|---------|--|

| | | |
|------|--------------------|---|
| 改善状況 | 改善ポイント | (何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど) スポーツ施設等整備計画の策定に着手し、市役所等公共施設を含めた配置計画案の作成を進めることができた。今後、法令等の条件整理を進め、整備計画の精度を上げていく必要がある。 |
| 評価 | 評価・課題 | (進捗状況や課題など) スポーツターミナル整備に向けて、現在、整備計画において、基本方針、コンセプト、機能や施設規模等を検討している。また、多額の費用を必要とする事業であるため、市役所等公共施設整備を含め、公民連携手法等の事業手法を検討している。 |
| 今後 | 今後の方向性、改善点 | (施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) 財政負担の低減を前提に、公民連携手法等の新しい施設整備手法の研究を進める。施設建設及び土地取得に伴う法令等の条件整理、財源確保を進める。これらの事項について、調整等を関係機関、関係部署等と実施していく。また、施設整備に向けて、整備手法を含め、市民等との合意形成を進める。 |
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・総合計画、中期財政計画、行政改革指針等と引き続き連携を図って取り組んでください。 |

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

| | | | | | | | |
|------------------------------|--|---|---|---|--|-------------|--|
| 施策番号 | S11 - | 施策名 | 地区社会福祉協議会の推進 | | | | |
| 担当部課 | 福祉部福祉課 | 関係部課 | | | | | |
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | | | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | | | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち | | | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市地域福祉計画 | | | | | |
| 施策開始の背景、経緯等 | 少子高齢化人口減少社会を見据え、子ども・高齢者・障がい者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいと共に創り、高め合うことができるよう、市民に身近な圏域において、地域力向上の推進とともに、「地域共生社会」の実現に向けた事業を実施する | | | | | | |
| 施策の目的等 | 施策の内容 | (どのような施策なのか) 地区社協を設置し、地域課題を市民が主体的に解決を試みる体制づくりと市民が把握した課題について、包括的に受け止め、必要に応じて支援機関につなぐことのできる体制を構築する | | | | | |
| | 施策の対象 | (誰、何を対象にしているか) 市民 | | | | | |
| | 施策の意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 市民が主体的に地域生活課題を把握して、自ら解決を試みることができる。 | | | | | |
| 目標・成果推移等① | 施策に係る取組① | 各小学校区ごとに地区社協及びCSWの配置 | | | | | |
| | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | 中期(おおよそ3年後) | 長期(おおよそ5年後) | | |
| | 成果・実績 | 成果・実績 | 成果・目標 | 成果・目標 | 成果・目標 | | |
| | 市ヶ洞小学校区及び南小学校区においてCSWを配置した。(西・北は設置済み) | 長小校区及び東小校区に地区社協の設置に向け、地域との懇談会を実施した。 | 長小校区及び東小校区に地区社協及びCSWの設置 | 部会活動を通じて、主体的に地域生活課題を把握する | 部会活動を通じて、主体的に地域生活課題を解決できる | | |
| | 費用・実績(細々節名)(金額) | 費用・実績(細々節名)(金額) | 費用・見込み(細々節名)(金額) | 費用・見込み(細々節名)(金額) | 費用・見込み(細々節名)(金額) | | |
| | 地域力強化推進事業委託 2,122千円 | 地域力強化推進事業委託 32,149千円 | 地域力強化推進事業委託 42,904千円 | 地域力強化推進事業委託 43,000千円 | 地域力強化推進事業委託 43,500千円 | | |
| | 市民参加数・実績 | 市民参加数・実績 | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | | |
| | (延べ) 100人 | (延べ) 1,853人 | (延べ) 2,000人 | (延べ) 2,500人 | (延べ) 3,000人 | | |
| | 目標・成果推移等② | 施策に係る取組② | 福祉のなんでも相談及び声かけネットワーク協力事業 | | | | |
| | | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 元年度(2019) | 中期(おおよそ3年後) | 長期(おおよそ5年後) | |
| 成果・実績 | | 成果・実績 | 成果・目標 | 成果・目標 | 成果・目標 | | |
| CSWによる地域の課題を包括的に受け止める相談事業の実施 | | CSWによる地域の課題を包括的に受け止める相談事業の実施 | 地域の課題を包括的に受け止め、地域で解決に取り組むよう話し合いの場づくり | 要支援者に対して、日頃から、身近な市民同士が支える仕組みづくりを行う。目標 6地区 | 要支援者に対して、日頃から、身近な市民同士が支える仕組みづくりを行う。目標 10地区 | | |
| 費用・実績(細々節名)(金額) | | 費用・実績(細々節名)(金額) | 費用・見込み(細々節名)(金額) | 費用・見込み(細々節名)(金額) | 費用・見込み(細々節名)(金額) | | |
| 地域力強化推進事業委託 2,122千円 | | 地域力強化推進事業委託 32,149千円 | 地域力強化推進事業委託 42,904千円 | 地域力強化推進事業委託 43,000千円 | 地域力強化推進事業委託 43,500千円 | | |
| 市民参加数・実績 | | 市民参加数・実績 | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | | |
| (延べ) 人 | | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | | |
| 環境変化 | | 他市町での取組状況や施策を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成29年に社会福祉法が改正され、住民に身近な圏域において市民が主体的に地域生活課題を把握し解決を試みることができる環境の整備等が市町村の新たな努力義務とされた。 | | | | |
| | | 活動エピソード | (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 事業の一部を社会福祉協議会に委託とし、市と協働で地域課題に対応できる仕組みづくりに取り組む体制を強化した。 | | | | |

| | | |
|------|--------------------|---|
| 改善状況 | 改善ポイント | (何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど) 全ての人が安心して暮らせるよう、市民・団体・事業者・行政など、多種多様な主体が連携して地域づくりをする体制の構築が必要。 |
| 評価 | 評価・課題 | (進捗状況や課題など) CSWが地域での調整役となって、地域で中心となって活動する人材の発掘や市民同士の組織化が課題である。 |
| 今後 | 今後の方向性、改善点 | (施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) 地区社協と行政が連携し、地域力強化のための取組を推進していくため、福祉分野のみならず多分野の部局とともに地域へ出向き、地域との話し合いの場を設けていくことが必要。 |
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当 | ・(各小学校区にCSWが設置されているが)CSWへの負担軽減を検討してください。 |

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

| | | | | | |
|------|--------|------|----------------|--|--|
| 施策番号 | S12 - | 施策名 | 在宅医療・介護連携事業の推進 | | |
| 担当部課 | 福祉部長寿課 | 関係部課 | | | |

| | | |
|-------------|--|----------------------------------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち |
| | 法定受託事務の有無 | — |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市第8次高齢者福祉計画及び第7期介護保険事業計画 |
| 施策開始の背景、経緯等 | 地域において疾病や要介護状態にある高齢者数は増加し続けており、医療ニーズと介護ニーズを併せ持つ市民を地域でケアしていくために、双方の連携が必要となっている。 | |

| | | |
|--------|-------|---|
| 施策の目的等 | 施策の内容 | (どのような施策なのか) 一人ひとりが住み慣れた地域で健やかに暮らしていく仕組み(地域包括ケアシステム)の構築のために医療・介護職種の多職種による協働・連携の体制を整える。 |
| | 施策の対象 | (誰、何を対象にしているか) 医療・介護従事者及び行政機関 |
| | 施策の意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 対象者間の協働・連携を深め、地域包括ケアシステムの構築を進める。 |

| | | | | | | | | | | |
|-----------|------------------------------------|---------|---|---------|------------------------------|---------|-------------------------|---------|--|---------|
| 目標・成果推移等① | 施策に係る取組① | | 多職種連携の仕組みづくり | | | | | | | |
| | 29年度(2017) | | 30年度(2018) | | 31年度(2019) | | 中期(おおよそ3年後) | | 長期(おおよそ5年後) | |
| | 成果・実績 | | 成果・実績 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | |
| | 研修、交流会、入退院調整、事例検討の部会を設置して連携事業を行った。 | | 体制構築の中核的な機関として長久手市在宅医療・介護連携支援センターを設置した。 | | 医療機関とその他の事業所との連携体制について、検討する。 | | 専門職による主体的な地域包括ケアシステムの検討 | | 在宅医療・介護のみでなく、福祉との連携も図り、世代を問わず対応できる仕組みをつくっていく | |
| | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | |
| | 電子連絡帳システム貸借 | 2,592千円 | 在宅医療・介護連携支援センター業務委託 | 7,282千円 | 在宅医療・介護連携支援センター業務委託 | 8,080千円 | 在宅医療・介護連携支援センター業務委託 | 8,080千円 | 在宅医療・介護連携支援センター業務委託 | 8,080千円 |
| | | | 電子連絡帳システム貸借 | 2,592千円 | 通信運搬費 | 2,616千円 | 通信運搬費 | 2,640千円 | 通信運搬費 | 2,640千円 |
| | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | |
| | (延べ) - 人 | | (延べ) - 人 | | (延べ) - 人 | | (延べ) - 人 | | (延べ) - 人 | |

| | | | | | | | | | | |
|-----------|--|---------|---|---------|--------------------------------|---------|-------------------------|--|--|--|
| 目標・成果推移等② | 施策に係る取組② | | 多職種連携の実践 | | | | | | | |
| | 29年度(2017) | | 30年度(2018) | | 31年度(2019) | | 中期(おおよそ3年後) | | 長期(おおよそ5年後) | |
| | 成果・実績 | | 成果・実績 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | |
| | 研修、交流会、入退院調整、事例検討の部会を設置して連携事業を行い、顔の見える関係づくりが進んだ。 | | 多職種が参加しやすいよう工夫、見直ししながら専門部会の開催が定着し、地域課題を多職種が検討しあう体制ができた。 | | 専門部会の活性化により、多職種で、地域の課題の共有を進める。 | | 専門職による主体的な地域包括ケアシステムの検討 | | 在宅医療・介護のみでなく、福祉との連携も図り、世代を問わず対応できる仕組みをつくっていく | |
| | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | |
| | 地域ケア会議推進事業委託 | 2,544千円 | 地域ケア会議推進事業委託 | 2,544千円 | 地域ケア会議推進事業委託 | 2,544千円 | | | | |
| | 多職種連携研修委託 | 599千円 | 多職種連携研修委託 | 599千円 | 多職種連携研修委託 | 599千円 | | | | |
| | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | |
| | (延べ) - 人 | | (延べ) - 人 | | (延べ) - 人 | | (延べ) - 人 | | (延べ) - 人 | |

| | |
|------|---|
| 環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 支援が必要な人を支える医療・介護・福祉の専門職が、情報を共有するためのツール「電子@連絡帳」は、近隣市町でも導入されており、平成28年度から広域化を図っている。 平成30(2018)年12月から、近隣市町一斉に電子@連絡帳のシステム提供会社を変更。 |
|------|---|

| | |
|------|---|
| 活動状況 | (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 事例検討部会には、さまざまな職種が参加するようになり、県内の他市町からの視察も受けた。 |
|------|---|

| | | |
|------|--------------------|---|
| 改善状況 | 改善ポイント | (何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど) 平成29年度に設置した専門部会の開催が定着し、多職種の顔の見える関係づくりや、相談、連携しやすい環境づくりが進んだ。しかし、一部参加の少ない職種があり、さらに裾野を広げていく必要がある。 |
| 評価 | 評価・課題 | (進捗状況や課題など) 多職種の顔の見える関係づくりは進んできているが、職種ごとの考え方の違いを理解しあうには至っていない。もっと多職種の専門性を生かした連携ができるよう、お互いに理解を深めていけるような取組が必要。 |
| 今後 | 今後の方向性、改善点 | (施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) 在宅医療や介護の推進には、多職種の連携も必要であるが、実際には、医療や介護を受けていく市民の側も、病院を中心とした療養ではなく、自宅を中心とした療養・介護生活について理解していくことが必要である。専門職の連携だけでなく、市民への周知啓発も同時に進めていく必要がある。 |
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当 | 令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

| | | | | | |
|------|------------|------|--------------------|--|--|
| 施策番号 | S13 - | 施策名 | 子ども教室と児童クラブの一体型の推進 | | |
| 担当部課 | 子ども部子ども未来課 | 関係部課 | 教育総務課 | | |

| | | | | | |
|-------------|--|----------------------------------|--|--|--|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 人がいきいきとつながるまち | | | |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ | | | |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 子どもが元気に育つまち | | | |
| | 法定受託事務の有無 | — | | | |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市 子ども・子育て支援事業計画 | | | |
| 施策開始の背景、経緯等 | 共働き家庭等の「小1の壁」を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、全ての就学児童が放課後を安心・安全に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、総合的な放課後対策に取り組む必要がある。 | | | | |

| | | | | | |
|--------|-------|--|--|--|--|
| 施策の目的等 | 施策の内容 | (どのような施策なのか) 平成31年度までに全小学校に放課後子ども教室を開室すると共に、うち半数で放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体型を実現する | | | |
| | 施策の対象 | (誰、何を対象にしているか) 市内の小学生児童 | | | |
| | 施策の意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 一体型を実現することにより、児童が放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができる | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|--|-----------------|--|------------------|--|------------------|--|------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 目標・成果推移等① | 施策に係る取組① | | | | | | | | | | 南小学校及び北小学校内に一体型の整備工事を実施 | | | | | | | | | |
| | 29年度(2017) | | 30年度(2018) | | 元年度(2019) | | 中期(おおよそ3年後) | | 長期(おおよそ5年後) | | | | | | | | | | | |
| | 成果・実績 | | 成果・実績 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | | | | | | | | | | | |
| | 南小学校及び北小学校における、一体型の整備を実現するための設計を完了し、南小学校は工事業者を選定した。 | | | | | | | | | | 南小学校における一体型の整備工事を実施する。北小学区における一体型の整備工事を実施する。 | | | | | | | | | |
| | 費用・実績(細々節名)(金額) | | 費用・実績(細々節名)(金額) | | 費用・見込み(細々節名)(金額) | | 費用・見込み(細々節名)(金額) | | 費用・見込み(細々節名)(金額) | | 費用・見込み(細々節名)(金額) | | | | | | | | | |
| | 放課後クラブ棟設計業務委託 | | 52千円 | | 放課後クラブ棟工事監理委託 | | 5,143千円 | | | | | | | | | | | | | |
| | 放課後クラブ棟工事 | | 1,066千円 | | 放課後クラブ棟工事 | | 129,517千円 | | | | | | | | | | | | | |
| | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | | | | | | | | | |
| | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|-----------------|--|-----------------|--|------------------|--|------------------|--|------------------|--|------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 目標・成果推移等② | 施策に係る取組② | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 29年度(2017) | | 30年度(2018) | | 元年度(2019) | | 中期(おおよそ3年後) | | 長期(おおよそ5年後) | | | | | | | | | | | |
| | 成果・実績 | | 成果・実績 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 費用・実績(細々節名)(金額) | | 費用・実績(細々節名)(金額) | | 費用・見込み(細々節名)(金額) | | 費用・見込み(細々節名)(金額) | | 費用・見込み(細々節名)(金額) | | 費用・見込み(細々節名)(金額) | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | | | | | | | | | |
| | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|------|-----------------------|---|--|--|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や施策を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 「ニッポン一億総活躍プラン」に基づき、国においても、放課後の児童の受け皿整備をさらに推進している。 | | | |
|------|-----------------------|---|--|--|--|

| | | | | | |
|------|---------|------------------------|--|--|--|
| 活動状況 | 活動エピソード | (活動のエピソード、コメント、特記事項など) | | | |
|------|---------|------------------------|--|--|--|

| | | |
|------|--------------------|---|
| 改善状況 | 改善ポイント | (何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど) 南小学校の一体型の運営がH31年2月から開所し、北小学校の一体型は、H31年4月から開所した。 |
| 評価 | 評価・課題 | (進捗状況や課題など) 平成28年度に東小学校において、市内初の一体型が実現した。そして、南小学校及び北小学校において一体型を実現したことにより、長久手市 子ども・子育て支援事業計画で掲げた目標「平成31年度までに市内3校での一体型の実施」は実現した。 |
| 今後 | 今後の方向性、改善点 | (施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) 学校施設の活用について、教育委員会と協議する必要があることと、整備には費用がかかることから、国や県の補助金を有効に活用したい。 |
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当 | ・施設整備だけでなく、運営面や事業面(児童館事業の児童館まつりなどを含む。)についても、連携(統廃合を含む。)を検討を図ってください。 |

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

| | | | |
|------|--------|------|--------|
| 施策番号 | S14 - | 施策名 | 狭隘道路事業 |
| 担当部課 | 建設部土木課 | 関係部課 | |

| | | |
|-------------|---------------|--|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ リリモでにぎわい交流するまち |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち |
| | 法定受託事務の有無 | — |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 長久手市建築行為に係る後退用地等の確保及び整備に関する要綱 |
| 施策開始の背景、経緯等 | | 長年、狭隘道路で懸案事項となっている岩作地区の道路拡幅について、地域住民主体によるまちづくりの方針を策定し、平成27年に岩作地区生活道路整備基本計画を策定した。 |

| | | |
|--------|-------|---|
| 施策の目的等 | 施策の内容 | (どのような施策なのか) 岩作地区生活道路整備基本計画に沿って、岩作東島2号線を優先道路として、緊急車両の通行が困難な狭隘道路を解消するため、道路の拡幅を行う。 |
| | 施策の対象 | (誰、何を対象にしているか) 岩作地区に生活する市民 |
| | 施策の意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 狭隘道路を拡幅することにより、幅4mの道路を確保し、地域住民及び緊急車両が安全に通行できるようにする。 |

| | | | | | | | | | | |
|-----------|--------------------------------------|--|--|--|---|--|---|--|-------------------------|--|
| 目標・成果推移等① | 施策に係る取組① | | 用地測量、用地取得、用地補償及び拡幅工事 | | | | | | | |
| | 29年度(2017) | | 30年度(2018) | | 元年度(2019) | | 中期(おおよそ3年後) | | 長期(おおよそ5年後) | |
| | 成果・実績 | | 成果・実績 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | |
| | 優先順位1位の東島2号線において、中心線測量及び境界確定測量を実施した。 | | 優先順位1位の東島2号線において、用地の補償費調査及び前年度の残りの境界確定測量を実施した。 | | 優先順位1位の東島2号線において、前年度の残りの用地の補償費調査、用地購入及び測量設計業務委託を実施する。 | | 優先順位1位の東島2号線において、残りの用地を購入し、道路拡幅工事を完了する。 | | 優先順位2位の路線について、整備を進めていく。 | |
| | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | |
| | 東島2号線 中心線測量 委託 1,603千円 | | 東島2号線 補償費算定 委託 1,685千円 | | 東島2号線 補償費算定 委託 2,541千円 | | 東島2号線 分筆登記委 託 1,742千円 | | | |
| | 東島2号線 境界確定測 量委託 2,508千円 | | 東島2号線 境界確定測 量委託 2,368千円 | | 東島2号線 測量設計業 務委託 7,243千円 | | 東島2号線 道路拡幅工 事 27,491千円 | | | |
| | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | |
| | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | |

| | | | | | | | | | | |
|-----------|----------------------|--|----------------------|--|-----------------------|--|-----------------------|--|-----------------------|--|
| 目標・成果推移等② | 施策に係る取組② | | | | | | | | | |
| | 29年度(2017) | | 30年度(2018) | | 元年度(2019) | | 中期(おおよそ3年後) | | 長期(おおよそ5年後) | |
| | 成果・実績 | | 成果・実績 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | |
| | | | | | | | | | | |
| | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | |
| | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | |

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や施策を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・全国的に狭隘道路解消対策を実施している。 ・県内のほとんどは後退用地を寄付にて受け付けている。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|------|---------|---|
| 活動状況 | 活動エピソード | (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 境界確定測量の日程調整の挨拶に統括及び東地区リーダーが同行したことにより、沿線住民に対して事業の理解と進捗の報告も兼ねることができた。 また、狭隘道路の交付金が受けられることになった。 |
|------|---------|---|

| | | |
|------|--------------------|---|
| 改善状況 | 改善ポイント | (何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど) 事業に対する理解を得るために、訪問の機会を増やしたことにより、事業への同意者が増加した。 |
| 評価 | 評価・課題 | (進捗状況や課題など) 後退(セットバック)同意と用地買収は別物と考えられている方が多く、根気よく説得していくことに時間を要することが課題。 |
| 今後 | 今後の方向性、改善点 | (施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) 東地区での実績を報告会を開催するなどして、他の地区及び市内全体で情報を共有し、狹隘道路の解消に伴い地域住民及び緊急車両が安全に通行できるようにする。 |
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・拡幅した後の効果測定を検討してください。 |

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

| | | | |
|------|--------|------|---------------|
| 施策番号 | S15 - | 施策名 | 香流川近自然工法による整備 |
| 担当部課 | 建設部土木課 | 関係部課 | |

| | | |
|-------------|---|---------------------------------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 万博理念を継承し、自然・環境にこだわるまち |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「みどり」～ふるさと(生命ある空間)の風景を子どもたちに～ |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ みんなで未来へつなぐ 緑はまちの宝物 |
| | 法定受託事務の有無 | — |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 河川法、砂防法 |
| 施策開始の背景、経緯等 | 香流川を緑のネットワーク骨格軸として一体的な河川空間整備と、香流川を軸としたまちの活性化を図り、河川環境としては近自然工法を導入し自然環境を保全・再生・創出することで、生態的河川景観を向上させていく必要がある。 | |

| | | |
|--------|-------|---|
| 施策の目的等 | 施策の内容 | (どのような施策なのか) 「平成25年度香流川整備計画」にて策定された重点整備計画に基づき、公園西駅周辺について、風景に溶け込む近自然空間を形成するため近自然護岸の整備を行う。 |
| | 施策の対象 | (誰、何を対象にしているか) 香流川 |
| | 施策の意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 自然石の護岸へと改修を行い、元々の自然の風景に溶け込む空間を形成する。さらに自然に近い川の流れを形成することで水生生物の生息空間を確保し、また緩傾斜護岸を整備することにより、子どもたちが水辺へ近づきやすく親しみやすい河川に整備する。 |

| | | | | | | | | | | | |
|-----------|----------|----------------------|----------|----------------------|----------|--------------------------------|----------|----------------------------|--------|----------------------------|--|
| 目標・成果推移等① | 施策に係る取組① | 近自然工法による香流川の改修事業 | | | | | | | | | |
| | | 29年度(2017) | | 30年度(2018) | | 元年度(2019) | | 中期(おおよそ3年後) | | 長期(おおよそ5年後) | |
| | | 成果・実績 | | 成果・実績 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | |
| | | 60m区間の護岸整備を行った。 | | 45m区間の護岸整備を行った。 | | 引き続き、自然石による護岸の改修及び緩傾斜護岸の整備を行う。 | | 適切な河川管理を行い、自然に溶け込む環境を維持する。 | | 適切な河川管理を行い、自然に溶け込む環境を維持する。 | |
| | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | |
| | | 香流川近自然河川改修工事 | 54,489千円 | 香流川近自然河川改修工事 | 49,034千円 | 香流川近自然河川改修工事 | 60,000千円 | | | | |
| | | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | |
| | | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | |

| | | | | | | | | | | | |
|-----------|----------|----------------------|--------|----------------------|--------|-----------------------|--------|-----------------------|--------|-----------------------|--|
| 目標・成果推移等② | 施策に係る取組② | | | | | | | | | | |
| | | 29年度(2017) | | 30年度(2018) | | 元年度(2019) | | 中期(おおよそ3年後) | | 長期(おおよそ5年後) | |
| | | 成果・実績 | | 成果・実績 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | |
| | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・実績 (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | | 費用・見込み (細々節名) (金額) | |
| | | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | |
| | | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | |

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や施策を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 豊田市(児ノ口公園、加納川等)で近自然工法による整備が行われている。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|------|---------|--|
| 活動状況 | 活動エピソード | (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 河川改修工事を進めるだけでなく、改修後のモニタリング調査を実施し、環境改善が図られているか調査を行った。 |
|------|---------|--|

| | | |
|------|--------------------|---|
| 改善状況 | 改善ポイント | (何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど) モニタリング調査の結果、水生生物や底生生物の種類や量が増加し、改修前に比べて河川的环境改善が進んでいる。 |
| 評価 | 評価・課題 | (進捗状況や課題など) 工事にあたり、公園西駅周辺区画整理事業や公園整備等他事業との工事調整が必要となる。 |
| 今後 | 今後の方向性、改善点 | (施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) 適切な整備・管理ため、職員の近自然工法への理解度の向上を進めていくとともに、引き続き、香流川モニタリングを実施し、環境改善が図られているか調査をしていく。 |
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・工法による効果の測定を検討してください。 |

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

| | | | |
|------|--------|------|-----------|
| 施策番号 | S16 | 施策名 | 道路・河川維持修繕 |
| 担当部課 | 建設部土木課 | 関係部課 | |

| | | |
|-------------|---------------|----------------------------------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ リリモでにぎわい交流するまち |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～ |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ あえて歩いてみたくなるまち |
| | 法定受託事務の有無 | — |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 道路法、道路構造令 |
| 施策開始の背景、経緯等 | | 円滑な交通を確保するため、安全な道路網を構築する必要がある。 |

| | | |
|--------|-------|---|
| 施策の目的等 | 施策の内容 | (どのような施策なのか) 市道のパトロール、穴埋めを行うことで、道路の損傷を早期に処置するとともに、路面清掃等を行い快適な通行を確保し、また、大規模に修繕が必要な舗装修繕、側溝修繕を計画的に行う。また、河川においても損傷を早期に処置するとともに修繕を行う。 |
| | 施策の対象 | (誰、何を対象にしているか) 市の管理する道路・河川、道路利用者 |
| | 施策の意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 道路利用者の安全で快適な通行を確保する。 |

| | | | | | | | | | |
|-----------|----------|------------------|------------------|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|--|--|--|
| 目標・成果推移等① | 施策に係る取組① | 道路維持修繕事業 | | | | | | | |
| | | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 31年度(2019) | 中期(おおよそ3年後) | 長期(おおよそ5年後) | | | |
| | | 成果・実績 | 成果・実績 | 成果・目標 | 成果・目標 | 成果・目標 | | | |
| | | 緊急維持修繕工事を79件行った。 | 緊急維持修繕工事を53件行った。 | 道路の損傷をいち早く修繕することにより安全な走行環境に確保に努める。 | 道路の損傷をいち早く修繕することにより安全な走行環境に確保に努める。 | 道路の損傷をいち早く修繕することにより安全な走行環境に確保に努める。 | | | |
| | | 費用・実績(細々節名)(金額) | 費用・実績(細々節名)(金額) | 費用・見込み(細々節名)(金額) | 費用・見込み(細々節名)(金額) | 費用・見込み(細々節名)(金額) | | | |
| | | 修繕料 17,335千円 | 修繕料 17,036千円 | 修繕料 18,600千円 | 修繕料 18,600千円 | 修繕料 18,600千円 | | | |
| | | 市民参加数・実績(延べ) 人 | 市民参加数・実績(延べ) 人 | 市民参加数・見込み(延べ) 人 | 市民参加数・見込み(延べ) 人 | 市民参加数・見込み(延べ) 人 | | | |

| | | | | | | | | | |
|-----------|----------|------------------|------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|--|--|--|
| 目標・成果推移等② | 施策に係る取組② | 河川維持修繕事業 | | | | | | | |
| | | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 31年度(2019) | 中期(おおよそ3年後) | 長期(おおよそ5年後) | | | |
| | | 成果・実績 | 成果・実績 | 成果・目標 | 成果・目標 | 成果・目標 | | | |
| | | 緊急維持修繕工事を15件行った。 | 緊急維持修繕工事を23件行った。 | 河川損傷をいち早く修繕することにより河川災害を防止する。 | 河川損傷をいち早く修繕することにより河川災害を防止する。 | 河川損傷をいち早く修繕することにより河川災害を防止する。 | | | |
| | | 費用・実績(細々節名)(金額) | 費用・実績(細々節名)(金額) | 費用・見込み(細々節名)(金額) | 費用・見込み(細々節名)(金額) | 費用・見込み(細々節名)(金額) | | | |
| | | 修繕料 2,089千円 | 修繕料 6,032千円 | 修繕料 7,200千円 | 修繕料 7,200千円 | 修繕料 7,200千円 | | | |
| | | 市民参加数・実績(延べ) 人 | 市民参加数・実績(延べ) 人 | 市民参加数・見込み(延べ) 人 | 市民参加数・見込み(延べ) 人 | 市民参加数・見込み(延べ) 人 | | | |

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や施策を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町村のほとんどが実施している。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|------|---------|--|
| 活動状況 | 活動エピソード | (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 職員による道路パトロールを実施し、道路・河川の現状把握と異常の早期発見に努めた。 |
|------|---------|--|

| | | |
|------|--------------------|--|
| 改善状況 | 改善ポイント | (何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど) |
| 評価 | 評価・課題 | (進捗状況や課題など) 早急な修繕や施設の長寿命化を図ることで、道路・河川の安全を確保したが、市内全域の道路・河川の損傷をくまなく速やかに発見することは困難である。 |
| 今後 | 今後の方向性、改善点 | (施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) 路面損傷の大きい区間を優先的に舗装修繕工事を実施しているが、延命措置を施すための点検及び有効な修繕手法を検討し、事業効果を向上させる必要がある。 |
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当 | ・道路維持補修・清掃等における民間活用について、研究・検討してください。 |

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

| | | | |
|------|------------|------|-----------|
| 施策番号 | S17 - | 施策名 | 公共物の管理の移行 |
| 担当部課 | 建設部みどりの推進課 | 関係部課 | |

| | | |
|-------------|--|-----------------------------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ リリモでにぎわい交流するまち |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～ |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ あえて歩いてみたくなるまち |
| | 法定受託事務の有無 | — |
| | その他(関係計画、要綱等) | — |
| 施策開始の背景、経緯等 | 街路樹の適正管理は毎年維持修繕工事で行っているが、落ち葉等の問題について対応が遅れている状況である。そこで、アダプト制度を活用し街路樹の草刈り、水やり及び落ち葉拾いについて市民の力を借りて、適正な管理を行うことにより、緑豊かな美しいまちづくりを目指す。 | |

| | | |
|--------|-------|---|
| 施策の目的等 | 施策の内容 | (どのような施策なのか) 街路樹の草刈り、水やり及び落ち葉拾いについて、市民が互いに協力しあい実施する。 |
| | 施策の対象 | (誰、何を対象にしているか) 街路樹を適正に管理する市民(個人)又は団体 |
| | 施策の意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 街路樹の草刈り、水やり及び落ち葉拾いについて、市民により適正に管理する。 |

| | | | | | | |
|-----------|--|----------------------------|---|---|---|--|
| 目標・成果推移等① | 施策に係る取組① | 街路樹の市民による管理 | | | | |
| | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 31年度(2019) | 中期(おおよそ3年後) | 長期(おおよそ5年後) | |
| | 成果・実績 | 成果・実績 | 成果・目標 | 成果・目標 | 成果・目標 | |
| | 市民管理の聞き取りについて、外部調査1回、西小学校まちづくり町議会1回、北小学区自治会連合会1回実施 | 地元の市民団体による街路樹の管理活動を1回実施した。 | 実施地区を拡大し、街路樹の草取り、水やり及び落ち葉拾いを市民が互いに協力して実施する。 | 実施地区を拡大し、街路樹の草取り、水やり及び落ち葉拾いを市民が互いに協力して実施する。 | 実施地区を拡大し、街路樹の草取り、水やり及び落ち葉拾いを市民が互いに協力して実施する。 | |
| | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | |
| | | | | | | |
| | 市民参加数・実績 | 市民参加数・実績 | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | |
| | (延べ) 12人 | (延べ) 11人 | (延べ) 1団体 15人 | (延べ) 2団体 30人 | (延べ) 3団体 45人 | |

| | | | | | | |
|-----------|----------------------|----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|--|
| 目標・成果推移等② | 施策に係る取組② | | | | | |
| | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 31年度(2019) | 中期(おおよそ3年後) | 長期(おおよそ5年後) | |
| | 成果・実績 | 成果・実績 | 成果・目標 | 成果・目標 | 成果・目標 | |
| | | | | | | |
| | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | |
| | | | | | | |
| | 市民参加数・実績 | 市民参加数・実績 | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | |
| | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | |

| | |
|------|--|
| 環境変化 | 他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など 他市町では、街路樹の管理に対して一定の報酬を払う(愛護会)や無償(アダプト制度:清掃用具は支給又は貸与)があり、管理の体制は様々である。 |
|------|--|

| | |
|------|---|
| 活動状況 | (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 地元の市民団体における1団体をモデル事業として、街路樹の管理活動を1回実施した。活動内容は、街路樹の軽微な草刈り、周辺歩道を含む清掃及び危険箇所の把握である。 |
|------|---|

| | | |
|------|--------------------|--|
| 改善状況 | 改善ポイント | (何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど) 回収したゴミの処分方法などを環境課と打合せを行い、参加者の負担をなくすよう配慮した。 |
| 評価 | 評価・課題 | (進捗状況や課題など) 街路樹の市民管理制度の導入は当市において初めての試みであり、まずは多くの市民に触れる機会をつくることかつ身近な制度にすることが重要である。 |
| 今後 | 今後の方向性、改善点 | (施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) 業者の委託範囲を変更してもトラブルなく管理ができる作業の分担を考えていく。 |
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当 | ・今後も、市民参加数を増やす方策を実施してください。 |

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

| | | | |
|------|------------|-----|--------|
| 施策番号 | S18 - | 施策名 | 里山保全事業 |
| 担当部課 | 建設部みどりの推進課 | | 関係部課 |

| | | |
|-------------|---|---------------------------------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 万博理念を継承し、自然・環境にこだわるまち |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「みどり」～ふるさと(生命ある空間)の風景を子どもたちに～ |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ みんなで未来へつなぐ 緑はまちの宝物 |
| | 法定受託事務の有無 | — |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 里山プラン、里山基本計画、みどりの推進計画、緑の基本計画 |
| 施策開始の背景、経緯等 | 手入れや管理が行き届かず放置された山林においては、廃棄物の不法投棄、倒木に伴う周辺への損害等周辺地域への悪影響が懸念されている。そのためこれらの山林を適切に管理できる仕組みを整え、里山を保全・活用し、市民が快適、安全に生活できることが求められている。 | |

| | | |
|--------|-------|--|
| 施策の目的等 | 施策の内容 | (どのような施策なのか) 市民が愛着をもち楽しさを発見することができる「里山」として、『行ってみたい「里山」』を将来の姿として目指す。 |
| | 施策の対象 | (誰、何を対象にしているか) 里山プランに位置づけられた地区及び市民団体 |
| | 施策の意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 里山プランに位置づけられた地区を市民団体が中心となり適切な保全と活用を図る。 |

| | | | | | | |
|-----------|------------------|--------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|--|
| 目標・成果推移等① | 施策に係る取組① | 里山プラン等の計画策定 | | | | |
| | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 31年度(2019) | 中期(おおよそ3年後) | 長期(おおよそ5年後) | |
| | 成果・実績 | 成果・実績 | 成果・目標 | 成果・目標 | 成果・目標 | |
| | — | 里山プランの実行に向けた里山基本計画を策定した。 | — | | | |
| | 費用・実績(細々節名) (金額) | 費用・実績(細々節名) (金額) | 費用・見込み(細々節名) (金額) | 費用・見込み(細々節名) (金額) | 費用・見込み(細々節名) (金額) | |
| | | 里山基本計画策定委託 5,832千円 | | | | |
| | 市民参加数・実績 | 市民参加数・実績 | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | |
| | (延べ) 人 | (延べ) 230 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | |

| | | | | | | |
|-----------|---------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------|-------------------------------|--|
| 目標・成果推移等② | 施策に係る取組② | 市民団体による里山の保全・利活用を行う | | | | |
| | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 31年度(2019) | 中期(おおよそ3年後) | 長期(おおよそ5年後) | |
| | 成果・実績 | 成果・実績 | 成果・目標 | 成果・目標 | 成果・目標 | |
| | 市民団体及び地権者と協力し、里山保全に向けた活動を発展させることができた。 | 市民団体及び地権者と協力し、里山保全に向けた活動を継続した。 | 市民団体及び地権者と協力し、里山保全に向けた活動を継続する。 | 市民団体による活動エリアを拡大する。 | 市民団体等と共に新たな活動拠点施設の整備について検討する。 | |
| | 費用・実績(細々節名) (金額) | 費用・実績(細々節名) (金額) | 費用・見込み(細々節名) (金額) | 費用・見込み(細々節名) (金額) | 費用・見込み(細々節名) (金額) | |
| | 里山保全事業委託 443千円 | 里山保全事業委託 488千円 | 里山保全事業委託 500千円 | | | |
| | 市民参加数・実績 | 市民参加数・実績 | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | 市民参加数・見込み | |
| | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | (延べ) 人 | |

| | | |
|------|-----------------------|--|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や施策を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 日進市において市民団体が市有地である里山の保全活動を行っている。 |
|------|-----------------------|--|

| | | |
|------|---------|---|
| 活動状況 | 活動エピソード | (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 市民団体が地権者の意向を確認しながら里山保全活動を行っている。 |
|------|---------|---|

| | | |
|------|--------------------|---|
| 改善状況 | 改善ポイント | (何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど) 特になし。 |
| 評価 | 評価・課題 | (進捗状況や課題など) 概ね予定どおり実施している。 |
| 今後 | 今後の方向性、改善点 | (施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) 市民団体による里山の保全、利活用を目指す。 |
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

| | | | |
|------|------------|------|---------|
| 施策番号 | S19 - | 施策名 | 都市公園の整備 |
| 担当部課 | 建設部みどりの推進課 | 関係部課 | 区画整理課 |

| | | |
|-------------|---------------|---------------------------------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ 万博理念を継承し、自然・環境にこだわるまち |
| | まちづくり行程表・フラッグ | ✓ 「みどり」～ふるさと(生命ある空間)の風景を子どもたちに～ |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ みんなで未来へつなぐ 緑はまちの宝物 |
| | 法定受託事務の有無 | — |
| | その他(関係計画、要綱等) | — |
| 施策開始の背景、経緯等 | | 区画整理事業地内に公園が必要になるため |

| | | |
|--------|-------|--|
| 施策の目的等 | 施策の内容 | (どのような施策なのか) 区画整理事業の進捗に合わせ、公園を整備する。 |
| | 施策の対象 | (誰、何を対象にしているか) 公園利用者 |
| | 施策の意図 | (対象をどのような状態にしたいか) 区画整理事業の進捗に合わせ、だれもが気軽に利用できる特色のある公園を整備する。 |

| | | | | | | | | | | |
|-----------|-----------------|----------|-------------------|----------|------------------|----------|------------------|--|------------------|--|
| 目標・成果推移等① | 施策に係る取組① | | 都市公園の整備 | | | | | | | |
| | 29年度(2017) | | 30年度(2018) | | 31年度(2019) | | 中期(おおよそ3年後) | | 長期(おおよそ5年後) | |
| | 成果・実績 | | 成果・実績 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | |
| | 長久手中央4号公園整備 | | 長久手中央3号公園及び下山公園整備 | | 公園西駅2号公園の整備を行う | | 公園西駅1号公園の整備を行う | | | |
| | 費用・実績(細々節名)(金額) | | 費用・実績(細々節名)(金額) | | 費用・見込み(細々節名)(金額) | | 費用・見込み(細々節名)(金額) | | 費用・見込み(細々節名)(金額) | |
| | 中央地区4号公園整備工事 | 69,115千円 | 下山都市公園整備工事 | 43,007千円 | 2号公園整備工事 | 90,793千円 | | | | |
| | | | 中央地区3号公園整備工事 | 65,093千円 | | | | | | |
| | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | |
| | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | |

| | | | | | | | | | | |
|-----------|-----------------|--|-----------------|--|------------------|--|------------------|--|------------------|--|
| 目標・成果推移等② | 施策に係る取組② | | | | | | | | | |
| | 29年度(2017) | | 30年度(2018) | | 31年度(2019) | | 中期(おおよそ3年後) | | 長期(おおよそ5年後) | |
| | 成果・実績 | | 成果・実績 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | | 成果・目標 | |
| | | | | | | | | | | |
| | 費用・実績(細々節名)(金額) | | 費用・実績(細々節名)(金額) | | 費用・見込み(細々節名)(金額) | | 費用・見込み(細々節名)(金額) | | 費用・見込み(細々節名)(金額) | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・実績 | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | | 市民参加数・見込み | |
| | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | | (延べ) 人 | |

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や施策を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) それぞれの公園で求められるニーズ及び新技術等を設計及び整備に反映する。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|------|---------|---------------------------------|
| 活動状況 | 活動エピソード | (活動のエピソード、コメント、特記事項など) 特になし。 |
|------|---------|---------------------------------|

| | | |
|------|--------------------|--|
| 改善状況 | 改善ポイント | (何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど) 特になし。 |
| 評価 | 評価・課題 | (進捗状況や課題など) 予定どおり実施している。 |
| 今後 | 今後の方向性、改善点 | (施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) 区画整理事業の進捗に合わせて整備を行う。 |
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当 | ・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 |

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

| | | | |
|------|---------|------|------------------------|
| 施策番号 | S20 - | 施策名 | 計画的な下水道事業の推進、汚泥処理方法の検討 |
| 担当部課 | 建設部下水道課 | 関係部課 | 環境課 |

| | | |
|-------------|--|------------------|
| 基本情報 | 第5次総合計画・基本方針 | ✓ リリモでにぎわい交流するまち |
| | まちづくり行程表・フラッグ | — |
| | 第6次総合計画・基本目標 | ✓ あえて歩いてみたくなるまち |
| | 法定受託事務の有無 | — |
| | その他(関係計画、要綱等) | ✓ 下水道法、下水道条例等 |
| 施策開始の背景、経緯等 | 長久手市公共下水道計画は、当初昭和48年に発表された木曾川左岸庄内川流域下水道による整備構想を前提としていたが、流域下水道計画が進展せず、周辺の市町が単独で下水道の整備をする方向となり、当市としても社会基盤の整備による人口の増加に伴い、早急に下水道整備を行う必要から単独で事業を実施することとなった。 | |

| | | |
|--------|-------|---|
| 施策の目的等 | 施策の内容 | (どのような施策なのか) ・下水道基本計画に沿った整備方針を踏まえ、計画区域の拡大等の検討や合併浄化槽の活用を行い普及を図ります。 ・下水汚泥の最終処理について、農地における肥料への有効活用を頼っているが、近隣市町による広域的処理の実施を協議します。 |
| | 施策の対象 | (誰、何を対象にしているか) ・市民 ・近隣市町 |
| | 施策の意図 | (対象をどのような状態にしたいか) ・下水道計画区域の十分な検討 ・汚泥処理の効率化及びコスト削減 |

| | | | | | |
|-----------|----------------------|----------------------|-----------------------|--------------------------|--------------------------|
| 目標・成果推移等① | 施策に係る取組① | 計画的な下水道事業の推進 | | | |
| | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 31年度(2019) | 中期(おおよそ3年後) | 長期(おおよそ5年後) |
| | 成果・実績 | 成果・実績 | 成果・目標 | 成果・目標 | 成果・目標 |
| | 調整区域の整備を計画的に行う。 | 調整区域の整備を計画的に行う。 | 調整区域の整備を計画的に行う。 | 経営戦略に基づき、調整区域の整備を計画的に行う。 | 経営戦略に基づき、調整区域の整備を計画的に行う。 |
| | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) |
| | | | | | |
| | 市民参加数・実績 (延べ) 人 | 市民参加数・実績 (延べ) 人 | 市民参加数・見込み (延べ) 人 | 市民参加数・見込み (延べ) 人 | 市民参加数・見込み (延べ) 人 |

| | | | | | |
|-----------|----------------------|----------------------|-----------------------|---|--|
| 目標・成果推移等② | 施策に係る取組② | 汚泥の広域的処理 | | | |
| | 29年度(2017) | 30年度(2018) | 31年度(2019) | 中期(おおよそ3年後) | 長期(おおよそ5年後) |
| | 成果・実績 | 成果・実績 | 成果・目標 | 成果・目標 | 成果・目標 |
| | 近隣市町との協議を行う。 | 近隣市町との協議を行う。 | 近隣市町との協議を行う。 | 愛知県が平成34年度までに策定しなければならない「汚水処理の事業運営に係る広域化・共同化計画」の策定作業に参加 | 愛知県が策定した「汚水処理の事業運営に係る広域化・共同化計画」に基づき事務を進める。 |
| | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・実績 (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) | 費用・見込み (細々節名) (金額) |
| | | | | | |
| | 市民参加数・実績 (延べ) 人 | 市民参加数・実績 (延べ) 人 | 市民参加数・見込み (延べ) 人 | 市民参加数・見込み (延べ) 人 | 市民参加数・見込み (延べ) 人 |

| | | |
|------|-----------------------|---|
| 環境変化 | 他市町での取組状況や施策を取り巻く環境変化 | (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・平成30年1月17日総務省自治財政局等から愛知県に「汚水処理の事業運営に係る「広域化・共同化計画」の策定について」通知があり、平成34年度までに策定を行うこととなった。 |
|------|-----------------------|---|

| | | |
|------|---------|---|
| 活動状況 | 活動エピソード | (活動のエピソード、コメント、特記事項など) ・汚泥の広域的処理について、現状は近隣市町との意見交換を行った程度であるため、進展がない状況である。 ・調整区域の整備に対する財源を考慮する必要がある。 |
|------|---------|---|

| | | |
|------|--------------------|---|
| 改善状況 | 改善ポイント | (何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど) ・ 前年度までは、近隣市町との協議が進むまでには至らなかったが、本年度国から通知があり、愛知県が広域化に向けて県内市町村の先導を始めた。 ・ 幹線整備が一段落し、調整区域内の整備に着手できた。 |
| 評価 | 評価・課題 | (進捗状況や課題など) ・ 汚泥の広域的処理について、近隣市町との会議において議題とし意見交換まではできた。 ・ 調整区域の整備に着手できた。 |
| 今後 | 今後の方向性、改善点 | (施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) ・ 汚泥の広域的処理について、愛知県が平成34年度までに策定する「汚水処理の事業運営に係る広域化・共同化計画」の策定に参加し、この中で一定の方向性を定める。 ・ 調整区域の整備について、財源を確保しながら計画的に進めていく。 |
| 内部意見 | 総合計画担当、財政担当、行政改革担当 | |

